

茨城県教育財団文化財調査報告第272集

向原遺跡 小組遺跡 上加賀田城跡

北関東自動車道(協和～友部)建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XVI

茨城県教育財団文化財調査報告第272集

向原遺跡
小組遺跡
上加賀田城跡

財団法人

茨城県教育財団

平成19年3月

東日本高速道路株式会社
財団法人 茨城県教育財団

むかい 原 遺 跡
向 原 遺 跡
こ ぐみ 遺 跡
小 組 遺 跡
かみ か が た じょう あと
上加賀田城跡

北関東自動車道(協和～友部)建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XVI

平成 19 年 3 月

東日本高速道路株式会社
財団法人 茨城県教育財団

序

茨城県は、県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために、高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに、広域的な交通ネットワークの整備を進めております。北関東自動車道建設事業も、その目的に沿って計画されたものであります。

このたび、東日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）は、笠間市本戸・上加賀田両地区において、北関東自動車道（協和～友部）建設事業を決定いたしました。この事業地内には埋蔵文化財包蔵地である向原遺跡、小組遺跡、上加賀田城跡が所在します。

財団法人茨城県教育財団は、東日本高速道路株式会社から埋蔵文化財調査についての委託を受け、平成14年4月から平成17年8月にかけて発掘調査を実施いたしました。

本書は、向原遺跡、小組遺跡、上加賀田城跡の調査成果を収録したもので、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である東日本高速道路株式会社から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、笠間市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、感謝申し上げます。

平成19年3月

財団法人 茨城県教育財団

理事長 人 見 實 徳

例 言

1 本書は、東日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成14年度、16年度及び17年度に発掘調査を実施した、茨城県笠間市大字本戸字向原4622番地の1ほかに所在する向原遺跡、同市大字上加賀田字北原139番地の2ほかに所在する小組遺跡及び同市大字上加賀田254番地の1ほかに所在する上加賀田城跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

調 査

向 原 遺 跡 平成14年4月1日～平成14年7月31日、平成16年11月1日～平成17年2月28日
平成17年7月11日～平成17年8月3日

小 組 遺 跡 平成14年4月1日～平成14年11月30日、平成16年11月1日～平成17年3月31日

上加賀田城跡 平成16年11月1日～平成17年3月31日

整 理 平成17年4月1日～平成17年9月30日

平成18年4月1日～平成18年7月31日、平成19年1月1日～平成19年3月31日

3 発掘調査は、平成14年度は調査第二課長鈴木美治、平成16年度及び17年度は調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。

向原遺跡

平成14年度 首席調査員兼班長 萩野谷 悟

首 席 調 査 員 山口 厚

主 任 調 査 員 浅野和久

平成16年度 首席調査員兼班長 江幡良夫

主 任 調 査 員 皆川 修 平成16年11月1日～平成16年11月30日

平成17年度 首席調査員兼班長 川又清明

主 任 調 査 員 市村俊英

小組遺跡

平成14年度 首席調査員兼班長 萩野谷 悟

主 任 調 査 員 川上直登 平成14年4月1日～平成14年9月30日

調 査 員 早川麗司

主 任 調 査 員 横倉要次 平成14年10月1日～平成14年11月30日

平成16年度 首席調査員兼班長 江幡良夫

主 任 調 査 員 石川義信 平成16年11月1日～平成16年12月31日

主 任 調 査 員 照山大作 平成17年2月1日～平成17年3月31日

主 任 調 査 員 榊 雅彦 平成17年3月1日～平成17年3月31日

上加賀田城跡

平成16年度 首席調査員兼班長 江幡良夫

主 任 調 査 員 大塚雅昭 平成17年2月1日～平成17年3月31日

主 任 調 査 員 小松崎和治 平成17年3月1日～平成17年3月31日

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理第二課長大森雅之のもと、主任調査員石川義信、調査員早川麗司が担当した。執筆分担は、以下のとおりである。

主任調査員 石川義信 第1章、第2章、第3章、第5章、写真図版

調 査 員 早川麗司 第1章、第2章、第4章、写真図版

5 小組遺跡の石器の実測・浄写については、その一部を(株)大成エンジニアリングに委託した。

凡 例

- 1 各遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を原点とし、向原遺跡は $X=+37,600\text{m}$ 、 $Y=+35,280\text{m}$ の交点、小組遺跡は $X=+37,840\text{m}$ 、 $Y=+38,480\text{m}$ の交点、上加賀田城跡は $X=+37,640\text{m}$ 、 $Y=+39,120\text{m}$ の交点をそれぞれ基準点（A 1 a1）とした。なお、抄録では遺跡の緯度・経度について、世界測地系に基づく緯度・経度も（ ）を付して併記した。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A 1 区」、「B 2 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」、「B 2 b2区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 S I－住居跡 S B－掘立柱建物跡 S H－方形竪穴遺構 S K－火葬墓・墓坑・土坑
S E－井戸跡 S D－溝跡 S F－道路跡 S X－不明遺構 P G－ピット群 S A－柵跡
S Y－炭焼窯跡 T P－陥し穴 P－柱穴 K－攪乱

遺物 P－土器 TP－拓本記録土器 DP－土製品 Q－石器・石製品 M－金属製品・古銭





土層 K－攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図の縮尺は、向原遺跡、上加賀田城跡を400分の1、小組遺跡を600分の1とし、各遺構の実測図は縮尺60分の1で掲載することを基本とした。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	火床面、焼土、赤変		炉、黒色処理、繊維土器断面						
	竈材、粘土、煤		油煙、石断面						
●	土器	○	土製品	□	石器・石製品	△	金属製品	- - - -	硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

- 5 遺構一覧表及び遺物観察表の表記は次のとおりである。

(1) 計測値の（ ）内の数値は現存値を、[]内の数値は推定値を示した。遺物観察表の計測値の単位は、cm、gで示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号については、各遺跡とも、土器、拓本記録土器、土製品、石器・石製品、金属製品ごとに通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号は同一とした。

- 6 「主軸」は、炉又は竈を持つ竪穴住居跡についてはそれらの中心を通る軸線とし、他の遺構については長軸（径）を主軸とみなした。「主軸方向」は主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N-10°-E）。

- 7 整理時に遺構名称・番号を変更した場合、旧遺構名称・番号を（ ）を付して併記した。

抄 録

ふりがな	むかいほらいせき こぐみいせき かみかがたじょうあと							
書名	向原遺跡 小組遺跡 上加賀田城跡							
副書名	北関東自動車道(協和～友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次	XVI							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第272集							
著者名	石川義信 早川麗司							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2007(平成19)年3月23日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
むかいほらいせき 向原遺跡	いばらきけんかきましのおおあざちと 茨城県笠間市大字本 どあざむかいほらい 戸字向原4622番地の 1ほか	08216 — 143	36度 20分 13秒 (36度 20分 25秒)	140度 13分 41秒 (140度 13分 29秒)	88 ～ 103m	20020401 ～ 20020731 20041101 ～ 20050228 20050711 ～ 20050803	9,942㎡ 2,147㎡ 540㎡	北関東自動車道(協和～友部)建設事業に伴う事前調査
こぐみいせき 小組遺跡	いばらきけんかきましのおおあざかみ 茨城県笠間市大字上 かがたあざきたはら 加賀田字北原139番地 の2ほか	08216 — 171	36度 20分 23秒 (36度 20分 34秒)	140度 15分 43秒 (140度 15分 39秒)	34 ～ 52m	20020401 ～ 20021130 20041101 ～ 20050331	11,679㎡ 5,108㎡	
かみかがたじょうあと 上加賀田城跡	いばらきけんかきましのおおあざかみ 茨城県笠間市大字上 かがた 加賀田254番地の1ほか	08216 — 047	36度 20分 16秒 (36度 20分 28秒)	140度 16分 21秒 (140度 15分 57秒)	29 ～ 43m	20041101 ～ 20050331	6,912㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
向原遺跡	包蔵地	縄文	遺物包含層4か所		縄文土器, 石器(石鏃・剥片)			
	狩猟場	縄文	陥し穴	31基	縄文土器, 石器(石鏃・剥片)			
	集落跡	縄文	竪穴住居跡	3軒	縄文土器, 石器(石鏃・剥片)			
			屋外炉跡	2基				
		平安	竪穴住居跡	2軒	土師器, 石器(砥石)			
墓跡	近世	墓坑	5基	金属製品(煙管・古銭・釘)				

	その他	時期不明	方形竪穴遺構 1基 土坑 71基 溝跡 5条	縄文土器, 石器 (石鏃)	
小 組 遺 跡	包蔵地	旧 石 器	石器集中地点 8か所	石器 (有樋尖頭器・尖頭器・打製石斧・石核・二次加工のある剥片・剥片・碎片・敲石・台石)	第1号石器集中地点は、水晶を石材として尖頭器を製作しており、2000点ほどの剥片・台石が出土している。水晶製の有樋尖頭器が2点出土しており、県内初の出土例である。
	狩猟場	縄 文	陥し穴 13基	縄文土器 (深鉢)	
	集落跡	平 安	竪穴住居跡 25軒 火葬墓 1基 土坑 5基 不明遺構 1基	土師器, 須恵器 (円面硯), 土製品 (支脚・紡錘車・置き竈・土玉・陽物形土製品), 石製品 (支脚・砥石), 金属製品 (鉄斧・鉄鎌・鉄鏃・紡錘車・刀子) 鍛冶関連遺物 (羽口・椀状滓・鉄滓)	
	墓 跡	近 世	墓坑 9基	金属製品 (煙管・古銭・鉄鍋・刀子・釘)	
	その他	時期不明	掘立柱建物跡 5棟 井戸跡 9基 土坑 319基 溝跡 15条 道路跡 1条 柵跡 5条 ピット群 7か所	陶器 (碗・播鉢) 磁器 (碗) 土師質土器 (短頸壺) 縄文土器 石器 (石鏃・敲石・磨石)	
上加賀田城跡	その他	時期不明	炭焼窯跡 7基 溝跡 1条	土師質土器 (小皿・鍋), 陶器 (碗)	
要 約	<p>向原遺跡は、縄文時代から近世まで断続的に営まれた複合遺跡である。縄文時代は、丘陵性台地の最頂部付近に短期的と見られる集落が形成され、緩やかに傾斜する台地上が狩猟場とされていたと考えられ、31基の陥し穴が確認されている。平安時代には小規模な集落が短期間営まれたと考えられる。近世には墓域が形成されている。</p> <p>小組遺跡は、旧石器時代から近世まで断続的に営まれた複合遺跡である。旧石器時代の石器集中地点、縄文時代の陥し穴は、丘陵上の平坦部から斜面部及び裾部の緩斜面にかけて東西に直線的に配列されている。また、平安時代に集落が形成されるが、短期間で廃絶されている。その後江戸時代になって墓域が形成されている。</p> <p>上加賀田城跡は、戦国時代宍戸氏の出城で、笠間に対しての境目城であったと考えられている。調査区は城跡東から北側の急斜面部にあたり、城郭に関連する遺構は確認されなかった。</p>				

目 次

序	
例言	
凡例	
抄録	
目次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 向原遺跡	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	11
1 縄文時代の遺構と遺物	11
(1) 竪穴住居跡	11
(2) 陥し穴	16
(3) 屋外炉跡	35
(4) 遺物包含層	36
2 平安時代の遺構と遺物	45
竪穴住居跡	45
3 近世の遺構と遺物	49
墓坑	49
4 その他の遺構と遺物	57
(1) 方形竪穴遺構	57
(2) 土坑	58
(3) 溝跡	71
(4) 遺構外出土遺物	73
第4節 まとめ	77

第4章 小組遺跡	91
第1節 遺跡の概要	91
第2節 基本層序	91
第3節 遺構と遺物	93
1 旧石器時代の遺構と遺物	93
(1) 調査の方法	93
(2) 石器集中地点の記載方法	93
(3) 石器の記載方法	93
(4) 石器集中地点の層序	95
(5) 石器集中地点の概要	96
2 縄文時代の遺構と遺物	155
陥し穴	155
3 平安時代の遺構と遺物	162
(1) 竪穴住居跡	162
(2) 火葬墓	218
(3) 土坑	219
(4) 不明遺構	221
4 近世の遺構と遺物	223
墓坑	223
5 その他の遺構と遺物	230
第4節 まとめ	242
第5章 上加賀田城跡	249
第1節 遺跡の概要	249
第2節 基本層序	249
第3節 遺構と遺物	251
1 炭焼窯跡	251
2 溝跡	257
3 トレンチ	258
4 遺構外出土遺物	263
第4節 まとめ	264
写真図版	271

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

東日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）は、常陸那珂港と北関東の各主要都市を結ぶ北関東自動車道の早期開通を目指している。

平成10年11月4日、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、北関東自動車道建設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無とその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成11年1月7・8日に向原遺跡、平成10年12月15日～18日に小組遺跡、平成10年12月15日～18日及び平成12年6月19日に上加賀田城跡の現地踏査を、平成13年12月12・13日に向原遺跡、平成13年2月26日～28日、7月10・11日に小組遺跡、平成13年2月26日～28日に上加賀田城跡の試掘調査をそれぞれ実施し、遺跡の所在を確認した。平成14年1月16日に向原遺跡、平成13年8月8日に小組遺跡、平成13年3月28日に上加賀田城跡について、茨城県教育委員会教育長は、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長あてに、事業地内に遺跡が所在する旨回答した。

日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、平成14年2月25日に文化財保護法第57条の3第1項（現 第94条）の規定に基づき、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう、平成14年2月26日にそれぞれ通知した。

日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、向原遺跡については平成14年3月1日、平成16年3月10日及び平成17年1月25日、小組遺跡については平成14年3月1日及び平成16年3月10日、上加賀田城跡については平成14年3月10日に、北関東自動車道建設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査の実施についてそれぞれ協議した。茨城県教育委員会教育長は、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長あてに、向原遺跡については平成14年3月1日、平成16年3月15日及び平成17年2月14日、小組遺跡については平成14年3月1日及び平成16年3月15日、上加賀田城跡については平成16年3月15日に発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、向原遺跡については平成14年4月1日から平成14年7月31日、平成16年11月1日から平成17年2月28日及び平成17年7月11日から平成17年8月3日まで、小組遺跡については平成14年4月1日から平成14年11月30日及び平成16年11月1日から平成17年3月31日まで、上加賀田城跡については平成16年11月1日から平成17年3月31日まで発掘調査をそれぞれ実施することとなった。

第2節 調査経過

向原遺跡、小組遺跡及び上加賀田城跡の調査の経過について、その概要を表で記載する。

向原遺跡
平成14年度

工程	期間	4月	5月	6月	7月
調査準備 表土除去 遺構確認		■		■	
遺構調査			■		■
遺物洗浄 注記作業 写真整理			■		
撤 収					■

平成16年度

工程	期間	11月	12月	1月	2月
調査準備 表土除去 遺構確認		■			
遺構調査		■			
遺物洗浄 注記作業 写真整理			■		
撤 収					■

平成17年度

工程	期間	7月	8月
調査準備 表土除去 遺構確認		■	
遺構調査		■	
遺物洗浄 注記作業 写真整理		■	
撤 収			■

小組遺跡
平成14年度

工程	期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
調査準備 表土除去 遺構確認		■		■		■		■	
遺構調査			■						
遺物洗浄 注記作業 写真整理			■						
撤 収									■

平成16年度

工程	期間	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認		■				
遺構調査			■			
遺物洗浄 注記作業 写真整理			■			
撤 収						■

上加賀田城跡
平成16年度

工程	期間	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認		■				■
遺構調査		■				
遺物洗浄 注記作業 写真整理					■	
撤 収						■

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

向原遺跡は茨城県笠間市大字本戸に、小組遺跡、上加賀田城跡は茨城県笠間市大字上加賀田に所在している。いずれも旧笠間市域に位置している。旧市域¹⁾は茨城県中央部の西端に位置しており、周囲を鶏足山塊・筑波山塊の山々とそこから延びる丘陵に囲まれた盆地である。旧市域内を涸沼川が南流し、飯田川、片庭川、稲田川が合流し、それぞれの流域に平地が形成されている。旧市域の大部分は丘陵で、平地の占める割合は少ない。

向原遺跡は、旧市域の南部に位置し、筑波山塊北縁の山々から続く丘陵性台地の縁辺部に立地しており、調査区の標高は100m前後である。台地の西側は、南指原川に沿って狭小な平地が続く、水田として利用されている。水田面と調査区最頂部との標高差は約30mである。調査前の現況は畑地、山林、荒蕪地である。

小組遺跡は旧市域の南東部に位置し、涸沼川右岸の標高約52mの丘陵上に東西に延びる狭小な平坦部から涸沼川に向かって傾斜する斜面部と、標高約39mから約34mの緩やかに傾斜する裾部に立地している。調査前の現況は、山林・畑地である。

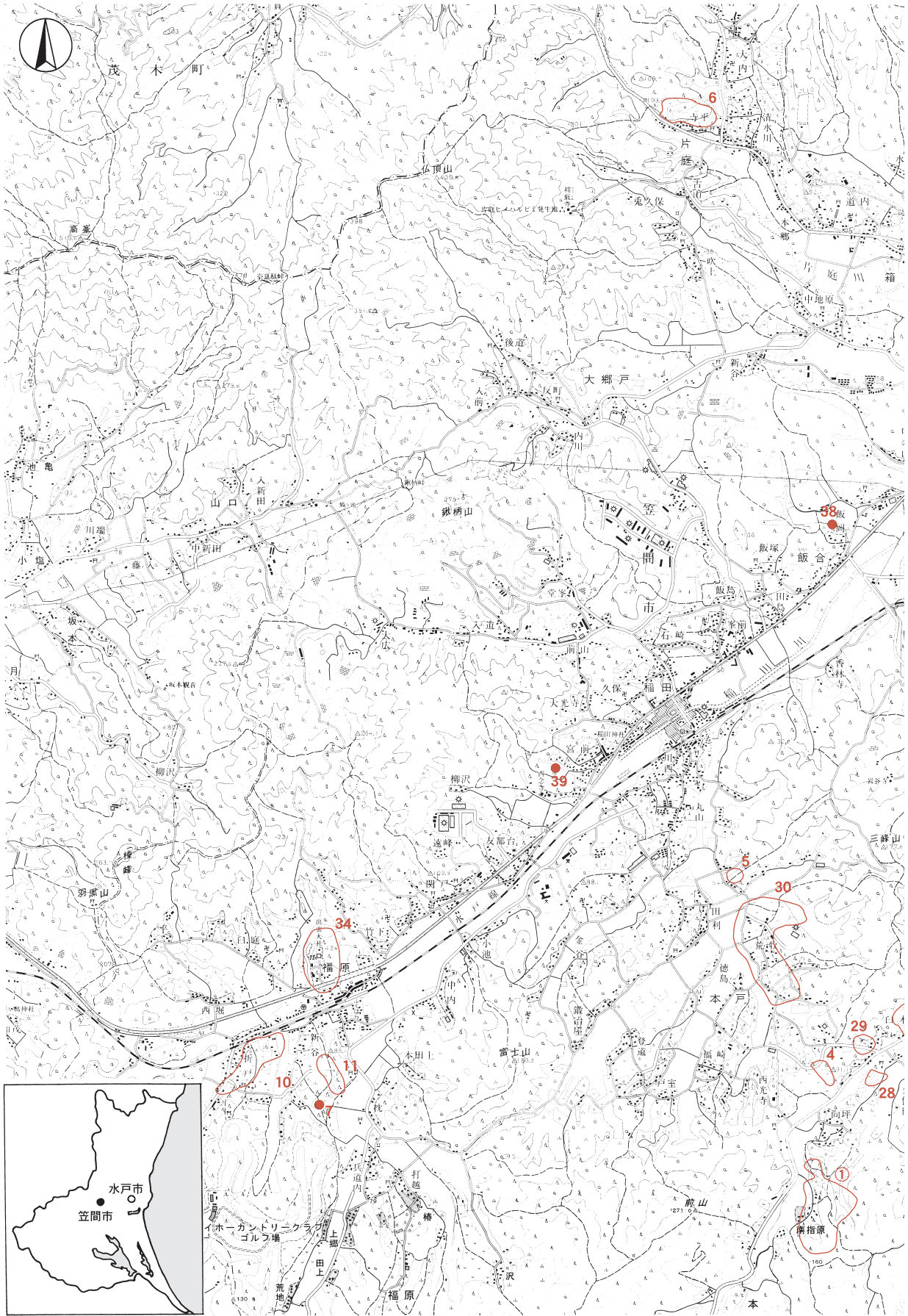
上加賀田城跡は旧市域の南東端に位置し、標高56mの独立した小丘陵に立地している。山頂は平坦で、一辺50mほどの方形を呈し、主郭跡と考えられ、二の郭、三の郭跡は南側に下っていく。小丘陵の東側から北側部分は急な斜面となっており、わずかな平場を経て涸沼川に続いており、涸沼川が堀の役目を果たしていたと考えられる。城跡の西から南側には水田が開け、こちらは泥田堀の役目を果たしていたと考えられる。調査区は、小丘陵の北東から北側部分で、調査前の現況は山林である。

第2節 歴史的環境

笠間市内の遺跡は、茨城県遺跡地図²⁾に171遺跡が登録されている。また、笠間市史編さん事業の一環で、綿密な分布調査が筑波大学によって行なわれている³⁾。これらの分布調査の結果と今までの発掘調査事例をもとに向原遺跡、小組遺跡、上加賀田城跡に関連する主な遺跡を中心に述べていく。

旧石器時代については、確実に旧石器時代といえる遺跡は確認されていないが、旧石器時代の所産と考えられる遺物は確認されている。石崎遺跡〈4〉、本戸（本殿）城跡〈5〉からは、それぞれ頁岩製とチャート製の細石刃が2点採集されている⁴⁾。西田遺跡〈6〉出土の遺物の中からは、神子柴型と考えられる石斧の未製品が確認されている。福原打越塚群⁵⁾〈7〉からは頁岩製と瑪瑙製の縦長剥片2点が、塚の盛土内から出土している。石井遺跡群⁶⁾〈8〉の平成14年度発掘調査では、硬質頁岩製の縦長剥片1点とチャート製の石核が1点出土している。このように旧石器時代の資料は極めて少ないが、「近隣地域の水戸市や勝田市においては旧石器時代の遺跡が発見されており、笠間市域においても旧石器時代の遺跡が発見されることが予測される。」と述べられている³⁾。

縄文時代の遺跡は、早期から晩期まですべての時期にわたり確認されている。寺崎台地遺跡（現在は峯崎遺跡⁷⁾〈9〉では、後期に属する竪穴住居跡1軒と円形周溝状遺構1基、石井台遺跡（現在は石井遺跡群⁸⁾）では時期は不明であるが、フラスコ形土坑1基が確認されている。中山遺跡⁵⁾〈10〉では竪穴住居跡は早期後半が1軒、土坑は早期後半4基、前期前半1基、前期後半3基、陥し穴はおおむね早期後半から前期後半と推測されるものが6基確認されており、尾根部の平坦面を中心に集落がさらに広がる可能性が指摘されている。福原打越塚群では、前期の竪穴住居跡が2軒確認されている。周辺地域の調査事例も含めて推測すると、縄文時



第1図 向原遺跡・小組遺跡・上加賀田城跡周辺遺跡分布図



代の陥し穴が構築された狩猟場が、笠間市域を囲む丘陵に広く分布しているものと考えられる。

奈良・平安時代は遺跡数が一番多く、発掘調査事例も比較的多い。石井台遺跡は、国道50号線の笠間バイパス道路建設に伴い調査され、「中火殿」と判読できる墨書土器が出土していることで著名である。8世紀から11世紀の集落跡で、竪穴住居跡31軒の他、9世紀中葉と9世紀後葉の2時期に区分できる掘立柱建物跡7棟が確認され、「中火殿」「中」「殿」「三和田」「麻呂」等の墨書土器や転用硯、朱墨痕のある坏・椀などが出土していることから、「軍団との関わりを指摘する声も聞かれる『中火殿』や50㎡を超える倉庫であるVI号掘立柱建物の存在を含めて、集落内にそうした遺構や遺物と密接に関わる有力者が居住していた可能性が高い」と指摘されている⁹⁾。中山遺跡では9世紀後葉から集落が形成され、11世紀前葉まで継続する。時期ごとに変化する住居の規模、竪の向きと付設位置は、「同一郷内の動き」と分析されている¹⁰⁾。福原原遺跡¹¹⁾〈11〉では、竪穴住居跡は8世紀代が2軒、9世紀代が1軒、時期不明が1軒、掘立柱建物跡は平安時代が1棟確認されている。石井台遺跡のように長期間継続する拠点集落や、中山遺跡、福原原遺跡のようにある一定期間だけの集落のほか、上加賀田宮後東遺跡⁵⁾〈12〉のように短期間で廃絶する集落もある。上加賀田宮後東遺跡では竪穴住居跡6軒が確認されており、すべて9世紀末葉から10世紀初頭のものである。墨書土器が38点出土しており、「久寶」「千」「仵」「矢」「峯」「末」が判読されている。同じ文字が複数の竪穴住居跡から出土しており「標識文字」と考えられ、山間部を開発した集団の存在が想定されている。奈良・平安時代の単独の遺跡としては、北原遺跡〈13〉、荒谷北遺跡〈14〉、上加賀田打越塚群〈15〉、上加賀田谷津遺跡〈16〉、間瀬久保遺跡〈17〉、手越逆川東遺跡〈18〉、手越逆川西遺跡〈19〉、下市毛逆川遺跡〈20〉、鍛冶屋遺跡〈21〉がある。また、縄文時代で一度断絶してこの時代に再び形成される遺跡としては、近藤峰遺跡〈22〉、笹口遺跡〈23〉、八反田遺跡〈24〉、添川遺跡〈25〉、上ノ台遺跡〈26〉、古坪遺跡〈27〉、本戸宮前遺跡〈28〉、大日後遺跡〈29〉、石崎遺跡、荒牧遺跡群〈30〉がある。特に、丘陵地帯に奈良・平安時代の遺跡が急増しており、その要因が何かは不明である。今後の調査研究が待たれる。

中世の旧市域は、下野宇都宮を本拠とした宇都宮氏の支族である笠間氏の所領であったが、上加賀田城跡が所在する上加賀田地区は戸氏の支配下に属し、下加賀田地区を含め、加賀田と呼ばれた¹²⁾。中世の城館跡は、笠間城跡〈31〉、麓城跡〈32〉、飯田城跡〈33〉、本戸城跡、福原城跡〈34〉、岡ノ宿城（大橋城）跡、金井前東館跡〈35〉、福田館跡〈36〉、大淵館跡〈37〉、飯岡館跡〈38〉、稲田城跡〈39〉、金井前西館跡〈40〉等がある。

※ 文中の〈 〉内の番号は、第1図及び表1の該当番号と同じである。

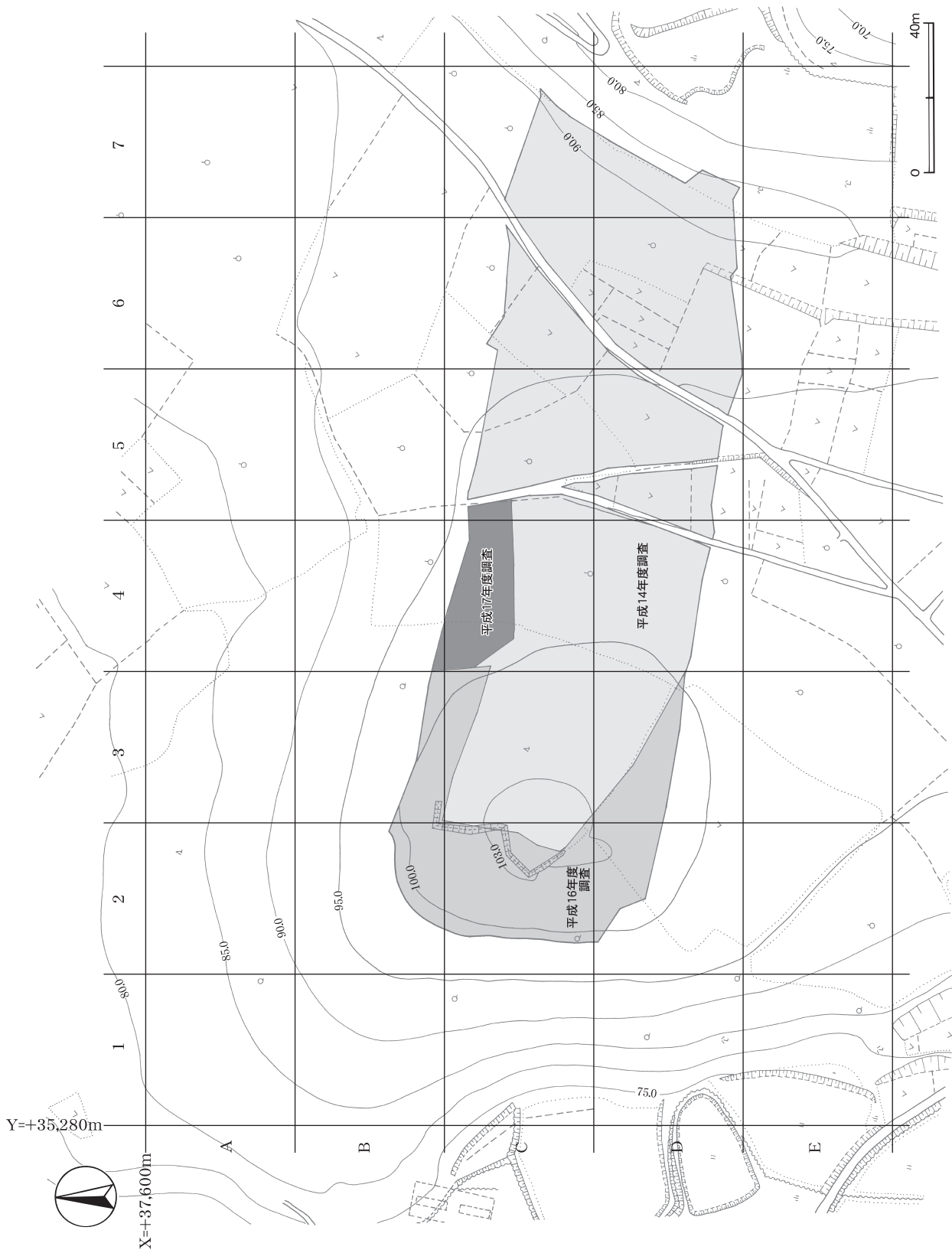
註

- 1) 笠間市は、平成18年3月19日に友部町、岩間町と合併した。旧市域は旧笠間市域を指している。
- 2) 茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図（地名表編、地図編）』茨城県教育委員会 2001年3月
- 3) 西野元「笠間市遺跡分布調査報告書」『笠間市史資料』第5集 笠間市史編さん委員会 1992年3月
- 4) 前掲文献3)の中で2点の細石刃について、「石器製作時の細部調整剥片である可能性」が指摘されている。
- 5) 横倉要次 早川麗司「中山遺跡 福原打越塚群 上加賀田宮後東遺跡 北関東自動車道（協和～友部）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書VI」『茨城県教育財団文化財調査報告』第227集 2004年3月
- 6) 鹿島直樹「石井遺跡群 一般国道355号バイパス新設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第219集 2004年3月
- 7) 千種重樹『寺崎台地遺跡 太平洋観光開発(株)の事務所兼共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』寺崎台地遺跡発掘調査会 1992年3月
- 8) 大川清「石井台遺跡」『考古学研究室報告』乙種第3冊 飛鳥書房 1973年7月

- 9) 稲田義弘「石井台遺跡」『古代地方官衙周辺における集落の様相ー常陸国河内郡を中心としてー』 茨城県考古学協会 2005年2月
- 10) 成島一也「中山遺跡 国補緊道第14-03-620-0-051号埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第204集 2003年3月
- 11) 萩原義照「福原原遺跡」『笠間市埋蔵文化財調査報告書』第8集 笠間市教育委員会 福原原遺跡発掘調査会 1995年3月
- 12) 笠間市史編さん委員会『笠間市史「地誌編」』 笠間市 2004年3月

表1 向原遺跡・小組遺跡・上加賀田城跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代							
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世	
①	向原遺跡		○				○	○	○	21	鍛冶屋遺跡					○		
②	小組遺跡	○	○				○	○	○	22	近藤峯遺跡		○			○		
③	上加賀田城跡							○		23	笹口遺跡		○			○		
4	石崎遺跡	○	○				○			24	八反田遺跡		○			○		
5	本戸城跡	○	○				○	○		25	添川遺跡		○			○		
6	西田遺跡		○		○					26	上ノ台遺跡		○			○		
7	福原打越塚群		○				○	○	○	27	古坪遺跡		○			○		
8	石井遺跡群		○	○	○	○				28	本戸宮前遺跡		○			○		
9	峯崎遺跡		○	○	○	○				29	大日後遺跡		○			○	○	
10	中山遺跡		○		○	○	○	○		30	荒牧遺跡群			○		○	○	
11	福原原遺跡		○				○			31	笠間城跡						○	
12	上加賀田宮後東遺跡			○			○		○	32	麓城跡						○	
13	北原遺跡						○			33	飯田城跡						○	
14	荒谷北遺跡						○			34	福原城跡						○	
15	上加賀田打越塚群						○			35	金井前東館跡						○	
16	上加賀田谷津遺跡						○			36	福田館跡						○	
17	間瀬久保遺跡						○			37	大渕館跡						○	
18	手越逆川東遺跡						○			38	飯岡館跡						○	
19	手越逆川西遺跡						○			39	稲田城跡						○	
20	下市毛逆川遺跡						○			40	金井前西館跡						○	



第2図 向原遺跡調査区設定図

第3章 向原遺跡

第1節 遺跡の概要

向原遺跡は、筑波山塊北縁の山々からのびる丘陵地に立地している。調査区は、標高100mほどの丘陵性台地の平坦部に位置しており、平成14年度、16年度、17年度と三次にわたり12,629㎡が調査された。調査によって、縄文時代、平安時代及び近世の複合遺跡であることが明らかになった。調査前の現況は、畑地、山林及び荒蕪地である。

遺構は、竪穴住居跡5軒（縄文時代3、平安時代2）、方形竪穴遺構1基（時期不明）、陥し穴31基（縄文時代）、墓坑5基（近世）、土坑71基（時期不明）などが確認された。遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に6箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（坏・甕）、土師質土器（鍋）、石器・石製品（剥片・砥石）、金属製品（煙管・釘・古銭）などである。

第2節 基本層序

C3j1区及びC4e4区にテストピットを設定し（前者をテストピット1、後者をテストピット2とする）、それぞれ深さ2.1m、2.3mまで掘り下げて基本土層（第3図）の観察を行った。土層は10層に分層される。以下、テストピットの観察から、層序を説明する。

第1層は、黒褐色を呈する表土層である。層厚は最大11cmである。

第2層は、褐色を呈するローム層で、黒色土粒子を微量含み、粘性が強い。層厚は14～29cmである。

第3層は、明褐色を呈するローム層である。層厚は16～30cmである。

第4層は、褐色を呈するローム層で、粘性・縮まりとも強い（ただし、テストピット1は2に比べ、粘性・縮まりがともに弱い）。層厚は、24～45cm以上である。

第5層は、黄褐色を呈する鹿沼軽石層への漸移層で、ロームブロック及び鹿沼パミスを中量含み、縮まりが強い。層厚は9～36cmである。

第6層は、明黄褐色を呈する鹿沼軽石純層で、黒色粒子を極微量含み、粘性は弱く、縮まりが強い。層厚は20～71cmである。

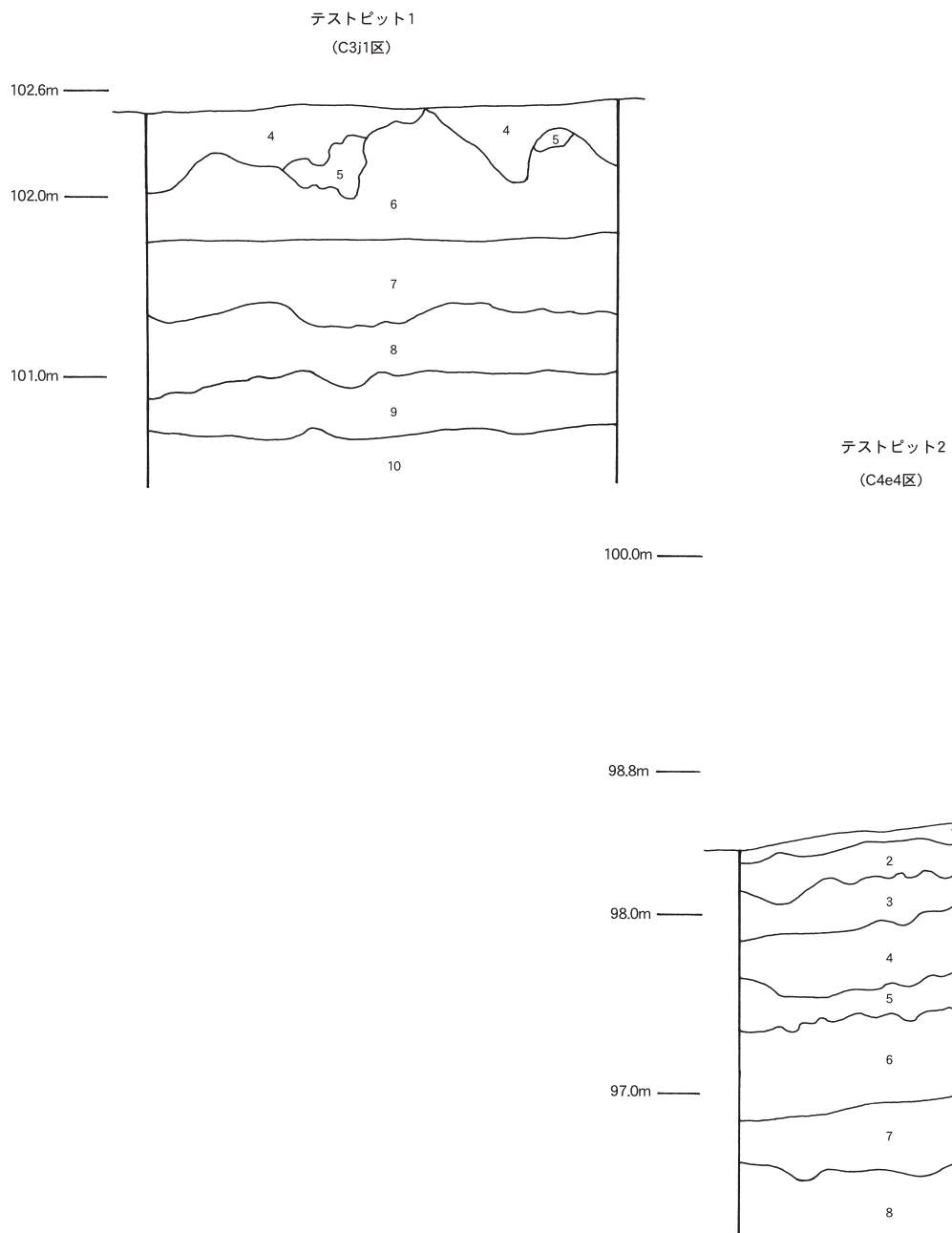
第7層は、褐色を呈するローム層で、粘性が強い。層厚は28～50cmである。

第8層は、褐色を呈するローム層で、縮まりが極めて強い。層厚は25～50cmである。

第9層は、褐色を呈するローム層で、粘性が極めて強い。層厚は7～37cmである。

第10層は、にぶい黄褐色を呈する粘土層で、粘土粒子を中量、ローム粒子を少量、花崗岩質の細礫を微量含み、粘性が極めて強い。層厚は最大40cmほどであるが、下層は未掘のため本来の層厚は不明である。

遺構は、台地縁辺部では第2層上面で、台地平坦部では第4層上面で確認している。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

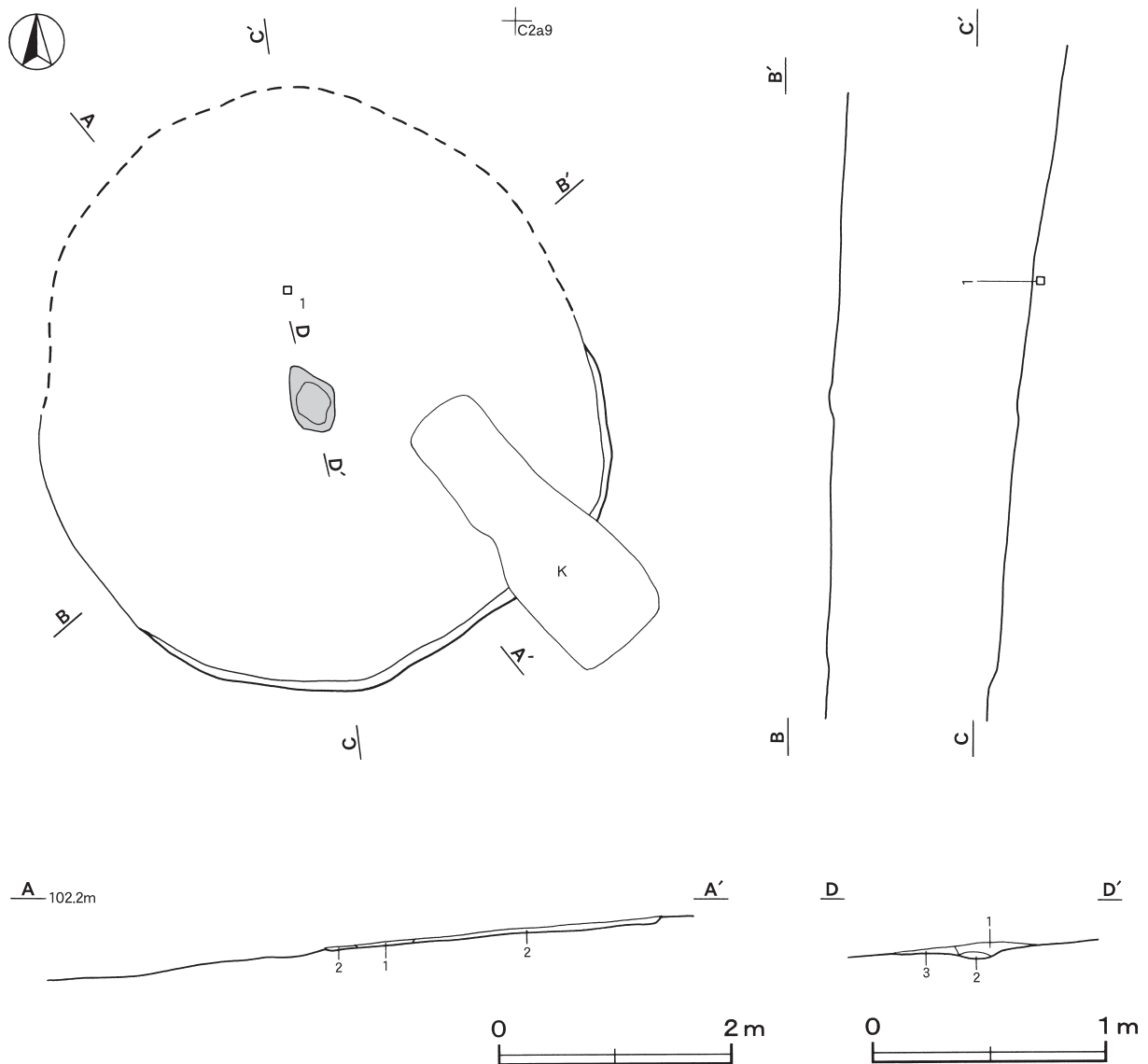
住居跡3軒と屋外炉跡2基を確認した。また、平面形が長楕円形または隅丸長方形で、深い掘り込みを有し、壁がほぼ直立する土坑31基を確認した。これらの土坑は、遺物がほとんど出土していないため時期判断が困難であるが、形状から陥し穴と判断した。さらに、遺物包含層4か所を確認した。以下、遺構と遺物の特徴について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第3号住居跡（第4・5図）

位置 調査区西部のC2a8区で、標高102mほどの丘陵性台地の端部に位置している。

規模と形状 覆土が薄く、確認面が北西に緩やかに傾斜しているため、本跡の北西側は床面が露出及び削平された状態で確認された。規模は、長径5.1m、短径4.8mの円形で、主軸方向はN-40°-Wである。壁高は南東側で5cmほどで、外傾して立ち上がっている。



第4図 第3号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、北西部に向かってやや傾斜している。

炉 中央部に位置し、長径60cm、短径40cmの楕円形で、掘り込みを伴わない地床炉である。炉床は火熱で赤変硬化している。

炉断ち割り土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量

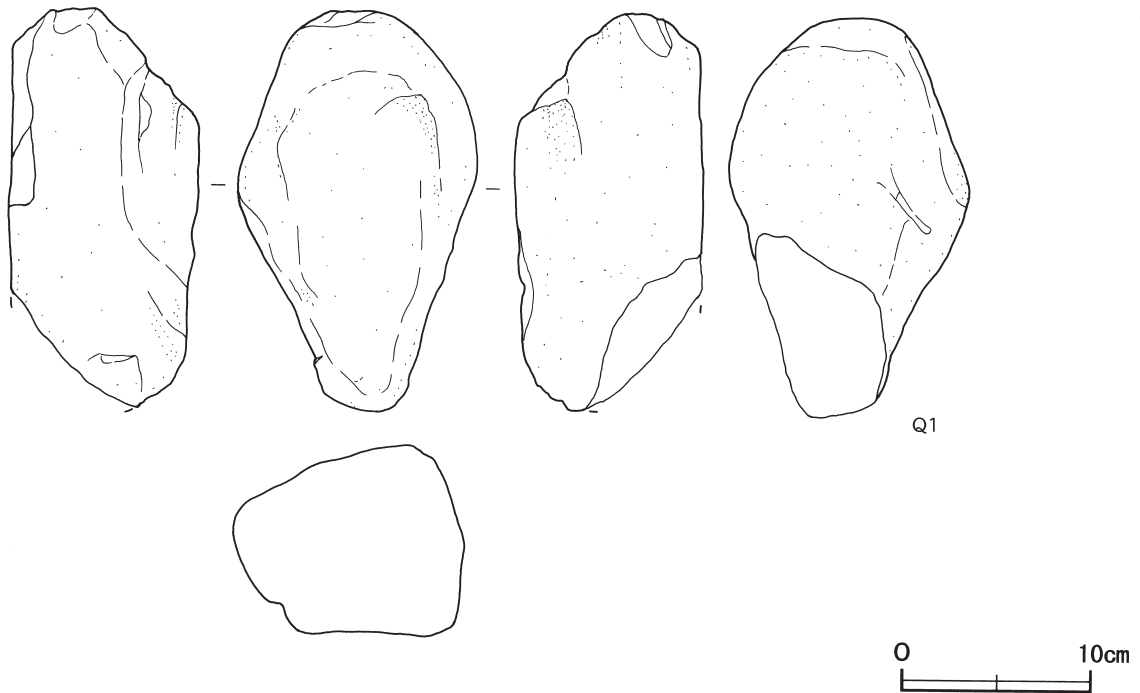
覆土 2層からなる。ロームブロックを多量に含んだ褐色を基調とした層で、6cmほどの深さのため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片16点（深鉢）のほか、石器4点（台石カ1、剥片3）が、中央部から南部にかけて散在している。Q1は中央部の床面に一部潜り込んだ状態で出土している。その他はいずれも細片のため、図示することはできなかった。縄文土器片は、条痕文をモチーフとしたものや繊維を含むものが出土している。

所見 時期は、出土土器から、縄文時代早期後葉から前期前葉と考えられる。



第5図 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表（第5図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	台石カ	21.5	12.9	10.1	(3510)	雲母片岩	一端部欠損	中央部床面	PL16

第4号住居跡 (第6・7図)

位置 調査区西部のC 2 e8区で、標高103mほどの丘陵性台地の端部に位置している。

重複関係 北東部から中央部にかけて、第105号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北壁部が攪乱されているため、長径は3.7mほど、短径は3.37mの楕円形又は円形と推定される。

主軸方向はN-43°-Wである。壁高は5~18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、北部に向かってやや傾斜している。

炉 中央部に位置し、長径約100cm、短径70cmの楕円形で、床面を5cmほど掘り込んだ地床炉である。炉床は火熱で赤変硬化している。

炉土層解説 (第2・3層は、炉の断ち割り土層である。)

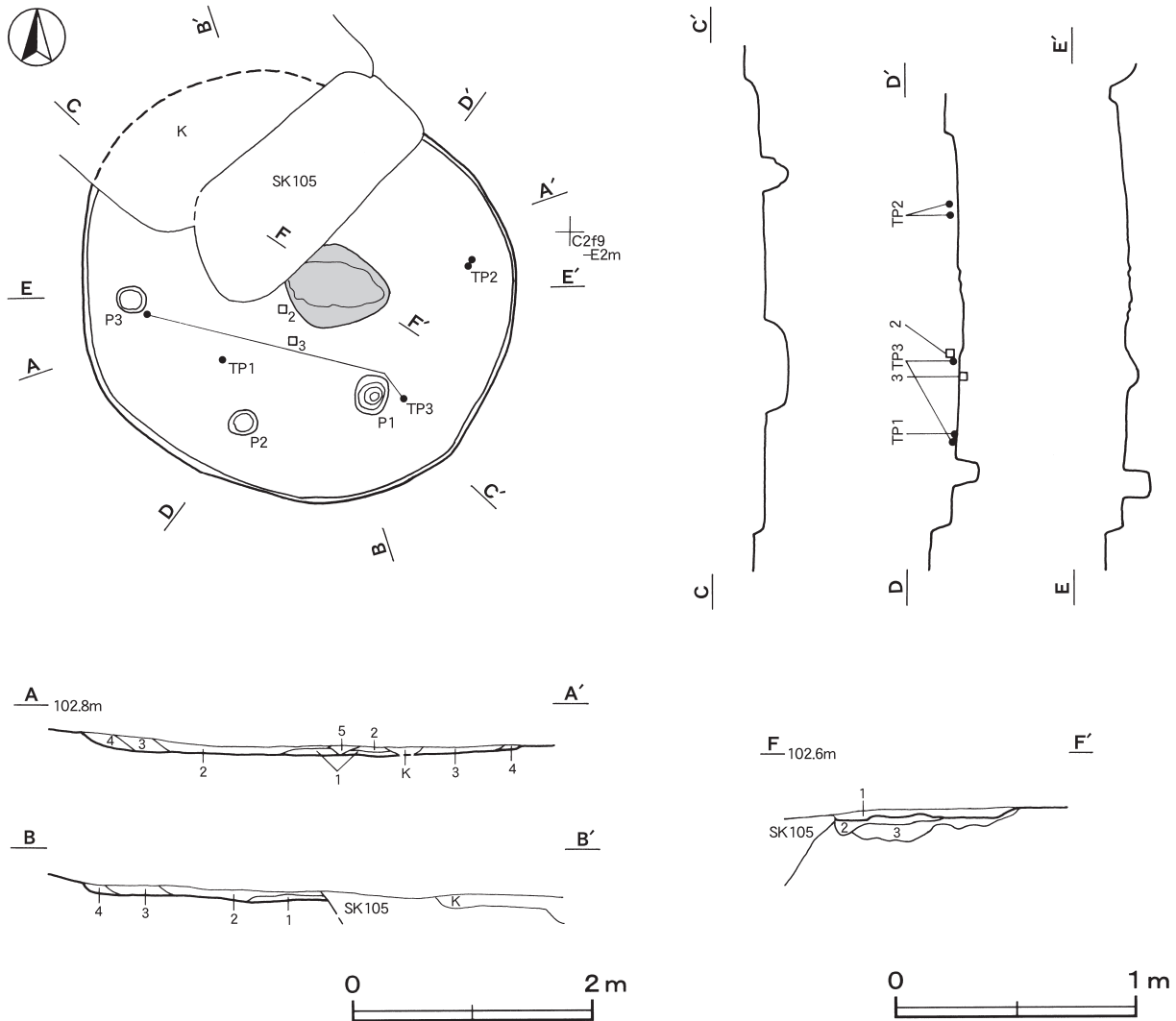
- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量

ピット 3か所。深さは22~28cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。

覆土 5層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

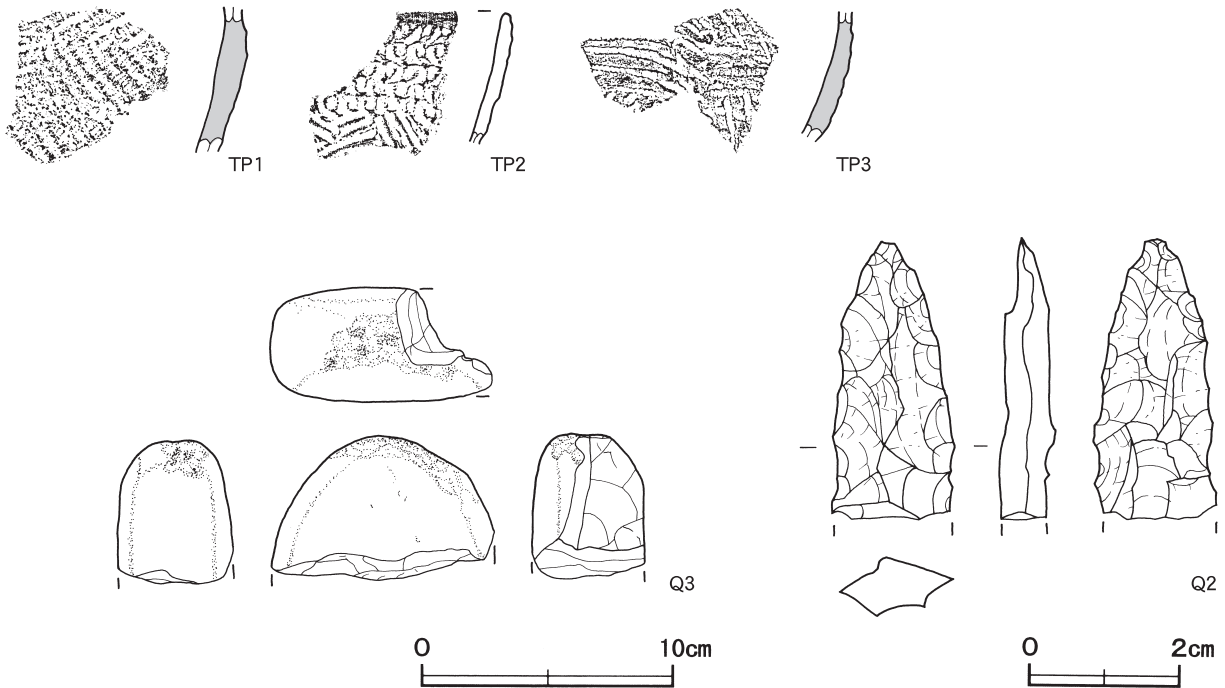
- 1 黒褐色 炭化粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子少量



第6図 第4号住居跡実測図

遺物出土状況 縄文土器片22点（深鉢）のほか、石器15点（敲石1，尖頭器1，チャート剥片13）が、中央部から南部の覆土中層から下層を中心に出土している。Q3は中央部の床面，TP1，Q2は中央部の覆土下層から，それぞれ出土している。TP2は東壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。TP3は南壁際と西壁際のそれぞれ覆土下層から出土した破片が接合したものである。縄文土器片は，繊維を含むものが多い。

所見 時期は，出土土器から，前期前葉の可能性が高いと考えられる。



第7図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1	縄文土器	深鉢	-	5.9	-	長石・石英	橙	普通	RL・LRの単節縄文を羽状に施文	中央部下層	前期前葉 PL13
TP2	縄文土器	深鉢	-	5.3	-	長石・雲母	橙	普通	口辺部ループ文	東壁際下層	前期前葉 PL12
TP3	縄文土器	深鉢	-	5.3	-	長石	橙	普通	RLの単節縄文	南壁際・西壁際下層	前期前葉 PL13

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	尖頭器	(3.7)	1.6	0.8	(4.46)	チャート	基部欠損	中央部下層	PL15
Q3	敲石	(5.7)	8.7	4.5	(272)	安山岩	上端部に敲打痕 下端部欠損	中央部床面	

第7号住居跡（第8図）

位置 調査区西部のC3c3区で，標高103mほどの丘陵性台地の端部に位置している。

規模と形状 径2.90mの円形で，主軸方向はN-0°である。壁高は12~20cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉 中央部に位置している。長径52cm、短径40cmの楕円形で、床面を4cmほど掘り込んだ地床炉である。炉床は火熱で赤変硬化している。

炉土層解説

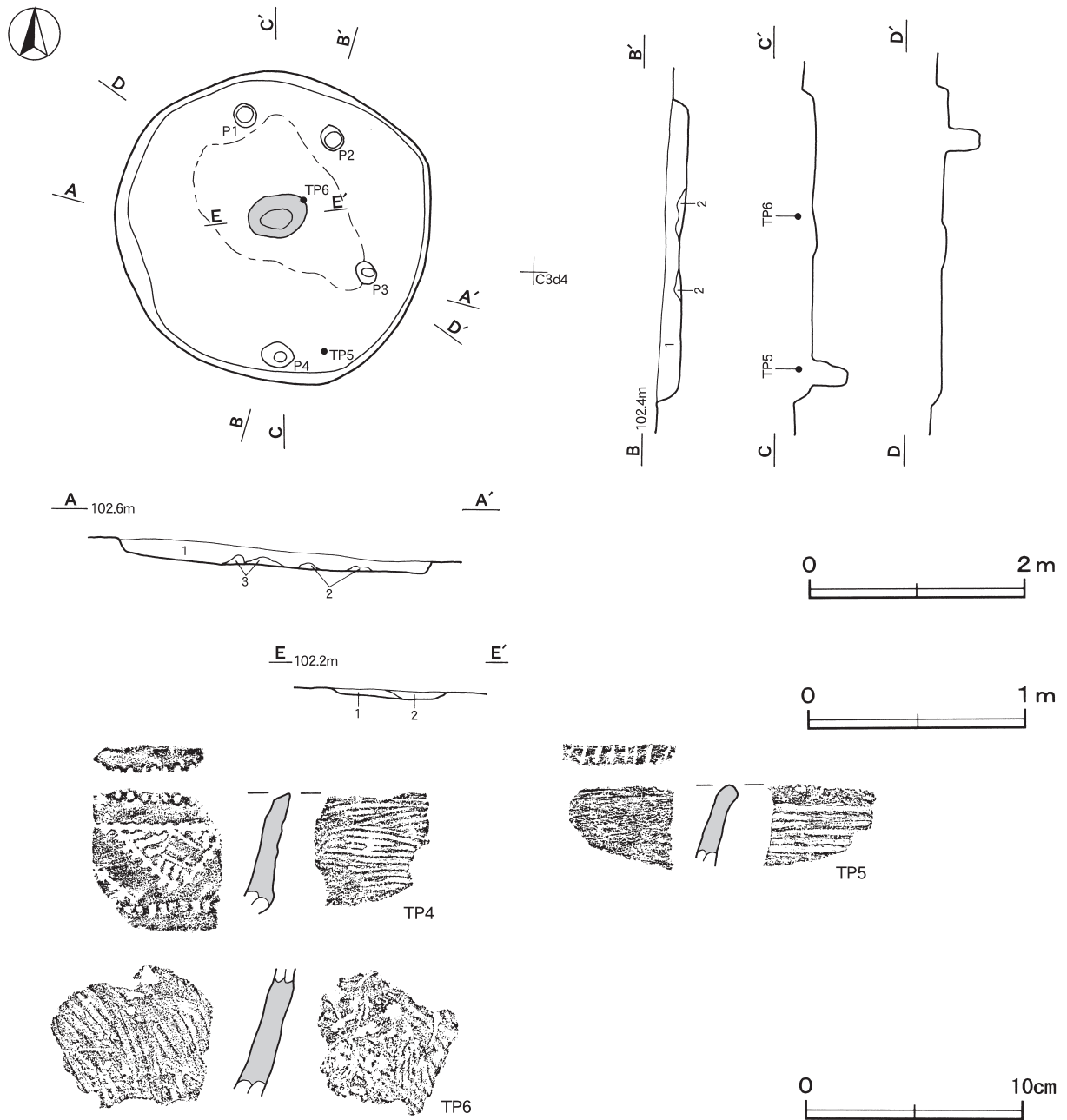
- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 極暗赤褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量

ピット 4か所。深さは16~28cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。

覆土 3層からなる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量



第8図 第7号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片18点（深鉢）が出土している。ほとんどが細片で、北壁際と南壁際から多く出土している。TP5は南壁際、TP6は中央部のいずれも覆土上層から出土している。TP4は覆土中から出土している。縄文土器片は、条痕文をモチーフとするものが多い。

所見 時期は、出土土器から、早期後葉の可能性が高いと考えられる。

第7号住居跡出土遺物観察表（第8図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP4	縄文土器	深鉢	-	5.5	-	長石・雲母	橙	普通	口唇部外面に刻み 外面沈線と刺突文で三角形のモチーフを描く 内面貝殻条痕文	覆土中	早期後葉 PL12
TP5	縄文土器	深鉢	-	3.2	-	長石・石英	橙	普通	口唇部に刻み 内・外面貝殻条痕文	南壁際上層	早期後葉 PL12
TP6	縄文土器	深鉢	-	5.9	-	長石・雲母	橙	普通	内・外面貝殻条痕文	中央部上層	早期後葉 PL13

(2) 陥し穴

第1号陥し穴（SK1）（第9・10図）

位置 調査区東部のC7g1区で、標高92mほどの丘陵性台地の端部に位置している。

規模と形状 長径1.74m、短径1.08mの楕円形で、長径方向はN-75°-Wである。深さは138cmで、短径方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状を呈している。長径方向の壁はほぼ直立し、底面は平坦である。

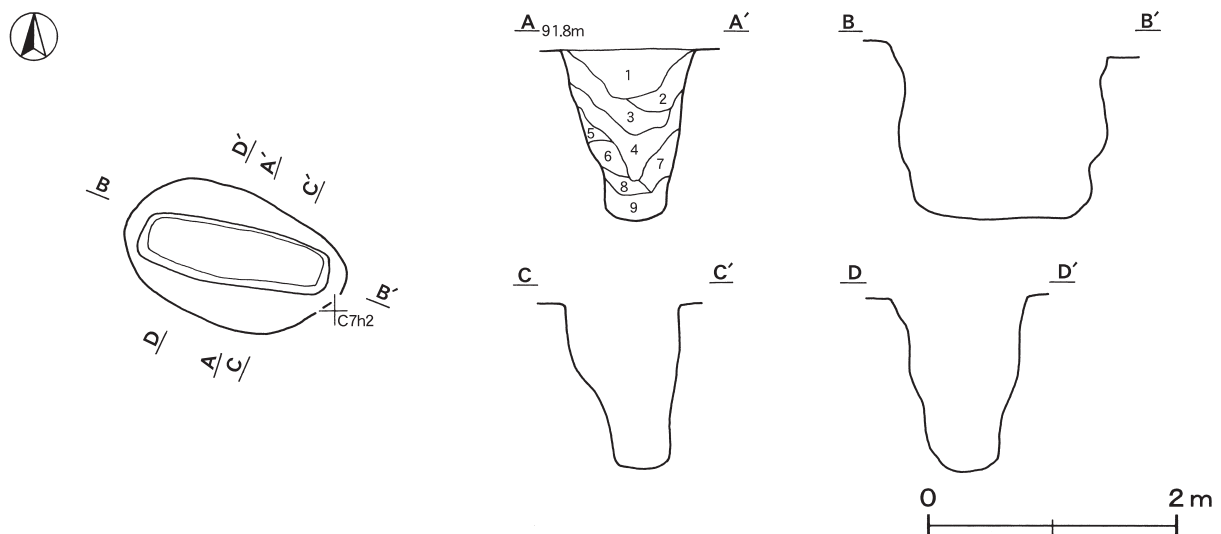
覆土 9層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

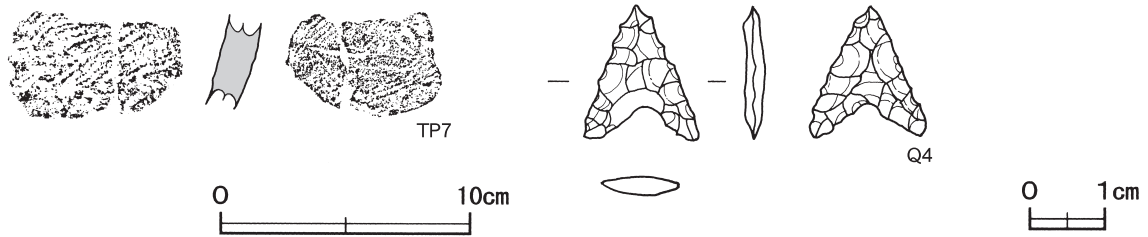
- | | | | | | |
|---|-----|------------------|---|-----|-------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 6 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 | 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック少量 | 8 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 9 | 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼パミス微量 |
| 5 | 暗褐色 | ロームブロック多量 | | | |

遺物出土状況 縄文土器片3点（深鉢）、石器1点（石鏃）が、覆土中から出土している。

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第9図 第1号陥し穴実測図



第10図 第1号陥し穴出土遺物実測図

第1号陥し穴出土遺物観察表（第10図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP7	縄文土器	深鉢	-	3.8	-	長石・石英	橙	普通	外面縄文施文 内面貝殻条痕文	覆土中	早期後葉 PL13

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	石鏃	1.8	1.6	0.3	0.44	チャート	凹基無茎鏃	覆土中	PL15

第2号陥し穴（SK8）（第11図）

位置 調査区東部のD7b1区で、標高91mほどの丘陵性台地の端部に位置している。

規模と形状 長軸2.14m、短軸1.20mの隅丸長方形で、長軸方向はN-2°-Wである。深さは87cmで、短軸方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状を呈している。長軸方向の壁はほぼ直立し、底面は平坦で、逆茂木の跡と想定されるピットが5か所確認された。

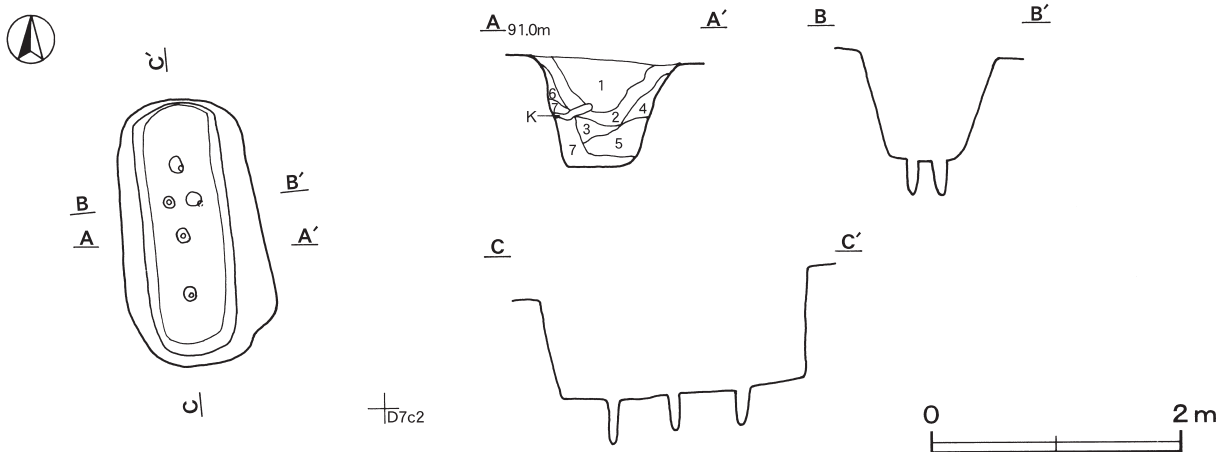
覆土 7層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック多量、鹿沼ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量 | | |

遺物出土状況 混入と考えられる土師器片1点（甕類）が、覆土中から出土している。

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第11図 第2号陥し穴実測図

第3号陥し穴 (SK11) (第12図)

位置 調査区中央部のD4g5区で、標高99mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

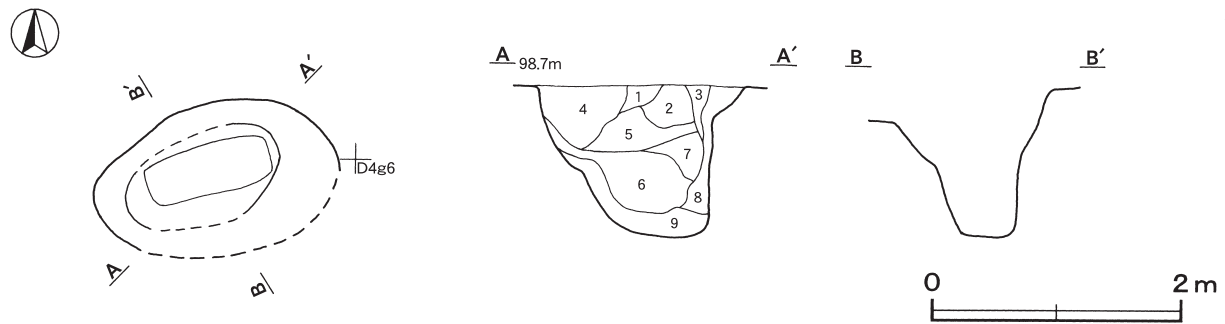
規模と形状 南側が木の根による攪乱を受けているが、長径1.96m、短径1.23mの楕円形で、長径方向はN-75°-Eである。深さは118cmで、短径方向の壁の下位は直立し、上位は外傾して立ち上がっており、断面形はU字状を呈している。底面は平坦である。

覆土 9層からなる。不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、黒色土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量(締まり強い) | 8 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・黒色土ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | | |

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第12図 第3号陥し穴実測図

第4号陥し穴 (SK13) (第13図)

位置 調査区東部のD6e5区で、標高94mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

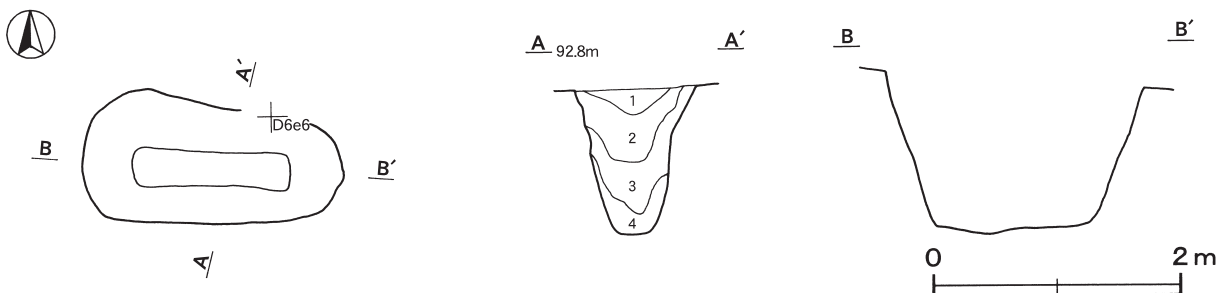
規模と形状 長軸2.08m、短軸1.02mの隅丸長方形で、長軸方向はN-84°-Wである。深さは125cmで、短軸方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状を呈している。長軸方向の壁も外傾して立ち上がり、底面は平坦である。

覆土 4層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量、黒色土ブロック・鹿沼パミス微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子・鹿沼パミス微量 | 4 褐色 | ロームブロック多量、鹿沼パミス微量 |

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第13図 第4号陥し穴実測図

第5号陥し穴 (SK15) (第14図)

位置 調査区中央部のD 5 e6区で、標高96mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

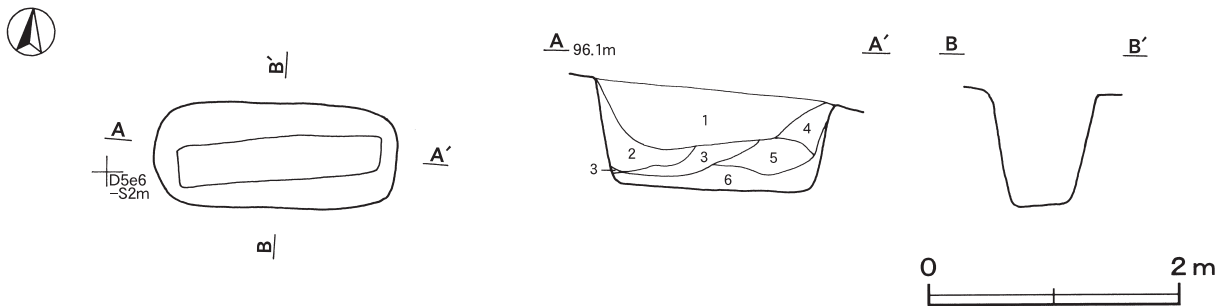
規模と形状 長軸1.94m、短軸0.86mの隅丸長方形で、長軸方向はN-90°である。深さは92cmで、短軸方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状を呈している。長軸方向の壁はほぼ直立し、底面は平坦である。

覆土 6層からなる。不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 (粘性弱い) | 4 極暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子多量 |

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第14図 第5号陥し穴実測図

第6号陥し穴 (SK16) (第15図)

位置 調査区中央部のD 5 e5区で、標高96mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

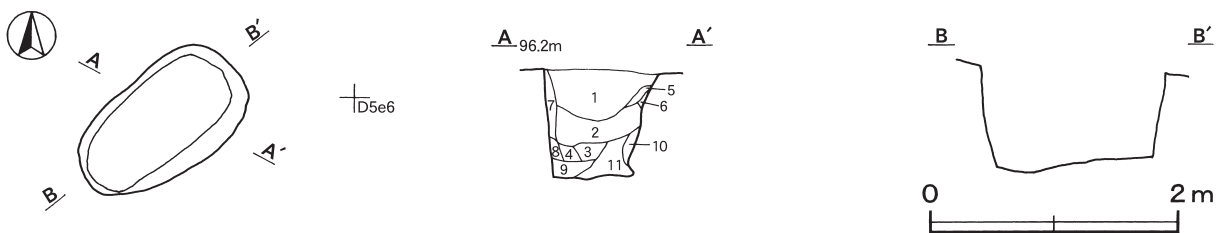
規模と形状 長軸1.47m、短軸0.80mの隅丸長方形で、長軸方向はN-49°-Eである。深さは77cmで、短軸方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状を呈している。長軸方向の壁はほぼ直立し、底面は平坦である。

覆土 11層からなる。不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 7 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 (1より彩度が高い) | 9 極暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 10 極暗褐色 | ロームブロック中量 (9より含有黒色土が多い) |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量 | 11 黒褐色 | ロームブロック少量 (中ブロック含む) |
| 6 褐色 | ロームブロック多量 | | |

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第15図 第6号陥し穴実測図

第7号陥し穴 (SK19) (第16図)

位置 調査区中央部のC5j4区で、標高96mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

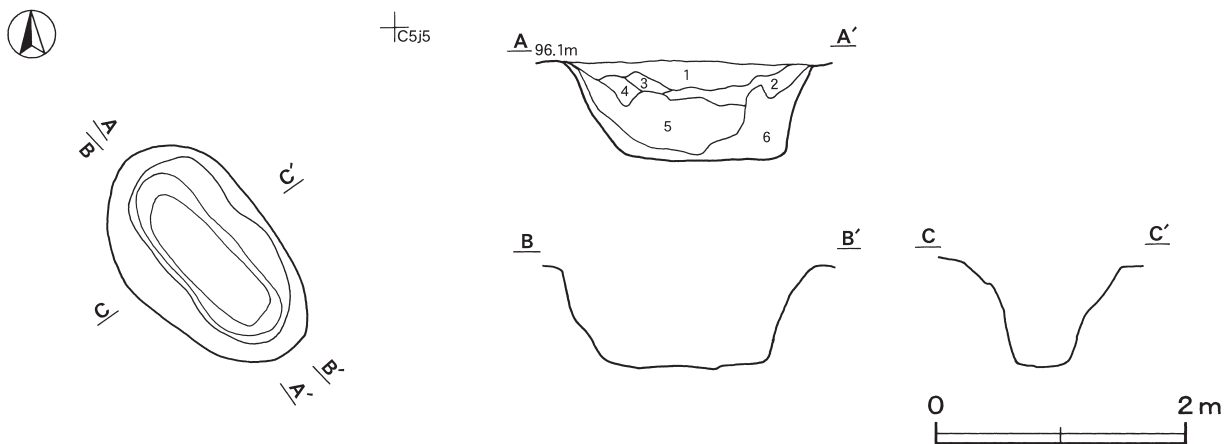
規模と形状 長径2.00m、短径1.20mの楕円形で、長径方向はN-40°-Wである。深さは85cmで、短径方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状を呈している。長径方向の壁も外傾して立ち上がり、底面は平坦である。

覆土 6層からなる。不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|--------|--------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子微量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量 (黒色土を少量含む) |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック多量 |

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。

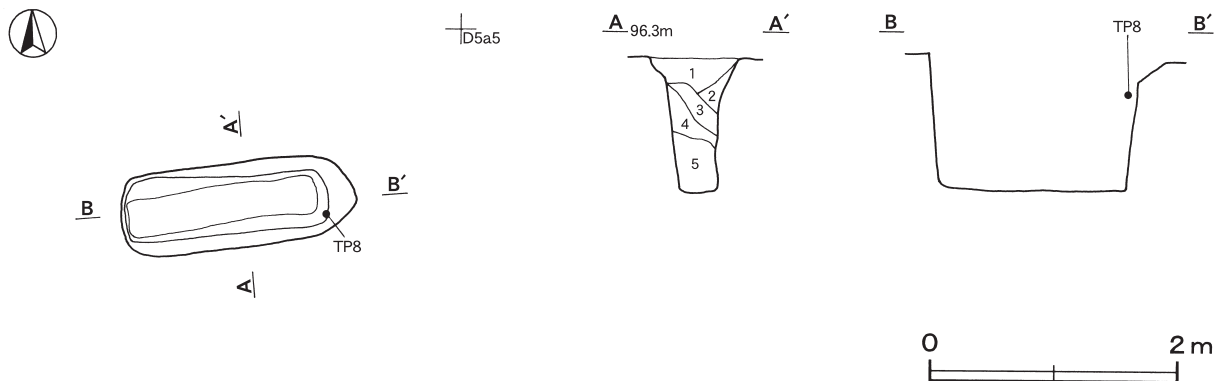


第16図 第7号陥し穴実測図

第8号陥し穴 (SK20) (第17・18図)

位置 調査区中央部のD5a4区で、標高96mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.86m、短軸0.70mの長方形で、長軸方向はN-82°-Eである。深さは105cmで、短軸方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状を呈している。長軸方向の壁はほぼ直立し、底面は平坦である。



第17図 第8号陥し穴実測図

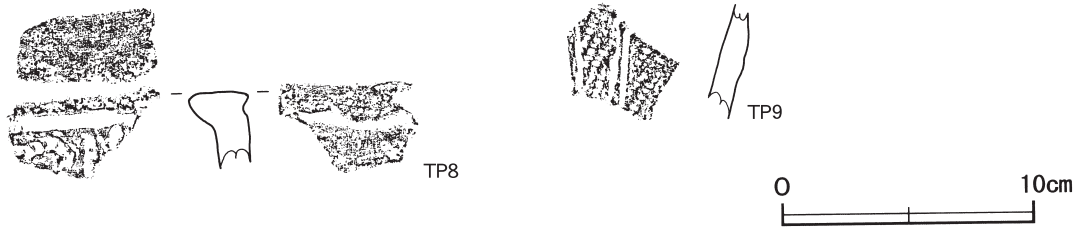
覆土 5層からなる。不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子多量, 砂粒微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック微量, 粘土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量, 鹿沼バミス微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片5点(深鉢)が出土している。TP8は、東壁際の覆土上層から出土している。

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第18図 第8号陥し穴出土遺物実測図

第8号陥し穴出土遺物観察表 (第18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP8	縄文土器	深鉢	-	3.1	-	長石	にぶい橙	普通	口唇部直下横位の押引文 口辺部刺突文による弧線	東壁際上層	中期 PL12
TP9	縄文土器	深鉢	-	4.6	-	長石	にぶい橙	普通	RLの単節縄文 2条の沈線が垂下	覆土中	中期 PL13

第9号陥し穴 (SK21) (第19図)

位置 調査区中央部のD5a5区で、標高96mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

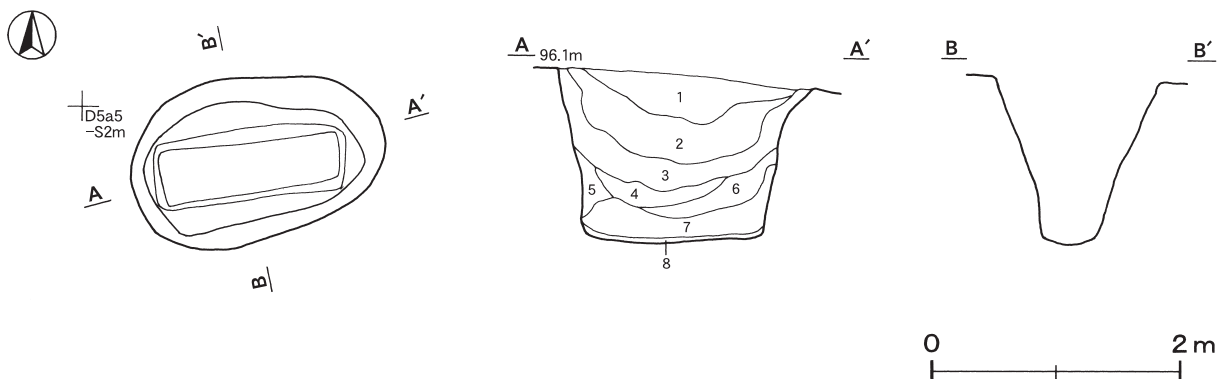
規模と形状 長径2.03m, 短径1.33mの楕円形で、長径方向はN-81°-Eである。深さは130cmで、短径方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状を呈している。長径方向の壁はほぼ直立し、底面は平坦である。

覆土 8層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック中量 | 7 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

所見 時期は、規模や形状から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第19図 第9号陥し穴実測図

第10号陥し穴 (S K23) (第20図)

位置 調査区東部のD 6 f5区で、標高93mほどの丘陵性台地の端部に位置している。

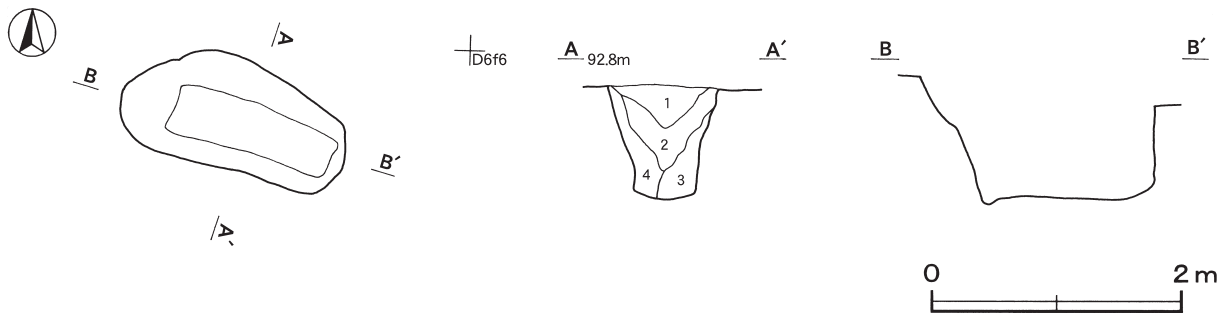
規模と形状 長軸1.85m、短軸0.82mの長方形で、長軸方向はN-72°-Wである。深さは80cmで、短軸方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状を呈している。長軸方向の壁は、西壁は外傾、東壁は直立し、底面は平坦である。

覆土 4層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼ブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼ブロック微量 |

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



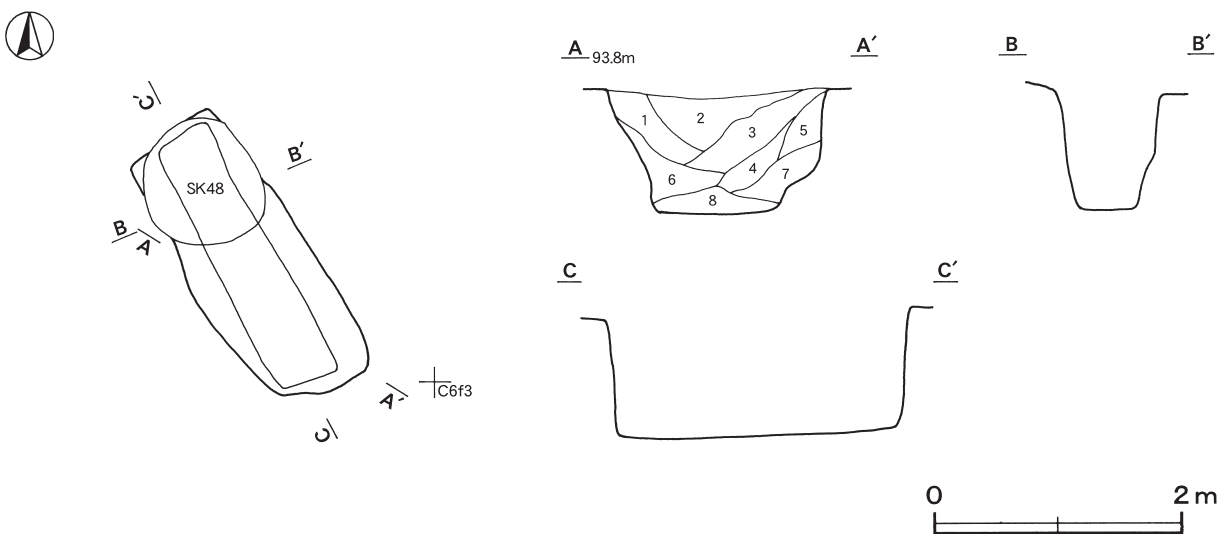
第20図 第10号陥し穴実測図

第11号陥し穴 (S K29) (第21図)

位置 調査区東部のC 6 e2区で、標高94mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

重複関係 第48号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.43m、短軸1.00mの長方形で、長軸方向はN-28°-Wである。深さは97cmで、短軸方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状を呈している。長軸方向の壁はほぼ直立し、底面は平坦である。



第21図 第11号陥し穴実測図

覆土 8層からなる。不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|--------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量(締まり弱い) | 6 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミス微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。

第12号陥し穴 (S K33) (第22図)

位置 調査区中央部のC 5 j8区で、標高95mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

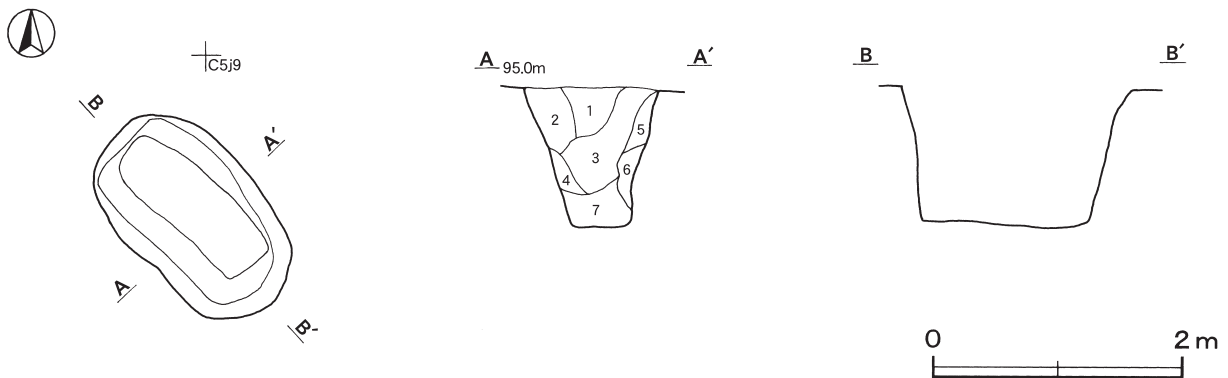
規模と形状 長軸1.84m, 短軸1.12mの隅丸長方形で、長軸方向はN-45°-Wである。深さは108cmで、短軸方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状を呈している。長軸方向の壁も外傾して立ち上がり、底面は平坦である。

覆土 7層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第22図 第12号陥し穴実測図

第13号陥し穴 (S K43) (第23図)

位置 調査区中央部のD 4 a2区で、標高100mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.46m, 短軸0.66mの長方形で、長軸方向はN-76°-Eである。深さは59cmで、短軸方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状を呈している。長軸方向の壁はほぼ直立し、底面は平坦である。

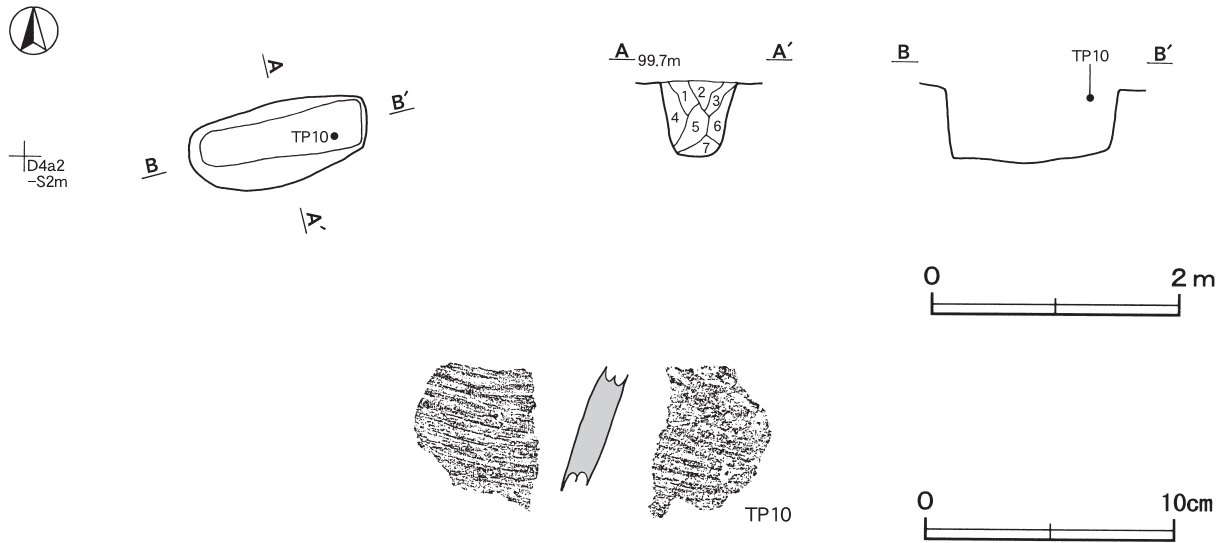
覆土 7層からなる。不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 極暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が、覆土上層から出土している。

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第23図 第13号陥し穴・出土遺物実測図

第13号陥し穴出土遺物観察表（第23図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP10	縄文土器	深鉢	-	5.2	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	内・外面貝殻条痕文	東部上層	早期後葉 PL13

第14号陥し穴（S K44）（第24図）

位置 調査区中央部のC 4 g5区で、標高98mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

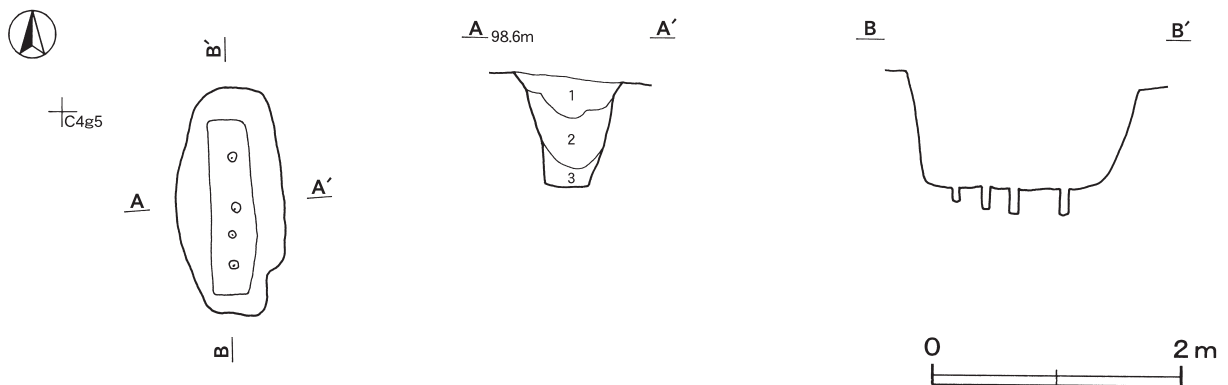
規模と形状 長軸1.81m、短軸0.87mの長方形で、長軸方向はN-2°-Wである。深さは88cmで、短軸方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状を呈している。長軸方向の壁はほぼ直立し、底面は平坦で、逆茂木の跡と想定されるピットが4か所確認された。

覆土 3層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量（大ブロック含む）
- 3 暗褐色 ロームブロック中量（1より黄色味が強い）

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第24図 第14号陥し穴実測図

第15号陥し穴 (SK45) (第25図)

位置 調査区中央部のC 5 i1区で、標高97mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

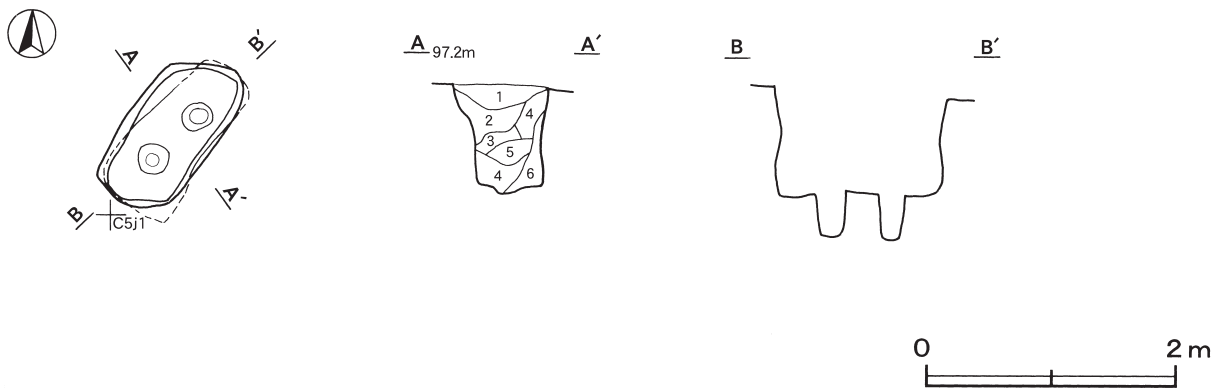
規模と形状 長径1.35m、短径0.71mの楕円形で、長径方向はN-37°-Eである。深さは80cmで、短径方向の壁の下位は直立し、上位は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状を呈している。長径方向の壁はほぼ直立し、底面は平坦で、逆茂木の跡と想定されるピットが2か所確認された。

覆土 6層からなる。不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック多量 |

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第25図 第15号陥し穴実測図

第16号陥し穴 (SK46) (第26図)

位置 調査区中央部のD 4 a0区で、標高98mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

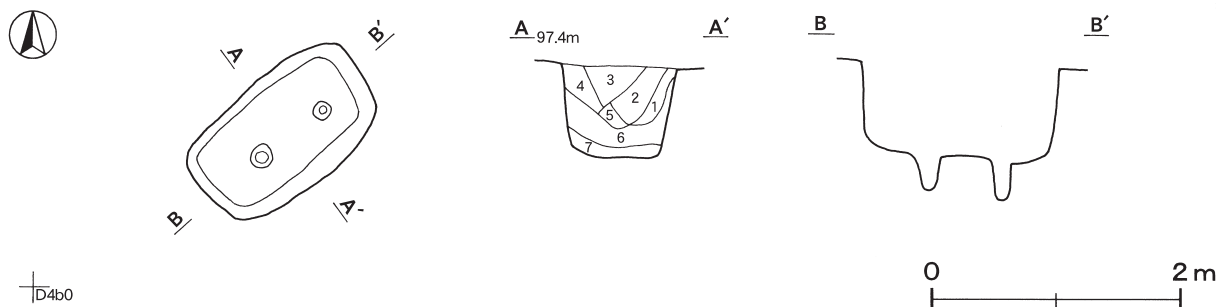
規模と形状 長軸1.58m、短軸0.94mの長方形で、長軸方向はN-55°-Eである。深さは74cmで、短軸方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状を呈している。長軸方向の壁はほぼ直立し、底面は平坦で、逆茂木の跡と想定されるピットが2か所確認された。

覆土 7層からなる。不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|--------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 黒色 | ローム粒子微量 | 7 極暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第26図 第16号陥し穴実測図

第17号陥し穴 (S K47) (第27図)

位置 調査区中央部のC 4 j4区で、標高100mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

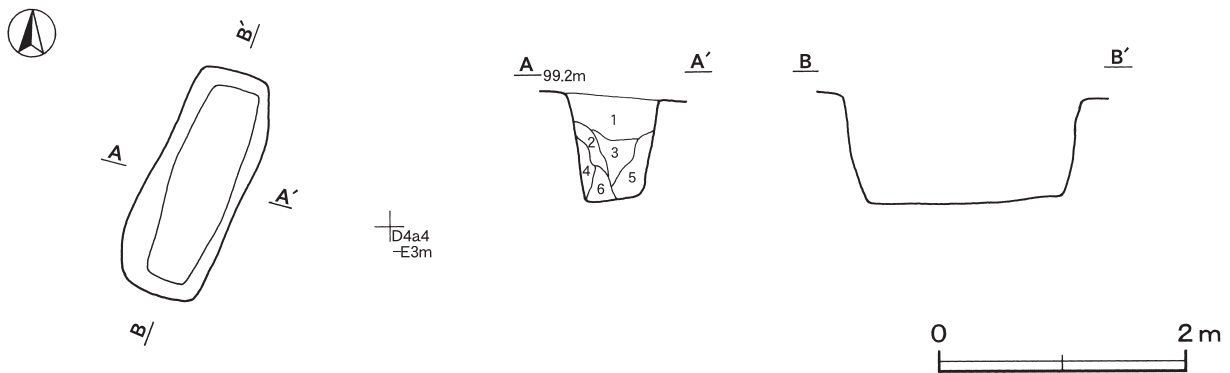
規模と形状 長軸1.90m、短軸0.70mの長方形で、長軸方向はN-20°-Eである。深さは85cmで、短軸方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状を呈している。長軸方向の壁も外傾して立ち上がり、底面は平坦である。

覆土 6層からなる。不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック多量 |
| 3 極暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 6 極暗褐色 ロームブロック少量 |

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第27図 第17号陥し穴実測図

第18号陥し穴 (S K49) (第28図)

位置 調査区東部のD 6 i6区で、標高92mほどの丘陵性台地の端部に位置している。

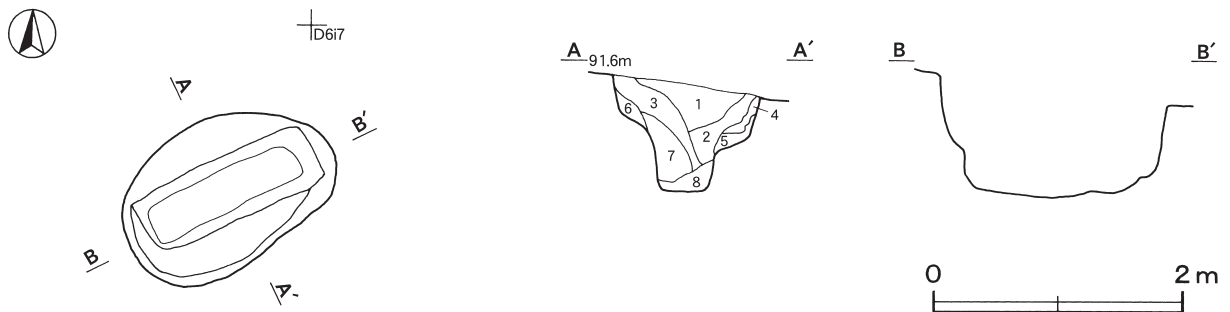
規模と形状 長径1.78m、短径1.18mの楕円形で、長径方向はN-65°-Eである。深さは88cmで、短径方向の壁の下位は直立し、上位は外傾して立ち上がり、断面形は漏斗状を呈している。長径方向の壁はほぼ直立しており、底面は平坦である。

覆土 8層からなる。不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、黄褐色粘土ブロック微量 | 5 褐色 ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼ブロック微量 | 8 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量 |

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第28図 第18号陥し穴実測図

第19号陥し穴 (SK50) (第29図)

位置 調査区東部のD5h0区で、標高94mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

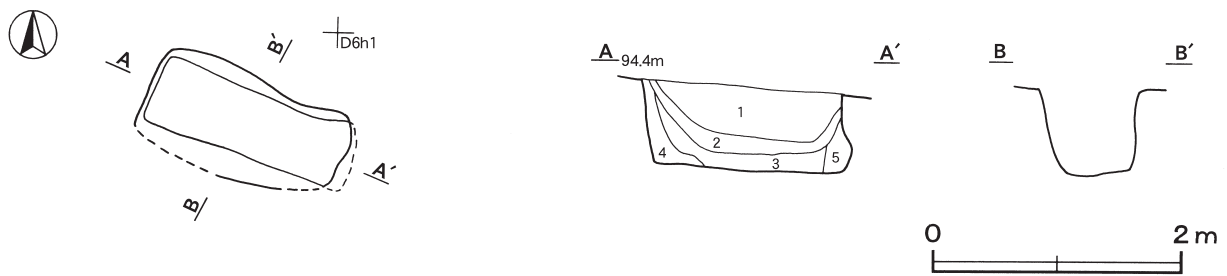
規模と形状 長軸1.62m、短軸0.85mの長方形で、長軸方向はN-70°-Wである。深さは67cmで、短軸方向の南壁は外傾し、北壁は直立し、断面形は逆台形状を呈している。長軸方向の西壁は外傾して立ち上がり、東壁はオーバーハングしている。底面は平坦である。

覆土 5層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量 | 5 極暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | |

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第29図 第19号陥し穴実測図

第20号陥し穴 (SK55) (第30図)

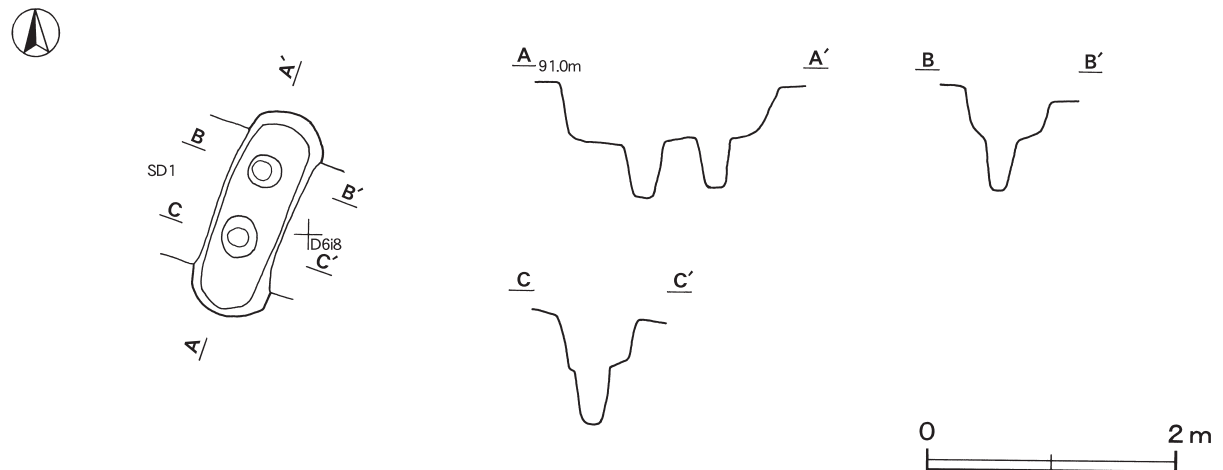
位置 調査区東部のD6i7区で、標高91mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.75m、短径0.65mの長楕円形で、長径方向はN-20°-Eである。深さは65cmで、短径方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状を呈している。長径方向の壁は外傾して立ち上がり、底面は平坦で、逆茂木の跡と想定されるピットが2か所確認された。

覆土 第1号溝跡の掘り込み中に確認したため、土層断面図は作成していない。ただし、覆土は、褐色土でロームブロックを含み、下層ほど大きなブロックを含んでいる。堆積状況は不明である。

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第30図 第20号陥し穴実測図

第21号陥し穴 (SK57) (第31図)

位置 調査区東部のD6j2区で、標高94mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

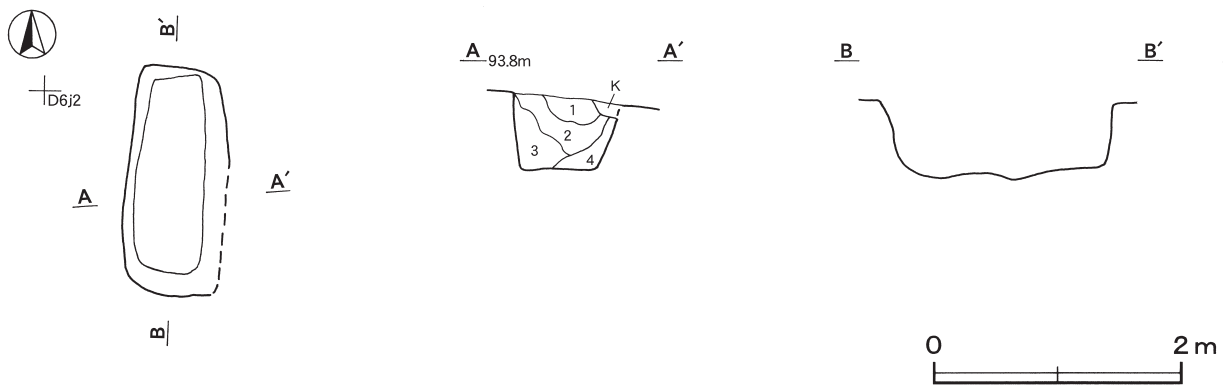
規模と形状 長軸1.80m、短軸0.83mの長方形で、長軸方向はN-1°-Eである。深さは58cmで、短軸方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状を呈している。長軸方向の壁も外傾して立ち上がり、底面は平坦である。

覆土 4層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、黒色土ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | | |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | | |

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第31図 第21号陥し穴実測図

第22号陥し穴 (SK75) (第32・33図)

位置 調査区西部のC3j6区で、標高102mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

規模と形状 攪乱のため確認された長軸は1.63m、短軸は0.70mの長方形で、長軸方向はN-7°-Wである。深さは70cmで、短軸方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状を呈している。底面は平坦である。

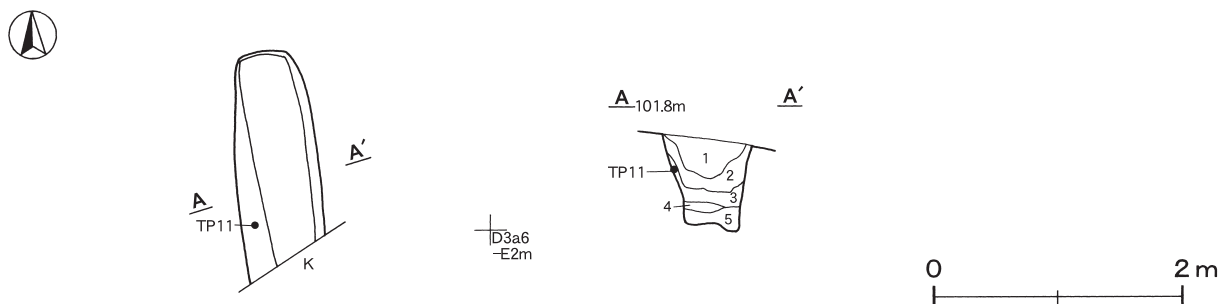
覆土 5層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 (中ブロックを含む) | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片6点(深鉢)が、覆土中から出土している。TP11は西壁際の覆土上層から出土している。

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第32図 第22号陥し穴実測図



第33図 第22号陥し穴出土遺物実測図

第22号陥し穴出土遺物観察表 (第33図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP11	縄文土器	深鉢	-	4.1	-	長石	にぶい黄褐	普通	外面沈線と刺突文で幾何学モチーフを描く 内面貝殻条痕文	西壁際上層	早期後葉 PL13
TP12	縄文土器	深鉢	-	4.8	-	長石	にぶい橙	普通	内・外面条痕文	覆土中	早期後葉 PL13

第23号陥し穴 (SK78) (第34図)

位置 調査区西部のD3d7区で、標高101mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.53m、短径0.96mの長楕円形で、長径方向はN-53°-Wである。深さは158cmで、短径方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状を呈している。長径方向の壁も外傾して立ち上がり、底面は平坦である。

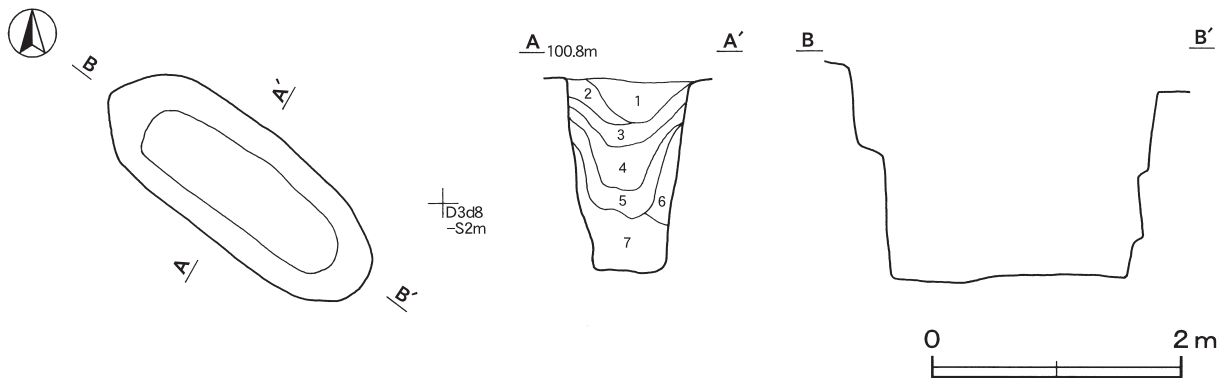
覆土 7層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼ブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼ブロック少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼ブロック少量 (ローム大ブロック含む) |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢)が、覆土中から出土している。

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第34図 第23号陥し穴実測図

第24号陥し穴 (SK79) (第35図)

位置 調査区西部のD3b9区で、標高101mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.66m、短径0.77mの長楕円形で、長径方向はN-10°-Wである。深さは88cmで、短径方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状を呈している。長径方向の壁も外傾して立ち上がり、底面は

平坦で、逆茂木の跡と想定されるピットが2か所確認された。

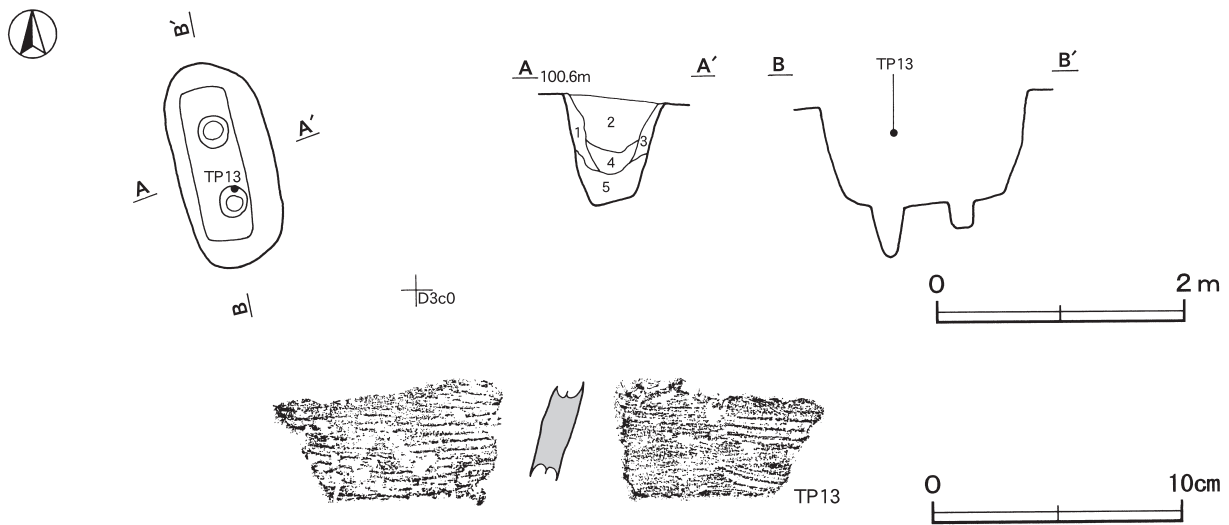
覆土 5層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒色 | ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢），石器1点（剥片）が覆土中から出土している。TP13は、中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第35図 第24号陥し穴・出土遺物実測図

第24号陥し穴出土遺物観察表（第35図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP13	縄文土器	深鉢	-	4.1	-	長石	明赤褐	普通	内・外面貝殻条痕文	中央部中層	早期後葉 PL13

第25号陥し穴（S K 80）（第36図）

位置 調査区西部のC 3 e9区で、標高101mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.87m，短軸0.52mの長方形で、長軸方向はN-16°-Wである。深さは115cmで、短軸方向の壁は直立し、断面形はU字状を呈している。長軸方向の壁は外傾して立ち上がり、底面は平坦である。

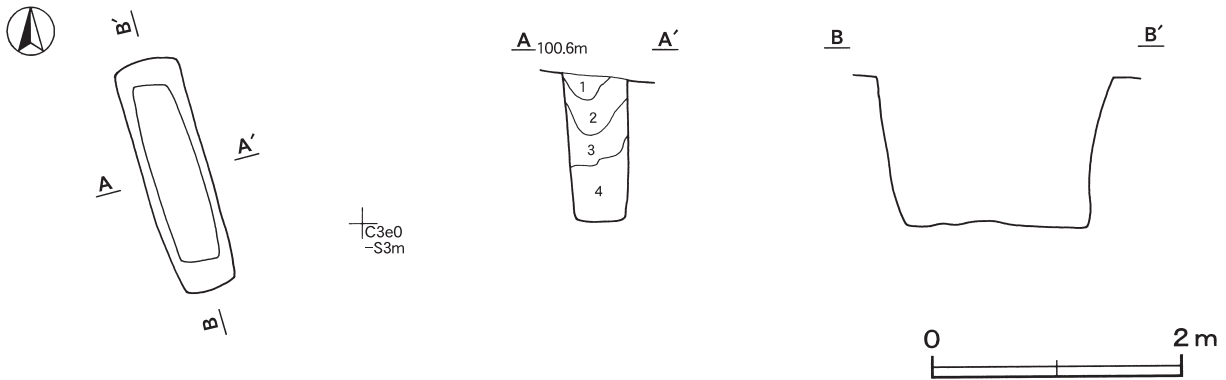
覆土 4層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子・鹿沼パミス微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量，鹿沼パミス微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量，鹿沼パミス微量 |

遺物出土状況 混入と考えられる土師器片1点（甕類）が、覆土中から出土している。

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第36図 第25号陥し穴実測図

第26号陥し穴（S K93）（第37図）

位置 調査区東部のC 6 f6区で、標高93mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

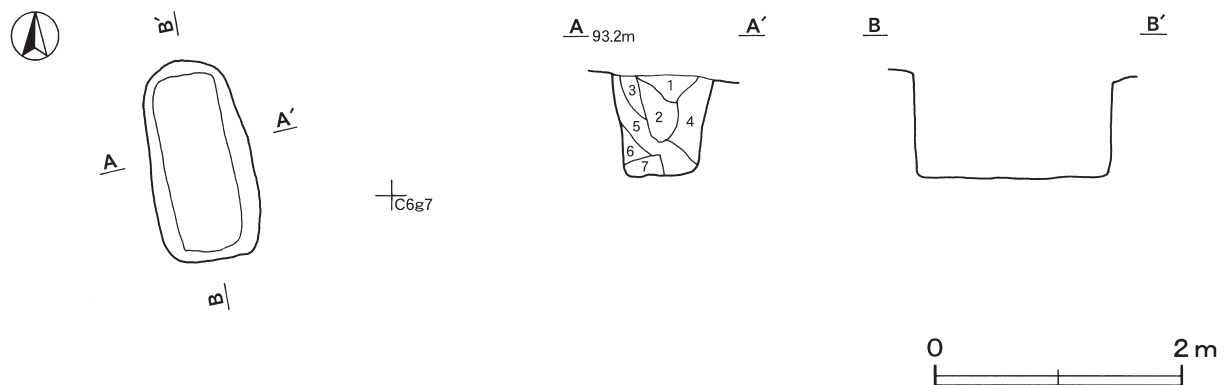
規模と形状 長軸1.62m、短軸0.82mの長方形で、長軸方向はN-8°-Wである。深さは84cmで、短軸方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状を呈している。長軸方向の壁は直立し、底面は平坦である。

覆土 7層からなる。不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|--------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量（大ブロック含む） |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック多量 | | |

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第37図 第26号陥し穴実測図

第27号陥し穴（S K114）（第38図）

位置 調査区西部のC 3 a0区で、標高99mほどの丘陵性台地の端部に位置している。

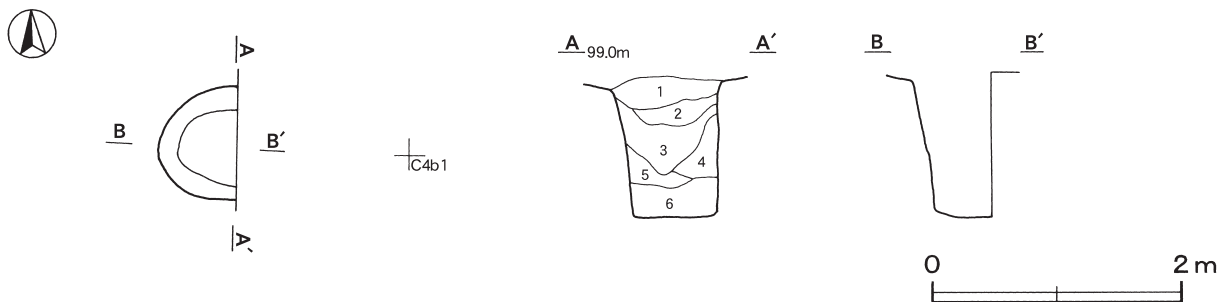
規模と形状 東側が調査区域外のため確認された長径は0.62m、短径は0.89mの楕円形または円形と推測される。長径方向はN-90°である。深さは112cmで、短径方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状を呈している。長径方向の西壁も外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 6層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 (1より彩度が高い) | 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 (ローム中ブロックを含む) | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。

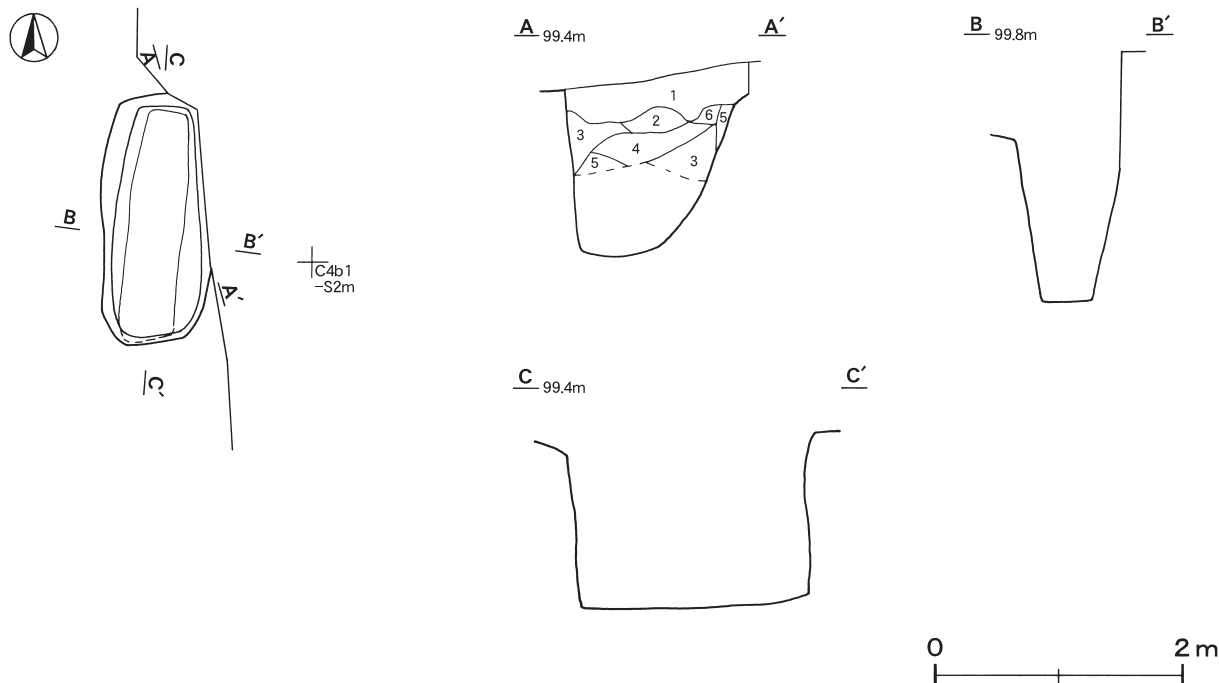


第38図 第27号陥し穴実測図

第28号陥し穴 (S K115) (第39図)

位置 調査区西部のC 3b0区で、標高99mほどの丘陵性台地の端部に位置している。

規模と形状 長軸1.98m、短軸0.89mの隅丸長方形で、長軸方向はN-4°-Eである。深さは130cmで、短軸方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状を呈している。長軸方向の壁は直立しており、底面は平坦である。



第39図 第28号陥し穴実測図

覆土 上層は6層からなり、不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。下層は崩落のため、不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。

第29号陥し穴（SK116）（第40図）

位置 調査区中央部のB3j6区で、標高100mほどの丘陵性台地の端部に位置している。

規模と形状 長径1.94m，短径0.92mの長楕円形で、長径方向はN-2°-Wである。深さは120cmで、短径方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状を呈している。長径方向の壁は直立しており、底面は平坦である。

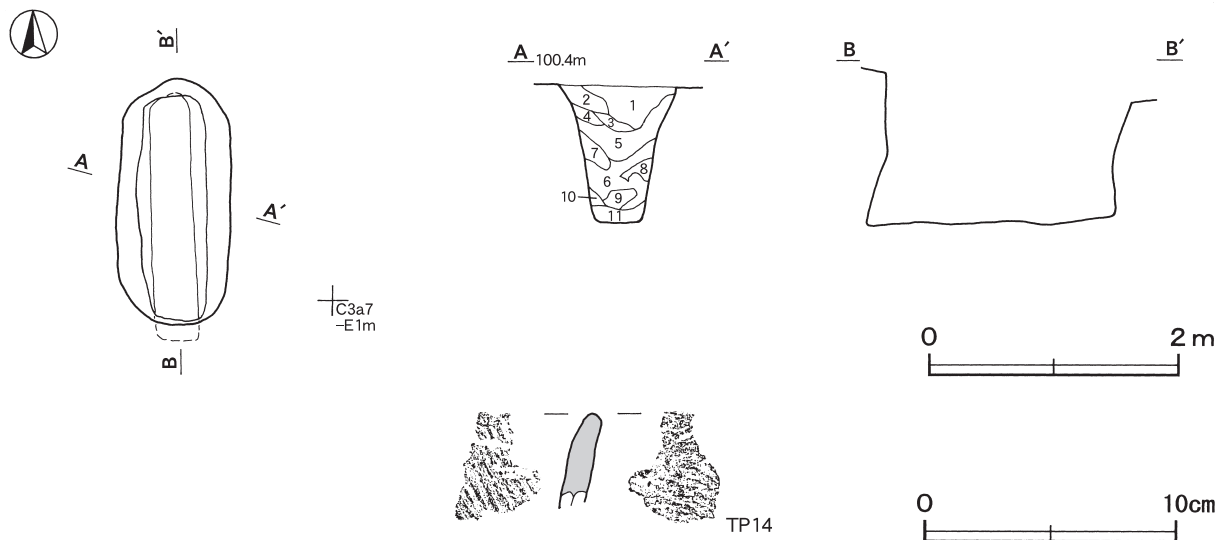
覆土 11層からなる。不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック多量，焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量（粘性・締まり弱い） | 9 褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 10 黄褐色 | 鹿沼パミス中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス少量，炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片3点（深鉢）が、覆土中から出土している。

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第40図 第29号陥し穴・出土遺物実測図

第29号陥し穴出土遺物観察表（第40図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP14	縄文土器	深鉢	-	3.7	-	長石・雲母	橙	普通	内・外面貝殻条痕文	覆土中	早期後葉

第30号陥し穴 (S K122) (第41図)

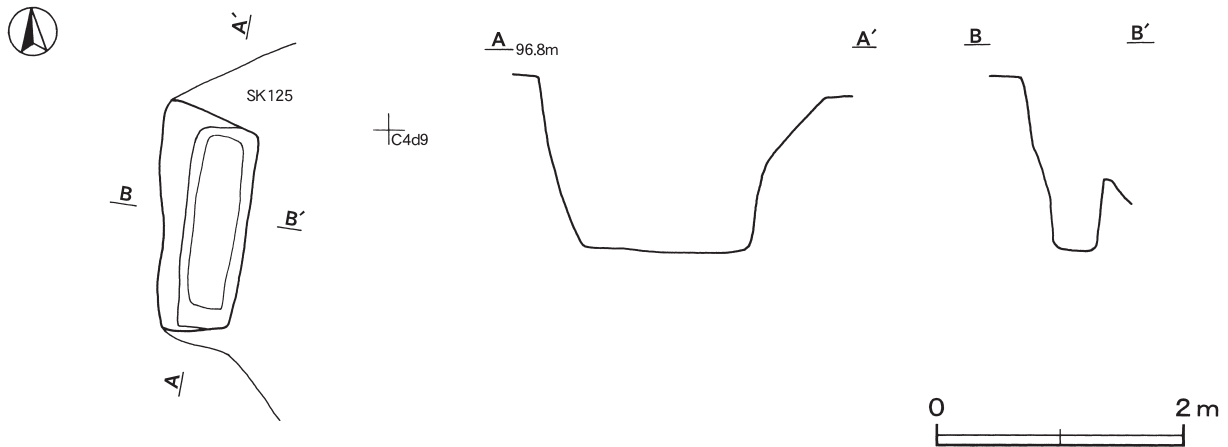
位置 調査区中央部のC 4 d8区で、標高96mほどの丘陵性台地の端部に位置している。

重複関係 第125号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.71m、短軸0.68mの長方形で、長軸方向はN-5°-Eである。深さは140cmで、短軸方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状を呈している。長軸方向の壁も外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 第125号土坑を掘り進める中で確認したため、覆土の堆積状況は不明である。

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。

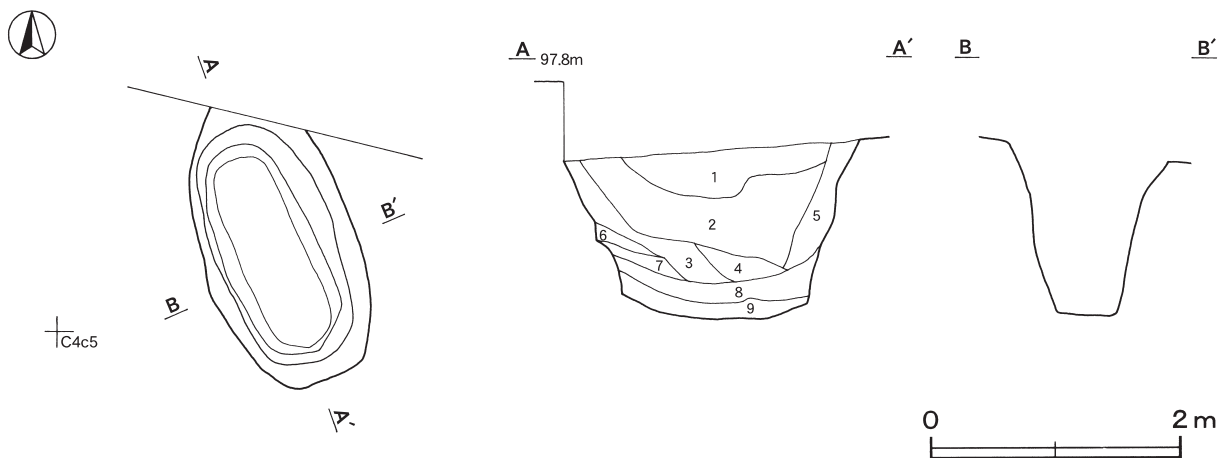


第41図 第30号陥し穴実測図

第31号陥し穴 (S K133) (第42図)

位置 調査区中央部のC 4 b5区で、標高97mほどの丘陵性台地の端部に位置している。

規模と形状 北側が調査区域外のため確認された長径は2.37m、短径は1.24mの楕円形で、長径方向はN-24°-Wである。深さは137cmで、短径方向の壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状を呈している。長径方向の壁も外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。



第42図 第31号陥し穴実測図

覆土 9層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒色	ロームブロック中量, 炭化物少量	6 黒色	ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量
2 黒色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック微量
3 灰褐色	ロームブロック多量	8 褐色	ロームブロック多量, 鹿沼パミス少量
4 極暗褐色	ロームブロック中量	9 黒褐色	ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量
5 黒褐色	ロームブロック中量, 鹿沼パミス少量, 炭化粒子微量		

所見 時期は、規模や形状及び遺構の状況から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。

(3) 屋外炉跡

今回の調査で、壁や床、柱穴が確認できず、炉のみを検出した遺構2基を屋外炉跡とした。

第1号屋外炉跡 (S I 5) (第43図)

位置 調査区西部のD 2 b0区で、標高102mほどの丘陵性台地の端部に位置している。

確認状況 確認面において、不整楕円形の焼土の広がり確認された。住居の炉を想定して周辺を精査したが、床や柱穴は検出されなかった。

規模と形状 長径86cm, 短径60cmほどの不整楕円形を呈する地床炉である。炉床は確認面と同じ高さで、掘り込みは確認されなかった。炉床は火熱でわずかに赤変硬化している。長径方向は、N-57°-Eである。

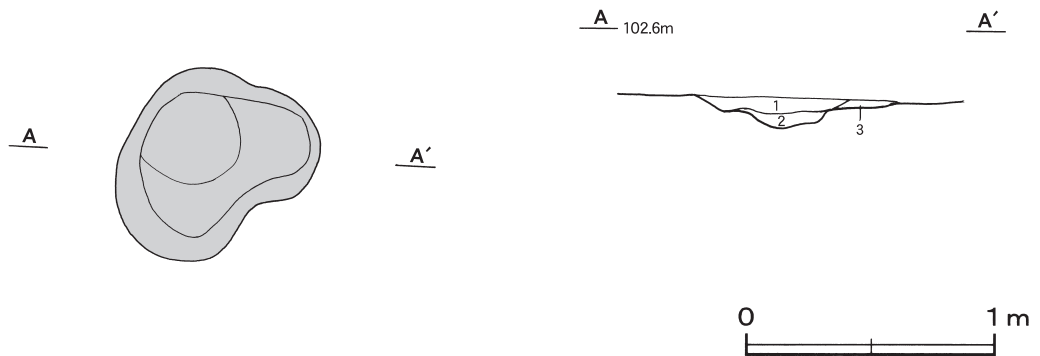
覆土 確認されなかったため、断ち割り土層について記載する。

土層解説

1 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量	3 褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 炉床面から、縄文土器片3点が出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 周囲に柱穴が確認されず、屋外炉の可能性が高い。時期は、出土土器や周囲の第3・4・7号住居跡及び包含層の土器片から、早期後葉から前期前葉と考えられる。



第43図 第1号屋外炉跡実測図

第2号屋外炉跡 (S I 6) (第44図)

位置 調査区中央部のC 4 d0区で、標高97mほどの丘陵性台地の端部に位置している。

確認状況 確認面において不定形の焼土の広がりが確認され、周囲に踏み固められた痕跡が認められた。住居の炉を想定して周辺を精査したが、柱穴は検出されなかった。

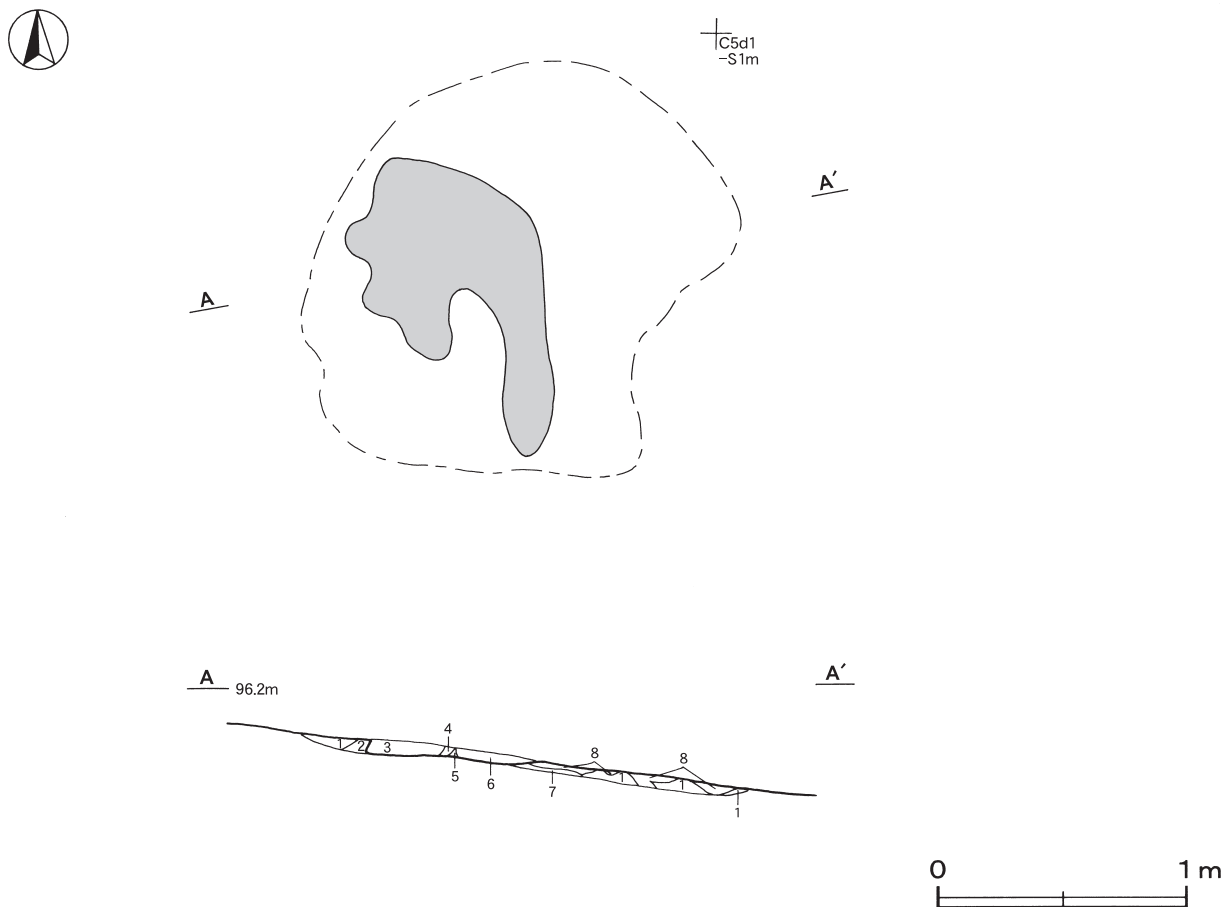
規模と形状 長径132cm，短径72cmの不定形を呈する地床炉である。確認面からの深さは4cmである。炉床は火熱でわずかに赤変している。炉の周囲は踏み固められている。長径方向はN-20°-Wである。

覆土 4層からなる。

炉土層解説 (第1・2・7・8層は硬化面の断ち割り土層である。)

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|---------------|
| 1 明褐色 | ローム粒子多量 | 5 明褐色 | ローム粒子多量(粘性弱い) |
| 2 明褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 灰褐色 | 焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量(縮まり弱い) | 7 褐色 | 焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | 焼土粒子中量，炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |

所見 炉とその周囲に踏み固められた部分が確認されたが，周囲に柱穴が確認されず，屋外炉の可能性が高い。時期は，土器が出土していないため明確な判断はできないが，周囲の第3・4・7号住居跡及び包含層の土器片から，早期後葉から前期前葉と考えられる。



第44図 第2号屋外炉跡実測図

(4) 遺物包含層

調査区西部の標高101~103mの丘陵性台地の最頂部付近に位置し，縄文土器片や剥片が集中しているC 2g0区，C 3b2区，C 2c8区，D 2a0区を中心に，4か所に分けて調査を行った。面積は，合計288㎡である。

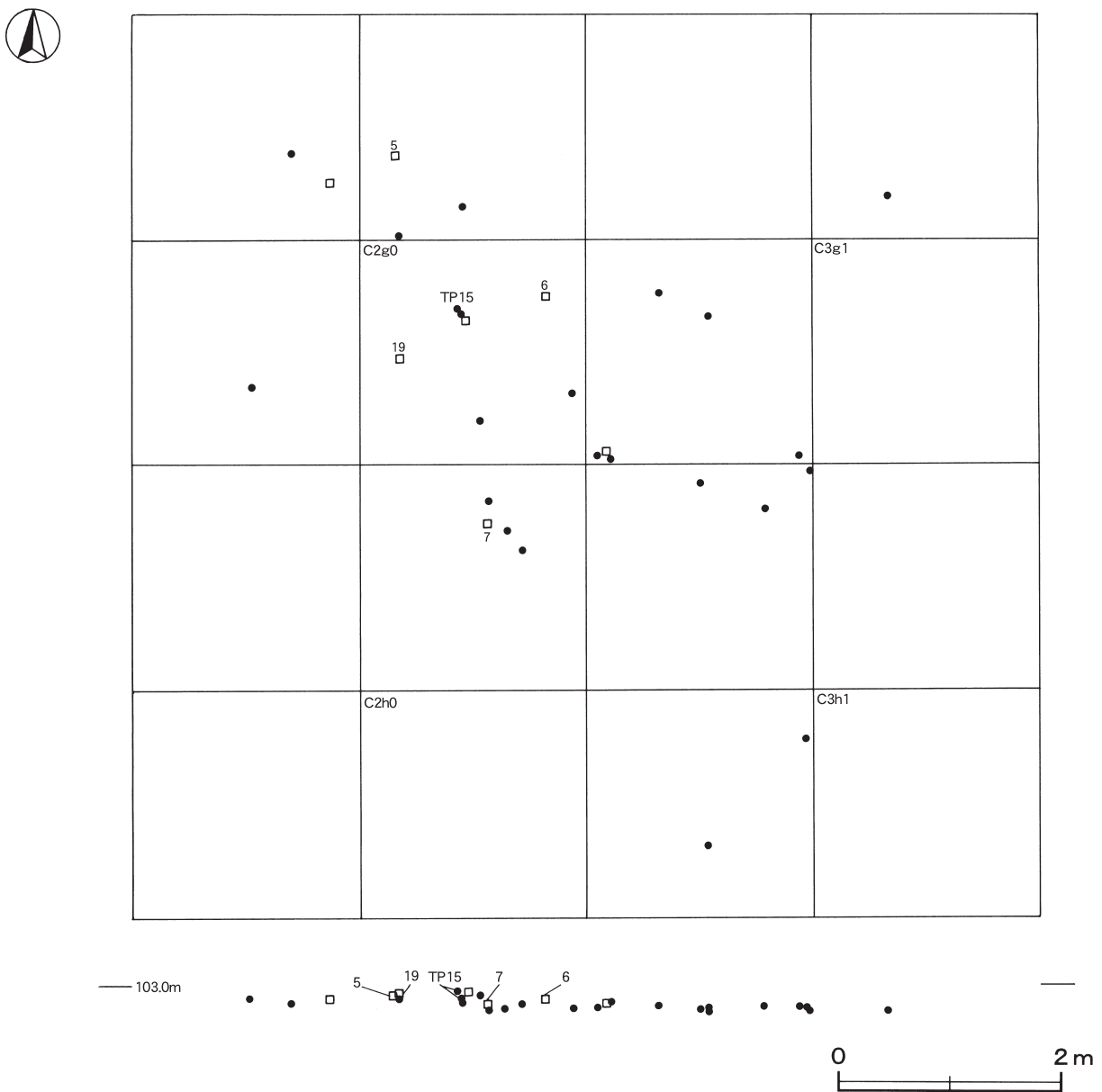
調査の結果，多くの縄文土器片や剥片が出土し，その層位は基本層序の第2~4層に相当すると考えられ，縄文時代の包含層と判断した。調査順に第1~4遺物包含層と呼称し，以下，遺構と遺物について記述する。

第1遺物包含層（第45・46図）

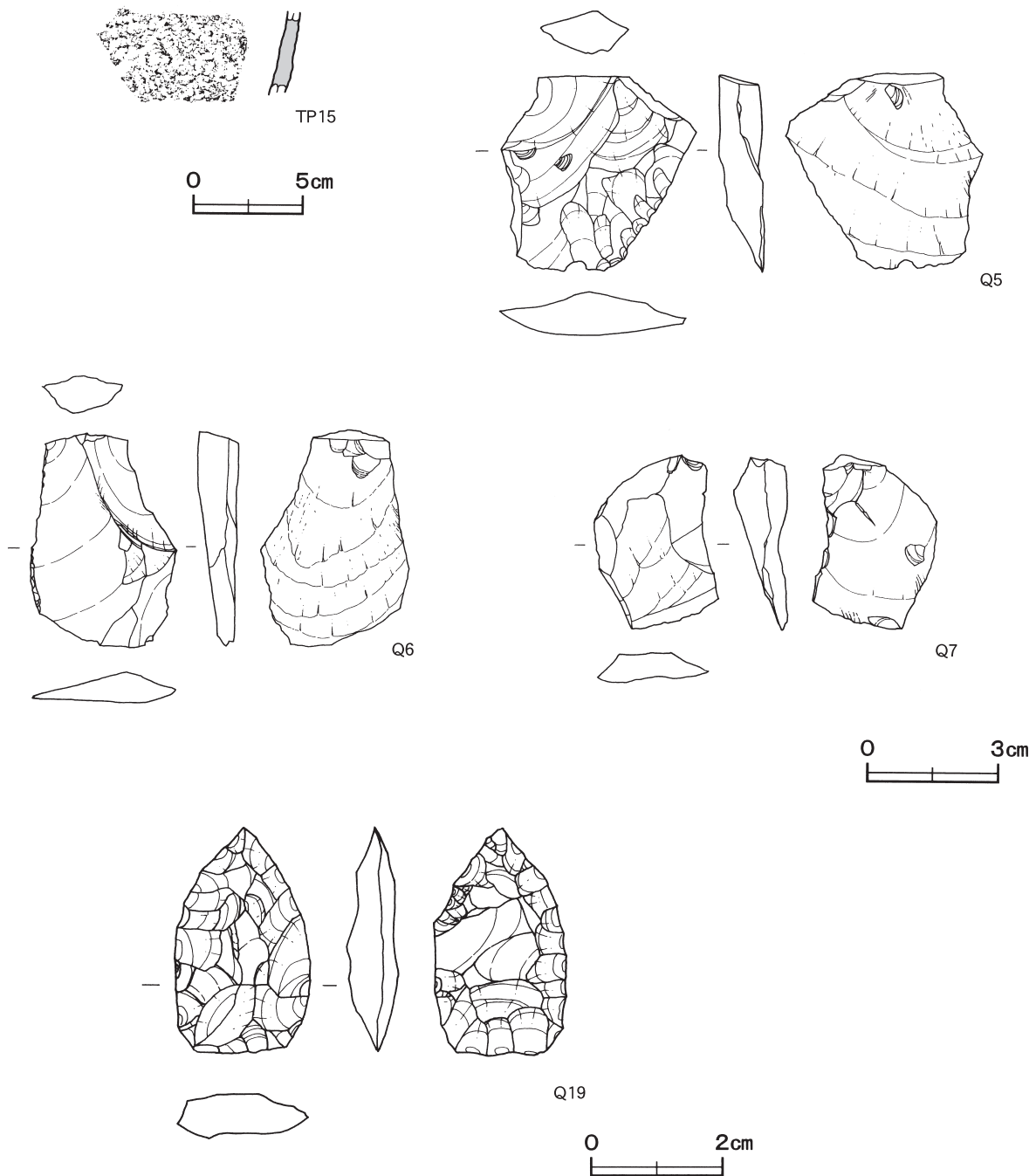
位置 調査区西縁辺部のC 2 f9～C 3 h1区で、標高102～103mの丘陵性台地に位置している。調査区の最頂部にあたる。

遺物出土状況 縄文土器片21点（深鉢類）、石器7点（石鏃1，剥片6）が出土している。出土位置は標高102.737～102.996mで、垂直分布幅は25.9cmである。TP15，Q 6・Q 7・Q 19はC 2 g0区，Q 5はC 2 f0区から出土している。

所見 時期は，出土土器が条痕文系土器と胎土に繊維を含んでいるものが多いことから，早期後葉から前期前葉と考えられる。また，石器の石質は6点がチャートで，1点は頁岩である。



第45図 第1遺物包含層実測図



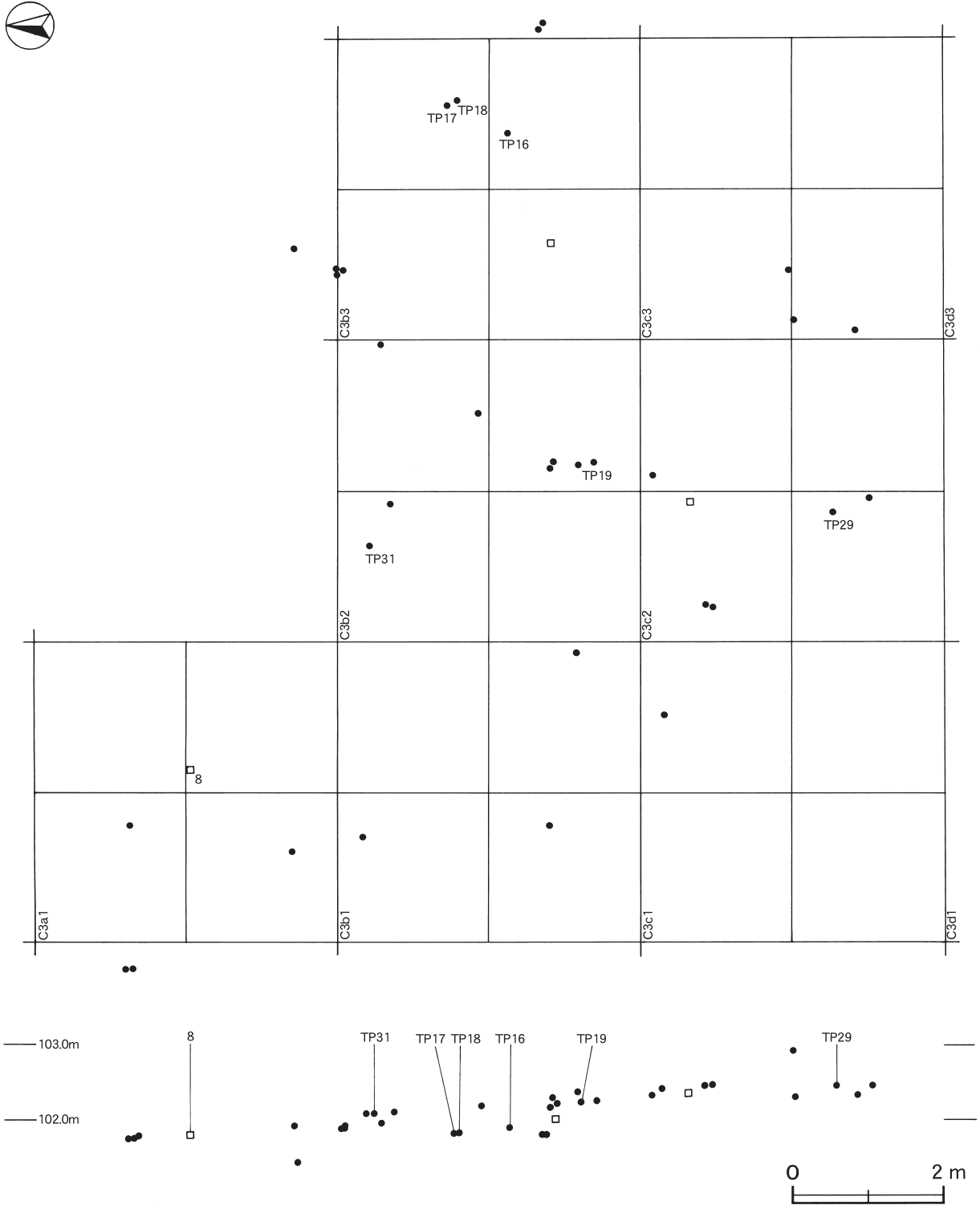
第46図 第1遺物包含層出土遺物実測図

第1遺物包含層出土遺物観察表（第46図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP15	縄文土器	深鉢	-	3.8	-	長石・石英	橙	普通	RL・LRの単節縄文を羽状に施文	C2g0区	前期前葉 PL14
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴		出土位置	備考	
Q5	剥片	4.5	4.5	1.0	17.30	チャート	縦長剥片 右辺部に二次加工痕		C2f0区	PL16	
Q6	剥片	4.8	3.3	0.9	12.60	チャート	縦長剥片		C2g0区	PL16	
Q7	剥片	4.0	2.8	1.2	9.70	チャート	縦長剥片		C2g0区	PL16	
Q19	石鏃	3.5	2.0	0.8	5.50	チャート	平基無茎鏃		C2g0区	PL15	

第2遺物包含層（第47・48図）

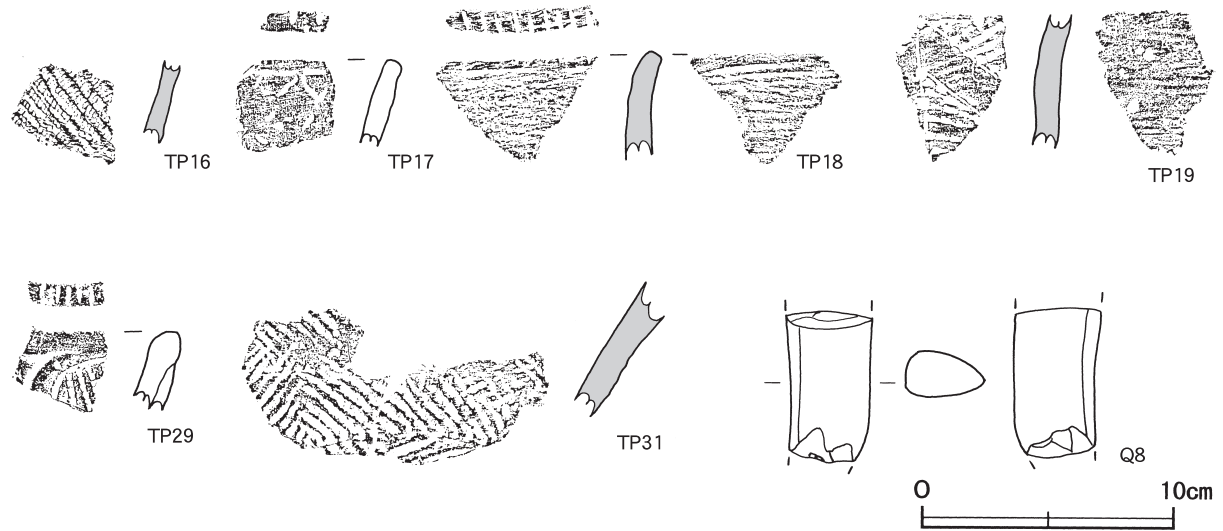
位置 調査区西縁辺部のC 2 a0～C 3 c3区で、標高101～103mの丘陵性台地の、北側に緩やかに傾斜する斜面上に位置している。



第47図 第2遺物包含層実測図

遺物出土状況 縄文土器片31点（深鉢類），石器3点（石刀カ1，剥片2）が出土している。出土位置は標高101.383～102.874mで，垂直分布幅は149.1cmである。TP16～TP18はC3b3区，TP19・TP31はC3b2区，TP29はC3c2区，Q8はC3a1区から出土している。

所見 時期は，出土土器が条痕文系土器と胎土に繊維を含んでいるものが多く，早期後葉から前期前葉と考えられる。また，剥片の石質はチャートである。



第48図 第2遺物包含層出土遺物実測図

第2遺物包含層出土遺物観察表（第48図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP16	縄文土器	深鉢	-	3.4	-	長石	灰褐	普通	RLの単節縄文	C3b3区	前期前葉 PL14
TP17	縄文土器	深鉢	-	3.4	-	長石	橙	普通	口唇部内側に刻み 口縁部横位の刺突文列 口辺部斜位の刺突文	C3b3区	早期中葉 PL12
TP18	縄文土器	深鉢	-	4.3	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部に刻み 内・外面貝殻条痕文	C3b3区	早期後葉 PL12
TP19	縄文土器	深鉢	-	5.3	-	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面沈線と刺突文で幾何学モチーフを描く 交点に円形竹管文 内面貝殻条痕文	C3b2区	早期後葉 PL13
TP29	縄文土器	深鉢	-	3.2	-	長石・雲母	黒褐	普通	口唇部に刻み 隆帯区画内結節沈線文	C3c2区	中期前葉 PL12
TP31	縄文土器	深鉢	-	5.5	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	RL・LRの単節縄文を羽状に施文	C3b2区	前期前葉 PL14

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q8	石刀カ	(6.0)	3.4	1.8	(60.9)	粘板岩	刃部カ 一側縁に刃 外反り	C3a1区	PL16

第3遺物包含層（第49・50図）

位置 調査区西縁辺部のC2c8～C2d9区で，標高102～103mの丘陵性台地の，北西側に緩やかに傾斜する斜面上に位置している。

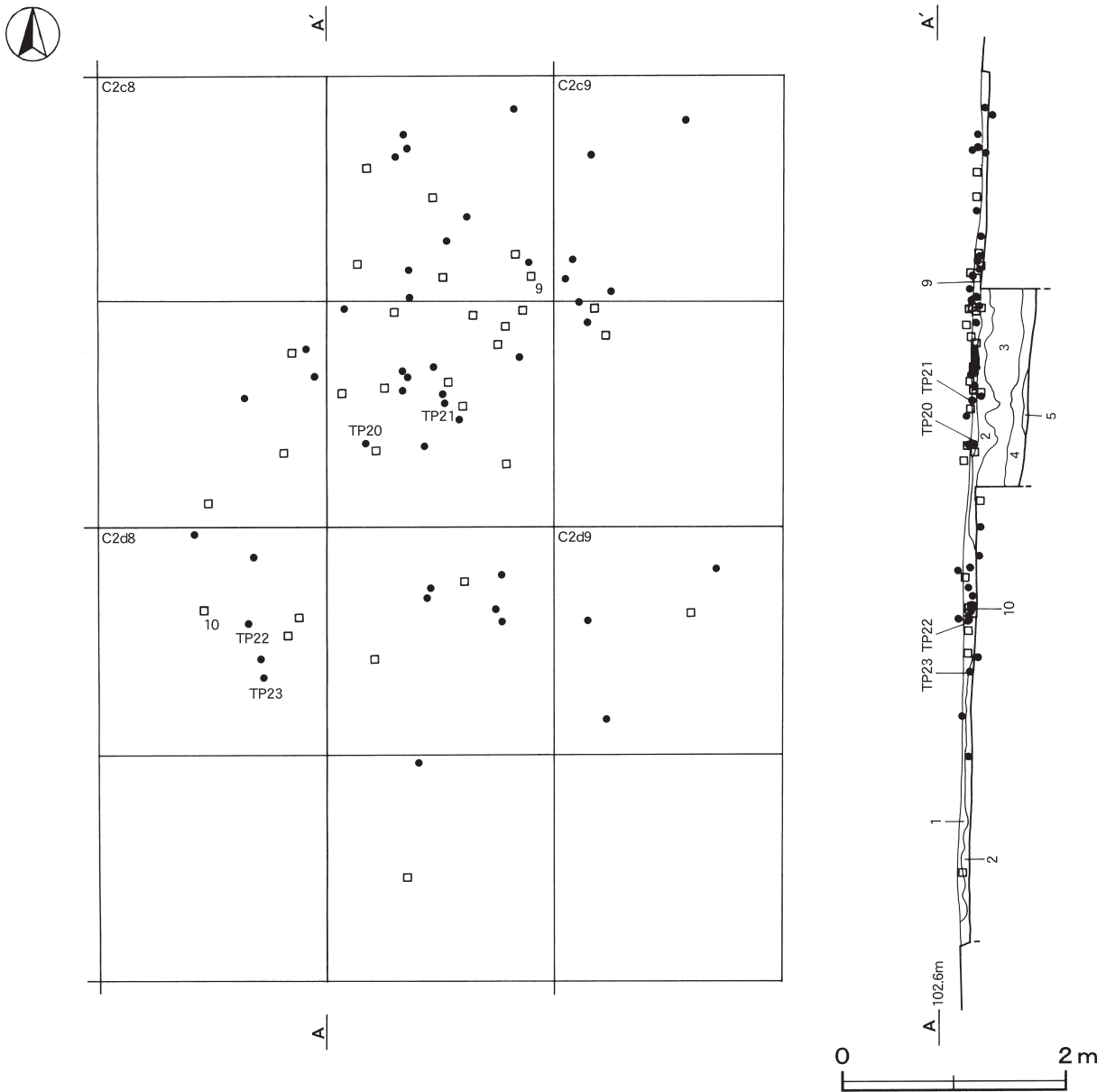
遺物出土状況 縄文土器片44点（深鉢類），石器31点（石鏃2，剥片29）が出土している。出土位置は標高102.101～102.415mで，垂直分布幅は31.4cmである。TP20・TP21，Q9はC2c8区，TP22・TP23，Q10はC2d8区から出土している。

土層 遺物が出土しなくなるまで掘り下げ、土層を観察した。おおむね、第1・2層は基本層序の第2・3層、第3・4層は基本層序の第4層、第5層は基本層序の第5層に相当すると考えられる。遺物は、第1・2層から出土している。

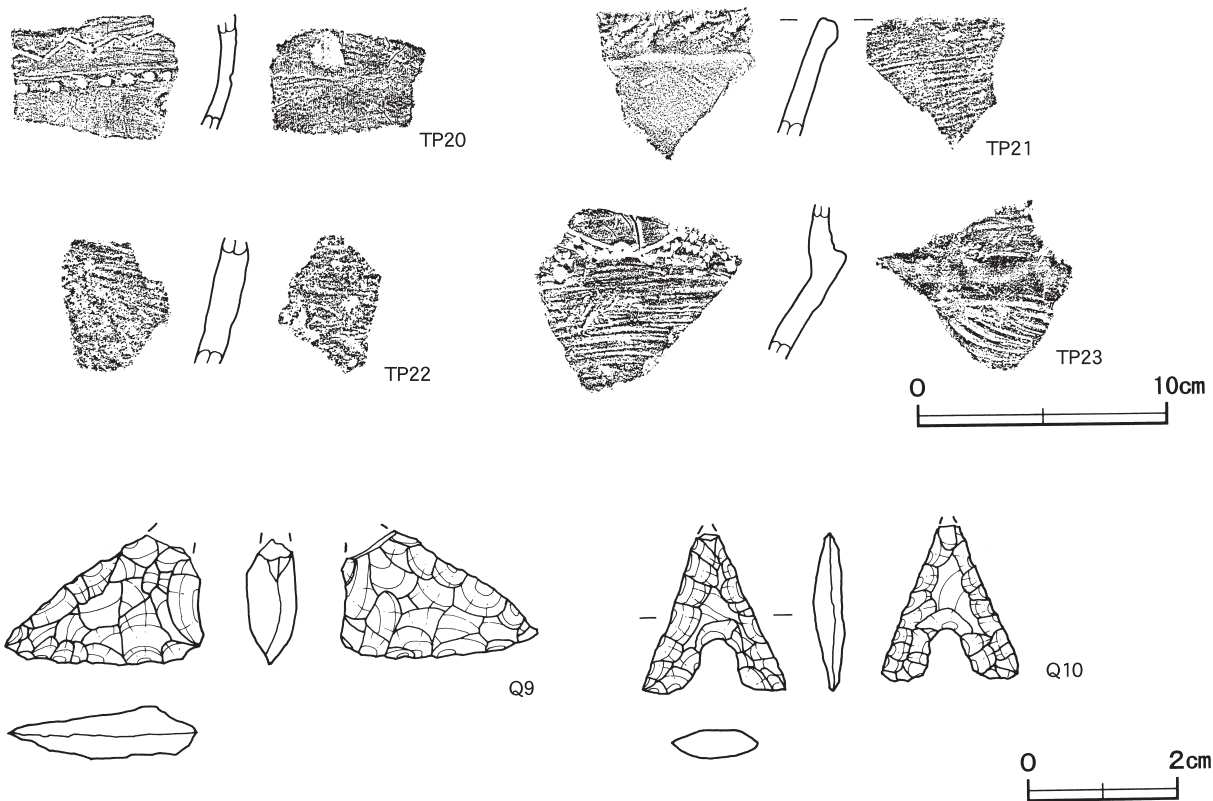
土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------|-------|---------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子極微量 | 4 明褐色 | ローム粒子多量（粘性・縮まり強い） |
| 2 褐色 | ロームブロック多量 | 5 明褐色 | ローム粒子多量、鹿沼パミス少量（粘性・縮まり強い） |
| 3 にぶい褐色 | ローム粒子多量（縮まり強い） | | |

所見 時期は、出土した土器が条痕文系土器と胎土に繊維を含んでいるものが多く、早期後葉から前期前葉と考えられる。また、石器の石質はほとんどがチャートで、石鏃と剥片の各1点は瑪瑙である。なお、剥片が多数出土していることから石器製作跡の可能性も想定したが、石核や台石、敲石等が出土していないため、包含層と考えられる。



第49図 第3遺物包含層実測図



第50図 第3遺物包含層出土遺物実測図

第3遺物包含層出土遺物観察表 (第50図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP20	縄文土器	深鉢	-	4.2	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	鋸歯状の沈線文とそれに平行する刺突文	C2c8区	早期中葉 PL13
TP21	縄文土器	深鉢	-	4.8	-	長石	橙	普通	口唇部絡条体圧痕 内面貝殻条痕文	C2c8区	早期後葉 PL12
TP22	縄文土器	深鉢	-	5.1	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内・外面貝殻条痕文	C2d8区	早期後葉 PL14
TP23	縄文土器	深鉢	-	6.3	-	長石	にぶい橙	普通	外面沈線と刺突文で幾何学モチーフを描く 交点に円形竹管文 内面貝殻条痕文	C2d8区	早期後葉 PL13

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q9	石匙カ	(2.6)	(1.7)	0.7	(2.64)	チャート	横型 つまみ部欠損	C2c8区	PL15
Q10	石鏃	(2.1)	1.8	0.4	(1.08)	瑪瑙	長脚鏃	C2d8区	PL15

第4遺物包含層 (第51図)

位置 調査区西縁辺部のD 2 a9～D 2 b0区で、標高102～103mの丘陵性台地の、南側に緩やかに傾斜する斜面上に位置している。

遺物出土状況 縄文土器片21点 (深鉢類)、石器10点 (剥片) が出土している。出土位置は標高102.095～102.555 mで、垂直分布幅は46.0cmである。

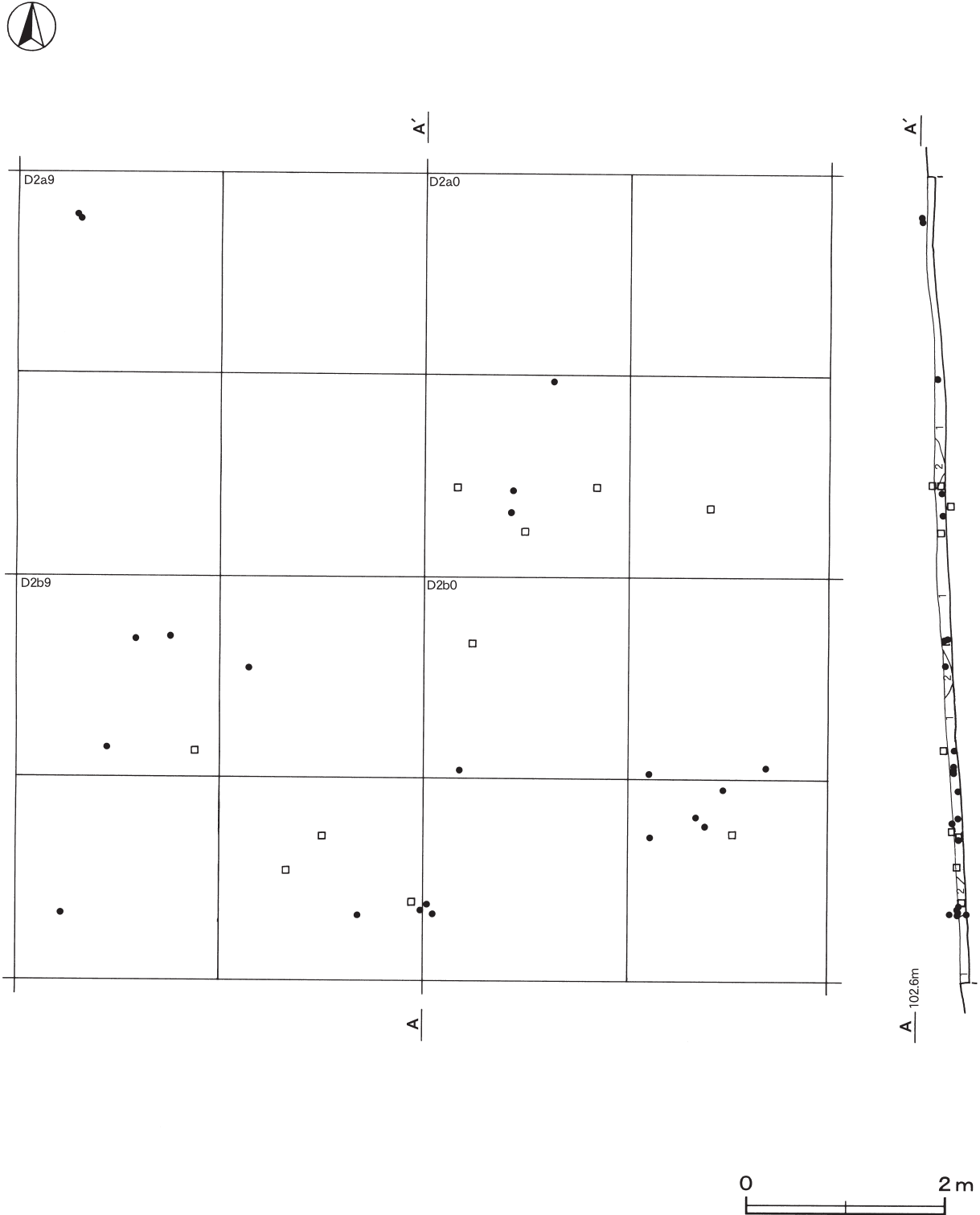
土層 遺物が出土しなくなるまで掘り下げ、土層を観察した。おおむね、第1・2層は基本層序の第4層に相当すると考えられる。遺物は、第1・2層から出土している。

土層解説

1 褐色 ローム粒子多量 (粘性強い)

2 暗褐色 ローム粒子多量

所見 時期は、出土土器が条痕文系土器と胎土に繊維を含んでいるものが多く、早期後葉から前期前葉と考えられる。また、剥片の石質は、すべてチャートである。なお、剥片が多数出土していることから石器製作跡の可能性も想定したが、石核や台石、敲石等が出土していないため、包含層と考えられる。



第51図 第4遺物包含層実測図

表2 縄文時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時代	備考
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
3	C2a8	N-40°-W	[円形]	[5.1]×4.8	5	平坦	-	-	-	-	炉	-	不明	縄文土器片, 石器(台石・剥片)	早期後葉~ 前期前葉	
4	C2f8	N-43°-W	円形又は 楕円形	[3.7]×3.37	5~18	平坦	-	-	-	3	炉	-	自然	縄文土器片, 石器(敲石・尖頭器)	前期前葉	本跡→SK 105
7	C3c3	N-0°	円形	2.90×2.90	12~20	平坦	-	4	-	-	炉	-	人為	縄文土器片	早期後葉	

表3 縄文時代陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	横断面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)× 短径(軸)(m)	深さ (cm)						
1	C7g1	N-75°-W	楕円形	1.74×1.08	138	外傾	U字状	平坦	自然	縄文土器片, 石鏃	旧SK1
2	D7b1	N-2°-W	隅丸長方形	2.14×1.20	87	外傾	U字状	平坦	自然	土師器片	旧SK8 逆茂木跡あり
3	D4g5	N-75°-E	楕円形	1.96×1.23	118	外傾	U字状	平坦	人為	—	旧SK11
4	D6e5	N-84°-W	隅丸長方形	2.08×1.02	125	外傾	U字状	平坦	自然	—	旧SK13
5	D5e6	N-90°	隅丸長方形	1.94×0.86	92	外傾	U字状	平坦	人為	—	旧SK15
6	D5e5	N-49°-E	隅丸長方形	1.47×0.80	77	外傾	逆台形状	平坦	人為	—	旧SK16
7	C5j4	N-40°-W	楕円形	2.00×1.20	85	外傾	U字状	平坦	人為	—	旧SK19
8	D5a4	N-82°-E	長方形	1.86×0.70	105	直立	U字状	平坦	人為	縄文土器片	旧SK20
9	D5a5	N-81°-E	楕円形	2.03×1.33	130	外傾	U字状	平坦	自然	—	旧SK21
10	D6f5	N-72°-W	長方形	1.85×0.82	80	外傾	逆台形状	平坦	自然	—	旧SK23
11	C6e2	N-28°-W	長方形	2.43×1.00	97	直立	逆台形状	平坦	人為	—	旧SK29 本跡→SK48
12	C5j8	N-45°-W	隅丸長方形	1.84×1.12	108	外傾	逆台形状	平坦	自然	—	旧SK33
13	D4a2	N-76°-E	長方形	1.46×0.66	59	直立	逆台形状	平坦	人為	縄文土器片	旧SK43
14	C4g5	N-2°-W	長方形	1.81×0.87	88	外傾	逆台形状	平坦	自然	—	旧SK44 逆茂木跡あり
15	C5i1	N-37°-E	楕円形	1.35×0.71	80	直立	逆台形状	平坦	人為	—	旧SK45 逆茂木跡あり
16	D4a0	N-55°-E	長方形	1.58×0.94	74	外傾	逆台形状	平坦	人為	—	旧SK46 逆茂木跡あり
17	C4j4	N-20°-E	長方形	1.90×0.70	85	外傾	逆台形状	平坦	人為	—	旧SK47
18	D6i6	N-65°-E	楕円形	1.78×1.18	88	直立	漏斗状	平坦	人為	—	旧SK49
19	D5h0	N-70°-W	長方形	1.62×0.85	67	直立	逆台形状	平坦	自然	—	旧SK50
20	D6i7	N-20°-E	長楕円形	1.75×0.65	65	外傾	逆台形状	平坦	不明	—	旧SK55 本跡→ SD1 逆茂木跡あり
21	D6j2	N-1°-E	長方形	1.80×0.83	58	外傾	逆台形状	平坦	自然	—	旧SK57
22	C3j6	N-7°-W	[長方形]	(1.63)×0.70	70	外傾	逆台形状	平坦	自然	縄文土器片	旧SK75
23	D3d7	N-53°-W	長楕円形	2.53×0.96	158	外傾	U字状	平坦	自然	縄文土器片	旧SK78
24	D3b9	N-10°-W	長楕円形	1.66×0.77	88	外傾	逆台形状	平坦	自然	縄文土器片, 剥片	旧SK79 逆茂木跡あり
25	C3e9	N-16°-W	長方形	1.87×0.52	115	直立	U字状	平坦	自然	土師器片	旧SK80
26	C6f6	N-8°-W	長方形	1.62×0.82	84	直立	逆台形状	平坦	人為	—	旧SK93
27	C3a0	N-90°	円形又は楕円形	(0.62)×0.89	112	直立	逆台形状	平坦	自然	—	旧SK114
28	C3b0	N-4°-E	隅丸長方形	1.98×0.89	130	直立	逆台形状	平坦	人為	—	旧SK115
29	B3j6	N-2°-W	長楕円形	1.94×0.92	120	直立	U字状	平坦	人為	縄文土器片	旧SK116
30	C4d8	N-5°-E	長方形	1.71×0.68	140	外傾	U字状	平坦	不明	—	旧SK122 本跡→SK125
31	C4b5	N-24°-W	楕円形	(2.37)×1.24	137	外傾	逆台形状	平坦	自然	—	旧SK133

表4 縄文時代屋外炉跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		覆土	主な出土遺物	時代	備考
				長径×短径 (cm)	深さ (cm)				
1	D2b0	N-57°-E	不整楕円形	86×60	7	-	縄文土器片	早期後葉~前期前葉カ	
2	C4d0	N-20°-W	不定形	132×72	4	-	-	早期後葉~前期前葉カ	

2 平安時代の遺構と遺物

平安時代の竪穴住居跡2軒を確認した。以下、遺構と遺物の特徴について記述する。

竪穴住居跡

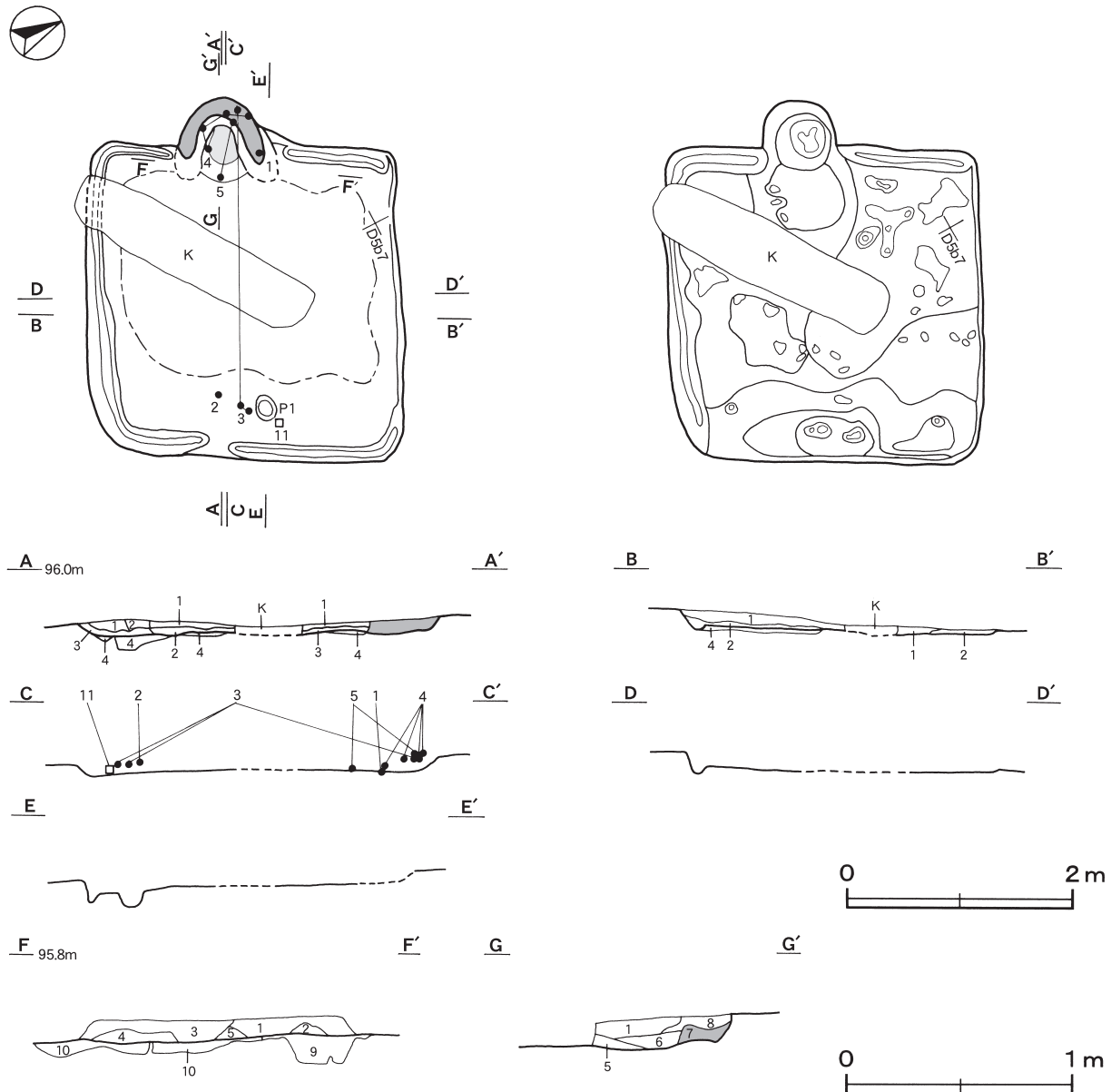
第1号住居跡 (第52・53図)

位置 調査区中央部D5b6区で、標高96mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

規模と形状 一辺2.75mの方形で、主軸方向はN-33°-Wである。壁高は4~10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。全面が貼り床で、南東壁際を除いて踏み固められている。貼床は、ロームブロックを含む暗褐色土及び褐色土(覆土土層断面図, 第4層)を埋土として構築されている。掘り方は、中央部と南東コーナー部が深く掘り込まれている。壁溝が、北東壁際と南東壁際の中央部を除いて確認されている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙出部まで60cm, 袖部幅88cmである。袖部の遺



第52図 第1号住居跡実測図

存状態は極めて悪い。構築状況は、床面と同じ高さを基部とし、白色粘土で構築されていたと考えられる。火床部は床面を12cm掘り下げ、褐色土を埋め戻して使用し、火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に半円形状に44cm掘り込まれ、緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説 (第10層は住居の掘り方の第4層と共通である。)

- | | | | |
|--------|------------------------------|----------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, ローム粒子・粘土粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量 | 7 にぶい赤褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 8 暗褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量 |

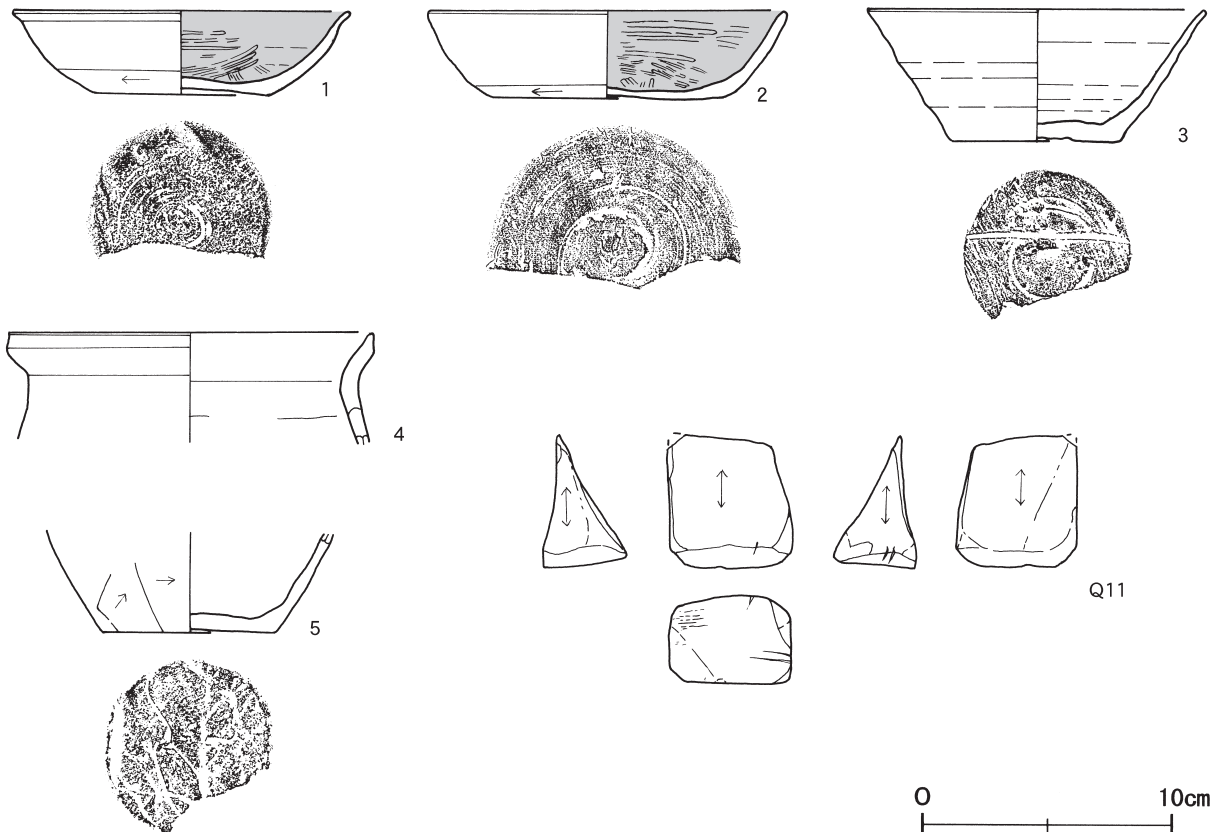
ピット 深さは14cmで、南東壁際に位置していることから、出入口口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層からなる。不規則な堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。第4層は、貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片37点 (坏類7, 甕類30), 須恵器7点 (坏), 石器1点 (砥石) が出土している。遺物は、竈及び南東部の覆土中から多く出土している。1は竈の右袖部脇の床面, 2は南東壁際の覆土上層, Q11は南東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。4は竈の覆土中から出土した破片が, 5は竈手前の床面と竈の覆土中から出土した破片が, 3は南東壁際の覆土上層と竈の覆土中から出土した破片が, それぞれ接合したものである。他に、流れ込みと考えられる縄文土器片1点 (深鉢) も出土している。



第53図 第1号住居跡出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器から9世紀末葉と考えられる。

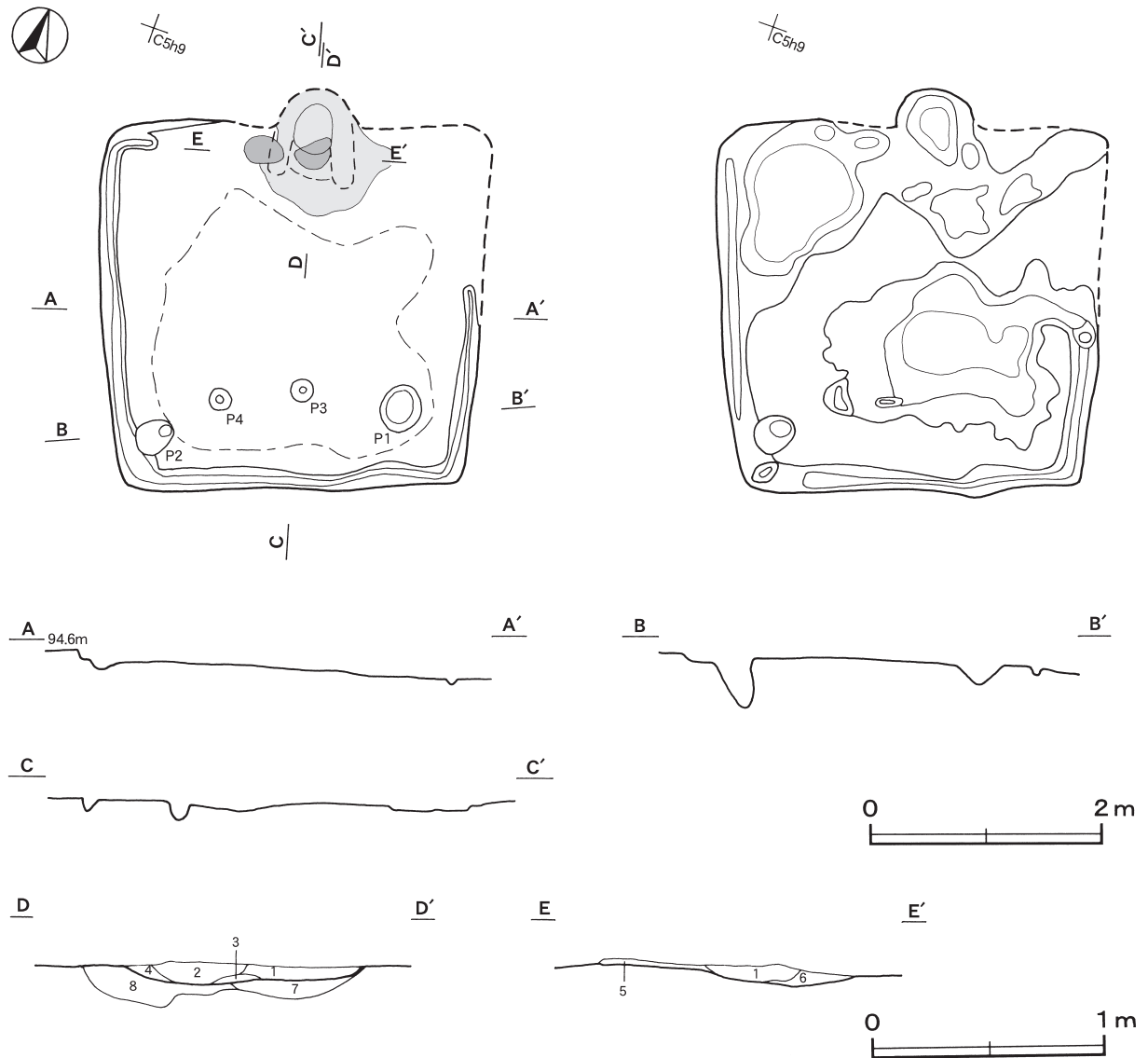
第1号住居跡出土遺物観察表（第53図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	14.0	3.4	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	竈石袖部脇床面	70% PL11
2	土師器	坏	14.0	3.5	9.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後ナデ 内面ヘラ磨き	南東壁際上層	40% PL11
3	須恵器	坏	13.4	5.3	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ	南東壁際上層・竈覆土中	60%底部ヘラ記号 PL11
4	土師器	甕	14.3	(4.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	竈覆土中	5% PL11
5	土師器	甕	-	(4.0)	7.0	長石・石英	褐	普通	体部外面下位ヘラ削り 底部木葉痕	竈手前床面・竈覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q11	砥石	5.3	4.9	3.3	78.1	凝灰岩	砥面4面	南東壁際下層	PL16

第2号住居跡（第54・55図）

位置 調査区中央部のC 5 h9区で、標高95mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。



第54図 第2号住居跡実測図

規模と形状 西側部分の覆土は、わずかに残存していたが、中央部から東コーナー部は、床面が露出した状態で確認された。長軸約3.2m、短軸約3.1mの方形で、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は3~12cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。全面が貼床で、中央部から南壁際にかけて踏み固められている。掘り方は、中央部と北西コーナー部が深く掘り込まれている。壁溝が、竈の両脇と東壁の北部を除いて確認されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。遺存状態は極めて悪く、袖部は残存していない。規模は、焚口部から煙出部まで107cmと推定される。袖部は、床面を3~7cm掘り込み、暗褐色土を埋め戻して基部とし、白色粘土で構築されていたと考えられる。火床部は床面を14cm掘りくぼめて、ローム土を埋め戻して使用し、火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に半円形状に44cm掘り込まれ、緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・白色粘土粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・白色粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・白色粘土粒子少量、炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・白色粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック・白色粘土粒子微量 | 7 暗赤褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・白色粘土粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック少量、白色粘土粒子微量 |

ピット 4か所。P1・P2は、深さ8cm、48cmで、配置から主柱穴と考えられる。P3・P4は、深さ17cm、21cmで、性格は不明である。

遺物出土状況 土師器片4点（坏類1、甕類3）と、流れ込みと考えられる縄文土器片2点（深鉢）が出土している。6は覆土中から出土した破片と第1号住居跡の覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から第1号住居跡と同時期の廃絶であり、9世紀末葉と考えられる。



第55図 第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表（第55図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
6	土師器	坏	[14.0]	(2.5)	-	長石・白色粒子・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ	覆土中	5%

表5 平安時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時代	備考
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
1	D5b6	N-33°-W	方形	2.75×2.75	4~10	平坦	ほぼ全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片、須恵器片、石器（砥石）	9世紀末葉	
2	C5h9	N-17°-W	方形	3.2×3.1	3~12	平坦	ほぼ全周	2	-	2	竈1	-	-	土師器片	9世紀末葉	

3 近世の遺構と遺物

近世の墓坑 5 基を確認した。以下、遺構と遺物の特徴について記述する。

第 1 号墓坑 (S K51) (第56・57図)

位置 調査区東部の D 6 d4区で、標高93mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.45m、短軸1.34mの方形で、長軸方向はN—55°—Wである。二段の掘り込みを有し、上段部の深さは38cmである。壁はほぼ直立しており、底面は平坦である。下段部の掘り込みは北コーナー部に位置し、一辺50cmほどの方形で、深さは確認面から98cmである。壁は直立しており、底面は平坦である。

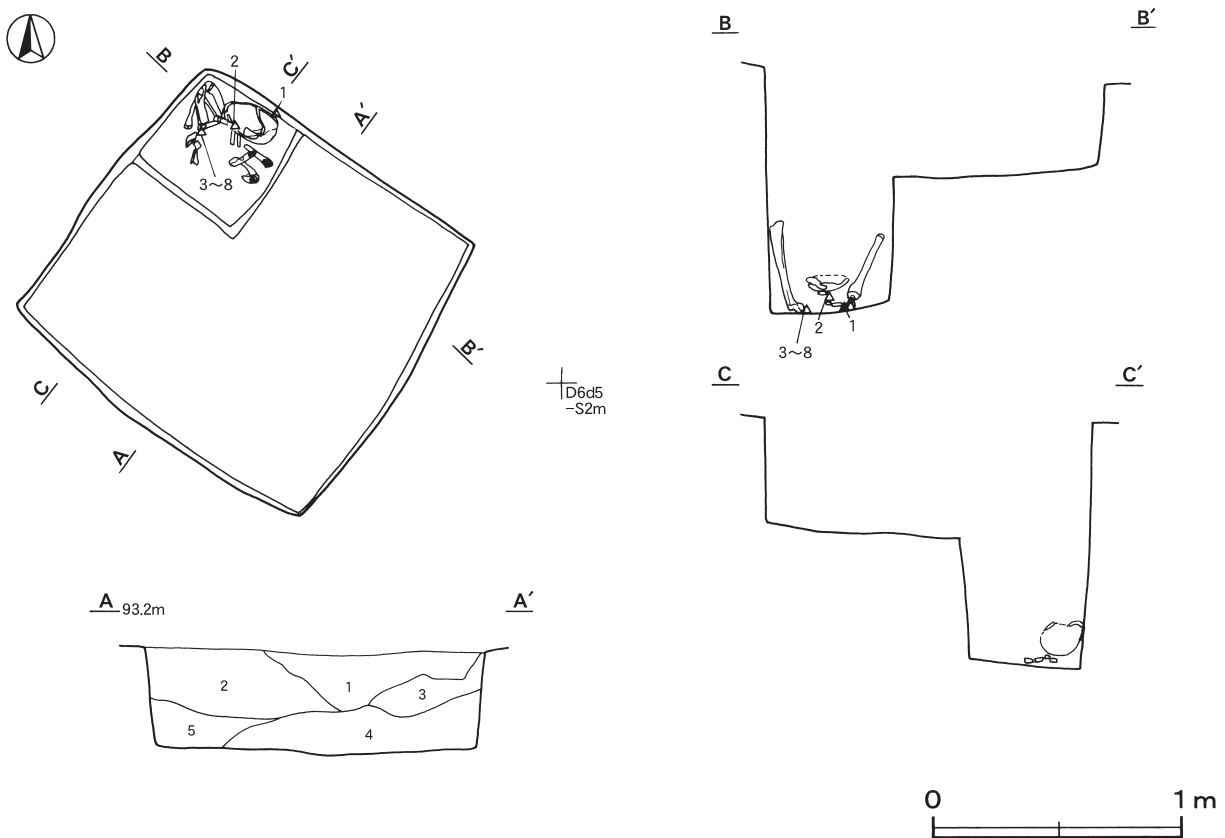
覆土 5層に分層される。各層ともロームブロックを含み不規則に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

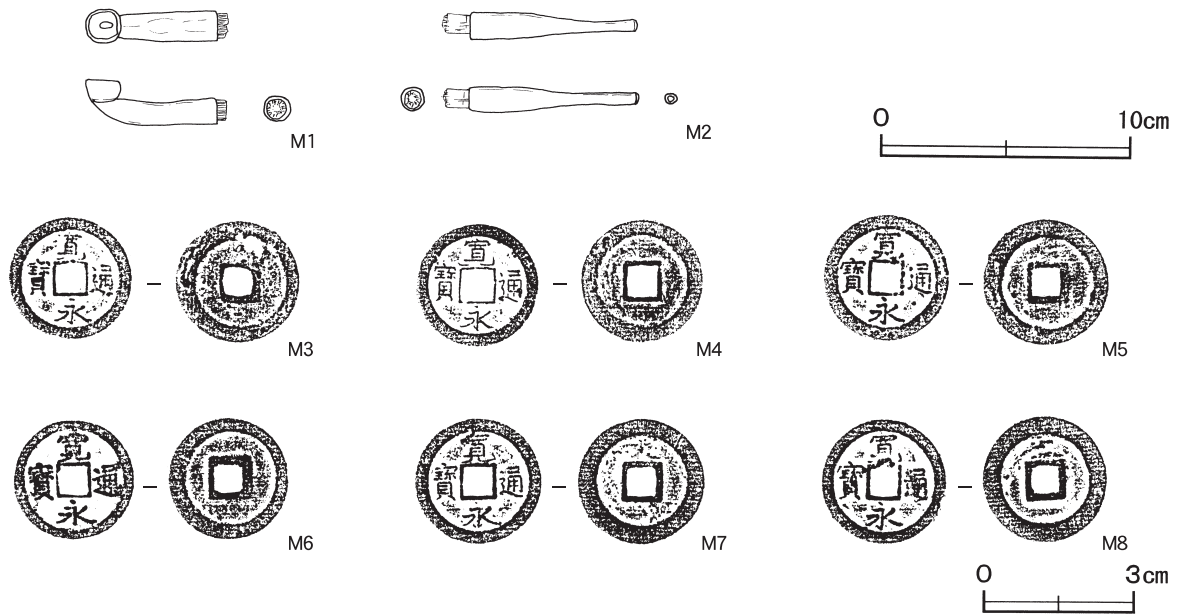
- | | | | |
|--------|-----------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック多量 | 4 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 金属製品33点(釘片25, 煙管雁首1, 煙管吸口1, 古銭6)が出土している。また、北コーナー部下段の底面から人骨が確認されている。M1・M3~M8は北コーナー部下段の底面から、M2は北コーナー部下段の覆土下層から出土している。釘片にはわずかな木質の付着が見られたが、図示できるものはなかった。

所見 時期は、出土した副葬品の煙管及び古銭から近世と考えられる。釘から木棺の存在がうかがわれる。



第56図 第 1 号墓坑実測図



第57図 第1号墓坑出土遺物実測図

第1号墓坑出土遺物観察表（第57図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	煙管雁首	5.7	1.4	1.8	9.0	銅	火皿部円形 接合部断面円形 羅字竹管残存	下段底面	PL17
M2	煙管吸口	7.7	1.1	1.0	4.8	銅	吸口部断面円形 羅字竹管残存	下段覆土下層	PL17

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M3	寛永通寶	2.45	0.58	3.58	1668	銅	新寛永 無背銭	下段底面	PL18
M4	寛永通寶	2.44	0.63	3.18	1668	銅	新寛永 無背銭	下段底面	PL18
M5	寛永通寶	2.52	0.56	3.44	1668	銅	新寛永 無背銭	下段底面	PL18
M6	寛永通寶	2.40	0.56	4.02	1668	銅	新寛永 無背銭	下段底面	PL18
M7	寛永通寶	2.48	0.58	3.40	1668	銅	新寛永 背「文」	下段底面	PL18
M8	寛永通寶	2.46	0.58	3.20	1668	銅	新寛永 無背銭	下段底面	PL18

第2号墓坑（SK52）（第58図）

位置 調査区東部のD6g2区で、標高94mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.28m、短軸1.18mの方形で、長軸方向はN-65°-Wである。二段の掘り込みを有し、上段部の深さは65cmである。壁はほぼ直立しており、底面は平坦である。下段部の掘り込みは中央部に位置し、一辺50cmほどの方形で、深さは確認面から135cmである。壁は直立しており、底面は平坦である。

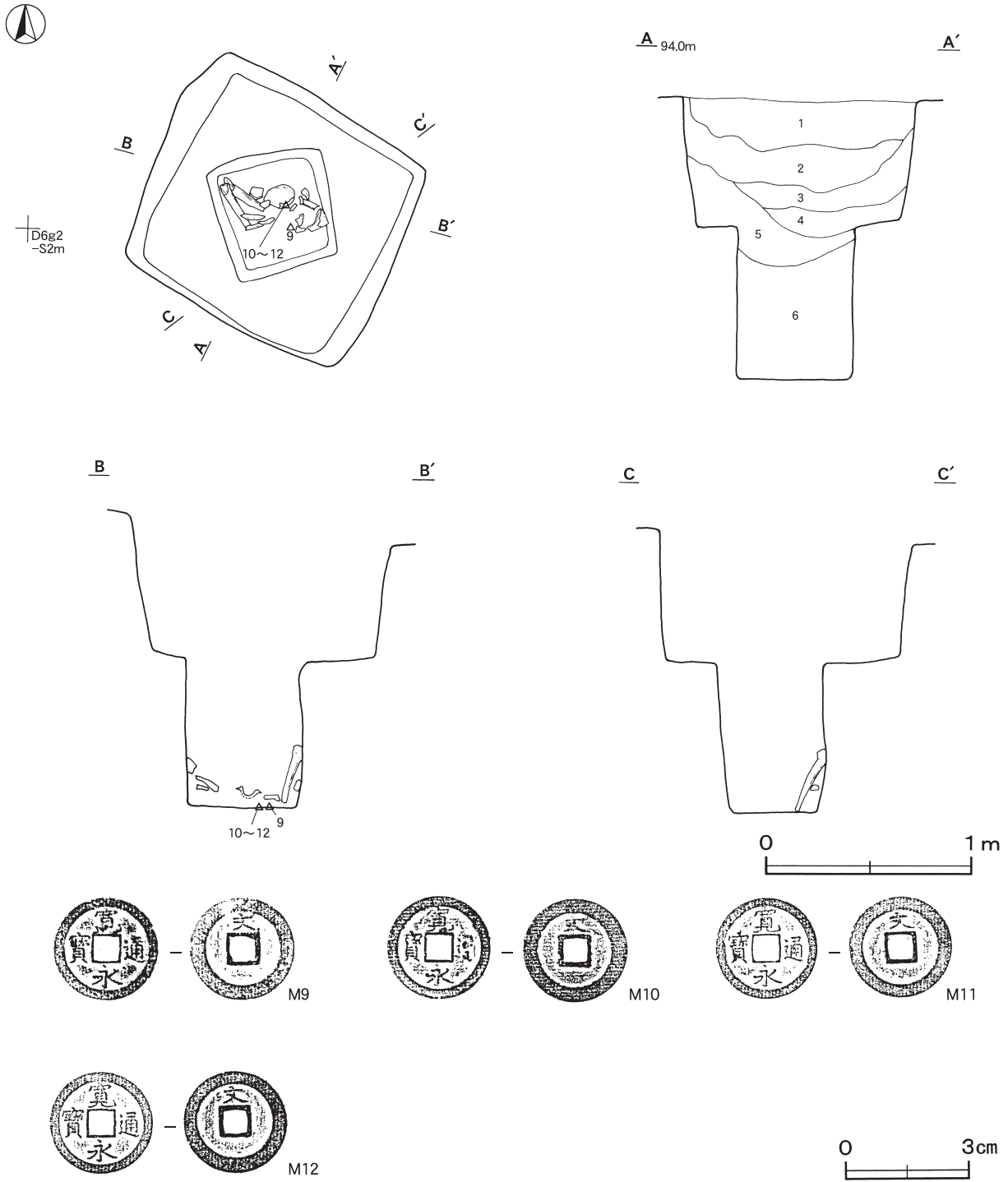
覆土 6層に分層される。各層ともロームブロックを含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼パミス少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、鹿沼パミス微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼パミス微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 金属製品36点（釘片32、古銭4）が出土している。また、中央部下段の底面から人骨が確認されている。M9～M12は中央部下段の底面から出土している。釘片にはわずかな木質の付着が見られたが、図示できるものはなかった。

所見 時期は、出土した古銭から近世と考えられる。釘から木棺の存在がうかがわれる。



第58図 第2号墓坑・出土遺物実測図

第2号墓坑出土遺物観察表（第58図）

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M9	寛永通寶	2.51	0.59	2.64	1668	銅	新寛永 背「文」	中央部底面	PL18
M10	寛永通寶	2.48	0.58	3.38	1668	銅	新寛永 背「文」	中央部底面	PL18
M11	寛永通寶	2.45	0.62	3.14	1668	銅	新寛永 背「文」	中央部底面	PL18
M12	寛永通寶	2.49	0.58	3.76	1668	銅	新寛永 背「文」	中央部底面	PL18

第3号墓坑 (SK53) (第59・60図)

位置 調査区東部のD6h2区で、標高94mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.25m、短軸1.22mの方形で、長軸方向はN-20°-Eである。二段の掘り込みを有し、上段部の深さは60cmである。壁はほぼ直立しており、底面は平坦である。下段部の掘り込みは北コーナー部に位置し、一辺50cmほどの方形で、深さは確認面から120cmである。壁は直立しており、底面は平坦である。

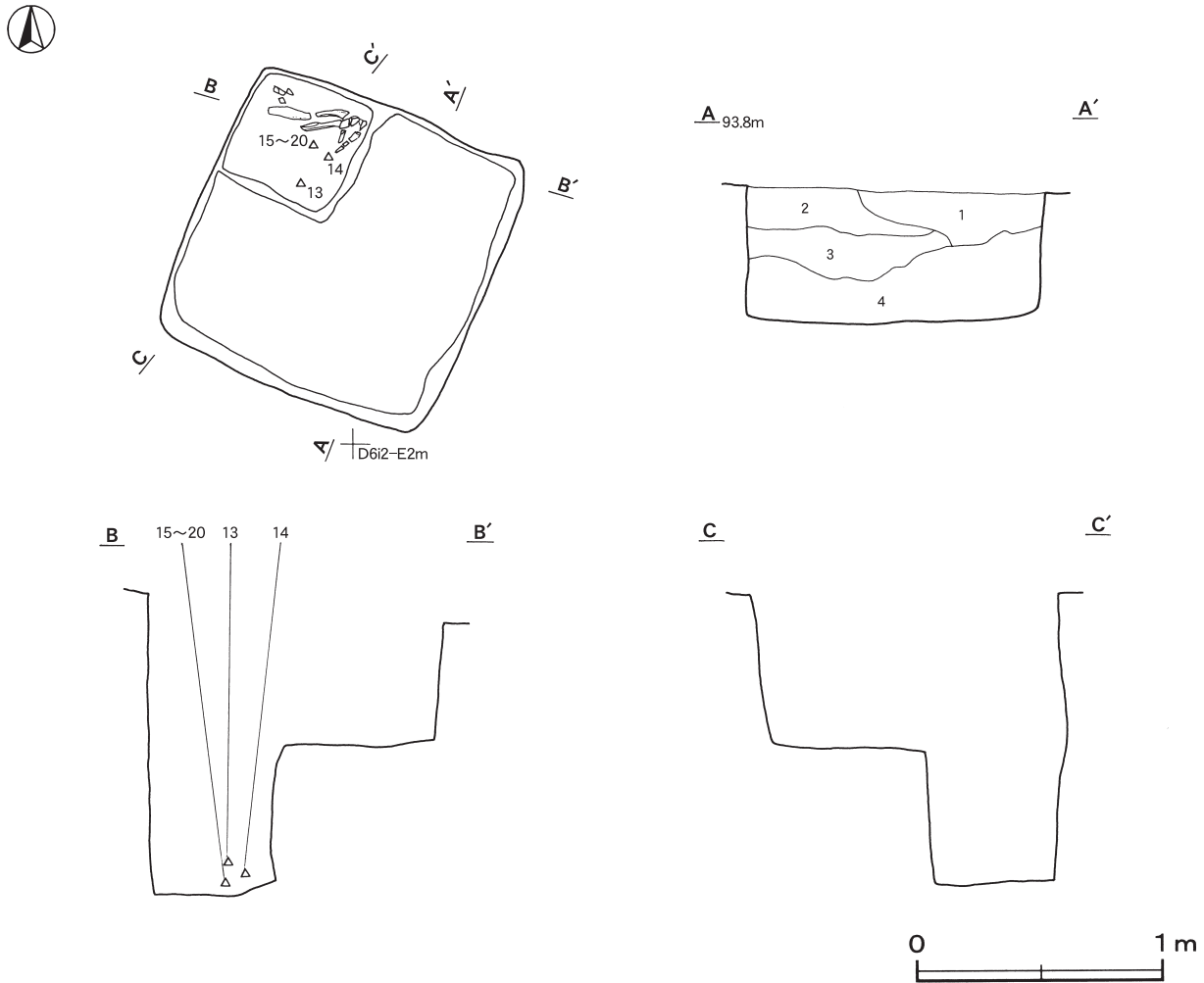
覆土 4層に分層される。各層ともロームブロックを含み不規則に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

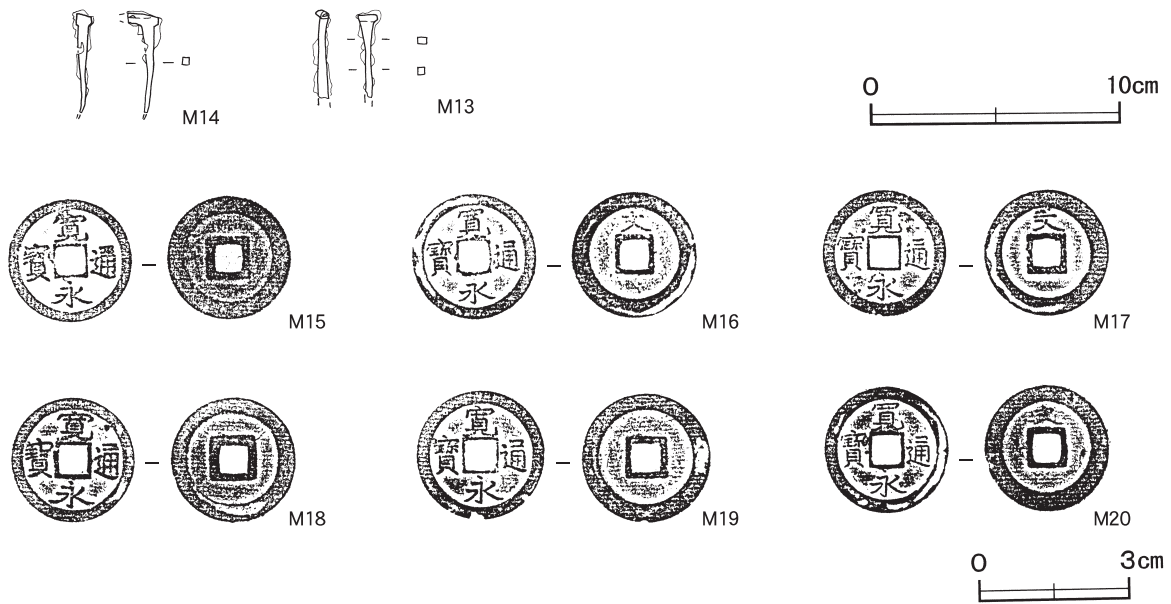
- | | | | |
|-------|-------------------|------|--------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック多量、鹿沼パミス少量 | 3 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼パミス微量 | 4 褐色 | ロームブロック多量、鹿沼ブロック少量 |

遺物出土状況 金属製品27点（釘片21、古銭6）が出土している。また、北コーナー部下段の底面から人骨が確認されている。M13~M20は北コーナー部下段の覆土下層から出土している。釘にはわずかな木質の付着が見られる。

所見 時期は、出土した副葬品の古銭から近世と考えられる。釘から木棺の存在がうかがわれる。



第59図 第3号墓坑実測図



第60図 第3号墓坑出土遺物実測図

第3号墓坑出土遺物観察表 (第60図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M13	釘	(3.5)	0.6	0.8	(1.68)	鉄	断面方形	下段下層	PL17
M14	釘	(4.1)	0.7	1.3	(1.27)	鉄	断面方形	下段下層	PL17

番号	銭名	径	孔幅	重量	初铸年	材質	特徴	出土位置	備考
M15	寛永通寶	2.46	0.54	2.96	1636	銅	古寛永 無背銭	下段下層	PL18
M16	寛永通寶	2.47	0.60	3.32	1668	銅	新寛永 背「文」	下段下層	PL18
M17	寛永通寶	2.50	0.57	3.62	1668	銅	新寛永 背「文」	下段下層	PL18
M18	寛永通寶	2.48	0.57	3.32	1636	銅	古寛永 無背銭	下段下層	PL18
M19	寛永通寶	2.53	0.58	3.86	1668	銅	新寛永 無背銭	下段下層	PL18
M20	寛永通寶	2.49	0.57	3.36	1668	銅	新寛永 背「文」	下段下層	PL18

第4号墓坑 (SK54) (第61図)

位置 調査区東部のD6i3区で、標高93mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.56m、短軸1.50mの方形で、長軸方向はN-25°-Eである。二段の掘り込みを有し、上段部の深さは40cmである。壁はほぼ直立しており、底面は平坦である。下段部の掘り込みは中央部に位置し、一辺50cmほどの方形で、深さは確認面から105cmである。壁は直立しており、底面は平坦である。

覆土 7層に分層される。各層ともロームブロックを含み不規則に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

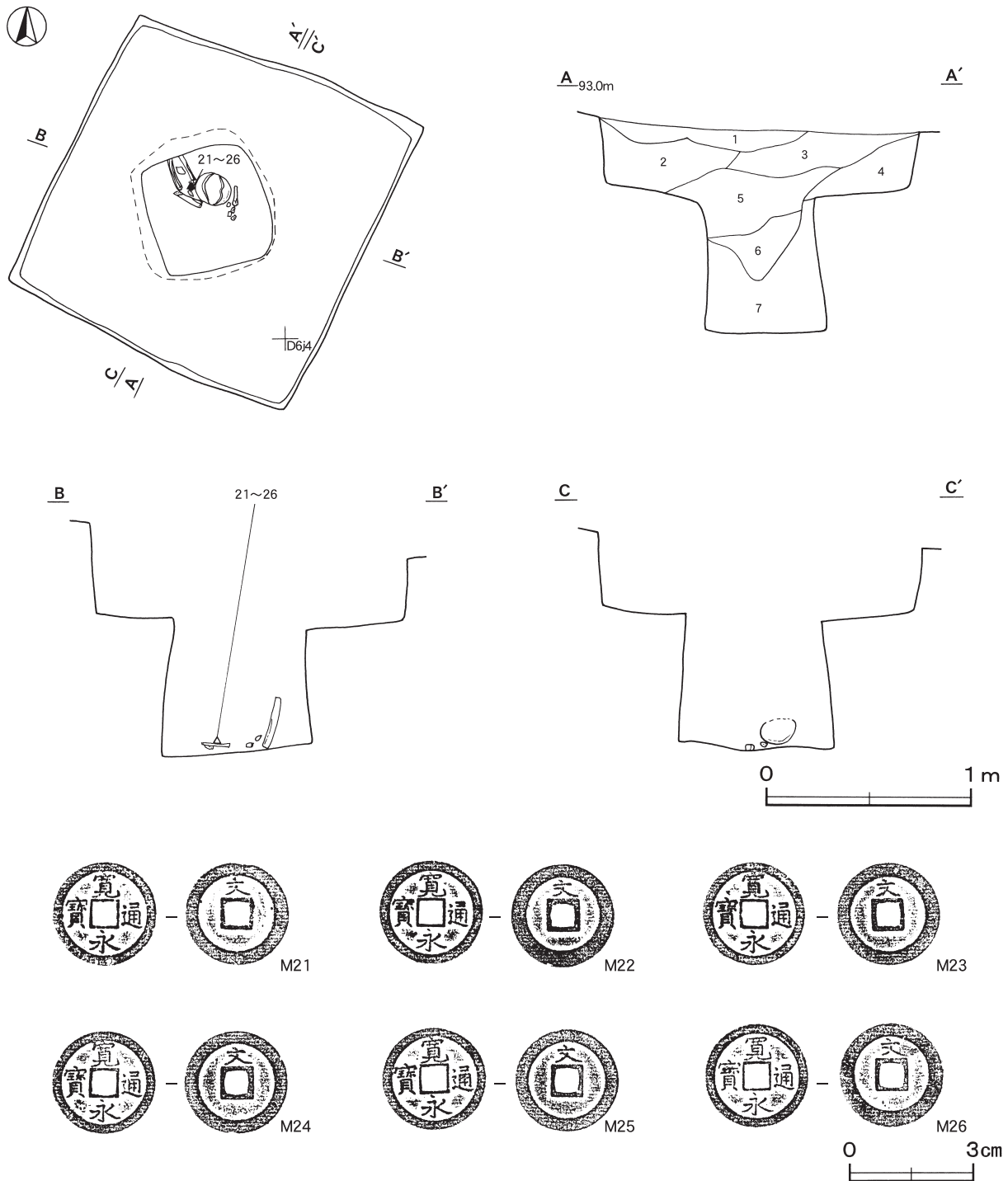
土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|----------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼パミス少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼パミス微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、鹿沼パミス少量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック多量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量、鹿沼パミス少量 (6より彩度が高い) |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼ブロック少量 | | |

遺物出土状況 金属製品19点(釘片13, 古銭6)が出土している。また、中央部下段の底面から人骨が確認されている。M21~M26は中央部下段の覆土下層から出土している。釘にはわずかな木質の付着が見られたが、

図示できるものはなかった。

所見 時期は、出土した副葬品の古銭から近世と考えられる。釘から木棺の存在がうかがわれる。



第61図 第4号墓坑・出土遺物実測図

第4号墓坑出土遺物観察表（第61図）

番号	銭名	径	孔幅	重量	初铸年	材質	特徴	出土位置	備考
M21	寛永通寶	2.50	0.58	3.48	1668	銅	新寛永 背「文」	下段下層	PL18
M22	寛永通寶	2.49	0.58	3.66	1668	銅	新寛永 背「文」	下段下層	PL18

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M23	寛永通寶	2.49	0.60	3.78	1668	銅	新寛永 背「文」	下段下層	PL18
M24	寛永通寶	2.48	0.58	3.40	1668	銅	新寛永 背「文」	下段下層	PL18
M25	寛永通寶	2.48	0.59	3.88	1668	銅	新寛永 背「文」	下段下層	PL18
M26	寛永通寶	2.51	0.59	3.16	1668	銅	新寛永 背「文」	下段下層	PL18

第5号墓坑 (SK96) (第62・63図)

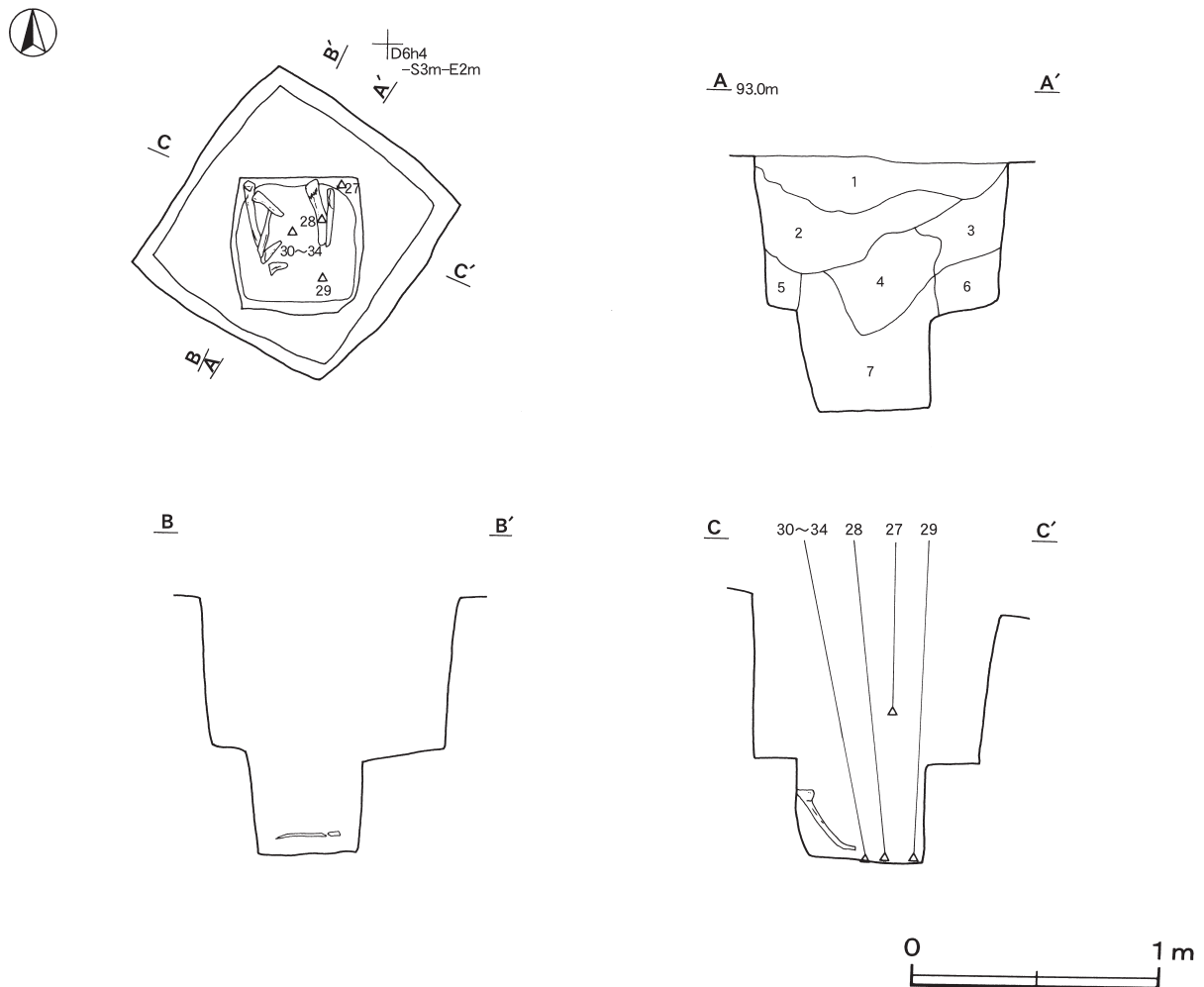
位置 調査区東部のD6h4区で、標高93mほどの丘陵性台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.02m、短軸1.00mの方形で、長軸方向はN-37°-Eである。二段の掘り込みを有し、上段部の深さは66cmである。壁はほぼ直立しており、底面は平坦である。下段部の掘り込みは中央部に位置し、一辺50cmほどの方形で、深さは確認面から105cmである。壁は直立しており、底面は平坦である。

覆土 7層に分層される。各層ともロームブロックを含み不規則に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

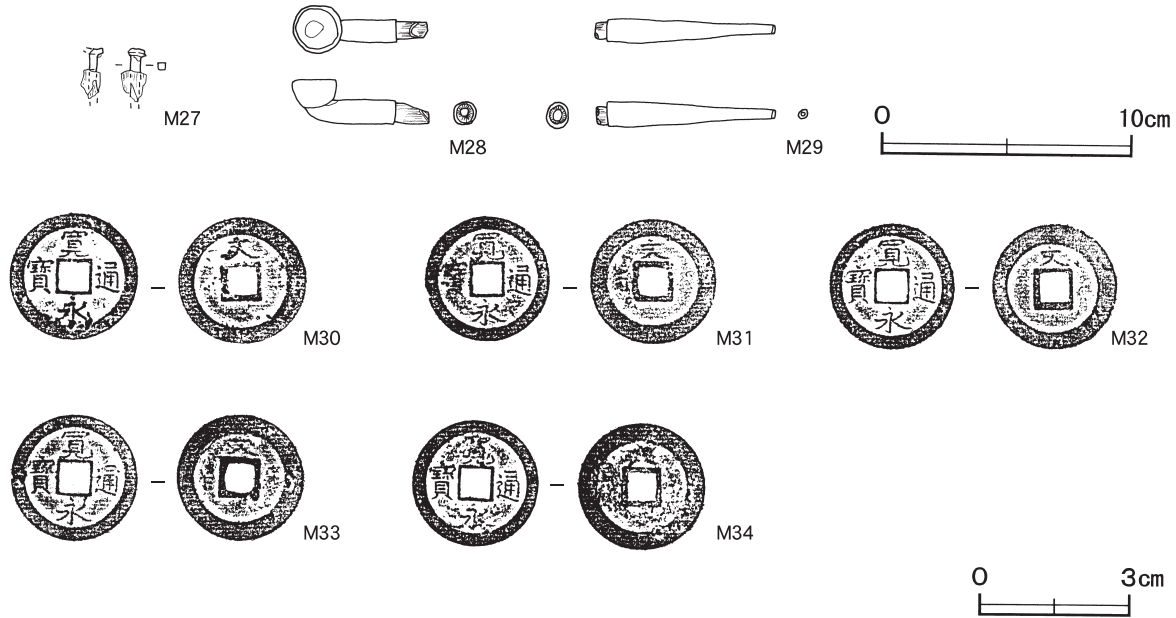
- | | | | |
|--------|-----------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 (縮まり弱い) |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |



第62図 第5号墓坑実測図

遺物出土状況 金属製品50点(釘片43, 煙管雁首1, 煙管吸口1, 古銭5)が出土している。また, 中央部下段の底面から人骨が確認されている。M27は北東壁際の覆土中層, M28~M34は中央部下段の底面から出土している。釘にはわずかな木質の付着が見られる。

所見 時期は, 出土した副葬品の煙管及び古銭から近世と考えられる。釘から木棺の存在がうかがわれる。



第63図 第5号墓坑出土遺物実測図

第5号墓坑出土遺物観察表 (第63図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M27	釘	(2.1)	(0.6)	0.7	(0.63)	鉄	頭部・脚部欠損 木質付着	北東壁際中層	PL17
M28	煙管雁首	5.4	1.9	1.8	6.80	銅	火皿部円形 接合部断面円形 羅字竹管残存	下段底面	PL17
M29	煙管吸口	7.1	1.0	1.0	4.60	銅	吸口部断面円形 羅字竹管残存	下段底面	PL17

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M30	寛永通寶	2.50	0.56	3.42	1668	銅	新寛永 背「文」	下段底面	PL18
M31	寛永通寶	2.49	0.57	3.44	1668	銅	新寛永 背「文」	下段底面	PL18
M32	寛永通寶	2.48	0.58	3.28	1668	銅	新寛永 背「文」	下段底面	PL18
M33	寛永通寶	2.48	0.59	4.04	1668	銅	新寛永 背「文」	下段底面	PL18
M34	寛永通寶	2.48	0.53	3.68	1668	銅	新寛永 背「文」	下段底面	PL18

表6 近世墓坑一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模			壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸) (m)	上段 深さ (cm)	下段 深さ (cm)					
1	D6d4	N-55°-W	方形	1.45×1.34	38	98	直立	平坦	人為	釘, 煙管, 古銭	旧SK51
2	D6g2	N-65°-W	方形	1.28×1.18	65	135	直立	平坦	人為	釘, 古銭	旧SK52
3	D6h2	N-20°-E	方形	1.25×1.22	60	120	直立	平坦	人為	釘, 古銭	旧SK53
4	D6i3	N-25°-E	方形	1.56×1.50	40	105	直立	平坦	人為	釘, 古銭	旧SK54
5	D6h4	N-37°-E	方形	1.02×1.00	66	105	直立	平坦	人為	釘, 煙管, 古銭	旧SK96

4 その他の遺構と遺物

時期不明の遺構と遺物について記述する。遺構は方形堅穴遺構1基，土坑71基，溝跡5条が確認されている。

(1) 方形堅穴遺構

第1号方形堅穴遺構（SK103）（第64図）

位置 調査区西部のD3e1区で，標高101mの丘陵性台地の平坦部に位置している。

重複関係 第104号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南側が調査区域外に延びているため，確認できたのは東西軸3.50m，南北軸1.66mで，台形または長方形を呈していたと推測される。長軸方向はN-77°-Wである。壁高は22~32cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，踏み固められた部分は確認できなかった。

ピット 4か所。深さは37~66cmで，性格は不明である。

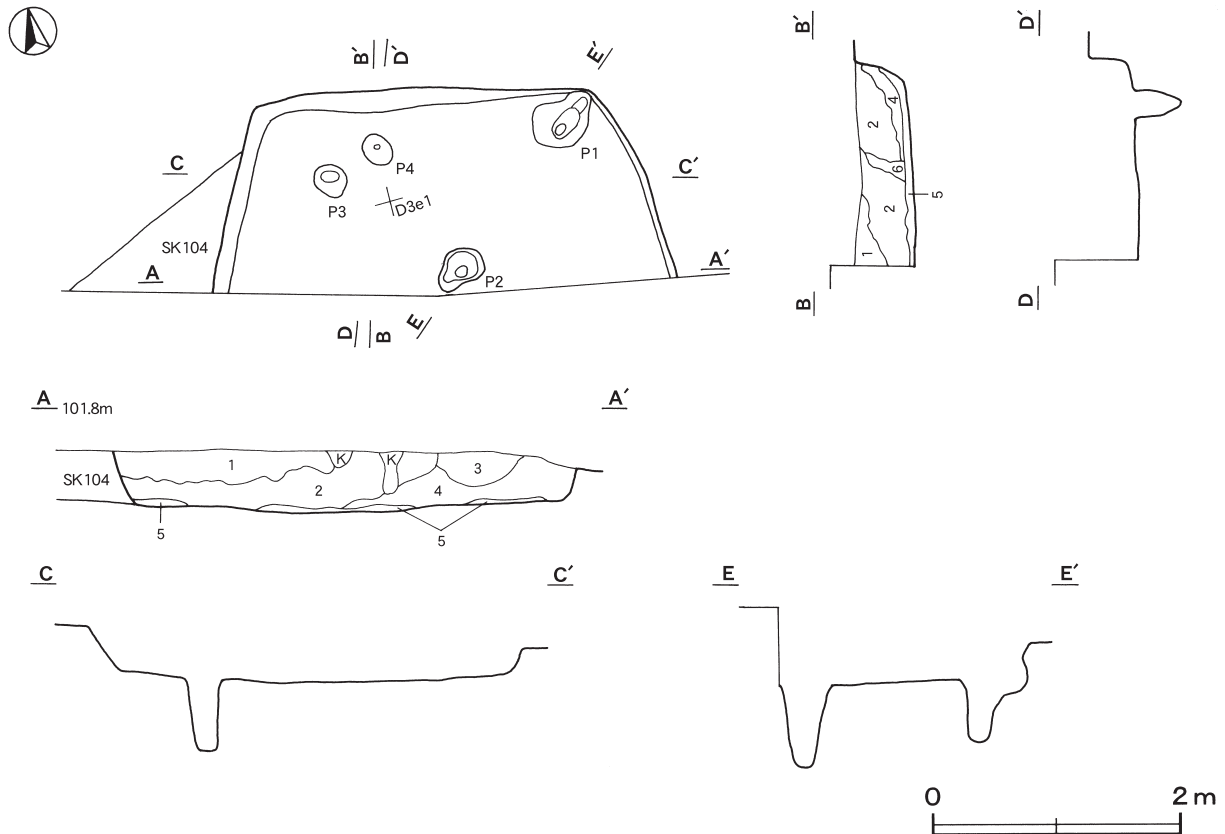
覆土 6層からなる。不規則な堆積状況を呈しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片11点（甕類），縄文土器片25点（深鉢），石器6点（剥片）が出土している。いずれも混入によるものと考えられ，細片のため，図示することはできなかった。

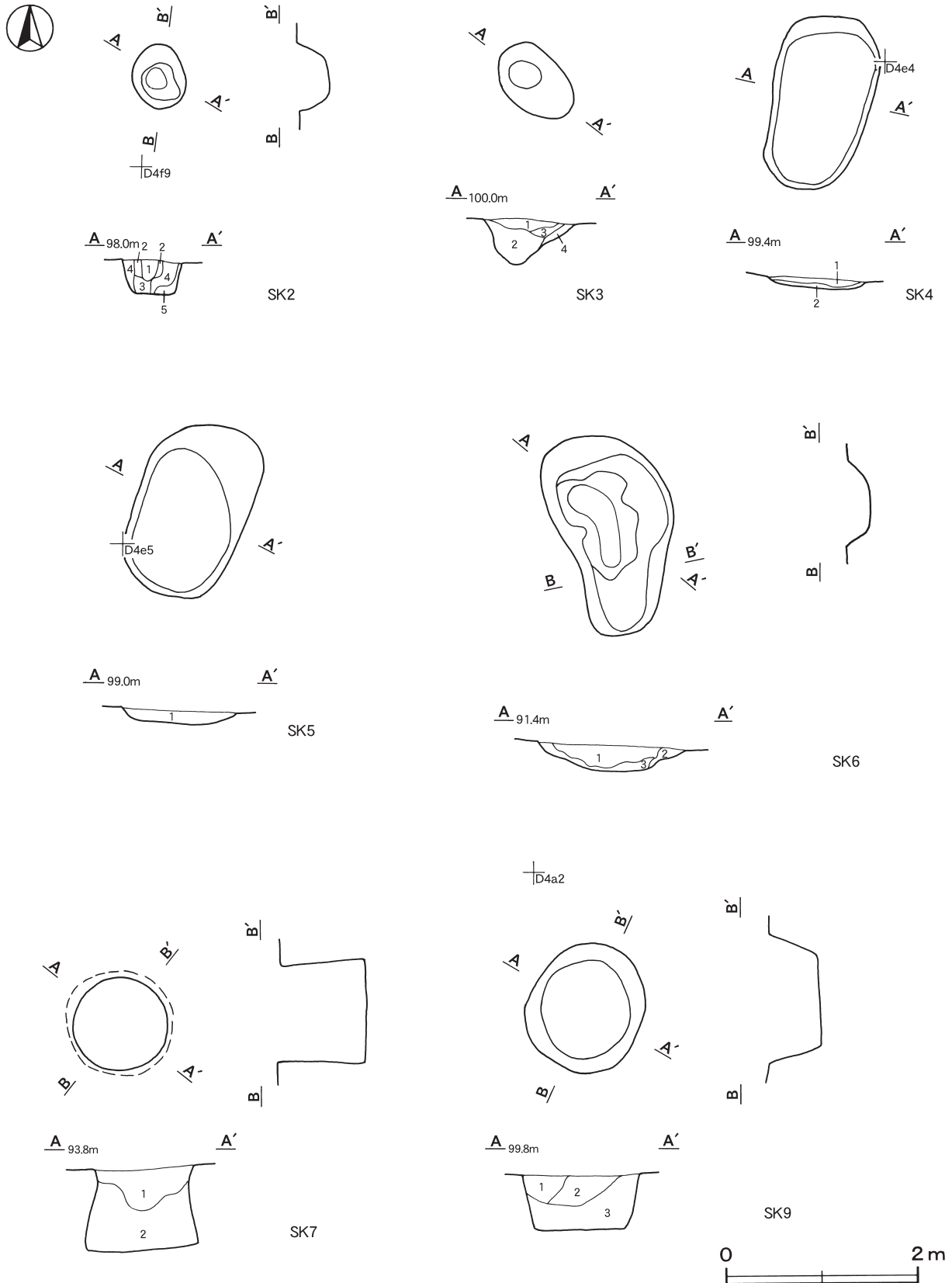
所見 時期は，判断できる出土土器がなく，不明である。



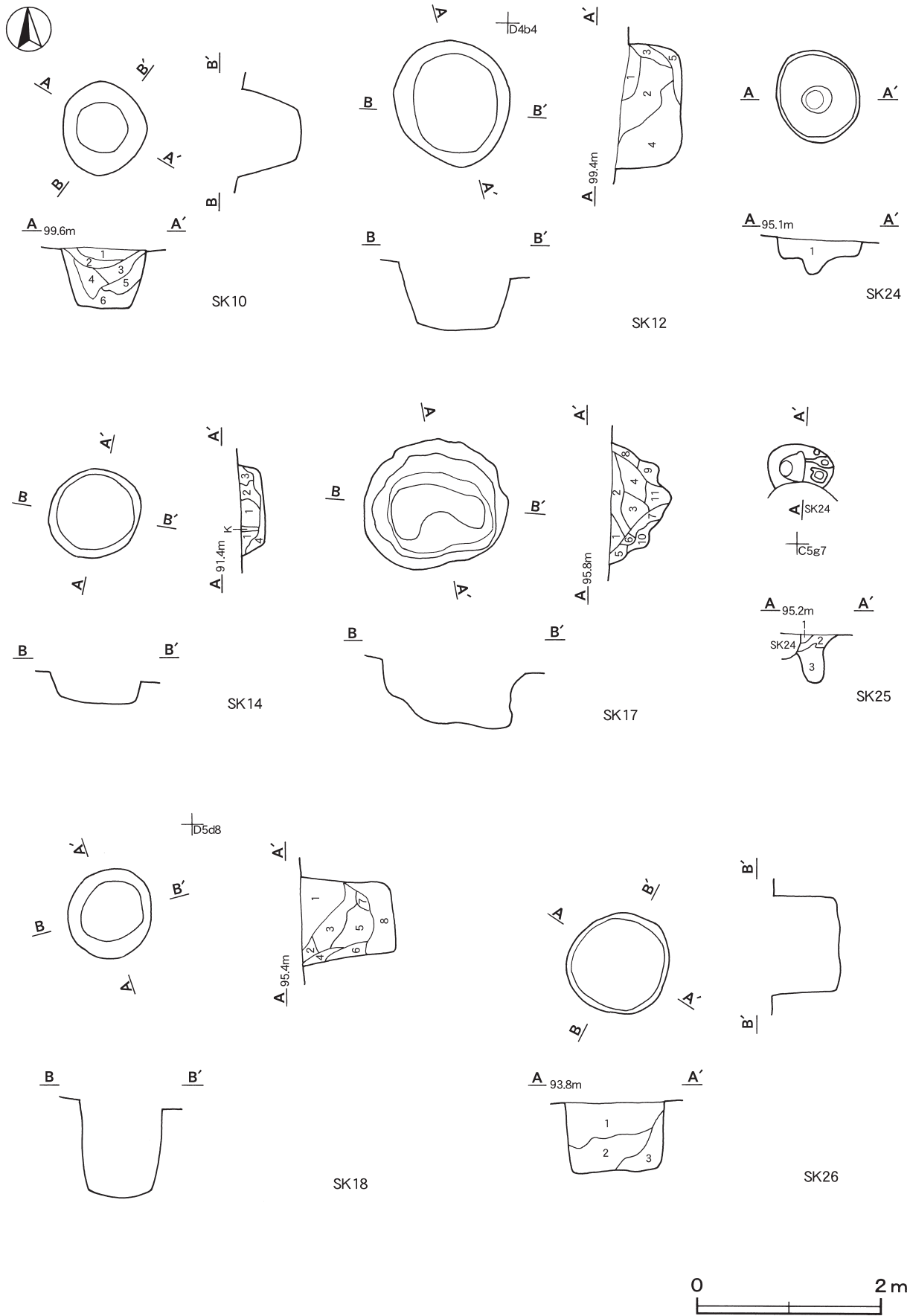
第64図 第1号方形堅穴遺構実測図

(2) 土坑

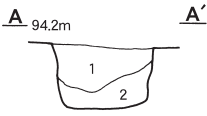
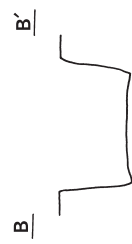
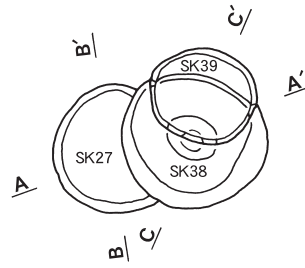
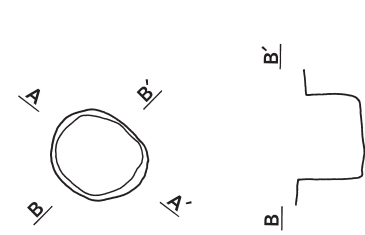
時期及び性格が不明な土坑71基について、実測図（第65～74図）と一覧表で示し、併せて土層解説を記載する。



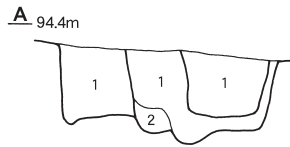
第65図 土坑実測図(1)



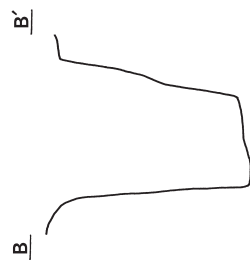
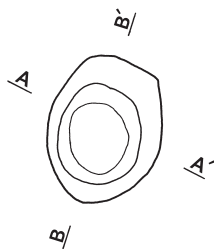
第66图 土坑实测图(2)



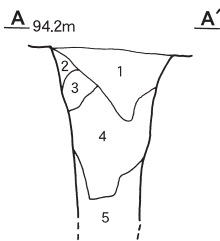
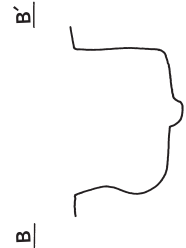
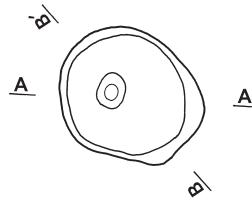
SK28



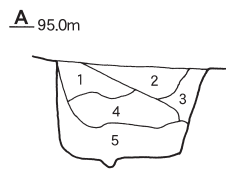
SK27 · 38 · 39



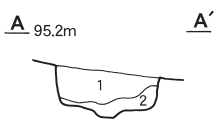
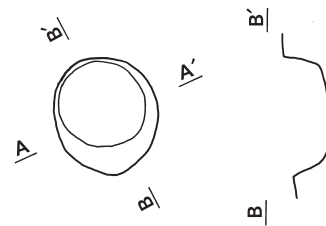
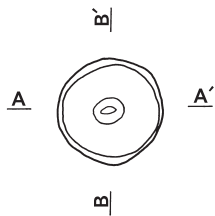
C519



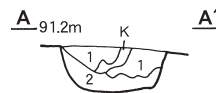
SK30



SK31



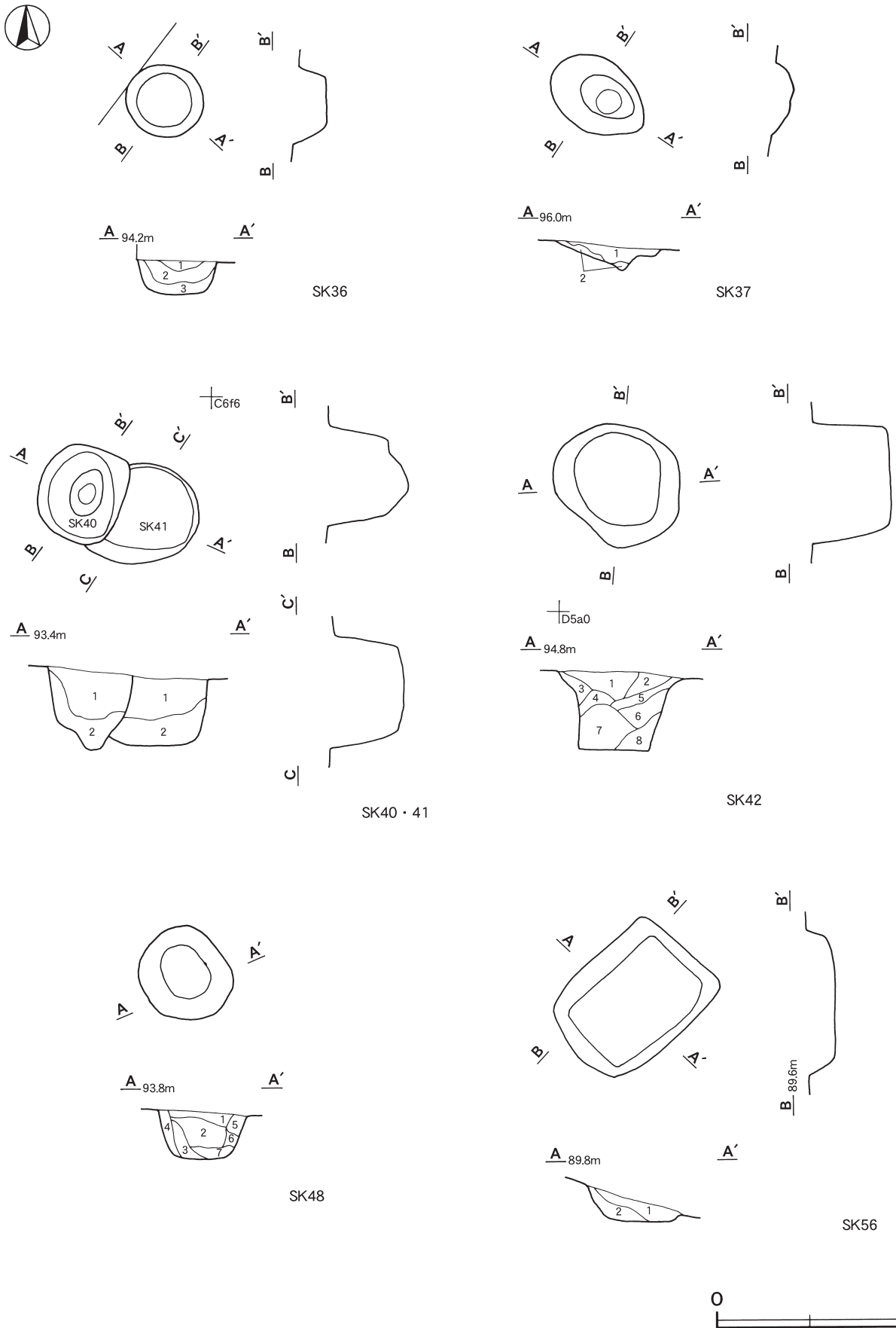
SK32



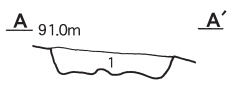
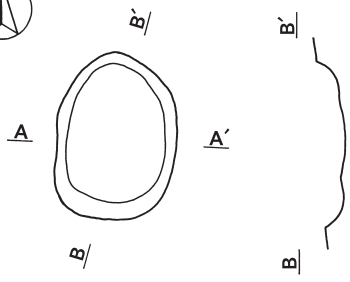
SK34



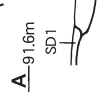
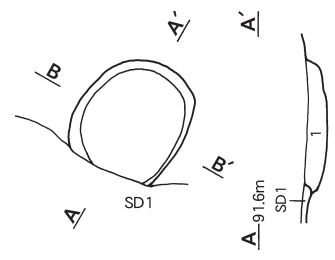
第67图 土坑实测图(3)



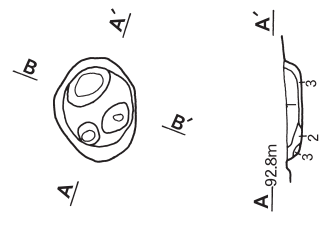
第68図 土坑実測図(4)



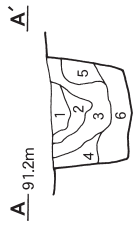
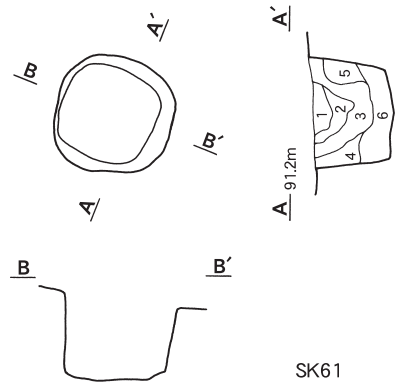
SK58



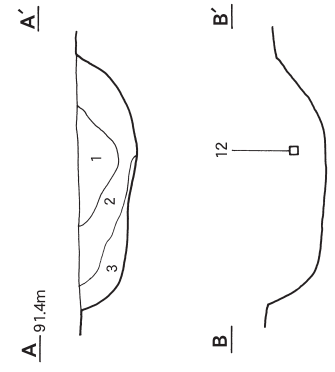
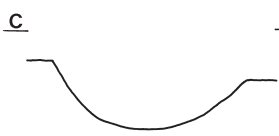
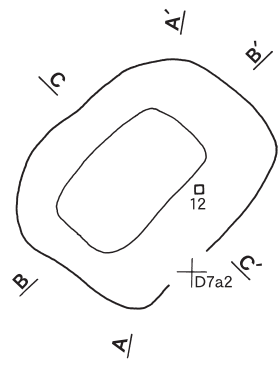
SK59



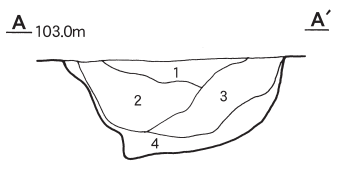
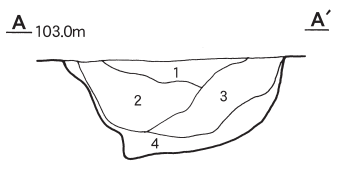
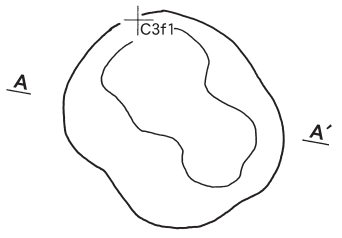
SK60



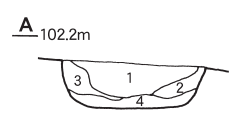
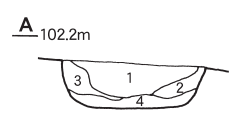
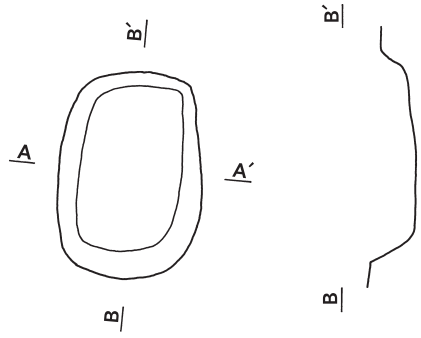
SK61



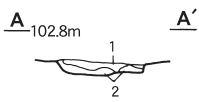
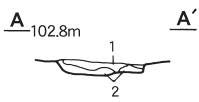
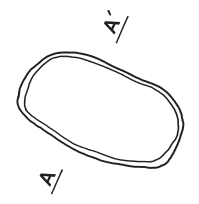
SK62



SK64



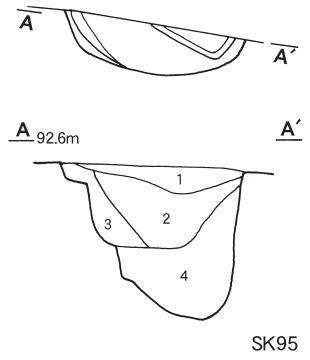
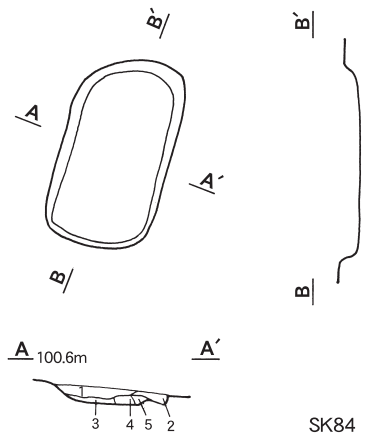
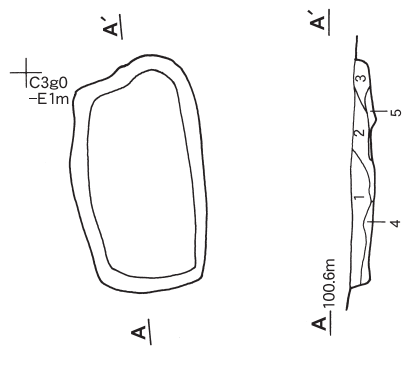
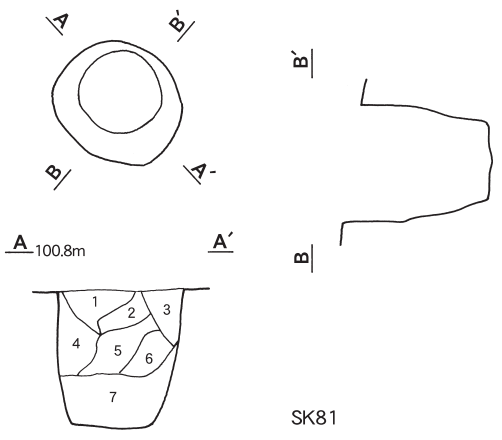
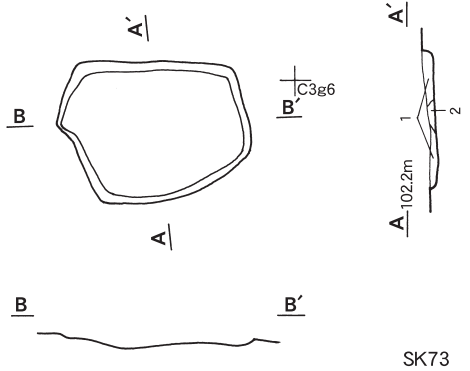
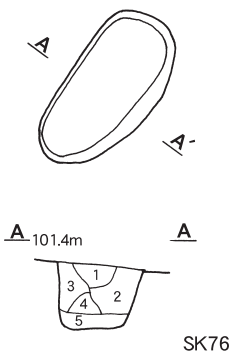
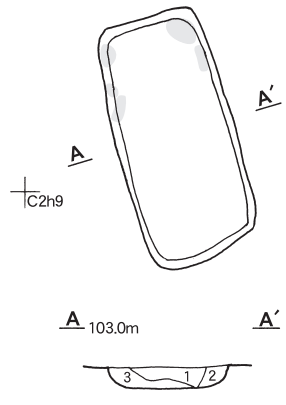
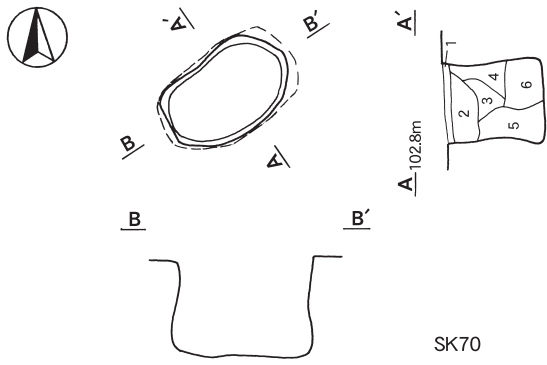
SK68



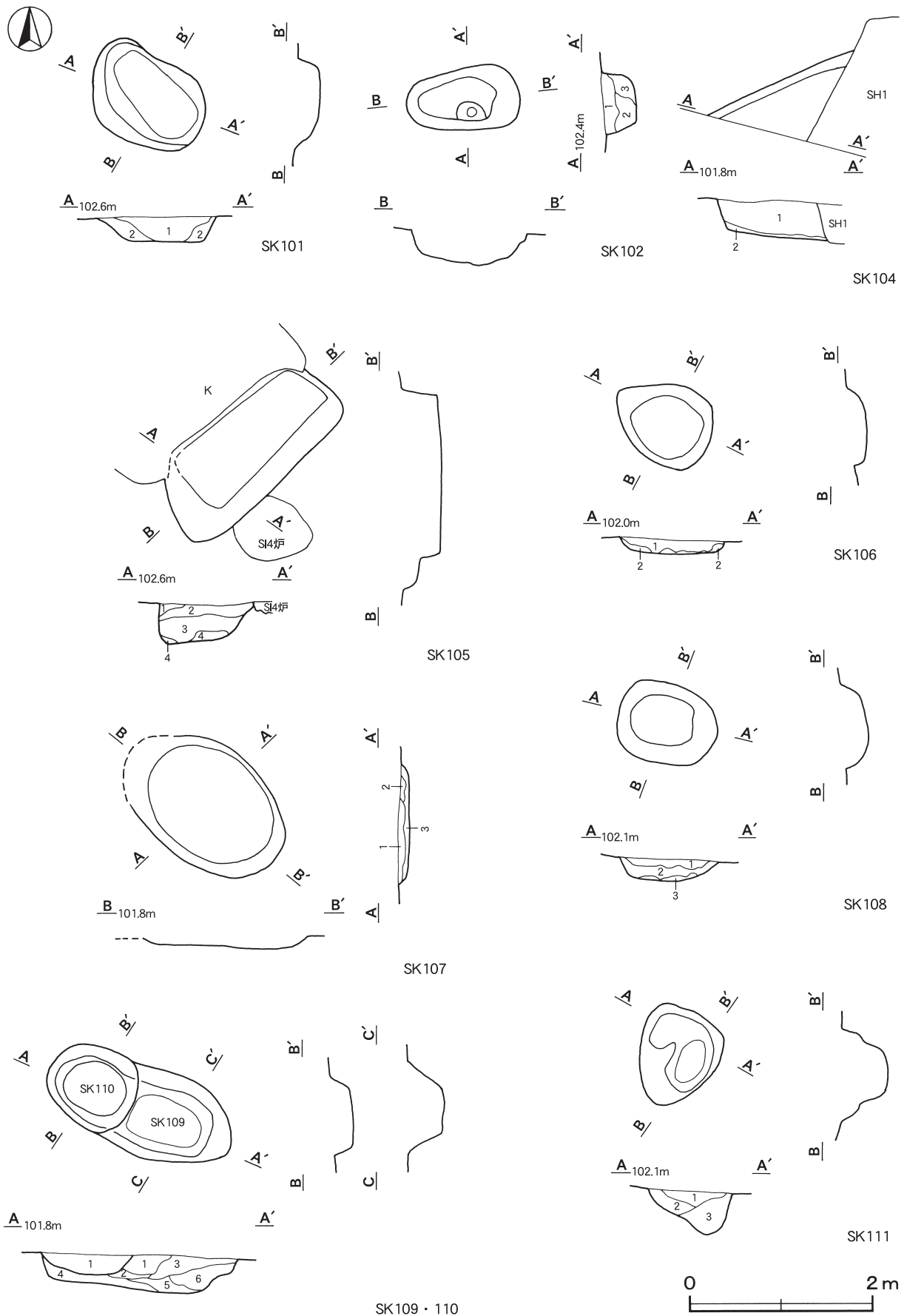
SK66



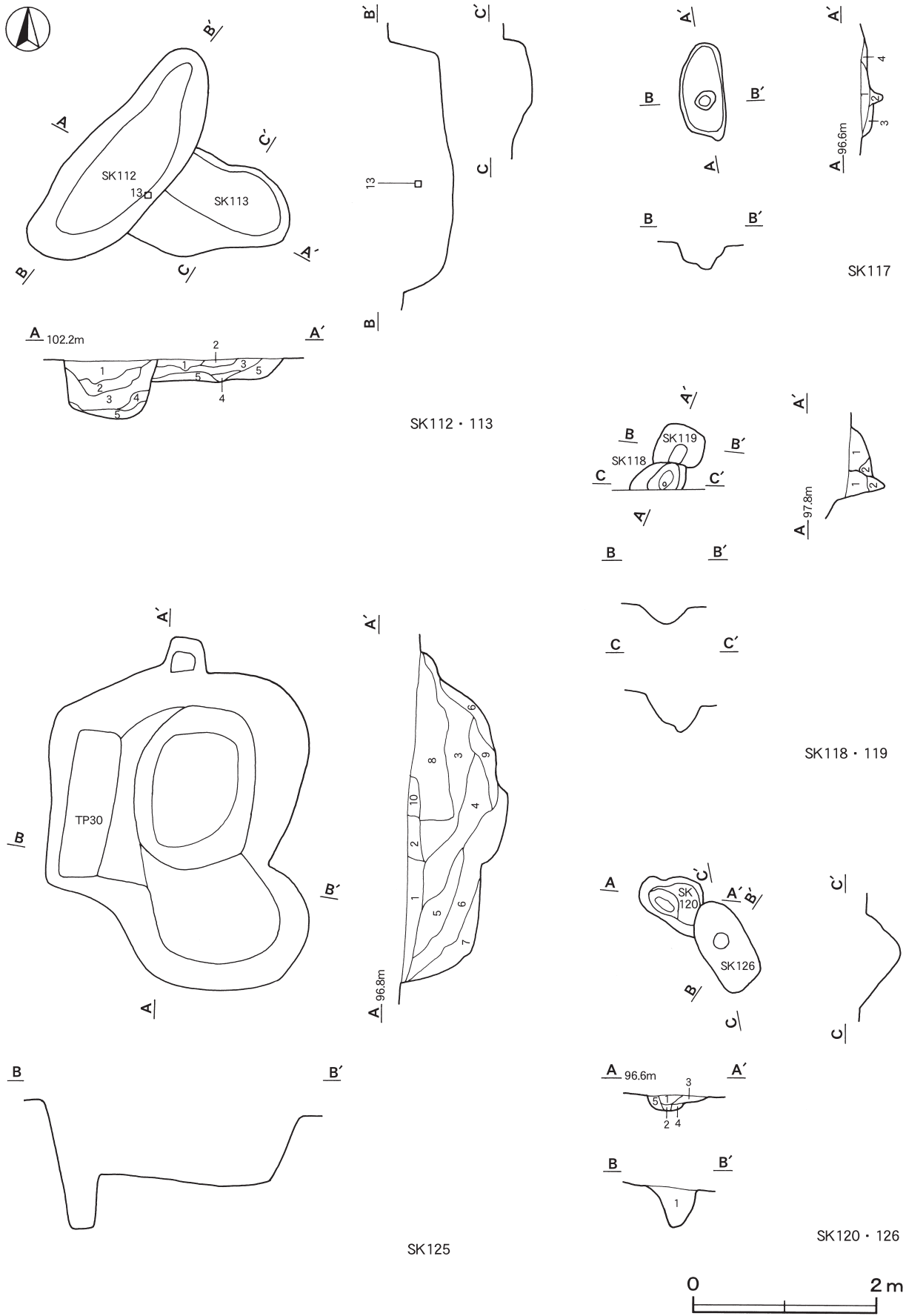
第69图 土坑实测图(5)



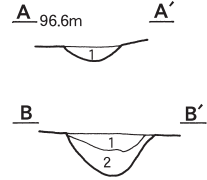
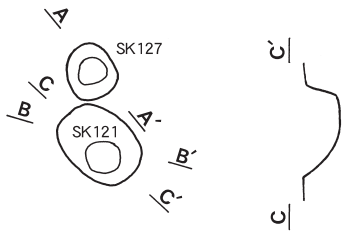
第70図 土坑実測図(6)



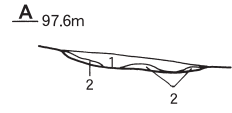
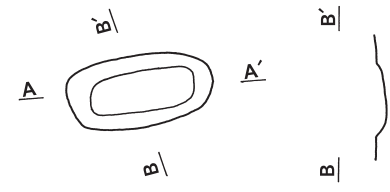
第71图 土坑实测图(7)



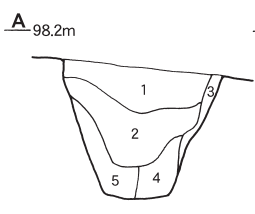
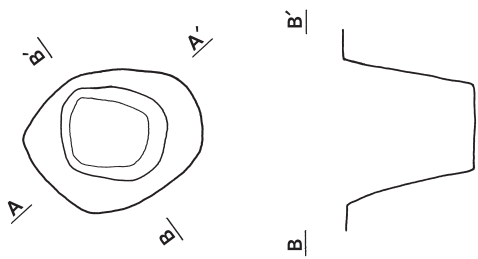
第72图 土坑実測図(8)



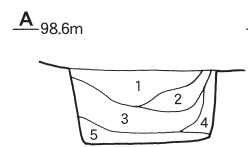
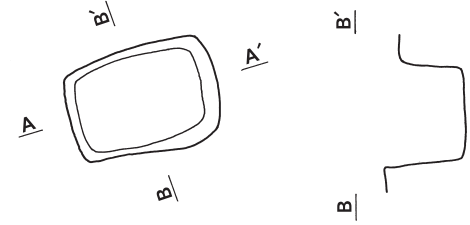
SK121 · 127



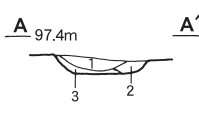
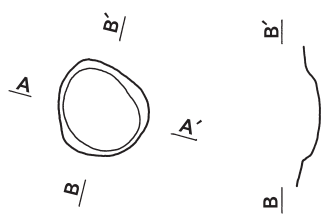
SK123



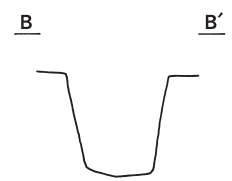
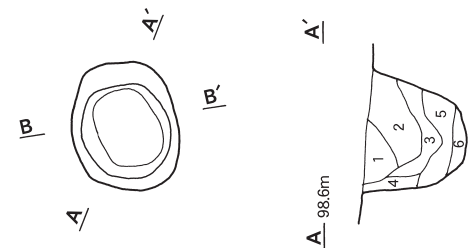
SK131



SK132



SK134



SK136



第73图 土坑实测图(9)

第2号土坑土層解説

- 1 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量, ロームブロック少量
- 3 暗赤褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック微量

第3号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量 (大ブロック微量含む)
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量

第4号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒色 炭化粒子多量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量

第5号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量

第6号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第7号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量 (鹿沼ブロック含む)
- 2 暗褐色 ロームブロック多量 (鹿沼パミス含む)

第9号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第10号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 鹿沼パミス微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック多量

第12号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 (ローム大ブロック含む)
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

第14号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量 (中ブロック含む)
- 4 褐色 ロームブロック多量

第17号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量 (縮まり強い)
- 2 黒褐色 ロームブロック少量 (縮まり強い)
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量 (中ブロック含む)
- 5 暗褐色 ロームブロック中量 (大ブロック含む)
- 6 暗褐色 ロームブロック少量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量
- 8 暗褐色 ロームブロック中量 (彩度が高い)
- 9 暗褐色 ロームブロック多量
- 10 褐色 ロームブロック多量
- 11 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第18号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量 (中ブロック含む)
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 7 褐色 ロームブロック多量
- 8 暗褐色 ロームブロック中量

第24号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第25号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第26号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・鹿沼ブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼ブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼ブロック微量

第27号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

第28号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第30号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第31号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量

第32号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第34号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第36号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第37号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第38号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 鹿沼ブロック微量

第39号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量

第40号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第41号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

第42号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 6 極暗褐色 ローム粒子少量
- 7 黒 褐 色 ローム粒子微量 (4より彩度が低い)
- 8 極暗赤褐色 ロームブロック少量

第48号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 5 褐 色 ロームブロック多量
- 6 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 7 黒 褐 色 ローム粒子微量

第56号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量

第58号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第59号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第60号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック多量

第61号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量 (大ブロック含む)
- 5 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 6 黒 褐 色 ロームブロック少量, 鹿沼ブロック微量

第62号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ロームブロック多量

第64号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 鹿沼ブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量, 鹿沼ブロック少量
- 4 褐 色 ロームブロック多量, 鹿沼ブロック少量

第66号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 炭化物中量, ロームブロック少量

第68号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

第70号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・鹿沼ブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック中量, 鹿沼ブロック微量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック少量

第71号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子・鹿沼パミス微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

第73号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
- 2 褐 色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第76号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック・鹿沼パミス中量

第81号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ローム粒子多量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子中量, 砂粒微量
- 5 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 7 暗 褐 色 ローム粒子中量

第82号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐 色 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 黒 褐 色 ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量

第84号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子多量
- 3 黒 色 炭化物中量, ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 5 黒 褐 色 炭化粒子多量, ローム粒子少量

第95号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック多量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量

第101号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第102号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第104号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第105号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 4 褐 色 ロームブロック・鹿沼パミス少量, 炭化粒子微量

第106号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

第107号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第108号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第109号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

第110号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

第111号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第112号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 (2より彩度が低い)
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 鹿沼パミス微量

第113号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第117号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第118号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

第119号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 明褐色 炭化粒子少量

第120号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

第121号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第123号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量

第125号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 灰褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ロームブロック多量
- 7 明褐色 ロームブロック多量
- 8 褐色 ローム粒子中量
- 9 極暗褐色 ロームブロック微量
- 10 褐色 ロームブロック多量 (粘性弱い)

第126号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

第127号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第131号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 明褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 (ローム中ブロック含む)

第132号土坑土層解説

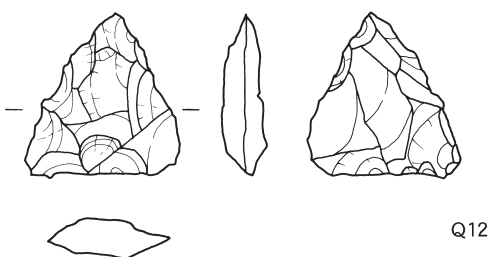
- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 3 黒色 ロームブロック微量
- 4 灰褐色 ロームブロック中量
- 5 黒色 鹿沼ブロック少量, ロームブロック微量

第134号土坑土層解説

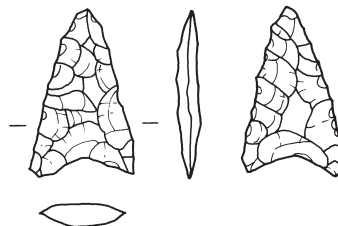
- 1 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 明褐色 ロームブロック多量

第136号土坑土層解説

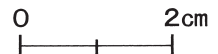
- 1 褐色 ロームブロック多量, 鹿沼パミス少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・鹿沼パミス少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量
- 5 黒褐色 鹿沼ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子多量



Q12



Q13



第74図 第62・112号土坑出土遺物実測図

第62号土坑出土遺物観察表 (第74図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q12	石鏃	2.1	2.0	0.6	1.92	チャート	平基無茎鏃 未製品カ	中層	PL15

第112号土坑出土遺物観察表 (第74図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q13	石鏃	2.2	1.4	0.3	0.83	頁岩	凹基無茎鏃	中層	PL15

表7 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)× 短径(軸)(m)	深さ(cm)					
2	D4e9	N-17° -W	楕円形	0.65×0.54	36	外傾	皿状	人為	—	
3	D4c1	N-42° -W	楕円形	0.90×0.60	47	外傾	皿状	自然	縄文土器片	
4	D4e3	N-10° -E	隅丸長方形	1.80×1.03	10	緩斜	平坦	人為	—	
5	D4d5	N-18° -E	隅丸長方形	1.84×1.16	13	緩斜	平坦	人為	—	
6	C7g3	N-8° -W	不整楕円形	2.08×1.23	26	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	
7	D6c2	N-0°	円形	1.08	90	内傾	平坦	人為	須恵器片	SD5→本跡
9	D4a2	N-0°	楕円形	1.32×1.22	52	外傾	平坦	人為	—	
10	D4b3	N-0°	楕円形	1.02×0.90	65	外傾	平坦	人為	—	
12	D4b3	N-18° -W	楕円形	1.35×1.22	64	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 瓦質土器片	
14	C7i2	N-0°	円形	0.97×0.95	27	外傾	平坦	人為	—	
17	D5d7	N-79° -E	楕円形	1.54×1.32	65	緩斜	凹凸	人為	—	
18	D5d7	N-0°	円形	0.95×0.90	100	直立	平坦	人為	—	
24	C5f6	N-39° -W	楕円形	0.99×0.87	22	直立	平坦	人為	—	SK25→本跡
25	C5f6	N-87° -W	[楕円形]	0.70×(0.40)	51	外傾	皿状	人為	縄文土器片	本跡→SK24
26	D6c1	N-0°	円形	1.09	71	直立	平坦	人為	—	
27	C5g0	N-0°	円形	1.05×[1.00]	54	直立	平坦	人為	—	本跡→SK38→SK39
28	C5f0	N-47° -W	楕円形	0.79×0.66	48	直立	平坦	人為	—	
30	C5e0	N-17° -E	楕円形	1.18×0.93	147	外傾	平坦	人為	—	
31	C5i8	N-51° -W	楕円形	1.17×1.02	75	直立	平坦	人為	—	
32	C5i8	N-0°	円形	0.86×0.82	32	直立	平坦	人為	—	
34	C7h3	N-24° -W	楕円形	0.95×0.83	33	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
36	D5e0	N-52° -W	円形	0.82×0.77	33	外傾	平坦	人為	—	
37	D5c6	N-53° -W	楕円形	1.07×0.77	20	緩斜	皿状	自然カ	—	
38	C5g0	N-0°	円形	1.15×[1.10]	62	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 陶器片	SK27→本跡→SK39
39	C5g0	N-78° -W	楕円形	0.87×0.74	50	外傾	平坦	人為	—	SK27→SK38→本跡
40	C6f5	N-23° -E	楕円形	1.01×0.89	86	外傾	平坦	人為	—	SK41→本跡
41	C6f5	N-22° -E	[楕円形]	1.14×[1.01]	73	外傾	平坦	人為	陶器片	本跡→SK40
42	C5j0	N-43° -W	楕円形	1.41×1.17	83	外傾	平坦	人為	—	
48	C6e2	N-35° -W	円形	0.98×0.90	48	外傾	平坦	人為	—	TP11→本跡
56	C7h7	N-50° -E	長方形	1.60×1.20	28	外傾	平坦	人為	—	
58	D6h8	N-10° -E	楕円形	1.31×0.95	20	外傾	凹凸	人為	—	
59	D6h7	N-29° -E	楕円形	1.09×0.86	16	外傾	平坦	人為	土師器片	本跡→SD1
60	D6g6	N-0°	楕円形	0.83×0.66	18	外傾	平坦	人為	—	
61	D6e9	N-20° -E	隅丸長方形	0.95×0.95	67	外傾	平坦	人為	—	
62	C7j1	N-40° -E	隅丸長方形	1.95×1.55	42	緩斜	平坦	自然	縄文土器片, 石鏃	

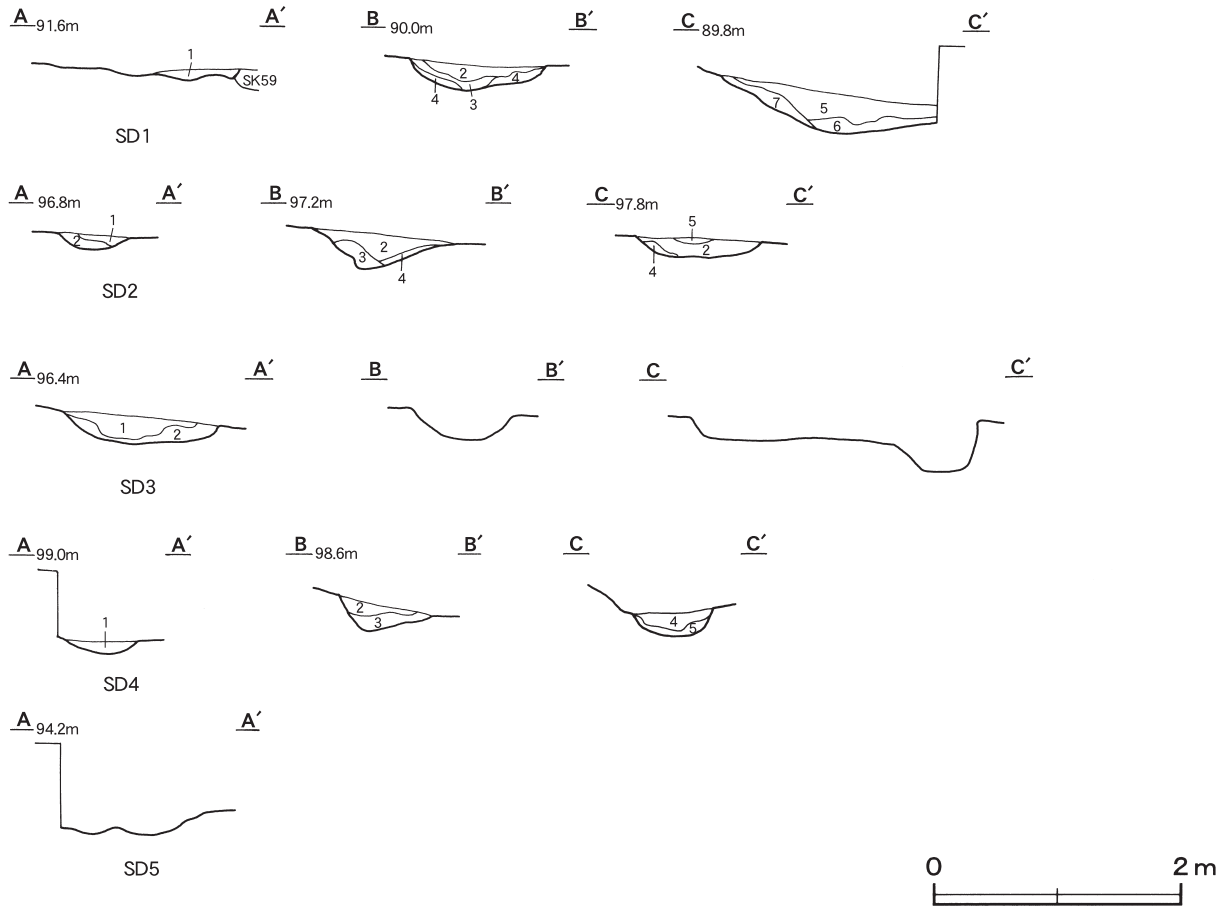
番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)× 短径(軸)(m)	深さ(cm)					
64	C3f1	N-40°-W	楕円形	1.75×1.53	74	外傾	平坦	人為	縄文土器片,馬歯	
66	C3d1	N-63°-W	長楕円形	1.33×0.72	12	直立	平坦	人為	—	
68	C3f5	N-10°-E	隅丸長方形	1.67×1.13	33	外傾	平坦	人為	土師器片	
70	C3i3	N-55°-E	楕円形	1.08×0.65	70	内傾	平坦	人為	—	陥し穴の可能性あり
71	C2g9	N-17°-W	長方形	1.98×0.97	17	外傾	平坦	人為	—	
73	C3g5	N-75°-E	不定形	1.40×1.13	9	外傾	平坦	人為	—	
76	C3j7	N-39°-E	長楕円形	1.40×0.71	50	外傾	平坦	人為	縄文土器片	陥し穴の可能性あり
81	C3f9	N-54°-W	円形	1.02×0.93	111	外傾	平坦	人為	—	
82	C3g0	N-6°-W	長方形	1.83×1.06	19	外傾	平坦	人為	—	
84	C3j0	N-14°-E	隅丸長方形	1.51×0.86	14	外傾	平坦	人為	—	
95	C6f6	N-8°-W	[長方形]	1.45×(0.40)	120	直立	皿状	自然	—	
101	C2f9	N-45°-W	楕円形	1.40×0.96	26	外傾	平坦	自然	縄文土器片,土師器片	陥し穴の可能性あり
102	D3b1	N-84°-E	楕円形	1.23×0.66	36	外傾	平坦	人為	縄文土器片,土師器片	陥し穴の可能性あり
104	D2a0	—	—	(1.77)×(0.73)	39	外傾	平坦	人為	縄文土器片	本跡→SH1
105	C2e8	N-44°-E	長方形	2.21×1.05	45	直立	平坦	人為	縄文土器片,土師器片	SI4→本跡
106	D3c2	N-63°-W	楕円形	1.12×0.84	17	緩斜	平坦	自然	縄文土器片,土師器片	
107	D3d1	N-52°-W	[楕円形]	(1.62)×1.28	13	緩斜	平坦	自然	縄文土器片,土師器片	
108	D3c2	N-75°-W	楕円形	1.08×0.88	26	緩斜	皿状	自然	土師器片	
109	D3d2	N-72°-W	長楕円形	2.10×0.97	38	緩斜	平坦	人為	縄文土器片	本跡→SK110
110	D3d1	N-66°-W	楕円形	0.97×0.88	30	外傾	平坦	人為	—	SK109→本跡
111	D3e4	N-21°-E	不定形	1.08×0.92	50	緩斜	凹凸	自然	—	
112	D3b2	N-40°-E	長楕円形	2.73×0.95	63	外傾	平坦	自然	縄文土器片,土師器片,石鏃	SK113→本跡
113	D3b6	N-62°-W	[長楕円形]	(1.32)×1.20	24	外傾	平坦	自然カ	縄文土器片,土師器片	本跡→SK112
117	C4d9	N-11°-W	楕円形	1.07×0.50	13(26)	外傾	凹凸	人為	—	
118	C4e7	N-50°-E	[楕円形]	0.60×(0.29)	40	緩斜	凹凸	自然	—	SK119→本跡
119	C4e7	N-23°-E	[長方形]	0.51×(0.41)	22	緩斜	皿状	自然	—	本跡→SK118
120	C4e8	[N-57°-W]	不定形	(0.68)×0.55	18	外傾	皿状	人為	—	本跡→SK126
121	C4e8	N-50°-W	楕円形	0.69×0.53	35	外傾	皿状	自然カ	—	
123	C4d6	N-82°-E	楕円形	1.13×0.57	8	緩斜	平坦	人為	—	
125	C4e8	N-6°-E	瓢形	3.80×[2.80]	106	外傾	平坦	自然カ	—	TP30→本跡
126	C4e8	N-28°-W	楕円形	0.99×0.51	42	緩斜	皿状	自然カ	—	SK120→本跡
127	C4e8	N-23°-W	楕円形	0.45×0.40	12	緩斜	皿状	自然カ	—	
131	C4d4	N-88°-E	楕円形	1.45×1.12	105	外傾	平坦	人為	—	
132	C4e3	N-74°-E	長方形	1.22×0.85	62	直立	平坦	人為	—	
134	C4b4	N-19°-E	円形	0.75×0.74	12	緩斜	平坦	人為	—	
136	C4e2	N-19°-W	楕円形	1.04×0.85	83	外傾	平坦	人為	—	

(3) 溝跡 (第75・85図)

溝跡5条を確認した。第1・5号溝は、調査区東部のD6区で確認された。第1号溝は東西方向に延び、第5号溝は部分的に確認されただけで全容は不明であるが、南北方向に延びていると推測される。第2・3・4号溝は調査区中央部のC4区で確認された。第2号溝は東西方向に、第3・4号溝は南北方向に延びている。

これらの溝は、土地の筆境や道路との境界にほぼ一致することから、区画溝あるいは根切り溝である可能性が想定される。第1・2・4号溝からは、縄文土器片や土師質土器片等が、少量出土しているが、い

ずれも流れ込みによるものと考えられる。以下、これらの溝跡について、平面図は遺構全体図（第85図）に示し、土層断面図及びエレベーション図を記載する。



第75図 溝跡実測図

第1号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量, 白色粘土ブロック微量
- 7 褐色 ローム粒子多量

第2号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

- 4 明褐色 ロームブロック多量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第3号溝跡土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第4号溝跡土層解説

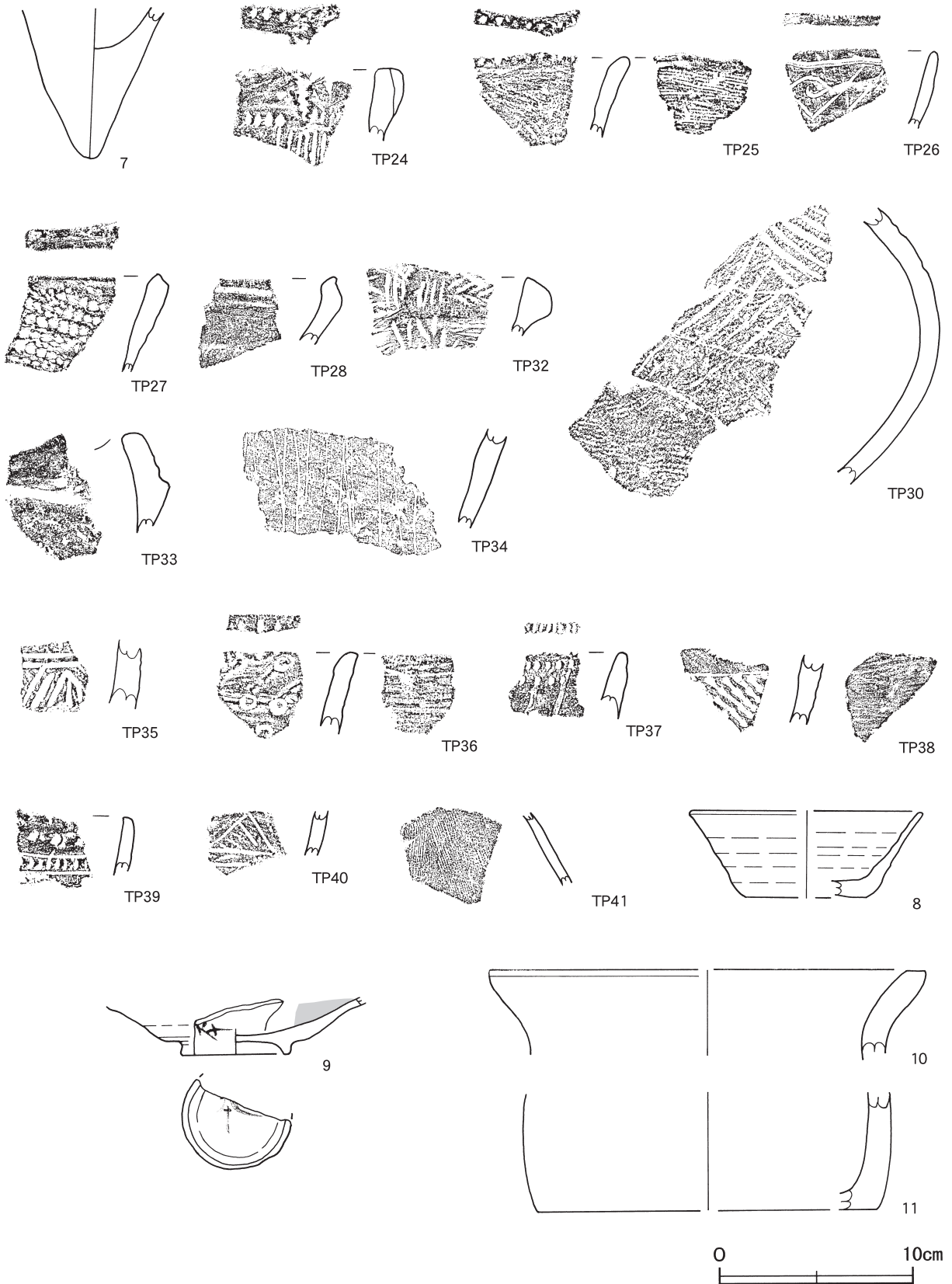
- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 鹿沼バミス微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ロームブロック中量

表8 溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	最大上幅(m)	最大下幅(m)	深さ(cm)				
1	D6f1~D6j9	N-114°-E	直線状	(36.0)	1.00	0.67	8~32	皿状	自然	縄文土器片, 土師器片, 土師質土器片	T P 20, S K 59→本跡
2	C4e6~C4e0	N-92°-E	直線状	(16.0)	1.15	0.50	10~30	皿状	自然	縄文土器片	
3	C4c9~C4d9	N-25°-W	直線状	(3.2)	1.20	0.90	23~46	皿状	自然	-	
4	C4e3~C4a1	N-5°-W~ N-55°-W	S字状	(18.4)	0.80	0.60	10~22	皿状	自然	縄文土器片	
5	D6c1~D6b3	N-50°-E	直線状	(6.8)	1.10	0.90	8~15	凹凸	不明	縄文土器片	本跡→S K 7

(4) 遺構外出土遺物

遺構に伴わない主な遺物について、実測図（第76～78図）と出土遺物観察表で記載する。



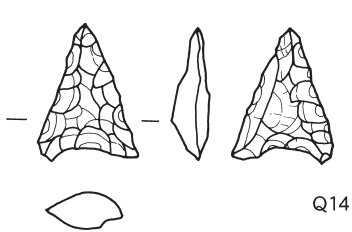
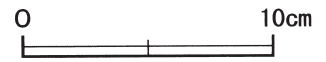
第76図 遺構外出土遺物実測図(1)



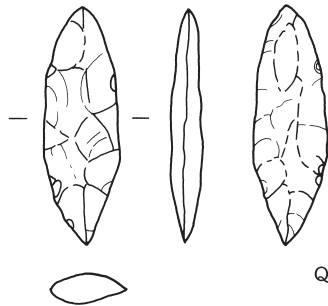
12



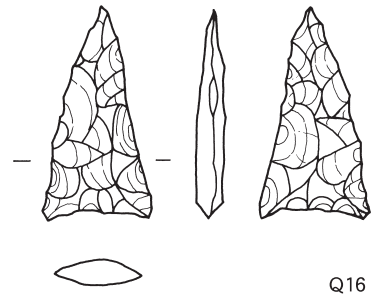
13



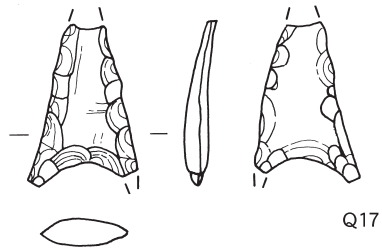
Q14



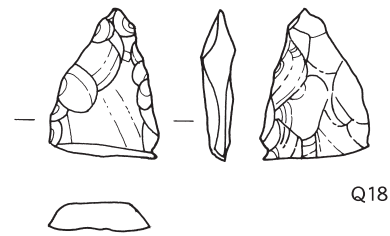
Q15



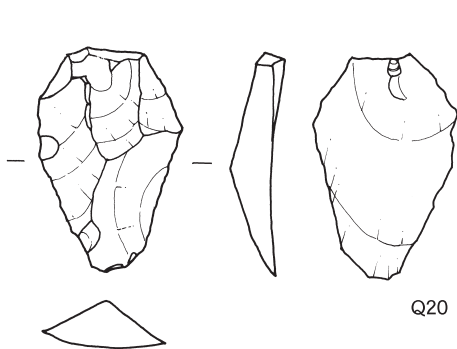
Q16



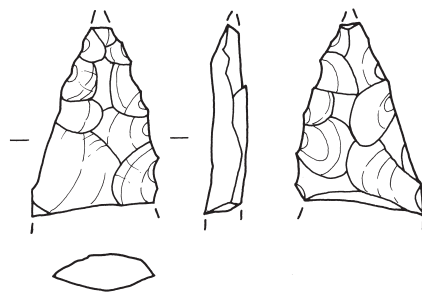
Q17



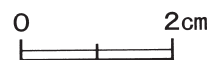
Q18



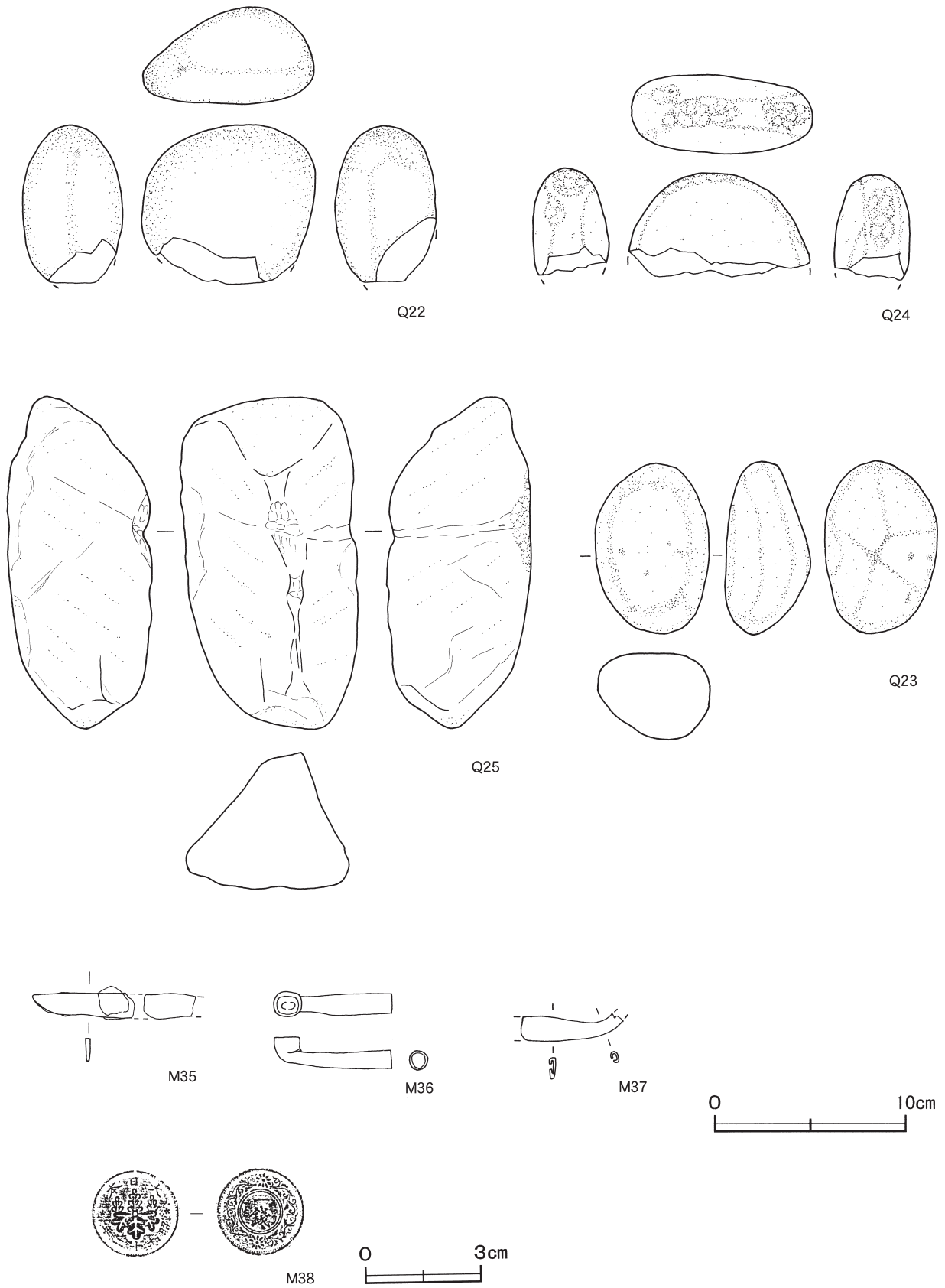
Q20



Q21



第77図 遺構外出土遺物実測図(2)



第78図 遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表（第76～78図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
7	縄文土器	尖底土器	-	(7.8)	-	長石・石英	橙	普通	外面ナデ	表採 C5j6区	5% PL11
8	須恵器	坏	[12.0]	4.4	[6.0]	長石・針状鉱物	黄灰	普通	ロクロナデ	表採	20%
9	土師器	高台付皿	-	(1.8)	5.4	長石・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	表採	10%墨書「本」カ PL11
10	土師質土器	鍋カ	[22.2]	(4.3)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部内・外面横ナデ	表採 C5j6区	5% PL11
11	土師質土器	鍋カ	-	(6.0)	[17.4]	長石・雲母	灰	普通	内・外面ナデ	表採	5%
12	土師質土器	焙烙	[28.8]	2.8	[29.6]	長石・雲母	灰	普通	内・外面横ナデ	表採	5%
13	瓦質土器	鏝掛けカ	[25.4]	5.4	[26.8]	長石・雲母	灰	普通	内・外面横ナデ	表採	5% PL11

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP24	縄文土器	深鉢	-	3.9	-	長石・石英	橙	普通	口唇部内側に刻み 波頂部下貝殻縁文のある隆帯 横位の刻みのある隆帯と垂下する集合沈線	表採 B2区	早期中葉 PL12
TP25	縄文土器	深鉢	-	4.2	-	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口唇部外側に刻み 内外面貝殻条痕文	表採 C2区	早期後葉 PL12
TP26	縄文土器	深鉢	-	3.9	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	沈線で曲線的なモチーフと山型のモチーフを描く	表採 C2区	早期中葉 PL12
TP27	縄文土器	深鉢	-	5.1	-	長石・石英	にぶい橙	普通	LRの単節縄文	表採	後期前葉 PL12
TP28	縄文土器	深鉢	-	3.5	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部横位の沈線	表採	後期前葉 PL12
TP30	縄文土器	浅鉢	-	14.3	-	長石	黒褐	普通	単節縄文を地文とし上半に4条以上を単位とする弧状の沈線	表採 C3区	後期前葉 PL14
TP32	縄文土器	深鉢	-	2.9	-	長石	にぶい橙	普通	口唇部貝殻腹縁圧痕文 波頂部下連続する波状貝殻腹縁圧痕文	表採	早期中葉 PL12
TP33	縄文土器	深鉢	-	5.2	-	長石	浅黄橙	普通	横位の太い沈線と平行する隆帯 波状口縁カ	表採 D2区	中期後葉カ PL12
TP34	縄文土器	深鉢	-	5.3	-	長石	にぶい橙	普通	縦位の細く粗い条線文	表採 D2区	早期後葉 PL14
TP35	縄文土器	深鉢	-	3.3	-	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線で文様を描く	表採 D2区	後期前葉 PL14
TP36	縄文土器	深鉢	-	4.2	-	長石	にぶい褐	普通	外面沈線で幾何学モチーフを描く 交点に円形竹管文 内面貝殻条痕文	表採 D3区	早期後葉 PL12
TP37	縄文土器	深鉢	-	3.5	-	長石・石英	暗赤褐	普通	口唇部刻み 口縁部2列の刺突文列	表採 D3区	早期後葉 PL12
TP38	縄文土器	深鉢	-	3.7	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	外面沈線と刺突文で幾何学モチーフを描く 内面貝殻条痕文	表採 D3区	早期後葉 PL14
TP39	縄文土器	深鉢	-	3.1	-	長石・石英	黒褐	普通	口唇部外面に刻み 口縁部に刺突文 横位の刻みのある隆帯とそれに沿う2条の平行沈線	表採	早期中葉 PL12
TP40	縄文土器	深鉢	-	2.5	-	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線と貝殻腹縁文	表採	早期中葉 PL14
TP41	土師器	甕	-	3.8	-	長石	黒褐	普通	体部ハケ目調整	表採	古墳前期 PL14

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q14	石鏃	1.8	1.3	0.5	0.78	チャート	凹基無茎鏃	表採	PL15
Q15	尖頭器	3.1	1.0	0.4	1.16	安山岩	木の葉型	表採	PL15
Q16	石鏃	2.8	1.5	0.4	1.18	チャート	凹基無茎鏃	表採 C4e0区	PL15
Q17	石鏃	(2.0)	1.5	0.4	(1.02)	頁岩	凹基無茎鏃 先端部欠損	表採	PL15
Q18	石鏃	2.0	1.5	0.4	1.18	チャート	平基無茎鏃	表採	PL15
Q20	剥片	3.0	1.9	0.7	2.64	チャート	縦長剥片 石鏃の素材カ	表採	PL15
Q21	石鏃	(2.5)	(1.7)	0.6	(1.98)	チャート	基部欠損	表採 C3i9区	PL15
Q22	磨石	(8.2)	10.0	5.2	(502)	安山岩	全面研磨痕 一端部欠損	表採 C2区	PL17
Q23	磨石	9.0	6.0	4.5	315	安山岩	全面研磨痕	表採 C2区	PL17
Q24	敲石	(5.5)	9.5	4.1	(312)	安山岩	上端部に敲打痕 下端部欠損	表採 C3区	
Q25	台石	17.3	9.2	(7.4)	(1350)	砂岩	二側縁に敲打痕	表採	PL16

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M35	刀子	(8.5)	1.3	0.3	(6.95)	鉄	茎部欠損	表採	PL17
M36	煙管雁首	6.1	1.3	1.8	8.60	銅	火皿部円形 接合部断面円形	SI3炉	PL17
M37	煙管吸口カ	(5.4)	0.3	(1.3)	(3.20)	銅	接合部一部欠損	表採 C2区	PL17

番号	銭名	径	孔幅	重量	初铸年	材質	特徴	出土位置	備考
M38	一銭銅貨	2.26	-	3.28	1937	銅	表絵柄 桐	表採	PL18

第4節 ま と め

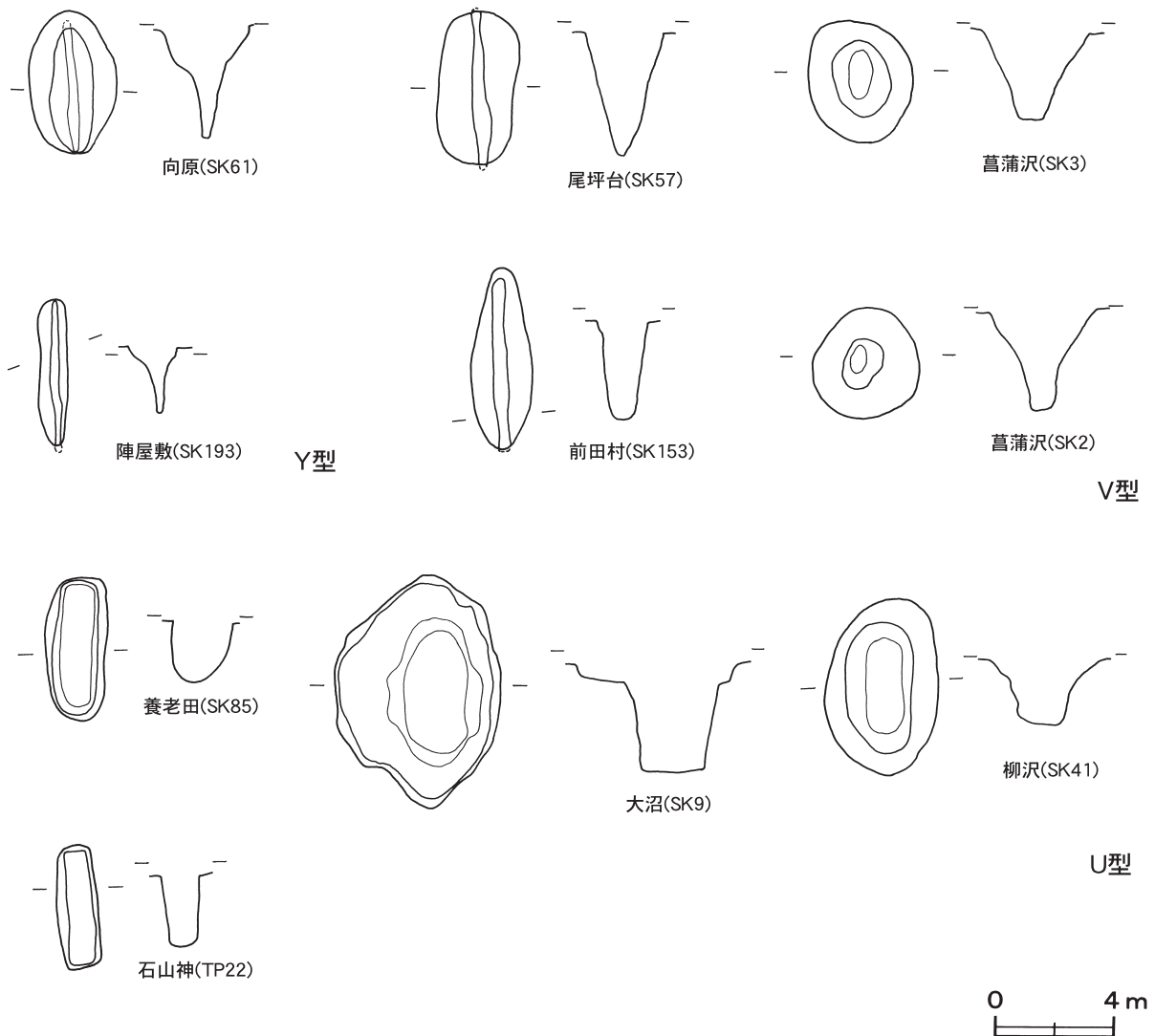
調査の結果，縄文時代の竪穴住居跡3軒，陥し穴31基，屋外炉跡2基，平安時代の竪穴住居跡2軒，近世の墓坑5基，時期不明の方形竪穴遺構1基，土坑71基，溝跡5条が確認され，当遺跡は縄文時代，平安時代，近世の複合遺跡であることが明らかになった。

縄文時代には，確認された竪穴住居跡を拠点として，当地は狩猟場として利用されていたと考えられる。その後，平安時代の一時期に小規模な集落が営まれ，近世には墓域としてその一部が利用されていた。

ここでは，確認された遺構と遺物のうち，縄文時代の陥し穴と近世の墓坑について若干の検討を行い，まとめたい。

1 縄文時代の陥し穴

縄文時代の陥し穴と考えられる土坑が31基確認されている。これらの土坑は，出土遺物がわずかであるため，時期の詳細を明らかにすることは困難であるが，その形状から縄文時代の陥し穴と判断したものである。以下，陥し穴について考察する。



第79図 陥し穴の横断面形状の分類（註1 文献第261図から引用）

(1) 陥し穴の分類

確認された31基の陥し穴について、規模や形状から分類してみる。分類の観点は、断面形状、平面形状、底面の小ピットの有無、規模の4点である。

ア 断面形状について

陥し穴の横断面（短軸方向の断面）の形状に着目して、武田石高遺跡¹⁾ や西原遺跡²⁾ では、横断面がY字状を呈するもの（Y型）、V字状を呈するもの（V型）、U字状を呈するもの（U型）の3つに分類している（第79図参照³⁾）。この分類に従えば、当遺跡の陥し穴はすべてU型に該当する。

さらに、西原遺跡では、縦断面（長軸方向の断面）の形状にも着目し、次の4つの形状に分類している（第80図参照）。

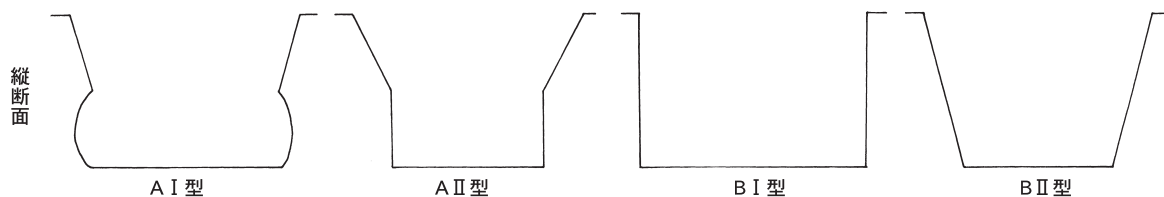
A I型 括れ部を有し、開口部が広がる型で、中位から下位の壁が尖って張り出す型。

A II型 括れ部を有し、開口部が広がる型で、中段の括れから、壁が垂下する型。

B I型 中段に括れを持たず、壁面が直線的に開口部へ広がる型で、壁が直立している型。

B II型 中段に括れを持たず、壁面が直線的に開口部へ広がる型で、壁が外傾して立ち上がる型。

当遺跡の陥し穴は、A I型が2基、A II型が4基、B I型が7基、B II型が18基（内1基は推定）で、B II型が半数以上を占めている。



第80図 陥し穴の縦断面形状の分類模式図（註2文献第14図から引用）

イ 平面形状について

当遺跡の陥し穴の確認面での形状は、楕円形・長楕円形・隅丸長方形・長隅丸長方形の4種類に分類することができる。この形状については、次のような遺跡の分類を参考にしている。

武田石高遺跡では、長楕円形から楕円形・楕円形・隅丸長方形・隅丸長方形の4つに、また、西原遺跡では、短楕円形・楕円形・長楕円形・細長楕円形・長方形の5つに分類している。さらに、登谷遺跡⁴⁾ では、長楕円形・楕円形・円に近い楕円形・円形等に分類している。この中で、西原遺跡では、分類するに当たり「長短軸指数」（長短軸指数＝短軸／長軸×100⁵⁾）を示し、50前後を正楕円形（標準の楕円形）、それ以上を短楕円形、それ以下を長楕円形としている。

当遺跡でも、「長短軸指数」を基準とし、長短軸指数48以上を楕円形及び隅丸長方形、47以下を長楕円形及び長隅丸長方形とした。その結果、楕円形が8基（1基は推定）、長楕円形が4基、隅丸長方形が8基、長隅丸長方形が11基となった。

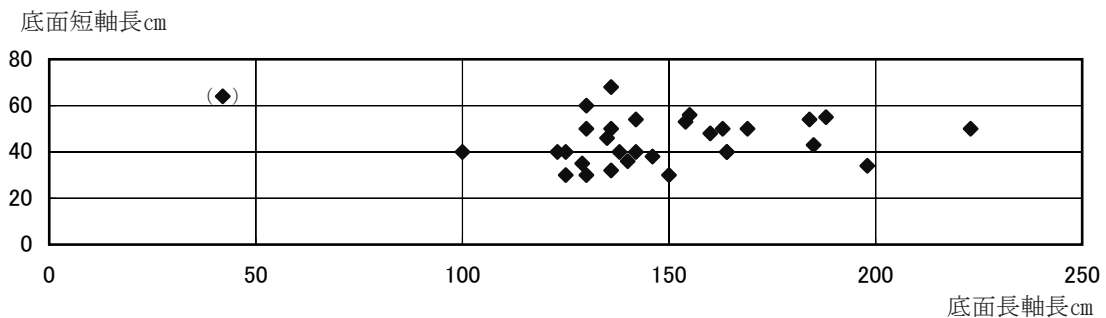
また、底面の形状については、登谷遺跡で、長方形・楕円形・長楕円形・四隅が突出する形等に分類している。当遺跡の陥し穴の底面形状は、すべて隅丸長方形と捉えることができる。

さらに、登谷遺跡では、小ピットの位置にも着目し、底部に逆茂木の跡と考えられる小ピットが確認されたか否かも分類の観点としている。当遺跡で小ピットを持つものは6基である。

ウ 規模

規模によって分類する場合は、計測値の集中と分散や平均値等をもとにして、遺跡ごとに便宜的な分類基準を設けている。武田石高遺跡では、底面の長軸長の計測値の分散・集中具合を、複数の遺跡で比較して基準を設定している。また、西原遺跡では、長軸長の平均を基準として、それより大きいもの（大型）と小さいもの（小型）に分類している。

当遺跡の陥し穴については、武田石高遺跡で示された基準に照らし合わせつつ、底面の長軸長の分散と集中具合から（第81図参照）、底面長軸長が1.7m未満のもの、1.7m以上3m未満のもの、3m以上のものの3つに分類した。その結果、1.7m未満のもの（小形）が25基、1.7m以上3m未満のもの（中形）が5基で、3m以上のもの（大形）はない（不明1基）。



第81図 向原遺跡陥し穴底面の長軸長と短軸長

エ 向原遺跡の陥し穴の規模や形状の傾向

ア、イ、ウを踏まえ、当遺跡の陥し穴を分類すると表9のようになる。確認面での平面形は、楕円形グループと隅丸長方形グループに分けて見ると、隅丸長方形グループがやや多く、長軸と短軸の比率を見ると、標準のものとやや細長いものが半々である。横断面はすべてU字状を呈しており、縦断面は、壁が直線的に外傾して立ち上がるか、直線的に直立する型が圧倒的に多い。壁の中位に括れをもつ型は6基と少なく、下位の壁が張り出し、中位がオーバーハングする型はわずか2基である。それら6基の平面形は楕円形又は長楕円形で、隅丸長方形を呈するものはない。小ピットを持つものは6基で、うち4基は長軸方向の壁が直線的に外傾して立ち上がる型に見られる。規模は、小形のものほとんどである。断面がY字状やV字状で、開口部の幅が狭く、大形の、いわゆる「溝状陥し穴」は1基も確認されていない。

表9 向原遺跡の陥し穴の分類

縦断面形状	確認面の形状			
	楕円形	長楕円形	隅丸長方形	長隅丸長方形
AI型	15P	29中	—	—
AII型	1 18 31	23中	—	—
BI型	—	—	16P 26	8 11中 13 22 28中
BII型	3 7 9 27	20P 24P	2P中 4 6 12 14P 19	5 10 17 21 25 30

※ 番号は陥し穴の番号。Pは小ピットあり。中は中形。

(2) 陥し穴の配置・配列

武田石高遺跡では「陥穴状遺構の分布には、同時に機能したことの証明は困難であっても、規則性をうかがうことができるものもある。むしろ、単独で機能した陥穴状遺構を積極的に捉えることが現状では難しい。」⁶⁾と述べられ、規則性が認められる分布を以下のように分類している。

I 型 2基の対の配置。

II A型 3基以上の配置で、遺構の間隔が10m以上の疎な配置。

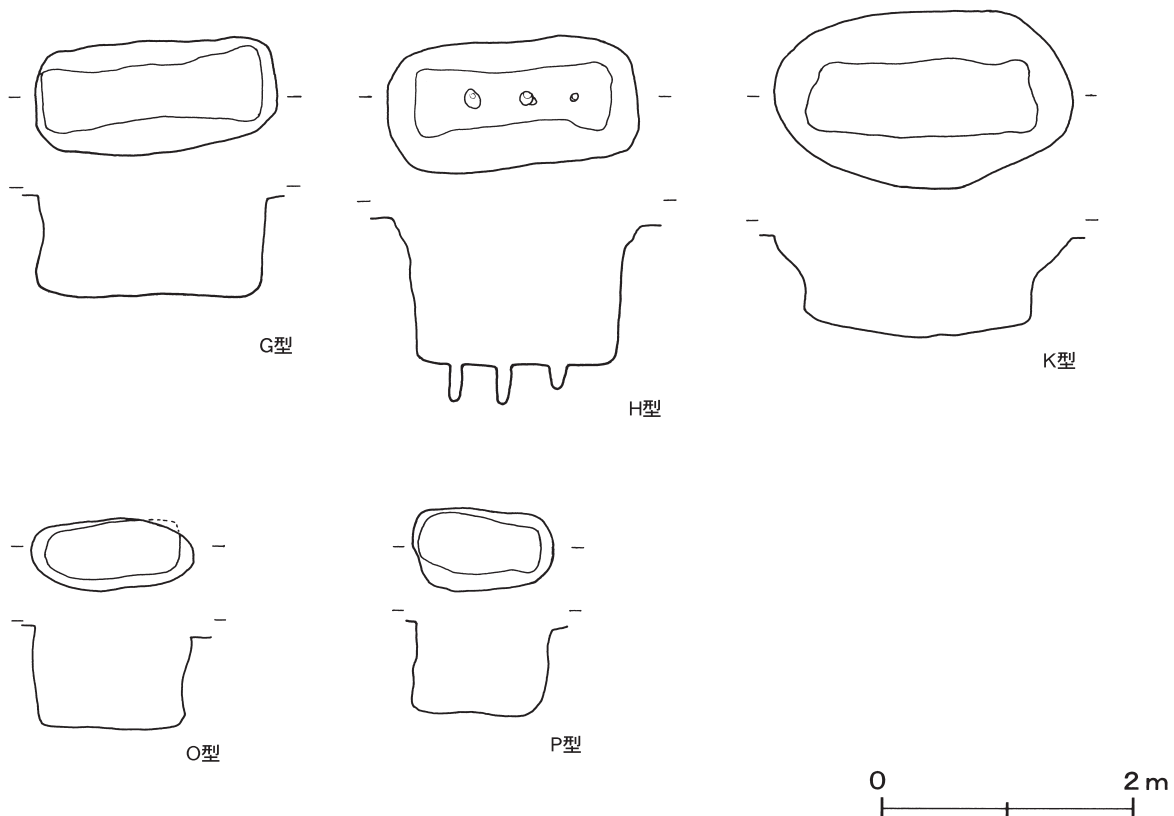
II B型 3基以上の配置で、遺構の間隔が10m未満の密な配置。

いずれの型とも、長軸を平行にして並び、短軸を平行にして並ぶことはなく、さらに、単位と考えられる配置を連続的に配列することが認められ、茨城県内の複数の遺跡を事例に標準型を示している。

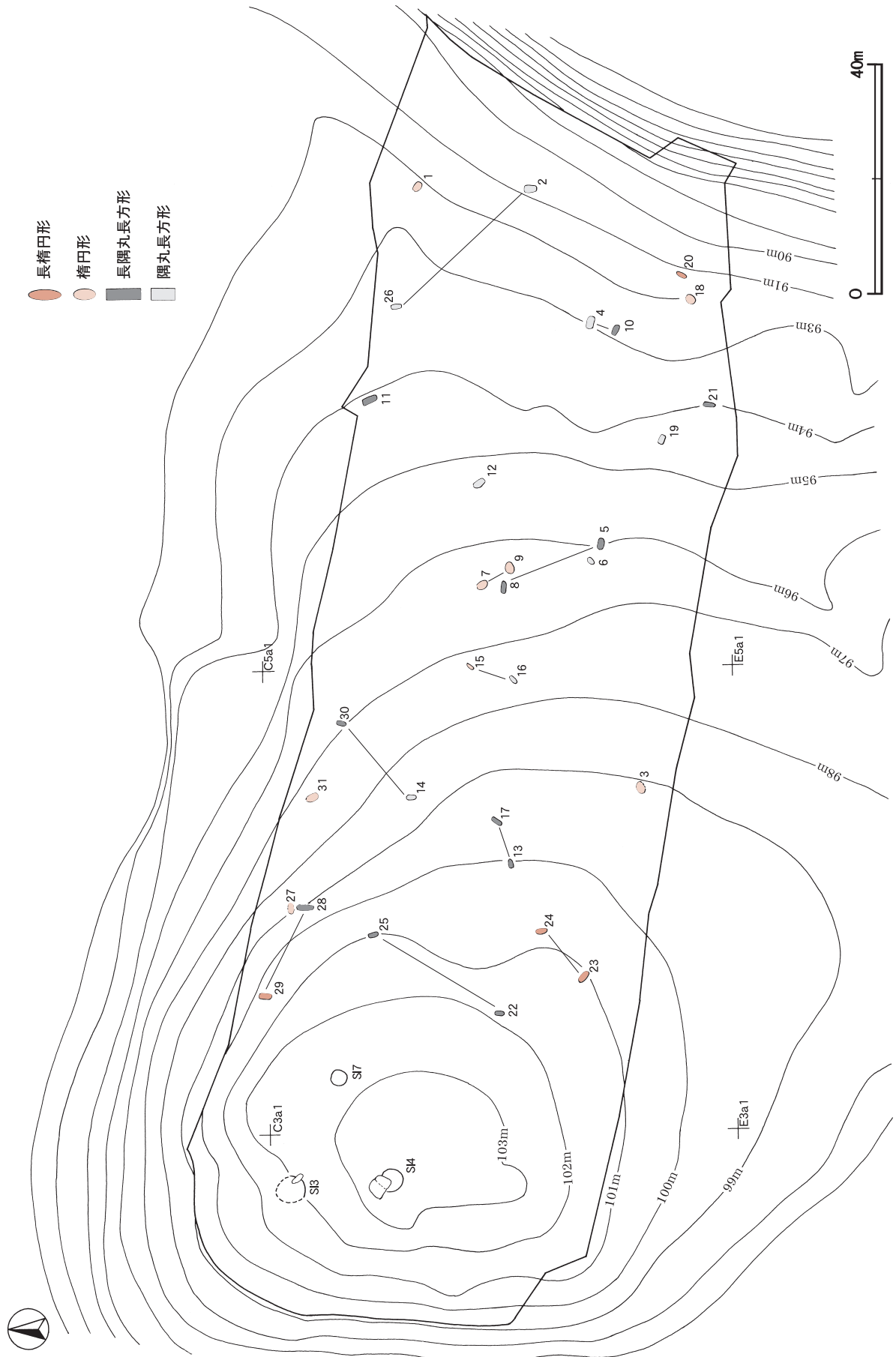
当遺跡の陥し穴の分布は第83図に示したようになり、一見すると不規則な分布を示しており、陥し穴が短軸を平行にして直線状あるいは弧状に配列される様子は見られない。しかし、I型が複数配列されていると考えることは可能であり、第83図の中の線で結んである陥し穴が、規模や形状から対になると考えられるものである。当遺跡では、単独で存在するものもあるが、2～3基を一つの単位として配列されているといえる。

(3) 陥し穴の時期

陥し穴については、出土土器が必ずしも時期を示すものではないとの指摘がある上、当遺跡では出土している土器が極わずかであり、時期を明確にすることは困難である。しかし、登谷遺跡の事例及びここまでの考察をもとに時期を推定してみたい。



第82図 登谷遺跡陥し穴の形態分類（註4文献第217図から引用）



第83図 向原遺跡陥し穴の配置図

登谷遺跡では213基の陥し穴が確認され、それに主眼を置いた調査を行っている。その結果、「掘込面と覆土」「出土遺物」「他遺構との切り合い」という要素について多くの情報を得、さらに、「火山灰分析」と「C14年代測定」の結果を加味して、時期設定を試みている。そして、各時期ごとに陥し穴の形態を観察し、時期によって1つあるいは複数の群にまとまることから、それを細別の形態として分類している。この分類に従えば、当遺跡の陥し穴は、登谷遺跡のG型・H型・K型・O型・P型（第82図）に相当すると考えられる。これらの型に当てはまる時期は、G型・H型が早期末葉、K型・O型・P型が前期である。この結果を裏付けるように、当遺跡では、早期末葉から前期前葉と考えられる竪穴住居跡が3軒確認されており、遺物包含層からも、同時期の土器片が多数出土している。陥し穴からも同時期の土器片が出土しており、おおむね早期末葉から前期を中心とした陥し穴群ととらえている。

また、すでに指摘したように、当遺跡の陥し穴の分布は一見すると不規則であるが、対になる配置が複数見られる。登谷遺跡における早期末葉及び前期の陥し穴の分布にも同様の傾向が見られ、尾根上から斜面にかけて2～3基がまとまって配置されたり、2基一対で配置されたりしている。以上のことから、当遺跡の陥し穴が当該期のものであることが推定される。

(4) 小結

当遺跡では、調査区西側の小丘陵の最頂部に縄文時代早期末葉から前期前葉の竪穴住居跡が3軒確認されている。この地点から東側は、緩やかな傾斜面が続いており、そこに陥し穴が分布している。このことから、最頂部を居住の場とし、その東側の緩斜面を狩猟場としていた可能性が考えられる。最頂部付近の遺物包含層をはじめ、調査区からは石鏃やチャートの剥片が複数出土している。石核やハンマーは確認されていないものの、近くで狩猟用の石鏃などが製作されていた可能性も考えられる。

陥し穴を列配置せず、2～3基単位、あるいは単独で配置する場合は、けもの道をねらって作られていると考えられる。しかも、当遺跡では底面の長軸長が1.7m未満の小形のものが多く、猟の対象はノウサギやタヌキあるいはイノシシなどであったと考えられる。

旧笠間市域では、中山遺跡⁷⁾や小組遺跡⁸⁾でも丘陵性台地の尾根部に近い緩斜面で陥し穴が確認されている。また、旧岩瀬町域の高幡遺跡⁹⁾や旧友部町域の石山神遺跡¹⁰⁾でも陥し穴が確認されており、筑波山塊北嶺一帯の丘陵性台地上には、陥し穴を構築した狩猟場が広く分布している様子がうかがわれる。

2 近世の墓坑

近世と考えられる墓坑が5基確認された。これらは、形状が独特で、二段に掘り込まれている。同様の形状を呈する墓坑は、福原打越塚群¹¹⁾と登谷遺跡¹²⁾で、それぞれ2基ずつ確認されている。ここでは、これらの墓坑について若干の考察を行う。

(1) 墓坑の規模と形状

向原第1～5号墓坑（以下向原1～5と記載）及び福原打越塚群第1・2号墓坑（以下福原1・2と記載）は、上段の平面形状は一辺1.0～1.9mの方形を呈し、コーナー部又は中央部に一辺50～70cmほどの方形の二段目の掘り込みを有している。登谷遺跡B1・B26土葬墓（以下登谷B1・B26と記載）は、上段の平面形状は直径1.8～2.1mの円形を呈し、B1は中央部に直径1.1mの円形の、B26は一辺1mほどの方形の二段目の掘り込みを有している（第84図参照）。確認面からの深さは、向原1～5及び福原1・2の上段は38～66cm、下段は98～145cmである。登谷B1の上段の深さは40cmである。これら9基について便宜的に分類するなら、平面形状が上段・下段とも方形を呈するもの（1型）、上段・下段とも円形を呈

するもの（2型）、上段は円形で下段は方形を呈するもの（3型）に分けられ、さらに1型は下段の掘り込みの位置が、コーナー部に位置する（1型a）のか中央部に位置する（1型b）のかで2つに分けられる。まとめると表10のように、1型aが3基、1型bが4基、2型が1基、3型が1基となる。

(2) 墓坑の分布状況

当遺跡及び福原打越塚群においては、調査区内で確認された墓坑はすべて二段の掘り込みを有する墓坑である。登谷遺跡では、26基の墓坑（土葬墓）が、ある一定の範囲にまとまって確認されており、そのうち2基のみが二段の掘り込みを有するものである。他の24基は、平面形状が方形で壁がまっすぐに落ちる形状を呈している。また、他の24基が複数まとまって確認されている（一部が重複するものもある）のに対して、登谷B1・B26は単独で存在している。

向原1～5は、D6区の南西部で、東西16m、南北28mの範囲で5基が確認されており、それぞれ単独で存在していると捉えたい分布状況である。福原1・2は東西に隣り合って確認されている。

(3) 墓坑の時期

福原2は17世紀末以降、福原1は近世と考えられ、登谷遺跡の墓坑（土葬墓）は、登谷B1・B26を含めて、すべて17世紀末～18世紀代と判断されている。向原1～5も、出土した寛永通寶から判断すれば、17世紀末以降といえるだろう。ここで取り上げた9基の二段掘り込みを有する墓坑は、ほぼ17世紀末以降という年代に当てはまることになる。

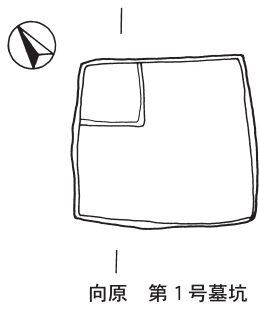
(4) 埋葬方法・形態

向原1～5では鉄釘片が複数出土しており、木質が付着しているものが見られたことや、下段の掘り込みが方形であることから、遺体は方形の木棺に納められたと考えられる。福原1・2、登谷B26でも鉄釘片あるいは鉄釘片と見られる遺物が出土しており、向原1～5と同様と考えられる。登谷B1については不明である。

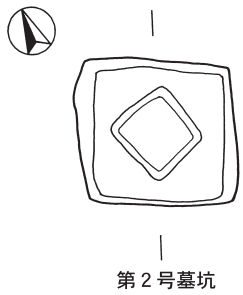
埋葬位は、広い意味での座葬と考えられる。詳細に見ると、木棺を納めたと考えられる下段の底部の規模が、登谷B26・福原2は60～70cmほどあるが、向原1～5、福原1は40～50cm弱程度で、正座や胡座の姿勢をとらせるにはやや狭小であることから、蹲る姿勢の蹲葬であったと考えられる。なお、江戸市中においては蹲葬が多く（おそらく墓地の確保の面からだと考えられる）、江戸周辺の農山村でも同様の傾向があるといわれる¹³⁾。

(5) 小結

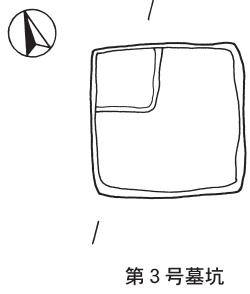
当遺跡及び福原打越塚群においては、確認された墓坑はすべて二段の掘り込みを有するものである。しかし、登谷遺跡においては、確認された26基のうち、わずか2基だけが二段の掘り込みを有するものである。このことから、二段の掘り込みを有する墓坑は、登谷遺跡では特別な意味を持つものであることが想定されるのに対し、当地においては一般的な形態であったと想定することが可能であり、当地の墓坑の特徴といえる。今後、類例の増加によって、詳細な検討が進められることを望む。



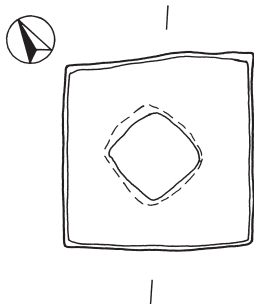
向原 第1号墓坑



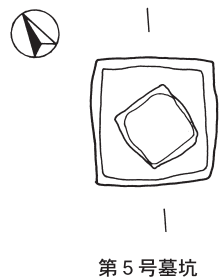
第2号墓坑



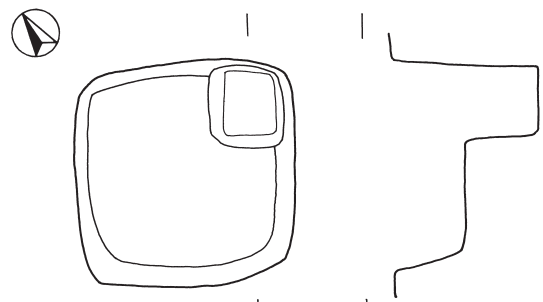
第3号墓坑



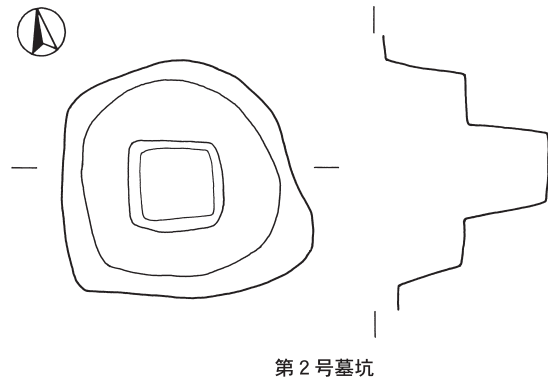
第4号墓坑



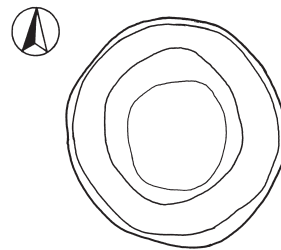
第5号墓坑



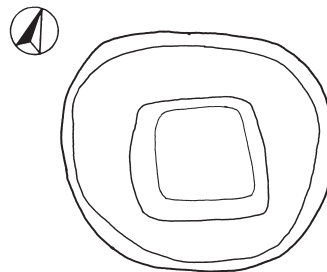
福原打越塚群 第1号墓坑



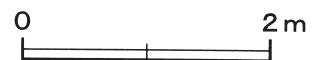
第2号墓坑



登谷 B1土葬墓



B26土葬墓



第84図 二段の掘り込みを有する墓坑

表10 二段の掘り込みを有する墓坑の分類

上段平面形		方 形	円 形
下段平面形	円 形	—	2型 登谷B 1
方 形	1型a	下段がコーナー部 向原1 向原3 福原1	3型 登谷B 26
	1型b	下段が中央部 向原2 向原4 向原5 福原2	

註

- 1) 鈴木素行 加藤博文 長沼正樹 柴田徹 山本薫 高松武次郎「武田石高遺跡 旧石器・縄文・弥生時代編」『(財) ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第15集 財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社 1998年1月
鈴木氏は、茨城県内の陥し穴状遺構の集成を行った上で、武田石高遺跡の陥し穴状遺構について考察されている。
- 2) 赤井博之 小川和博 大淵淳志 石川太郎「西原遺跡 山加電業株式会社社村岡地先倉庫等建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」『千代川村埋蔵文化財発掘調査報告書』第6集 千代川村教育委員会村史編さん室 有限会社日考研茨城 2000年3月
- 3) 西原遺跡ではY字状を呈するものをY I型・Y II型に細分している。
- 4) 中村紀男「登谷遺跡調査報告書ツインリンクもてぎ内のホテル建設に伴う発掘調査」登谷遺跡調査団 2002年4月
- 5) 報告書中には、「長短軸指数=長軸/短軸×100」と記載されているが、実際には「短軸/長軸×100」で算出されている。
- 6) 註1) に同じ
- 7) 横倉要次 早川麗司「中山遺跡 福原打越塚群 上加賀田宮後東遺跡 北関東自動車道(協和～友部) 建設事業地内埋蔵文化財調査報告書VI」『茨城県教育財団文化財調査報告』第227集 2004年3月
- 8) 本書
- 9) 横倉要次 早川麗司 越田真太郎「高幡遺跡 加茂東遺跡 犬田山神古墳 北関東自動車道(協和～友部) 建設事業地内埋蔵文化財調査報告書VII」『茨城県教育財団文化財調査報告』第228集 2004年3月
- 10) 上野修生「茨城県立総合教育研修センター(仮称) 建設用地内埋蔵文化財調査報告書 石山神遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第62集 1990年3月
- 11) 註7) に同じ
- 12) 註4) に同じ
- 13) 古泉弘「近世墓研究の課題と展望—基調報告—」『墓と埋葬と江戸時代』江戸遺跡研究会 2004年8月

参考文献

- ・ 後藤孝行「中内西ノ妻遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第234集 2005年3月
- ・ 今村啓爾「陥穴(おとし穴)」『縄文文化の研究』第2巻(生業) 雄山閣 1994年8月
- ・ 越川敏夫他「向原遺跡 茨城県土浦市向原遺跡調査報告書」向原遺跡調査会 土浦市教育委員会 1987年12月
- ・ 戸沢充則他「茨城県稲敷郡美浦村陣屋敷遺跡 1989年度の陣屋敷遺跡(台地部) における弥生・古墳・平安時代集落址の調査研究報告書」陸平研究所報告1 美浦村 陸平調査会 1992年12月
- ・ 中村幸雄「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書14 尾坪台遺跡 十三塚遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第39集 1986年3月

- ・ 吉原作平「伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1 西ノ脇遺跡 前田村遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第87集 1994年3月
- ・ 汀安衛「茨城県行方郡北浦村 菖蒲沢遺跡調査報告書」菖蒲沢遺跡調査会 1991年11月
- ・ 川崎志郎他「日立市大沼遺跡発掘調査報告書」『日立市文化財調査報告』第3集 日立市教育委員会 1978年2月
- ・ 小川和博他「柳沢・養老田・寿行地北遺跡発掘調査報告書」『霞友ゴルフクラブ建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』第1集 土浦市教育委員会 出島村教育委員会 1996年3月
- ・ 長佐古真也「発掘事例にみる多摩丘陵の墓制」『江戸時代の墓と墓制』江戸遺跡研究会 1996年2月



第85図 向原遺跡全体図

第4章 小組遺跡

第1節 遺跡の概要

調査区を便宜上Ⅰ～Ⅵ区に分けており、平成14年度調査区はⅠ～Ⅳ区、平成16年度調査区はⅤ・Ⅵ区である(第87図)。

調査の結果、旧石器時代から近世まで断続的に営まれた複合遺跡であることが確認された。調査前の現況は山林・畑地であり、調査対象面積は、16,787㎡である。

遺構は、旧石器時代の石器集中地点8か所、縄文時代の陥し穴13基、平安時代の竪穴住居跡25軒、火葬墓1基、土坑5基、不明遺構1基、近世の墓坑9基、時期不明の掘立柱建物跡5棟、井戸跡9基、土坑319基、溝跡15条、道路跡1条、柵跡5条、ピット群7か所などが確認された。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に35箱出土している。主な出土遺物は、旧石器時代では有樋尖頭器、尖頭器、打製石斧、石核、二次加工のある剥片、微細剥離痕のある剥片、剥片、碎片、敲石、台石などである。縄文時代では縄文土器(深鉢)、石器(石鏃・敲石・磨石)などである。平安時代では土師器(小皿・坏・椀・高台付皿・鉢・甕・甑・墨書土器・刻書土器)、須恵器(甕・甑・円面硯)、土製品(支脚・紡錘車・置き竈・土玉・陽物形土製品)、石器・石製品(支脚・砥石)、金属製品(鉄斧・鉄鎌・鉄鏃・紡錘車・刀子)などで、鍛冶関連遺物は羽口、椀状滓・鉄滓である。近世では陶磁器(碗・播鉢)、土師質土器(短頸壺)、金属製品(煙管・古銭・鉄鍋・刀子・釘)などである。

第2節 基本層序

調査区に標高差があるため調査区ごとにテストピットを設定し、基本土層の観察を行った(第86図)。

第Ⅰ層は黒褐色の表土層で、炭化粒子を微量に含む。粘性・締まりは弱い。層厚は25～35cmである。

第Ⅱ層は暗褐色の腐植土層で、ローム粒子を微量に含む。粘性・締まりは弱い。層厚は20～30cmである。

第Ⅲ層は暗褐色のローム漸移層で、赤色スコリアを微量に含む。粘性・締まりは普通である。層厚は10～22cmである。

第Ⅳ層は褐色のソフトローム層で、赤色スコリア・黒色スコリア・白色粒子を微量に含む。粘性・締まりは強い。層厚は25～37cmである。

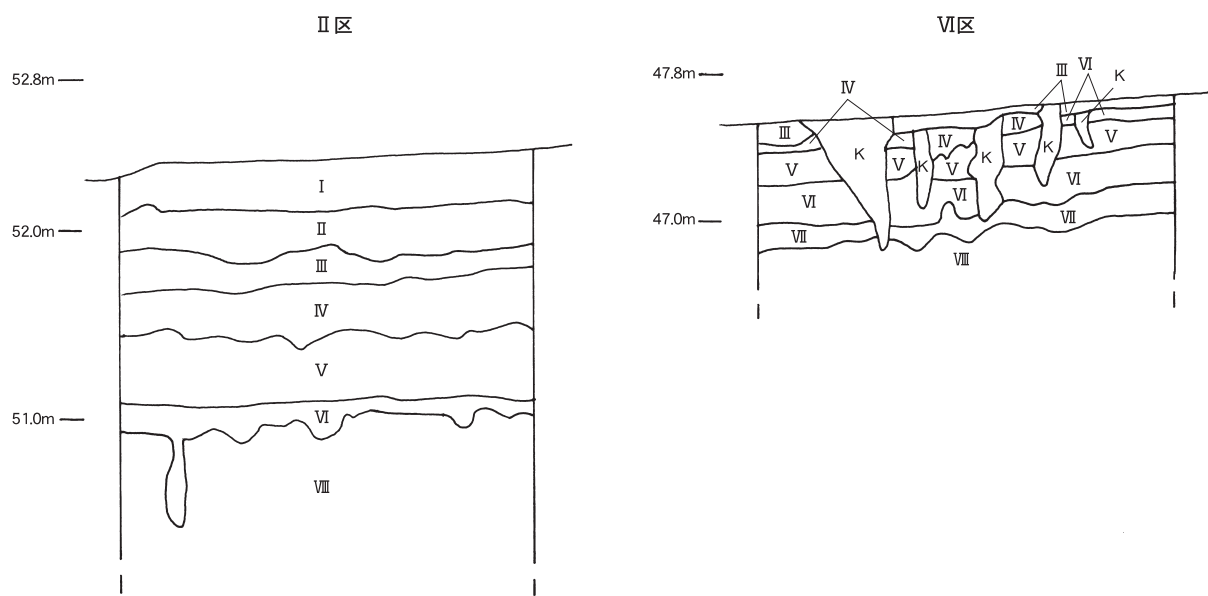
第Ⅴ層は明褐色のハードローム層で、赤色スコリア・黒色スコリア・白色粒子を微量に含む。粘性・締まりは強い。層厚は22～36cmである。

第Ⅵ層は褐色のハードローム層で、赤色スコリア・黒色スコリア・白色粒子を微量に含む。粘性・締まりは強い。層厚は15～26cmである。

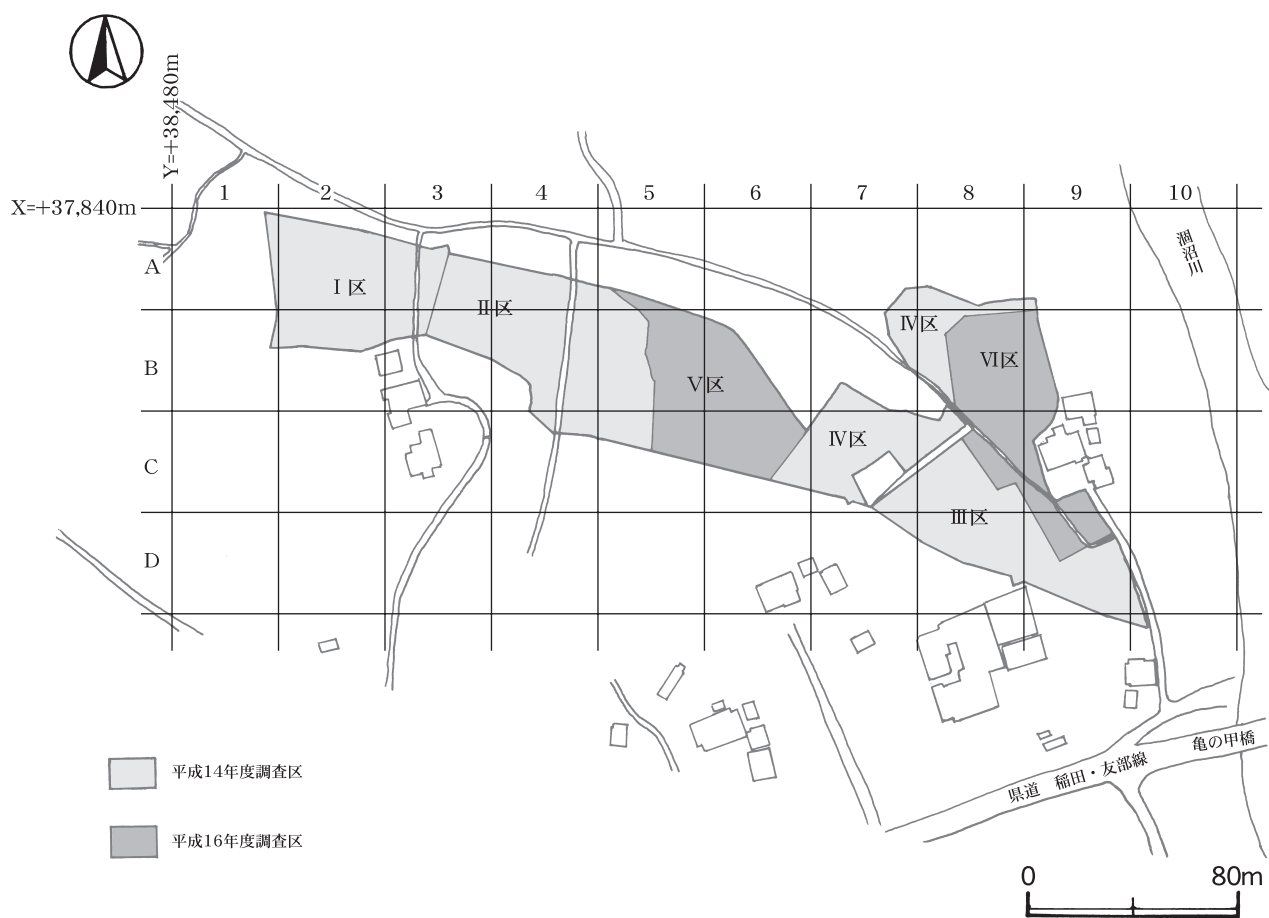
第Ⅶ層は黄褐色の鹿沼軽石層との漸移層で、粘性は普通で、締まりは強い。層厚は12～18cmである。

第Ⅷ層は明黄褐色の鹿沼軽石層の純層で、粘性は普通で、締まりは強い。層厚は不明である。

なお、遺構は、第Ⅳ層上面で確認されている。



第86図 基本土層図



第87図 小組遺跡調査区設定図

第3節 遺構と遺物

1 旧石器時代の遺構と遺物

(1) 調査の方法

調査Ⅲ区（平成14年度調査区）と調査Ⅵ区（平成16年度調査区）で旧石器時代の文化層が確認できると想定される地点に、各調査区とも4m四方のグリッドを設定し、四辺に土層観察用のベルトを残してローム層の掘り下げを実施した。石器の平面分布の広がりを確認するため、グリッドは随時拡張していき、調査Ⅲ区ではC8i7・C8j7・C8i8・C8j8・C8i9・C8j9・D8a8・D8a9・D8a0の9グリッド、面積約90㎡を調査した。調査Ⅵ区ではB9d1・B9e1・B9f1・B9g1・B9h1・B9e2・B9f2・B9g2・B9g3・B9h3・C8j3・C8a9・C8b9・C8c9・C8b0の15グリッド、面積約160㎡を調査した。調査の結果、調査Ⅲ区からは1か所、調査Ⅵ区から7か所の石器集中地点が確認された。

(2) 石器集中地点の記載方法

調査時に認識した石器集中地点について、石器が確認されない空白を目安に分布の再検討を行い、石器集中地点の呼称を整理時に変更した。また、調査年度が異なる石器集中地点間で層位的検証を行い、さらに石器組成を検討した結果、二つの文化層があることが判明した。そこで、上部の層から出土した石器群を「第Ⅰ文化層」、下部の層から出土した石器群を「第Ⅱ文化層」とする。

	(変更前)	(変更後)
平成14年度	「石英剥片・碎片集中地点」	第1号石器集中地点、第2号石器集中地点 に分離
平成16年度	「A地点」	第3号石器集中地点
	「B地点」	第4号石器集中地点
	「C地点」「D地点」	第5号石器集中地点に融合
	「E地点」	第6号石器集中地点
	「F地点」	第7号石器集中地点
	「G地点」	第8号石器集中地点

(3) 石器の記載方法

8つの石器集中地点から出土した石器の総数は約2500点である。調査時の石器の遺物番号は、石器集中地点ごとに番号を付している。本報告の番号とともに、調査時の番号も併せて掲載した。実測図未掲載の石器もすべて一覧表で掲載した。記載内容は、「番号」「旧番号」「器種」「石質」「重量」「出土位置」である。「器種」「石質」については、アルファベットで記号化し掲載した。「出土位置」の「グリッド番号→」は、出土した小グリッドの北西角から南（X座標）、東（Y座標）への距離であり、Zは「標高」である。なお、重量の「-」は、微細なため計測不能の石器である。以下、記号の凡例を示す。（ ）内は図版中の記号である。

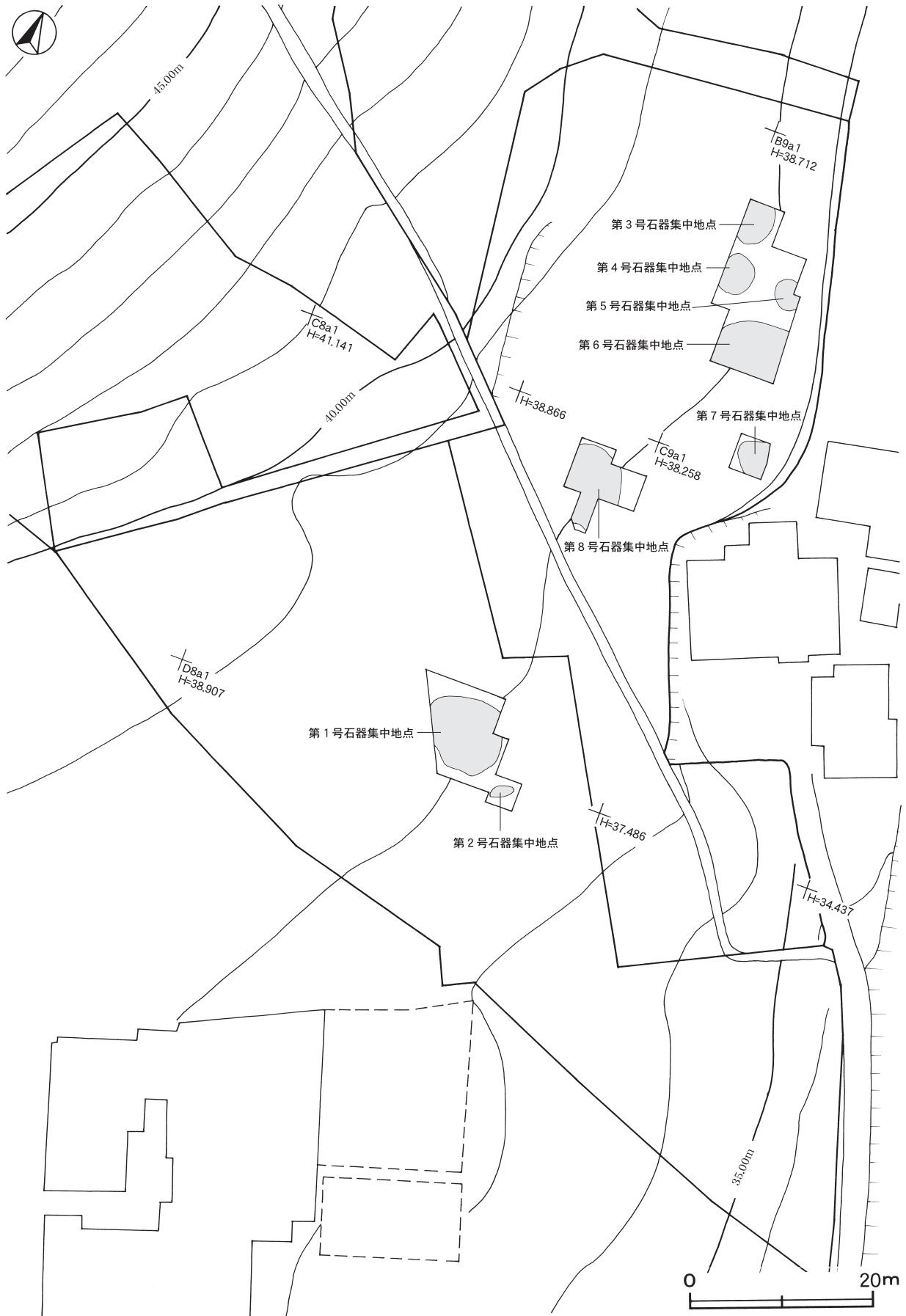
原石A (□) 石核B (■) 剥片C (小●) 碎片D (大●) 二次加工剥片E (△) 微細剥離痕のある剥片F (小●) 尖頭器G (★)

敲石I (▲) 台石J (☆) 打製石斧K (小○) 礫L 礫片M (大○) (※ Hは使用していない。礫は図化していない。)

水晶a (小●) 黒色緻密安山岩b (小■) 雲母片岩c (小○) 花崗岩d (小▲) 凝灰岩e (大○) 硬質頁岩f (大口) 砂岩g (中●)

石英斑岩h (大▲) 珪質頁岩i (大■) チャートj (大●) 頁岩k (大△) ホルンフェルスl (小△) 流紋岩m (小□)

(例) C8i8→X=-1.58 Y=1.16 Z=37.489 (C8i8から南へ1.58m, 東へ1.16m, 標高37.489m)



第88图 石器集中地点分布图

(4) 石器集中地点の層序

B 9 g3・C 8 j7区の2か所で、基本土層の観察を行った。確認面から深さ約1mで鹿沼層が確認されている。土層の観察結果は以下の通りであり、各試掘坑の層は対応している(第89図)。

第I層は黒色土層で、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・締まりとも弱い。層厚は45～55cmである。

第II層は黒色土層で、第I層と比べてロームブロックが多く含有している。粘性・締まりとも弱い。層厚は5～10cmである。

第III層は黒色土層で、第I・II層よりも色調が明るい。ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含む。粘性・締まりとも弱い。層厚は10～15cmである。

第IV層は暗褐色土層で、炭化粒子を微量含む。粘性・締まりとも普通である。層厚は5～10cmである。

第I～III層が表土層で、第IV層が旧地表と考えられる。

第V層は暗褐色のローム漸移層で、赤色スコリア、橙色スコリアを微量含む。粘性・締まりとも普通である。層厚は10～20cmである。

第VI層は褐色のソフトローム層で、白色粒子・赤色粒子・黒色粒子を微量含み、クラックが発達している。粘性・締まりとも強い。層厚は10～35cmである。

第VII層は明褐色のハードローム層で、白色粒子・赤色粒子・黒色粒子を微量含む。粘性・締まりとも強い。層厚は20～40cmである。

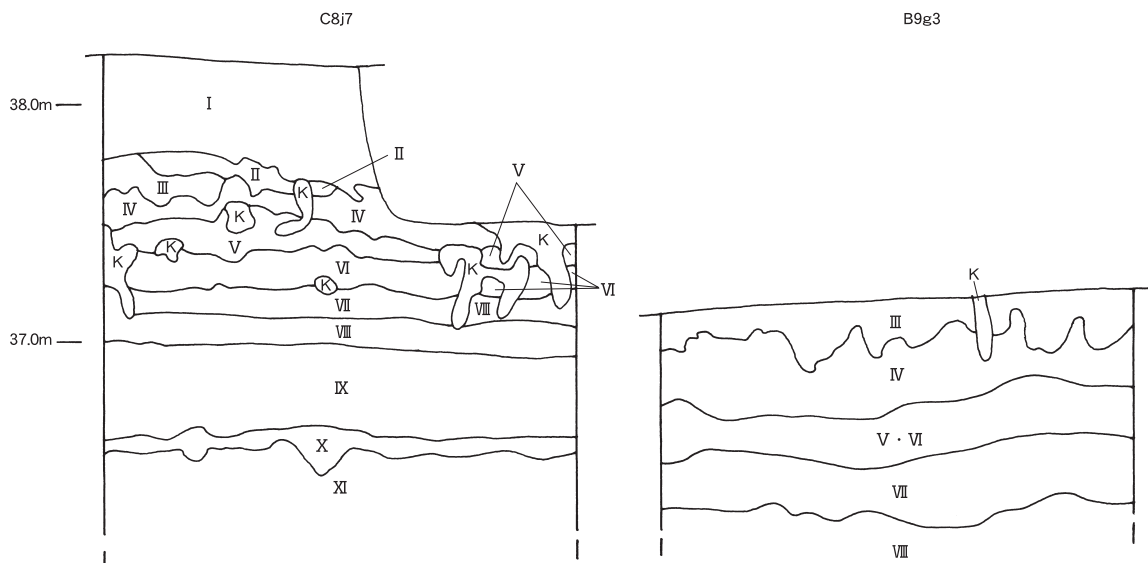
第VIII層は褐色のハードローム層で、赤色粒子・黒色粒子を少量含む。粘性・締まりとも強い。層厚は15～25cmである。

第IX層は褐色のハードローム層で、色調は第I～III層と比べて暗く、粘性・締まりとも極めて強い。白色粒子・赤色粒子・黒色粒子を微量含む。層厚は30～45cmである。

第X層は黄褐色の鹿沼軽石層との漸移層で、粘性は普通で、締まりは強い。層厚は5～10cmである。

第XI層は明黄褐色の鹿沼軽石層の純層で、粘性は普通で、締まりは強い。層厚は約40cmまで確認されている。

第V～VI層が第I文化層、第VII層が第II文化層と考えられる。



第89図 石器集中地点基本土層図

(5) 石器集中地点の概要

平成14・16年度の調査で確認された石器集中地点は、8か所である。以下、個々の石器集中地点について記述する。

第1号石器集中地点（第90～99・101・110～118図）

位置 C 8 i8～D 8 a9区，標高38mほどの丘陵裾部に位置している。

出土状況 C 8 j8区付近に石器が集中しており，分布の中心と考えられ，その周縁になると石器類の出土は散漫になる。出土位置は，ローム漸移層からソフトローム層にわたり，中心はソフトローム層である。

遺物 有樋尖頭器，尖頭器の未成品，ポイントフレイク，石核・原石などが出土している。その他，剥片・破片が多量に出土している。

所見 石材は水晶がほとんどで，水晶製の尖頭器を製作していたものと考えられる。

第2号石器集中地点（第90・100・101・119・120図）

位置 D 8 a0区，標高38mほどの丘陵裾部に位置している。

出土状況 第1号石器集中地点に隣接しており，石器の出土範囲は狭い。出土層位は，ソフトローム層である。

遺物 敲石や台石で構成されている。

所見 第1号石器集中地点からはあまり出土していない石器製作の道具が，まとまって出土している。出土層位は，第1号石器集中地点と同じであり，関連性が考えられる。

第3～5号石器集中地点（第102・103・121～124図）

位置 B 9 d1～B 9 f2区，標高38mほどの丘陵裾部に位置している。

出土状況 3地点とも石器の出土点数は少なく，散漫な出土状況である。すべてソフトローム層からの出土である。これらの石器集中地点は，隣接して形成されている。

遺物 3地点とも，水晶を石材とした石器は，剥片・破片より石核が多く確認されている。また，水晶以外の石材の石器も出土している。

所見 比較的小さな3か所の石器集中地点が，同一文化層から確認されている。

第6号石器集中地点（第104・105・125～127図）

位置 B 9 g1～B 9 h3区，標高38mほどの丘陵裾部に位置している。

出土状況 石器の出土範囲は比較的広い。範囲の中央より周縁の方が出土点数は多い。出土層位は，ソフトローム層とハードローム層に分離できる。

遺物 ソフトローム層からは，水晶の石核など，ハードローム層からは，打製石斧の未成品などが出土している。

所見 二つの文化層から成る石器集中地点である。打製石斧は，県内でも古い段階の石器である。

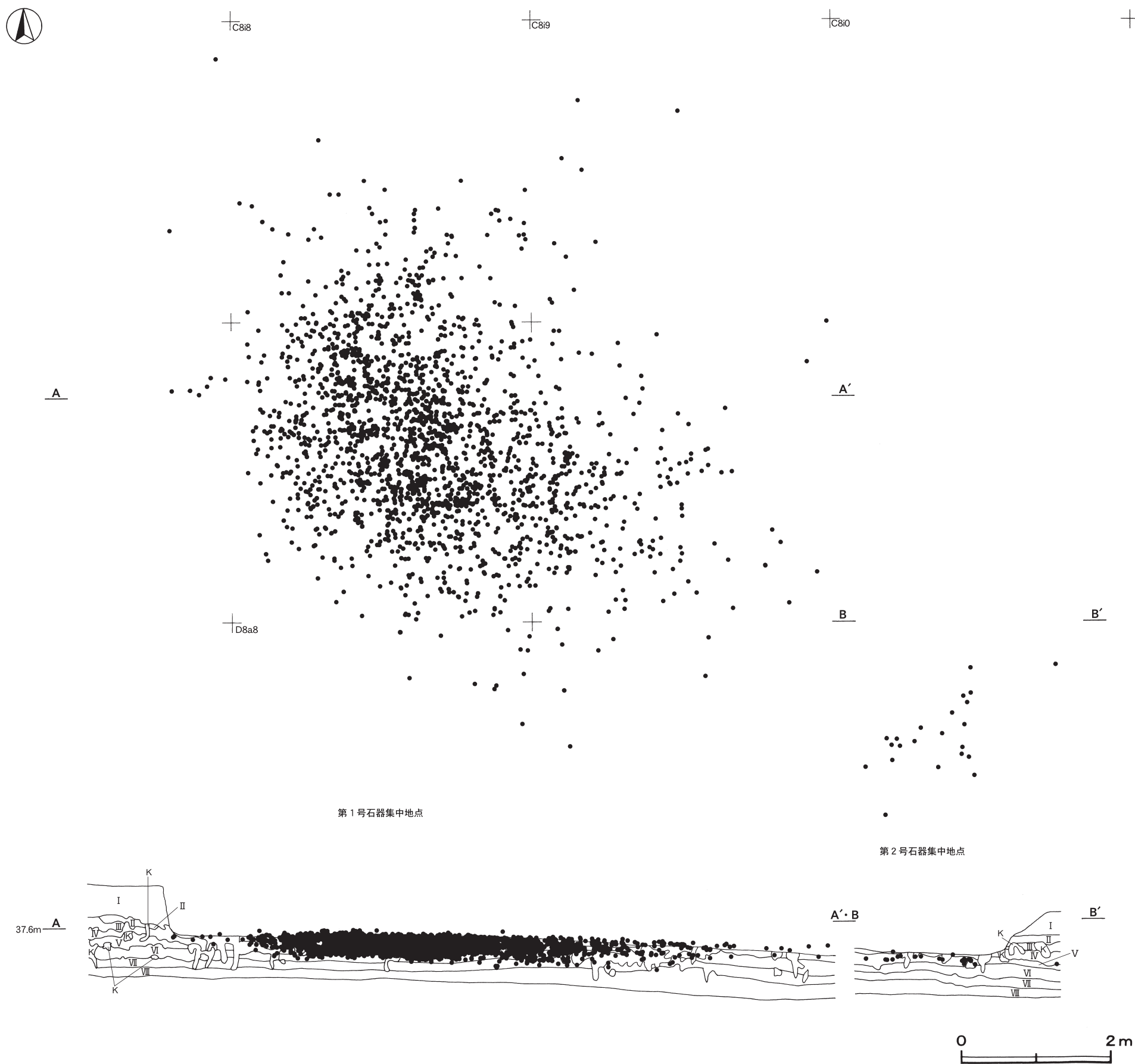
第7・8号石器集中地点（第106～109・128・129図）

位置 第7・8号石器集中地点はそれぞれB 9 j3区，C 8 b9区，標高38mほどの丘陵裾部に位置している。

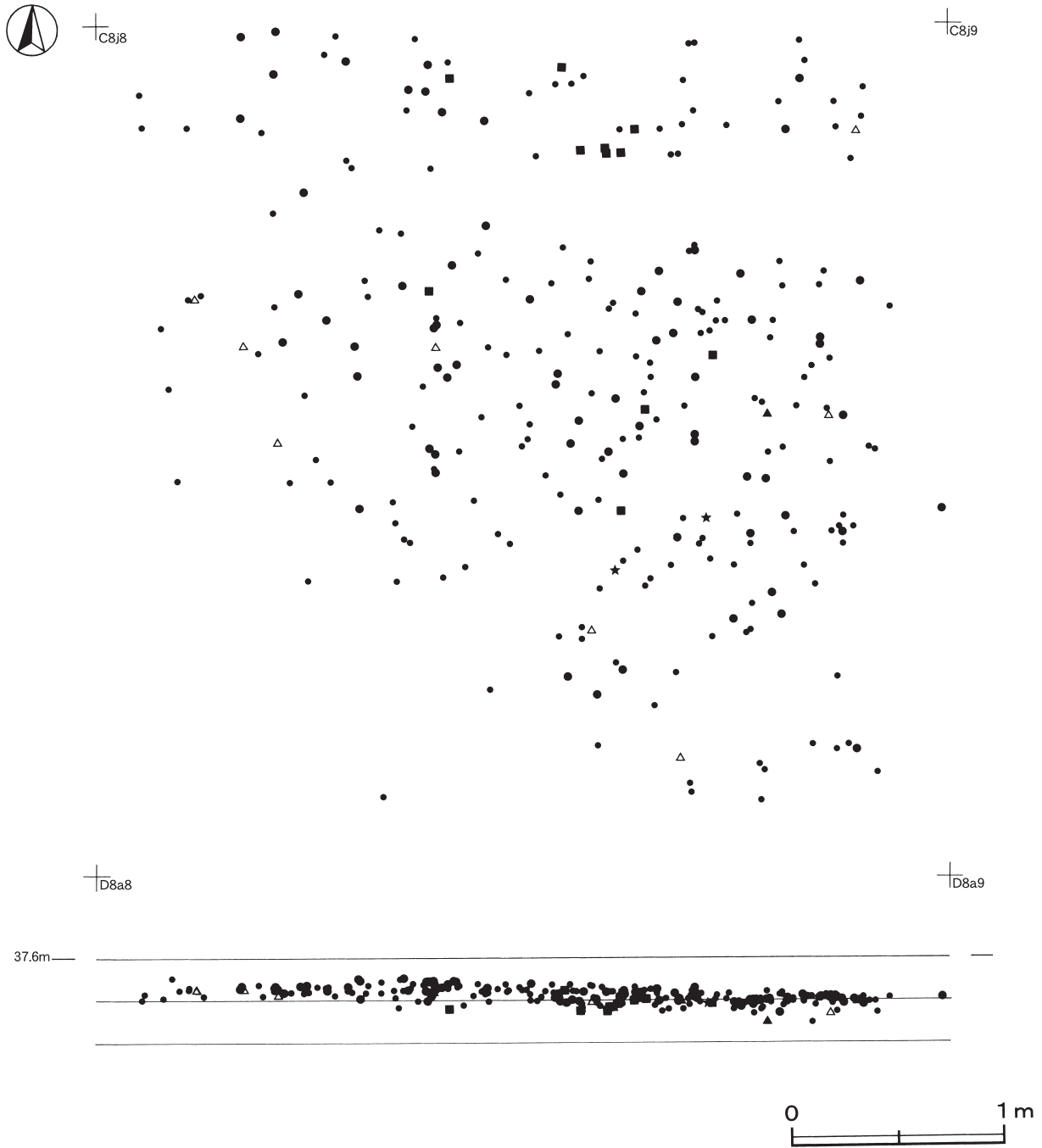
出土状況 2地点とも，石器の分布は散漫である。

遺物 第7号石器集中地点からは水晶の石核が，第8号石器集中地点からは水晶の有樋尖頭器が出土している。これらの石器は，ソフトローム層から出土している。また，第8号石器集中地点では，打製石斧の未成品がハードローム層から出土している。

所見 第8号石器集中地点は，第6号石器集中地点同様，二つの文化層から成る石器集中地点である。



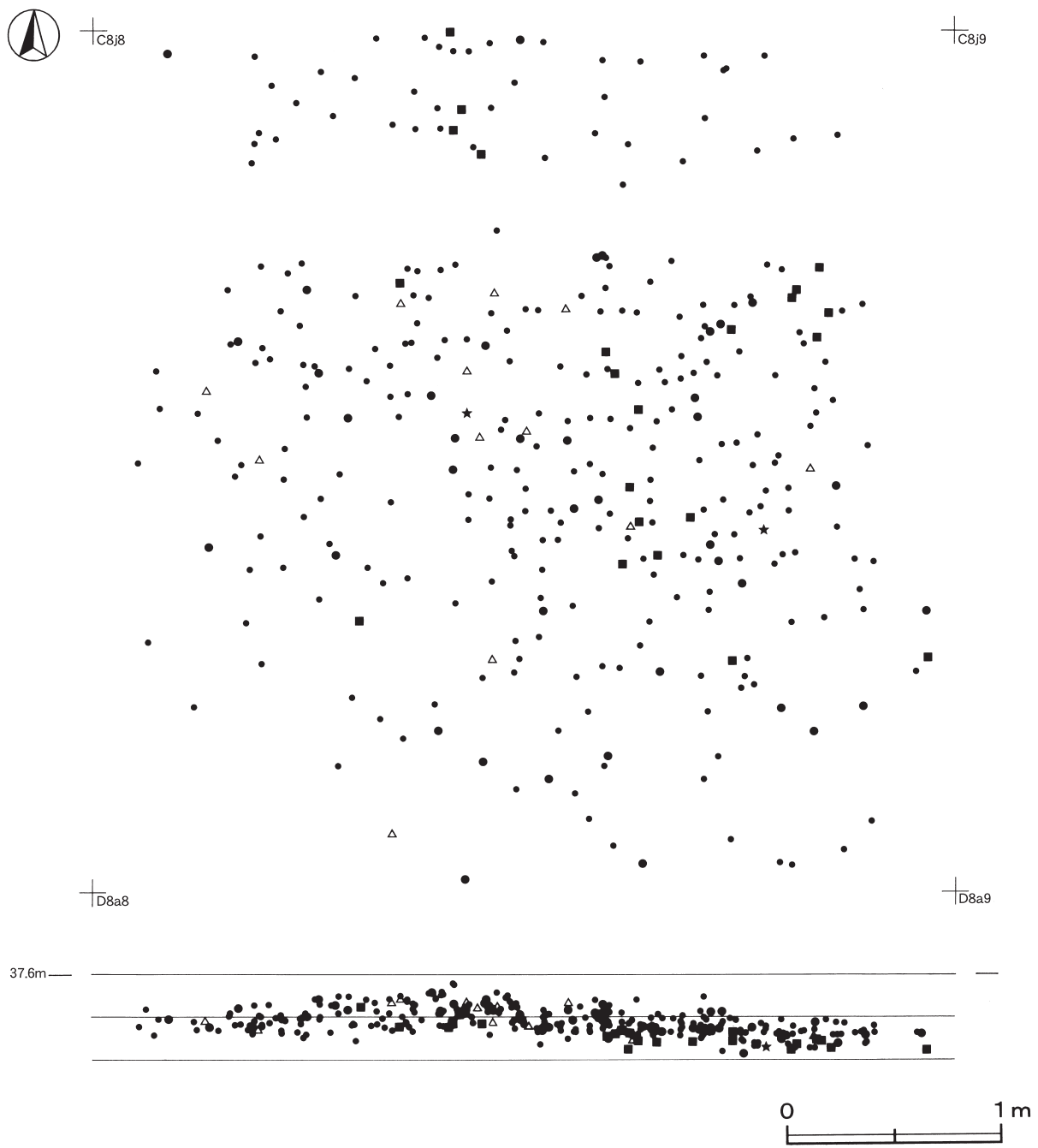
第90图 第1・2号石器集中地点出土遺物分布图



第91図 第1号石器集中地点（C8j8区の1）器種別分布図

凡例

- 器種 剥片・微細剥離痕のある剥片（小●） 碎片（大●） 打製石斧（小○） 礫片（大○） 石核（■） 原石（□） 敲石（▲）
 二次加工剥片（△） 尖頭器（★） 台石（☆） ※礫は図化していない。
- 石質 水晶（小●） 砂岩（中●） チャート（大●） 雲母片岩（小○） 凝灰岩（大○） 黒色緻密安山岩（小■） 珪質頁岩（大■）
 流紋岩（小□） 硬質頁岩（大□） 花崗岩（小▲） 石英斑岩（大▲） ホルンフェルス（小△） 頁岩（大△）



第92図 第1号石器集中地点（C8j8区の2）器種別分布図



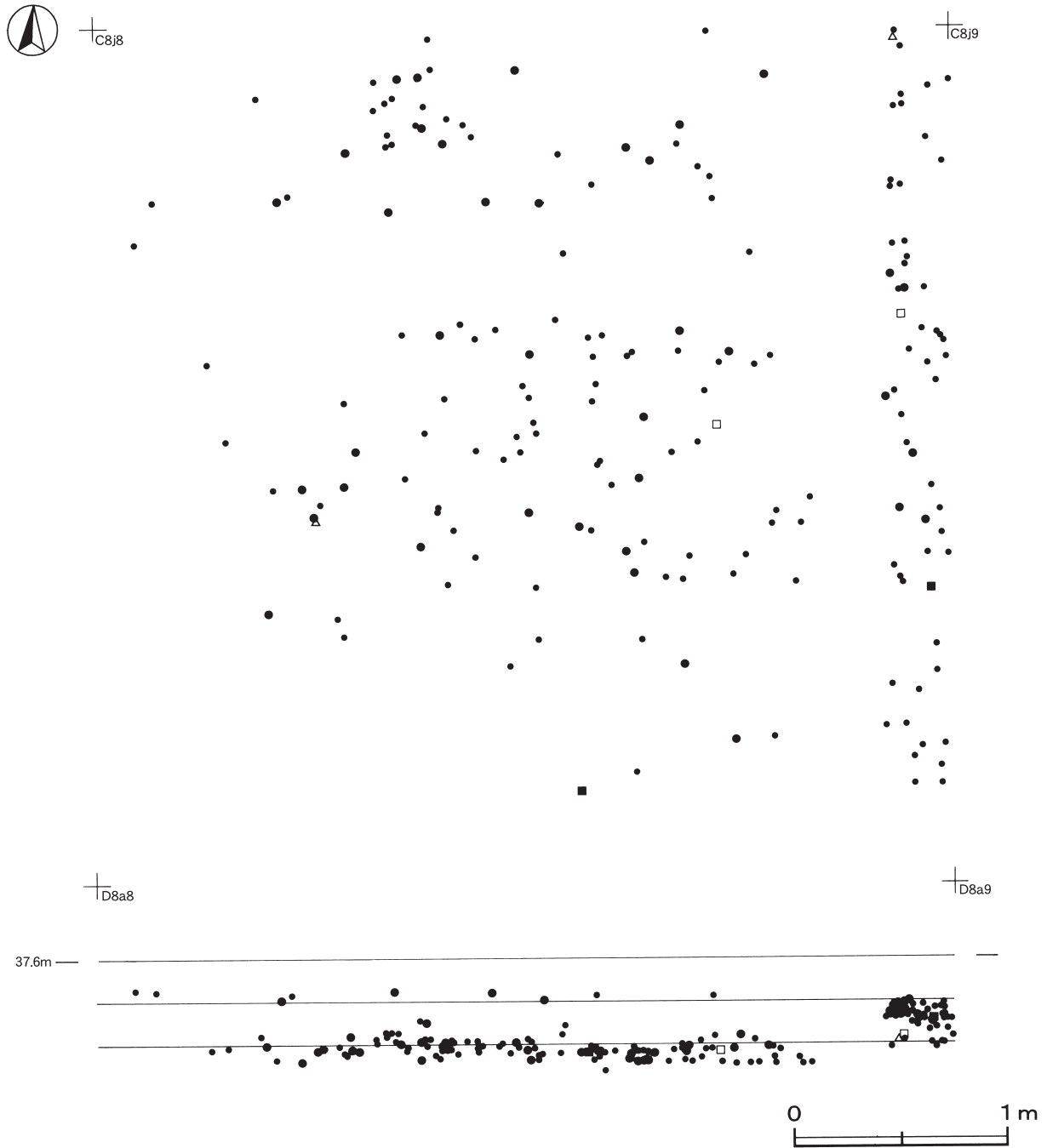
第93図 第1号石器集中地点（C8j8区の3）器種別分布図

凡例

- 器種 剥片・微細剥離痕のある剥片（小●） 碎片（大●） 打製石斧（小○） 礫片（大○） 石核（■） 原石（□） 敲石（▲）
 二次加工剥片（△） 尖頭器（★） 台石（☆） ※礫は図化していない。
- 石質 水晶（小●） 砂岩（中●） チャート（大●） 雲母片岩（小○） 凝灰岩（大○） 黒色緻密安山岩（小■） 珪質頁岩（大■）
 流紋岩（小□） 硬質頁岩（大□） 花崗岩（小▲） 石英斑岩（大▲） ホルンフェルス（小△） 頁岩（大△）



第94図 第1号石器集中地点（C8j8区の4）器種別分布図



第95図 第1号石器集中地点（C8j8区の5）器種別分布図

凡例

- 器種 剥片・微細剥離痕のある剥片（小●） 碎片（大●） 打製石斧（小○） 礫片（大○） 石核（■） 原石（□） 敲石（▲）
 二次加工剥片（△） 尖頭器（★） 台石（☆） ※礫は図化していない。
- 石質 水晶（小●） 砂岩（中●） チャート（大●） 雲母片岩（小○） 凝灰岩（大○） 黒色緻密安山岩（小■） 珪質頁岩（大■）
 流紋岩（小□） 硬質頁岩（大□） 花崗岩（小▲） 石英斑岩（大▲） ホルンフェルス（小△） 頁岩（大△）



†C8j8

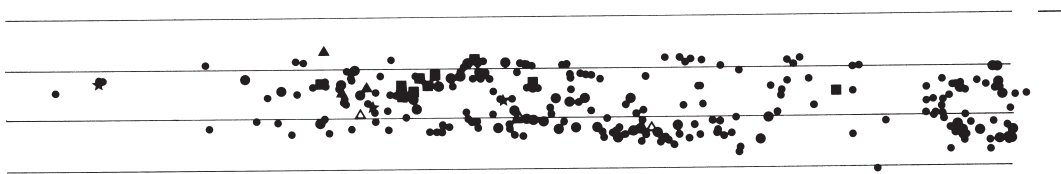
†C8j9



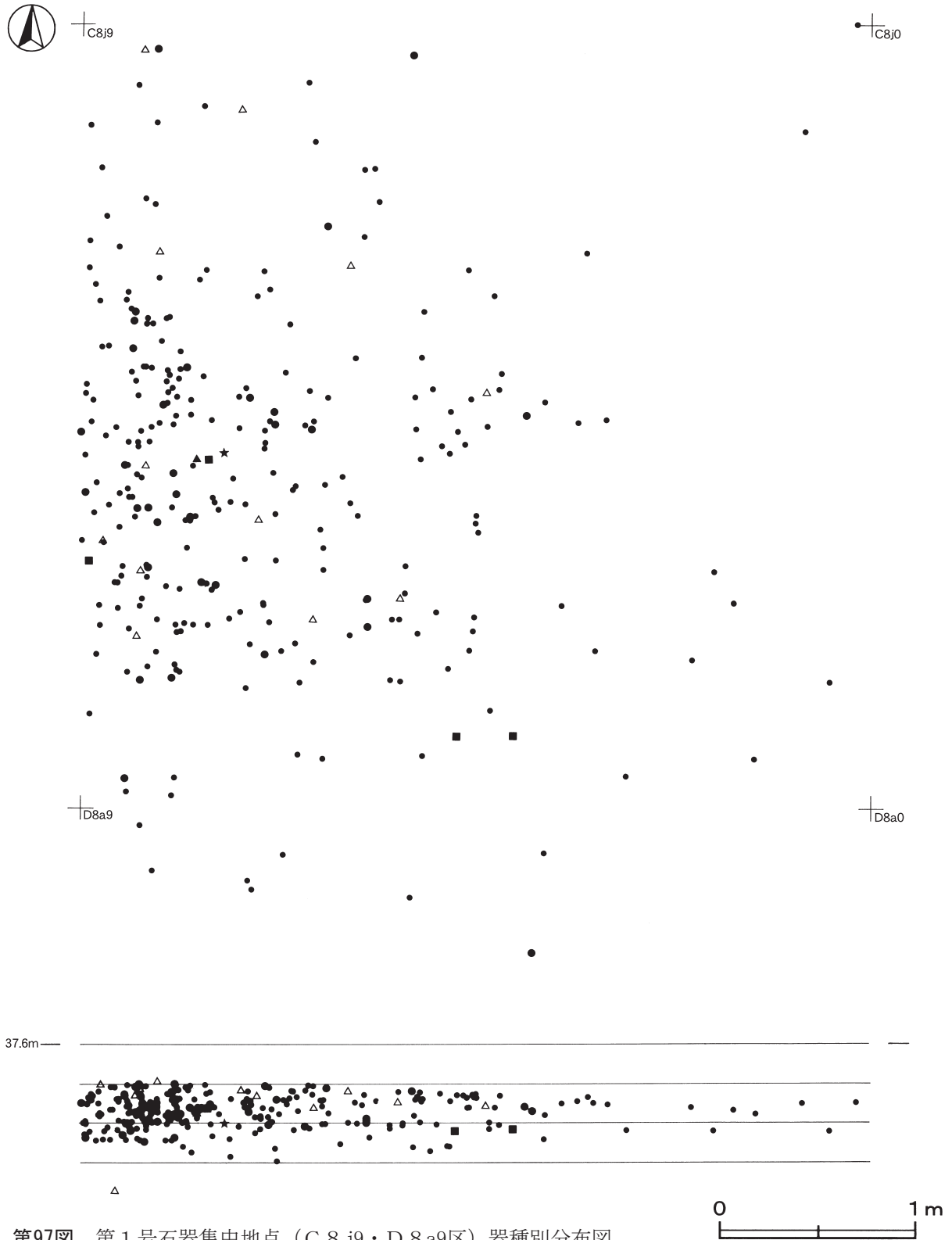
†D8a8

†D8a9

37.6m



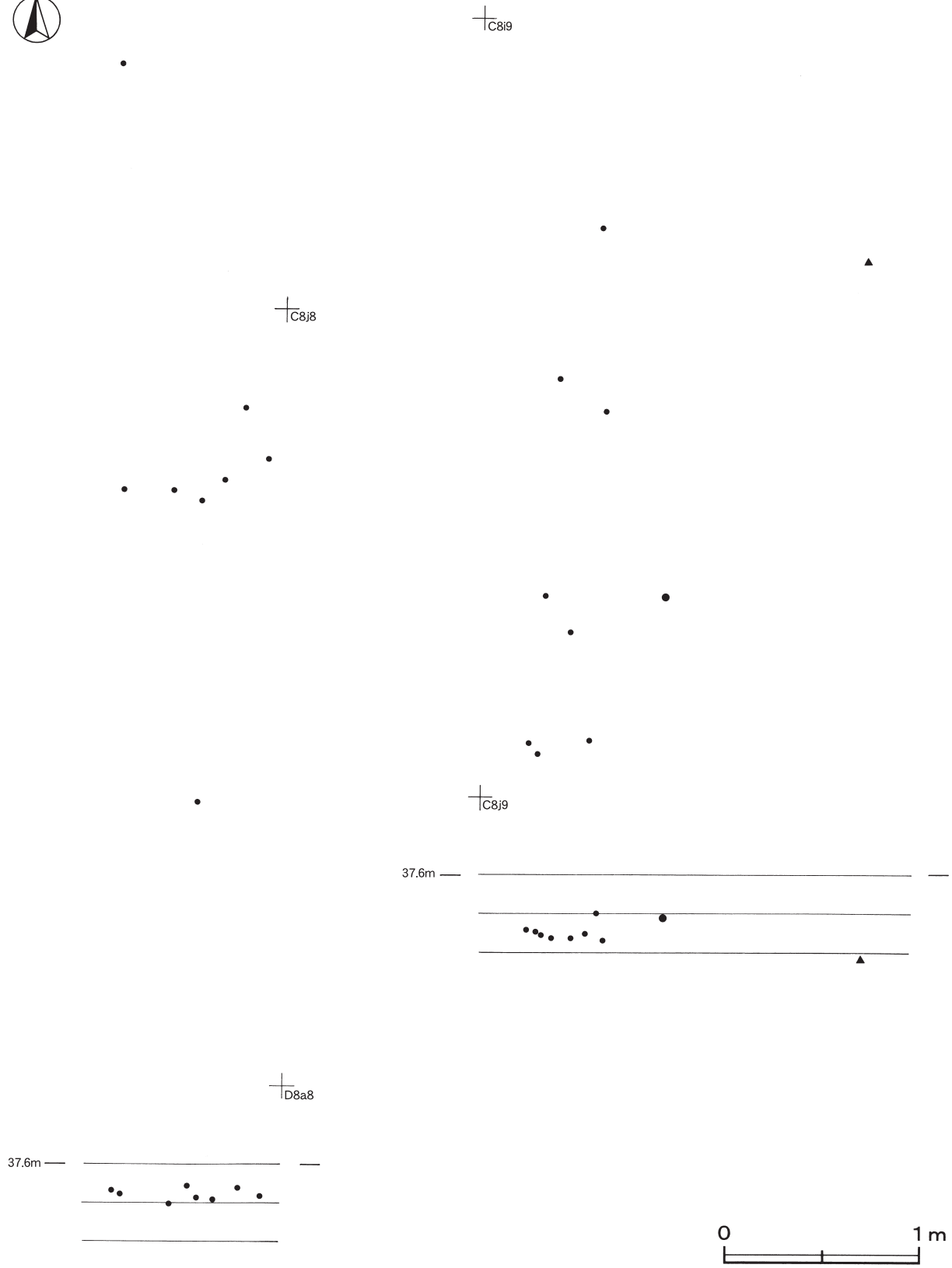
第96図 第1号石器集中地点（C8j8区の6，D8a8区）器種別分布図



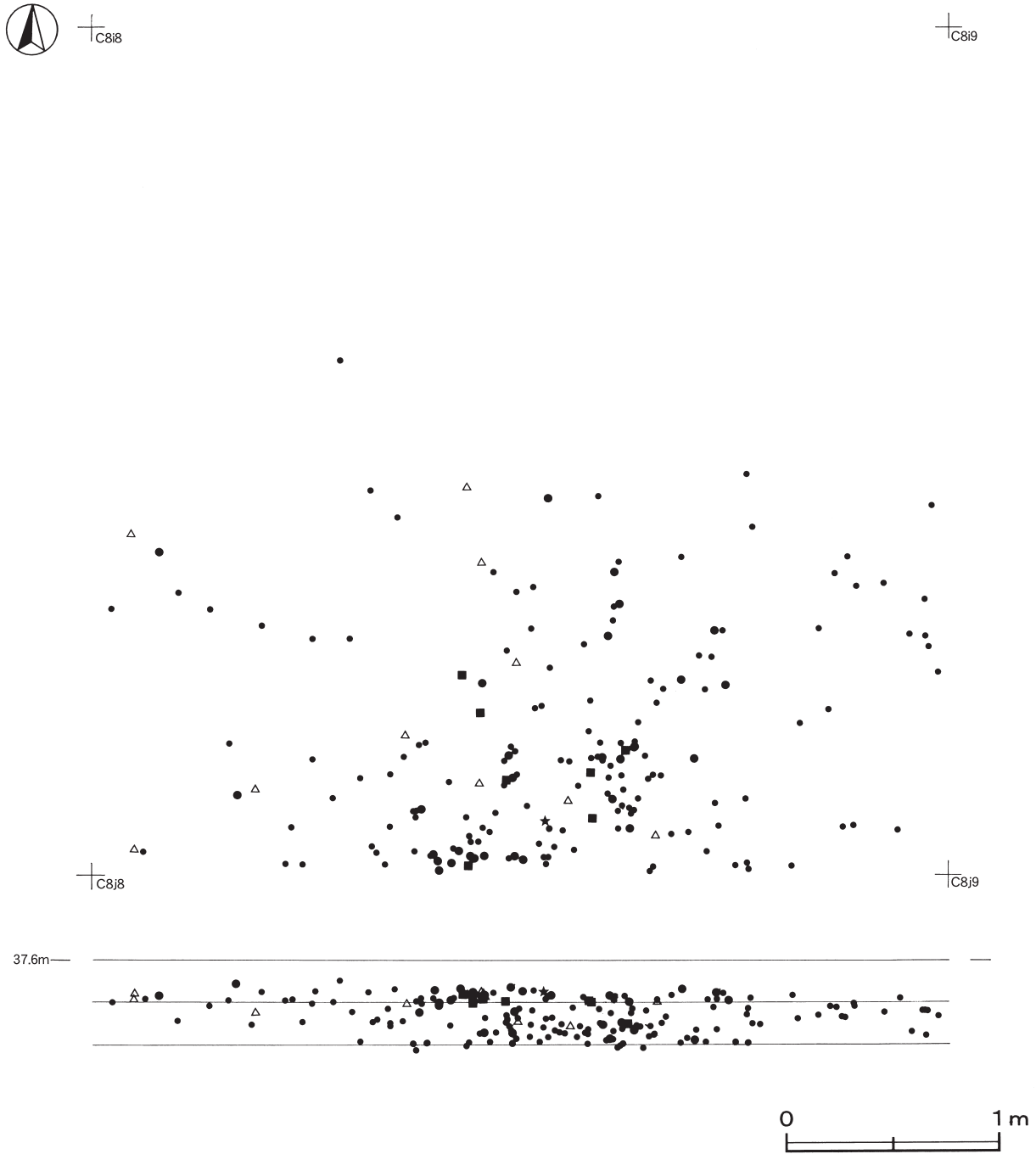
第97図 第1号石器集中地点（C8j9・D8a9区）器種別分布図

凡例

- 器種 剥片・微細剥離痕のある剥片（小●） 碎片（大●） 打製石斧（小○） 礫片（大○） 石核（■） 原石（□） 敲石（▲）
 二次加工剥片（△） 尖頭器（★） 台石（☆） ※礫は図化していない。
- 石質 水晶（小●） 砂岩（中●） チャート（大●） 雲母片岩（小○） 凝灰岩（大○） 黒色緻密安山岩（小■） 珪質頁岩（大■）
 流紋岩（小□） 硬質頁岩（大□） 花崗岩（小▲） 石英斑岩（大▲） ホルンフェルス（小△） 頁岩（大△）



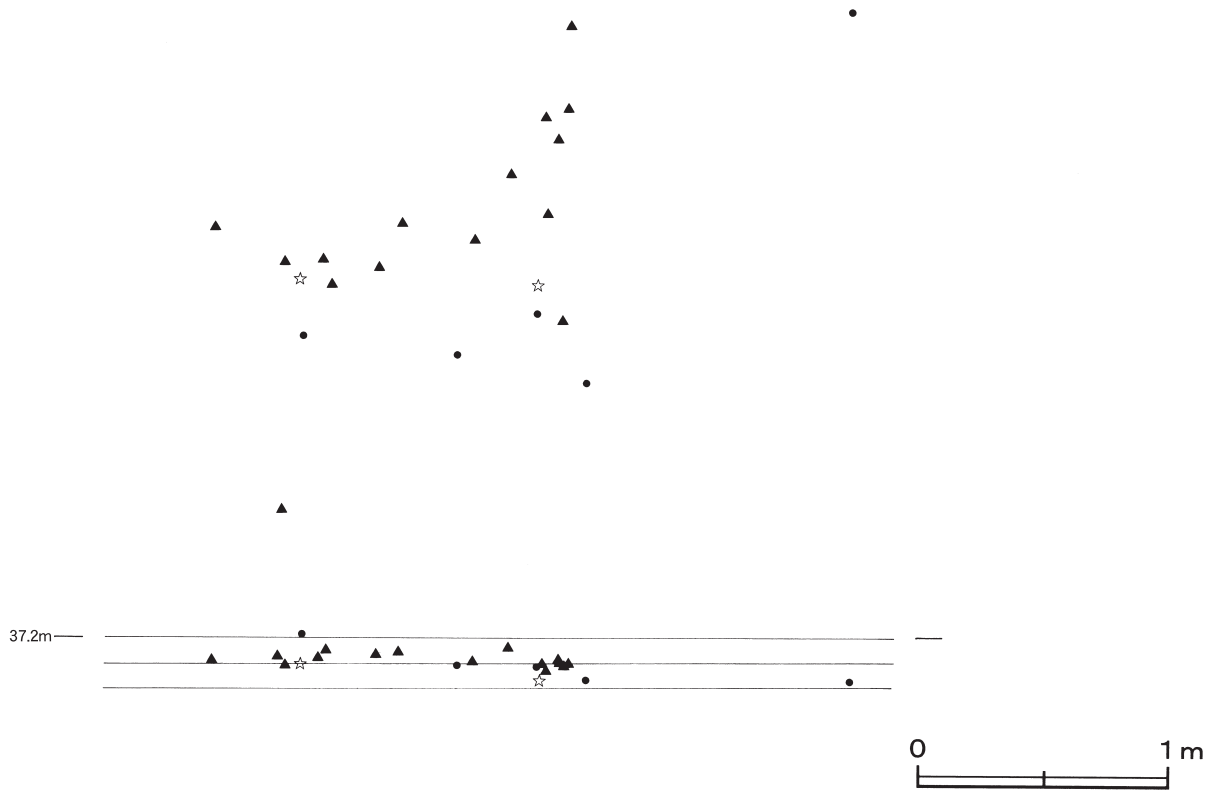
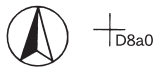
第98图 第1号石器集中地点 (C 8 i7 · C 8 j7区, C 8 i9区) 器種別分布图



第99図 第1号石器集中地点 (C8i8区) 器種別分布図

凡例

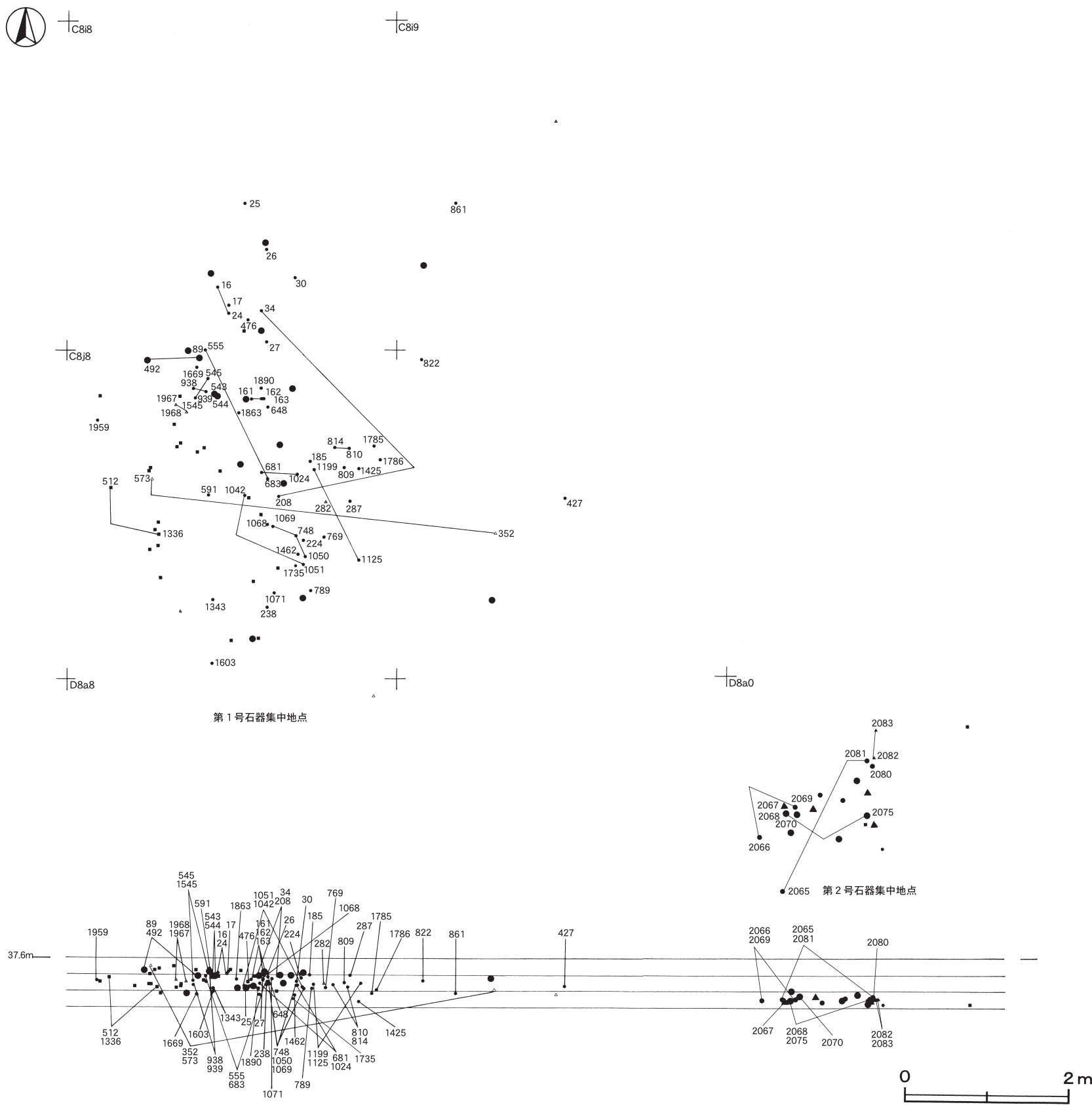
- 器種 剥片・微細剥離痕のある剥片 (小●) 碎片 (大●) 打製石斧 (小○) 礫片 (大○) 石核 (■) 原石 (□) 敲石 (▲)
 二次加工剥片 (△) 尖頭器 (★) 台石 (☆) ※礫は図化していない。
- 石質 水晶 (小●) 砂岩 (中●) チャート (大●) 雲母片岩 (小○) 凝灰岩 (大○) 黒色緻密安山岩 (小■) 珪質頁岩 (大■)
 流紋岩 (小□) 硬質頁岩 (大□) 花崗岩 (小▲) 石英斑岩 (大▲) ホルンフェルス (小△) 頁岩 (大△)



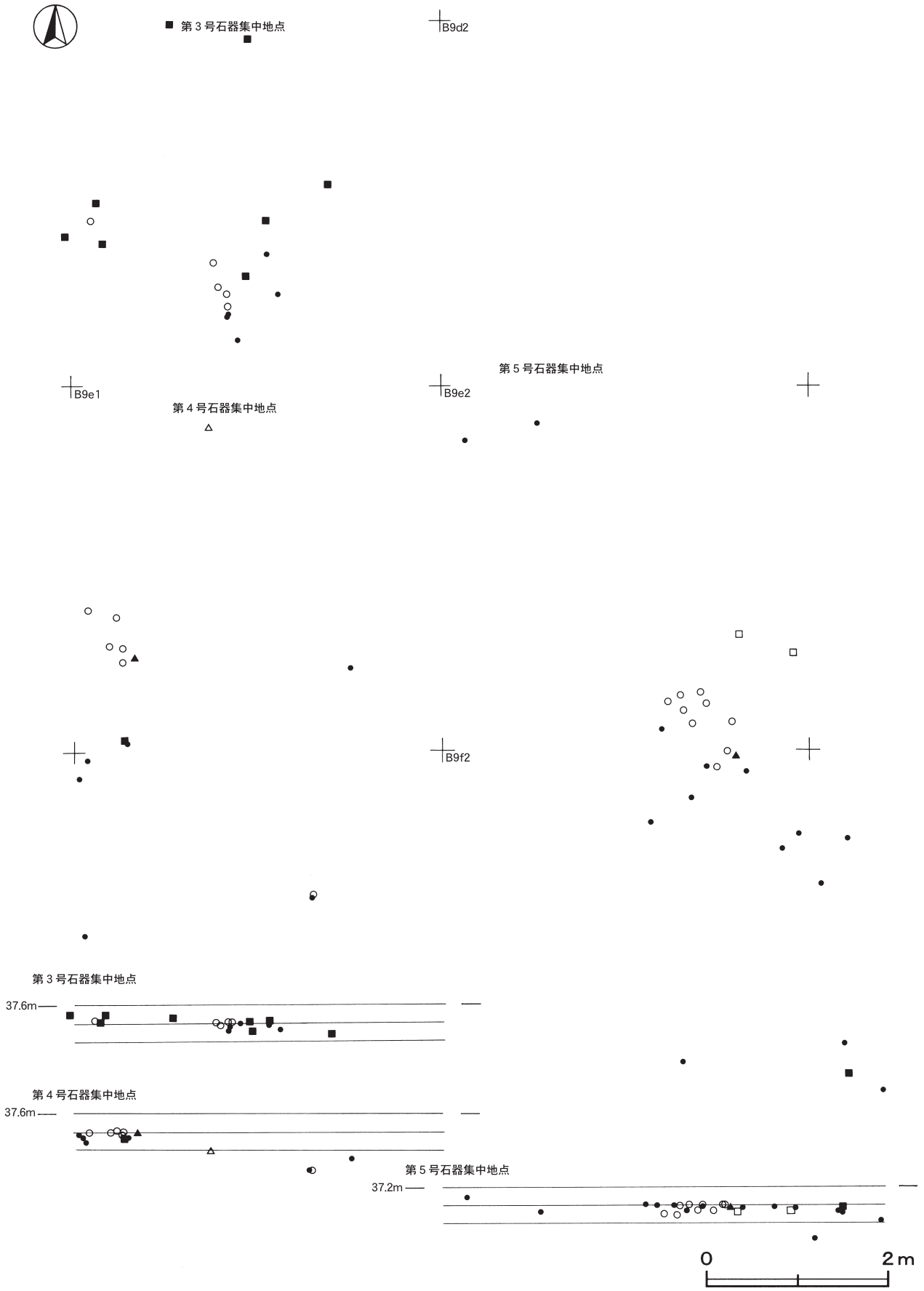
第100図 第2号石器集中地点器種別分布図

凡例

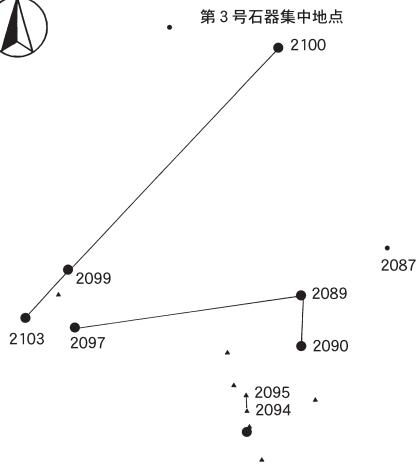
- 器種 剥片・微細剥離痕のある剥片 (小●) 碎片 (大●) 打製石斧 (小○) 礫片 (大○) 石核 (■) 原石 (□) 敲石 (▲)
 二次加工剥片 (△) 尖頭器 (★) 台石 (☆) ※礫は図化していない。
- 石質 水晶 (小●) 砂岩 (中●) チャート (大●) 雲母片岩 (小○) 凝灰岩 (大○) 黒色緻密安山岩 (小■) 珪質頁岩 (大■)
 流紋岩 (小□) 硬質頁岩 (大□) 花崗岩 (小▲) 石英斑岩 (大▲) ホルンフェルス (小△) 頁岩 (大△)



第101図 第1・2号石器集中地点石質分布図



第102図 第3～5号石器集中地点器種別分布図



B9c2

B9e1

第4号石器集中地点

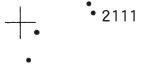
2118

B9e2

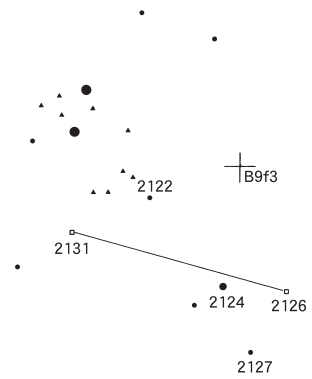
第5号石器集中地点

2148

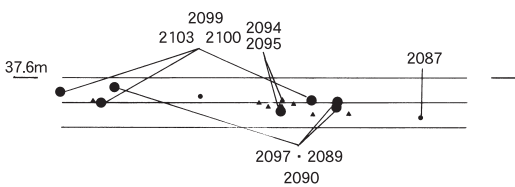
B9e3



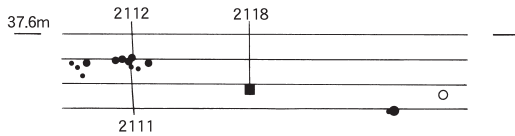
B9f2



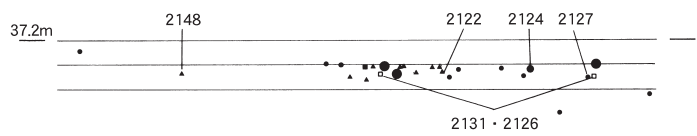
第3号石器集中地点



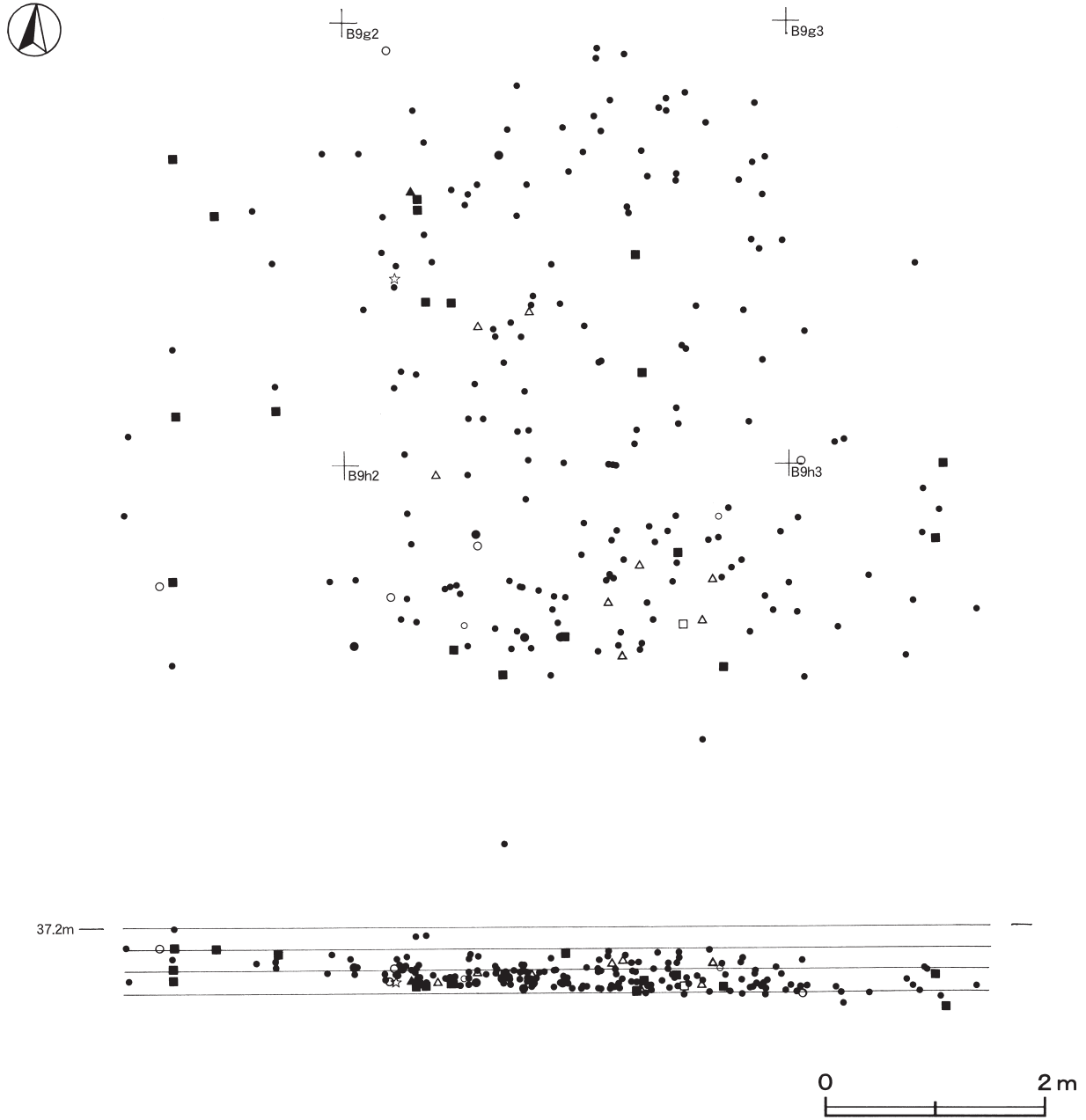
第4号石器集中地点



第5号石器集中地点



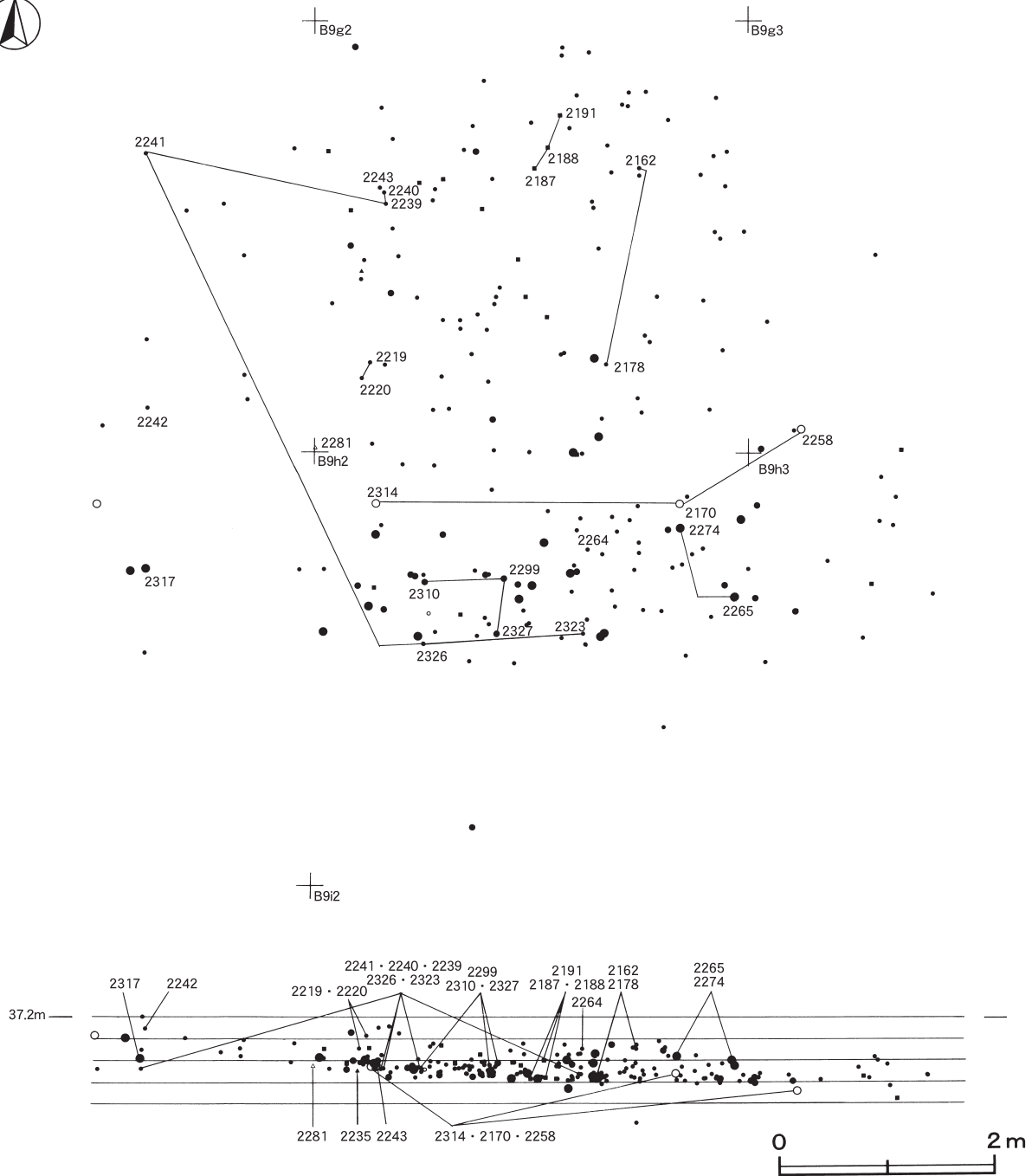
第103图 第3～5号石器集中地点石质分布图



第104図 第6号石器集中地点器種別分布図

凡例

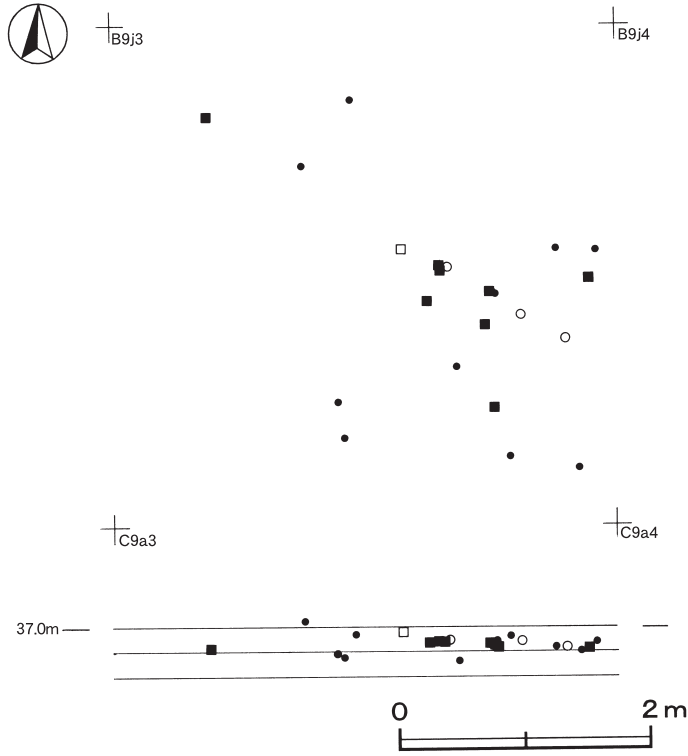
- 器種 剥片・微細剥離痕のある剥片 (小●) 碎片 (大●) 打製石斧 (小○) 礫片 (大○) 石核 (■) 原石 (□) 敲石 (▲)
 二次加工剥片 (△) 尖頭器 (★) 台石 (☆) ※礫は図化していない。
- 石質 水晶 (小●) 砂岩 (中●) チャート (大●) 雲母片岩 (小○) 凝灰岩 (大○) 黒色緻密安山岩 (小■) 珪質頁岩 (大■)
 流紋岩 (小□) 硬質頁岩 (大□) 花崗岩 (小▲) 石英斑岩 (大▲) ホルンフェルス (小△) 頁岩 (大△)



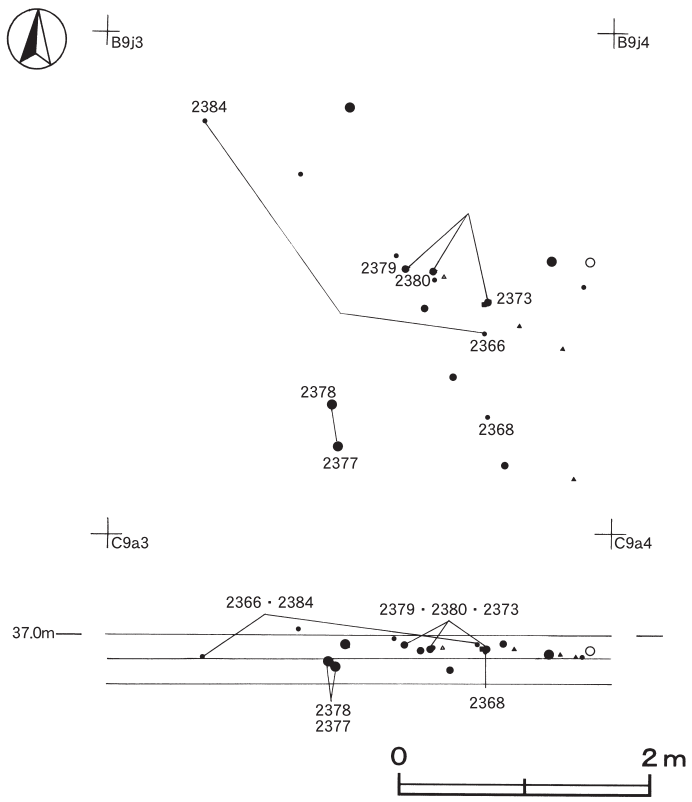
第105図 第6号石器集中地点石質分布図

凡例

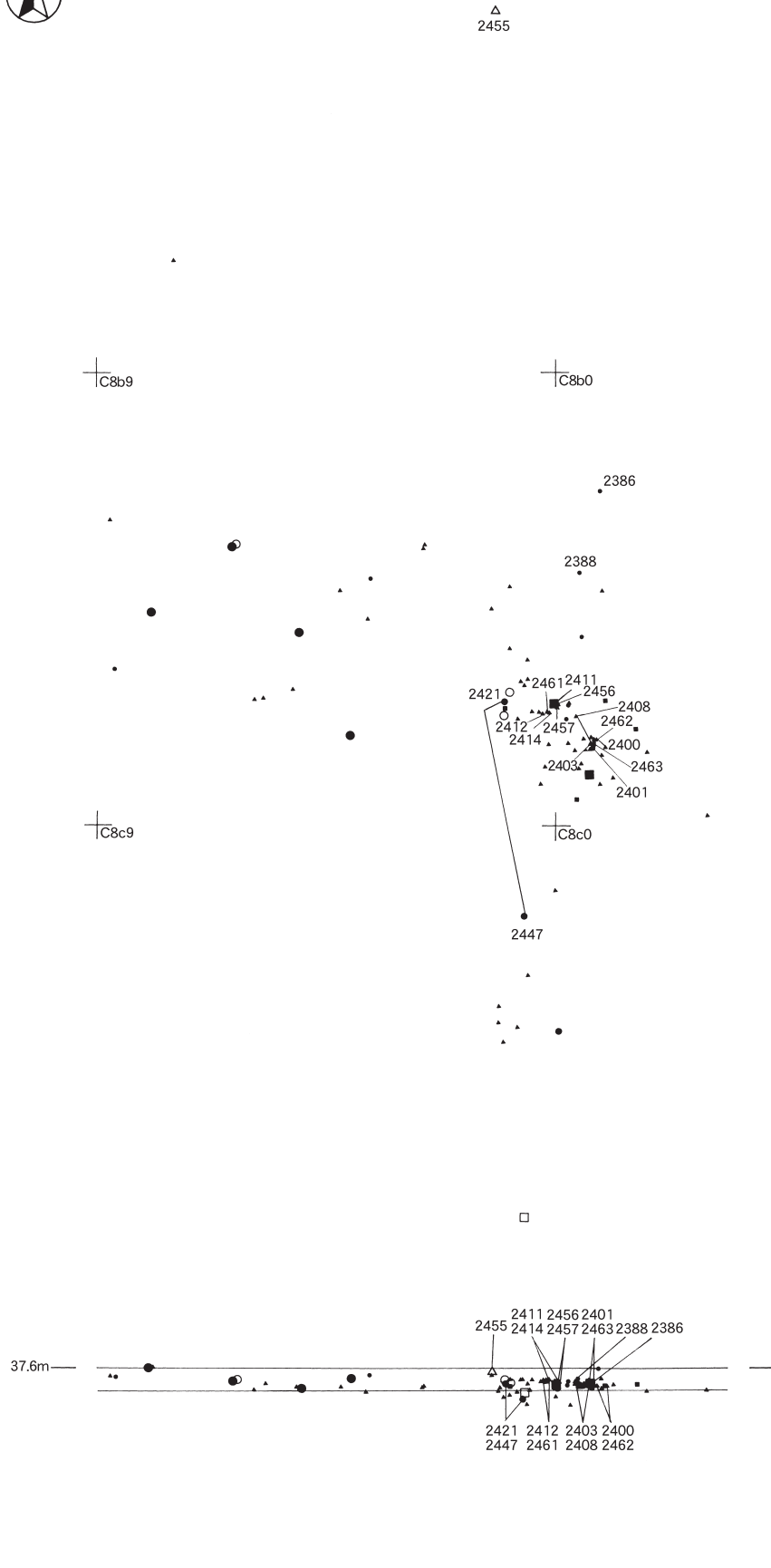
- 器種 剥片・微細剥離痕のある剥片 (小●) 碎片 (大●) 打製石斧 (小○) 礫片 (大○) 石核 (■) 原石 (□) 敲石 (▲)
 二次加工剥片 (△) 尖頭器 (★) 台石 (☆) ※礫は図化していない。
- 石質 水晶 (小●) 砂岩 (中●) チャート (大●) 雲母片岩 (小○) 凝灰岩 (大○) 黒色緻密安山岩 (小■) 珉質頁岩 (大■)
 流紋岩 (小□) 硬質頁岩 (大□) 花崗岩 (小▲) 石英斑岩 (大▲) ホルンフェルス (小△) 頁岩 (大△)



第106図 第7号石器集中地点器種別分布図



第107図 第7号石器集中地点石質分布図



第109図 第8号石器集中地点石質分布図

表11 石器集中地点出土石器一览表

番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置
1	1	C	a	0.29	C 818→X = -1.58 Y = 1.16 Z = 37.489	51	51	C	a	0.27	C 818→X = -3.76 Y = 3.78 Z = 37.411	101	101	C	a	1.70	C 818→X = -1.18 Y = 1.26 Z = 37.436
2	2	E	a	0.31	C 818→X = -2.40 Y = 0.10 Z = 37.412	52	52	C	a	0.15	C 818→X = -3.77 Y = 3.57 Z = 37.384	102	102	C	a	0.26	C 818→X = -1.26 Y = 1.27 Z = 37.469
3	3	D	a	0.19	C 818→X = -2.49 Y = 0.32 Z = 37.417	53	53	C	a	0.74	C 818→X = -3.95 Y = 3.28 Z = 37.421	103	103	D	a	0.12	C 818→X = -1.23 Y = 1.44 Z = 37.493
4	4	C	a	1.16	C 818→X = -2.83 Y = 0.80 Z = 37.438	54	54	C	a	1.18	C 818→X = -3.97 Y = 3.07 Z = 37.42	104	104	B	a	47.40	C 818→X = -1.25 Y = 1.54 Z = 37.484
5	5	C	a	1.64	C 818→X = -3.38 Y = 0.63 Z = 37.404	55	55	C	a	1.90	C 817→X = -2.75 Y = 3.16 Z = 37.458	105	105	D	a	0.05	C 818→X = -1.13 Y = 1.67 Z = 37.494
6	6	D	a	0.00	C 818→X = -3.62 Y = 0.68 Z = 37.468	56	56	C	a	0.54	C 819→X = -1.08 Y = 0.62 Z = 37.403	106	106	C	a	0.34	C 818→X = -1.06 Y = 1.79 Z = 37.483
7	7	E	a	3.68	C 818→X = -3.89 Y = 0.21 Z = 37.42	57	57	D	a	0.03	C 819→X = -2.95 Y = 0.96 Z = 37.375	107	107	C	a	0.08	C 818→X = -1.19 Y = 1.82 Z = 37.486
8	8	C	a	0.08	C 818→X = -3.90 Y = 1.04 Z = 37.423	58	58	C	a	2.58	C 818→X = -0.31 Y = 0.21 Z = 37.412	108	108	C	a	0.14	C 818→X = -1.39 Y = 1.70 Z = 37.472
9	9	C	a	0.41	C 818→X = -2.30 Y = 1.30 Z = 37.443	59	59	D	a	0.16	C 818→X = -0.05 Y = 0.68 Z = 37.469	109	109	C	a	0.13	C 818→X = -1.37 Y = 1.59 Z = 37.480
10	10	C	a	0.74	C 818→X = -2.32 Y = 1.43 Z = 37.444	60	60	D	a	0.24	C 818→X = -0.04 Y = 0.85 Z = 37.445	110	110	C	a	0.68	C 818→X = -1.54 Y = 1.92 Z = 37.444
11	11	E	a	6.55	C 818→X = -2.18 Y = 1.76 Z = 37.433	61	61	D	a	0.08	C 818→X = -0.23 Y = 0.84 Z = 37.470	111	111	C	a	0.20	C 818→X = -1.50 Y = 1.84 Z = 37.441
12	12	E	a	0.68	C 818→X = -2.53 Y = 1.83 Z = 37.422	62	62	C	a	0.54	C 818→X = -0.48 Y = 0.78 Z = 37.424	112	112	D	a	0.01	C 818→X = -1.41 Y = 1.59 Z = 37.489
13	13	C	a	4.16	C 818→X = -2.57 Y = 1.89 Z = 37.435	63	63	D	a	0.11	C 818→X = -0.45 Y = 0.68 Z = 37.463	113	113	D	a	0.10	C 818→X = -1.43 Y = 1.58 Z = 37.490
14	14	C	a	0.62	C 818→X = -3.50 Y = 1.53 Z = 37.412	64	64	C	a	0.12	C 818→X = -0.46 Y = 0.43 Z = 37.458	114	114	E	a	21.10	C 818→X = -1.51 Y = 1.59 Z = 37.483
15	15	B	j	75.30	C 818→X = -3.06 Y = 1.74 Z = 37.430	65	65	C	a	0.45	C 818→X = -0.47 Y = 0.23 Z = 37.443	115	115	D	a	0.22	C 818→X = -1.62 Y = 1.60 Z = 37.485
16	16	B	a	150.60	C 818→X = -3.25 Y = 1.83 Z = 37.433	66	66	C	a	0.07	C 818→X = -0.78 Y = 0.98 Z = 37.470	116	116	D	a	0.21	C 818→X = -1.60 Y = 1.68 Z = 37.483
17	17	D	a	0.13	C 818→X = -3.44 Y = 1.96 Z = 37.461	67	67	C	a	0.58	C 818→X = -0.87 Y = 0.83 Z = 37.461	117	117	D	a	17.70	C 818→X = -1.66 Y = 1.64 Z = 37.476
18	18	E	a	0.51	C 818→X = -3.57 Y = 1.82 Z = 37.448	68	68	C	a	0.09	C 818→X = -1.47 Y = 0.43 Z = 37.454	118	118	C	a	1.08	C 818→X = -1.69 Y = 1.53 Z = 37.483
19	19	C	a	0.14	C 818→X = -3.39 Y = 1.54 Z = 37.379	69	69	E	a	5.20	C 818→X = -1.49 Y = 0.47 Z = 37.451	119	119	D	a	0.07	C 818→X = -1.38 Y = 1.08 Z = 37.440
20	20	C	a	0.66	C 818→X = -3.46 Y = 1.04 Z = 37.436	70	70	C	a	1.72	C 818→X = -1.26 Y = 0.50 Z = 37.421	120	120	D	a	0.02	C 818→X = -1.51 Y = 1.22 Z = 37.508
21	21	D	a	0.03	C 818→X = -3.93 Y = 1.60 Z = 37.458	71	71	D	a	0.11	C 818→X = -1.27 Y = 0.94 Z = 37.462	121	121	D	a	0.03	C 818→X = -1.65 Y = 1.23 Z = 37.489
22	22	D	a	0.05	C 818→X = -3.90 Y = 1.72 Z = 37.447	72	72	C	a	0.34	C 818→X = -1.32 Y = 0.84 Z = 37.445	122	122	C	a	0.21	C 818→X = -1.88 Y = 1.48 Z = 37.478
23	23	D	a	0.02	C 818→X = -3.93 Y = 1.79 Z = 37.453	73	73	D	a	0.09	C 818→X = -1.49 Y = 0.88 Z = 37.434	123	123	C	a	0.08	C 818→X = -1.83 Y = 1.80 Z = 37.451
24	24	B	a	160.80	C 818→X = -3.56 Y = 1.94 Z = 37.412	74	74	E	a	1.56	C 818→X = -1.51 Y = 0.70 Z = 37.464	124	124	C	a	1.22	C 818→X = -1.78 Y = 1.98 Z = 37.457
25	25	D	a	0.17	C 818→X = -2.23 Y = 2.14 Z = 37.429	75	75	C	a	3.40	C 818→X = -1.53 Y = 0.76 Z = 37.476	125	125	C	a	0.24	C 818→X = -1.97 Y = 2.00 Z = 37.451
26	26	D	a	0.44	C 818→X = -2.74 Y = 2.46 Z = 37.423	76	76	C	a	5.90	C 818→X = -1.73 Y = 0.98 Z = 37.427	126	126	C	a	0.50	C 818→X = -1.99 Y = 1.69 Z = 37.461
27	27	D	a	0.01	C 818→X = -3.86 Y = 2.42 Z = 37.419	77	77	C	a	0.36	C 818→X = -1.41 Y = 0.31 Z = 37.421	127	127	D	a	0.01	C 818→X = -1.99 Y = 1.56 Z = 37.441
28	28	C	a	2.54	C 818→X = -3.92 Y = 2.30 Z = 37.404	78	78	C	a	0.78	C 818→X = -1.70 Y = 0.34 Z = 37.505	128	128	D	a	0.14	C 818→X = -2.02 Y = 1.58 Z = 37.442
29	29	C	a	5.75	C 818→X = -2.86 Y = 2.94 Z = 37.441	79	79	E	a	8.00	C 818→X = -1.96 Y = 0.85 Z = 37.422	129	129	D	a	0.13	C 818→X = -2.13 Y = 1.59 Z = 37.454
30	30	D	a	0.22	C 818→X = -3.09 Y = 2.76 Z = 37.447	80	80	C	a	0.69	C 818→X = -2.15 Y = 0.38 Z = 37.456	130	130	C	a	0.85	C 818→X = -2.03 Y = 1.03 Z = 37.472
31	31	C	a	15.40	C 818→X = -3.19 Y = 2.64 Z = 37.401	81	81	C	a	17.10	C 818→X = -2.13 Y = 0.90 Z = 37.440	131	131	C	b	1.32	C 818→X = -2.13 Y = 1.10 Z = 37.462
32	32	D	a	0.02	C 818→X = -3.12 Y = 2.98 Z = 37.339	82	82	C	a	3.44	C 818→X = -2.61 Y = 0.99 Z = 37.440	132	132	D	a	0.00	C 818→X = -2.27 Y = 1.24 Z = 37.413
33	33	C	a	0.73	C 818→X = -3.22 Y = 2.07 Z = 37.448	83	83	C	a	1.12	C 818→X = -0.03 Y = 1.12 Z = 37.423	133	133	C	a	0.19	C 818→X = -2.23 Y = 1.39 Z = 37.448
34	34	B	a	91.50	C 818→X = -3.53 Y = 2.34 Z = 37.392	84	84	C	a	31.20	C 818→X = -0.12 Y = 1.08 Z = 37.450	134	134	C	a	0.14	C 818→X = -2.33 Y = 1.40 Z = 37.449
35	35	C	a	0.68	C 818→X = -3.60 Y = 2.49 Z = 37.423	85	85	D	a	0.06	C 818→X = -0.17 Y = 1.18 Z = 37.466	135	135	C	a	0.12	C 818→X = -2.42 Y = 1.46 Z = 37.446
36	36	C	a	0.26	C 818→X = -3.67 Y = 2.92 Z = 37.399	86	86	C	a	1.94	C 818→X = -0.05 Y = 1.50 Z = 37.398	136	136	C	a	1.30	C 818→X = -2.33 Y = 1.40 Z = 37.408
37	37	C	a	1.08	C 818→X = -3.90 Y = 2.88 Z = 37.401	87	87	D	a	0.17	C 818→X = -0.16 Y = 1.64 Z = 37.448	137	137	C	a	0.15	C 818→X = -2.23 Y = 1.76 Z = 37.427
38	38	C	a	0.68	C 818→X = -3.92 Y = 2.72 Z = 37.43	88	88	C	a	6.90	C 818→X = -0.18 Y = 1.56 Z = 37.389	138	138	C	a	0.04	C 818→X = -2.38 Y = 1.88 Z = 37.456
39	39	E	a	2.38	C 818→X = -3.82 Y = 2.64 Z = 37.392	89	89	B	j	105.50	C 818→X = -0.25 Y = 1.65 Z = 37.364	139	139	C	a	2.48	C 818→X = -2.43 Y = 1.94 Z = 37.449
40	40	D	a	0.05	C 818→X = -3.79 Y = 2.52 Z = 37.45	90	90	D	a	0.12	C 818→X = -0.45 Y = 1.82 Z = 37.443	140	140	C	a	0.32	C 818→X = -2.54 Y = 1.72 Z = 37.378
41	41	C	j	0.50	C 818→X = -2.74 Y = 2.45 Z = 37.424	91	91	D	a	0.30	C 818→X = -0.42 Y = 1.62 Z = 37.457	141	141	C	a	0.25	C 818→X = -2.60 Y = 1.42 Z = 37.375
42	42	D	a	0.08	C 818→X = -2.86 Y = 2.92 Z = 37.441	92	92	D	a	0.10	C 818→X = -0.30 Y = 1.54 Z = 37.456	142	142	C	a	0.83	C 818→X = -3.12 Y = 1.83 Z = 37.393
43	43	B	j	76.40	C 818→X = -3.76 Y = 2.35 Z = 37.382	93	93	D	a	0.00	C 818→X = -0.32 Y = 1.47 Z = 37.451	143	143	C	a	0.08	C 818→X = -3.63 Y = 1.33 Z = 37.441
44	44	G	b	11.20	C 818→X = -3.76 Y = 2.12 Z = 37.451	94	94	C	a	1.48	C 818→X = -0.40 Y = 1.46 Z = 37.457	144	144	C	a	0.25	C 818→X = -0.08 Y = 2.78 Z = 37.426
45	45	D	a	0.12	C 818→X = -3.93 Y = 2.02 Z = 37.444	95	95	C	a	0.28	C 818→X = -0.63 Y = 1.18 Z = 37.441	145	145	C	a	0.81	C 818→X = -0.08 Y = 2.81 Z = 37.419
46	46	C	a	7.50	C 818→X = -3.96 Y = 2.12 Z = 37.410	96	96	C	a	0.32	C 818→X = -0.66 Y = 1.20 Z = 37.441	146	146	C	a	12.70	C 818→X = -0.25 Y = 2.75 Z = 37.380
47	47	C	a	5.45	C 818→X = -2.12 Y = 3.06 Z = 37.361	97	97	C	a	2.40	C 818→X = -0.66 Y = 1.57 Z = 37.427	147	147	C	a	5.10	C 818→X = -0.40 Y = 2.80 Z = 37.435
48	48	C	a	0.45	C 818→X = -2.58 Y = 3.48 Z = 37.366	98	98	C	a	27.80	C 818→X = -0.95 Y = 1.82 Z = 37.466	148	148	C	a	0.15	C 818→X = -0.46 Y = 2.96 Z = 37.445
49	49	C	a	0.42	C 818→X = -2.64 Y = 3.58 Z = 37.393	99	99	C	a	0.19	C 818→X = -0.97 Y = 1.42 Z = 37.499	149	149	C	j	3.06	C 818→X = -0.47 Y = 2.75 Z = 37.378
50	50	C	a	2.94	C 818→X = -3.42 Y = 3.45 Z = 37.369	100	100	C	b	1.38	C 818→X = -0.95 Y = 1.33 Z = 37.489	150	150	C	a	5.15	C 818→X = -0.49 Y = 2.64 Z = 37.349

番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置
151	151	C	a	0.34	C 8 j8→X=-0.60 Y=2.72 Z=37.383	201	201	C	a	57.40	C 8 j8→X=-1.43 Y=2.87 Z=37.388	251	251	E	a	0.32	C 8 j8→X=-3.43 Y=2.73 Z=37.391
152	152	C	a	0.24	C 8 j8→X=-0.60 Y=2.70 Z=37.396	202	202	B	a	45.80	C 8 j8→X=-1.54 Y=2.88 Z=37.373	252	252	C	a	0.06	C 8 j8→X=-3.56 Y=2.77 Z=37.412
153	153	B	a	82.60	C 8 j8→X=-0.30 Y=2.32 Z=37.398	203	203	D	a	0.07	C 8 j8→X=-1.66 Y=2.80 Z=37.433	253	253	C	a	0.37	C 8 j8→X=-3.60 Y=2.78 Z=37.381
154	154	C	a	0.46	C 8 j8→X=-0.48 Y=2.46 Z=37.426	204	204	C	a	10.90	C 8 j8→X=-1.79 Y=2.74 Z=37.395	254	254	C	a	3.00	C 8 j8→X=-0.06 Y=3.30 Z=37.430
155	155	C	a	0.17	C 8 j8→X=-0.23 Y=2.28 Z=37.353	205	205	D	a	0.08	C 8 j8→X=-1.94 Y=2.80 Z=37.406	255	255	C	a	0.18	C 8 j8→X=-0.16 Y=3.32 Z=37.426
156	156	C	a	0.25	C 8 j8→X=-0.26 Y=2.23 Z=37.452	206	206	D	a	0.14	C 8 j8→X=-1.96 Y=2.80 Z=37.406	256	256	D	a	0.07	C 8 j8→X=-0.26 Y=3.30 Z=37.432
157	157	B	a	27.00	C 8 j8→X=-0.20 Y=2.19 Z=37.446	207	207	C	a	2.86	C 8 j8→X=-1.84 Y=2.62 Z=37.436	257	257	C	a	0.15	C 8 j8→X=-0.35 Y=3.20 Z=37.433
158	158	C	a	0.05	C 8 j8→X=-0.27 Y=2.15 Z=37.444	208	208	B	a	67.20	C 8 j8→X=-1.82 Y=2.56 Z=37.401	258	258	D	a	0.16	C 8 j8→X=-0.50 Y=3.24 Z=37.422
159	159	C	a	0.69	C 8 j8→X=-0.32 Y=2.03 Z=37.403	209	209	D	a	0.05	C 8 j8→X=-1.90 Y=2.55 Z=37.443	259	259	C	a	0.92	C 8 j8→X=-0.28 Y=3.60 Z=37.420
160	160	C	a	0.97	C 8 j8→X=-0.61 Y=2.06 Z=37.402	210	210	C	a	0.32	C 8 j8→X=-1.93 Y=2.54 Z=37.445	260	260	C	a	9.90	C 8 j8→X=-0.36 Y=3.46 Z=37.427
161	161	B	a	159.90	C 8 j8→X=-0.59 Y=2.27 Z=37.344	211	211	C	a	0.26	C 8 j8→X=-1.94 Y=2.45 Z=37.431	261	261	C	a	0.99	C 8 j8→X=-0.42 Y=3.58 Z=37.402
162	162	B	a	253.00	C 8 j8→X=-0.58 Y=2.38 Z=37.337	212	212	D	a	0.02	C 8 j8→X=-1.76 Y=2.43 Z=37.432	262	262	E	a	2.34	C 8 j8→X=-0.50 Y=3.56 Z=37.392
163	163	B	a	72.60	C 8 j8→X=-0.60 Y=2.39 Z=37.365	213	213	C	a	2.38	C 8 j8→X=-1.73 Y=2.32 Z=37.407	263	263	C	a	4.04	C 8 j8→X=-0.47 Y=3.47 Z=37.407
164	164	C	a	0.32	C 8 j8→X=-1.04 Y=2.18 Z=37.445	214	214	C	a	2.72	C 8 j8→X=-2.25 Y=2.25 Z=37.439	264	264	C	a	29.40	C 8 j8→X=-3.51 Y=3.66 Z=37.352
165	165	C	a	43.00	C 8 j8→X=-1.10 Y=2.32 Z=37.471	215	215	D	a	0.06	C 8 j8→X=-2.02 Y=2.39 Z=37.433	265	265	C	a	2.54	C 8 j8→X=-0.63 Y=2.54 Z=37.424
166	166	C	a	0.82	C 8 j8→X=-1.31 Y=2.18 Z=37.477	216	216	C	a	0.45	C 8 j8→X=-2.03 Y=2.36 Z=37.425	266	266	D	a	0.18	C 8 j8→X=-1.18 Y=3.03 Z=37.370
167	167	C	a	0.34	C 8 j8→X=-1.21 Y=2.13 Z=37.478	217	217	D	a	0.13	C 8 j8→X=-2.12 Y=2.46 Z=37.441	267	267	C	a	1.14	C 8 j8→X=-1.11 Y=3.21 Z=37.441
168	168	D	a	0.01	C 8 j8→X=-1.29 Y=2.03 Z=37.481	218	218	C	a	1.54	C 8 j8→X=-2.22 Y=2.34 Z=37.426	268	268	C	a	0.62	C 8 j8→X=-1.12 Y=3.22 Z=37.430
169	169	C	a	0.06	C 8 j8→X=-1.53 Y=2.08 Z=37.419	219	219	D	a	0.02	C 8 j8→X=-2.28 Y=2.24 Z=37.432	269	269	C	a	0.48	C 8 j8→X=-1.17 Y=3.41 Z=37.429
170	170	C	a	0.32	C 8 j8→X=-1.44 Y=2.21 Z=37.476	220	220	C	a	23.50	C 8 j8→X=-2.21 Y=2.16 Z=37.443	270	270	D	a	0.06	C 8 j8→X=-1.22 Y=3.59 Z=37.373
171	171	C	a	1.08	C 8 j8→X=-1.32 Y=2.41 Z=37.439	221	221	C	a	1.82	C 8 j8→X=-2.10 Y=2.10 Z=37.452	271	271	C	a	2.92	C 8 j8→X=-1.32 Y=3.72 Z=37.422
172	172	C	a	0.37	C 8 j8→X=-1.30 Y=2.42 Z=37.441	222	222	B	a	31.80	C 8 j8→X=-2.28 Y=2.44 Z=37.379	272	272	D	a	0.03	C 8 j8→X=-1.48 Y=3.39 Z=37.423
173	173	D	a	0.04	C 8 j8→X=-1.26 Y=2.55 Z=37.433	223	223	C	a	0.12	C 8 j8→X=-2.31 Y=2.75 Z=37.383	273	273	D	a	0.05	C 8 j8→X=-1.50 Y=3.39 Z=37.426
174	174	C	a	0.10	C 8 j8→X=-1.36 Y=2.52 Z=37.472	224	224	G	a	19.20	C 8 j8→X=-2.32 Y=2.86 Z=37.375 PL27	274	274	C	a	0.13	C 8 j8→X=-1.56 Y=3.43 Z=37.427
175	175	D	a	0.02	C 8 j8→X=-1.15 Y=2.63 Z=37.389	225	225	C	a	1.34	C 8 j8→X=-2.30 Y=3.00 Z=37.387	275	275	C	a	0.91	C 8 j8→X=-1.60 Y=3.35 Z=37.422
176	176	C	a	9.25	C 8 j8→X=-1.06 Y=2.78 Z=37.446	226	226	C	a	0.13	C 8 j8→X=-2.41 Y=2.84 Z=37.394	276	276	C	a	0.42	C 8 j8→X=-1.65 Y=3.32 Z=37.423
177	177	C	a	0.26	C 8 j8→X=-1.03 Y=2.81 Z=37.449	227	227	C	a	0.85	C 8 j8→X=-2.43 Y=2.83 Z=37.396	277	277	C	a	0.54	C 8 j8→X=-1.38 Y=3.18 Z=37.416
178	178	C	a	1.94	C 8 j8→X=-1.29 Y=2.91 Z=37.412	228	228	D	a	0.13	C 8 j8→X=-2.42 Y=2.72 Z=37.403	278	278	C	a	0.24	C 8 j8→X=-1.47 Y=3.16 Z=37.393
179	179	C	a	12.10	C 8 j8→X=-1.33 Y=2.84 Z=37.419	229	229	C	a	0.48	C 8 j8→X=-2.50 Y=2.87 Z=37.397	279	279	D	a	0.00	C 8 j8→X=-1.40 Y=3.07 Z=37.376
180	180	C	a	0.11	C 8 j8→X=-1.34 Y=2.85 Z=37.428	230	230	C	a	0.26	C 8 j8→X=-2.54 Y=2.98 Z=37.356	280	280	C	a	4.62	C 8 j8→X=-1.75 Y=3.08 Z=37.399
181	181	B	a	155.40	C 8 j8→X=-0.60 Y=2.45 Z=37.345	231	231	D	a	0.03	C 8 j8→X=-2.80 Y=2.98 Z=37.387	281	281	C	a	2.18	C 8 j8→X=-1.77 Y=3.11 Z=37.398
182	182	D	a	0.08	C 8 j8→X=-1.06 Y=2.80 Z=37.449	232	232	C	a	2.84	C 8 j8→X=-2.87 Y=2.87 Z=37.394	282	282	I	l	429.00	C 8 j8→X=-1.85 Y=3.13 Z=37.298
183	183	D	a	0.13	C 8 j8→X=-1.32 Y=2.73 Z=37.385	233	233	C	a	32.60	C 8 j8→X=-2.53 Y=2.68 Z=37.362	283	283	C	a	5.10	C 8 j8→X=-1.78 Y=3.28 Z=37.372
184	184	C	a	0.19	C 8 j8→X=-1.38 Y=2.91 Z=37.419	234	234	C	a	0.28	C 8 j8→X=-2.60 Y=2.57 Z=37.391	284	284	C	a	0.87	C 8 j8→X=-2.00 Y=3.14 Z=37.444
185	185	C	a	8.15	C 8 j8→X=-1.38 Y=2.96 Z=37.411	235	235	C	a	0.13	C 8 j8→X=-2.63 Y=2.57 Z=37.398	285	285	C	a	0.84	C 8 j8→X=-1.98 Y=3.21 Z=37.373
186	186	C	a	0.62	C 8 j8→X=-1.44 Y=2.84 Z=37.424	236	236	C	a	0.76	C 8 j8→X=-2.46 Y=2.52 Z=37.385	286	286	C	a	0.41	C 8 j8→X=-1.80 Y=3.43 Z=37.409
187	187	D	a	0.01	C 8 j8→X=-1.46 Y=2.70 Z=37.421	237	237	C	a	0.71	C 8 j8→X=-2.51 Y=2.45 Z=37.381	287	287	E	a	7.60	C 8 j8→X=-1.83 Y=3.44 Z=37.400 PL27
188	188	D	a	0.01	C 8 j8→X=-1.50 Y=2.63 Z=37.462	238	238	G	a	5.45	C 8 j8→X=-2.57 Y=2.41 Z=37.374 PL28	288	288	D	a	0.16	C 8 j8→X=-1.84 Y=3.47 Z=37.407
189	189	C	a	1.50	C 8 j8→X=-1.57 Y=2.66 Z=37.413	239	239	C	a	10.30	C 8 j8→X=-2.64 Y=2.35 Z=37.378	289	289	C	a	0.08	C 8 j8→X=-1.98 Y=3.62 Z=37.402
190	190	C	a	14.60	C 8 j8→X=-1.59 Y=2.60 Z=37.418	240	240	C	b	12.20	C 8 j8→X=-2.82 Y=2.27 Z=37.385	290	290	C	a	0.35	C 8 j8→X=-1.99 Y=3.65 Z=37.403
191	191	C	a	28.60	C 8 j8→X=-1.55 Y=2.52 Z=37.428	241	241	E	a	0.98	C 8 j8→X=-2.85 Y=2.31 Z=37.384	291	291	D	a	0.10	C 8 j8→X=-2.05 Y=3.43 Z=37.407
192	192	C	a	2.84	C 8 j8→X=-1.65 Y=2.58 Z=37.456	242	242	C	a	3.40	C 8 j8→X=-2.89 Y=2.27 Z=37.409	292	292	D	a	0.11	C 8 j8→X=-2.13 Y=3.04 Z=37.394
193	193	C	a	0.81	C 8 j8→X=-1.72 Y=2.55 Z=37.451	243	243	C	a	3.22	C 8 j8→X=-2.88 Y=2.17 Z=37.412	293	293	D	a	0.10	C 8 j8→X=-2.15 Y=3.12 Z=37.398
194	194	C	a	0.60	C 8 j8→X=-1.52 Y=2.36 Z=37.468	244	244	C	a	8.60	C 8 j8→X=-2.99 Y=2.43 Z=37.409	294	294	D	a	0.10	C 8 j8→X=-2.31 Y=3.22 Z=37.397
195	195	D	a	0.08	C 8 j8→X=-1.65 Y=2.16 Z=37.404	245	245	D	j	0.14	C 8 j8→X=-3.03 Y=2.46 Z=37.412	295	295	C	a	0.16	C 8 j8→X=-2.29 Y=3.15 Z=37.397
196	196	D	a	0.02	C 8 j8→X=-1.70 Y=2.14 Z=37.416	246	246	C	a	0.29	C 8 j8→X=-3.04 Y=2.70 Z=37.402	296	296	C	a	16.50	C 8 j8→X=-2.39 Y=3.26 Z=37.401
197	197	C	a	0.08	C 8 j8→X=-1.86 Y=2.02 Z=37.433	247	247	C	a	0.78	C 8 j8→X=-3.20 Y=2.60 Z=37.382	297	297	D	a	0.03	C 8 j8→X=-2.40 Y=3.06 Z=37.399
198	198	C	a	0.12	C 8 j8→X=-1.94 Y=2.02 Z=37.455	248	248	D	a	0.02	C 8 j8→X=-3.07 Y=2.20 Z=37.387	298	298	C	a	0.13	C 8 j8→X=-2.44 Y=3.06 Z=37.403
199	199	D	a	0.06	C 8 j8→X=-1.87 Y=2.26 Z=37.395	249	249	D	a	0.13	C 8 j8→X=-3.16 Y=2.34 Z=37.418	299	299	D	a	0.09	C 8 j8→X=-2.68 Y=3.16 Z=37.388
200	200	D	a	0.12	C 8 j8→X=-1.98 Y=2.22 Z=37.399	250	250	C	a	0.11	C 8 j8→X=-3.38 Y=2.35 Z=37.411	300	300	C	a	1.28	C 8 j8→X=-2.72 Y=3.06 Z=37.341

番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置
301	301	C	a	3.40	C 8 j8→X=-2.84 Y=3.06 Z=37.388	351	351	C	a	5.80	C 8 j9→X=-2.33 Y=0.30 Z=37.283	401	401	C	a	0.17	C 8 j9→X=-2.05 Y=1.13 Z=37.354
302	302	D	a	0.05	C 8 j8→X=-2.86 Y=3.04 Z=37.393	352	352	I	l	215.00	C 8 j9→X=-2.23 Y=0.58 Z=37.230	402	402	C	a	0.26	C 8 j9→X=-2.39 Y=1.06 Z=37.353
303	303	C	a	0.07	C 8 j8→X=-2.78 Y=3.20 Z=37.343	353	353	B	a	40.80	C 8 j9→X=-2.23 Y=0.63 Z=37.260	403	403	C	a	1.64	C 8 j9→X=-2.59 Y=1.20 Z=37.329
304	304	C	a	0.49	C 8 j8→X=-2.54 Y=3.31 Z=37.391	-	-	-	-	-	-	404	404	C	a	4.82	C 8 j9→X=-2.78 Y=1.20 Z=37.294
305	305	C	a	3.82	C 8 j8→X=-2.62 Y=3.37 Z=37.381	355	355	D	a	0.02	C 8 j9→X=-2.05 Y=0.98 Z=37.303	405	405	C	a	0.08	C 8 j9→X=-2.44 Y=1.36 Z=37.351
306	306	C	a	0.18	C 8 j8→X=-2.44 Y=3.50 Z=37.390	356	356	E	a	6.25	C 8 j9→X=-2.54 Y=0.88 Z=37.320	406	406	C	a	0.71	C 8 j9→X=-2.94 Y=1.43 Z=37.330
307	307	D	a	0.17	C 8 j8→X=-2.38 Y=3.48 Z=37.389	357	357	C	a	0.66	C 8 j9→X=-2.45 Y=0.83 Z=37.312	407	407	E	a	0.50	C 8 j9→X=-2.94 Y=1.60 Z=37.289
308	308	C	a	0.46	C 8 j8→X=-2.36 Y=3.48 Z=37.396	358	358	C	a	0.26	C 8 j9→X=-2.45 Y=0.76 Z=37.311	408	408	C	a	0.71	C 8 j9→X=-2.07 Y=1.69 Z=37.304
309	309	C	a	1.58	C 8 j8→X=-2.36 Y=3.54 Z=37.394	359	359	C	a	1.26	C 8 j9→X=-2.42 Y=0.66 Z=37.350	409	409	C	a	2.26	C 8 j9→X=-2.15 Y=1.93 Z=37.326
310	310	C	a	0.33	C 8 j8→X=-2.38 Y=3.46 Z=37.388	360	360	D	a	0.10	C 8 j9→X=-2.41 Y=0.47 Z=37.384	410	410	C	a	0.21	C 8 j9→X=-2.16 Y=1.82 Z=37.341
311	311	C	a	0.53	C 8 j8→X=-2.31 Y=3.49 Z=37.394	361	361	C	a	0.80	C 8 j9→X=-2.53 Y=0.53 Z=37.348	411	411	C	a	0.85	C 8 j9→X=-2.09 Y=1.90 Z=37.333
312	312	C	a	0.15	C 8 j8→X=-2.23 Y=3.94 Z=37.408	362	362	C	a	0.46	C 8 j9→X=-2.68 Y=0.52 Z=37.372	412	412	C	a	0.30	C 8 j9→X=-2.51 Y=1.99 Z=37.335
313	313	D	a	0.02	C 8 j8→X=-2.27 Y=3.95 Z=37.412	363	363	D	a	0.01	C 8 j9→X=-2.48 Y=0.28 Z=37.400	413	413	C	a	1.72	C 8 j9→X=-2.55 Y=1.99 Z=37.301
314	314	C	a	1.30	C 8 j8→X=-3.05 Y=3.47 Z=37.348	364	364	C	a	0.40	C 8 j9→X=-2.50 Y=0.08 Z=37.338	414	414	C	a	2.22	C 8 j9→X=-2.60 Y=2.00 Z=37.314
315	315	C	a	0.21	C 8 j8→X=-3.38 Y=3.52 Z=37.404	365	365	C	a	0.53	C 8 j9→X=-2.58 Y=0.19 Z=37.309	415	415	F	a	1.60	C 8 j9→X=-3.04 Y=1.16 Z=37.273
316	316	D	a	0.00	C 8 j8→X=-3.39 Y=3.55 Z=37.405	366	366	E	a	0.51	C 8 j9→X=-2.66 Y=0.09 Z=37.378	416	416	C	a	0.28	C 8 j9→X=-3.18 Y=1.08 Z=37.347
317	317	C	a	0.15	C 8 j8→X=-3.40 Y=3.47 Z=37.406	367	367	B	a	87.10	C 8 j9→X=-2.75 Y=0.03 Z=37.274	417	417	C	a	0.43	C 8 j9→X=-3.26 Y=1.17 Z=37.355
318	318	C	a	9.50	C 8 j8→X=-3.37 Y=3.35 Z=37.351	368	368	C	a	6.10	C 8 j9→X=-2.85 Y=0.17 Z=37.370	418	418	C	a	0.15	C 8 j9→X=-3.04 Y=1.60 Z=37.354
319	319	C	a	0.26	C 8 j8→X=-3.46 Y=3.11 Z=37.378	369	369	E	a	1.78	C 8 j9→X=-2.80 Y=0.29 Z=37.358	419	419	C	a	0.13	C 8 j9→X=-3.11 Y=1.70 Z=37.319
320	320	C	a	0.07	C 8 j8→X=-3.50 Y=3.12 Z=37.375	370	370	C	a	2.44	C 8 j9→X=-2.93 Y=0.30 Z=37.376	420	420	C	a	0.24	C 8 j9→X=-3.30 Y=1.86 Z=37.298
321	321	C	a	0.17	C 8 j8→X=-3.63 Y=3.11 Z=37.397	371	371	C	a	0.60	C 8 j9→X=-2.89 Y=0.49 Z=37.352	421	421	C	a	1.22	C 8 j9→X=-3.10 Y=1.98 Z=37.311
322	322	C	a	0.16	C 8 j7→X=-2.52 Y=3.57 Z=37.484	372	372	C	a	21.90	C 8 j9→X=-2.87 Y=0.63 Z=37.282	422	422	C	a	1.10	C 8 j9→X=-3.20 Y=1.96 Z=37.264
323	323	C	a	0.33	C 8 j9→X=-0.52 Y=0.04 Z=37.312	373	373	D	a	0.02	C 8 j9→X=-2.87 Y=0.67 Z=37.261	423	423	C	a	0.52	C 8 j9→X=-3.02 Y=1.98 Z=37.319
324	324	C	a	0.34	C 8 j9→X=-0.51 Y=0.39 Z=37.306	374	374	C	a	0.66	C 8 j9→X=-2.64 Y=0.82 Z=37.290	424	424	C	a	0.49	C 8 j9→X=-1.17 Y=2.57 Z=37.318
325	325	C	a	4.28	C 8 j9→X=-0.42 Y=0.62 Z=37.381	375	375	C	a	5.55	C 8 j9→X=-3.07 Y=0.08 Z=37.297	425	425	C	a	1.46	C 8 j9→X=-1.39 Y=2.08 Z=37.259
326	326	E	a	2.98	C 8 j9→X=-0.44 Y=0.80 Z=37.346	376	376	C	a	0.05	C 8 j9→X=-3.22 Y=0.07 Z=37.353	426	426	C	a	1.16	C 8 j9→X=-1.78 Y=2.12 Z=37.333
327	327	C	a	1.02	C 8 j9→X=-1.14 Y=0.18 Z=37.310	377	377	E	a	0.44	C 8 j9→X=-3.13 Y=0.37 Z=37.369	427	427	F	a	2.46	C 8 j9→X=-1.89 Y=2.05 Z=37.275 PL27
328	328	C	a	1.34	C 8 j9→X=-1.25 Y=0.04 Z=37.351	378	378	C	a	1.06	C 8 j9→X=-3.52 Y=0.03 Z=37.324	428	428	D	a	0.00	C 8 j9→X=-2.00 Y=2.25 Z=37.259
329	329	C	a	1.24	C 8 j9→X=-1.33 Y=0.06 Z=37.302	379	379	D	a	0.03	C 8 j9→X=-3.36 Y=0.29 Z=37.307	429	429	C	a	2.80	C 8 j9→X=-2.01 Y=2.65 Z=37.282
330	330	C	a	0.43	C 8 j9→X=-1.37 Y=0.23 Z=37.380	380	380	D	a	0.05	C 8 j9→X=-3.36 Y=0.45 Z=37.351	430	430	C	a	0.11	C 8 j9→X=-2.03 Y=2.52 Z=37.288
331	331	E	a	3.52	C 8 j9→X=-1.17 Y=0.39 Z=37.391	381	381	C	a	0.11	C 8 j9→X=-3.28 Y=0.46 Z=37.290	431	431	C	a	0.63	C 8 j9→X=-2.98 Y=2.43 Z=37.276
332	332	C	a	3.38	C 8 j9→X=-1.36 Y=0.62 Z=37.342	382	382	C	a	0.28	C 8 j9→X=-3.07 Y=0.47 Z=37.204	432	432	C	a	0.12	C 8 j9→X=-3.20 Y=2.60 Z=37.281
333	333	D	a	0.16	C 8 j9→X=-1.49 Y=0.26 Z=37.322	383	383	C	a	0.16	C 8 j9→X=-3.07 Y=0.57 Z=37.311	433	433	C	a	0.19	C 8 j9→X=-0.00 Y=3.93 Z=37.294
334	334	C	a	0.37	C 8 j9→X=-1.53 Y=0.25 Z=37.319	384	384	C	a	0.45	C 8 j9→X=-3.18 Y=0.85 Z=37.304	434	434	C	a	3.14	C 8 j9→X=-0.55 Y=3.65 Z=37.283
335	335	C	a	1.86	C 8 j9→X=-1.53 Y=0.36 Z=37.287	385	385	D	a	0.05	C 8 j9→X=-3.23 Y=0.92 Z=37.367	435	435	E	a	0.68	C 8 j9→X=-2.96 Y=3.30 Z=37.251
336	336	C	a	1.08	C 8 j9→X=-1.65 Y=0.14 Z=37.378	386	386	C	j	5.00	C 8 j9→X=-3.05 Y=0.95 Z=37.359	436	436	C	a	0.94	C 8 j9→X=-3.25 Y=3.09 Z=37.253
337	337	C	a	0.72	C 8 j9→X=-1.93 Y=0.05 Z=37.313	387	387	D	a	0.06	C 8 j9→X=-0.18 Y=1.66 Z=37.353	437	437	C	a	0.32	D 8 a9→X=-0.10 Y=0.32 Z=37.388
338	338	C	a	0.16	C 8 j9→X=-1.83 Y=0.27 Z=37.380	388	388	C	a	0.46	C 8 j9→X=-0.30 Y=1.14 Z=37.384	438	438	C	a	1.68	D 8 a9→X=-0.38 Y=0.86 Z=37.301
339	339	C	a	0.49	C 8 j9→X=-1.90 Y=0.28 Z=37.300	389	389	C	a	0.14	C 8 j9→X=-2.23 Y=0.84 Z=37.353	439	439	C	a	0.26	D 8 a9→X=-0.23 Y=1.05 Z=37.318
340	340	C	a	0.15	C 8 j9→X=-1.77 Y=0.43 Z=37.353	390	390	C	a	0.22	C 8 j9→X=-2.39 Y=0.96 Z=37.262	440	440	D	a	0.06	D 8 a9→X=-0.72 Y=2.31 Z=37.267
341	341	C	a	1.08	C 8 j9→X=-1.83 Y=0.43 Z=37.344	391	391	C	a	0.22	C 8 j9→X=-0.60 Y=1.17 Z=37.331	441	441	D	a	0.07	D 8 a8→X=-0.20 Y=3.95 Z=37.392
342	342	C	a	0.26	C 8 j9→X=-1.91 Y=0.48 Z=37.313	392	392	D	a	0.02	C 8 j9→X=-1.03 Y=1.24 Z=37.262	442	442	D	a	0.02	D 8 a8→X=-0.38 Y=3.92 Z=37.394
343	343	C	a	2.26	C 8 j9→X=-1.68 Y=0.50 Z=37.314	393	393	E	a	1.82	C 8 j9→X=-1.24 Y=1.35 Z=37.342	443	443	C	a	0.49	C 8 i8→X=-2.76 Y=0.10 Z=37.379
344	344	C	a	0.11	C 8 j9→X=-1.80 Y=0.60 Z=37.284	394	394	C	a	0.12	C 8 j9→X=-1.54 Y=1.05 Z=37.310	444	444	C	a	1.90	C 8 i8→X=-2.76 Y=0.55 Z=37.376
345	345	C	a	0.77	C 8 j9→X=-1.91 Y=0.79 Z=37.351	395	395	C	a	0.06	C 8 j9→X=-1.78 Y=1.03 Z=37.302	-	-	-	-	-	-
346	346	C	a	0.30	C 8 j9→X=-2.00 Y=0.55 Z=37.377	396	396	C	a	0.84	C 8 j9→X=-1.47 Y=1.73 Z=37.318	446	446	E	a	3.06	C 8 i8→X=-3.61 Y=0.77 Z=37.348
347	347	C	a	0.44	C 8 j9→X=-2.04 Y=0.39 Z=37.273	397	397	C	a	0.29	C 8 j9→X=-1.70 Y=1.71 Z=37.354	447	447	C	a	0.45	C 8 i8→X=-3.79 Y=0.95 Z=37.401
348	348	C	a	1.80	C 8 j9→X=-2.05 Y=0.45 Z=37.304	398	398	C	a	1.06	C 8 j9→X=-1.71 Y=1.38 Z=37.287	448	448	C	a	0.63	C 8 i8→X=-3.95 Y=0.92 Z=37.396
349	349	C	a	2.42	C 8 j9→X=-2.13 Y=0.28 Z=37.372	399	399	C	a	0.74	C 8 j9→X=-1.05 Y=1.95 Z=37.309	449	449	C	a	1.18	C 8 i8→X=-2.90 Y=1.03 Z=37.378
350	350	F	a	0.45	C 8 j9→X=-2.26 Y=0.31 Z=37.333	400	400	C	a	0.09	C 8 j9→X=-1.90 Y=1.96 Z=37.272	450	450	C	a	0.36	C 8 i8→X=-2.88 Y=1.20 Z=37.346

番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置
451	451	C	a	1.36	C 8 i8→X=-2.67 Y=1.98 Z=37.351	501	501	C	a	0.11	C 8 j8→X=-1.21 Y=0.63 Z=37.395	551	551	C	a	2.28	C 8 j8→X=-0.61 Y=0.75 Z=37.320
452	452	E	a	0.35	C 8 i8→X=-3.00 Y=1.98 Z=37.347	502	502	D	a	0.12	C 8 j8→X=-1.21 Y=0.99 Z=37.402	552	552	C	a	0.39	C 8 j8→X=-0.33 Y=0.94 Z=37.330
453	453	E	a	1.62	C 8 i8→X=-3.34 Y=1.47 Z=37.375	503	503	C	a	0.96	C 8 j8→X=-1.30 Y=0.86 Z=37.415	553	553	C	a	0.31	C 8 j8→X=-0.23 Y=1.96 Z=37.341
454	454	C	a	8.10	C 8 i8→X=-3.58 Y=1.98 Z=37.330	504	504	C	a	0.48	C 8 j8→X=-1.38 Y=0.96 Z=37.371	554	554	C	a	1.60	C 8 j8→X=-0.03 Y=1.52 Z=37.384
455	455	D	a	0.12	C 8 i8→X=-3.55 Y=1.96 Z=37.357	505	505	C	b	1.12	C 8 j8→X=-1.48 Y=0.79 Z=37.401	555	555	B	a	109.40	C 8 j8→X=-0.00 Y=1.65 Z=37.355
456	456	C	a	0.32	C 8 i8→X=-3.78 Y=1.83 Z=37.319	506	506	C	a	1.60	C 8 j8→X=-1.53 Y=0.82 Z=37.377	556	556	D	a	0.03	C 8 j8→X=-0.05 Y=1.98 Z=37.378
457	457	D	a	0.11	C 8 i8→X=-3.92 Y=1.83 Z=37.417	507	507	C	a	4.76	C 8 j8→X=-1.55 Y=0.75 Z=37.349	557	557	C	a	11.90	C 8 j8→X=-0.92 Y=1.88 Z=37.518
458	458	D	a	0.06	C 8 i8→X=-3.91 Y=1.77 Z=37.423	508	508	D	a	0.04	C 8 j8→X=-1.44 Y=0.66 Z=37.419	558	558	C	a	1.04	C 8 j8→X=-1.24 Y=1.22 Z=37.386
459	459	B	a	206.00	C 8 i8→X=-3.96 Y=1.78 Z=37.371	509	509	C	a	0.10	C 8 j8→X=-1.46 Y=0.64 Z=37.417	559	559	C	a	32.90	C 8 j8→X=-1.11 Y=1.45 Z=37.383
460	460	D	a	0.01	C 8 i8→X=-3.95 Y=1.67 Z=37.401	510	510	C	a	17.00	C 8 j8→X=-1.59 Y=0.29 Z=37.321	560	560	C	a	68.50	C 8 j8→X=-1.12 Y=1.49 Z=37.416
461	461	C	a	3.90	C 8 i8→X=-3.65 Y=1.13 Z=37.388	511	511	C	a	0.36	C 8 j8→X=-1.75 Y=0.31 Z=37.389	561	561	C	a	0.27	C 8 j8→X=-1.11 Y=1.61 Z=37.498
462	462	C	a	0.59	C 8 i8→X=-3.73 Y=1.52 Z=37.397	512	512	E	b	113.60	C 8 j8→X=-1.68 Y=0.52 Z=37.383	562	562	C	a	0.22	C 8 j8→X=-1.08 Y=1.67 Z=37.548
463	463	C	a	0.88	C 8 i8→X=-3.91 Y=1.59 Z=37.406	513	513	C	a	0.11	C 8 j8→X=-1.79 Y=0.48 Z=37.345	563	563	C	a	12.50	C 8 j8→X=-1.25 Y=1.55 Z=37.513
464	464	C	a	0.25	C 8 i8→X=-3.88 Y=1.70 Z=37.418	514	514	C	a	0.23	C 8 j8→X=-1.91 Y=0.59 Z=37.346	564	564	C	b	6.80	C 8 j8→X=-1.23 Y=1.48 Z=37.462
465	465	C	a	0.54	C 8 i8→X=-3.96 Y=1.39 Z=37.364	515	515	C	a	2.72	C 8 j8→X=-1.55 Y=0.97 Z=37.400	565	565	E	a	0.62	C 8 j8→X=-1.28 Y=1.42 Z=37.479
466	466	C	a	0.41	C 8 i8→X=-2.65 Y=2.06 Z=37.354	516	516	C	a	5.80	C 8 j8→X=-1.65 Y=0.98 Z=37.422	566	566	B	a	102.10	C 8 j8→X=-1.17 Y=1.42 Z=37.349
467	467	C	a	0.12	C 8 i8→X=-2.80 Y=2.44 Z=37.405	517	517	C	a	0.06	C 8 j8→X=-1.80 Y=0.99 Z=37.324	567	567	C	a	4.16	C 8 j8→X=-1.45 Y=1.50 Z=37.450
468	468	C	a	1.20	C 8 i8→X=-2.50 Y=3.52 Z=37.298	518	518	C	a	1.40	C 8 j8→X=-1.93 Y=0.88 Z=37.326	568	568	C	a	0.15	C 8 j8→X=-1.46 Y=1.46 Z=37.447
469	469	C	a	3.02	C 8 i8→X=-3.13 Y=2.68 Z=37.327	519	519	E	a	0.79	C 8 j8→X=-2.00 Y=0.77 Z=37.344	569	569	C	a	22.90	C 8 j8→X=-1.45 Y=1.48 Z=37.430
470	470	C	a	0.18	C 8 i8→X=-3.28 Y=2.56 Z=37.318	520	520	C	a	1.64	C 8 j8→X=-2.02 Y=0.21 Z=37.353	570	570	C	a	0.72	C 8 j8→X=-1.49 Y=1.30 Z=37.466
471	471	C	a	3.50	C 8 i8→X=-3.38 Y=2.38 Z=37.301	521	521	C	a	3.48	C 8 j8→X=-2.02 Y=0.68 Z=37.368	571	571	C	a	11.30	C 8 j8→X=-1.63 Y=1.26 Z=37.481
472	472	C	a	3.30	C 8 i8→X=-3.45 Y=2.36 Z=37.359	522	522	C	a	1.10	C 8 j8→X=-2.08 Y=0.66 Z=37.359	572	572	C	a	1.36	C 8 j8→X=-1.58 Y=1.18 Z=37.496
473	473	B	a	96.30	C 8 i8→X=-3.42 Y=2.50 Z=37.316	523	523	C	a	0.09	C 8 j8→X=-2.09 Y=0.88 Z=37.340	573	573	C	l	2.56	C 8 j8→X=-1.56 Y=1.02 Z=37.495
474	474	C	a	3.00	C 8 i8→X=-3.44 Y=2.69 Z=37.357	524	524	D	a	0.03	C 8 j8→X=-2.40 Y=0.54 Z=37.349	574	574	D	a	0.06	C 8 j8→X=-1.59 Y=1.04 Z=37.486
475	475	C	a	32.70	C 8 i8→X=-3.70 Y=2.53 Z=37.358	525	525	C	a	0.32	C 8 j8→X=-2.35 Y=0.97 Z=37.413	575	575	D	a	0.04	C 8 j8→X=-1.80 Y=1.18 Z=37.434
476	476	F	a	24.30	C 8 i8→X=-3.66 Y=2.22 Z=37.294	526	526	C	a	0.14	C 8 j8→X=-2.26 Y=0.98 Z=37.386	576	576	C	a	0.29	C 8 j8→X=-1.60 Y=1.38 Z=37.480
477	477	C	a	0.31	C 8 i8→X=-3.78 Y=2.14 Z=37.318	527	527	C	a	0.55	C 8 j8→X=-2.50 Y=0.73 Z=37.359	577	577	C	a	7.80	C 8 j8→X=-1.69 Y=1.45 Z=37.475
478	478	C	a	0.25	C 8 i8→X=-3.92 Y=2.12 Z=37.310	528	528	C	a	3.60	C 8 j8→X=-2.50 Y=0.88 Z=37.390	578	578	C	a	1.60	C 8 j8→X=-1.80 Y=1.41 Z=37.501
479	479	C	a	0.46	C 8 i8→X=-3.54 Y=2.66 Z=37.296	529	529	C	a	0.09	C 8 j8→X=-2.75 Y=0.71 Z=37.342	579	579	C	a	1.46	C 8 j8→X=-1.54 Y=1.37 Z=37.411
480	480	C	a	0.44	C 8 i8→X=-3.97 Y=2.62 Z=37.298	530	530	C	a	0.66	C 8 j8→X=-2.94 Y=0.78 Z=37.376	580	580	D	a	0.04	C 8 j8→X=-1.69 Y=1.57 Z=37.409
481	481	C	a	14.00	C 8 i8→X=-2.85 Y=3.40 Z=37.343	531	531	C	a	0.41	C 8 j8→X=-2.84 Y=0.35 Z=37.440	581	581	E	a	1.54	C 8 j8→X=-1.21 Y=1.87 Z=37.449
482	482	C	a	0.32	C 8 i8→X=-3.29 Y=3.30 Z=37.317	532	532	C	a	0.07	C 8 j8→X=-3.18 Y=0.47 Z=37.378	582	582	C	a	10.20	C 8 j8→X=-1.30 Y=2.00 Z=37.376
483	483	C	a	0.85	C 8 i8→X=-3.63 Y=3.06 Z=37.338	533	533	C	a	21.90	C 8 j8→X=-0.39 Y=1.10 Z=37.327	583	583	C	a	15.40	C 8 j8→X=-1.32 Y=1.84 Z=37.450
484	484	C	a	0.39	C 8 i8→X=-3.78 Y=3.52 Z=37.325	534	534	C	a	1.04	C 8 j8→X=-0.19 Y=1.05 Z=37.382	584	584	C	a	0.20	C 8 j8→X=-1.40 Y=1.91 Z=37.488
485	485	C	a	0.17	C 8 i9→X=-1.85 Y=0.40 Z=37.282	535	535	C	a	4.92	C 8 j8→X=-0.21 Y=1.21 Z=37.361	585	585	C	a	0.21	C 8 j8→X=-1.53 Y=1.92 Z=37.494
486	486	C	j	0.66	C 8 i9→X=-2.96 Y=0.32 Z=37.286	536	536	C	a	0.16	C 8 j8→X=-0.03 Y=1.31 Z=37.365	586	586	D	a	0.14	C 8 j8→X=-1.46 Y=1.82 Z=37.483
487	487	C	a	0.44	C 8 i9→X=-3.14 Y=0.45 Z=37.281	537	537	C	a	0.34	C 8 j8→X=-0.43 Y=1.38 Z=37.346	587	587	C	a	19.70	C 8 j8→X=-1.44 Y=1.72 Z=37.429
488	488	C	a	0.14	C 8 i9→X=-3.70 Y=0.24 Z=37.316	538	538	C	a	0.66	C 8 j8→X=-0.27 Y=1.49 Z=37.430	588	588	F	a	1.18	C 8 j8→X=-1.58 Y=1.73 Z=37.466
489	489	C	a	0.24	C 8 i9→X=-3.75 Y=0.28 Z=37.314	539	539	C	a	0.05	C 8 j8→X=-0.45 Y=1.48 Z=37.426	589	589	C	a	6.45	C 8 j8→X=-1.44 Y=1.62 Z=37.515
490	490	C	a	0.03	C 8 i9→X=-3.69 Y=0.55 Z=37.299	540	540	C	a	0.11	C 8 j8→X=-0.35 Y=1.60 Z=37.435	590	590	C	a	1.24	C 8 j8→X=-1.52 Y=1.69 Z=37.478
491	491	D	a	0.01	C 8 j8→X=-0.10 Y=0.35 Z=37.386	541	541	C	a	12.20	C 8 j8→X=-0.45 Y=1.60 Z=37.413	591	591	G	a	18.30	C 8 j8→X=-1.78 Y=1.73 Z=37.417 PL28
492	492	C	j	5.85	C 8 j8→X=-0.11 Y=0.75 Z=37.449	542	542	B	a	102.20	C 8 j8→X=-0.46 Y=1.66 Z=37.370	592	592	C	a	9.55	C 8 j8→X=-1.80 Y=1.90 Z=37.430
493	493	C	a	0.26	C 8 j8→X=-0.25 Y=0.82 Z=37.448	543	543	B	j	34.90	C 8 j8→X=-0.54 Y=1.76 Z=37.369	593	593	D	a	0.09	C 8 j8→X=-1.90 Y=1.98 Z=37.445
494	494	C	a	4.90	C 8 j8→X=-0.47 Y=0.76 Z=37.365	544	544	C	j	6.15	C 8 j8→X=-0.56 Y=1.80 Z=37.366	594	594	C	a	4.42	C 8 j8→X=-1.85 Y=1.88 Z=37.425
495	495	C	a	0.93	C 8 j8→X=-0.53 Y=0.75 Z=37.385	545	545	B	a	49.10	C 8 j8→X=-0.36 Y=1.70 Z=37.424	595	595	E	a	3.48	C 8 j8→X=-1.89 Y=1.80 Z=37.433
496	496	C	a	14.90	C 8 j8→X=-0.51 Y=0.86 Z=37.399	546	546	C	a	1.38	C 8 j8→X=-0.35 Y=1.84 Z=37.315	596	596	D	a	0.05	C 8 j8→X=-1.90 Y=1.68 Z=37.465
497	497	C	a	2.44	C 8 j7→X=-0.51 Y=3.80 Z=37.467	547	547	C	a	6.65	C 8 j8→X=-0.80 Y=1.60 Z=37.348	597	597	D	a	0.03	C 8 j8→X=-2.05 Y=1.68 Z=37.397
498	498	C	a	0.94	C 8 j8→X=-1.09 Y=0.78 Z=37.357	548	548	C	a	0.19	C 8 j8→X=-0.09 Y=1.67 Z=37.396	598	598	C	a	15.80	C 8 j8→X=-2.03 Y=1.85 Z=37.448
499	499	C	a	2.40	C 8 j8→X=-1.11 Y=0.90 Z=37.378	549	549	C	a	0.12	C 8 j8→X=-0.09 Y=1.73 Z=37.392	599	599	C	a	3.62	C 8 j8→X=-2.04 Y=1.96 Z=37.461
500	500	C	a	0.58	C 8 j8→X=-1.07 Y=0.96 Z=37.393	550	550	C	a	0.14	C 8 j8→X=-0.05 Y=1.83 Z=37.408	600	600	C	a	1.06	C 8 j8→X=-2.12 Y=2.00 Z=37.353

番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置
601	601	C	a	0.61	C 8j8→X=-2.06 Y=1.14 Z=37.504	651	651	C	a	0.46	C 8j8→X=-1.09 Y=2.39 Z=37.456	701	701	C	j	2.42	C 8j8→X=-1.62 Y=2.52 Z=37.303
602	602	C	b	12.90	C 8j8→X=-2.18 Y=1.06 Z=37.450	652	652	C	a	11.00	C 8j8→X=-1.05 Y=2.68 Z=37.379	702	702	B	a	186.00	C 8j8→X=-1.75 Y=2.53 Z=37.288
603	603	C	a	0.20	C 8j8→X=-2.39 Y=1.09 Z=37.451	653	653	C	a	0.69	C 8j8→X=-1.30 Y=2.07 Z=37.398	703	703	C	a	3.00	C 8j8→X=-1.81 Y=1.61 Z=37.340
604	604	D	a	0.06	C 8j8→X=-2.44 Y=1.12 Z=37.450	654	654	E	a	0.60	C 8j8→X=-1.29 Y=2.20 Z=37.458	704	704	C	a	6.45	C 8j8→X=-1.93 Y=1.59 Z=37.338
605	605	C	a	0.32	C 8j8→X=-2.63 Y=1.05 Z=37.401	655	655	C	a	10.50	C 8j8→X=-1.22 Y=2.26 Z=37.449	705	705	B	a	66.10	C 8j8→X=-2.11 Y=2.49 Z=37.317
606	606	B	a	28.50	C 8j8→X=-2.75 Y=1.24 Z=37.452	656	656	C	a	0.23	C 8j8→X=-1.20 Y=2.37 Z=37.476	706	706	C	a	143.00	C 8j8→X=-2.08 Y=2.59 Z=37.342
607	607	C	a	0.04	C 8j8→X=-2.50 Y=1.27 Z=37.363	657	657	C	a	0.16	C 8j8→X=-1.31 Y=2.35 Z=37.440	707	707	C	a	3.76	C 8j8→X=-2.19 Y=2.58 Z=37.366
608	608	C	a	0.31	C 8j8→X=-2.57 Y=1.35 Z=37.355	658	658	C	a	0.57	C 8j8→X=-1.29 Y=2.45 Z=37.425	708	708	C	a	0.19	C 8j8→X=-2.28 Y=2.59 Z=37.370
609	609	C	a	7.40	C 8j8→X=-2.55 Y=1.45 Z=37.356	659	659	C	a	0.15	C 8j8→X=-1.30 Y=2.52 Z=37.480	709	709	B	a	131.90	C 8j8→X=-2.20 Y=2.52 Z=37.283
610	610	C	a	0.12	C 8j8→X=-2.07 Y=1.30 Z=37.421	660	660	C	j	0.26	C 8j8→X=-1.15 Y=2.58 Z=37.389	710	710	E	a	17.50	C 8j8→X=-2.30 Y=2.50 Z=37.287
611	611	C	a	0.12	C 8j8→X=-2.17 Y=1.37 Z=37.471	661	661	C	a	0.54	C 8j8→X=-1.55 Y=2.15 Z=37.345	711	711	C	a	246.00	C 8j8→X=-2.35 Y=2.48 Z=37.244
612	612	C	a	0.15	C 8j8→X=-2.16 Y=1.73 Z=37.471	662	662	C	a	1.58	C 8j8→X=-1.59 Y=2.38 Z=37.400	712	712	B	a	6.05	C 8j8→X=-2.48 Y=2.45 Z=37.337
613	613	C	a	0.86	C 8j8→X=-2.17 Y=1.83 Z=37.449	663	663	C	a	2.38	C 8j8→X=-1.78 Y=2.06 Z=37.274	713	713	B	a	59.90	C 8j8→X=-2.45 Y=2.61 Z=37.286
614	614	C	a	0.24	C 8j8→X=-2.27 Y=1.94 Z=37.443	664	664	E	a	1.16	C 8j8→X=-1.86 Y=2.02 Z=37.361	714	714	C	a	0.09	C 8j8→X=-2.52 Y=2.60 Z=37.359
615	615	C	a	0.25	C 8j8→X=-2.29 Y=1.93 Z=37.468	665	665	C	a	0.17	C 8j8→X=-1.93 Y=2.06 Z=37.357	715	715	C	a	0.09	C 8j8→X=-2.73 Y=2.58 Z=37.314
616	616	C	a	0.16	C 8j8→X=-2.27 Y=1.73 Z=37.436	666	666	C	b	5.24	C 8j8→X=-1.80 Y=2.20 Z=37.302	716	716	C	a	1.56	C 8j8→X=-2.85 Y=2.53 Z=37.334
617	617	C	a	2.60	C 8j8→X=-2.42 Y=1.94 Z=37.376	667	667	D	a	0.02	C 8j8→X=-1.90 Y=2.21 Z=37.333	717	717	D	a	0.03	C 8j8→X=-2.97 Y=2.62 Z=37.328
618	618	C	a	1.14	C 8j8→X=-2.44 Y=1.95 Z=37.382	668	668	C	a	3.62	C 8j8→X=-1.79 Y=2.30 Z=37.338	-	-	-	-	-	-
619	619	C	a	0.48	C 8j8→X=-2.56 Y=1.85 Z=37.426	669	669	C	a	0.06	C 8j8→X=-2.23 Y=2.00 Z=37.380	719	719	C	a	0.20	C 8j8→X=-3.00 Y=2.82 Z=37.328
620	620	C	a	9.10	C 8j8→X=-2.66 Y=1.67 Z=37.424	670	670	C	a	0.45	C 8j8→X=-2.21 Y=2.12 Z=37.415	720	720	C	a	5.05	C 8j8→X=-3.16 Y=2.85 Z=37.317
621	621	C	a	0.85	C 8j8→X=-2.84 Y=1.96 Z=37.410	671	671	C	a	5.60	C 8j8→X=-2.27 Y=2.17 Z=37.372	721	721	C	a	0.16	C 8j8→X=-1.27 Y=2.83 Z=37.349
622	622	C	a	0.20	C 8j8→X=-2.93 Y=1.97 Z=37.411	672	672	C	a	6.70	C 8j8→X=-2.37 Y=2.08 Z=37.337	722	722	C	a	0.10	C 8j8→X=-1.32 Y=2.72 Z=37.335
623	623	C	a	0.14	C 8j8→X=-2.98 Y=1.95 Z=37.421	673	673	C	a	0.26	C 8j8→X=-2.36 Y=2.15 Z=37.360	723	723	C	a	0.17	C 8j8→X=-1.51 Y=2.73 Z=37.405
624	624	E	a	5.45	C 8j8→X=-2.92 Y=1.85 Z=37.368	674	674	C	a	0.02	C 8j8→X=-2.51 Y=2.08 Z=37.369	724	724	C	a	4.52	C 8j8→X=-1.63 Y=2.65 Z=37.387
625	625	C	a	0.27	C 8j8→X=-3.00 Y=1.81 Z=37.370	675	675	C	a	0.21	C 8j8→X=-2.63 Y=2.08 Z=37.337	725	725	C	a	0.03	C 8j8→X=-1.57 Y=2.62 Z=37.412
626	626	C	a	0.58	C 8j8→X=-3.14 Y=1.20 Z=37.370	676	676	D	a	0.11	C 8j8→X=-2.70 Y=2.09 Z=37.332	726	726	C	a	0.09	C 8j8→X=-1.62 Y=2.73 Z=37.370
627	627	C	a	0.89	C 8j8→X=-3.19 Y=1.35 Z=37.395	677	677	C	a	0.84	C 8j8→X=-2.82 Y=2.06 Z=37.328	727	727	C	a	0.13	C 8j8→X=-1.76 Y=2.68 Z=37.333
628	628	C	a	0.76	C 8j8→X=-3.29 Y=1.44 Z=37.408	678	678	C	a	12.90	C 8j8→X=-2.67 Y=2.23 Z=37.337	728	728	D	a	0.06	C 8j8→X=-1.79 Y=2.80 Z=37.350
629	629	C	a	0.52	C 8j8→X=-3.15 Y=1.59 Z=37.416	679	679	C	a	3.92	C 8j8→X=-3.00 Y=2.23 Z=37.337	729	729	D	a	0.06	C 8j8→X=-1.70 Y=2.78 Z=37.352
630	630	D	a	0.21	C 8j8→X=-3.25 Y=1.60 Z=37.425	680	680	D	a	0.14	C 8j8→X=-2.21 Y=2.22 Z=37.382	730	730	C	a	0.06	C 8j8→X=-1.58 Y=2.78 Z=37.370
631	631	D	a	0.06	C 8j8→X=-3.39 Y=1.81 Z=37.462	681	681	B	a	99.50	C 8j8→X=-1.48 Y=2.38 Z=37.311	731	731	C	a	1.66	C 8j8→X=-1.60 Y=2.89 Z=37.328
632	632	C	a	0.09	C 8j8→X=-3.52 Y=1.97 Z=37.446	682	682	D	a	0.08	C 8j8→X=-1.57 Y=2.38 Z=37.375	732	732	C	a	2.36	C 8j8→X=-1.53 Y=2.85 Z=37.364
633	633	C	a	0.27	C 8j8→X=-3.42 Y=1.13 Z=37.417	683	683	B	a	49.60	C 8j8→X=-1.58 Y=2.42 Z=37.312	733	733	C	a	0.18	C 8j8→X=-1.43 Y=2.82 Z=37.418
634	634	E	a	6.75	C 8j8→X=-3.73 Y=1.38 Z=37.468	684	684	C	a	17.90	C 8j8→X=-1.80 Y=2.40 Z=37.360	734	734	C	a	13.40	C 8j8→X=-1.36 Y=2.83 Z=37.404
635	635	D	a	0.03	C 8j8→X=-3.93 Y=1.72 Z=37.411	685	685	C	a	0.12	C 8j8→X=-1.85 Y=2.49 Z=37.380	735	735	D	a	0.04	C 8j8→X=-1.40 Y=2.86 Z=37.426
636	636	C	a	1.64	C 8j8→X=-0.05 Y=2.07 Z=37.427	686	686	C	a	25.20	C 8j8→X=-2.04 Y=2.23 Z=37.340	736	736	D	a	0.10	C 8j8→X=-1.35 Y=2.90 Z=37.427
637	637	C	a	6.10	C 8j8→X=-0.15 Y=2.36 Z=37.378	687	687	C	a	0.38	C 8j8→X=-2.00 Y=2.30 Z=37.360	737	737	C	a	0.41	C 8j8→X=-1.27 Y=2.98 Z=37.331
638	638	C	a	0.28	C 8j8→X=-0.13 Y=2.53 Z=37.373	688	688	C	a	0.16	C 8j8→X=-2.05 Y=2.35 Z=37.409	738	738	C	a	1.32	C 8j8→X=-1.23 Y=3.04 Z=37.349
639	639	C	a	0.16	C 8j8→X=-0.30 Y=2.35 Z=37.397	689	689	D	a	0.09	C 8j8→X=-2.19 Y=2.35 Z=37.414	739	739	D	a	0.05	C 8j8→X=-1.25 Y=3.06 Z=37.349
640	640	C	a	0.24	C 8j8→X=-0.58 Y=2.09 Z=37.415	690	690	C	a	0.10	C 8j8→X=-2.23 Y=2.40 Z=37.421	740	740	B	a	92.60	C 8j8→X=-1.48 Y=2.97 Z=37.335
641	641	C	a	0.08	C 8j8→X=-0.11 Y=2.84 Z=37.390	691	691	C	a	0.36	C 8j8→X=-2.30 Y=2.34 Z=37.391	741	741	C	a	0.75	C 8j8→X=-1.49 Y=3.00 Z=37.338
642	642	C	a	1.66	C 8j8→X=-0.17 Y=2.93 Z=37.373	692	692	C	a	0.67	C 8j8→X=-2.95 Y=2.37 Z=37.345	742	742	C	a	40.40	C 8j8→X=-2.00 Y=2.81 Z=37.330
643	643	C	a	5.70	C 8j8→X=-0.40 Y=2.83 Z=37.493	693	693	C	a	1.28	C 8j8→X=-2.96 Y=2.43 Z=37.356	743	743	C	a	1.12	C 8j8→X=-1.92 Y=2.91 Z=37.362
644	644	C	a	48.70	C 8j8→X=-0.60 Y=2.73 Z=37.361	694	694	C	a	0.98	C 8j8→X=-3.17 Y=2.30 Z=37.394	744	744	C	a	0.93	C 8j8→X=-1.91 Y=2.99 Z=37.382
645	645	C	a	1.68	C 8j8→X=-0.53 Y=2.47 Z=37.371	695	695	C	a	0.16	C 8j8→X=-3.25 Y=2.16 Z=37.348	745	745	C	a	0.14	C 8j8→X=-1.88 Y=3.08 Z=37.277
646	646	C	a	3.26	C 8j8→X=-0.48 Y=2.32 Z=37.485	696	696	D	a	0.09	C 8j8→X=-3.48 Y=2.11 Z=37.355	746	746	C	a	25.00	C 8j8→X=-2.02 Y=3.06 Z=37.264
-	-	-	-	-	-	697	697	C	j	5.25	C 8j8→X=-3.55 Y=2.24 Z=37.329	747	747	C	a	0.21	C 8j8→X=-2.01 Y=3.16 Z=37.333
648	648	C	a	126.00	C 8j8→X=-0.70 Y=2.45 Z=37.376	698	698	C	a	0.09	C 8j8→X=-3.65 Y=2.30 Z=37.334	748	748	B	a	87.10	C 8j8→X=-2.26 Y=2.77 Z=37.283 PL28
649	649	D	a	0.13	C 8j8→X=-1.05 Y=2.36 Z=37.461	699	699	C	a	5.35	C 8j8→X=-3.41 Y=2.37 Z=37.294	-	-	-	-	-	-
650	650	D	a	0.39	C 8j8→X=-1.06 Y=2.34 Z=37.412	700	700	D	a	0.06	C 8j8→X=-3.37 Y=2.39 Z=37.298	750	750	C	a	10.40	C 8j8→X=-2.18 Y=2.92 Z=37.245

番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置
751	751	C	a	8.70	C 8 j8→X=-2.14 Y=3.12 Z=37.354	801	801	C	a	0.35	C 8 j8→X=-1.92 Y=3.58 Z=37.277	851	851	C	a	0.20	C 8 j9→X=-2.30 Y=0.28 Z=37.266
752	752	C	a	3.06	C 8 j8→X=-2.12 Y=3.22 Z=37.311	802	802	C	a	2.04	C 8 j8→X=-1.71 Y=3.42 Z=37.323	852	852	C	a	2.20	C 8 j9→X=-2.38 Y=0.23 Z=37.253
753	753	C	a	0.07	C 8 j8→X=-2.25 Y=3.05 Z=37.368	803	803	C	a	0.06	C 8 j8→X=-1.78 Y=3.35 Z=37.251	853	853	C	a	2.48	C 8 j9→X=-2.42 Y=0.24 Z=37.248
754	754	C	a	1.28	C 8 j8→X=-2.21 Y=3.10 Z=37.361	804	804	C	a	3.90	C 8 j8→X=-1.66 Y=3.44 Z=37.353	854	854	C	a	0.10	C 8 j9→X=-2.45 Y=0.13 Z=37.181
755	755	C	a	0.37	C 8 j8→X=-2.22 Y=3.22 Z=37.325	805	805	C	a	0.51	C 8 j8→X=-1.68 Y=3.21 Z=37.285	855	855	C	a	11.40	C 8 j9→X=-2.52 Y=0.26 Z=37.229
756	756	C	a	0.09	C 8 j8→X=-2.44 Y=2.74 Z=37.354	806	806	C	a	2.66	C 8 j8→X=-1.54 Y=3.40 Z=37.388	856	856	D	a	0.06	C 8 j9→X=-2.55 Y=0.38 Z=37.202
757	757	C	a	0.27	C 8 j8→X=-2.45 Y=2.80 Z=37.347	807	807	C	a	7.00	C 8 j8→X=-1.44 Y=3.30 Z=37.337	857	857	D	a	0.04	C 8 j9→X=-2.30 Y=0.46 Z=37.209
758	758	C	a	5.65	C 8 j8→X=-2.63 Y=2.71 Z=37.297	808	808	C	a	1.68	C 8 j8→X=-1.39 Y=3.28 Z=37.331	858	858	C	a	0.46	C 8 j9→X=-2.03 Y=0.66 Z=37.169
759	759	C	a	0.35	C 8 j8→X=-2.69 Y=2.86 Z=37.329	809	809	B	a	310.00	C 8 j8→X=-1.42 Y=3.35 Z=37.296	859	859	D	a	0.00	C 8 j9→X=-2.52 Y=0.54 Z=37.273
760	760	C	a	0.38	C 8 j8→X=-2.60 Y=2.86 Z=37.330	810	810	B	a	133.80	C 8 j8→X=-1.21 Y=3.42 Z=37.250	860	860	C	a	0.07	C 8 j9→X=-2.49 Y=0.69 Z=37.239 PL27
761	761	C	a	1.24	C 8 j8→X=-2.44 Y=2.88 Z=37.357	811	811	C	a	0.11	C 8 j8→X=-1.30 Y=3.46 Z=37.317	861	861	G	a	22.40	C 8 j9→X=-2.19 Y=0.72 Z=37.188
762	762	D	a	0.02	C 8 j8→X=-2.39 Y=2.85 Z=37.352	812	812	B	a	60.50	C 8 j8→X=-1.10 Y=3.37 Z=37.303	862	862	C	a	0.11	C 8 j9→X=-2.50 Y=0.97 Z=37.195
763	763	D	a	0.15	C 8 j8→X=-2.48 Y=2.90 Z=37.340	813	813	B	a	89.80	C 8 j8→X=-1.23 Y=3.24 Z=37.253	863	863	C	a	0.17	C 8 j9→X=-1.86 Y=0.82 Z=37.275
764	764	C	a	0.12	C 8 j8→X=-2.34 Y=2.98 Z=37.285	814	814	B	a	63.60	C 8 j8→X=-1.20 Y=3.26 Z=37.275	864	864	C	a	0.38	C 8 j9→X=-2.09 Y=0.93 Z=37.277
765	765	C	a	5.30	C 8 j8→X=-2.45 Y=3.00 Z=37.338	815	815	C	a	0.18	C 8 j8→X=-1.10 Y=3.19 Z=37.389	865	865	C	a	0.82	C 8 j9→X=-1.87 Y=1.14 Z=37.235
766	766	D	a	1.58	C 8 j8→X=-2.58 Y=3.02 Z=37.226	816	816	C	a	0.19	C 8 j8→X=-1.36 Y=3.56 Z=37.327	866	866	C	a	0.22	C 8 j9→X=-1.90 Y=1.25 Z=37.238
767	767	C	a	0.35	C 8 j8→X=-2.48 Y=3.16 Z=37.295	817	817	C	a	0.77	C 8 j8→X=-1.09 Y=3.12 Z=37.328	867	867	C	a	15.40	C 8 j9→X=-2.35 Y=1.08 Z=37.162
768	768	C	a	0.22	C 8 j8→X=-2.43 Y=3.20 Z=37.325	818	818	C	a	4.94	C 8 j8→X=-0.66 Y=3.08 Z=37.273	868	868	C	a	0.08	C 8 j9→X=-2.35 Y=1.23 Z=37.183
769	769	G	a	8.55	C 8 j8→X=-2.32 Y=3.12 Z=37.259 PL27	819	819	C	a	0.62	C 8 j8→X=-0.12 Y=3.11 Z=37.329	869	869	C	a	0.87	C 8 j9→X=-1.90 Y=1.68 Z=37.233
770	770	C	a	8.65	C 8 j8→X=-2.42 Y=3.26 Z=37.241	820	820	C	a	0.23	C 8 j8→X=-0.50 Y=3.24 Z=37.367	870	870	C	a	3.14	C 8 j9→X=-2.22 Y=1.71 Z=37.191
771	771	D	a	0.11	C 8 j8→X=-1.05 Y=2.38 Z=37.407	821	821	C	a	0.20	C 8 j8→X=-0.48 Y=3.45 Z=37.368	871	871	C	a	0.43	C 8 j9→X=-2.51 Y=1.40 Z=37.191
772	772	C	a	0.25	C 8 j8→X=-3.79 Y=2.41 Z=37.330	822	822	F	a	1.34	C 8 j9→X=-0.13 Y=0.30 Z=37.272 PL28	872	872	C	a	0.37	C 8 j9→X=-2.68 Y=1.22 Z=37.177
773	773	D	a	0.12	C 8 j8→X=-3.86 Y=2.55 Z=37.366	823	823	D	a	0.03	C 8 j9→X=-0.12 Y=0.37 Z=37.289	873	873	C	a	1.22	C 8 j9→X=-3.00 Y=1.80 Z=37.184
774	774	C	a	0.54	C 8 j8→X=-3.76 Y=2.95 Z=37.390	824	824	C	a	0.23	C 8 j9→X=-0.31 Y=0.28 Z=37.284	874	874	C	a	0.57	C 8 j9→X=-2.90 Y=1.73 Z=37.188
775	775	C	a	2.10	C 8 j8→X=-3.48 Y=2.82 Z=37.315	825	825	C	a	0.35	C 8 j9→X=-1.10 Y=0.03 Z=37.290	875	875	D	a	0.02	C 8 j9→X=-2.95 Y=1.43 Z=37.202
776	776	C	a	0.74	C 8 j8→X=-3.38 Y=2.90 Z=37.330	826	826	C	a	1.74	C 8 j9→X=-1.41 Y=0.09 Z=37.244	876	876	D	a	0.05	C 8 j9→X=-3.08 Y=1.45 Z=37.221
777	777	C	a	0.07	C 8 j8→X=-3.86 Y=3.18 Z=37.312	827	827	C	a	5.80	C 8 j9→X=-1.41 Y=0.23 Z=37.320	877	877	C	a	1.70	C 8 j9→X=-3.35 Y=1.62 Z=37.177
778	778	C	a	0.15	C 8 j8→X=-3.87 Y=3.24 Z=37.318	828	828	C	a	0.61	C 8 j9→X=-1.46 Y=0.25 Z=37.284	878	878	C	a	1.16	C 8 j9→X=-3.35 Y=1.10 Z=37.248
779	779	C	a	0.32	C 8 j8→X=-3.80 Y=3.50 Z=37.372	829	829	C	a	1.12	C 8 j9→X=-1.65 Y=0.08 Z=37.261	879	879	C	a	3.14	C 8 j9→X=-3.89 Y=1.01 Z=37.242
780	780	F	a	3.22	C 8 j8→X=-3.69 Y=3.62 Z=37.356	830	830	C	a	0.10	C 8 j9→X=-1.50 Y=0.35 Z=37.220	880	880	C	a	0.06	C 8 j9→X=-2.95 Y=0.91 Z=37.224
781	781	D	a	0.11	C 8 j8→X=-3.25 Y=3.34 Z=37.369	831	831	C	a	8.10	C 8 j9→X=-1.50 Y=0.45 Z=37.242	881	881	D	a	0.11	C 8 j9→X=-2.86 Y=0.60 Z=37.267
782	782	D	a	0.10	C 8 j8→X=-3.14 Y=3.58 Z=37.313	832	832	C	a	0.29	C 8 j9→X=-1.62 Y=0.40 Z=37.190	882	882	C	a	0.72	C 8 j9→X=-2.76 Y=0.32 Z=37.288
783	783	D	a	0.27	C 8 j8→X=-3.15 Y=3.19 Z=37.296	833	833	C	a	0.20	C 8 j9→X=-1.29 Y=0.40 Z=37.209	883	883	C	a	0.15	C 8 j9→X=-2.64 Y=0.10 Z=37.248
784	784	C	a	0.57	C 8 j8→X=-3.05 Y=3.01 Z=37.287	834	834	C	a	0.25	C 8 j9→X=-1.31 Y=0.59 Z=37.222	884	884	C	a	0.18	C 8 j9→X=-2.77 Y=0.21 Z=37.194
785	785	C	a	6.50	C 8 j8→X=-3.03 Y=3.06 Z=37.271	835	835	C	a	3.16	C 8 j9→X=-1.36 Y=0.94 Z=37.225	885	885	C	a	0.25	C 8 j9→X=-2.80 Y=3.20 Z=37.147
786	786	C	a	0.30	C 8 j8→X=-3.00 Y=3.02 Z=37.283	836	836	C	a	0.66	C 8 j9→X=-1.25 Y=0.90 Z=37.166	-	-	-	-	-	-
787	787	C	a	0.10	C 8 j8→X=-2.98 Y=3.82 Z=37.327	837	837	C	a	1.86	C 8 j9→X=-1.10 Y=1.42 Z=37.184	887	887	C	a	2.80	C 8 j9→X=-3.36 Y=3.79 Z=37.130
788	788	B	a	257.00	C 8 j8→X=-2.92 Y=3.87 Z=37.255	838	838	C	a	0.41	C 8 j9→X=-1.93 Y=2.35 Z=37.234	888	888	C	a	0.24	C 8 j9→X=-3.75 Y=3.41 Z=37.228
789	789	B	a	83.20	C 8 j8→X=-2.92 Y=2.96 Z=37.260	839	839	C	a	0.50	C 8 j9→X=-1.86 Y=2.12 Z=37.177	889	889	C	a	3.74	C 8 j9→X=-3.84 Y=2.76 Z=37.155
790	790	C	a	1.10	C 8 j8→X=-2.91 Y=3.03 Z=37.318	840	840	C	a	1.86	C 8 j9→X=-2.05 Y=2.06 Z=37.193	890	890	B	a	63.10	C 8 j9→X=-3.63 Y=2.18 Z=37.166
791	791	D	a	0.03	C 8 j8→X=-2.70 Y=3.86 Z=37.331	841	841	C	a	1.26	C 8 j9→X=-1.75 Y=0.31 Z=37.228	891	891	C	a	0.35	C 8 j9→X=-3.49 Y=2.07 Z=37.146
792	792	D	a	1.68	C 8 j8→X=-2.74 Y=3.35 Z=37.258	842	842	C	a	0.06	C 8 j9→X=-1.75 Y=0.35 Z=37.234	892	892	B	a	68.10	C 8 j9→X=-3.64 Y=1.89 Z=37.138
793	793	C	a	1.66	C 8 j8→X=-2.72 Y=3.40 Z=37.255	843	843	C	a	0.90	C 8 j9→X=-1.76 Y=0.50 Z=37.232	893	893	C	a	3.70	C 8 j9→X=-3.73 Y=1.73 Z=37.302
794	794	C	a	0.08	C 8 j8→X=-2.68 Y=3.58 Z=37.203	844	844	C	a	0.19	C 8 j9→X=-1.80 Y=0.45 Z=37.234	894	894	C	a	11.70	C 8 j9→X=-3.74 Y=1.22 Z=37.273
795	795	C	a	0.44	C 8 j8→X=-2.59 Y=3.56 Z=37.327	845	845	C	a	0.12	C 8 j9→X=-1.85 Y=0.46 Z=37.243	895	895	C	a	1.00	C 8 j9→X=-3.72 Y=1.10 Z=37.327
796	796	C	a	0.08	C 8 j8→X=-2.44 Y=3.53 Z=37.327	846	846	C	a	0.32	C 8 j9→X=-1.94 Y=0.42 Z=37.246	896	896	C	a	0.38	C 8 j9→X=-3.95 Y=0.45 Z=37.313
797	797	C	a	1.90	C 8 j8→X=-2.45 Y=3.63 Z=37.317	847	847	D	a	0.01	C 8 j9→X=-1.94 Y=0.40 Z=37.251	897	897	C	a	0.20	C 8 j9→X=-3.84 Y=0.46 Z=37.311
798	798	C	a	8.35	C 8 j8→X=-2.30 Y=3.45 Z=37.320	848	848	C	a	0.27	C 8 j9→X=-2.08 Y=0.30 Z=37.243	898	898	D	a	0.12	C 8 j9→X=-3.86 Y=0.21 Z=37.355
799	799	D	a	7.55	C 8 j8→X=-2.11 Y=3.45 Z=37.285	849	849	C	a	1.14	C 8 j9→X=-2.06 Y=0.35 Z=37.258	899	899	C	a	0.58	C 8 j9→X=-3.39 Y=0.83 Z=37.234
800	800	F	a	1.36	C 8 j8→X=-2.01 Y=3.32 Z=37.247	850	850	D	a	0.05	C 8 j9→X=-2.18 Y=0.32 Z=37.304	900	900	C	a	0.12	C 8 j9→X=-3.30 Y=0.49 Z=37.259

番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置
901	901	C	a	1.58	D 8 a8→X=-0.14 Y=3.65 Z=37.264	951	951	C	a	7.00	C 8 j8→X=-1.57 Y=1.06 Z=37.327	1001	1001	D	a	0.07	C 8 j8→X=-1.10 Y=2.04 Z=37.294
-	-	-	-	-	-	952	952	C	a	2.02	C 8 j8→X=-1.98 Y=1.08 Z=37.330	1002	1002	D	a	0.06	C 8 j8→X=-1.09 Y=2.12 Z=37.295
903	903	C	a	1.90	D 8 a8→X=-0.19 Y=2.77 Z=37.329	953	953	C	a	1.56	C 8 j8→X=-2.02 Y=0.72 Z=37.288	1003	1003	D	a	0.13	C 8 j8→X=-1.11 Y=2.18 Z=37.294
904	904	C	a	0.90	D 8 a8→X=-0.75 Y=2.35 Z=37.356	954	954	C	a	7.15	C 8 j8→X=-2.02 Y=0.77 Z=37.293	1004	1004	C	a	1.58	C 8 j8→X=-1.18 Y=2.23 Z=37.264
905	905	C	a	6.05	D 8 a8→X=-0.82 Y=3.22 Z=37.239	955	955	C	a	0.20	C 8 j8→X=-2.31 Y=0.86 Z=37.375	1005	1005	C	a	1.10	C 8 j8→X=-1.39 Y=2.23 Z=37.342
906	906	C	a	1.08	D 8 a9→X=-0.31 Y=0.39 Z=37.211	956	956	D	a	0.03	C 8 j8→X=-2.36 Y=0.88 Z=37.377	1006	1006	C	a	0.36	C 8 j8→X=-1.24 Y=2.34 Z=37.359
-	-	-	-	-	-	957	957	D	a	0.06	C 8 j8→X=-2.48 Y=1.08 Z=37.374	1007	1007	C	a	0.07	C 8 j8→X=-1.29 Y=2.39 Z=37.361
908	908	C	a	3.80	D 8 a9→X=-0.22 Y=2.34 Z=37.131	958	958	C	a	0.03	C 8 j8→X=-2.50 Y=1.04 Z=37.291	1008	1008	G	a	2.68	C 8 j8→X=-1.37 Y=2.39 Z=37.296
909	909	C	a	0.23	C 8 i8→X=-3.95 Y=0.98 Z=37.300	959	959	C	a	18.70	C 8 j8→X=-2.07 Y=1.28 Z=37.281	1009	1009	C	a	0.53	C 8 j8→X=-1.29 Y=2.33 Z=37.270
910	910	C	a	0.05	C 8 i8→X=-3.88 Y=1.33 Z=37.311	960	960	C	a	10.15	C 8 j8→X=-2.21 Y=1.37 Z=37.298	1010	1010	D	a	0.04	C 8 j8→X=-1.30 Y=2.50 Z=37.350
911	911	C	a	1.26	C 8 i8→X=-3.87 Y=1.31 Z=37.305	961	961	C	a	3.36	C 8 j8→X=-2.75 Y=1.23 Z=37.374	1011	1011	C	a	0.06	C 8 j8→X=-1.29 Y=2.63 Z=37.389
912	912	C	a	0.32	C 8 i8→X=-3.76 Y=1.39 Z=37.294	962	962	C	a	0.12	C 8 j8→X=-2.77 Y=1.26 Z=37.389	1012	1012	C	a	0.20	C 8 j8→X=-1.09 Y=2.48 Z=37.256
913	913	D	a	0.01	C 8 i8→X=-3.98 Y=1.62 Z=37.286	-	-	-	-	-	-	1013	1013	D	a	0.02	C 8 j8→X=-1.12 Y=2.31 Z=37.249
914	914	D	a	0.02	C 8 i8→X=-3.92 Y=1.62 Z=37.288	964	964	C	l	2.54	C 8 j8→X=-3.17 Y=1.36 Z=37.280	1014	1014	C	a	1.42	C 8 j8→X=-1.08 Y=2.59 Z=37.250
915	915	C	a	0.16	C 8 i8→X=-3.43 Y=1.46 Z=37.311	965	965	C	a	0.20	C 8 j8→X=-2.65 Y=1.64 Z=37.278	1015	1015	C	a	0.31	C 8 j8→X=-1.10 Y=2.64 Z=37.250
916	916	C	a	0.38	C 8 i8→X=-3.56 Y=1.66 Z=37.280	966	966	C	a	1.34	C 8 j8→X=-2.63 Y=1.68 Z=37.294	1016	1016	C	a	0.07	C 8 j8→X=-1.09 Y=2.73 Z=37.246
917	917	C	a	1.98	C 8 i8→X=-3.46 Y=1.92 Z=37.330	967	967	C	a	0.31	C 8 j8→X=-2.62 Y=1.67 Z=37.300	1017	1017	C	a	0.04	C 8 j8→X=-1.11 Y=2.79 Z=37.256
918	918	C	a	0.12	C 8 i8→X=-3.51 Y=1.98 Z=37.334	968	968	D	a	0.04	C 8 j8→X=-2.81 Y=2.07 Z=37.294	1018	1018	C	a	0.17	C 8 j8→X=-1.11 Y=2.89 Z=37.235
919	919	C	a	2.58	C 8 i8→X=-2.95 Y=1.94 Z=37.305	969	969	D	a	0.13	C 8 j8→X=-2.65 Y=2.19 Z=37.231	1019	1019	C	a	0.13	C 8 j8→X=-1.10 Y=2.98 Z=37.298
920	920	C	a	0.05	C 8 i8→X=-2.84 Y=2.06 Z=37.299	970	970	C	a	1.30	C 8 j8→X=-2.61 Y=2.06 Z=37.296	1020	1020	C	a	0.42	C 8 j8→X=-1.10 Y=2.82 Z=37.241
921	921	C	a	0.97	C 8 i8→X=-3.04 Y=2.15 Z=37.258	971	971	C	a	0.46	C 8 j8→X=-2.56 Y=2.12 Z=37.367	1021	1021	C	a	19.30	C 8 j8→X=-1.19 Y=2.63 Z=37.270
922	922	C	a	0.52	C 8 i8→X=-3.20 Y=2.10 Z=37.279	972	972	C	a	1.00	C 8 j8→X=-2.57 Y=2.13 Z=37.357	1022	1022	D	a	0.01	C 8 j8→X=-1.32 Y=2.71 Z=37.340
923	923	C	a	0.17	C 8 i8→X=-3.57 Y=2.27 Z=37.284	973	973	D	a	0.17	C 8 j8→X=-2.40 Y=2.14 Z=37.328	1023	1023	C	a	31.40	C 8 j8→X=-1.42 Y=2.81 Z=37.394
924	924	C	a	6.70	C 8 i8→X=-3.71 Y=2.52 Z=37.337	974	974	D	a	0.18	C 8 j8→X=-2.46 Y=1.97 Z=37.299	1024	1024	B	a	179.00	C 8 j8→X=-1.52 Y=2.80 Z=37.317
925	925	C	a	0.19	C 8 i8→X=-3.48 Y=2.42 Z=37.351	975	975	D	a	0.03	C 8 j8→X=-2.22 Y=2.09 Z=37.353	1025	1025	C	a	16.30	C 8 j8→X=-1.49 Y=2.87 Z=37.362
926	926	C	a	0.26	C 8 i8→X=-3.18 Y=2.32 Z=37.274	976	976	C	a	0.15	C 8 j8→X=-2.27 Y=2.13 Z=37.349	1026	1026	C	a	3.26	C 8 j8→X=-1.59 Y=2.78 Z=37.381
927	927	C	a	0.41	C 8 i8→X=-3.38 Y=2.54 Z=37.279	977	977	C	a	0.15	C 8 j8→X=-2.18 Y=2.08 Z=37.324	1027	1027	C	a	6.45	C 8 j8→X=-1.57 Y=2.52 Z=37.391
928	928	C	a	0.65	C 8 i8→X=-3.08 Y=2.60 Z=37.290	978	978	C	a	0.21	C 8 j8→X=-2.16 Y=1.68 Z=37.295	1028	1028	C	a	1.90	C 8 j8→X=-1.56 Y=2.52 Z=37.388
929	929	C	a	2.90	C 8 i8→X=-2.97 Y=2.89 Z=37.273	979	979	C	a	0.42	C 8 j8→X=-2.17 Y=1.74 Z=37.329	1029	1029	C	a	0.51	C 8 j8→X=-1.67 Y=2.77 Z=37.352
930	930	C	a	0.76	C 8 i8→X=-2.21 Y=2.37 Z=37.296	980	980	B	a	30.80	C 8 j8→X=-2.16 Y=1.79 Z=37.277	1030	1030	D	a	0.08	C 8 j8→X=-1.70 Y=2.66 Z=37.337
931	931	C	a	0.16	C 8 i8→X=-2.36 Y=3.09 Z=37.304	981	981	C	a	0.70	C 8 j8→X=-2.05 Y=1.64 Z=37.359	1031	1031	D	a	0.11	C 8 j8→X=-1.83 Y=2.50 Z=37.340
932	932	C	a	15.20	C 8 i8→X=-2.94 Y=3.12 Z=37.293	982	982	C	a	0.60	C 8 j8→X=-2.05 Y=1.72 Z=37.372	1032	1032	D	a	0.11	C 8 j8→X=-1.83 Y=2.41 Z=37.341
933	933	C	a	0.24	C 8 i9→X=-2.00 Y=0.66 Z=37.255	983	983	C	a	1.60	C 8 j8→X=-2.01 Y=1.79 Z=37.283	1033	1033	C	a	0.19	C 8 j8→X=-1.85 Y=2.86 Z=37.314
934	934	C	a	0.16	C 8 j8→X=-0.33 Y=0.94 Z=37.321	984	984	C	a	0.07	C 8 j8→X=-1.95 Y=1.83 Z=37.321	1034	1034	C	a	1.78	C 8 j8→X=-1.96 Y=2.88 Z=37.284
935	935	D	a	0.19	C 8 j8→X=-0.14 Y=1.09 Z=37.305	985	985	C	a	14.90	C 8 j8→X=-1.94 Y=1.69 Z=37.355	1035	1035	D	a	0.05	C 8 j8→X=-1.97 Y=3.00 Z=37.252
936	936	B	a	0.08	C 8 j8→X=-0.11 Y=1.69 Z=37.368	986	986	D	a	0.23	C 8 j8→X=-1.66 Y=1.58 Z=37.286	1036	1036	D	a	0.04	C 8 j8→X=-1.47 Y=2.50 Z=37.296
937	937	B	a	92.70	C 8 j8→X=-0.40 Y=1.46 Z=37.320	987	987	C	a	0.28	C 8 j8→X=-1.74 Y=1.53 Z=37.279	1037	1037	C	a	0.15	C 8 j8→X=-1.50 Y=2.42 Z=37.297
938	938	B	a	158.40	C 8 j8→X=-0.48 Y=1.52 Z=37.319	988	988	C	a	0.46	C 8 j8→X=-1.73 Y=1.59 Z=37.294	1038	1038	C	a	0.40	C 8 j8→X=-1.57 Y=2.42 Z=37.339
939	939	B	a	39.70	C 8 j8→X=-0.51 Y=1.69 Z=37.312	989	989	C	a	0.25	C 8 j8→X=-2.13 Y=1.67 Z=37.328	1039	1039	C	a	0.36	C 8 j8→X=-1.67 Y=2.44 Z=37.267
940	940	D	a	0.10	C 8 j8→X=-0.46 Y=1.69 Z=37.337	990	990	D	a	0.02	C 8 j8→X=-1.63 Y=1.58 Z=37.292	1040	1040	C	a	1.82	C 8 j8→X=-1.59 Y=2.27 Z=37.349
941	941	C	a	0.63	C 8 j8→X=-0.51 Y=1.79 Z=37.301	991	991	C	a	0.84	C 8 j8→X=-1.46 Y=1.46 Z=37.292	1041	1041	D	a	0.09	C 8 j8→X=-1.61 Y=2.28 Z=37.294
942	942	C	a	7.30	C 8 j8→X=-0.68 Y=2.46 Z=37.304	992	992	C	a	0.62	C 8 j8→X=-1.54 Y=1.60 Z=37.363	1042	1042	B	a	59.40	C 8 j8→X=-1.75 Y=2.16 Z=37.262
943	943	C	a	0.08	C 8 j8→X=-1.28 Y=0.65 Z=37.348	993	993	C	a	1.08	C 8 j8→X=-1.46 Y=1.55 Z=37.337	1043	1043	C	a	0.15	C 8 j8→X=-1.90 Y=2.06 Z=37.302
944	944	D	a	0.05	C 8 j8→X=-1.43 Y=0.69 Z=37.352	994	994	D	a	0.13	C 8 j8→X=-1.29 Y=1.43 Z=37.354	1044	1044	C	a	2.60	C 8 j8→X=-1.86 Y=2.02 Z=37.357
945	945	C	a	0.14	C 8 j8→X=-1.48 Y=0.76 Z=37.321	995	995	B	a	35.30	C 8 j8→X=-1.31 Y=1.46 Z=37.334	1045	1045	C	a	3.42	C 8 j8→X=-1.85 Y=2.00 Z=37.345
946	946	C	a	0.36	C 8 j8→X=-1.07 Y=0.73 Z=37.309	996	996	C	a	2.00	C 8 j8→X=-1.11 Y=1.32 Z=37.332	1046	1046	C	a	0.11	C 8 j8→X=-1.12 Y=2.13 Z=37.271
947	947	C	a	0.69	C 8 j8→X=-1.28 Y=0.85 Z=37.327	997	997	C	a	5.60	C 8 j8→X=-1.20 Y=1.64 Z=37.377	1047	1047	D	a	0.06	C 8 j8→X=-2.23 Y=2.83 Z=37.324
948	948	C	a	0.91	C 8 j8→X=-1.26 Y=0.95 Z=37.325	998	998	C	a	2.14	C 8 j8→X=-1.12 Y=1.64 Z=37.443	1048	1048	D	a	0.03	C 8 j8→X=-2.33 Y=2.90 Z=37.333
949	949	C	a	0.07	C 8 j8→X=-1.36 Y=0.91 Z=37.372	999	999	C	b	0.49	C 8 j8→X=-1.48 Y=1.84 Z=37.368	1049	1049	C	a	2.14	C 8 j8→X=-2.45 Y=2.81 Z=37.344
950	950	C	a	0.16	C 8 j8→X=-1.31 Y=0.92 Z=37.377	1000	1000	C	a	0.28	C 8 j8→X=-1.31 Y=1.86 Z=37.336	1050	1050	B	a	38.40	C 8 j8→X=-2.50 Y=2.88 Z=37.244 PL28

番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置
1051	1051	B	a	102.90	C 8 j8→X=-2.61 Y=2.86 Z=37.257	1101	1101	C	a	0.55	C 8 j8→X=-1.25 Y=3.62 Z=37.269	1151	1151	C	a	0.11	C 8 j9→X=-1.40 Y=0.88 Z=37.217
1052	1052	D	a	0.13	C 8 j8→X=-2.85 Y=2.98 Z=37.263	1102	1102	D	a	0.19	C 8 j8→X=-1.29 Y=3.49 Z=37.262	-	-	-	-	-	-
1053	1053	D	a	0.23	C 8 j8→X=-3.00 Y=2.96 Z=37.242	1103	1103	D	a	0.13	C 8 j8→X=-1.36 Y=3.50 Z=37.262	1153	1153	C	a	0.66	C 8 j9→X=-1.36 Y=3.50 Z=37.262
1054	1054	D	a	0.04	C 8 j8→X=-3.00 Y=2.81 Z=37.269	1104	1104	C	a	0.21	C 8 j8→X=-1.75 Y=3.57 Z=37.249	1154	1154	C	a	0.53	C 8 j8→X=-1.75 Y=3.57 Z=37.249
1055	1055	C	a	0.69	C 8 j8→X=-2.77 Y=2.84 Z=37.225	1105	1105	C	a	0.12	C 8 j8→X=-1.87 Y=3.50 Z=37.216	1155	1155	C	a	0.24	C 8 j8→X=-1.87 Y=3.50 Z=37.216
1056	1056	C	a	0.17	C 8 j8→X=-2.65 Y=2.74 Z=37.291	1106	1106	C	a	0.27	C 8 j8→X=-1.90 Y=3.45 Z=37.206	1156	1156	D	a	0.03	C 8 j8→X=-1.90 Y=3.45 Z=37.206
1057	1057	B	a	46.30	C 8 j8→X=-2.98 Y=2.68 Z=37.262	1107	1107	C	a	6.55	C 8 j8→X=-1.77 Y=3.46 Z=37.259	1157	1157	C	a	1.30	C 8 j8→X=-1.77 Y=3.46 Z=37.259
1058	1058	D	a	0.08	C 8 j8→X=-2.99 Y=2.66 Z=37.294	1108	1108	C	a	0.33	C 8 j8→X=-1.64 Y=3.40 Z=37.272	1158	1158	C	a	0.60	C 8 j8→X=-1.64 Y=3.40 Z=37.272
1059	1059	C	a	0.09	C 8 j8→X=-2.57 Y=2.62 Z=37.307	1109	1109	C	a	0.36	C 8 j8→X=-1.89 Y=3.31 Z=37.237	1159	1159	C	a	1.42	C 8 j8→X=-1.89 Y=3.31 Z=37.237
1060	1060	C	a	0.45	C 8 j8→X=-2.67 Y=2.59 Z=37.290	1110	1110	E	a	1.72	C 8 j8→X=-1.94 Y=3.35 Z=37.237	1160	1160	D	a	0.01	C 8 j8→X=-1.94 Y=3.35 Z=37.237
1061	1061	C	a	0.35	C 8 j8→X=-2.45 Y=2.50 Z=37.337	1111	1111	C	a	13.50	C 8 j8→X=-1.80 Y=3.35 Z=37.214	1161	1161	C	a	0.54	C 8 j8→X=-1.80 Y=3.35 Z=37.214
1062	1062	C	a	2.76	C 8 j8→X=-2.41 Y=2.57 Z=37.295	1112	1112	C	a	0.12	C 8 j8→X=-1.76 Y=3.36 Z=37.219	1162	1162	D	a	0.06	C 8 j8→X=-1.76 Y=3.36 Z=37.219
1063	1063	C	a	37.40	C 8 j8→X=-2.40 Y=2.58 Z=37.261	1113	1113	C	a	0.46	C 8 j8→X=-1.68 Y=3.12 Z=37.255	1163	1163	D	a	0.05	C 8 j8→X=-1.68 Y=3.12 Z=37.255
1064	1064	D	a	0.10	C 8 j8→X=-2.28 Y=2.61 Z=37.349	1114	1114	C	a	0.37	C 8 j8→X=-1.45 Y=3.35 Z=37.292	-	-	-	-	-	-
1065	1065	C	a	17.40	C 8 j8→X=-2.29 Y=2.55 Z=37.245	1115	1115	C	a	0.36	C 8 j8→X=-1.51 Y=3.48 Z=37.295	1165	1165	C	a	0.50	C 8 j8→X=-1.51 Y=3.48 Z=37.295
1066	1066	D	a	0.11	C 8 j8→X=-2.31 Y=2.62 Z=37.353	1116	1116	C	a	26.70	C 8 j8→X=-1.60 Y=3.39 Z=37.315	1166	1166	C	a	0.16	C 8 j8→X=-1.60 Y=3.39 Z=37.315
1067	1067	C	a	0.29	C 8 j8→X=-2.12 Y=2.64 Z=37.334	1117	1117	D	a	0.01	C 8 j8→X=-1.23 Y=3.29 Z=37.283	1167	1167	C	a	3.90	C 8 j8→X=-1.23 Y=3.29 Z=37.283
1068	1068	B	a	103.10	C 8 j8→X=-2.12 Y=2.45 Z=37.287 PL28	1118	1118	C	a	1.34	C 8 j8→X=-1.25 Y=3.04 Z=37.342	-	-	-	-	-	-
1069	1069	B	a	66.20	C 8 j8→X=-2.15 Y=2.51 Z=37.300 PL28	1119	1119	C	a	0.17	C 8 j8→X=-1.10 Y=3.07 Z=37.301	1169	1169	C	a	0.29	C 8 j8→X=-1.10 Y=3.07 Z=37.301
1070	1070	D	a	0.06	C 8 j8→X=-2.79 Y=2.52 Z=37.244	1120	1120	C	a	0.06	C 8 j8→X=-2.86 Y=3.28 Z=37.236	1170	1170	C	a	5.90	C 8 j8→X=-2.86 Y=3.28 Z=37.236
1071	1071	G	a	12.70	C 8 j8→X=-2.96 Y=2.51 Z=37.335 PL27	1121	1121	C	a	3.92	C 8 j8→X=-1.94 Y=3.47 Z=37.172	1171	1171	C	a	0.05	C 8 j8→X=-1.94 Y=3.47 Z=37.172
1072	1072	C	a	0.35	C 8 j8→X=-2.99 Y=2.32 Z=37.261	1122	1122	D	a	0.05	C 8 j8→X=-2.11 Y=3.44 Z=37.275	1172	1172	C	a	0.42	C 8 j8→X=-2.11 Y=3.44 Z=37.275
1073	1073	C	a	0.14	C 8 j8→X=-2.79 Y=2.36 Z=37.254	1123	1123	C	a	0.40	C 8 j8→X=-2.45 Y=3.41 Z=37.269	1173	1173	C	a	0.61	C 8 j8→X=-2.45 Y=3.41 Z=37.269
1074	1074	C	a	0.46	C 8 j8→X=-2.79 Y=2.35 Z=37.248	1124	1124	C	a	3.54	C 8 j8→X=-2.45 Y=3.51 Z=37.222	1174	1174	C	a	0.49	C 8 j8→X=-2.45 Y=3.51 Z=37.222
1075	1075	B	a	63.10	C 8 j8→X=-2.21 Y=2.37 Z=37.342	1125	1125	B	a	55.80	C 8 j8→X=-2.56 Y=3.55 Z=37.304	1175	1175	C	a	0.33	C 8 j8→X=-2.56 Y=3.55 Z=37.304
1076	1076	D	a	0.04	C 8 j8→X=-2.18 Y=2.40 Z=37.326	1126	1126	D	a	0.01	C 8 j8→X=-2.54 Y=3.61 Z=37.309	1176	1176	D	a	0.10	C 8 j8→X=-2.54 Y=3.61 Z=37.309
1077	1077	C	a	6.70	C 8 j8→X=-2.23 Y=2.40 Z=37.317	1127	1127	D	a	0.03	C 8 j8→X=-2.56 Y=3.64 Z=37.300	1177	1177	C	a	0.23	C 8 j8→X=-2.56 Y=3.64 Z=37.300
1078	1078	C	a	0.10	C 8 j8→X=-2.03 Y=2.36 Z=37.340	1128	1128	D	a	0.12	C 8 j8→X=-2.82 Y=3.51 Z=37.193	1178	1178	C	a	0.27	C 8 j8→X=-2.82 Y=3.51 Z=37.193
1079	1079	C	a	1.12	C 8 j8→X=-2.65 Y=2.14 Z=37.195	1129	1129	C	a	1.02	C 8 j8→X=-3.00 Y=3.23 Z=37.187	1179	1179	C	a	0.22	C 8 j8→X=-3.00 Y=3.23 Z=37.187
1080	1080	C	a	13.00	C 8 j8→X=-2.61 Y=2.09 Z=37.224	1130	1130	C	a	0.09	C 8 j8→X=-2.85 Y=3.23 Z=37.188	1180	1180	C	a	1.12	C 8 j8→X=-2.85 Y=3.23 Z=37.188
1081	1081	C	a	0.38	C 8 j8→X=-2.40 Y=2.02 Z=37.244	1131	1131	D	a	0.01	C 8 j8→X=-2.84 Y=3.27 Z=37.214	1181	1181	C	a	1.34	C 8 j8→X=-2.84 Y=3.27 Z=37.214
1082	1082	D	a	0.05	C 8 j8→X=-2.40 Y=2.15 Z=37.305	1132	1132	C	a	0.32	C 8 j8→X=-2.97 Y=3.22 Z=37.212	1182	1182	C	a	0.22	C 8 j8→X=-2.97 Y=3.22 Z=37.212
1083	1083	C	a	0.65	C 8 j8→X=-2.34 Y=2.04 Z=37.253	1133	1133	C	a	0.83	C 8 j8→X=-2.72 Y=3.24 Z=37.208	1183	1183	C	a	0.07	C 8 j8→X=-2.72 Y=3.24 Z=37.208
1084	1084	C	a	1.48	C 8 j8→X=-2.32 Y=2.15 Z=37.312	1134	1134	D	a	0.04	C 8 j8→X=-2.88 Y=3.89 Z=37.232	1184	1184	C	a	0.07	C 8 j8→X=-2.88 Y=3.89 Z=37.232
1085	1085	C	a	1.26	C 8 j8→X=-2.23 Y=2.19 Z=37.329	1135	1135	C	a	0.08	C 8 j8→X=-3.02 Y=3.81 Z=37.248	1185	1185	C	a	0.62	C 8 j8→X=-3.02 Y=3.81 Z=37.248
1086	1086	C	a	1.44	C 8 j8→X=-2.07 Y=2.09 Z=37.260	1136	1136	C	a	0.23	C 8 j8→X=-3.13 Y=3.50 Z=37.260	1186	1186	C	a	4.66	C 8 j8→X=-3.13 Y=3.50 Z=37.260
1087	1087	C	a	0.72	C 8 j8→X=-3.37 Y=2.99 Z=37.270	1137	1137	D	a	0.02	C 8 j8→X=-3.24 Y=3.35 Z=37.353	1187	1187	C	a	0.26	C 8 j8→X=-3.24 Y=3.35 Z=37.353
1088	1088	C	a	0.20	C 8 j8→X=-3.10 Y=2.82 Z=37.253	1138	1138	C	a	0.24	C 8 j8→X=-3.36 Y=3.36 Z=37.253	-	-	-	-	-	-
1089	1089	C	a	0.06	C 8 j8→X=-3.38 Y=2.90 Z=37.276	1139	1139	C	a	1.36	C 8 j8→X=-3.46 Y=3.32 Z=37.256	1189	1189	C	a	0.15	C 8 j8→X=-3.46 Y=3.32 Z=37.256
1090	1090	D	a	0.05	C 8 j8→X=-3.43 Y=2.80 Z=37.279	1140	1140	D	a	0.03	C 8 j8→X=-3.69 Y=3.25 Z=37.262	1190	1190	D	a	0.04	C 8 j8→X=-3.69 Y=3.25 Z=37.262
1091	1091	C	a	0.16	C 8 j8→X=-3.45 Y=2.81 Z=37.280	1141	1141	D	a	0.04	C 8 j8→X=-3.84 Y=3.49 Z=37.307	1191	1191	C	a	0.40	C 8 j8→X=-3.84 Y=3.49 Z=37.307
1092	1092	D	a	0.03	C 8 j8→X=-3.58 Y=2.87 Z=37.272	1142	1142	C	a	0.42	C 8 j8→X=-3.89 Y=3.55 Z=37.273	1192	1192	C	a	0.36	C 8 j8→X=-3.89 Y=3.55 Z=37.273
1093	1093	C	a	1.38	C 8 j8→X=-3.16 Y=2.57 Z=37.233	1143	1143	C	a	0.32	C 8 j8→X=-3.93 Y=3.47 Z=37.212	1193	1193	C	a	0.28	C 8 j8→X=-3.93 Y=3.47 Z=37.212
-	-	-	-	-	-	1144	1144	C	a	0.41	C 8 j8→X=-3.94 Y=3.05 Z=37.262	1194	1194	C	a	4.56	C 8 j8→X=-3.94 Y=3.05 Z=37.262
1095	1095	C	a	1.70	C 8 j8→X=-3.91 Y=2.34 Z=37.271	1145	1145	C	a	0.36	C 8 j8→X=-3.67 Y=3.00 Z=37.249	1195	1195	C	a	1.04	C 8 j8→X=-3.67 Y=3.00 Z=37.249
1096	1096	C	a	1.45	C 8 j8→X=-3.90 Y=2.30 Z=37.291	1146	1146	C	a	0.14	C 8 j8→X=-3.62 Y=2.88 Z=37.244	1196	1196	D	a	0.07	C 8 j8→X=-3.62 Y=2.88 Z=37.244
1097	1097	D	a	6.90	C 8 j8→X=-3.92 Y=2.30 Z=37.289	1147	1147	C	a	0.11	C 8 j8→X=-3.30 Y=3.02 Z=37.222	1197	1197	C	a	0.71	C 8 j8→X=-3.30 Y=3.02 Z=37.222
1098	1098	C	b	0.01	C 8 j8→X=-3.53 Y=2.32 Z=37.232	1148	1148	C	a	0.39	C 8 j8→X=-0.64 Y=3.25 Z=37.245	1198	1198	D	a	0.14	C 8 j8→X=-0.64 Y=3.25 Z=37.245
1099	1099	C	a	0.06	C 8 j8→X=-3.17 Y=2.25 Z=37.274	1149	1149	C	a	0.16	C 8 j8→X=-0.35 Y=3.05 Z=37.230	1199	1199	B	a	104.70	C 8 j8→X=-0.35 Y=3.05 Z=37.230
1100	1100	C	a	2.28	C 8 j8→X=-3.08 Y=2.27 Z=37.217	1150	1150	C	a	0.46	C 8 j8→X=-0.06 Y=3.24 Z=37.220	1200	1200	C	a	21.70	C 8 j8→X=-0.06 Y=3.24 Z=37.220

番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置
1201	1201	C	a	2.14	C 8j8→X=-1.38 Y=2.76 Z=37.322	1251	1251	C	a	1.62	C 8j8→X=-2.14 Y=2.60 Z=37.260	1301	1301	D	a	0.02	C 8j8→X=-2.20 Y=2.56 Z=37.268
1202	1202	C	a	30.70	C 8j8→X=-1.35 Y=3.50 Z=37.322	1252	1252	C	a	0.52	C 8j8→X=-2.20 Y=2.53 Z=37.298	1302	1302	C	a	2.42	C 8j8→X=-2.20 Y=2.56 Z=37.269
1203	1203	C	a	0.36	C 8j8→X=-2.39 Y=3.50 Z=37.206	1253	1253	C	a	0.89	C 8j8→X=-2.38 Y=2.53 Z=37.180	1303	1303	D	a	0.05	C 8j8→X=-2.20 Y=2.50 Z=37.263
1204	1204	C	a	0.49	C 8j8→X=-2.20 Y=3.42 Z=37.197	1254	1254	C	a	0.32	C 8j8→X=-2.38 Y=2.46 Z=37.257	1304	1304	C	a	0.09	C 8j8→X=-1.16 Y=1.08 Z=37.257
1205	1205	C	a	0.42	C 8j8→X=-2.35 Y=3.33 Z=37.203	1255	1255	C	a	0.43	C 8j8→X=-1.38 Y=2.76 Z=37.326	1305	1305	C	b	2.06	C 8j8→X=-1.43 Y=1.09 Z=37.266
1206	1206	C	a	1.22	C 8j8→X=-2.19 Y=3.28 Z=37.247	1256	1256	C	a	0.18	C 8j8→X=-2.28 Y=2.41 Z=37.238	1306	1306	C	a	0.14	C 8j8→X=-1.57 Y=1.28 Z=37.269
1207	1207	D	a	0.05	C 8j8→X=-2.16 Y=3.24 Z=37.275	1257	1257	C	a	0.16	C 8j8→X=-2.09 Y=2.39 Z=37.283	1307	1307	C	a	0.06	C 8j8→X=-1.35 Y=0.85 Z=37.269
1208	1208	C	a	0.21	C 8j8→X=-2.05 Y=3.19 Z=37.323	1258	1258	C	a	9.15	C 8j8→X=-2.05 Y=2.29 Z=37.285	1308	1308	C	a	10.90	C 8j8→X=-1.52 Y=0.88 Z=37.243
1209	1209	D	a	0.06	C 8j8→X=-2.00 Y=3.19 Z=37.334	1259	1259	C	a	0.20	C 8j8→X=-2.13 Y=2.23 Z=37.261	1309	1309	B	a	48.00	C 8j8→X=-1.66 Y=1.02 Z=37.243
1210	1210	C	a	0.53	C 8j8→X=-2.06 Y=3.15 Z=37.334	1260	1260	B	a	52.60	C 8j8→X=-2.10 Y=2.36 Z=37.283	1310	1310	C	a	0.09	C 8j8→X=-1.65 Y=0.91 Z=37.281
1211	1211	C	a	0.55	C 8j8→X=-2.19 Y=3.08 Z=37.340	1261	1261	C	a	13.00	C 8j8→X=-2.35 Y=2.13 Z=37.276	1311	1311	C	a	3.40	C 8j8→X=-1.62 Y=0.96 Z=37.243
1212	1212	D	a	0.12	C 8j8→X=-2.19 Y=3.16 Z=37.321	1262	1262	C	a	11.20	C 8j8→X=-2.12 Y=2.06 Z=37.185	1312	1312	C	a	4.42	C 8j8→X=-1.78 Y=0.98 Z=37.246
1213	1213	C	a	0.50	C 8j8→X=-2.23 Y=3.18 Z=37.315	1263	1263	C	a	0.36	C 8j8→X=-1.88 Y=2.06 Z=37.276	1313	1313	C	a	3.22	C 8j8→X=-1.19 Y=0.56 Z=37.204
1214	1214	C	a	0.52	C 8j8→X=-2.36 Y=3.08 Z=37.335	1264	1264	D	a	0.01	C 8j8→X=-1.92 Y=2.01 Z=37.368	1314	1314	C	a	1.70	C 8j8→X=-1.28 Y=0.62 Z=37.275
1215	1215	C	a	0.31	C 8j8→X=-2.08 Y=3.05 Z=37.245	1265	1265	C	a	0.88	C 8j8→X=-1.92 Y=1.97 Z=37.355	1315	1315	C	a	1.72	C 8j8→X=-1.39 Y=0.55 Z=37.272
1216	1216	C	a	11.80	C 8j8→X=-2.44 Y=3.21 Z=37.193	1266	1266	C	a	7.65	C 8j8→X=-1.74 Y=1.96 Z=37.238	1316	1316	C	a	0.27	C 8j8→X=-1.39 Y=0.52 Z=37.296
1217	1217	C	a	0.09	C 8j8→X=-2.44 Y=3.16 Z=37.267	1267	1267	C	a	0.37	C 8j8→X=-1.78 Y=1.92 Z=37.253	1317	1317	C	a	1.34	C 8j8→X=-1.47 Y=0.50 Z=37.268
1218	1218	D	a	0.01	C 8j8→X=-2.45 Y=3.13 Z=37.264	1268	1268	D	a	0.11	C 8j8→X=-1.43 Y=2.07 Z=37.251	1318	1318	C	a	1.02	C 8j8→X=-1.56 Y=0.65 Z=37.235
1219	1219	C	a	0.31	C 8j8→X=-2.53 Y=3.16 Z=37.225	1269	1269	D	a	0.03	C 8j8→X=-1.47 Y=2.07 Z=37.248	1319	1319	C	a	5.65	C 8j8→X=-1.21 Y=0.41 Z=37.294
1220	1220	D	a	0.07	C 8j8→X=-2.37 Y=3.13 Z=37.278	1270	1270	C	a	0.46	C 8j8→X=-1.44 Y=2.02 Z=37.254	1320	1320	C	a	0.28	C 8j8→X=-1.46 Y=0.28 Z=37.242
1221	1221	D	a	0.02	C 8j8→X=-2.37 Y=3.08 Z=37.270	1271	1271	C	a	0.06	C 8j8→X=-1.39 Y=1.94 Z=37.389	1321	1321	C	a	0.14	C 8j8→X=-1.18 Y=0.38 Z=37.294
1222	1222	C	a	0.48	C 8j8→X=-2.47 Y=3.01 Z=37.220	1272	1272	C	a	0.04	C 8j8→X=-1.44 Y=1.96 Z=37.244	1322	1322	C	a	0.17	C 8j8→X=-2.66 Y=0.68 Z=37.249
1223	1223	C	a	0.74	C 8j8→X=-2.35 Y=2.97 Z=37.220	1273	1273	C	a	0.21	C 8j8→X=-1.74 Y=1.94 Z=37.377	-	-	-	-	-	-
1224	1224	C	a	0.45	C 8j8→X=-2.67 Y=3.06 Z=37.191	1274	1274	C	a	0.06	C 8j8→X=-1.52 Y=1.86 Z=37.344	1324	1324	C	a	0.34	C 8j8→X=-3.06 Y=0.51 Z=37.277
1225	1225	C	a	1.74	C 8j8→X=-2.67 Y=2.98 Z=37.165	1275	1275	C	a	0.74	C 8j8→X=-1.40 Y=1.88 Z=37.289	1325	1325	C	a	2.10	C 8j8→X=-3.10 Y=0.45 Z=37.291
1226	1226	C	a	0.68	C 8j8→X=-2.85 Y=2.96 Z=37.225	1276	1276	C	a	0.27	C 8j8→X=-1.50 Y=1.83 Z=37.335	1326	1326	D	a	0.03	C 8j8→X=-3.05 Y=0.51 Z=37.279
1227	1227	C	a	0.24	C 8j8→X=-2.60 Y=2.92 Z=37.215	1277	1277	C	a	0.08	C 8j8→X=-1.48 Y=1.79 Z=37.331	1327	1327	C	a	0.14	C 8j8→X=-3.00 Y=0.88 Z=37.188
1228	1228	C	a	1.48	C 8j8→X=-2.72 Y=2.79 Z=37.192	1278	1278	C	a	0.19	C 8j8→X=-1.49 Y=1.74 Z=37.265	1328	1328	C	a	1.18	C 8j8→X=-2.99 Y=1.10 Z=37.226
1229	1229	C	a	0.19	C 8j8→X=-2.51 Y=2.74 Z=37.192	1279	1279	C	a	0.08	C 8j8→X=-1.51 Y=1.72 Z=37.262	1329	1329	C	a	0.85	C 8j8→X=-2.78 Y=1.11 Z=37.236
1230	1230	C	a	0.81	C 8j8→X=-2.45 Y=2.71 Z=37.213	1280	1280	C	a	0.11	C 8j8→X=-1.50 Y=1.56 Z=37.261	1330	1330	C	a	0.66	C 8j8→X=-2.50 Y=1.04 Z=37.195
1231	1231	C	a	0.33	C 8j8→X=-2.47 Y=2.68 Z=37.212	1281	1281	C	a	0.69	C 8j8→X=-1.46 Y=1.53 Z=37.295	1331	1331	C	a	0.10	C 8j8→X=-2.45 Y=1.00 Z=37.258
1232	1232	D	a	0.02	C 8j8→X=-2.26 Y=3.83 Z=37.313	1282	1282	C	a	0.76	C 8j8→X=-1.35 Y=1.54 Z=37.273	1332	1332	C	b	0.32	C 8j8→X=-2.42 Y=1.01 Z=37.259
1233	1233	C	a	0.31	C 8j8→X=-1.89 Y=2.87 Z=37.239	1283	1283	B	a	43.00	C 8j8→X=-1.28 Y=1.54 Z=37.255	1333	1333	G	b	9.65	C 8j8→X=-2.37 Y=1.11 Z=37.243
1234	1234	C	a	0.37	C 8j8→X=-1.76 Y=2.84 Z=37.206	1284	1284	C	a	0.19	C 8j8→X=-1.40 Y=1.88 Z=37.298	1334	1334	C	a	1.28	C 8j8→X=-2.26 Y=0.98 Z=37.253
1235	1235	C	a	22.40	C 8j8→X=-1.91 Y=2.62 Z=37.196	1285	1285	C	b	0.32	C 8j8→X=-1.18 Y=1.65 Z=37.327	1335	1335	C	a	0.08	C 8j8→X=-2.24 Y=1.16 Z=37.232
1236	1236	C	a	4.50	C 8j8→X=-1.73 Y=2.73 Z=37.283	1286	1286	C	a	0.30	C 8j8→X=-1.13 Y=1.67 Z=37.408	1336	1336	C	b	6.45	C 8j8→X=-2.2442 Y=1.14 Z=37.231
1237	1237	C	a	82.70	C 8j8→X=-1.63 Y=2.69 Z=37.262	1287	1287	C	a	7.60	C 8j8→X=-1.23 Y=1.44 Z=37.248	1337	1337	C	a	0.10	C 8j8→X=-2.38 Y=1.34 Z=37.240
1238	1238	C	a	0.89	C 8j8→X=-1.71 Y=2.65 Z=37.259	1288	1288	C	b	0.40	C 8j8→X=-1.13 Y=1.37 Z=37.254	1338	1338	C	a	0.16	C 8j8→X=-2.59 Y=1.30 Z=37.246
1239	1239	C	a	0.18	C 8j8→X=-1.68 Y=2.63 Z=37.273	1289	1289	C	b	4.58	C 8j8→X=-1.19 Y=1.31 Z=37.246	1339	1339	D	a	0.05	C 8j8→X=-2.82 Y=1.31 Z=37.241
1240	1240	C	a	1.06	C 8j8→X=-1.48 Y=2.77 Z=37.226	1290	1290	C	a	0.14	C 8j8→X=-1.37 Y=1.29 Z=37.262	1340	1340	C	a	0.15	C 8j8→X=-2.80 Y=1.36 Z=37.236
1241	1241	C	a	0.16	C 8j8→X=-1.20 Y=2.73 Z=37.239	1291	1291	C	a	0.83	C 8j8→X=-1.52 Y=1.35 Z=37.219	-	-	-	-	-	-
1242	1242	D	a	0.03	C 8j8→X=-1.29 Y=2.60 Z=37.377	1292	1292	C	a	0.13	C 8j8→X=-1.64 Y=1.41 Z=37.244	1342	1342	C	a	0.33	C 8j8→X=-3.61 Y=1.46 Z=37.245
1243	1243	C	a	0.24	C 8j8→X=-1.30 Y=2.58 Z=37.372	1293	1293	C	a	0.48	C 8j8→X=-1.88 Y=1.38 Z=37.219	1343	1343	G	a	3.30	C 8j8→X=-3.07 Y=1.78 Z=37.232 Pl27
1244	1244	C	a	12.70	C 8j8→X=-1.31 Y=2.48 Z=37.309	1294	1294	C	a	0.09	C 8j8→X=-2.11 Y=1.69 Z=37.280	1344	1344	C	a	0.17	C 8j8→X=-2.73 Y=1.72 Z=37.203
1245	1245	C	a	9.55	C 8j8→X=-1.42 Y=2.22 Z=37.246	1295	1295	C	a	0.14	C 8j8→X=-2.17 Y=1.75 Z=37.280	1345	1345	C	a	0.06	C 8j8→X=-2.56 Y=1.66 Z=37.259
1246	1246	D	a	0.02	C 8j8→X=-1.58 Y=2.38 Z=37.250	1296	1296	C	a	0.03	C 8j8→X=-2.15 Y=1.80 Z=37.286	1346	1346	E	a	3.66	C 8j8→X=-2.19 Y=1.70 Z=37.209
1247	1247	C	a	0.25	C 8j8→X=-1.83 Y=2.49 Z=37.282	1297	1297	C	a	0.73	C 8j8→X=-2.17 Y=1.45 Z=37.257	1347	1347	C	a	0.04	C 8j8→X=-2.41 Y=1.96 Z=37.186
1248	1248	C	a	0.11	C 8j8→X=-1.81 Y=2.86 Z=37.304	1298	1298	C	a	0.07	C 8j8→X=-1.83 Y=1.24 Z=37.272	1348	1348	C	a	0.10	C 8j8→X=-2.51 Y=1.96 Z=37.190
1249	1249	D	a	0.01	C 8j8→X=-2.61 Y=2.45 Z=37.281	1299	1299	C	a	2.32	C 8j8→X=-1.71 Y=1.24 Z=37.245	1349	1349	C	a	0.93	C 8j8→X=-2.74 Y=2.06 Z=37.194
1250	1250	C	a	16.10	C 8j8→X=-2.12 Y=2.58 Z=37.264	1300	1300	C	a	0.08	C 8j8→X=-1.61 Y=1.29 Z=37.270	1350	1350	C	a	2.30	C 8j8→X=-2.92 Y=2.07 Z=37.164

番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置
1351	1351	C	a	0.24	C 8 j8→X=-2.89 Y=2.02 Z=37.163	1401	1401	C	a	0.41	C 8 i8→X=-3.71 Y=1.89 Z=37.254	1451	1451	C	a	0.42	C 8 j8→X=-1.62 Y=2.36 Z=37.253
1352	1352	C	a	0.31	C 8 j8→X=-2.81 Y=3.46 Z=37.238	1402	1402	C	a	0.82	C 8 i8→X=-3.80 Y=1.87 Z=37.215	1452	1452	D	a	0.07	C 8 j8→X=-2.46 Y=2.17 Z=37.216
1353	1353	D	a	0.04	C 8 j8→X=-3.58 Y=3.28 Z=37.251	1403	1403	D	a	0.05	C 8 i8→X=-3.11 Y=1.83 Z=37.251	1453	1453	D	a	0.04	C 8 j8→X=-2.54 Y=2.18 Z=37.222
1354	1354	C	a	0.14	C 8 j8→X=-3.67 Y=3.28 Z=37.218	1404	1404	C	a	0.14	C 8 i8→X=-3.45 Y=2.34 Z=37.251	1454	1454	D	a	0.02	C 8 j8→X=-2.55 Y=2.19 Z=37.222
1355	1355	C	a	0.72	C 8 j8→X=-3.55 Y=3.57 Z=37.128	1405	1405	C	a	0.18	C 8 i8→X=-3.55 Y=2.61 Z=37.239	1455	1455	D	a	0.01	C 8 j8→X=-2.52 Y=2.18 Z=37.227
-	-	-	-	-	-	1406	1406	D	a	0.01	C 8 i8→X=-3.69 Y=1.54 Z=37.252	1456	1456	C	a	0.16	C 8 j8→X=-2.53 Y=2.15 Z=37.226
1357	1357	C	a	0.09	C 8 j8→X=-3.68 Y=3.57 Z=37.173	1407	1407	C	a	0.65	C 8 i8→X=-3.53 Y=1.40 Z=37.283	1457	1457	C	a	0.09	C 8 j8→X=-2.44 Y=2.16 Z=37.219
1358	1358	C	a	1.40	C 8 j8→X=-3.15 Y=3.46 Z=37.062	1408	1408	C	a	0.20	C 8 i8→X=-3.20 Y=0.75 Z=37.281	1458	1458	C	a	1.98	C 8 j8→X=-3.20 Y=3.31 Z=37.191
1359	1359	C	a	7.35	C 8 j8→X=-3.18 Y=3.62 Z=37.107	-	-	-	-	-	-	1459	1459	C	a	0.27	C 8 j8→X=-3.19 Y=3.62 Z=37.183
1360	1360	D	a	0.13	C 8 j9→X=-1.68 Y=0.26 Z=37.154	1410	1410	C	a	0.46	C 8 i8→X=-2.67 Y=0.41 Z=37.303	1460	1460	C	a	4.66	C 8 j8→X=-2.40 Y=3.01 Z=37.197
1361	1361	C	a	0.56	C 8 j9→X=-1.78 Y=0.25 Z=37.173	-	-	-	-	-	-	1461	1461	C	a	0.38	C 8 j8→X=-2.42 Y=2.94 Z=37.147
1362	1362	C	a	0.13	C 8 j9→X=-2.00 Y=0.48 Z=37.150	1412	1412	C	a	0.65	C 8 i8→X=-0.07 Y=1.29 Z=37.290	1462	1462	G	a	4.00	C 8 j8→X=-2.48 Y=2.80 Z=37.159
1363	1363	C	a	0.16	C 8 j9→X=-2.13 Y=0.34 Z=37.108	1413	1413	C	a	0.28	C 8 i8→X=-3.67 Y=2.58 Z=37.262	1463	1463	C	a	0.19	C 8 j8→X=-2.75 Y=2.49 Z=37.181
1364	1364	C	a	0.08	C 8 j9→X=-2.26 Y=0.22 Z=37.132	1414	1414	C	a	2.28	C 8 i8→X=-3.97 Y=2.61 Z=37.277	1464	1464	C	a	0.42	C 8 j8→X=-2.64 Y=2.52 Z=37.177
1365	1365	C	a	5.80	C 8 j9→X=-2.40 Y=0.20 Z=37.157	1415	1415	C	a	0.23	C 8 j8→X=-0.01 Y=1.89 Z=37.210	1465	1465	C	b	0.18	C 8 j8→X=-2.64 Y=2.55 Z=37.191
1366	1366	C	a	0.16	C 8 j9→X=-2.48 Y=0.33 Z=37.096	1416	1416	C	a	4.14	C 8 i8→X=-3.61 Y=2.41 Z=37.225	1466	1466	C	a	0.07	C 8 j8→X=-2.62 Y=2.53 Z=37.191
1367	1367	C	a	0.14	C 8 j9→X=-2.47 Y=0.45 Z=37.072	1417	1417	C	a	0.19	C 8 i8→X=-3.63 Y=2.56 Z=37.223	1467	1467	C	a	0.05	C 8 j8→X=-2.65 Y=2.53 Z=37.192
1368	1368	C	a	0.21	C 8 j9→X=-2.53 Y=0.52 Z=37.072	1418	1418	C	a	0.19	C 8 j8→X=-2.28 Y=3.50 Z=37.010	1468	1468	C	a	1.28	C 8 j8→X=-2.41 Y=2.56 Z=37.177
1369	1369	C	a	0.23	C 8 j9→X=-2.45 Y=0.68 Z=37.122	1419	1419	C	a	0.13	C 8 j8→X=-0.08 Y=1.67 Z=37.234	1469	1469	C	a	0.13	C 8 j8→X=-2.24 Y=2.81 Z=37.268
1370	1370	C	a	1.20	C 8 j9→X=-2.32 Y=0.77 Z=37.112	1420	1420	C	a	0.19	C 8 j8→X=-0.12 Y=1.22 Z=37.257	1470	1470	C	a	0.54	C 8 j8→X=-2.19 Y=2.54 Z=37.260
1371	1371	C	a	0.70	C 8 j9→X=-2.82 Y=0.17 Z=37.258	1421	1421	C	a	0.20	C 8 j8→X=-2.28 Y=3.50 Z=37.010	1471	1471	D	a	0.10	C 8 j8→X=-2.22 Y=2.44 Z=37.229
1372	1372	C	a	0.32	C 8 j9→X=-2.85 Y=0.19 Z=37.257	1422	1422	C	a	0.10	C 8 j8→X=-2.07 Y=3.57 Z=37.110	1472	1472	D	a	0.02	C 8 j8→X=-2.24 Y=2.42 Z=37.225
1373	1373	C	a	0.16	C 8 j9→X=-2.83 Y=0.34 Z=37.096	1423	1423	C	a	0.34	C 8 j8→X=-2.06 Y=3.48 Z=36.989	1473	1473	C	a	0.57	C 8 j8→X=-2.40 Y=2.14 Z=37.251
1374	1374	C	a	0.17	C 8 j9→X=-2.88 Y=0.43 Z=37.097	1424	1424	C	a	0.14	C 8 j8→X=-1.73 Y=3.38 Z=37.197	1474	1474	C	a	0.21	C 8 j8→X=-2.56 Y=1.64 Z=37.217
1375	1375	C	a	0.08	C 8 j9→X=-3.06 Y=3.62 Z=37.122	1425	1425	G	a	6.05	C 8 j8→X=-1.47 Y=3.54 Z=37.076 PL27	1475	1475	C	a	5.70	C 8 j8→X=-2.54 Y=1.48 Z=37.181
1376	1376	C	a	0.27	C 8 j9→X=-3.93 Y=0.23 Z=37.095	1426	1426	C	a	7.55	C 8 j8→X=-1.15 Y=3.33 Z=37.188	1476	1476	C	a	2.58	C 8 j8→X=-2.41 Y=1.23 Z=37.181
1377	1377	C	a	3.10	C 8 j9→X=-2.32 Y=1.32 Z=37.091	-	-	-	-	-	-	1477	1477	C	a	0.27	C 8 j8→X=-2.25 Y=1.34 Z=37.185
1378	1378	C	a	2.82	D 8 a9→X=-0.45 Y=1.67 Z=37.082	1428	1428	C	a	0.36	C 8 j8→X=-1.40 Y=3.04 Z=37.279	1478	1478	C	a	0.62	C 8 j8→X=-1.91 Y=2.08 Z=37.276
1379	1379	C	a	7.80	D 8 a9→X=-0.41 Y=0.88 Z=37.138	1429	1429	D	a	0.06	C 8 j8→X=-1.33 Y=2.87 Z=37.237	1479	1479	C	a	1.04	C 8 j8→X=-1.86 Y=2.08 Z=37.238
1380	1380	C	a	0.84	C 8 i8→X=-2.97 Y=2.84 Z=37.266	1430	1430	C	a	0.59	C 8 j8→X=-1.36 Y=2.74 Z=37.200	1480	1480	C	j	0.19	C 8 j8→X=-1.39 Y=2.08 Z=37.235
1381	1381	C	a	6.50	C 8 i8→X=-3.37 Y=2.48 Z=37.268	1431	1431	C	a	0.28	C 8 j8→X=-1.27 Y=2.61 Z=37.268	1481	1481	C	a	0.18	C 8 j8→X=-1.45 Y=0.85 Z=37.224
1382	1382	D	a	0.10	C 8 i8→X=-3.39 Y=2.54 Z=37.271	1432	1432	C	a	4.72	C 8 j8→X=-1.24 Y=2.52 Z=37.216	1482	1482	B	a	80.60	C 8 j8→X=-1.76 Y=0.95 Z=37.218
1383	1383	D	a	0.13	C 8 i8→X=-3.55 Y=2.48 Z=37.296	1433	1433	C	a	4.80	C 8 j8→X=-1.13 Y=2.51 Z=37.104	1483	1483	D	a	0.10	C 8 j8→X=-1.12 Y=2.38 Z=37.172
1384	1384	D	a	0.07	C 8 i8→X=-3.45 Y=2.40 Z=37.298	1434	1434	C	a	0.19	C 8 j8→X=-1.21 Y=2.46 Z=37.240	1484	1484	C	a	0.13	C 8 j8→X=-1.28 Y=1.70 Z=37.213
1385	1385	C	a	0.23	C 8 i8→X=-3.53 Y=2.63 Z=37.265	1435	1435	C	a	2.18	C 8 j8→X=-1.19 Y=2.42 Z=37.236	1485	1485	C	a	0.09	C 8 j8→X=-1.16 Y=1.54 Z=37.168
1386	1386	C	a	1.20	C 8 i8→X=-3.67 Y=2.52 Z=37.284	1436	1436	C	a	2.00	C 8 j8→X=-1.17 Y=2.37 Z=37.237	1486	1486	C	a	0.05	C 8 j8→X=-1.36 Y=1.59 Z=37.253
1387	1387	D	a	0.02	C 8 i8→X=-3.63 Y=2.43 Z=37.268	1437	1437	C	a	0.13	C 8 j8→X=-1.19 Y=2.43 Z=37.193	1487	1487	C	a	0.30	C 8 j8→X=-1.42 Y=1.61 Z=37.258
1388	1388	C	a	0.16	C 8 i8→X=-3.54 Y=2.42 Z=37.254	1438	1438	C	a	8.95	C 8 j8→X=-1.07 Y=2.44 Z=37.241	1488	1488	C	a	0.35	C 8 j8→X=-1.52 Y=1.66 Z=37.260
1389	1389	C	a	0.72	C 8 i8→X=-3.76 Y=2.93 Z=37.263	1439	1439	C	a	0.25	C 8 j8→X=-1.69 Y=2.74 Z=37.239	1489	1489	C	a	0.33	C 8 j8→X=-1.54 Y=1.69 Z=37.253
1390	1390	C	a	1.00	C 8 i8→X=-3.80 Y=2.79 Z=37.234	1440	1440	C	a	0.77	C 8 j8→X=-1.98 Y=2.78 Z=37.179	1490	1490	C	a	0.08	C 8 j8→X=-1.49 Y=1.84 Z=37.285
1391	1391	C	a	0.18	C 8 i8→X=-3.42 Y=1.99 Z=37.234	1441	1441	C	a	0.78	C 8 j8→X=-1.92 Y=2.98 Z=37.184	1491	1491	D	a	0.07	C 8 j8→X=-1.58 Y=1.80 Z=37.218
1392	1392	C	a	4.72	C 8 i8→X=-3.67 Y=2.04 Z=37.244	1442	1442	C	a	0.95	C 8 j8→X=-2.00 Y=2.91 Z=37.201	1492	1492	C	a	0.80	C 8 j8→X=-1.50 Y=1.93 Z=37.291
1393	1393	C	a	0.11	C 8 i8→X=-3.47 Y=2.20 Z=37.292	1443	1443	C	a	0.12	C 8 j8→X=-2.15 Y=3.24 Z=37.229	-	-	-	-	-	-
1394	1394	C	a	0.16	C 8 i8→X=-3.46 Y=2.52 Z=37.277	1444	1444	C	a	0.25	C 8 j8→X=-2.16 Y=3.22 Z=37.227	1494	1494	C	a	0.97	C 8 j8→X=-1.47 Y=2.05 Z=37.237
1395	1395	C	a	0.51	C 8 i8→X=-3.79 Y=2.21 Z=37.249	1445	1445	C	a	0.19	C 8 j8→X=-2.23 Y=3.22 Z=37.262	1495	1495	C	a	0.35	C 8 j8→X=-1.82 Y=2.20 Z=37.254
1396	1396	C	a	1.70	C 8 i8→X=-3.87 Y=2.26 Z=37.233	1446	1446	D	a	0.04	C 8 j8→X=-2.25 Y=3.17 Z=37.269	1496	1496	C	a	0.21	C 8 j8→X=-1.94 Y=2.21 Z=37.230
1397	1397	C	a	0.05	C 8 i8→X=-3.86 Y=2.17 Z=37.273	1447	1447	C	a	1.18	C 8 j8→X=-2.25 Y=3.12 Z=37.285	1497	1497	C	b	0.31	C 8 j8→X=-2.00 Y=2.35 Z=37.216
1398	1398	D	a	0.05	C 8 i8→X=-3.93 Y=1.96 Z=37.270	1448	1448	D	a	0.02	C 8 j8→X=-2.24 Y=2.87 Z=37.259	1498	1498	E	a	66.80	C 8 j8→X=-1.82 Y=0.74 Z=37.189
1399	1399	C	a	0.36	C 8 i8→X=-0.06 Y=2.03 Z=37.279	1449	1449	D	a	0.03	C 8 j8→X=-2.24 Y=2.81 Z=37.250	1499	1499	C	a	0.16	C 8 j8→X=-1.69 Y=0.65 Z=37.233
1400	1400	C	a	0.16	C 8 i8→X=-3.83 Y=1.82 Z=37.252	1450	1450	C	a	0.18	C 8 j8→X=-2.03 Y=2.31 Z=37.198	1500	1500	C	a	1.00	C 8 j8→X=-2.70 Y=1.66 Z=37.192

番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置
1501	1501	C	a	0.42	C 8 j8→X = -2.68 Y = 1.72 Z = 37.183	1551	1551	C	a	3.56	C 8 j8→X = -0.45 Y = 1.08 Z = 37.286	1601	1601	C	a	0.59	C 8 j8→X = -0.07 Y = 1.56 Z = 37.214
1502	1502	C	a	1.58	D 8 a8→X = -0.16 Y = 2.22 Z = 37.192	1552	1552	C	a	0.06	C 8 j8→X = -0.47 Y = 0.83 Z = 37.256	-	-	-	-	-	-
1503	1503	C	a	0.76	C 8 j8→X = -2.48 Y = 2.45 Z = 37.175	1553	1553	C	b	0.83	C 8 j8→X = -0.55 Y = 0.40 Z = 37.305	1603	1603	C	a	10.50	C 8 j8→X = -3.82 Y = 1.77 Z = 37.197
1504	1504	C	a	2.70	C 8 j8→X = -2.48 Y = 2.45 Z = 37.175	1554	1554	C	a	7.30	C 8 j8→X = -0.66 Y = 2.47 Z = 37.252	1604	1604	C	a	0.22	C 8 j8→X = -3.85 Y = 2.10 Z = 37.200
1505	1505	D	a	0.12	C 8 i8→X = -3.45 Y = 2.82 Z = 37.222	1555	1555	D	a	0.09	C 8 j8→X = -0.47 Y = 2.27 Z = 37.226	1605	1605	D	a	0.20	C 8 j8→X = -0.19 Y = 1.95 Z = 37.220
1506	1506	C	a	0.45	C 8 i8→X = -3.54 Y = 2.48 Z = 37.208	1556	1556	C	a	0.13	C 8 j8→X = -0.55 Y = 2.10 Z = 37.214	1606	1606	C	j	0.10	C 8 j8→X = -0.59 Y = 2.16 Z = 37.235
1507	1507	C	a	5.30	C 8 i8→X = -3.95 Y = 3.07 Z = 37.210	1557	1557	C	a	1.44	C 8 j8→X = -0.49 Y = 1.93 Z = 37.238	1607	1607	C	a	0.66	C 8 j8→X = -0.54 Y = 2.72 Z = 37.195
1508	1508	C	a	0.10	C 8 i8→X = -3.96 Y = 3.01 Z = 37.222	-	-	-	-	-	-	1608	1608	C	a	0.07	C 8 j8→X = -0.65 Y = 2.82 Z = 37.220
1509	1509	C	a	0.52	C 8 j8→X = -0.08 Y = 3.03 Z = 37.237	1559	1559	C	a	0.23	C 8 j8→X = -0.20 Y = 1.96 Z = 37.218	-	-	-	-	-	-
1510	1510	C	a	0.21	C 8 j8→X = -0.21 Y = 2.85 Z = 37.238	1560	1560	D	a	0.04	C 8 j8→X = -0.52 Y = 1.80 Z = 37.224	1610	1610	C	a	0.11	C 8 j8→X = -0.36 Y = 1.35 Z = 37.236
1511	1511	C	a	0.90	C 8 j8→X = -0.70 Y = 3.06 Z = 37.407	1561	1561	C	a	0.52	D 8 a8→X = -0.92 Y = 3.47 Z = 36.993	-	-	-	-	-	-
1512	1512	C	a	3.90	C 8 j8→X = -0.63 Y = 2.92 Z = 37.232	1562	1562	C	a	3.72	C 8 j8→X = -3.32 Y = 3.17 Z = 37.182	1612	1612	C	a	0.09	C 8 j8→X = -0.25 Y = 1.30 Z = 37.212
1513	1513	C	a	0.19	C 8 j8→X = -0.52 Y = 2.86 Z = 37.283	1563	1563	D	a	0.08	C 8 j8→X = -3.32 Y = 3.00 Z = 37.240	1613	1613	C	a	0.06	C 8 j8→X = -1.52 Y = 2.50 Z = 37.192
1514	1514	C	a	0.44	C 8 j8→X = -0.43 Y = 2.75 Z = 37.212	1564	1564	D	a	0.09	C 8 j8→X = -2.97 Y = 2.75 Z = 37.190	1614	1614	C	a	1.20	C 8 j8→X = -1.75 Y = 2.30 Z = 37.172
1515	1515	C	a	0.09	C 8 j8→X = -0.20 Y = 2.79 Z = 37.215	1565	1565	C	a	1.84	C 8 j8→X = -2.86 Y = 2.55 Z = 37.171	1615	1615	C	a	0.03	C 8 j8→X = -1.85 Y = 2.05 Z = 37.171
1516	1516	C	a	0.23	C 8 j8→X = -0.61 Y = 2.56 Z = 37.229	1566	1566	C	a	0.19	C 8 j8→X = -2.41 Y = 2.56 Z = 37.166	1616	1616	C	a	1.34	C 8 j8→X = -2.35 Y = 1.66 Z = 37.165
1517	1517	C	a	0.18	C 8 j8→X = -0.52 Y = 2.56 Z = 37.198	1567	1567	C	a	1.32	C 8 j8→X = -2.14 Y = 2.40 Z = 37.175	1617	1617	C	a	0.28	C 8 j8→X = -2.38 Y = 1.76 Z = 37.157
1518	1518	D	a	0.05	C 8 j8→X = -0.55 Y = 2.32 Z = 37.231	1568	1568	C	a	0.36	C 8 j8→X = -1.98 Y = 2.69 Z = 37.183	1618	1618	C	a	0.02	C 8 j8→X = -1.90 Y = 1.54 Z = 37.183
1519	1519	C	a	0.16	C 8 j8→X = -0.47 Y = 2.25 Z = 37.250	1569	1569	A	a	27.10	C 8 j8→X = -1.85 Y = 2.90 Z = 37.170	1619	1619	C	a	0.12	C 8 j8→X = -2.11 Y = 1.44 Z = 37.165
1520	1520	C	a	0.16	C 8 j8→X = -0.41 Y = 2.15 Z = 37.238	-	-	-	-	-	-	1620	1620	D	a	0.06	C 8 j8→X = -2.14 Y = 1.16 Z = 37.181
1521	1521	C	a	0.14	C 8 j8→X = -0.50 Y = 2.71 Z = 37.242	1571	1571	C	a	0.49	C 8 j8→X = -1.70 Y = 2.84 Z = 37.168	1621	1621	C	a	0.06	C 8 j8→X = -2.24 Y = 1.05 Z = 37.184
1522	1522	C	a	0.32	C 8 j8→X = -0.33 Y = 2.16 Z = 37.242	1572	1572	C	a	1.42	C 8 j8→X = -1.52 Y = 2.72 Z = 37.187	1622	1622	E	a	1.20	C 8 j8→X = -2.31 Y = 1.04 Z = 37.168
1523	1523	C	a	0.16	C 8 j8→X = -0.25 Y = 2.23 Z = 37.212	1573	1573	C	a	0.14	C 8 j8→X = -1.55 Y = 2.33 Z = 37.176	1623	1623	C	b	0.09	C 8 j8→X = -276 Y = 1.13 Z = 37.179
1524	1524	C	a	11.10	C 8 j8→X = -0.07 Y = 2.30 Z = 37.207	1574	1574	C	a	0.13	C 8 j8→X = -1.67 Y = 2.33 Z = 37.173	1624	1624	D	a	0.02	C 8 j8→X = -2.74 Y = 0.80 Z = 37.199
1525	1525	C	a	0.22	C 8 j8→X = -3.91 Y = 2.14 Z = 37.237	1575	1575	D	a	0.07	C 8 j8→X = -1.52 Y = 2.02 Z = 37.193	1625	1625	C	a	0.25	C 8 j8→X = -2.61 Y = 2.06 Z = 37.150
1526	1526	C	a	0.62	C 8 j8→X = -0.09 Y = 2.00 Z = 37.223	1576	1576	C	a	0.07	C 8 j8→X = -1.68 Y = 2.00 Z = 37.217	1626	1626	C	a	1.84	C 8 j8→X = -2.86 Y = 2.07 Z = 37.151
1527	1527	D	a	0.03	C 8 j8→X = -0.15 Y = 1.96 Z = 37.245	1577	1577	C	a	0.12	C 8 j8→X = -1.72 Y = 2.01 Z = 37.09	1627	1627	C	a	0.03	C 8 j8→X = -0.39 Y = 1.29 Z = 37.220
1528	1528	C	a	0.16	C 8 j8→X = -0.50 Y = 2.03 Z = 37.193	1578	1578	C	a	0.07	C 8 j8→X = -1.97 Y = 1.78 Z = 37.191	1628	1628	C	j	0.48	C 8 j8→X = -0.55 Y = 1.38 Z = 37.223
1529	1529	C	a	0.25	C 8 j8→X = -0.66 Y = 2.07 Z = 37.305	1579	1579	C	a	0.10	C 8 j8→X = -2.26 Y = 1.60 Z = 37.183	1629	1629	C	a	0.22	C 8 j8→X = -0.38 Y = 1.53 Z = 37.216
1530	1530	C	a	1.72	C 8 j8→X = -0.53 Y = 1.95 Z = 37.255	1580	1580	C	a	1.02	C 8 j8→X = -2.59 Y = 1.63 Z = 37.174	1630	1630	D	a	0.04	C 8 j8→X = -0.53 Y = 1.62 Z = 37.215
1531	1531	D	a	0.08	C 8 j8→X = -0.24 Y = 1.93 Z = 37.262	1581	1581	C	a	0.08	C 8 j8→X = -2.98 Y = 1.93 Z = 37.159	1631	1631	C	a	0.57	C 8 j8→X = -0.46 Y = 1.72 Z = 37.206
1532	1532	C	a	0.31	C 8 j8→X = -0.56 Y = 1.86 Z = 37.252	1582	1582	B	a	15.10	C 8 j8→X = -3.56 Y = 2.25 Z = 37.163	1632	1632	C	a	0.29	C 8 j8→X = -0.50 Y = 1.77 Z = 37.212
1533	1533	D	a	0.06	C 8 j8→X = -0.63 Y = 1.77 Z = 37.299	1583	1583	C	a	0.41	C 8 j8→X = -2.27 Y = 3.17 Z = 37.166	1633	1633	C	a	18.90	C 8 j9→X = -2.97 Y = 0.09 Z = 37.175
1534	1534	C	a	0.24	C 8 j8→X = -0.55 Y = 1.71 Z = 37.276	1584	1584	D	a	0.04	C 8 j8→X = -1.52 Y = 2.97 Z = 37.189	1634	1634	C	a	1.98	C 8 j8→X = -3.00 Y = 0.80 Z = 37.068
1535	1535	C	a	5.15	C 8 j8→X = -0.37 Y = 1.65 Z = 37.255	1585	1585	C	a	0.57	C 8 j8→X = -1.45 Y = 2.30 Z = 37.186	1635	1635	C	a	0.29	C 8 j8→X = -2.10 Y = 0.12 Z = 37.100
-	-	-	-	-	-	1586	1586	C	a	0.22	C 8 j8→X = -2.02 Y = 2.90 Z = 37.170	1636	1636	C	a	0.13	C 8 j8→X = -2.07 Y = 0.16 Z = 37.103
1537	1537	C	a	0.83	C 8 j8→X = -0.40 Y = 1.62 Z = 37.265	1587	1587	C	a	0.67	C 8 j8→X = -1.91 Y = 1.98 Z = 37.186	1637	1637	C	a	8.15	C 8 j8→X = -2.20 Y = 1.85 Z = 37.061
1538	1538	C	a	0.24	C 8 j8→X = -0.66 Y = 1.63 Z = 37.244	1588	1588	C	a	0.12	C 8 j8→X = -2.03 Y = 2.35 Z = 37.180	1638	1638	C	a	0.12	C 8 j8→X = -1.98 Y = 1.85 Z = 37.064
1539	1539	C	a	1.06	C 8 j8→X = -0.60 Y = 1.59 Z = 37.259	1589	1589	D	a	0.03	C 8 j8→X = -2.33 Y = 2.25 Z = 37.172	1639	1639	C	a	0.20	C 8 j8→X = -0.91 Y = 1.49 Z = 37.301
1540	1540	C	a	1.98	C 8 j8→X = -0.36 Y = 1.40 Z = 37.312	1590	1590	C	a	0.64	C 8 j8→X = -0.33 Y = 0.75 Z = 37.229	1640	1640	C	a	0.31	C 8 j8→X = -0.75 Y = 1.42 Z = 37.287
1541	1541	C	a	0.10	C 8 j8→X = -0.43 Y = 1.54 Z = 37.353	1591	1591	D	a	0.09	C 8 j8→X = -0.57 Y = 1.18 Z = 37.247	1641	1641	C	a	0.29	C 8 j8→X = -0.92 Y = 0.36 Z = 37.256
1542	1542	C	a	0.80	C 8 j8→X = -0.33 Y = 1.55 Z = 37.312	1592	1592	C	b	0.13	C 8 j8→X = -0.56 Y = 1.36 Z = 37.253	1642	1642	C	a	0.09	C 8 j8→X = -0.89 Y = 0.32 Z = 37.258
1543	1543	D	a	0.06	C 8 j8→X = -0.46 Y = 1.35 Z = 37.271	1593	1593	C	a	0.33	C 8 j8→X = -0.50 Y = 1.37 Z = 37.261	1643	1643	C	a	0.11	C 8 j8→X = -0.74 Y = 0.09 Z = 37.222
1544	1544	E	a	48.30	C 8 j8→X = -0.49 Y = 1.31 Z = 37.234	1594	1594	C	a	1.92	C 8 j8→X = -0.35 Y = 1.40 Z = 37.249	1644	1644	I	a	62.90	C 8 i9→X = -1.22 Y = 1.95 Z = 37.171
1545	1545	E	a	19.20	C 8 j8→X = -0.58 Y = 1.55 Z = 37.274	1595	1595	C	a	0.10	C 8 j8→X = -0.45 Y = 1.50 Z = 37.311	1645	1645	C	a	1.56	C 8 j8→X = -0.75 Y = 1.46 Z = 37.117
1546	1546	C	a	7.60	C 8 j8→X = -0.16 Y = 1.36 Z = 37.252	1596	1596	D	a	0.08	C 8 j8→X = -0.46 Y = 1.52 Z = 37.302	1646	1646	C	a	0.15	C 8 i8→X = -3.04 Y = 3.97 Z = 37.338
1547	1547	C	a	0.31	C 8 j8→X = -0.35 Y = 1.29 Z = 37.248	-	-	-	-	-	-	1647	1647	C	a	0.42	C 8 i8→X = -2.92 Y = 3.92 Z = 37.368
-	-	-	-	-	-	1598	1598	C	a	0.53	C 8 j8→X = -0.43 Y = 1.65 Z = 37.212	1648	1648	C	a	0.05	C 8 i8→X = -2.87 Y = 3.90 Z = 37.366
1549	1549	C	a	0.36	C 8 j8→X = -0.60 Y = 1.19 Z = 37.285	1599	1599	D	a	0.10	C 8 j8→X = -0.40 Y = 1.50 Z = 37.211	1649	1649	C	a	0.40	C 8 i8→X = -2.26 Y = 3.93 Z = 37.373
1550	1550	C	a	0.22	C 8 j8→X = -0.54 Y = 1.04 Z = 37.311	1600	1600	D	a	0.10	C 8 j8→X = -0.23 Y = 1.41 Z = 37.217	1650	1650	C	a	1.34	C 8 j8→X = -3.27 Y = 3.68 Z = 37.260

番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置
1651	1651	C	a	0.31	C 8 j9→X=-0.97 Y=0.12 Z=37.143	1701	1701	C	a	0.06	C 8 j8→X=-1.81 Y=3.76 Z=37.345	1751	1751	C	a	0.19	C 8 j8→X=-1.37 Y=2.15 Z=37.163
1652	1652	C	a	0.46	C 8 i8→X=-2.50 Y=2.57 Z=37.213	1702	1702	C	a	0.95	C 8 j8→X=-1.95 Y=3.78 Z=37.343	1752	1752	C	a	0.84	C 8 j8→X=-1.89 Y=2.05 Z=37.139
1653	1653	D	a	0.08	C 8 i8→X=-2.57 Y=2.44 Z=37.234	1703	1703	D	a	0.04	C 8 j8→X=-1.98 Y=3.82 Z=37.335	1753	1753	C	a	4.20	C 8 j8→X=-1.98 Y=1.98 Z=37.127
1654	1654	C	a	0.17	C 8 i8→X=-3.13 Y=2.86 Z=37.210	1704	1704	C	a	0.85	C 8 j8→X=-2.14 Y=3.90 Z=37.368	1754	1754	D	a	0.03	C 8 j8→X=-2.45 Y=2.48 Z=37.138
1655	1655	C	a	0.12	C 8 i8→X=-3.32 Y=2.31 Z=37.196	1705	1705	D	a	0.05	C 8 j9→X=-2.09 Y=0.00 Z=37.292	1755	1755	D	a	0.02	C 8 j8→X=-2.55 Y=2.51 Z=37.132
1656	1656	C	a	0.44	C 8 i8→X=-3.39 Y=1.97 Z=37.206	1706	1706	D	a	0.07	C 8 j8→X=-2.25 Y=3.76 Z=37.342	1756	1756	C	a	0.12	C 8 j8→X=-2.35 Y=2.31 Z=37.131
1657	1657	C	a	0.61	C 8 i8→X=-3.36 Y=1.56 Z=37.199	1707	1707	C	a	0.28	C 8 j8→X=-2.25 Y=3.94 Z=37.328	1757	1757	C	a	0.29	C 8 j8→X=-3.48 Y=2.52 Z=37.171
1658	1658	C	a	12.00	C 8 i8→X=-3.54 Y=1.26 Z=37.212	1708	1708	D	a	0.05	C 8 j8→X=-2.31 Y=3.88 Z=37.313	-	-	-	-	-	-
1659	1659	C	a	0.10	C 8 i8→X=-3.70 Y=1.50 Z=37.194	1709	1709	C	a	0.39	C 8 j8→X=-2.36 Y=3.95 Z=37.325	1759	1759	C	a	0.11	C 8 j8→X=-2.32 Y=3.28 Z=37.110
1660	1660	C	a	0.30	C 8 i8→X=-3.73 Y=1.75 Z=37.191	1710	1710	C	a	0.11	C 8 j8→X=-2.51 Y=3.72 Z=37.380	1760	1760	D	a	0.08	C 8 j8→X=-2.25 Y=2.03 Z=37.141
1661	1661	C	a	0.63	C 8 i8→X=-2.52 Y=2.45 Z=37.223	1711	1711	C	a	1.68	C 8 j8→X=-2.46 Y=3.88 Z=37.304	1761	1761	D	a	0.02	C 8 j8→X=-2.26 Y=1.60 Z=37.134
1662	1662	C	a	0.15	C 8 i8→X=-3.70 Y=2.45 Z=37.187	1712	1712	C	a	0.11	C 8 j8→X=-2.46 Y=3.99 Z=37.237	1762	1762	D	a	0.04	C 8 j8→X=-2.41 Y=1.51 Z=37.139
1663	1663	C	a	0.19	C 8 i8→X=-3.79 Y=2.45 Z=37.180	1713	1713	C	a	0.66	C 8 j8→X=-2.60 Y=3.77 Z=37.345	1763	1763	C	a	1.22	C 8 j8→X=-2.85 Y=1.16 Z=37.160
1664	1664	C	a	0.16	C 8 j8→X=-0.01 Y=2.85 Z=37.176	1714	1714	B	a	59.70	C 8 j8→X=-2.62 Y=3.89 Z=37.212	1764	1764	D	a	0.02	C 8 j8→X=-2.29 Y=1.01 Z=37.155
1665	1665	D	a	0.03	C 8 j8→X=-0.21 Y=3.13 Z=37.194	1715	1715	C	a	0.28	C 8 j9→X=-2.64 Y=0.00 Z=37.189	1765	1765	C	a	0.29	C 8 j8→X=-2.16 Y=0.84 Z=37.131
1666	1666	D	a	0.03	C 8 j8→X=-0.45 Y=2.73 Z=37.166	1716	1716	C	a	0.85	C 8 j8→X=-2.58 Y=3.76 Z=37.374	1766	1766	D	a	0.05	C 8 j8→X=-1.98 Y=1.22 Z=37.179
1667	1667	D	a	0.04	C 8 j8→X=-0.61 Y=2.59 Z=37.167	1717	1717	C	a	0.17	C 8 j8→X=-2.88 Y=3.92 Z=37.366	1767	1767	C	a	1.68	C 8 j8→X=-1.73 Y=1.63 Z=37.172
1668	1668	D	a	0.09	C 8 j8→X=-0.55 Y=2.49 Z=37.165	1718	1718	C	a	0.59	C 8 j8→X=-3.07 Y=3.70 Z=37.316	1768	1768	C	a	1.14	C 8 j8→X=-1.75 Y=1.16 Z=37.137
1669	1669	C	a	8.00	C 8 j8→X=-0.20 Y=1.57 Z=37.144	1719	1719	C	a	4.62	C 8 j8→X=-3.01 Y=3.92 Z=37.268	1769	1769	C	a	0.27	C 8 j8→X=-1.93 Y=0.61 Z=37.183
1670	1670	C	a	1.40	C 8 j8→X=-0.68 Y=2.87 Z=37.235	1720	1720	C	a	0.45	C 8 j8→X=-3.10 Y=3.93 Z=37.219	1770	1770	C	a	0.49	C 8 j8→X=-1.58 Y=0.53 Z=37.171
1671	1671	C	a	1.56	C 8 j8→X=-1.83 Y=2.87 Z=37.448	1721	1721	C	a	0.12	C 8 j8→X=-3.25 Y=3.77 Z=37.220	1771	1771	C	a	0.33	C 8 j8→X=-1.44 Y=1.43 Z=37.174
1672	1672	C	a	0.39	C 8 j8→X=-0.73 Y=2.31 Z=37.429	1722	1722	C	a	0.29	C 8 j8→X=-3.40 Y=3.80 Z=37.383	1772	1772	D	a	0.05	C 8 j8→X=-1.44 Y=1.61 Z=37.196
1673	1673	D	a	0.01	C 8 j8→X=-0.81 Y=2.08 Z=37.417	1723	1723	C	a	0.49	C 8 j8→X=-3.37 Y=3.85 Z=37.376	1773	1773	C	a	0.64	C 8 j8→X=-1.38 Y=1.70 Z=37.187
1674	1674	D	a	0.02	C 8 j8→X=-0.80 Y=1.83 Z=37.448	1724	1724	C	a	0.08	C 8 j8→X=-3.36 Y=3.95 Z=37.376	1774	1774	C	a	0.08	C 8 j8→X=-1.45 Y=1.76 Z=37.179
1675	1675	D	a	0.18	C 8 j8→X=-0.85 Y=1.38 Z=37.454	1725	1725	C	a	0.24	C 8 j8→X=-3.45 Y=3.94 Z=37.334	1775	1775	C	a	1.52	C 8 j8→X=-1.41 Y=1.87 Z=37.177
1676	1676	C	a	1.34	C 8 j8→X=-0.79 Y=0.90 Z=37.421	1726	1726	C	a	1.44	C 8 j8→X=-3.54 Y=3.82 Z=37.282	1776	1776	C	a	3.02	C 8 j8→X=-2.15 Y=0.96 Z=37.123
1677	1677	D	a	0.00	C 8 j8→X=-0.80 Y=0.85 Z=37.411	1727	1727	C	a	0.24	C 8 j8→X=-3.53 Y=3.95 Z=37.373	1777	1777	E	a	3.28	C 8 j8→X=-0.02 Y=3.72 Z=37.211
1678	1678	C	a	0.41	C 8 j8→X=-0.82 Y=0.37 Z=37.435	-	-	-	-	-	-	1778	1778	C	a	0.28	C 8 j8→X=-0.71 Y=3.71 Z=37.334
1679	1679	C	a	0.29	C 8 j7→X=-0.79 Y=3.91 Z=37.384	1729	1729	C	a	0.41	C 8 j8→X=-0.38 Y=3.82 Z=37.297	1779	1779	C	a	2.12	C 8 j7→X=-0.75 Y=3.72 Z=37.331
1680	1680	C	a	0.08	C 8 j8→X=-1.00 Y=0.18 Z=37.449	1730	1730	C	a	0.89	C 8 j8→X=-0.50 Y=3.87 Z=37.292	1780	1780	C	a	6.15	C 8 j8→X=-0.74 Y=3.76 Z=37.310
1681	1681	C	a	0.04	C 8 i8→X=-2.86 Y=3.83 Z=37.275	1731	1731	C	a	0.18	C 8 j8→X=-2.59 Y=3.27 Z=37.127	1781	1781	C	a	0.52	C 8 j8→X=-1.00 Y=3.72 Z=37.389
1682	1682	C	a	0.20	C 8 i8→X=-2.70 Y=3.90 Z=37.247	1732	1732	C	a	1.28	C 8 j8→X=-2.32 Y=3.15 Z=37.131	1782	1782	C	a	11.70	C 8 j8→X=-1.00 Y=3.78 Z=37.376
1683	1683	C	a	0.50	C 8 i8→X=-2.64 Y=3.71 Z=37.351	1733	1733	C	a	0.25	C 8 j8→X=-2.56 Y=2.97 Z=37.109	1783	1783	C	a	0.26	C 8 j8→X=-1.08 Y=3.80 Z=37.235
1684	1684	C	a	1.14	C 8 j8→X=-0.50 Y=3.88 Z=37.351	1734	1734	C	a	0.09	C 8 j8→X=-2.46 Y=3.04 Z=37.109	1784	1784	C	a	0.23	C 8 j8→X=-1.10 Y=3.78 Z=37.240
1685	1685	C	a	0.58	C 8 j8→X=-0.26 Y=3.98 Z=37.309	1735	1735	C	a	2.08	C 8 j8→X=-2.57 Y=2.73 Z=37.115 PL28	1785	1785	C	a	22.20	C 8 j8→X=-1.17 Y=3.70 Z=37.193
1686	1686	C	a	0.33	C 8 j8→X=-0.27 Y=3.88 Z=37.307	1736	1736	C	a	6.55	C 8 j8→X=-2.56 Y=2.66 Z=37.115	1786	1786	A	a	118.00	C 8 j8→X=-1.33 Y=3.77 Z=37.232 PL28
1687	1687	C	a	0.18	C 8 j8→X=-0.36 Y=3.75 Z=37.389	1737	1737	C	a	0.36	C 8 j8→X=-2.46 Y=2.77 Z=37.121	1787	1787	C	a	1.34	C 8 j8→X=-1.34 Y=3.93 Z=37.188
1688	1688	C	a	0.29	C 8 j8→X=-0.31 Y=3.75 Z=37.383	1738	1738	C	a	0.55	C 8 j8→X=-1.93 Y=2.81 Z=37.139	1788	1788	C	a	0.23	C 8 j8→X=-1.45 Y=3.95 Z=37.197
1689	1689	C	a	1.78	C 8 j8→X=-0.09 Y=3.75 Z=37.344	1739	1739	D	a	0.33	C 8 j8→X=-2.10 Y=2.53 Z=37.133	1789	1789	C	a	0.21	C 8 j8→X=-1.53 Y=3.97 Z=37.279
1690	1690	C	a	1.58	C 8 j8→X=-0.05 Y=3.73 Z=37.334	1740	1740	C	a	3.74	C 8 j8→X=-1.54 Y=3.16 Z=37.105	1790	1790	C	a	4.00	C 8 j8→X=-1.57 Y=3.88 Z=37.273
1691	1691	C	a	0.45	C 8 j8→X=-0.62 Y=3.95 Z=37.203	1741	1741	C	a	5.25	C 8 j8→X=-1.58 Y=3.08 Z=37.112	1791	1791	C	a	1.00	C 8 j8→X=-1.50 Y=3.80 Z=37.294
1692	1692	C	a	0.69	C 8 j8→X=-0.37 Y=3.72 Z=37.384	1742	1742	C	a	0.45	C 8 j8→X=-1.58 Y=2.91 Z=37.121	1792	1792	D	a	0.12	C 8 j8→X=-1.55 Y=3.78 Z=37.304
1693	1693	D	a	0.00	C 8 j8→X=-1.23 Y=3.74 Z=37.381	1743	1743	D	a	0.04	C 8 j8→X=-1.42 Y=2.73 Z=37.167	1793	1793	C	a	0.30	C 8 j8→X=-1.59 Y=3.74 Z=37.272
1694	1694	D	a	0.10	C 8 j8→X=-1.22 Y=3.78 Z=37.381	1744	1744	C	a	0.11	C 8 j8→X=-1.52 Y=2.48 Z=37.163	1794	1794	C	a	1.94	C 8 j8→X=-1.63 Y=3.82 Z=37.289
1695	1695	C	a	0.09	C 8 j8→X=-1.22 Y=3.86 Z=37.324	1745	1745	D	a	0.03	C 8 j8→X=-1.81 Y=2.55 Z=37.125	1795	1795	C	a	0.04	C 8 j8→X=-1.78 Y=3.68 Z=37.257
1696	1696	C	a	5.25	C 8 j8→X=-1.40 Y=3.85 Z=37.321	1746	1746	C	a	1.60	C 8 j8→X=-1.44 Y=2.36 Z=37.081	1796	1796	C	a	0.61	C 8 j8→X=-1.87 Y=3.81 Z=37.202
1697	1697	C	a	0.29	C 8 j8→X=-1.46 Y=3.96 Z=37.340	-	-	-	-	-	-	1797	1797	C	a	0.14	C 8 j9→X=-1.85 Y=0.01 Z=37.189
1698	1698	C	a	0.03	C 8 j8→X=-1.70 Y=3.71 Z=37.336	1748	1748	C	a	0.25	C 8 j8→X=-2.06 Y=2.33 Z=37.142	1798	1798	C	a	4.82	C 8 j9→X=-1.90 Y=0.01 Z=37.1192
1699	1699	C	a	1.12	C 8 j8→X=-1.65 Y=3.92 Z=37.298	1749	1749	C	a	0.74	C 8 j8→X=-1.06 Y=3.06 Z=37.218	1799	1799	C	a	0.10	C 8 j8→X=-1.98 Y=3.98 Z=37.232
1700	1700	D	a	0.02	C 8 j8→X=-1.74 Y=3.70 Z=37.334	1750	1750	C	a	0.20	C 8 j8→X=-1.06 Y=2.18 Z=37.280	1800	1800	C	a	1.22	C 8 j8→X=-2.00 Y=3.70 Z=37.276

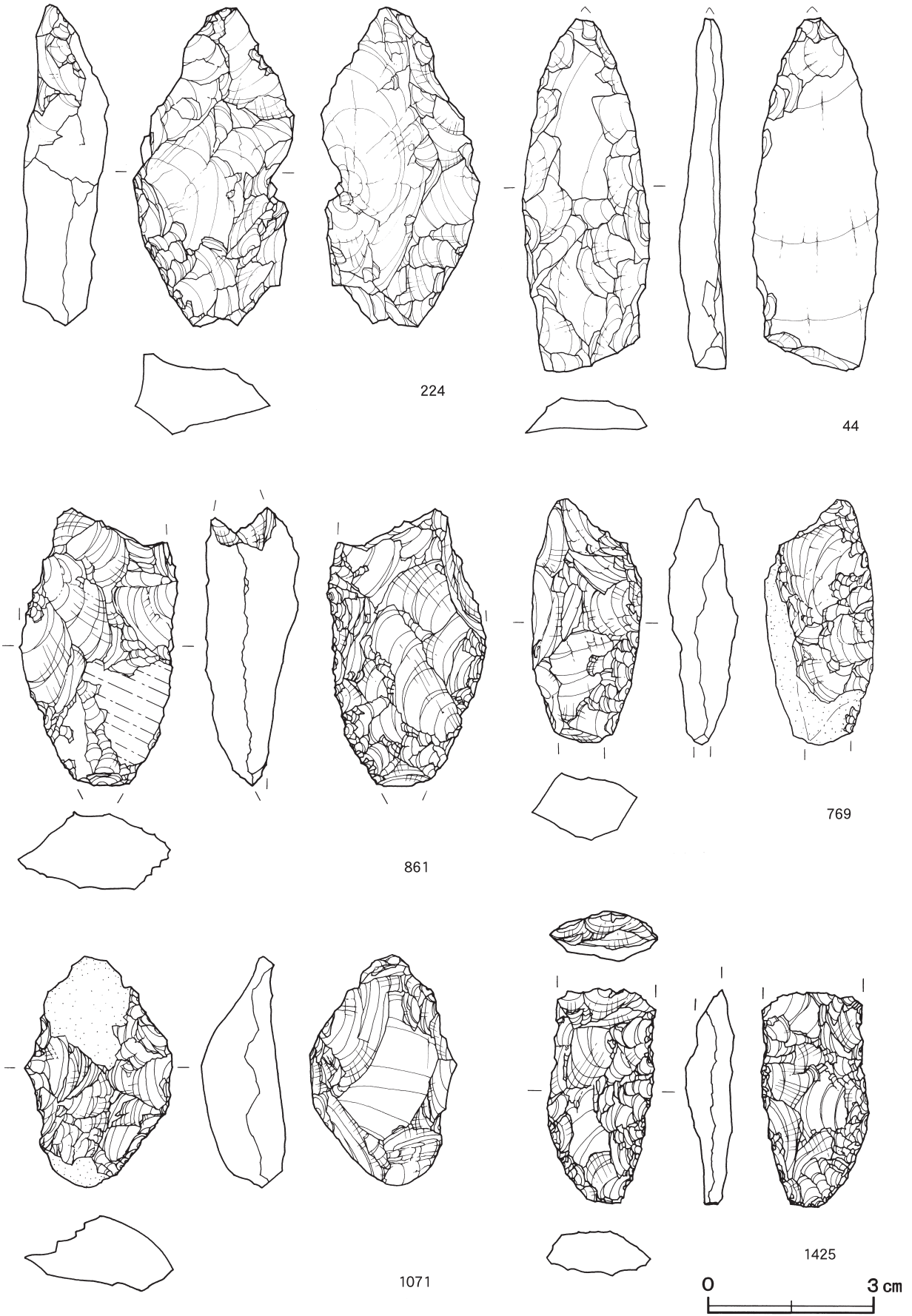
番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置
1801	1801	C	a	0.35	C 8 j8→X=-2.15 Y=3.71 Z=37.231	1851	1851	C	a	0.05	C 8 j8→X=-0.73 Y=2.31 Z=37.372	1901	1901	C	a	16.00	C 8 j8→X=-0.78 Y=1.69 Z=37.250
1802	1802	C	a	0.81	C 8 j8→X=-2.13 Y=3.85 Z=37.327	1852	1852	C	a	4.82	C 8 j8→X=-0.92 Y=2.26 Z=37.373	1902	1902	D	a	0.16	C 8 j8→X=-0.75 Y=1.62 Z=37.264
1803	1803	C	a	0.34	C 8 j8→X=-2.09 Y=3.98 Z=37.326	1853	1853	C	a	3.32	C 8 j8→X=-0.68 Y=2.25 Z=37.264	1903	1903	B	a	190.30	C 8 j8→X=-0.77 Y=1.56 Z=37.321
1804	1804	D	a	0.02	C 8 j8→X=-2.16 Y=3.93 Z=37.330	1854	1854	D	a	0.02	C 8 j8→X=-0.78 Y=2.28 Z=37.374	1904	1904	B	a	41.30	C 8 j8→X=-0.85 Y=1.63 Z=37.347
1805	1805	C	a	0.04	C 8 j8→X=-2.13 Y=3.93 Z=37.326	1855	1855	C	a	1.36	C 8 j8→X=-0.75 Y=2.24 Z=37.374	1905	1905	C	a	0.48	C 8 j8→X=-0.90 Y=1.63 Z=37.369
1806	1806	D	a	0.08	C 8 j8→X=-2.09 Y=3.94 Z=37.311	1856	1856	C	a	16.00	C 8 j8→X=-0.84 Y=2.20 Z=37.418	1906	1906	B	a	53.20	C 8 j8→X=-0.96 Y=1.70 Z=37.365
1807	1807	C	a	0.16	C 8 j8→X=-2.49 Y=3.96 Z=37.165	1857	1857	C	a	0.17	C 8 j8→X=-0.62 Y=2.24 Z=37.371	1907	1907	D	a	0.18	C 8 j8→X=-1.02 Y=1.71 Z=37.324
1808	1808	C	a	0.17	C 8 j8→X=-2.62 Y=3.78 Z=37.324	1858	1858	C	a	0.05	C 8 j8→X=-0.89 Y=2.19 Z=37.418	1908	1908	B	a	88.20	C 8 j8→X=-1.03 Y=0.67 Z=37.325
1809	1809	C	a	2.60	C 8 j8→X=-2.66 Y=3.76 Z=37.313	1859	1859	C	a	0.87	C 8 j8→X=-0.94 Y=2.16 Z=37.286	1909	1909	D	a	0.01	C 8 j8→X=-1.06 Y=1.55 Z=37.314
1810	1810	C	a	2.52	C 8 j8→X=-2.60 Y=3.70 Z=37.343	1860	1860	C	a	10.60	C 8 j8→X=-0.93 Y=2.05 Z=37.322	1910	1910	B	a	116.00	C 8 j8→X=-1.02 Y=1.56 Z=37.284
1811	1811	D	a	0.04	C 8 j8→X=-2.91 Y=3.98 Z=37.146	1861	1861	C	a	0.47	C 8 j8→X=-0.85 Y=2.04 Z=37.417	1911	1911	C	a	0.16	C 8 j8→X=-0.97 Y=1.52 Z=37.446
1812	1812	C	a	0.37	C 8 j8→X=-3.05 Y=3.92 Z=37.126	1862	1862	C	a	2.24	C 8 j8→X=-0.93 Y=2.05 Z=37.324	1912	1912	C	a	41.30	C 8 j8→X=-0.85 Y=1.47 Z=37.375
1813	1813	D	a	0.03	C 8 j8→X=-3.04 Y=3.85 Z=37.140	1863	1863	G	a	3.14	C 8 j8→X=-0.77 Y=2.08 Z=37.343 PL27	1913	1913	C	a	0.24	C 8 j8→X=-1.01 Y=1.46 Z=37.227
1814	1814	D	a	0.01	C 8 j8→X=-3.04 Y=3.77 Z=37.165	1864	1864	C	a	1.28	C 8 j8→X=-0.66 Y=2.07 Z=37.181	1914	1914	C	a	0.39	C 8 j8→X=-0.98 Y=1.26 Z=37.198
1815	1815	C	a	0.04	C 8 j8→X=-3.01 Y=3.72 Z=37.169	1865	1865	C	a	1.98	C 8 j8→X=-0.83 Y=2.08 Z=37.413	-	-	-	-	-	-
1816	1816	C	a	0.18	C 8 j8→X=-3.19 Y=3.82 Z=37.169	1866	1866	D	a	0.01	C 8 j8→X=-0.86 Y=1.98 Z=37.420	1916	1916	D	a	0.04	C 8 j8→X=-0.68 Y=1.08 Z=37.306
1817	1817	C	a	0.03	C 8 j8→X=-3.18 Y=3.72 Z=37.195	1867	1867	G	a	48.70	C 8 j8→X=-0.77 Y=1.95 Z=37.255	1917	1917	C	a	0.17	C 8 j8→X=-0.86 Y=1.03 Z=37.299
1818	1818	C	a	0.85	C 8 j8→X=-3.49 Y=3.91 Z=37.264	1868	1868	C	a	1.60	C 8 j8→X=-0.97 Y=1.90 Z=37.383	1918	1918	C	a	0.17	C 8 j8→X=-0.97 Y=0.98 Z=37.198
1819	1819	C	a	0.29	C 8 j8→X=-2.06 Y=3.95 Z=37.280	1869	1869	C	a	0.18	C 8 j8→X=-0.88 Y=1.88 Z=37.421	1919	1919	C	a	0.32	C 8 j8→X=-0.76 Y=0.77 Z=37.417
1820	1820	C	a	2.14	C 8 j9→X=-3.04 Y=0.75 Z=37.020	1870	1870	C	a	0.03	C 8 j8→X=-0.78 Y=1.85 Z=37.414	1920	1920	C	a	0.56	C 8 j8→X=-0.92 Y=0.37 Z=37.367
1821	1821	C	a	0.07	C 8 j9→X=-2.74 Y=0.98 Z=36.995	1871	1871	D	a	0.18	C 8 j8→X=-0.75 Y=1.81 Z=37.416	1921	1921	C	a	1.04	C 8 j8→X=-0.77 Y=0.48 Z=37.366
1822	1822	C	a	0.49	C 8 j9→X=-2.76 Y=1.63 Z=36.956	1872	1872	C	a	0.73	C 8 j8→X=-0.60 Y=1.80 Z=37.386	1922	1922	C	a	4.66	C 8 j8→X=-0.81 Y=0.20 Z=37.313
1823	1823	C	a	1.38	C 8 j9→X=-2.27 Y=0.56 Z=37.044	1873	1873	C	a	0.31	C 8 j8→X=-0.60 Y=1.81 Z=37.191	1923	1923	C	a	7.75	C 8 j7→X=-0.87 Y=3.68 Z=37.408
1824	1824	C	a	0.12	C 8 j9→X=-1.97 Y=0.97 Z=37.058	1874	1874	C	a	0.21	C 8 j8→X=-0.59 Y=1.85 Z=37.164	1924	1924	C	a	0.18	C 8 j7→X=-0.98 Y=3.57 Z=37.423
1825	1825	C	a	0.25	C 8 j9→X=-1.86 Y=1.76 Z=37.046	1875	1875	D	a	0.01	C 8 j8→X=-1.05 Y=1.35 Z=37.369	1925	1925	C	a	0.24	C 8 j7→X=-0.92 Y=3.44 Z=37.376
1826	1826	C	a	0.94	C 8 j8→X=-2.64 Y=3.76 Z=37.313	1876	1876	C	a	1.80	C 8 j8→X=-0.95 Y=1.34 Z=37.387	1926	1926	C	a	0.54	C 8 j7→X=-0.93 Y=3.19 Z=37.441
1827	1827	C	a	0.55	C 8 j8→X=-2.32 Y=3.74 Z=37.136	1877	1877	C	a	7.85	C 8 j8→X=-1.02 Y=1.35 Z=37.356	1927	1927	C	a	0.14	C 8 i8→X=-3.88 Y=1.51 Z=37.170
1828	1828	C	a	0.13	C 8 j8→X=-1.84 Y=3.68 Z=37.203	1878	1878	C	a	0.43	C 8 j8→X=-0.94 Y=1.36 Z=37.370	1928	1928	C	j	0.30	C 8 j8→X=-0.08 Y=1.36 Z=37.169
1829	1829	C	a	3.02	C 8 j8→X=-0.94 Y=3.65 Z=37.298	1879	1879	D	a	0.04	C 8 j8→X=-0.97 Y=1.25 Z=37.459	1929	1929	D	a	0.02	C 8 j8→X=-0.38 Y=1.24 Z=37.186
1830	1830	C	a	0.84	C 8 j8→X=-0.80 Y=3.40 Z=37.389	1880	1880	C	a	5.55	C 8 j8→X=-0.96 Y=1.14 Z=37.433	-	-	-	-	-	-
1831	1831	C	a	0.70	C 8 j8→X=-0.81 Y=3.37 Z=37.392	1881	1881	C	a	0.77	C 8 j8→X=-0.91 Y=3.06 Z=37.287	1931	1931	C	a	0.07	C 8 j8→X=-0.05 Y=1.12 Z=37.153
1832	1832	B	a	48.00	C 8 j8→X=-0.92 Y=3.28 Z=37.296	1882	1882	C	a	6.50	C 8 j8→X=-1.97 Y=3.06 Z=37.277	1932	1932	C	a	1.98	C 8 j8→X=-0.18 Y=0.80 Z=37.173
1833	1833	C	a	0.60	C 8 j8→X=-0.76 Y=3.17 Z=37.337	1883	1883	C	a	0.15	C 8 j8→X=-0.74 Y=2.88 Z=37.205	1933	1933	C	a	0.14	C 8 j8→X=-3.15 Y=3.76 Z=37.116
1834	1834	C	a	0.32	C 8 j8→X=-0.88 Y=3.14 Z=37.428	1884	1884	C	a	3.22	C 8 j8→X=-0.73 Y=2.83 Z=37.181	-	-	-	-	-	-
1835	1835	C	a	0.11	C 8 j8→X=-0.88 Y=3.08 Z=37.424	1885	1885	C	a	0.04	C 8 j8→X=-0.86 Y=2.76 Z=37.252	1935	1935	C	a	0.18	C 8 j8→X=-2.78 Y=3.79 Z=37.103
1836	1836	C	a	0.13	C 8 j8→X=-0.75 Y=3.10 Z=37.400	1886	1886	C	a	0.33	C 8 j8→X=-0.85 Y=2.53 Z=37.195	-	-	-	-	-	-
1837	1837	C	a	0.29	C 8 j8→X=-0.72 Y=3.01 Z=37.313	1887	1887	D	a	0.02	C 8 j8→X=-0.96 Y=2.47 Z=37.258	1937	1937	C	a	0.20	C 8 j8→X=-0.39 Y=3.81 Z=37.094
1838	1838	C	a	4.56	C 8 j8→X=-0.94 Y=3.06 Z=37.394	1888	1888	C	a	0.26	C 8 j8→X=-0.98 Y=2.45 Z=37.253	1938	1938	C	a	1.12	C 8 j8→X=-2.19 Y=3.82 Z=37.098
1839	1839	C	a	0.27	C 8 j8→X=-0.85 Y=2.92 Z=37.422	1889	1889	C	a	0.57	C 8 j8→X=-1.05 Y=2.51 Z=37.228	1939	1939	C	a	0.38	C 8 j9→X=-2.35 Y=0.06 Z=37.102
1840	1840	C	a	1.90	C 8 j8→X=-0.84 Y=3.36 Z=37.289	1890	1890	C	a	1.90	C 8 j8→X=-0.45 Y=2.35 Z=37.159	1940	1940	C	a	0.25	C 8 j9→X=-2.21 Y=0.01 Z=37.130
1841	1841	C	a	0.16	C 8 j8→X=-0.94 Y=2.83 Z=37.406	1891	1891	C	a	0.69	C 8 j8→X=-0.76 Y=2.23 Z=37.325	1941	1941	C	a	2.68	C 8 j8→X=-1.97 Y=3.64 Z=37.202
1842	1842	C	a	0.98	C 8 j8→X=-0.84 Y=3.38 Z=37.190	1892	1892	D	a	0.05	C 8 j8→X=-0.95 Y=2.38 Z=37.270	1942	1942	D	a	0.11	C 8 j8→X=-1.25 Y=3.79 Z=37.130
1843	1843	C	a	0.42	C 8 j8→X=-0.88 Y=2.76 Z=37.415	1893	1893	C	a	0.65	C 8 j8→X=-0.95 Y=2.17 Z=37.219	1943	1943	C	a	0.23	C 8 j8→X=-1.95 Y=2.87 Z=37.142
1844	1844	C	a	0.14	C 8 j8→X=-1.02 Y=2.71 Z=37.423	1894	1894	B	a	45.10	C 8 j8→X=-0.84 Y=2.08 Z=37.340	1944	1944	C	a	0.28	C 8 j8→X=-1.73 Y=2.84 Z=37.134
1845	1845	C	a	2.02	C 8 j8→X=-0.93 Y=2.68 Z=37.426	1895	1895	C	a	0.14	C 8 j8→X=-0.85 Y=2.01 Z=37.394	1945	1945	C	a	39.00	C 8 j8→X=-1.47 Y=2.90 Z=37.059
1846	1846	C	a	0.27	C 8 j8→X=-1.00 Y=2.69 Z=37.410	1896	1896	D	a	0.19	C 8 j8→X=-1.00 Y=1.99 Z=37.220	1946	1946	C	a	0.15	C 8 j8→X=-2.08 Y=2.54 Z=37.126
1847	1847	C	a	0.22	C 8 j8→X=-0.90 Y=2.62 Z=37.429	1897	1897	B	a	32.30	C 8 j8→X=-0.89 Y=1.84 Z=37.424	1947	1947	C	a	0.16	C 8 j8→X=-2.25 Y=2.36 Z=37.125
1848	1848	C	a	0.30	C 8 j8→X=-0.80 Y=2.54 Z=37.357	1898	1898	C	a	0.22	C 8 j8→X=-0.79 Y=1.87 Z=37.390	1948	1948	D	a	0.00	C 8 j8→X=-1.83 Y=2.36 Z=37.140
1849	1849	C	a	10.90	C 8 j8→X=-0.85 Y=3.08 Z=37.344	1899	1899	C	a	1.24	C 8 j8→X=-0.78 Y=1.84 Z=37.360	1949	1949	E	a	8.75	C 8 j8→X=-1.46 Y=2.54 Z=37.156
1850	1850	C	a	0.58	C 8 j8→X=-0.69 Y=2.66 Z=37.244	1900	1900	C	a	0.59	C 8 j8→X=-0.73 Y=1.77 Z=37.379	1950	1950	C	a	0.17	C 8 j8→X=-1.39 Y=2.55 Z=37.131

番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置
1951	1951	C	a	0.80	C 8 j8→X=-1.55 Y=2.45 Z=37.135	-	-	-	-	-	-	2051	2051	C	a	0.16	C 8 j8→X=-1.49 Y=2.50 Z=37.112
1952	1952	C	a	0.52	C 8 j8→X=-1.85 Y=2.00 Z=37.140	2002	2002	C	a	0.23	C 8 j8→X=-0.85 Y=1.27 Z=37.263	2052	2052	C	a	0.29	C 8 j8→X=-1.68 Y=2.57 Z=37.102
1953	1953	C	a	0.16	C 8 j8→X=-1.52 Y=1.72 Z=37.155	2003	2003	C	a	0.34	C 8 j8→X=-0.91 Y=1.91 Z=37.362	2053	2053	C	a	0.13	C 8 j8→X=-1.86 Y=2.62 Z=37.107
1954	1954	C	a	0.05	C 8 j8→X=-1.50 Y=1.73 Z=37.155	2004	2004	C	a	0.08	C 8 j8→X=-1.19 Y=3.98 Z=37.100	2054	2054	C	a	0.43	C 8 j8→X=-2.35 Y=3.35 Z=37.118
1955	1955	C	a	0.10	C 8 j8→X=-1.40 Y=2.67 Z=37.154	2005	2005	D	a	0.01	C 8 j8→X=-1.20 Y=3.99 Z=37.101	2055	2055	C	a	0.04	C 8 j8→X=-1.76 Y=2.00 Z=37.185
1956	1956	C	a	0.11	C 8 j8→X=-1.50 Y=2.67 Z=37.154	2006	2006	C	a	0.06	C 8 j8→X=-1.33 Y=3.90 Z=37.059	2056	2056	C	a	0.71	C 8 j8→X=-1.08 Y=1.28 Z=37.147
1957	1957	D	a	0.02	C 8 j8→X=-1.46 Y=2.66 Z=37.154	2007	2007	C	a	0.07	C 8 j8→X=-1.64 Y=3.83 Z=37.119	2057	2057	D	a	0.01	C 8 j8→X=-0.73 Y=2.17 Z=37.147
1958	1958	C	a	0.09	C 8 j8→X=-2.66 Y=3.68 Z=37.214	2008	2008	C	a	0.24	C 8 j9→X=-2.04 Y=0.05 Z=37.048	2058	2058	C	a	1.40	C 8 j8→X=-0.86 Y=1.77 Z=37.168
1959	1959	E	a	2.82	C 8 j8→X=-0.84 Y=0.36 Z=37.337	2009	2009	D	a	0.02	C 8 j8→X=-1.84 Y=2.48 Z=37.129	2059	2059	C	a	0.10	C 8 j8→X=-0.89 Y=2.18 Z=37.154
-	-	-	-	-	-	2010	2010	C	a	0.25	C 8 j8→X=-0.67 Y=1.33 Z=37.277	2060	2060	C	a	0.12	C 8 j8→X=-0.66 Y=1.97 Z=37.167
1961	1961	D	a	0.04	C 8 j8→X=-0.73 Y=0.95 Z=37.247	2011	2011	D	a	0.04	C 8 j8→X=-0.78 Y=1.39 Z=37.287	2061	2061	D	a	0.04	C 8 j8→X=-0.96 Y=1.93 Z=37.163
1962	1962	C	a	0.51	C 8 j8→X=-0.74 Y=1.17 Z=37.434	2012	2012	C	a	0.08	C 8 j8→X=-0.80 Y=1.54 Z=37.301	2062	2062	C	a	0.14	C 8 j8→X=-0.93 Y=1.51 Z=37.157
1963	1963	C	a	0.57	C 8 j8→X=-0.67 Y=1.15 Z=37.297	2013	2013	D	a	0.09	C 8 j8→X=-0.86 Y=1.80 Z=37.363	2063	2063	C	a	0.49	C 8 j8→X=-0.81 Y=2.40 Z=37.134
1964	1964	D	a	0.05	C 8 j8→X=-1.21 Y=0.88 Z=37.323	2014	2014	C	a	0.40	C 8 j8→X=-0.80 Y=2.31 Z=37.228	2064	2064	C	a	4.14	C 8 j8→X=-1.03 Y=2.05 Z=37.130
1965	1965	B	a	25.30	C 8 j8→X=-1.24 Y=0.77 Z=37.341	2015	2015	C	a	0.18	C 8 j8→X=-2.43 Y=3.74 Z=37.057	第2号石器集中地点出土石器一覽表					
1966	1966	C	a	2.76	C 8 j8→X=-1.47 Y=0.95 Z=37.204	2016	2016	C	a	4.66	C 8 j8→X=-0.81 Y=1.42 Z=37.275	2065	D 8 a0 -1	I	g	399.00	D 8 a0→X=-2.58 Y=0.68 Z=37.101
1967	1967	I	l	13.70	C 8 j8→X=-1.33 Y=0.70 Z=37.328	2017	2017	C	a	20.30	C 8 j8→X=-0.79 Y=1.62 Z=37.254	2066	D 8 a0 -2	I	g	814.00	D 8 a0→X=-1.96 Y=0.42 Z=37.098
1968	1968	I	l	310.00	C 8 j8→X=-1.44 Y=0.76 Z=37.312	2018	2018	C	a	3.38	C 8 j8→X=-0.86 Y=1.93 Z=37.322	2067	D 8 a0 -3	I	h	2050.00	D 8 a0→X=-1.59 Y=0.71 Z=37.083
1969	1969	C	a	0.40	C 8 j8→X=-1.34 Y=0.65 Z=37.261	2019	2019	G	a	2.04	C 8 j8→X=-0.77 Y=1.46 Z=37.242	2068	D 8 a0 -4	J	j	779.00	D 8 a0→X=-1.67 Y=0.77 Z=37.093
1970	1970	C	a	2.68	C 8 j8→X=-1.41 Y=0.67 Z=37.278	2020	2020	C	a	9.90	C 8 j8→X=-0.86 Y=1.99 Z=37.292	2069	D 8 a0 -5	I	g	973.00	D 8 a0→X=-1.59 Y=0.84 Z=37.115
1971	1971	C	a	11.00	C 8 j8→X=-1.44 Y=0.77 Z=37.309	2021	2021	C	a	0.10	C 8 j8→X=-0.82 Y=1.50 Z=37.231	2070	D 8 a0 -6	I	j	972.00	D 8 a0→X=-1.68 Y=0.88 Z=37.140
1972	1972	B	a	115.20	C 8 j8→X=-1.60 Y=0.87 Z=37.304	2022	2022	C	a	1.40	C 8 j8→X=-0.97 Y=1.58 Z=37.204	2071	D 8 a0 -7	I	h	49.60	D 8 a0→X=-1.62 Y=1.07 Z=37.117
1973	1973	C	a	10.90	C 8 j8→X=-1.56 Y=0.85 Z=37.316	2023	2023	C	a	0.13	C 8 j8→X=-0.82 Y=1.94 Z=37.293	2072	D 8 a0 -8	I	g	17.30	D 8 a0→X=-1.44 Y=1.16 Z=37.129
1974	1974	D	a	0.04	C 8 j8→X=-1.62 Y=1.06 Z=37.236	2024	2024	D	a	0.05	C 8 j8→X=-0.97 Y=2.13 Z=37.181	2073	D 8 a0 -9	I	g	38.40	D 8 a0→X=-1.51 Y=1.44 Z=37.096
1975	1975	C	a	0.18	C 8 j8→X=-1.82 Y=1.03 Z=37.210	2025	2025	C	a	0.08	C 8 j8→X=-0.97 Y=2.41 Z=37.150	2074	D 8 a0 -10	C	j	4.12	D 8 a0→X=-1.97 Y=1.39 Z=37.082
1976	1976	C	a	0.16	C 8 j8→X=-1.82 Y=0.95 Z=37.161	2026	2026	C	a	0.07	C 8 j8→X=-0.94 Y=2.55 Z=37.147	2075	D 8 a0 -11	J	j	1170.00	D 8 a0→X=-1.70 Y=1.71 Z=37.024
1977	1977	C	a	10.50	C 8 j8→X=-1.76 Y=0.73 Z=37.358	2027	2027	C	a	0.23	C 8 j8→X=-0.94 Y=2.81 Z=37.141	2076	D 8 a0 -12	C	b	73.70	D 8 a0→X=-1.79 Y=1.70 Z=37.070
1978	1978	D	a	0.01	C 8 j8→X=-0.81 Y=2.08 Z=37.323	2028	2028	C	a	1.54	C 8 j8→X=-0.91 Y=2.81 Z=37.136	2077	D 8 a0 -13	I	h	43.10	D 8 a0→X=-1.83 Y=1.80 Z=37.086
1979	1979	C	a	0.07	C 8 j8→X=-0.76 Y=2.16 Z=37.237	2029	2029	F	a	0.85	C 8 j8→X=-0.70 Y=1.39 Z=37.211	2078	D 8 a0 -14	I	h	34.20	D 8 a0→X=-1.41 Y=1.74 Z=37.063
1980	1980	C	a	0.15	C 8 j8→X=-0.91 Y=2.31 Z=37.283	2030	2030	C	a	0.35	C 8 j8→X=-0.70 Y=1.82 Z=37.222	2079	D 8 a0 -15	I	j	23.50	D 8 a0→X=-1.25 Y=1.58 Z=37.147
1981	1981	C	a	0.20	C 8 j8→X=-0.80 Y=2.38 Z=37.210	2031	2031	C	a	0.50	C 8 j8→X=-0.80 Y=1.93 Z=37.219	2080	D 8 a0 -16	I	g	227.00	D 8 a0→X=-1.10 Y=1.78 Z=37.095
1982	1982	C	a	1.02	C 8 j8→X=-0.90 Y=2.50 Z=37.216	2032	2032	C	a	3.50	C 8 j8→X=-0.51 Y=2.41 Z=37.155	2081	D 8 a0 -17	I	g	82.90	D 8 a0→X=-1.02 Y=1.73 Z=37.085
1983	1983	C	a	0.86	C 8 j8→X=-1.00 Y=2.56 Z=37.205	2033	2033	C	a	0.17	C 8 j8→X=-0.72 Y=2.54 Z=37.151	2082	D 8 a0 -18	I	d	856.00	D 8 a0→X=-0.98 Y=1.82 Z=37.065
1984	1984	C	a	1.92	C 8 j8→X=-0.85 Y=2.75 Z=37.234	-	-	-	-	-	-	2083	D 8 a0 -19	I	d	213.00	D 8 a0→X=-0.65 Y=1.83 Z=37.075
1985	1985	D	a	0.06	C 8 j8→X=-0.92 Y=3.03 Z=37.196	2035	2035	C	a	0.80	C 8 j8→X=-0.98 Y=2.36 Z=37.140	2084	D 8 a0 -20	I	b	16.80	D 8 a0→X=-0.61 Y=2.95 Z=37.021
1986	1986	C	a	0.12	C 8 j8→X=-1.05 Y=3.05 Z=37.214	2036	2036	D	a	0.02	C 8 j8→X=-0.72 Y=2.54 Z=37.150	2085	D 8 a0 -21	I	a	0.52	D 8 a0→X=-2.08 Y=1.89 Z=37.017
1987	1987	D	a	0.02	C 8 j8→X=-2.20 Y=3.95 Z=37.100	2037	2037	E	a	2.04	C 8 j8→X=-0.86 Y=2.01 Z=37.222	2086	D 8 a0 -22	C	j	1.20	D 8 a0→X=-1.89 Y=0.77 Z=37.199
1988	1988	C	a	0.19	C 8 j8→X=-2.29 Y=3.96 Z=37.092	2038	2038	D	a	0.13	C 8 j8→X=-0.94 Y=2.07 Z=37.189	第3号石器集中地点出土石器一覽表					
1989	1989	D	a	0.07	C 8 j9→X=-2.42 Y=0.01 Z=37.100	2039	2039	D	a	0.04	C 8 j8→X=-2.47 Y=2.42 Z=37.131	2087	A 1	B	a	34.40	B 9 d1→X=-1.81 Y=2.80 Z=37.270
1990	1990	C	a	0.05	C 8 j8→X=-2.46 Y=3.90 Z=37.088	2040	2040	C	a	0.03	C 8 j8→X=-2.57 Y=2.66 Z=37.130	2088	A 2	C	d	77.30	B 9 d1→X=-3.00 Y=2.24 Z=37.334
1991	1991	C	a	0.18	C 8 j8→X=-2.67 Y=3.80 Z=37.139	2041	2041	C	a	0.33	C 8 j8→X=-2.11 Y=2.70 Z=37.125	2089	A 3	B	j	94.80	B 9 d1→X=-2.18 Y=2.12 Z=37.408
1992	1992	C	a	0.17	C 8 j8→X=-0.73 Y=1.08 Z=37.196	2042	2042	D	a	0.02	C 8 j8→X=-1.82 Y=2.98 Z=37.099	2090	A 4	C	j	20.50	B 9 d1→X=-2.57 Y=2.12 Z=37.382
1993	1993	C	a	0.36	C 8 j8→X=-0.78 Y=1.26 Z=37.318	2043	2043	C	a	0.54	C 8 j8→X=-1.48 Y=2.90 Z=37.071	2091	A 5	B	j	38.60	-
1994	1994	C	a	0.09	C 8 j8→X=-0.72 Y=1.33 Z=37.325	2044	2044	C	a	0.35	C 8 j8→X=-1.43 Y=2.65 Z=37.092	2092	A 6	C	d	7.30	B 9 d1→X=-3.50 Y=1.81 Z=37.393
1995	1995	C	a	1.10	C 8 j8→X=-0.78 Y=1.52 Z=37.302	2045	2045	C	a	1.40	C 8 j8→X=-0.97 Y=2.61 Z=37.125	2093	A 7	C	d	76.80	B 9 d1→X=-3.23 Y=1.70 Z=37.359
1996	1996	C	a	28.30	C 8 j8→X=-0.68 Y=1.78 Z=37.290	-	-	-	-	-	-	2094	A 8	L	d	99.60	B 9 d1→X=-3.13 Y=1.70 Z=37.412
1997	1997	D	a	0.05	C 8 j8→X=-0.90 Y=1.87 Z=37.368	2047	2047	D	a	0.01	C 8 j8→X=-0.75 Y=2.52 Z=37.151	2095	A 9	L	d	270.00	B 9 d1→X=-3.00 Y=1.68 Z=37.369
1998	1998	D	a	0.02	C 8 j8→X=-0.83 Y=2.18 Z=37.268	2048	2048	E	a	5.65	C 8 j8→X=-0.73 Y=2.02 Z=37.199	2096	A 10	L	d	648.00	B 9 d1→X=-2.92 Y=1.59 Z=37.373
1999	1999	D	a	0.02	C 8 j8→X=-0.88 Y=2.22 Z=37.257	2049	2049	C	a	1.62	C 8 j8→X=-0.82 Y=1.85 Z=37.192	2097	A 11	L	j	223.00	B 9 d1→X=-2.44 Y=0.46 Z=37.429
2000	2000	C	a	0.08	C 8 j8→X=-0.78 Y=2.73 Z=37.163	2050	2050	D	a	0.03	C 8 j8→X=-0.71 Y=2.36 Z=37.151	2098	A 12	B	d	452.00	B 9 d1→X=-2.19 Y=0.21 Z=37.421

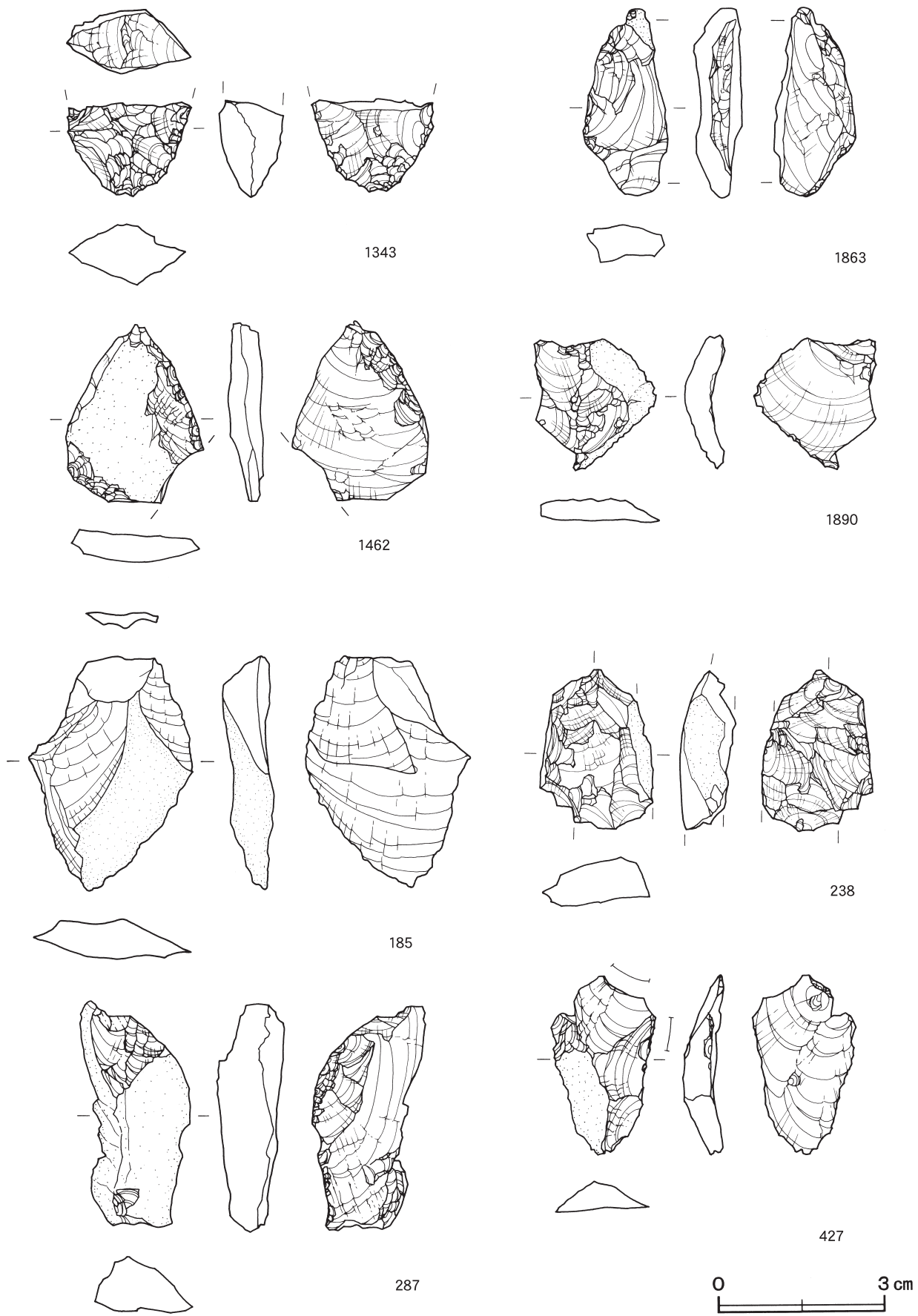
番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置
2099	A14	B	j	103.80	B 9 d1→X=-2.00 Y=0.29 Z=37.408	2147	D11	C	a	2.74	B 9 e2→X=-0.60 Y=0.28 Z=37.110	2196	E 49	C	a	2.24	B 9 g2→X=-0.98 Y=1.46 Z=36.716
2100	A15	B	j	63.10	B 9 d1→X=-0.19 Y=1.94 Z=37.312	2148	D12	C	d	3.10	B 9 e2→X=-0.42 Y=1.08 Z=36.931	2197	E 50	D	a	0.02	B 9 g2→X=-1.21 Y=1.39 Z=36.730
2101	A16	L	d	30.20	B 9 d1→X=-2.64 Y=1.54 Z=37.403	第6号石器集中地点出土石器一覧表						2198	E 51	C	a	1.06	B 9 g2→X=-1.48 Y=1.64 Z=36.713
2102	A17	C	j	31.20	B 9 d1→X=-3.26 Y=1.70 Z=37.318	2149	E 1	C	a	2.62	B 9 g3→X=-2.17 Y=1.16 Z=36.630	2199	E 52	C	b	28.00	B 9 g2→X=-1.48 Y=1.20 Z=36.937
2103	A18	B	j	61.90	B 8 d0→X=-2.37 Y=3.95 Z=37.498	2150	E 2	C	a	1.80	B 9 g2→X=-0.74 Y=3.70 Z=36.657	2200	E 53	C	a	6.80	B 9 g2→X=-1.56 Y=1.12 Z=36.948
2104	A19	B	a	67.20	B 9 d1→X=-0.04 Y=1.08 Z=37.446	2151	E 3	C	a	1.50	B 9 g2→X=-0.66 Y=3.06 Z=36.706	2201	E 54	C	a	12.60	B 9 g2→X=-1.66 Y=1.08 Z=36.792
2105	A20	B	a	72.40	-	2152	E 4	C	a	1.12	B 9 g2→X=-0.68 Y=2.90 Z=36.644	2202	E 55	C	b	3.78	B 9 g2→X=-1.75 Y=1.56 Z=36.858
第4号石器集中地点出土石器一覧表						2153	E 5	C	a	2.58	B 9 g2→X=-0.81 Y=2.90 Z=36.807	2203	E 56	C	b	5.25	B 9 g2→X=-2.20 Y=1.87 Z=36.792
2106	B 1	C	e	5.65	B 9 e1→X=-3.10 Y=3.00 Z=37.127	2154	E 6	C	a	4.04	B 9 g2→X=-1.22 Y=3.79 Z=36.880	2204	E 57	C	b	9.50	B 9 g2→X=-2.56 Y=1.94 Z=36.746
2107	B 2	C	a	1.74	B 9 f1→X=-1.60 Y=2.57 Z=37.035	2155	E 7	D	a	0.34	B 9 g2→X=-1.26 Y=3.68 Z=36.761	2205	E 58	C	a	1.32	B 9 g2→X=-2.48 Y=1.70 Z=36.722
2108	B 3	C	a	3.14	B 9 f1→X=-0.32 Y=0.06 Z=37.372	2156	E 8	D	a	0.06	B 9 g2→X=-1.43 Y=3.56 Z=36.709	2206	E 59	E	a	0.78	B 9 g2→X=-2.63 Y=1.66 Z=36.762
2109	B 4	C	a	26.30	B 9 f1→X=-0.11 Y=0.14 Z=37.267	2157	E 9	C	a	2.30	B 9 g2→X=-1.56 Y=3.78 Z=36.580	2207	E 60	C	a	0.16	B 9 g2→X=-2.72 Y=1.50 Z=36.812
2110	B 5	C	a	15.70	B 9 e1→X=-3.95 Y=0.58 Z=37.341	2158	E 10	D	a	0.73	B 9 g2→X=-1.96 Y=3.68 Z=36.766	2208	E 61	E	a	0.17	B 9 g2→X=-2.78 Y=1.34 Z=36.834
2111	B 6	B	a	50.60	B 9 e1→X=-3.86 Y=0.53 Z=37.347	2159	E 11	C	a	7.65	B 9 g2→X=-1.96 Y=3.96 Z=36.605	2209	E 62	E	a	2.90	B 9 g2→X=-2.76 Y=1.20 Z=36.711
2112	B 7	I	g	114.00	B 9 e1→X=-3.00 Y=0.66 Z=37.391	2160	E 12	C	a	1.76	B 9 g2→X=-2.03 Y=3.74 Z=36.635	2210	E 63	C	a	2.00	B 9 g2→X=-2.86 Y=1.58 Z=36.792
2113	B 8	L	g	52.00	B 9 e1→X=-3.05 Y=0.54 Z=37.415	2161	E 13	C	a	5.10	B 9 g2→X=-1.45 Y=3.00 Z=36.951	2211	E 64	C	a	1.48	B 9 g2→X=-3.08 Y=1.44 Z=36.793
2114	B 9	L	g	100.30	B 9 e1→X=-2.89 Y=0.54 Z=37.388	2162	E 14	C	a	7.90	B 9 g2→X=-1.38 Y=3.00 Z=36.902	2212	E 65	C	a	0.31	B 9 g2→X=-3.35 Y=1.61 Z=36.789
2115	B10	M	g	97.90	B 9 e1→X=-2.87 Y=0.40 Z=37.406	2163	E 15	C	a	0.64	B 9 g2→X=-0.80 Y=2.85 Z=36.693	2213	E 66	C	a	2.04	B 9 g2→X=-3.28 Y=1.18 Z=36.789
2116	B11	L	g	112.70	B 9 e1→X=-2.55 Y=0.47 Z=37.415	2164	E 16	C	a	11.50	B 9 g2→X=-1.40 Y=2.75 Z=36.606	2214	E 67	C	g	4.94	B 9 g2→X=-3.69 Y=1.65 Z=36.717
2117	B12	M	g	71.10	B 9 e1→X=-2.48 Y=0.18 Z=37.386	2165	E 17	C	a	15.80	B 9 g3→X=-2.80 Y=0.15 Z=36.674	2215	E 68	C	a	0.46	B 9 g2→X=-3.70 Y=1.55 Z=36.722
2118	B13	E	i	5.65	B 9 e1→X=-0.50 Y=1.46 Z=37.171	2166	E 18	C	a	0.95	B 9 g2→X=-2.60 Y=3.58 Z=36.578	2216	E 69	C	a	0.20	B 9 g2→X=-3.59 Y=1.25 Z=36.763
2119	B14	C	a	4.74	B 9 f1→X=-2.00 Y=0.10 Z=37.354	2167	E 19	C	a	4.30	B 9 g2→X=-2.56 Y=3.16 Z=36.735	2217	E 70	C	a	3.94	B 9 g2→X=-3.58 Y=1.11 Z=36.745
2120	B15	L	j	3.30	B 9 f1→X=-1.57 Y=2.57 Z=37.044	2168	E 20	C	a	0.29	B 9 g2→X=-3.06 Y=3.76 Z=36.662	2218	E 72	C	a	0.72	B 9 g2→X=-3.18 Y=0.64 Z=36.863
第5号石器集中地点出土石器一覧表						2169	E 21	C	a	1.36	B 9 g3→X=-3.80 Y=0.41 Z=36.657	2219	E 73	C	a	12.60	B 9 g2→X=-3.17 Y=0.50 Z=36.032
2121	C 1	L	d	152.00	B 9 f2→X=-0.04 Y=3.08 Z=36.996	2170	E 22	C	e	37.40	B 9 g3→X=-3.79 Y=0.48 Z=36.516	2220	E 74	C	a	30.50	B 9 g2→X=-3.30 Y=0.44 Z=36.925
2122	C 2	I	d	202.00	B 9 f2→X=-0.09 Y=3.16 Z=36.973	2171	E 23	C	a	0.73	B 9 g2→X=-3.61 Y=3.62 Z=36.623	2221	E 75	C	a	0.08	B 9 g2→X=-2.18 Y=0.78 Z=36.755
2123	C 3	C	a	1.30	B 9 f2→X=-0.27 Y=3.27 Z=36.975	2172	E 25	C	a	1.30	B 9 g2→X=-3.50 Y=2.97 Z=36.649	2222	E 76	C	a	0.07	B 9 g2→X=-2.60 Y=0.16 Z=36.727
2124	C 4	C	g	39.30	B 9 f2→X=-0.95 Y=3.85 Z=36.984	2173	E 26	C	a	0.30	B 9 g2→X=-3.64 Y=3.00 Z=36.235	2223	E 77	C	a	2.64	B 9 g2→X=-2.85 Y=1.36 Z=36.828
2125	C 5	C	a	3.34	B 9 f2→X=-1.10 Y=3.64 Z=36.985	2174	E 27	C	a	30.30	B 9 g2→X=-3.70 Y=2.63 Z=36.676	2224	E 78	C	a	1.56	B 9 g2→X=-2.21 Y=0.45 Z=36.762
2126	C 6	C	m	17.70	B 9 f3→X=-1.00 Y=0.37 Z=36.905	2175	E 28	C	j	30.70	B 9 g2→X=-3.83 Y=2.61 Z=36.687	2225	E 80	C	b	2.60	B 9 g2→X=-1.76 Y=0.33 Z=36.777
2127	C 7	C	a	73.00	B 9 f3→X=-1.50 Y=0.07 Z=36.636	2176	E 29	C	a	0.64	B 9 g2→X=-2.98 Y=3.08 Z=36.657	2226	E 81	C	b	1.16	B 9 g2→X=-1.52 Y=0.97 Z=36.737
2128	C 8	C	a	0.72	B 9 f3→X=-3.26 Y=0.30 Z=36.924	2177	E 30	C	a	11.50	B 9 g2→X=-2.93 Y=3.04 Z=36.622	2227	E 82	C	a	14.70	B 9 g2→X=-1.10 Y=0.72 Z=37.119
2129	C 9	L	d	2.44	B 9 f2→X=-0.21 Y=2.95 Z=36.949	2178	E 31	B	a	16.00	B 9 g2→X=-3.17 Y=2.68 Z=36.678	2228	E 83	C	b	1.70	B 9 g2→X=-1.20 Y=0.13 Z=36.907
2130	C10	C	d	7.50	B 9 f2→X=-0.20 Y=2.84 Z=37.023	2179	E 32	C	j	4.14	B 9 g2→X=-3.14 Y=2.58 Z=36.783	2229	E 84	C	a	4.18	B 9 g2→X=-0.81 Y=0.62 Z=37.112
2131	C11	C	m	12.50	B 9 f2→X=-0.53 Y=2.68 Z=36.925	2180	E 33	B	a	83.30	B 9 g2→X=-2.10 Y=2.62 Z=36.617	2230	E 85	L	g	10.30	B 9 g2→X=-0.26 Y=0.37 Z=37.058
2132	C12	C	a	4.02	B 9 f2→X=-0.80 Y=2.23 Z=37.056	2181	E 34	C	a	0.70	B 9 g2→X=-3.08 Y=2.30 Z=36.763	2231	E 86	C	a	29.00	B 9 g1→X=-1.60 Y=3.16 Z=36.873
2133	C15	C	a	2.34	B 9 f3→X=-3.75 Y=0.80 Z=36.784	2182	E 35	C	a	0.06	B 9 g2→X=-3.09 Y=2.28 Z=36.768	2232	E 87	B	a	9.35	B 9 g1→X=-1.76 Y=2.83 Z=37.063
2134	C16	B	j	29.90	B 9 f3→X=-3.59 Y=0.36 Z=36.706	2183	E 36	D	b	0.04	B 9 g2→X=-2.74 Y=2.15 Z=36.796	2233	E 88	C	a	53.80	B 9 g1→X=-2.18 Y=3.35 Z=36.836
2135	C17	C	b	19.60	B 9 f2→X=-3.44 Y=2.53 Z=37.696	2184	E 37	C	a	7.80	B 9 h2→X=-0.00 Y=2.45 Z=36.672	2234	E 89	C	a	5.10	B 9 g1→X=-2.95 Y=2.45 Z=36.199
-	-	-	-	-	-	2185	E 38	C	a	1.30	B 9 g2→X=-1.73 Y=2.57 Z=36.782	2235	E 90	J	d	20.40	B 9 g2→X=-2.33 Y=0.43 Z=36.701
2137	D 1	A	a	117.90	B 9 e2→X=-2.76 Y=3.22 Z=36.925	2186	E 39	C	a	0.79	B 9 g2→X=-1.70 Y=2.56 Z=36.868	2236	E 91	B	a	27.60	B 9 g1→X=-3.50 Y=3.38 Z=36.994
2138	D 2	A	a	91.80	B 9 e2→X=-2.97 Y=3.80 Z=36.928	2187	E 40	C	b	86.60	B 9 g2→X=-1.35 Y=2.03 Z=36.631	2237	E 92	B	a	245.00	B 9 g2→X=-2.55 Y=0.95 Z=36.703
2139	D 3	M	d	29.70	B 9 e2→X=-3.72 Y=3.11 Z=36.989	2188	E 41	C	b	29.60	B 9 g2→X=-1.17 Y=2.16 Z=36.645	2238	E 93	B	a	36.40	B 9 g2→X=-2.39 Y=0.43 Z=36.774
2140	D 4	M	d	32.20	B 9 e2→X=-3.52 Y=2.84 Z=37.027	2189	E 42	C	a	0.46	B 9 g2→X=-1.02 Y=2.35 Z=36.944	2239	E 94	B	a	44.30	B 9 g2→X=-1.60 Y=0.66 Z=36.733 Pl28
2141	D 5	L	j	59.00	B 9 e2→X=-3.83 Y=2.69 Z=37.013	2190	E 43	C	a	8.95	B 9 g2→X=-0.95 Y=2.00 Z=36.863	2240	E 95	B	a	173.70	B 9 g2→X=-1.60 Y=0.64 Z=36.731 Pl28
2142	D 6	M	d	202.00	B 9 e2→X=-3.59 Y=2.59 Z=36.992	2191	E 44	C	b	43.10	B 9 g2→X=-0.88 Y=2.27 Z=36.642	2241	E 96	B	a	379.00	B 9 g1→X=-1.22 Y=2.47 Z=36.731 Pl28
2143	D 7	C	a	2.14	B 9 e2→X=-3.79 Y=2.35 Z=37.077	2192	E 45	C	a	12.30	B 9 g2→X=-0.71 Y=2.42 Z=36.686	2242	E 97	B	a	272.00	B 9 g1→X=-3.56 Y=2.47 Z=37.102
2144	D 8	M	j	7.05	B 9 e2→X=-3.39 Y=2.79 Z=36.954	2193	E 46	C	a	2.14	B 9 g2→X=-0.34 Y=2.29 Z=36.787	2243	E 98	I	g	273.00	B 9 g2→X=-1.54 Y=0.58 Z=36.730
2145	D 9	M	d	443.00	B 9 e2→X=-3.44 Y=2.55 Z=36.904	2194	E 47	C	a	0.63	B 9 g2→X=-0.28 Y=2.39 Z=36.863	2244	E 99	C	a	0.48	B 9 g2→X=-0.30 Y=2.54 Z=36.668
2146	D10	M	d	16.80	B 9 e2→X=-3.51 Y=2.42 Z=36.897	2195	E 48	C	a	2.36	B 9 g2→X=-0.59 Y=1.57 Z=36.775	2245	E 100	C	a	1.00	B 9 g2→X=-2.57 Y=1.68 Z=36.693

番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置		
2246	E101	B	b	78.10	B 9g3→X = -3.97 Y = 1.41 Z = 36.450	2296	E176	E	a	0.96	B 9h2→X = -1.76 Y = 2.48 Z = 36.867	2346	E234	D	j	0.02	B 9h2→X = -1.65 Y = 0.07 Z = 36.827		
2247	E102	L	g	0.37	B 9g3→X = -3.97 Y = 0.10 Z = 36.587	2297	E177	C	j	15.70	B 9h2→X = -1.21 Y = 1.99 Z = 36.686	2347	E237	C	a	0.04	B 9h2→X = -2.51 Y = 3.21 Z = 36.995		
2248	E103	C	b	0.17	B 9h2→X = -0.00 Y = 2.42 Z = 36.641	2298	E178	C	g	2.30	B 9h2→X = -1.20 Y = 1.87 Z = 36.788	2348	E238	C	e	56.40	B 9h2→X = -3.42 Y = 1.42 Z = 37.076		
2249	E104	C	g	0.75	B 9g2→X = -2.07 Y = 0.33 Z = 36.739	2299	E179	C	g	2.58	B 9h2→X = -1.14 Y = 1.73 Z = 36.784	2349	E239	C	a	0.55	B 9h3→X = -0.40 Y = 1.36 Z = 36.555		
2250	E108	C	a	0.20	B 9g2→X = -1.19 Y = 3.81 Z = 36.785	2300	E180	C	a	7.10	B 9h2→X = -1.11 Y = 1.59 Z = 36.847	2350	E242	L	g	0.03	B 9h2→X = -0.74 Y = 1.18 Z = 36.693		
2251	E114	C	a	0.11	B 9g2→X = -1.93 Y = 0.72 Z = 36.696	2301	E181	C	a	4.82	B 9h2→X = -0.48 Y = 2.97 Z = 36.711	2351	E244	C	a	0.05	B 9h2→X = -1.64 Y = 1.10 Z = 36.698		
2252	E115	B	g	0.04	B 9g2→X = -2.51 Y = 0.71 Z = 36.674	2302	E182	C	a	3.96	B 9h2→X = -1.91 Y = 1.83 Z = 36.901	2352	E247	C	g	0.02	B 9h2→X = -1.21 Y = 0.40 Z = 36.810		
2253	E118	C	g	2.64	B 9g2→X = -1.21 Y = 1.48 Z = 36.669	2303	E183	C	a	12.40	B 9h2→X = -1.67 Y = 1.48 Z = 36.739	2353	E252	C	a	0.59	B 9g1→X = -3.74 Y = 2.04 Z = 36.711		
2254	E123	C	a	3.24	B 9g2→X = -1.16 Y = 2.70 Z = 36.589	2304	E184	C	a	0.24	B 9h2→X = -1.51 Y = 1.55 Z = 36.769	2354	E253	-	-	-	-		
2255	E126	B	a	36.30	B 9h2→X = -1.55 Y = 1.96 Z = 36.945	2305	E185	C	a	1.52	B 9h2→X = -1.06 Y = 1.47 Z = 36.753	2355	E254	E	a	3.36	B 9h2→X = -0.93 Y = 2.64 Z = 36.615		
2256	E127	C	g	0.98	B 9h2→X = -0.71 Y = 2.80 Z = 36.951	2306	E186	C	b	0.83	B 9h2→X = -1.48 Y = 1.34 Z = 36.765	2356	E255	D	a	0.04	B 9h2→X = -1.01 Y = 2.38 Z = 36.627		
2257	E128	C	g	81.80	B 9h2→X = -0.69 Y = 3.26 Z = 36.880	2307	E187	B	a	49.40	B 9h2→X = -1.90 Y = 1.43 Z = 36.751	2357	E257	C	j	0.50	B 9h2→X = -1.33 Y = 1.85 Z = 36.649		
2258	E129	K	e	305.00	B 9h2→X = -0.46 Y = 3.37 Z = 36.679	2308	E188	K	c	111.40	B 9h2→X = -1.46 Y = 1.05 Z = 36.721	2358	E259	C	j	0.05	B 9h2→X = -1.33 Y = 1.85 Z = 36.650		
2259	E130	C	a	3.92	B 9h3→X = -0.62 Y = 1.21 Z = 36.825	2309	E189	C	a	0.86	B 9h2→X = -1.10 Y = 1.00 Z = 36.809	2359	E273	E	a	2.46	B 9h2→X = -1.33 Y = 1.85 Z = 36.651		
2260	E131	B	a	16.80	B 9h3→X = -0.67 Y = 1.32 Z = 36.751	2310	E190	C	g	6.25	B 9h2→X = -1.11 Y = 0.93 Z = 36.752	2360	E276	C	a	0.67	B 9h3→X = -0.22 Y = 1.22 Z = 36.814		
2261	E132	C	a	1.06	B 9g1→X = -3.28 Y = 3.36 Z = 36.796	2311	E191	C	g	1.28	B 9h2→X = -1.43 Y = 0.63 Z = 36.818	2361	E279	C	a	0.70	B 9h2→X = -0.10 Y = 1.10 Z = 36.915		
2262	E134	C	a	1.12	B 9g2→X = -0.92 Y = 3.26 Z = 36.580	2312	E192	C	j	1.36	B 9h2→X = -1.41 Y = 0.49 Z = 36.806	2362	E280	C	a	0.12	B 9h2→X = -0.32 Y = 1.63 Z = 37.025		
2263	E136	C	j	1.24	B 9h2→X = -1.07 Y = 2.36 Z = 36.912	2313	E193	C	a	8.80	B 9h2→X = -0.66 Y = 0.62 Z = 36.784	第7号石器集中地点出土石器一覽表							
2264	E137	C	a	1.34	B 9h2→X = -0.87 Y = 2.51 Z = 36.909	2314	E194	C	e	14.30	B 9h2→X = -0.45 Y = 0.55 Z = 36.859	2363	F 1	A	a	88.20	B 9j3→X = -1.76 Y = 2.28 Z = 36.962		
2265	E138	C	j	5.60	B 9h2→X = -1.30 Y = 3.87 Z = 36.806	2315	E195	C	e	16.50	B 9h1→X = -0.46 Y = 2.01 Z = 37.009	2364	F 2	L	l	167.80	B 9j3→X = -1.92 Y = 2.65 Z = 36.886		
2266	E139	C	a	1.58	B 9g2→X = -3.91 Y = 0.53 Z = 36.850	2316	E196	L	j	6.15	B 9h1→X = -1.09 Y = 2.33 Z = 37.047	2365	F 3	B	g	168.00	B 9j3→X = -2.19 Y = 2.50 Z = 36.882		
2267	E140	C	a	0.29	B 9g2→X = -3.98 Y = 1.98 Z = 36.719	2317	E197	B	j	140.40	B 9h1→X = -1.06 Y = 2.44 Z = 36.824	2366	F 4	B	a	46.00	B 9j3→X = -2.39 Y = 2.95 Z = 36.905		
2268	E142	D	j	1.36	B 9g2→X = -0.61 Y = 3.93 Z = 36.757	2318	E198	C	a	6.80	B 9h1→X = -1.81 Y = 2.44 Z = 36.904	2367	F 5	M	d	271.00	B 9j3→X = -2.50 Y = 3.58 Z = 36.841		
2269	E143	C	a	2.94	B 9g2→X = -0.87 Y = 3.56 Z = 36.854	2319	E199	C	a	0.96	B 9h1→X = -1.06 Y = 3.85 Z = 36.966	2368	F 6	B	a	129.80	B 9j3→X = -3.05 Y = 3.01 Z = 36.862		
2270	E144	E	e	1.08	B 9g2→X = -1.05 Y = 3.30 Z = 36.845	2320	E201	D	a	0.03	B 9h2→X = -1.56 Y = 1.94 Z = 36.693	2369	F 7	C	j	5.70	B 9j3→X = -1.81 Y = 3.50 Z = 36.839		
2271	E145	C	a	2.46	B 9h3→X = -1.71 Y = 1.05 Z = 36.723	2321	E202	C	a	0.10	B 9h2→X = -1.44 Y = 1.91 Z = 36.675	2370	F 8	C	e	11.80	B 9j3→X = -1.81 Y = 3.81 Z = 36.879		
2272	E146	C	a	1.34	B 9h2→X = -1.41 Y = 2.77 Z = 36.805	2322	E203	C	a	0.10	B 9h2→X = -0.60 Y = 2.45 Z = 36.671	2371	F 9	B	a	14.40	B 9j3→X = -2.01 Y = 3.75 Z = 36.832		
2273	E147	C	b	24.80	B 9h3→X = -1.23 Y = 1.13 Z = 36.658	2323	E204	C	a	16.50	B 9h2→X = -1.64 Y = 2.46 Z = 36.644 Pl28	2372	F 10	L	d	13.50	B 9j3→X = -2.31 Y = 3.23 Z = 36.893		
2274	E148	C	j	9.25	B 9h2→X = -0.68 Y = 3.36 Z = 36.842	2324	E205	C	j	1.18	B 9h2→X = -1.64 Y = 2.66 Z = 36.641	2373	F 11	C	g	9.45	B 9j3→X = -2.14 Y = 3.01 Z = 36.893		
2275	E149	C	j	2.62	B 9h2→X = -1.68 Y = 2.64 Z = 36.859	2325	E207	C	g	9.90	B 9h2→X = -1.14 Y = 0.89 Z = 36.742	2374	F 12	B	b	24.60	B 9j3→X = -2.14 Y = 2.98 Z = 36.876		
2276	E150	C	b	6.35	B 9h2→X = -1.22 Y = 0.54 Z = 36.933	2326	E208	C	a	12.00	B 9h2→X = -1.73 Y = 0.99 Z = 36.742	2375	F 13	C	g	11.40	B 9j3→X = -2.74 Y = 2.72 Z = 36.733		
2277	E151	B	a	15.50	B 9h2→X = -1.86 Y = 3.41 Z = 36.659	2327	E209	C	g	8.90	B 9h2→X = -1.66 Y = 1.67 Z = 36.679	2376	F 14	C	g	5.90	B 9j3→X = -3.45 Y = 3.14 Z = 36.921		
2278	E152	E	a	13.90	B 9h2→X = -1.45 Y = 3.19 Z = 36.660	2328	E210	B	j	52.90	B 9h2→X = -1.68 Y = 0.95 Z = 36.720	2377	F 16	C	j	5.05	B 9j3→X = -3.27 Y = 1.82 Z = 36.751		
2279	E153	C	j	0.45	B 9h2→X = -0.90 Y = 2.99 Z = 36.759	2329	E211	C	a	0.29	B 9h3→X = -1.00 Y = 0.72 Z = 36.601	2378	F 17	C	j	5.35	B 9j3→X = -2.99 Y = 1.78 Z = 36.783		
2280	E154	B	a	30.70	B 9h2→X = -0.81 Y = 2.98 Z = 36.729	2330	E212	C	g	1.37	B 9h3→X = -1.48 Y = 0.44 Z = 36.605	2379	F 19	B	g	51.30	B 9j3→X = -1.88 Y = 2.35 Z = 36.921		
2281	E156	K	l	3.55	B 9g2→X = -3.90 Y = 0.01 Z = 36.747	2331	E213	C	g	0.67	B 9h3→X = -1.34 Y = 0.07 Z = 36.609	2380	F 20	B	g	56.90	B 9j3→X = -1.88 Y = 2.58 Z = 36.893		
2282	E159	C	a	2.14	B 9g2→X = -3.96 Y = 1.66 Z = 36.639	2332	E214	C	g	2.36	B 9h2→X = -1.20 Y = 3.79 Z = 36.617	2381	F 21	B	a	169.20	B 9j3→X = -1.96 Y = 2.59 Z = 36.886		
2283	E160	C	j	0.31	B 9g2→X = -3.99 Y = 2.38 Z = 36.547	2333	E215	C	a	0.18	B 9h2→X = -1.51 Y = 3.65 Z = 36.619	2382	F 22	C	a	2.28	B 9j3→X = -1.12 Y = 1.52 Z = 36.950		
2284	E164	C	a	4.04	B 9h3→X = -1.31 Y = 1.69 Z = 36.646	2334	E216	D	a	0.00	B 9h2→X = -1.02 Y = 3.38 Z = 36.621	2383	F 23	C	j	5.45	B 9j3→X = -0.58 Y = 1.91 Z = 36.921		
2285	E165	C	g	0.80	B 9h3→X = -0.49 Y = 0.08 Z = 36.637	2335	E217	C	a	8.20	B 9h2→X = -0.94 Y = 3.47 Z = 36.602	2384	F 24	B	a	212.00	B 9j3→X = -3.36 Y = 0.77 Z = 36.801		
2286	E166	C	a	0.15	B 9h3→X = -1.08 Y = 0.00 Z = 36.646	2336	E218	D	a	0.03	B 9h2→X = -0.58 Y = 2.74 Z = 36.656	2385	F 25	C	d	5.20	B 9j3→X = -3.54 Y = 3.69 Z = 36.805		
2287	E167	C	b	4.82	B 9h3→X = -1.94 Y = 0.14 Z = 36.897	2337	E219	C	a	0.14	B 9h2→X = -0.70 Y = 2.40 Z = 36.648	第8号石器集中地点出土石器一覽表							
2288	E168	C	a	3.48	B 9h2→X = -0.40 Y = 3.43 Z = 36.749	2338	E221	C	a	0.64	B 9h2→X = -0.53 Y = 2.15 Z = 36.663	2386	G 2	C	a	6.80	C 8b0→X = -0.16 Y = 0.52 Z = 37.441		
2289	E169	C	a	0.78	B 9h2→X = -0.62 Y = 2.91 Z = 36.755	2339	E222	C	a	0.22	B 9h2→X = -1.70 Y = 2.28 Z = 36.639	2387	G 3	L	d	8.95	C 8b0→X = -1.05 Y = 0.38 Z = 37.488		
2290	E170	C	a	0.45	B 9h2→X = -1.07 Y = 2.94 Z = 36.644	2340	E225	D	a	0.06	B 9h2→X = -1.51 Y = 1.55 Z = 36.662	2388	G 4	G	a	4.18	C 8b0→X = -1.78 Y = 0.21 Z = 37.495 Pl27		
2291	E171	E	b	131.20	B 9h2→X = -1.45 Y = 3.03 Z = 36.592	2341	E226	D	a	0.02	B 9h2→X = -0.64 Y = 1.17 Z = 36.699	2389	G 5	C	a	3.26	C 8b0→X = -2.35 Y = 0.22 Z = 37.441		
2292	E172	C	a	0.31	B 9h2→X = -1.27 Y = 2.73 Z = 36.645	2342	E227	C	g	1.32	B 9h2→X = -1.18 Y = 1.02 Z = 36.705	2390	G 7	B	m	89.40	C 8b0→X = -2.92 Y = 0.44 Z = 37.444		
2293	E173	C	g	1.48	B 9h2→X = -1.07 Y = 2.42 Z = 36.769	2343	E229	C	g	0.15	B 9h2→X = -1.13 Y = 1.59 Z = 36.781	2391	G 8	M	d	39.60	C 8b0→X = -3.16 Y = 0.71 Z = 37.431		
2294	E174	E	a	1.84	B 9h2→X = -1.27 Y = 2.38 Z = 36.857	2344	E230	C	j	0.39	B 9h2→X = -0.73 Y = 0.59 Z = 36.790	2392	G 9	M	d	59.40	C 8b0→X = -3.36 Y = 0.81 Z = 37.394		
2295	E175	C	a	0.28	B 9h2→X = -1.54 Y = 2.49 Z = 36.715	2345	E233	C	a	1.16	B 9h2→X = -1.05 Y = 0.08 Z = 36.834	2393	G 10	M	d	13.00	C 8b0→X = -3.60 Y = 0.51 Z = 37.438		

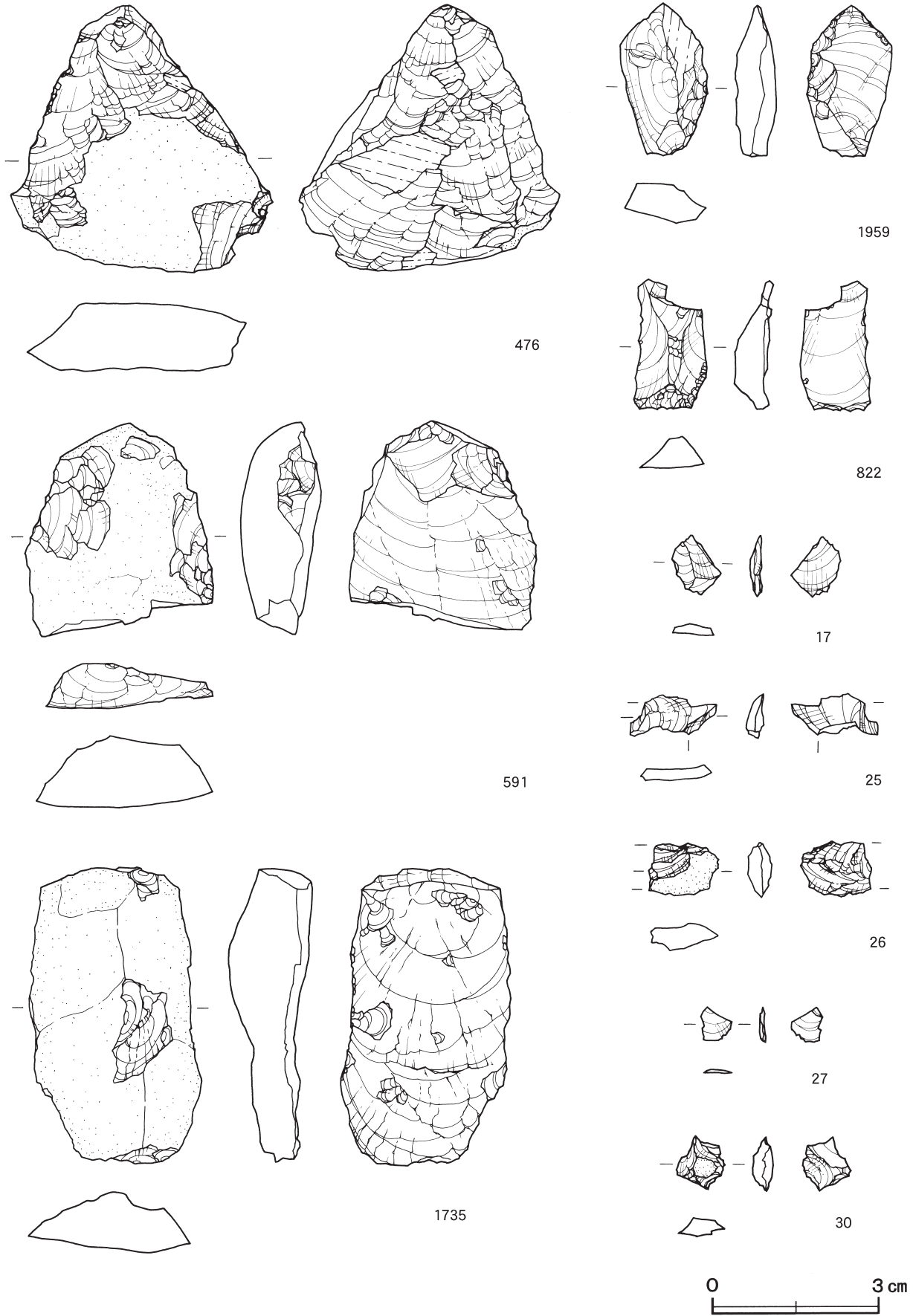
番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置	番号	旧番号	器種	石質	重量	出土位置
2394	G11	M	d	79.40	C 8 b0→X=-0.16 Y=0.52 Z=37.441	2419	G36	M	e	69.50	C 8 b9→X=-3.05 Y=3.55 Z=37.382	2444	G61	M	d	31.30	C 8 a9→X=-3.06 Y=0.67 Z=37.600
2395	G12	M	m	139.90	C 8 b0→X=-3.79 Y=0.19 Z=37.412	2420	G37	M	m	2.20	C 8 b9→X=-2.99 Y=3.56 Z=37.428	2445	G62	M	d	22.30	C 8 a9→X=-3.93 Y=1.32 Z=37.348
2396	G13	C	b	30.40	C 8 b0→X=-3.56 Y=0.31 Z=37.456	2421	G38	C	g	40.80	C 8 b9→X=-2.93 Y=3.56 Z=37.436	2446	G63	M	d	67.60	C 8 c9→X=-0.59 Y=3.99 Z=37.343
2397	G14	M	d	26.20	C 8 b0→X=-3.52 Y=0.21 Z=37.422	2422	G39	L	d	193.50	C 8 b9→X=-2.78 Y=3.72 Z=37.490	2447	G64	K	g	877.00	C 8 c9→X=-0.83 Y=3.73 Z=37.321
2398	G15	M	d	6.25	C 8 b0→X=-3.47 Y=0.21 Z=37.430	2423	G40	L	d	49.50	C 8 b9→X=-2.75 Y=3.70 Z=37.485	2448	G65	L	d	355.00	C 8 c9→X=-1.35 Y=3.77 Z=37.389
2399	G16	M	d	39.30	C 8 b0→X=-3.39 Y=0.41 Z=37.400	2424	G41	L	d	40.10	C 8 b9→X=-2.55 Y=3.75 Z=37.262	2449	G66	L	d	1450.00	C 8 c9→X=-1.80 Y=3.67 Z=37.357
2400	G17	M	d	59.80	C 8 b0→X=-3.32 Y=0.44 Z=37.427	2425	G42	L	d	1190.00	C 8 b9→X=-2.73 Y=3.76 Z=37.450	2450	G67	L	d	149.60	C 8 c9→X=-1.62 Y=3.50 Z=37.383
2401	G18	M	d	62.10	C 8 b0→X=-3.32 Y=0.31 Z=37.469	2426	G43	L	d	46.10	C 8 b9→X=-2.44 Y=3.61 Z=37.481	2451	G68	M	d	151.40	C 8 c9→X=-1.75 Y=3.52 Z=37.409
2402	G19	M	d	139.10	C 8 b0→X=-3.34 Y=0.26 Z=37.449	2427	G44	L	d	26.40	C 8 b9→X=-2.10 Y=3.44 Z=37.412	2452	G69	L	d	3120.00	C 8 c9→X=-1.92 Y=3.55 Z=37.330
2403	G20	M	d	72.70	C 8 b0→X=-3.39 Y=0.30 Z=37.433	2428	G45	L	d	108.60	C 8 b9→X=-1.90 Y=3.60 Z=37.346	2453	G70	C	g	30.50	C 8 c0→X=-1.84 Y=0.04 Z=37.409
2404	G21	M	d	14.80	C 8 b0→X=-3.25 Y=0.31 Z=37.442	2429	G46	L	d	5.85	C 8 b9→X=-1.53 Y=2.86 Z=37.435	2454	G71	F	f	1.00	C 8 c9→X=-3.49 Y=3.74 Z=37.377
2405	G22	M	d	372.00	C 8 b0→X=-3.26 Y=0.26 Z=37.428	2430	G47	L	d	17.20	C 8 b9→X=-1.56 Y=2.84 Z=37.418	2455	G72	B	k	164.80	C 7 a9→X=-0.76 Y=3.44 Z=37.559
2406	G23	M	d	55.70	C 8 b0→X=-3.35 Y=0.18 Z=37.450	2431	G48	C	a	13.20	C 8 b9→X=-1.84 Y=2.19 Z=37.528	2456	G73	M	d	34.50	C 8 b0→X=-3.00 Y=2.50 Z=37.192
2407	G24	M	d	70.60	C 8 b0→X=-3.28 Y=0.11 Z=37.462	2432	G49	M	d	21.00	C 8 b9→X=-2.93 Y=2.11 Z=37.432	2457	G74	M	d	29.30	C 8 b0→X=-3.02 Y=0.03 Z=37.469
2408	G25	M	d	44.90	C 8 b0→X=-3.05 Y=0.19 Z=37.466	2433	G50	M	d	8.20	C 8 b9→X=-2.19 Y=2.36 Z=37.366	2458	G75	C	a	3.58	-
2409	G26	C	a	8.05	C 8 b0→X=-2.94 Y=0.10 Z=37.439	2434	G51	M	j	6.65	C 8 b9→X=-2.30 Y=1.77 Z=37.415	2459	G76	M	e	145.70	C 8 b9→X=-2.84 Y=3.60 Z=37.454
2410	G27	M	a	226.00	C 8 b0→X=-3.06 Y=0.10 Z=37.439	2435	G52	M	d	34.00	C 8 b9→X=-2.81 Y=1.71 Z=37.420	2460	G77	M	d	78.80	C 8 b9→X=-3.00 Y=3.85 Z=37.460
2411	G28	M	d	776.00	C 8 b0→X=-2.96 Y=0.01 Z=37.465	2436	G53	C	j	1.92	C 8 b9→X=-3.22 Y=2.22 Z=37.479	2461	G78	M	d	80.20	C 8 b9→X=-3.02 Y=3.94 Z=37.463
2412	G29	M	d	341.00	C 8 b9→X=-3.01 Y=3.91 Z=37.459	2437	G54	M	d	16.30	C 8 b9→X=-2.90 Y=1.45 Z=37.453	2462	G79	M	d	62.90	C 8 b0→X=-3.37 Y=0.36 Z=37.424
2413	G30	M	d	23.20	C 8 b9→X=-3.01 Y=3.79 Z=37.474	2438	G55	M	d	9.35	C 8 b9→X=-2.90 Y=1.38 Z=37.404	2463	G80	C	d	98.90	C 8 b0→X=-3.38 Y=0.32 Z=37.434
2414	G31	M	d	256.00	C 8 b9→X=-3.03 Y=3.95 Z=37.486	2439	G56	L	a	17.30	C 8 b9→X=-2.64 Y=0.16 Z=37.495	2464	G81	M	m	57.80	C 8 b0→X=-3.34 Y=0.32 Z=37.409
2415	G32	M	d	47.70	C 8 b9→X=-3.30 Y=3.93 Z=37.478	2440	G57	C	j	2.82	C 8 b9→X=-2.13 Y=0.46 Z=37.580	2465	G82	C	b	5.75	C 8 b9→X=-2.94 Y=3.98 Z=37.447
2416	G33	M	d	7.05	C 8 b9→X=-3.50 Y=3.91 Z=37.480	2441	G58	M	d	8.40	C 8 b9→X=-1.32 Y=0.09 Z=37.524	2466	G83	M	d	4.98	C 8 b0→X=-2.92 Y=0.11 Z=37.270
2417	G34	M	d	83.30	C 8 b9→X=-3.65 Y=3.87 Z=37.466	2442	G59	C	j	32.10	C 8 b9→X=-1.55 Y=1.18 Z=37.470	2467	G84	M	d	201.00	C 8 b0→X=-3.25 Y=0.38 Z=37.397
2418	G35	M	d	48.50	C 8 b9→X=-3.08 Y=3.68 Z=37.484	2443	G60	M	e	4.88	C 8 b9→X=-1.54 Y=1.22 Z=37.480						



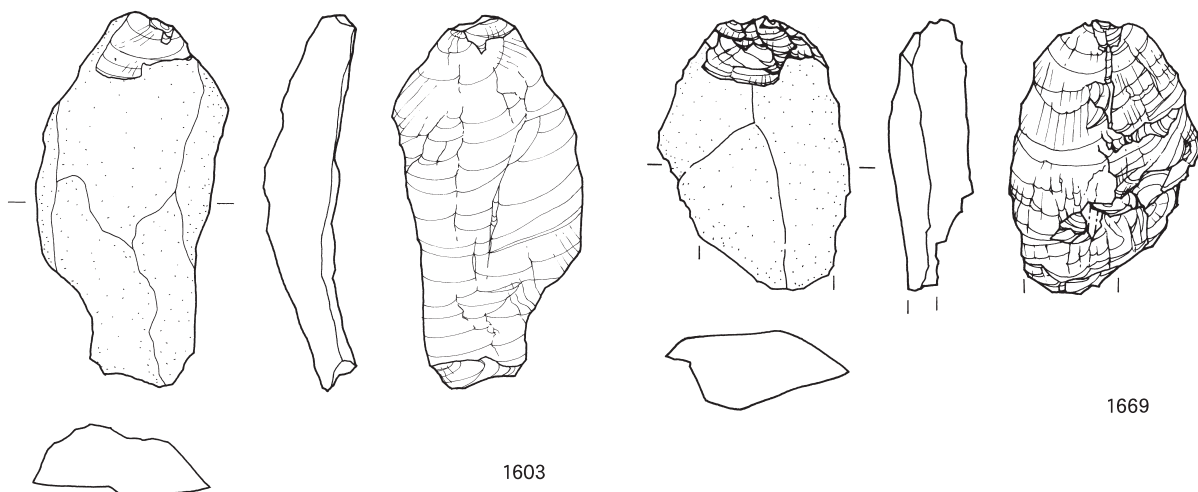
第110図 第1号石器集中地点出土遺物実測図(1)



第111图 第1号石器集中地点出土遗物实测图(2)

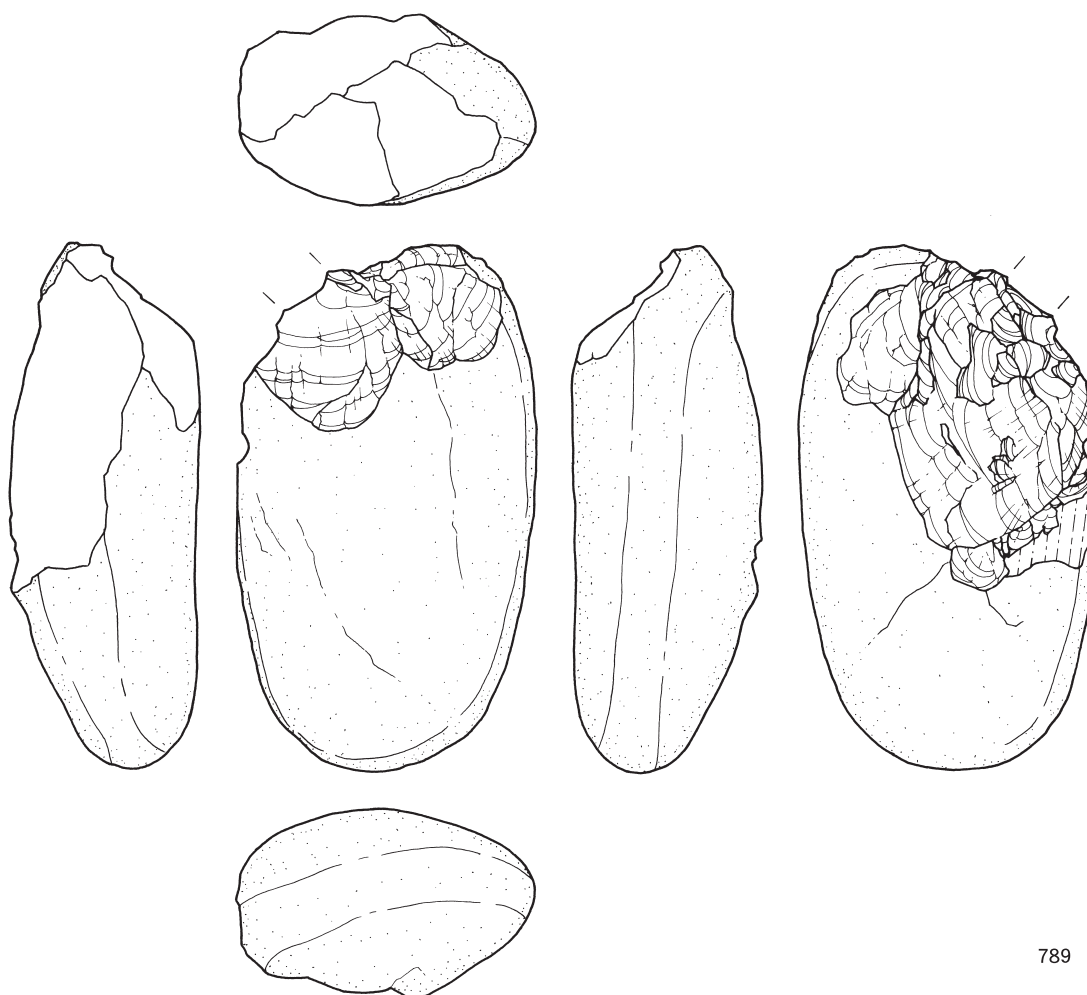


第112図 第1号石器集中地点出土遺物実測図(3)



1603

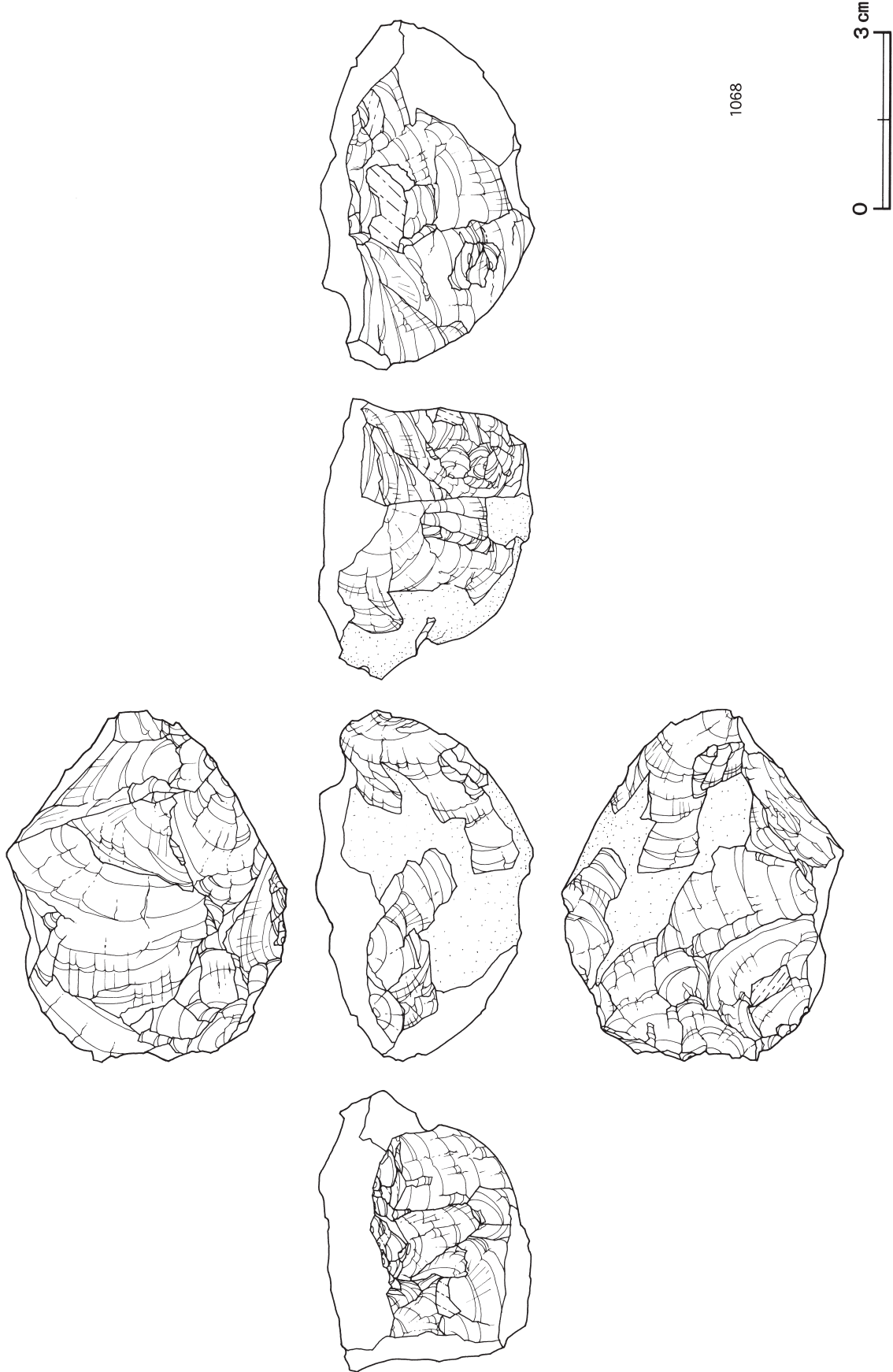
1669



789



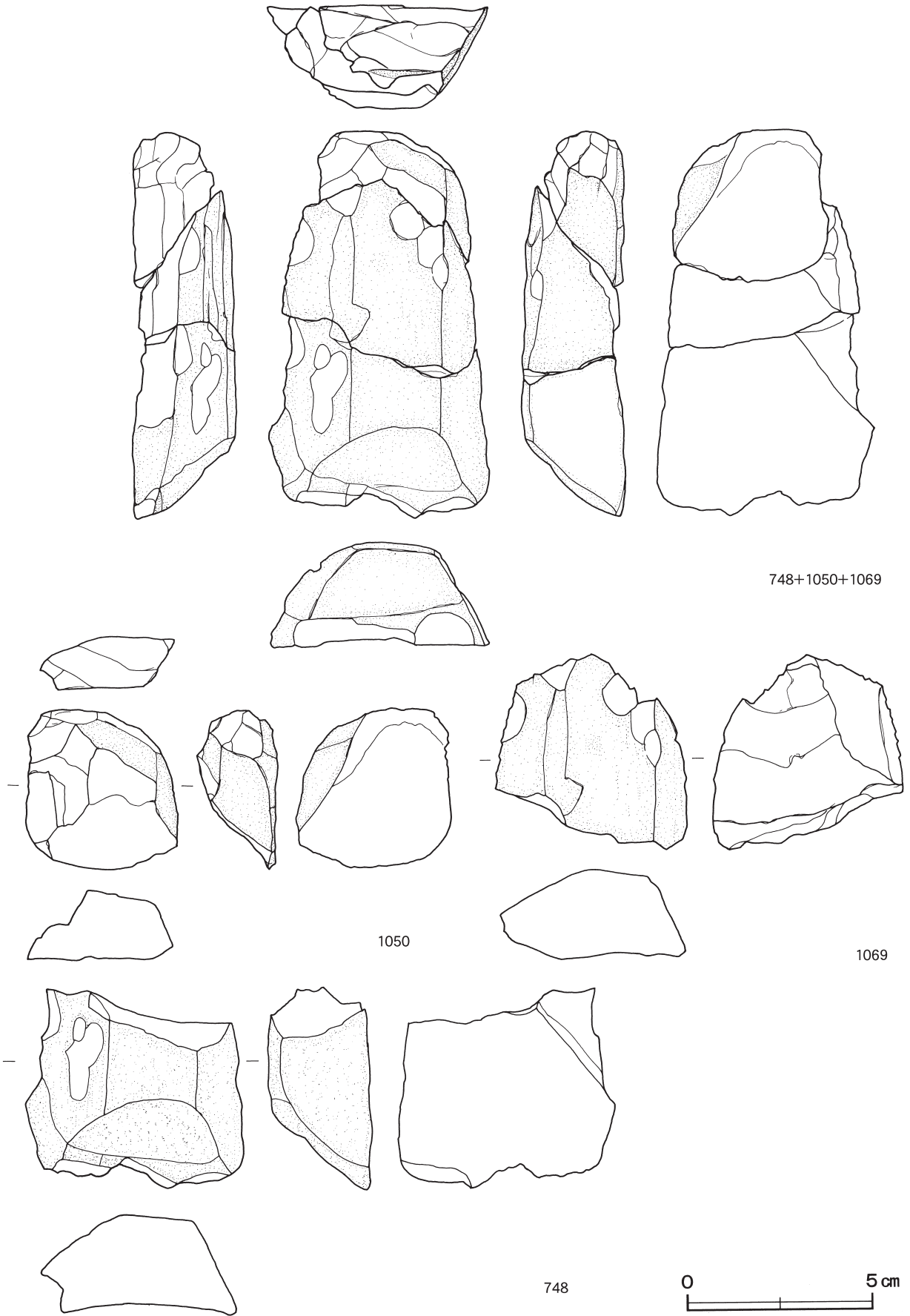
第113图 第1号石器集中地点出土遗物实测图(4)



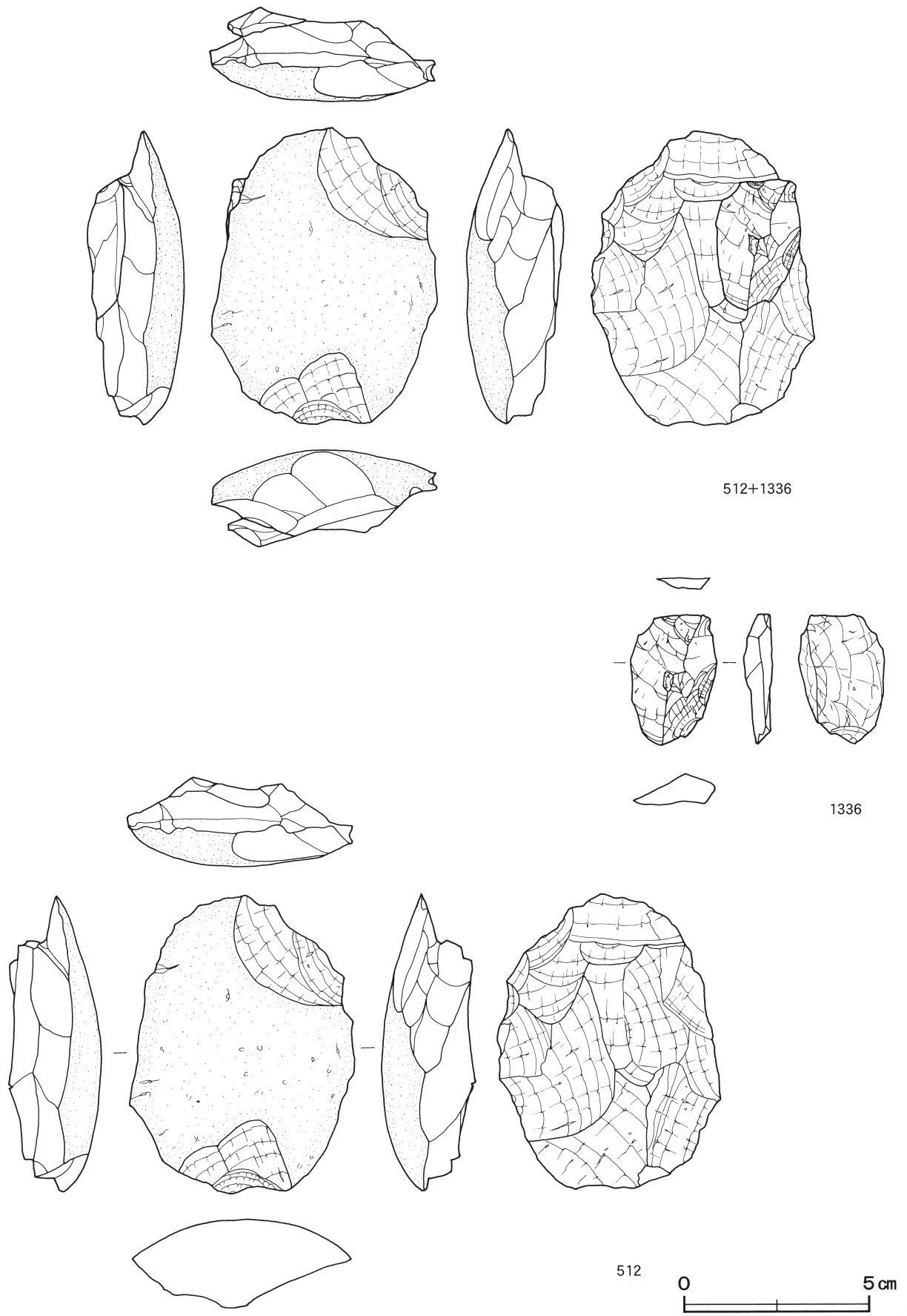
第114図 第1号石器集中地点出土遺物実測図(5)



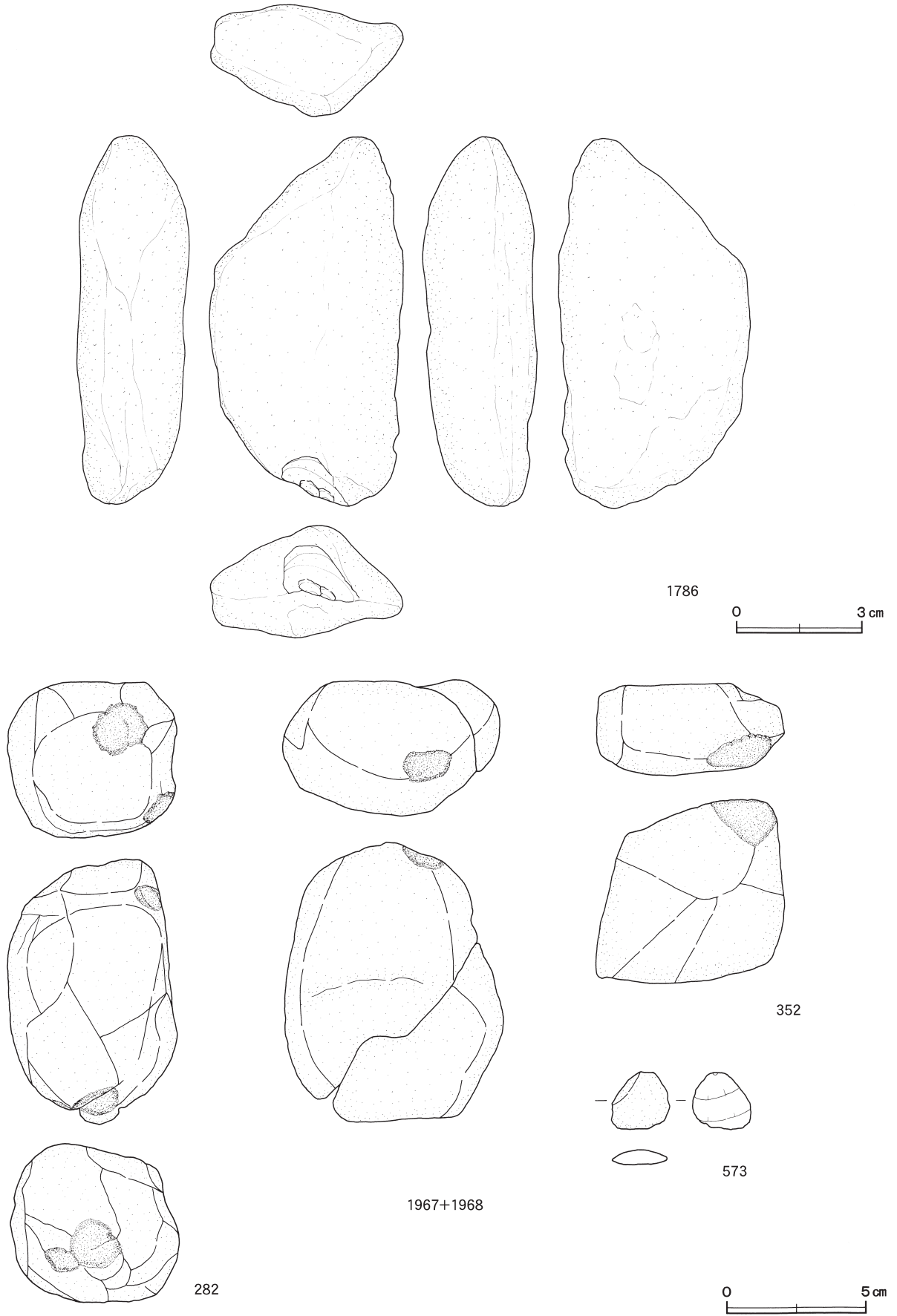
第115图 第1号石器集中地点出土遺物実測図(6)



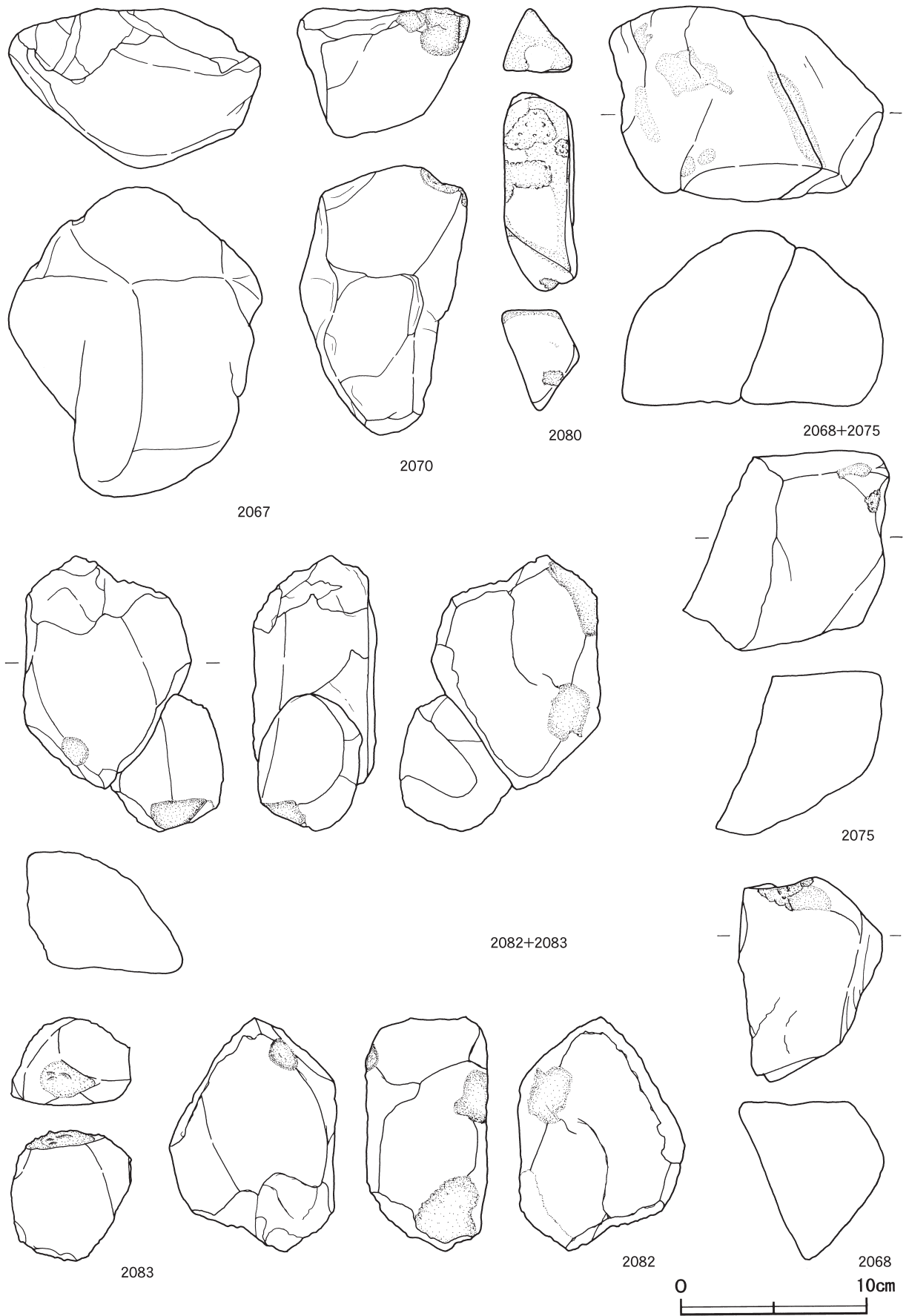
第116図 第1号石器集中地点出土遺物実測図(7)



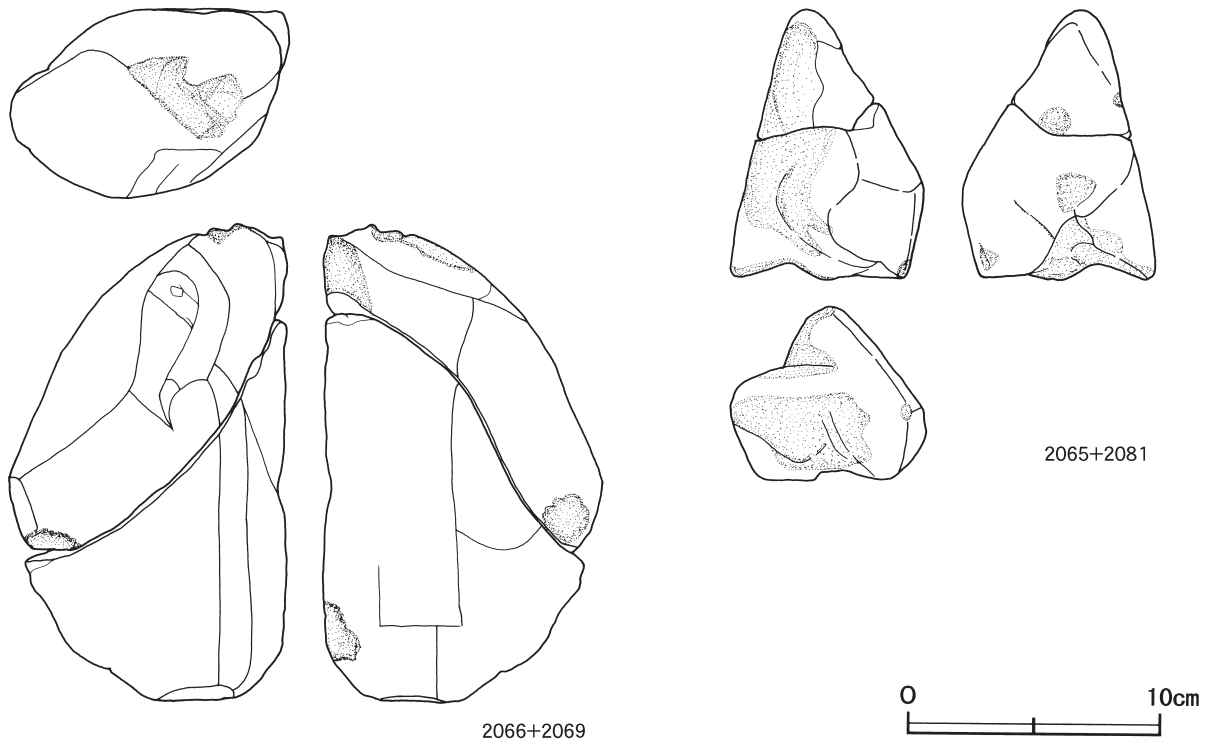
第117图 第1号石器集中地点出土遺物実測図(8)



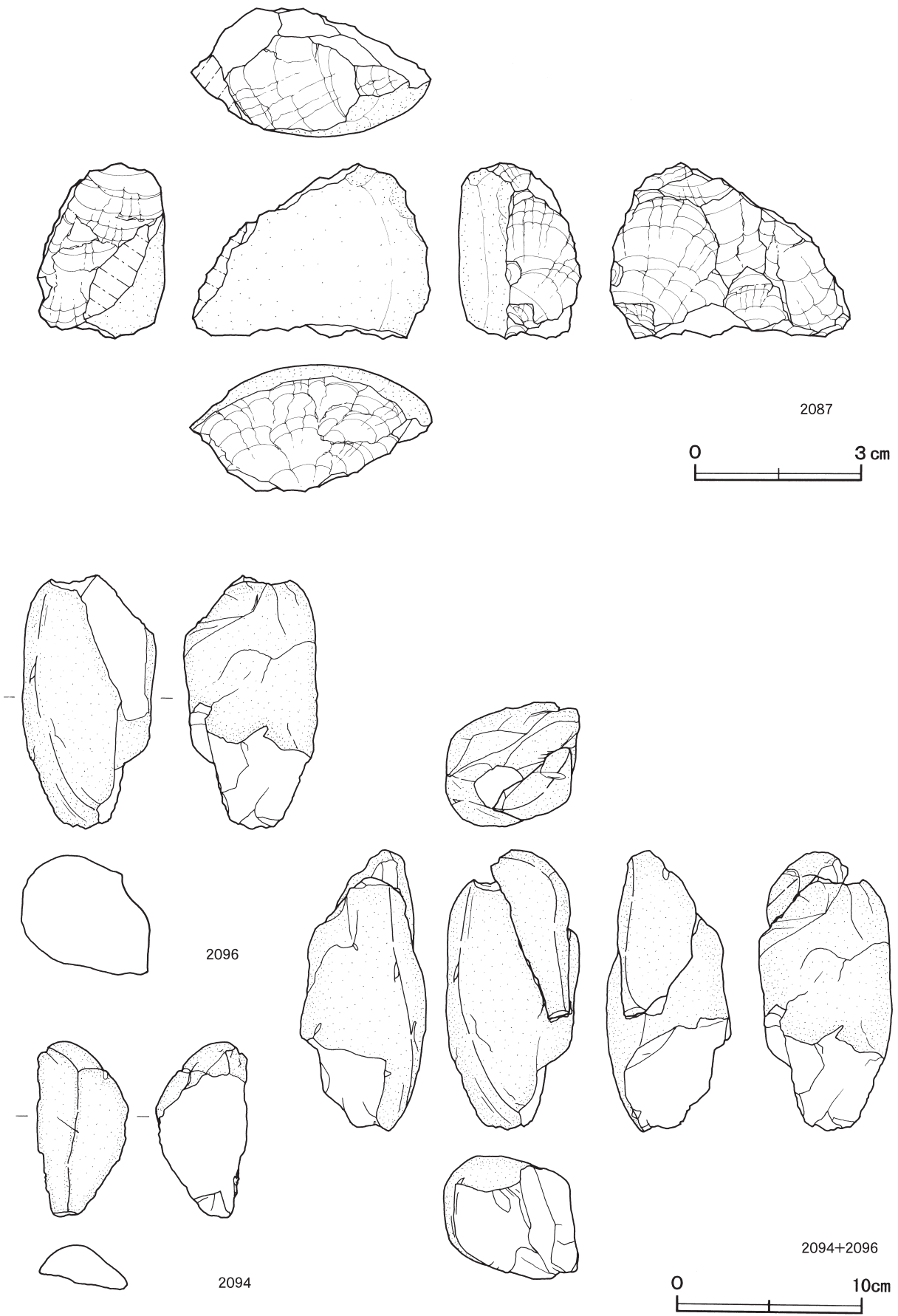
第118図 第1号石器集中地点出土遺物実測図(9)



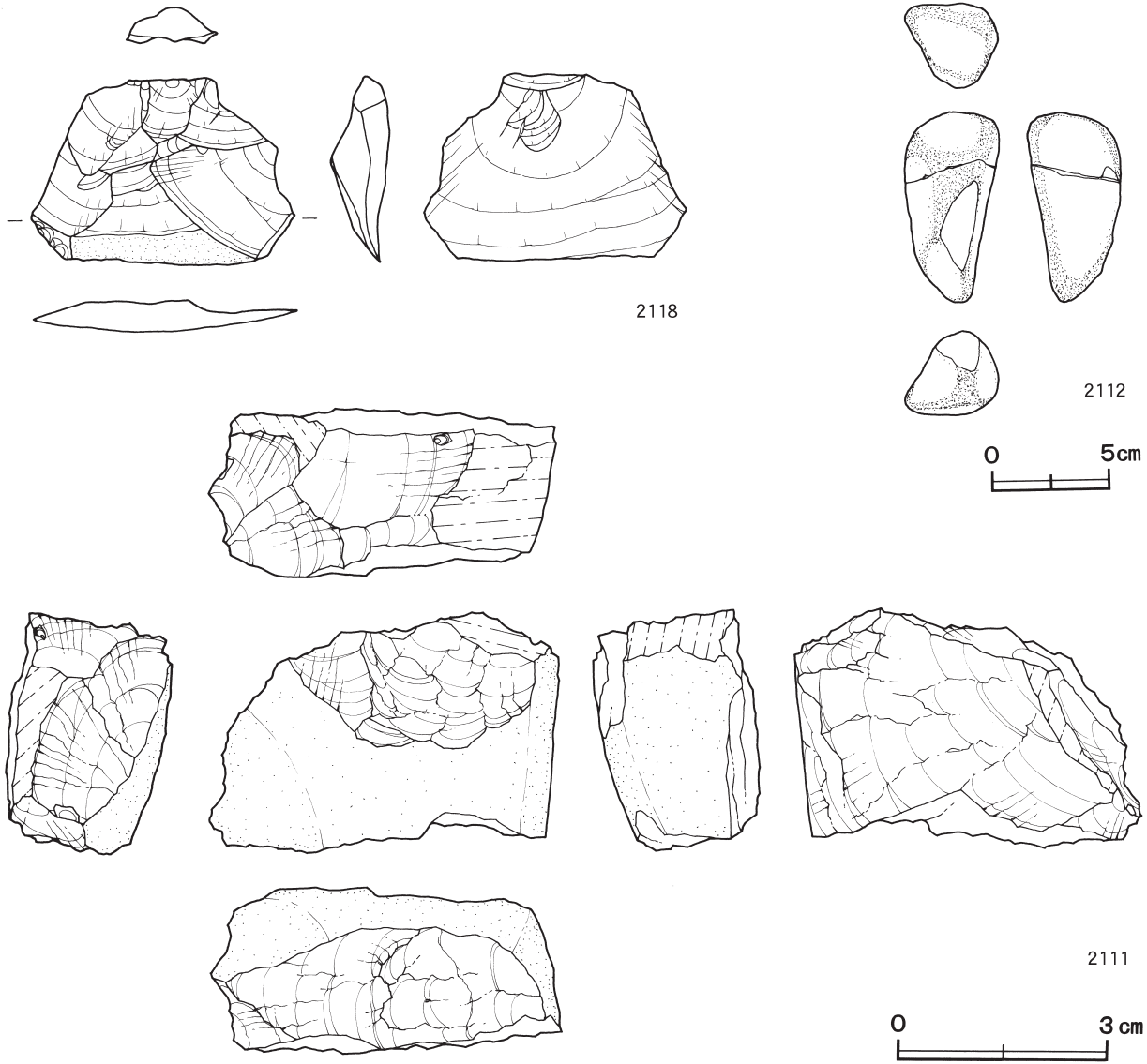
第119图 第2号石器集中地点出土遗物实测图(1)



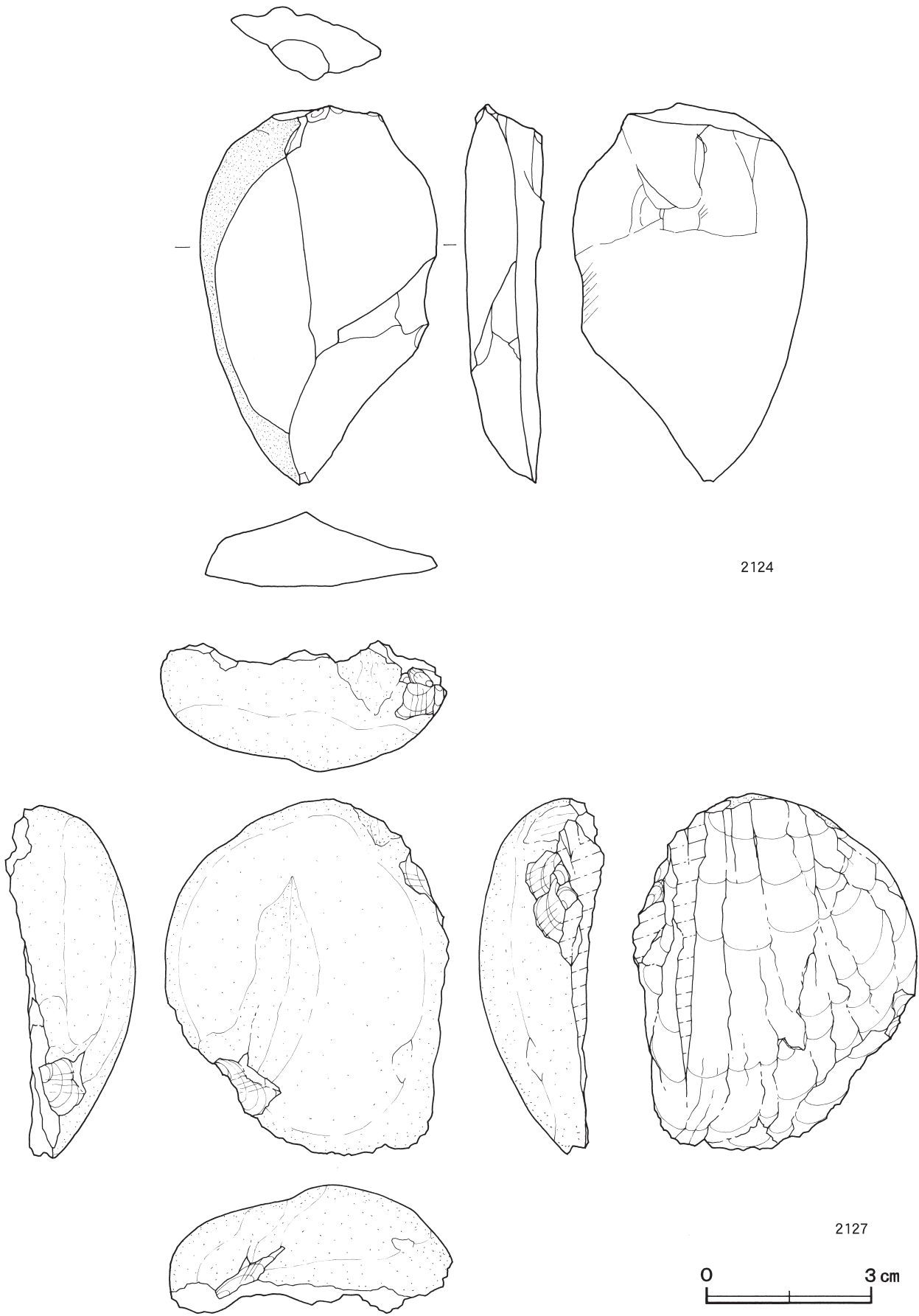
第120図 第2号石器集中地点出土遺物実測図(2)



第121图 第3号石器集中地点出土遗物实测图



第122図 第4号石器集中地点出土遺物実測図

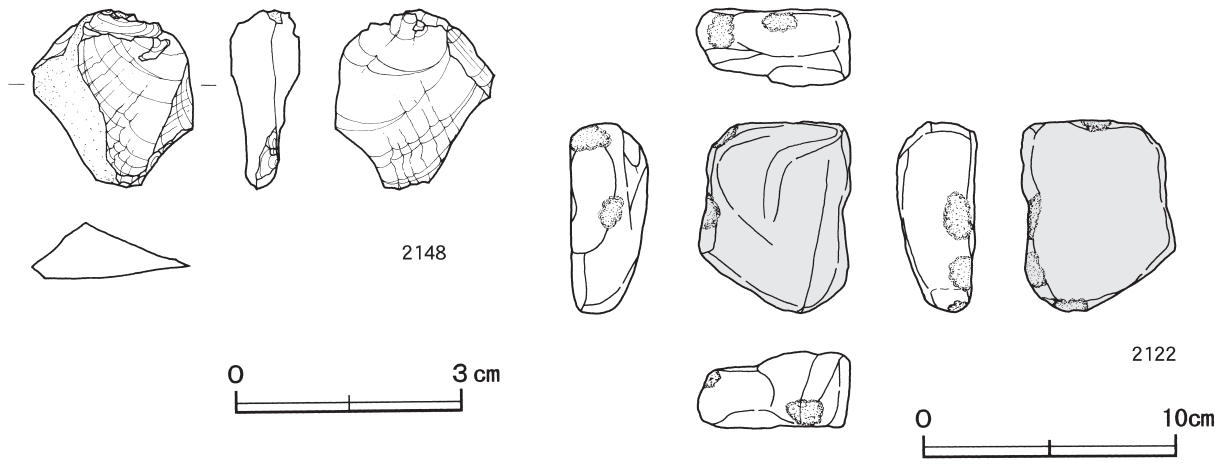


2124

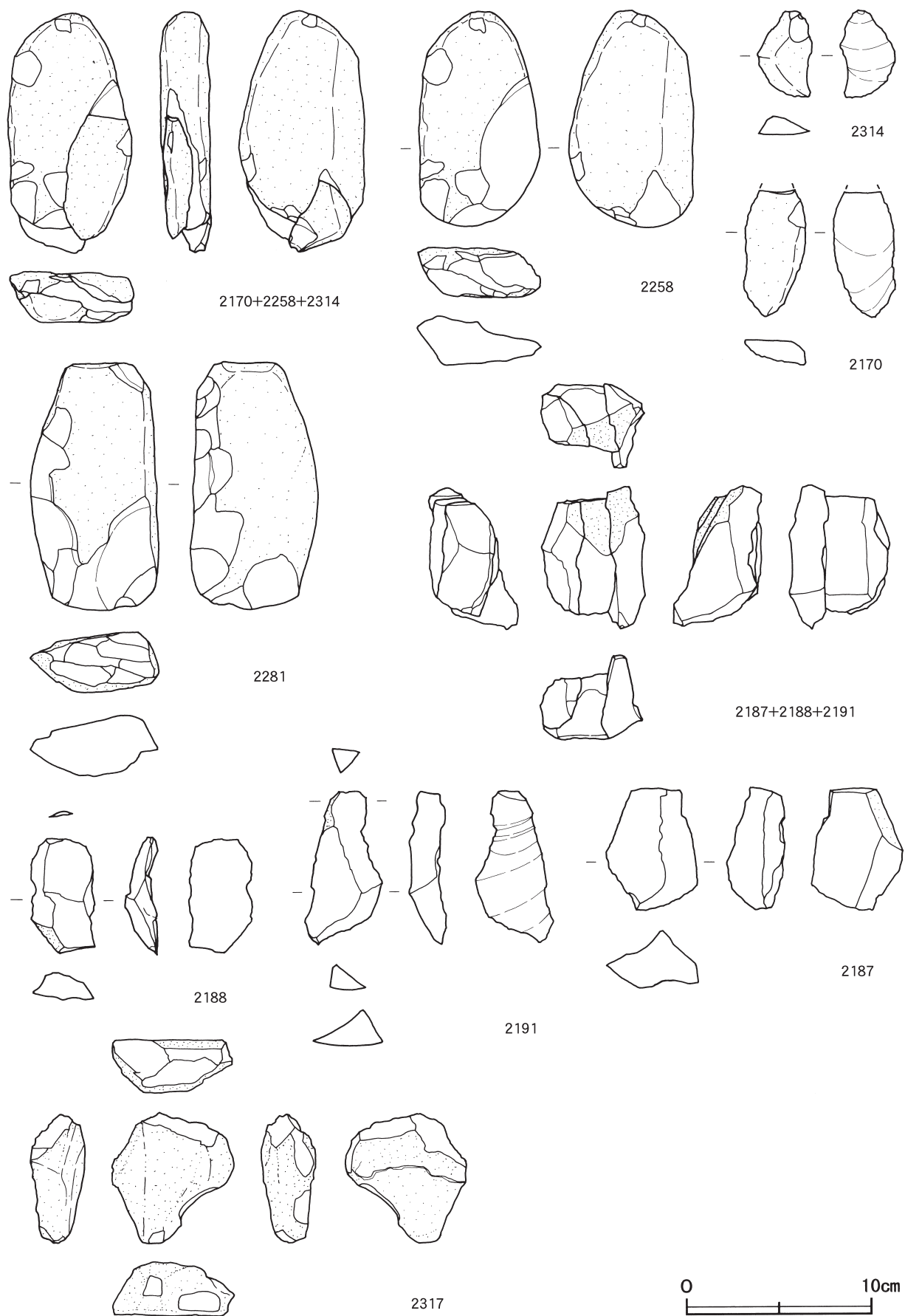
2127

0 3 cm

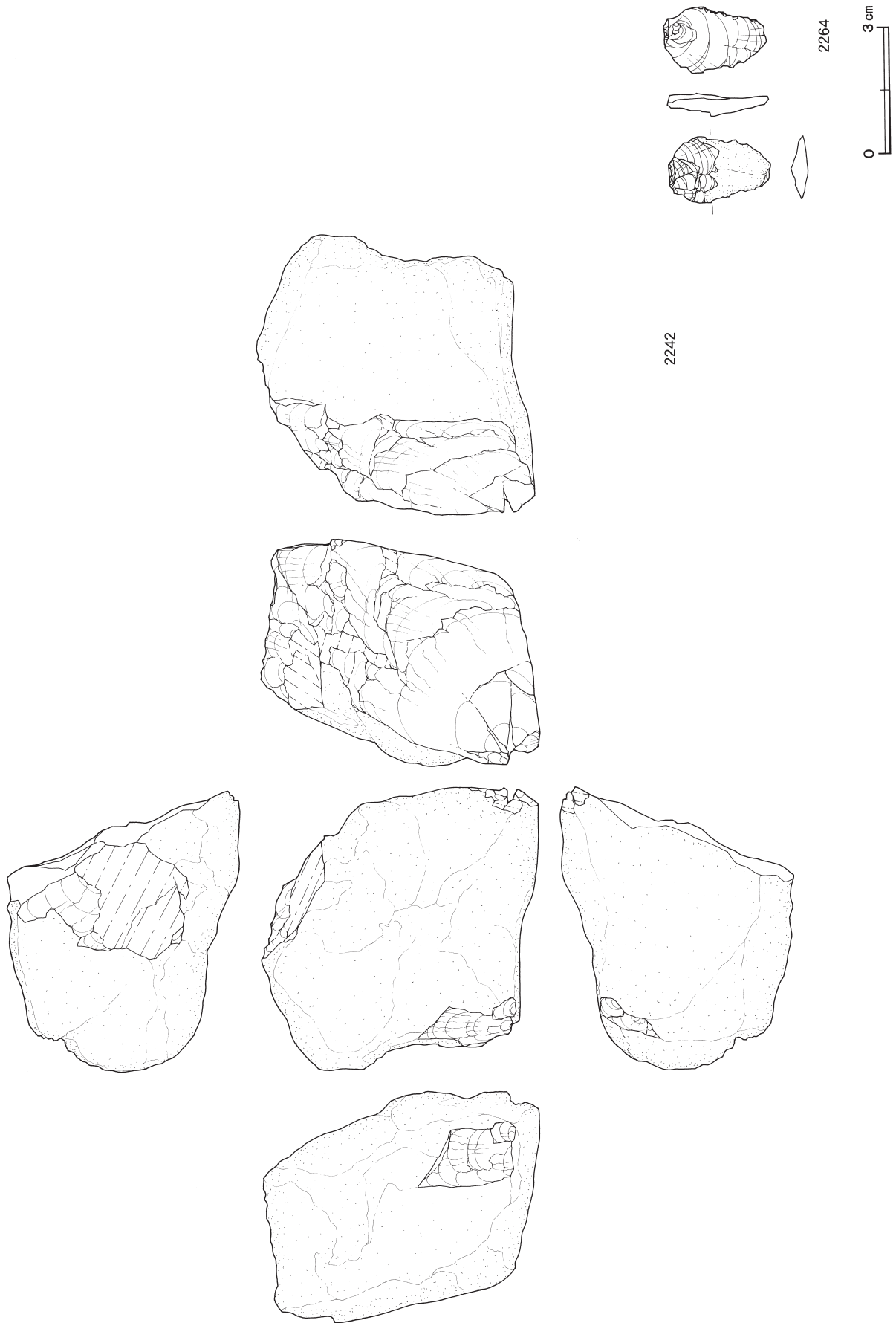
第123图 第5号石器集中地点出土遺物実測図(1)



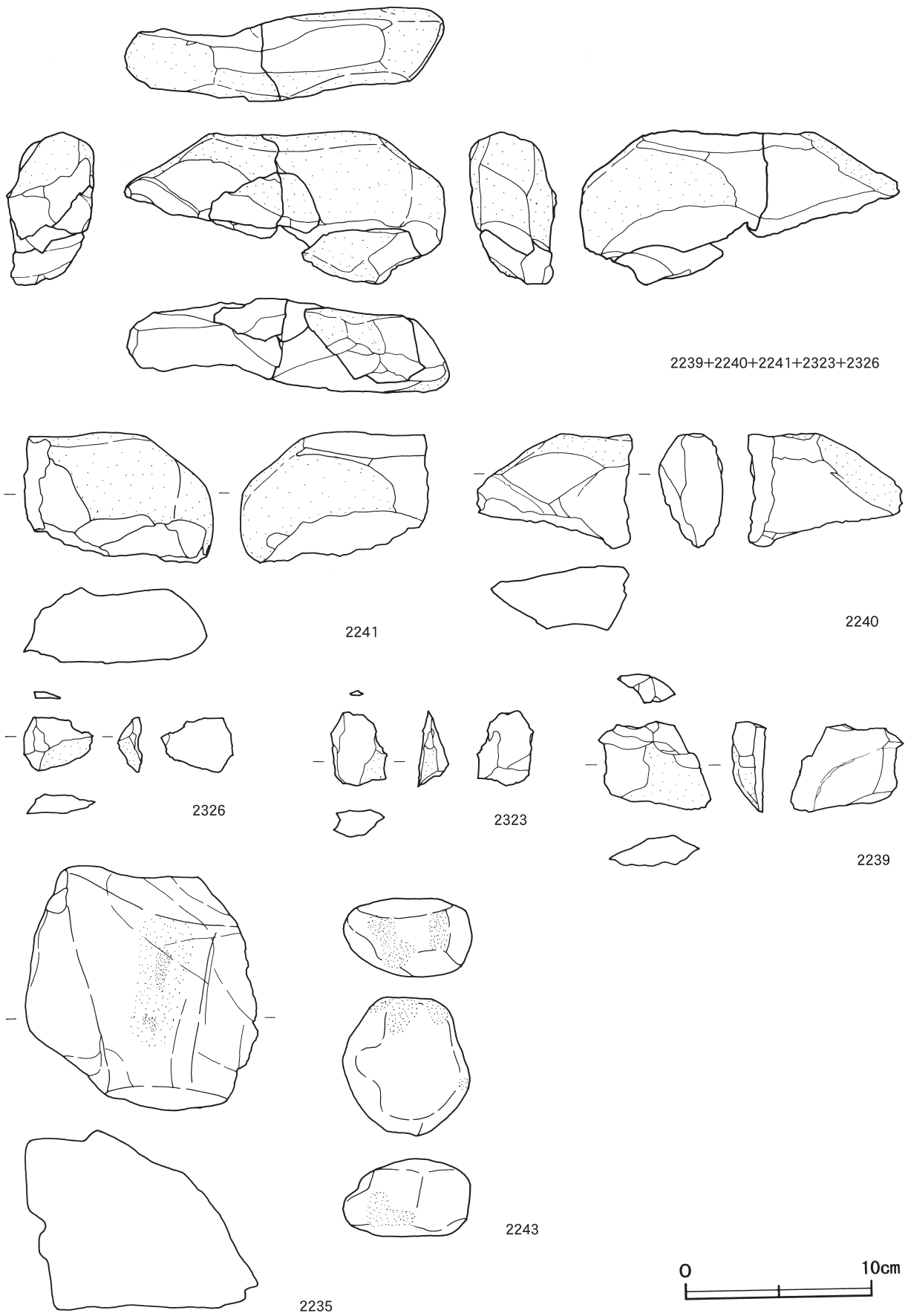
第124図 第5号石器集中地点出土遺物実測図(2)



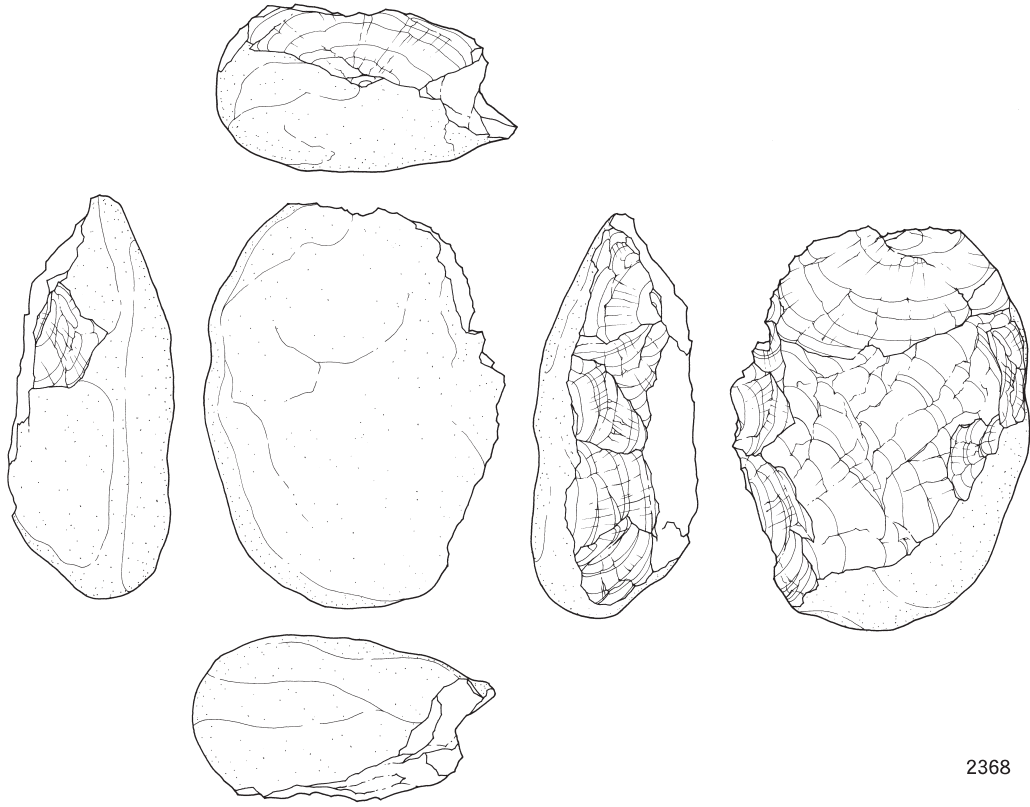
第125图 第6号石器集中地点出土遗物实测图(1)



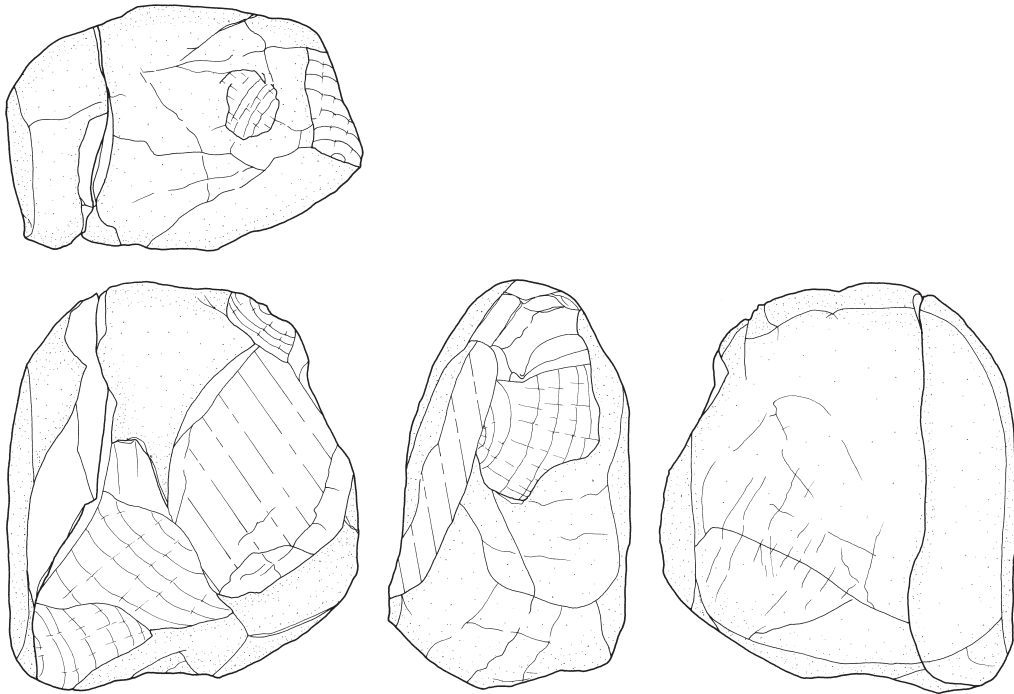
第126図 第6号石器集中地点出土遺物実測図(2)



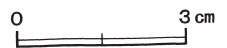
第127图 第6号石器集中地点出土遗物实测图(3)



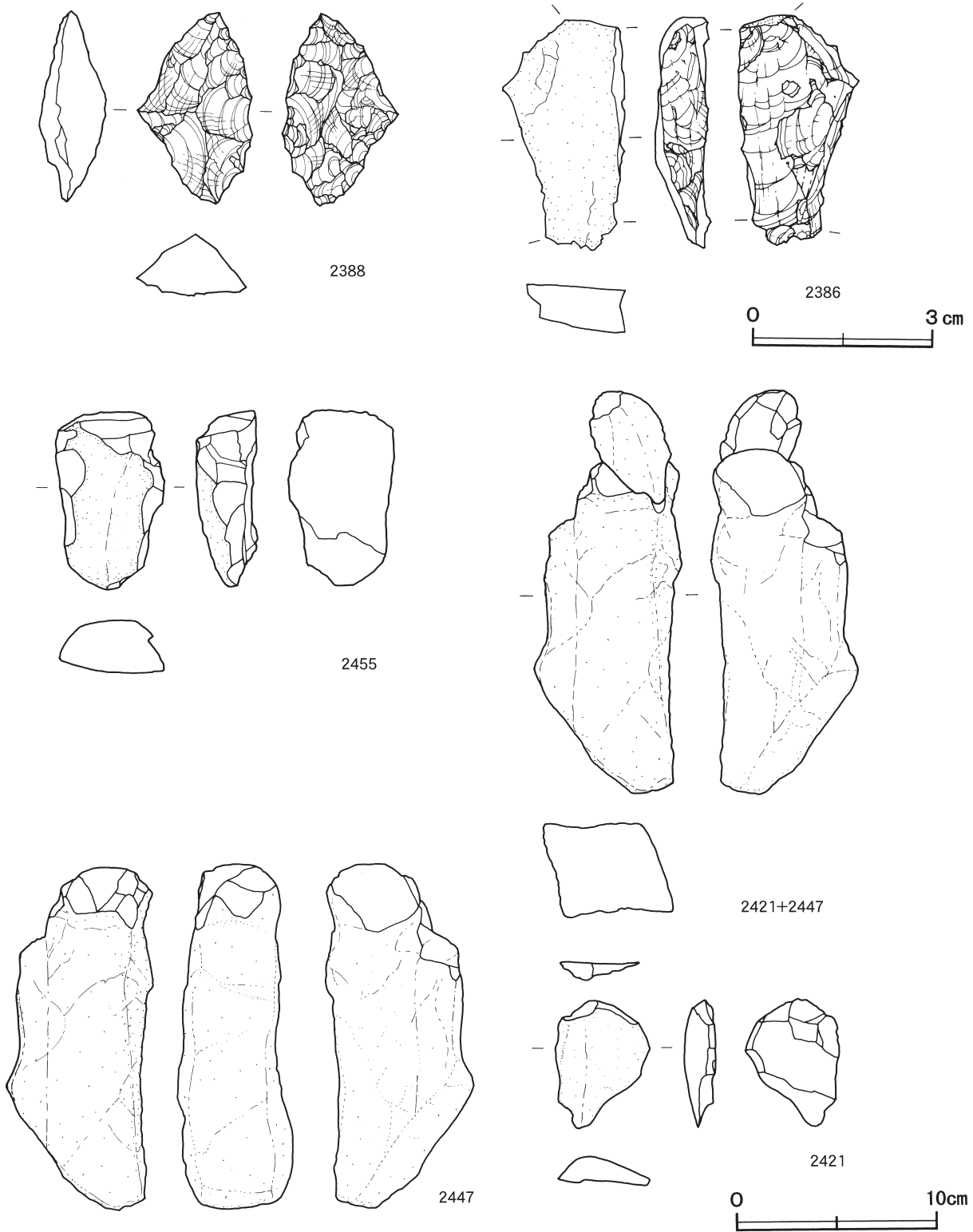
2368



2366+2384



第128図 第7号石器集中地点出土遺物実測図



第129图 第8号石器集中地点出土遺物実測図

2 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構は、陥し穴13基が調査Ⅰ～Ⅲ・Ⅴ区にかけて列状に並んで確認されている。以下、遺構と遺物について記述する。

第1号陥し穴（SK42）（第130図）

位置 調査Ⅰ区のA2d6区で、標高52mほどの丘陵上の平坦部に位置している。

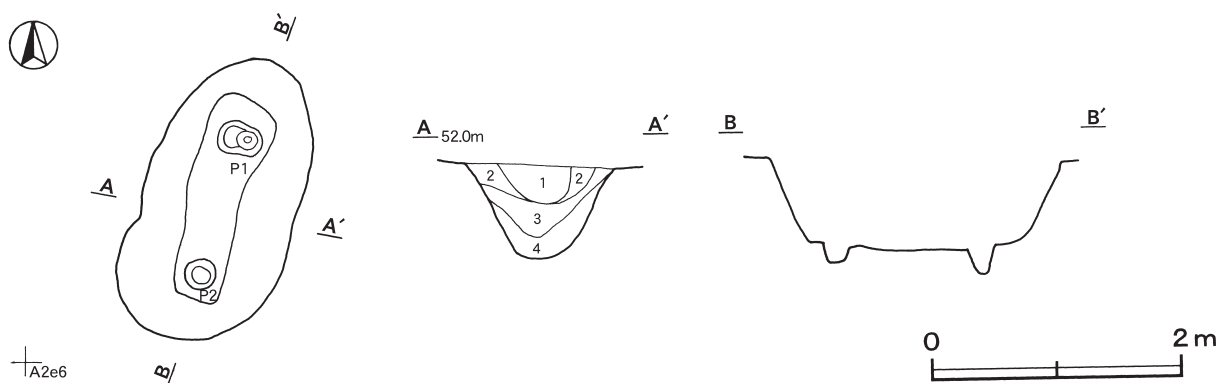
規模と形状 長径2.30m、短径1.14m、深さ76cmの長楕円形で、長径方向はN—20°—Eである。壁は長・短径方向ともに外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦で、小ピットが2か所確認されている。深さはP1が24cmで、P2が15cmである。

覆土 4層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |

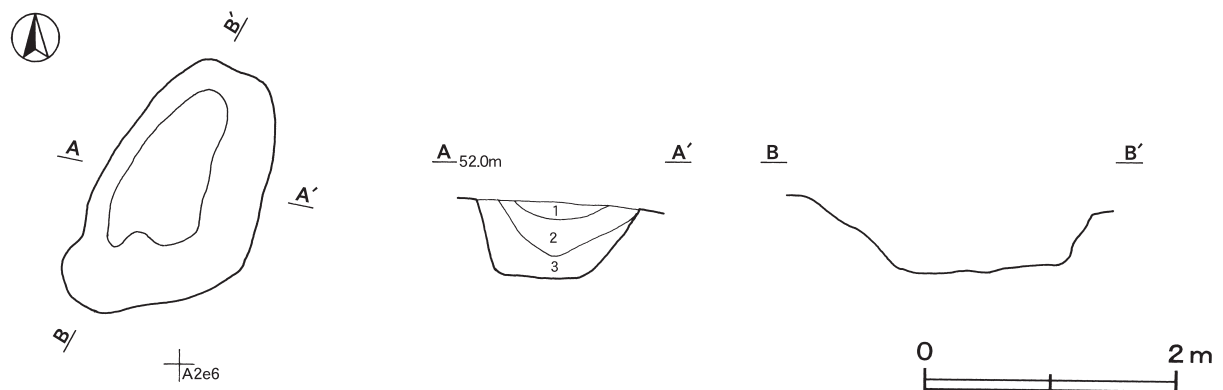
所見 時期は、形態及び覆土の土質から縄文時代と考えられるが、出土土器がないため時期を明確にできない。第2号陥し穴とほぼ主軸を揃えて東西に並んでいる。



第130図 第1号陥し穴実測図

第2号陥し穴（SK50）（第131図）

位置 調査Ⅰ区のA2d6区で、標高52mほどの丘陵上の平坦部に位置している。



第131図 第2号陥し穴実測図

規模と形状 長径2.24m, 短径1.30m, 深さ60cmの長楕円形で, 長径方向はN—29°—Eである。底面は凹凸があり, 壁は長・短径方向ともゆるやかに外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

所見 時期は, 形態及び覆土の土質から縄文時代と考えられるが, 出土土器がないため時期を明確にできない。

第1号陥し穴とほぼ主軸を揃えて東西に並んでいる。

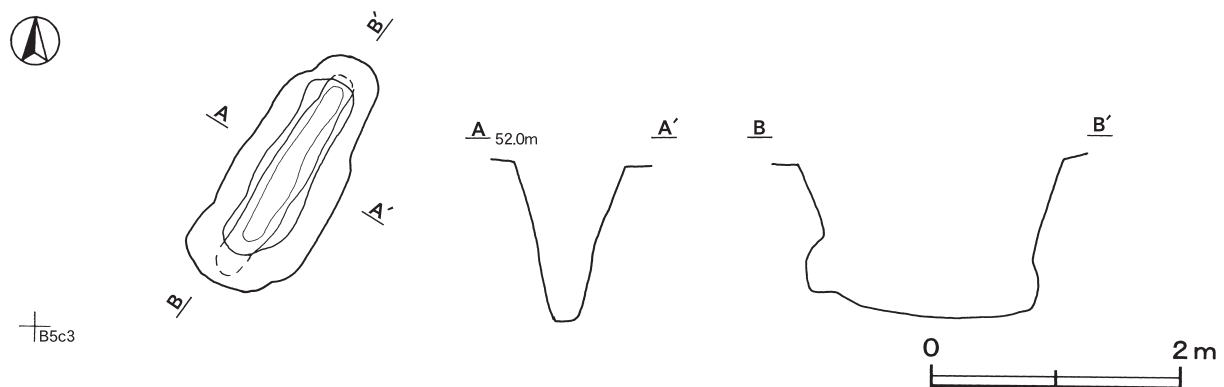
第3号陥し穴 (S K59) (第132図)

位置 調査Ⅱ区のB 5 b3区で, 標高52mほどの丘陵上平坦部の東縁に位置している。

規模と形状 長径2.12m, 短径0.88m, 深さ125cmの長楕円形で, 主軸方向はN—35°—Eである。底面はほぼ平坦で, 壁は長径方向では中位がオーバーハングしており, 上部は外傾して立ち上がっている。短径方向では下部が直立し, 上部は外傾して立ち上がっている。

所見 時期は, 形態及び覆土の土質から縄文時代と考えられるが, 出土土器がないため時期を明確にできない。

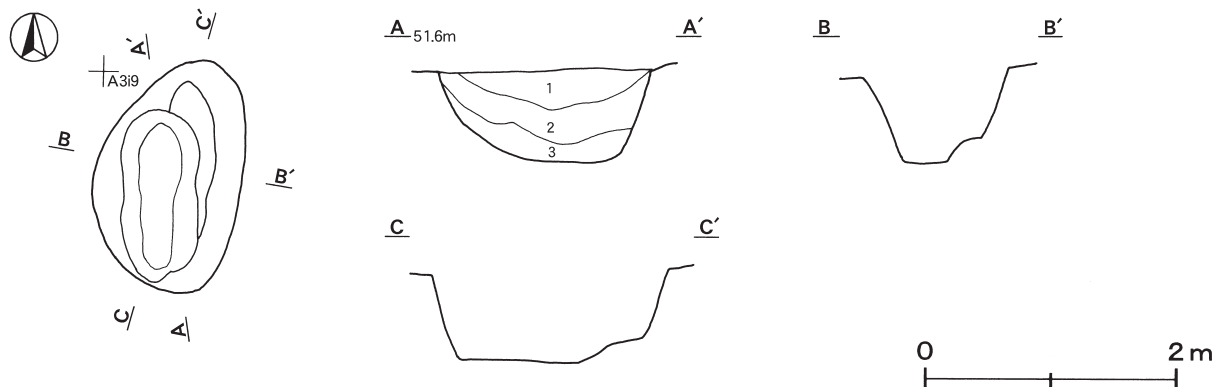
覆土の堆積状況は, 観察から自然堆積と考えられる。



第132図 第3号陥し穴実測図

第4号陥し穴 (S K76) (第133図)

位置 調査Ⅱ区のA 3 i9区で, 標高52mほどの丘陵上の平坦部に位置している。



第133図 第4号陥し穴実測図

規模と形状 長径1.85m，短径1.17m，深さ74cmの長楕円形で，長径方向はN—10°—Eである。底面はほぼ平坦で，壁は長・短径方向ともに外傾して立ち上がっており，壁の一部は階段状に掘削されている。

覆土 3層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 3 褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

所見 時期は，形態および覆土の土質から縄文時代と考えられるが，出土土器がないため時期を明確にできない。第7号陥し穴とほぼ主軸を揃えて南北に並んでいる。

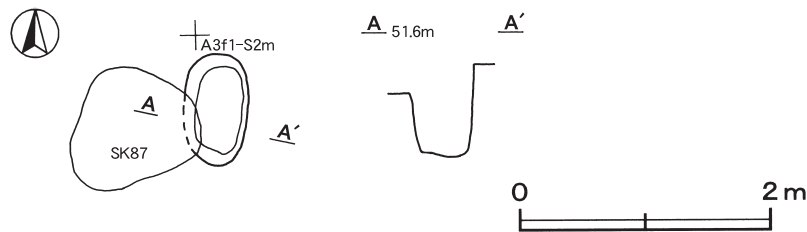
第5号陥し穴（SK87）（第134図）

位置 調査Ⅰ区のA3f1区で，標高52mほどの丘陵上の平坦部に位置している。

重複関係 第87号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.89m，短径0.51m，深さ85cmの楕円形で，長径方向はN—5°—Eである。底面はほぼ平坦で，壁は長・短径方向ともに直立している。

所見 時期は，形態及び覆土の土質から縄文時代と考えられるが，出土土器がないため時期を明確にできない。覆土の堆積状況は，観察から自然堆積と考えられる。



第134図 第5号陥し穴実測図

第6号陥し穴（SK85）（第135図）

位置 調査Ⅱ区のA3g7区で，標高51mほどの丘陵上の平坦部に位置している。

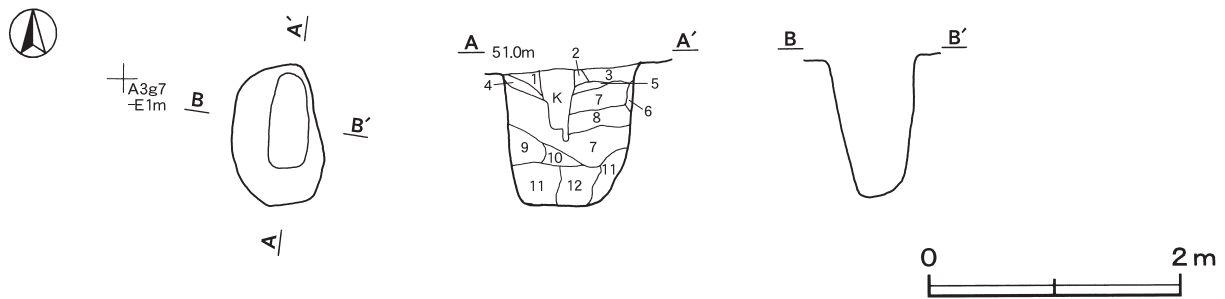
規模と形状 長径1.12m，短径0.80m，深さ110cmの楕円形で，長径方向はN—3°—Eである。底面はほぼ平坦で，壁は長・短径方向ともに直立している。

覆土 12層に分層される。同じ土が交互に堆積していることやローム土が中層に厚く堆積しているなど，不自然な堆積状況であるため，人為堆積と考えられる。なお，6層は壁が崩落したものと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量，鹿沼パミス・赤色スコリア中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 明褐色 | ローム土 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子多量，鹿沼パミス・赤色スコリア微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック少量，鹿沼パミス・赤色スコリア微量 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 12 褐色 | ローム粒子中量，鹿沼パミス・赤色スコリア微量 |
| 6 明褐色 | ローム土 | | |
| 7 黒褐色 | ローム粒子多量，鹿沼パミス・赤色スコリア少量 | | |

所見 時期は，形態及び覆土の土質から縄文時代と考えられるが，出土土器がないため時期を明確にできない。



第135図 第6号陥し穴実測図

第7号陥し穴 (S K88) (第136図)

位置 調査Ⅱ区のA3h9区で、標高52mほどの丘陵上の平坦部に位置している。

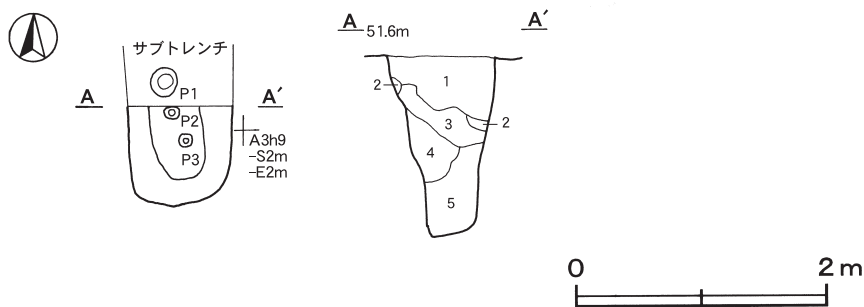
規模と形状 断ち割り調査を行ったため、長径は不明である。短径は0.80mで、深さ138cmの楕円形である。長径方向はN-0°と推測される。壁は長・短径方向ともに下部が直立しており、上部は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦で、小ピットが3か所確認されている。深さはP1・P2が1cm、P3は4cmである。また、西壁には底面から10cmほど上の位置に、深さ10cmの小ピットが斜めに掘削されている。

覆土 5層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。なお、第2層は壁が崩落したものと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス多量、炭化粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック少量、鹿沼パミス・赤色スコリア微量 |
| 2 明褐色 | ローム土 | 5 褐色 | ローム粒子少量、鹿沼パミス微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、鹿沼パミス少量、炭化粒子微量 | | |

所見 時期は、形態及び覆土の土質から縄文時代と考えられるが、出土土器がないため時期を明確にできない。第4号陥し穴とほぼ主軸を揃えて南北に並んでいる。西壁の小ピットは、断ち割り調査を行い土層観察をした結果、植物が腐植したものと考えられ、木の枝などが打ち込まれていたものと推測される。



第136図 第7号陥し穴実測図

第8号陥し穴 (S K120) (第137図)

位置 調査Ⅲ区のD9h7区で、標高36mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

規模と形状 長径2.60m、短径0.82m、深さ111cmの長楕円形で、長径方向はN-3°-Wである。底面はほぼ平坦で、壁は長・短径方向ともに外傾して立ち上がっている。

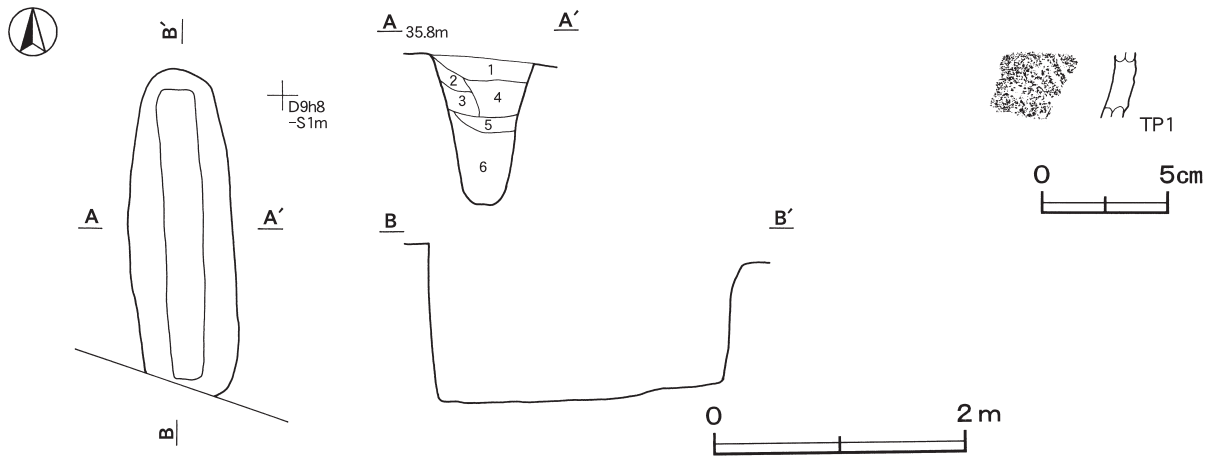
覆土 6層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片2点（深鉢）が覆土中から出土している。

所見 形態及び覆土の土質から縄文時代と考えられる。2点の土器片は色調・胎土・焼成から同一個体のものであり、中期の土器である。器面及び破断面の摩滅がみられることから、流れ込んだものと考えられる。よって本跡の時期は、中期以降と考えられる。



第137図 第8号陥し穴・出土遺物実測図

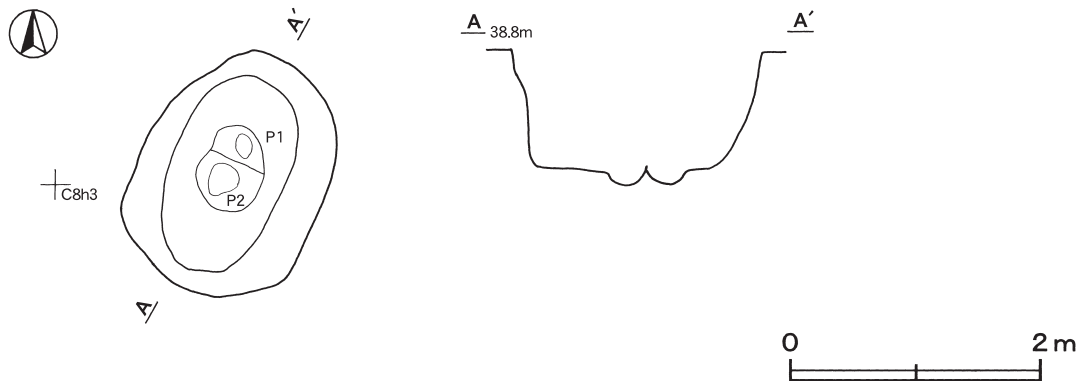
第8号陥し穴出土遺物観察表（第137図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1	縄文土器	深鉢	—	(2.5)	—	長石・石英	橙	普通	沈線により文様施文	覆土中	

第9号陥し穴（S X 2）（第138図）

位置 調査Ⅲ区のC 8 g3区で、標高38mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

規模と形状 長径1.98m、短径1.48m、深さ98cmの楕円形で、長径方向はN-27°-Eである。壁は長・短径方向ともに外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦で、小ピットが2か所確認されている。深さはP1が14cmで、P2が17cmである。



第138図 第9号陥し穴実測図

所見 時期は、形態及び覆土の土質から縄文時代と考えられるが、出土土器がないため時期を明確にできない。
覆土の堆積状況は、観察から自然堆積と考えられる。

第10号陥し穴（S K202）（第139図）

位置 調査V区のC6d4区で、標高47mほどの斜面部に位置している。

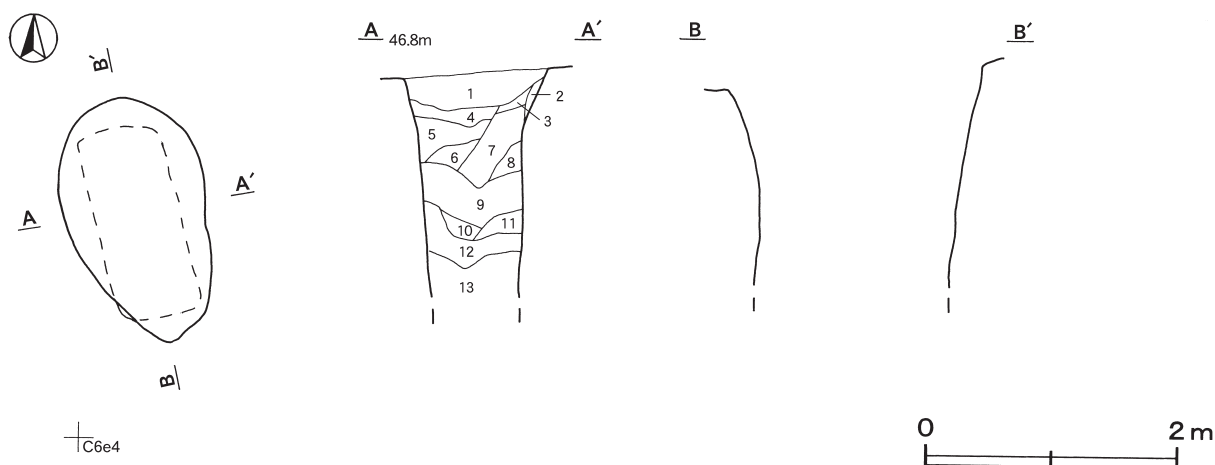
規模と形状 長径1.98m、短径1.17mの長楕円形で、長径方向はN-20°-Wである。深さは180cmまで確認されており、底面までの深さは推定で240cmほどである。壁は長・短径方向ともに直立し、上部で外傾して立ち上がっている。

覆土 13層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子中量
2 褐色	ローム粒子中量	9 暗褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ローム粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子少量
5 暗褐色	ロームブロック微量	12 暗褐色	鹿沼パミス少量，ロームブロック微量
6 暗褐色	ローム粒子少量	13 暗褐色	ローム粒子・鹿沼パミス微量
7 黒褐色	ローム粒子少量		

所見 時期は、形態及び覆土の土質から縄文時代と考えられるが、出土土器がないため時期は明確にできない。
本跡は、鹿沼軽石層直下のハードローム層まで掘り込みが達している。



第139図 第10号陥し穴実測図

第11号陥し穴（S K216）（第140図）

位置 調査V区のB5h9区で、標高50mほどの斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.78m、短径1.11m、深さ185cmの長楕円形で、長径方向はN-18°-Wである。底面はほぼ平坦で、壁は長・短径方向ともに中位がオーバーハングしており、上部は外傾して立ち上がっている。

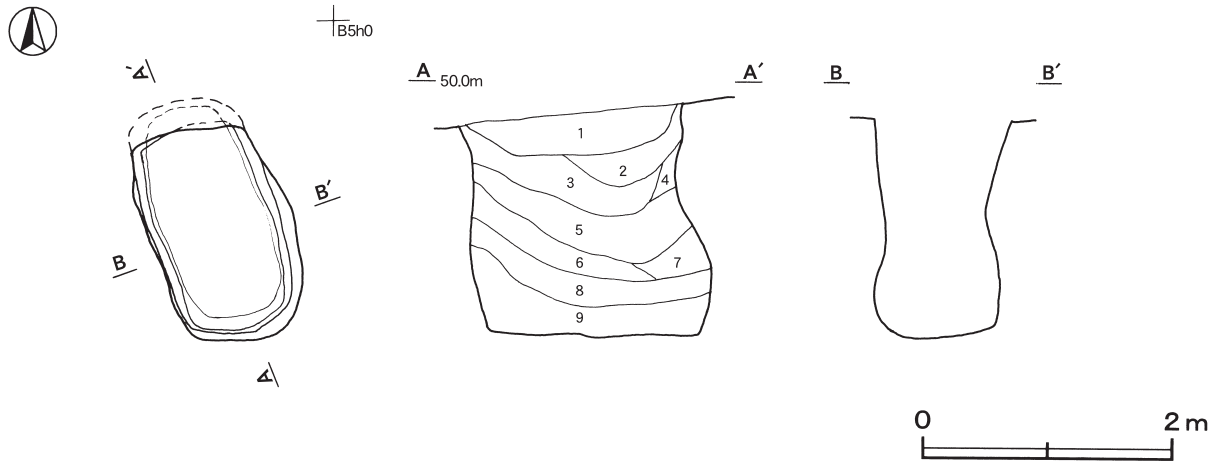
覆土 9層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	6 褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ローム粒子少量	7 黒褐色	鹿沼パミス少量，ローム粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・鹿沼パミス微量	8 黒褐色	ローム粒子・鹿沼パミス少量
4 黒褐色	ロームブロック少量	9 黒褐色	鹿沼パミス微量
5 暗褐色	ローム粒子・鹿沼パミス少量		

所見 時期は、形態及び覆土の土質から縄文時代と考えられるが、出土土器がないため時期は明確にできない。

本跡は、鹿沼軽石層直下のハードローム層まで掘り込みが達している。



第140図 第11号陥し穴実測図

第12号陥し穴（SK223）（第141図）

位置 調査V区のB6i2区で、標高50mほどの斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.90m、短径1.40m、深さ200cmの楕円形で、長径方向はN-60°-Wである。壁は長・短径方向ともに下部が直立しており、上部は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦で、小ピットが3か所確認されている。深さはP1が11cm、P2が15cm、P3が12cmである。

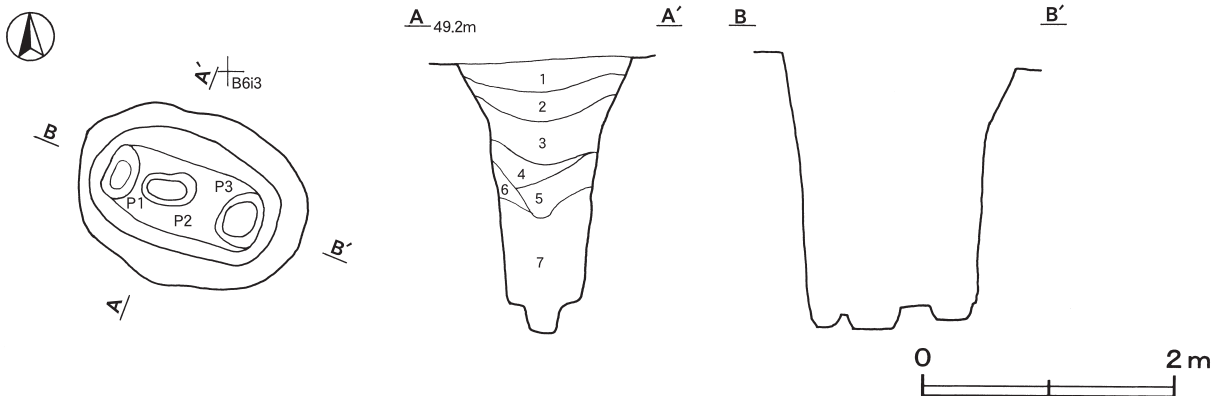
覆土 7層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量 | 5 褐色 ローム粒子中量、鹿沼パミス微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 6 暗褐色 ローム粒子・鹿沼パミス少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量 | 7 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子・鹿沼パミス微量 | |

所見 時期は、形態及び覆土の土質から縄文時代と考えられるが、出土土器がないため時期は明確にできない。

本跡は、鹿沼軽石層直下のハードローム層まで掘り込みが達している。



第141図 第12号陥し穴実測図

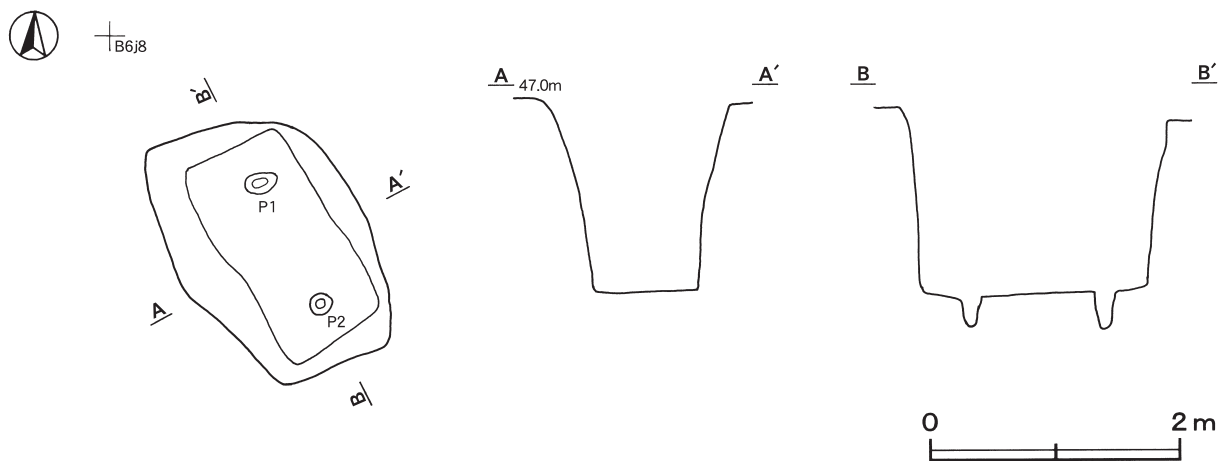
第13号陥し穴（SK294）（第142図）

位置 調査V区のB6j8区で、標高47mほどの斜面部に位置している。

規模と形状 長径2.05m、短径1.55m、深さ154cmの楕円形で、長径方向はN-27°-Wである。壁は長・短径

方向ともにほぼ直立している。底面はほぼ平坦で、小ピットが2か所確認されている。深さはP1が25cm、P2が30cmである。

所見 時期は、形態及び覆土の土質から縄文時代と考えられるが、出土土器がないため時期を明確にできない。覆土の堆積状況は、観察から自然堆積と考えられる。



第142図 第13号陥し穴実測図

表12 縄文時代陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模(m) (長径×短径)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
1	A2d6	N-20°-E	長楕円形	2.30×1.14	76	外傾	平坦	自然	—	
2	A2d6	N-29°-E	長楕円形	2.24×1.30	60	外傾	凹凸	自然	—	
3	B5b3	N-35°-E	長楕円形	2.12×0.88	125	漏斗状	平坦	自然	—	
4	A3i9	N-10°-E	長楕円形	1.85×1.17	74	外傾	平坦	自然	—	
5	A3f1	N-5°-E	楕円形	0.89×0.51	85	直立	平坦	自然	—	本跡→SK87
6	A3g7	N-3°-E	楕円形	1.12×0.80	110	直立	平坦	人為	—	
7	A3h9	[N-0°]	楕円形	(0.80)×0.80	138	漏斗状	平坦	自然	—	土層に杭の痕跡確認
8	D9h7	N-3°-W	長楕円形	2.60×0.82	111	外傾	平坦	自然	縄文土器片(深鉢胴部)	
9	C8g3	N-27°-E	楕円形	1.98×1.48	98	外傾	平坦	自然	—	
10	C6d4	N-20°-W	長楕円形	1.98×1.17	[240]	漏斗状	—	自然	—	
11	B5h9	N-18°-W	長楕円形	1.78×1.11	185	袋状	平坦	自然	—	
12	B6i2	N-60°-W	楕円形	1.90×1.40	200	漏斗状	平坦	自然	—	
13	B6j8	N-27°-W	楕円形	2.05×1.55	154	直立	平坦	自然	—	

3 平安時代の遺構と遺物

平安時代の遺構は、竪穴住居跡25軒、火葬墓1基、土坑5基、不明遺構1基が確認されている。これらの遺構は、調査Ⅲ～Ⅵ区を中心に分布している。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡 (第143・144図)

位置 調査Ⅱ区のB4a5区で、標高52mほどの丘陵上の平坦部に位置している。

重複関係 第83号土坑と第4号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.15m，短軸2.91mの方形で，主軸方向はN-15°-Eである。壁高は36~48cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて全体的によく踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで103cm，袖部幅は105cmである。袖部は棚状施設を一部掘削し，白色粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面から7cm皿状に掘りくぼめて，暗褐色土（竈土層断面図，第4層）を埋め土している。火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外へ28cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

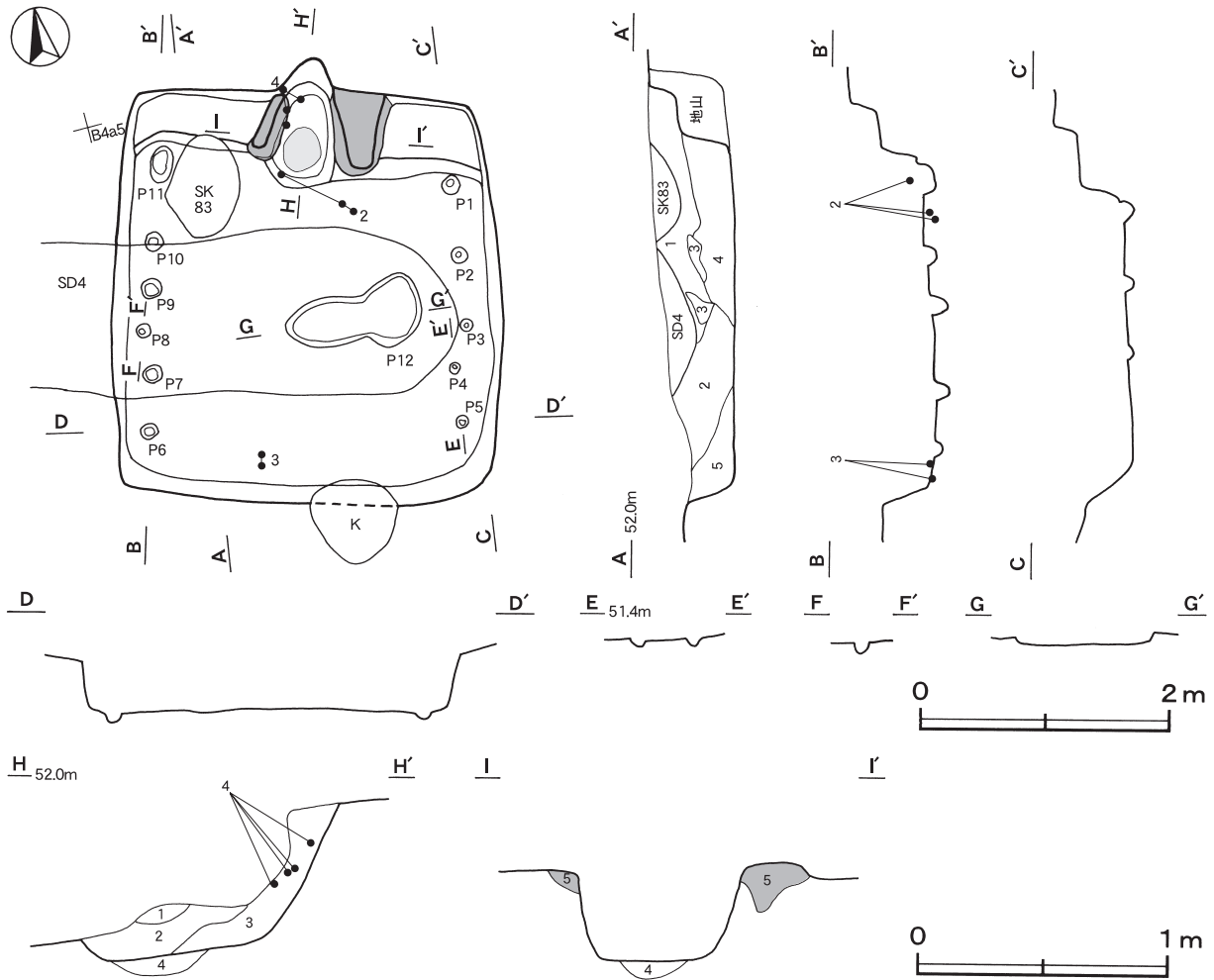
竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 焼土粒子多量，炭化粒子中量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量 | 5 灰白色 砂多量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量 | |

棚状施設 竈の両側に付設されている。壁の外側の地山を掘り込んで，そのまま平坦な使用面が構築されている。遺構確認面から使用面までの深さは25cm，使用面の幅は2.85m，奥行きは0.48mで，床面から使用面までの高さは45cmである。

ピット 12か所。P1~P11は深さ3~12cmで，壁際に並ぶ支柱穴と考えられる。P12は深さ5cmで，底面が平坦な断面皿状のピットであり，性格は不明である。

覆土 5層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。第3



第143図 第1号住居跡実測図

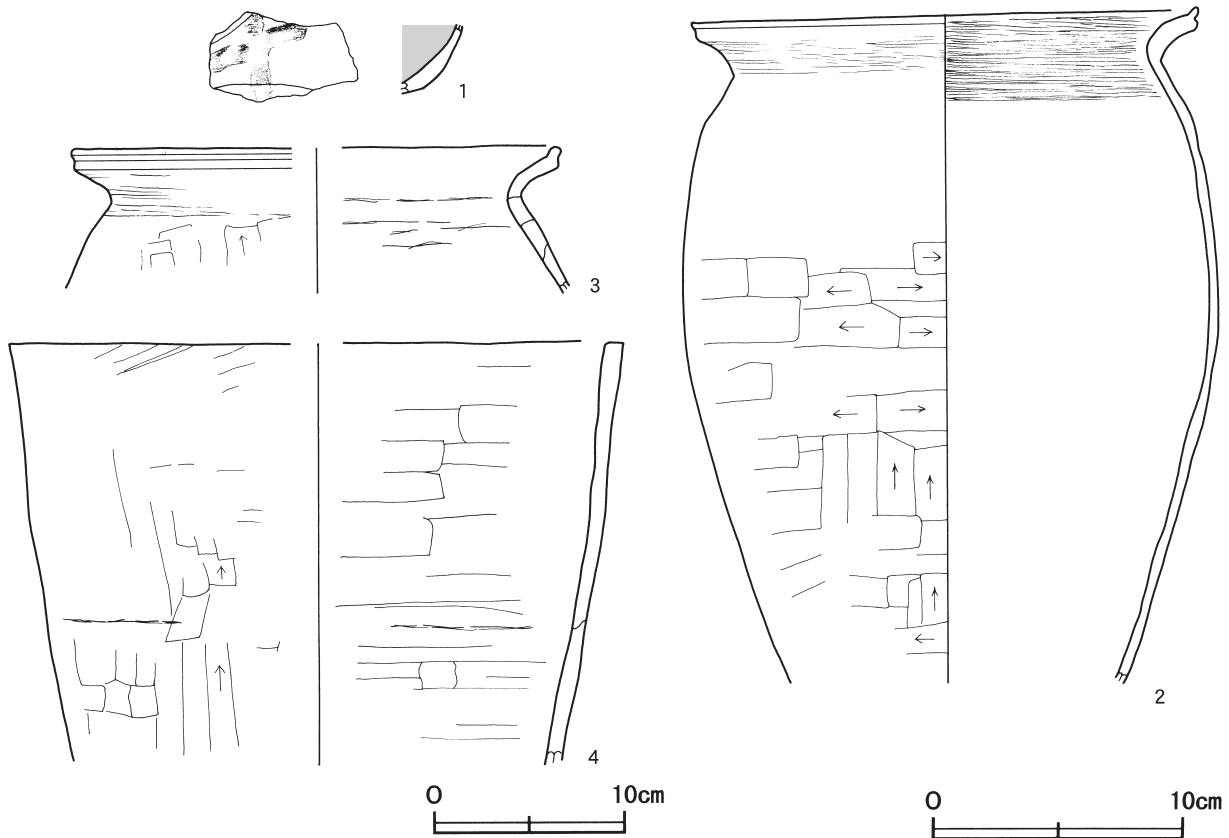
層は焼土層であり、埋没の途中で投棄されたと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量 | 3 赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子多量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| | | 5 明褐色 | ローム土，炭化粒子・鹿沼パミス微量 |

遺物出土状況 土師器片99点（坏2，碗1，甕91，甌5）が出土している。土器の大半は小破片で，中央部から竈前方にかけて多く出土しており，特に竈内から集中して出土している。2は竈前方の床面から出土した破片と，竈覆土下層から出土した破片が接合したものである。4は竈の覆土上層から中層にかけて散在している破片が接合したものである。1は覆土中から出土している。また，小破片で図示することができないが，竈覆土中から土師器碗片が出土している。竈内及び竈前方にかけて出土した土器は，離れた位置から出土した破片が接合しており，廃絶後の窪地に廃棄されたものと考えられる。

所見 廃絶時期は，土師器碗と2から10世紀前葉ないしそれ以前と考えられる。棚状施設は素掘りのタイプである。使用面には，小ピット，周溝，階段などの付属施設は確認されていない。



第144図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表（第144図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏カ	—	(2.7)	—	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書体部 外面「□」
2	土師器	甕	20.0	(26.8)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラケズリ後ナデ 内面ナデ	床面+下層	45%
3	土師器	甕	[19.2]	(5.7)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラケズリ後ナデ 内面ナデ 輪積み痕あり	床面+下層	5%
4	土師器	甌	[32.4]	(22.3)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	明褐色	普通	体部外面ヘラケズリ後ナデ 内面ヘラナデ 輪積み痕あり	竈内上～中層	5%

第2号住居跡（第145～147図）

位置 調査Ⅲ区のD9c1区で、標高38mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

規模と形状 長軸4.74m、短軸3.71mの長方形で、主軸方向はN—3°—Wである。壁高は16～45cmで、ほぼ直立している。

床 凹凸があり、壁際を除いて全体的によく踏み固められている。貼床はロームブロックを含む暗褐色土（覆土土層断面図、第8層）を埋め土して構築されている。掘り方は、中央部を島状に掘り残すように壁近くを一段深く掘り込んでいる。壁溝が、南東コーナーを除いて確認されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。火床から50cmほど上に白色粘土で構築された厚さ20cmほどの天井部が一部遺存している。規模は焚口部から煙道部まで120cm、袖部幅は128cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし、その上に暗褐色土とローム土と赤化した粘土を互層にし、さらに白色粘土を貼り付けて構築されている。内側は火熱により強く赤変している。焼けた粘土が付着した土師器片は、粘土に混ぜた補強材と考えられる。火床部は床面から10cm凹凸に掘りくぼめて、暗褐色土（竈土層断面図、第30～32層）を埋め土している。火床部の中央部やや左寄りに支脚が据えられており、支脚・火床面は強く赤変硬化している。煙道部は壁外へ68cm掘り込まれ、火床部から階段状に立ち上がっている。

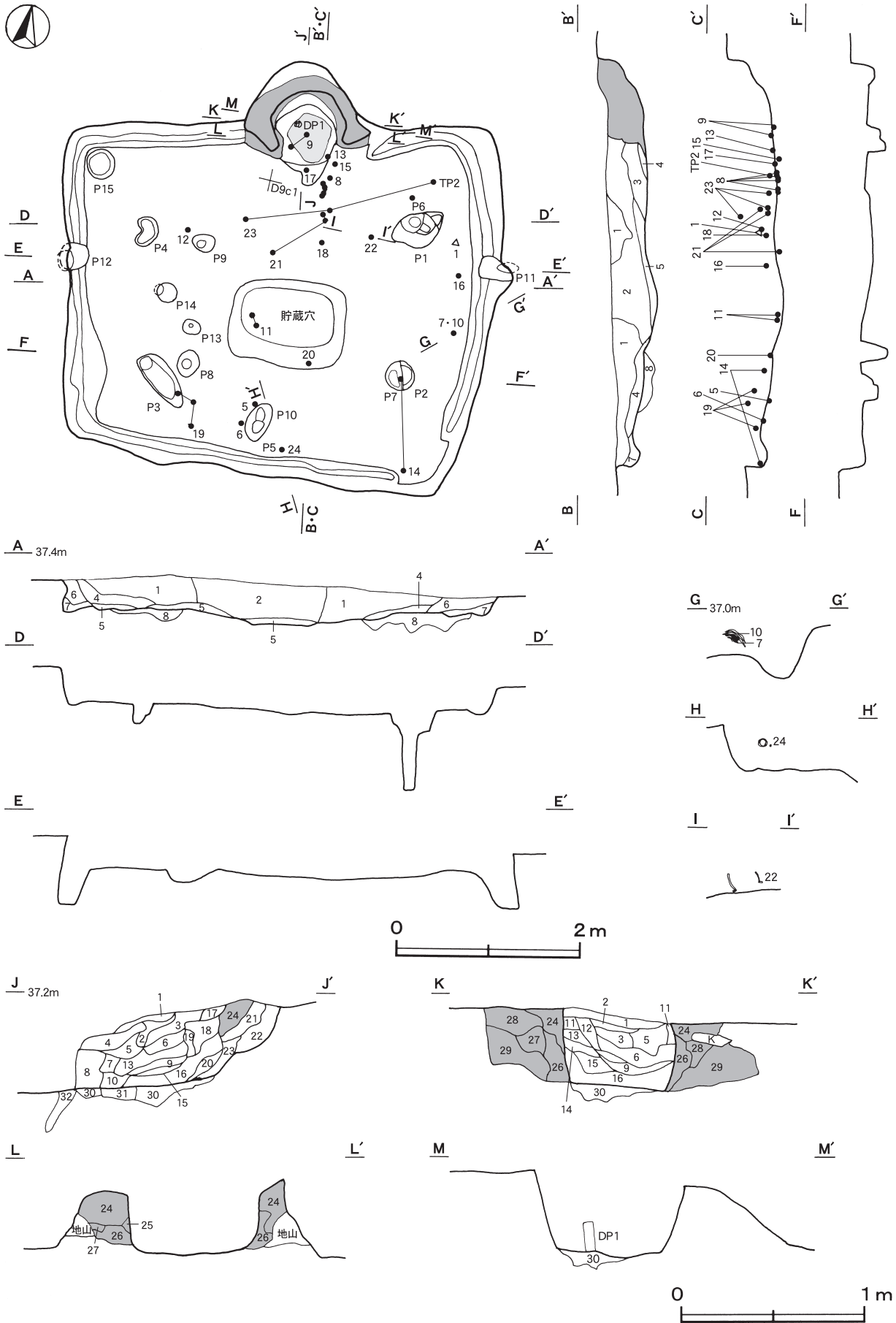
竈土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	17 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック微量
2 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	18 灰褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	19 暗褐色 焼土粒子多量、粘土粒子微量
4 浅黄橙色 焼土粒子・炭化粒子少量	20 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子微量
5 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量	21 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 浅黄橙色 焼土ブロック少量、炭化物微量	22 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
7 黒褐色 焼土ブロック微量	23 暗褐色 焼土ブロック微量
8 暗褐色 焼土粒子中量、粘土ブロック・炭化粒子少量	24 浅黄橙色 焼土ブロック少量
9 暗褐色 焼土粒子多量、粘土ブロック中量、炭化物少量	25 浅黄橙色 暗褐色土ブロック多量
10 赤褐色 焼土粒子多量	26 赤褐色 焼土粒子多量
11 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	27 明褐色 ローム土
12 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量	28 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
13 灰褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	29 明褐色 ローム土
14 浅黄橙色 焼土粒子・炭化粒子微量	30 赤褐色 焼土粒子多量
15 灰褐色 粘土ブロック・焼土粒子多量	31 暗褐色 焼土ブロック少量
16 にぶい赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子中量	32 暗褐色 ローム粒子中量

ピット 15か所。P1～P4は深さ15～24cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ10cmで、南壁際の中央部にあり、P1～P4に対応する出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P9はP1～P4の内側から確認され、深さ20～84cmである。掘り込みの深さにばらつきがあるが、規模と配置から支柱穴と考えられる。P10はP5の内側から確認され、P6～P9に対応する出入り口施設に伴うピットと考えられる。P9が貼床を除去した後に確認されたことから、P6～P10が建て替え前の住居に伴うピットであり、P1～P5が建て替え後のピットと考えられる。P11は深さ42cmで、東壁の中央部を内傾して掘り込んでいる。P12は深さ39cmで、西壁の中央部を内傾して掘り込んでいる。P11・P12は、対になるものと考えられ、屋根部材を支える補助柱穴と考えられる。P13～P15は深さ10cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 中央部に位置している。長軸1.25m、短軸0.95mの隅丸長方形で、深さ15cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっており、断面形は皿状を呈している。覆土は住居全体とともに埋められたと考えられる。

覆土 7層に分層される。ほぼ同じ色調・含有物のよく締まっている土砂が、床面全体の覆土上層まで堆積しており、人為堆積と考えられる。第8層は貼床の構築土である。



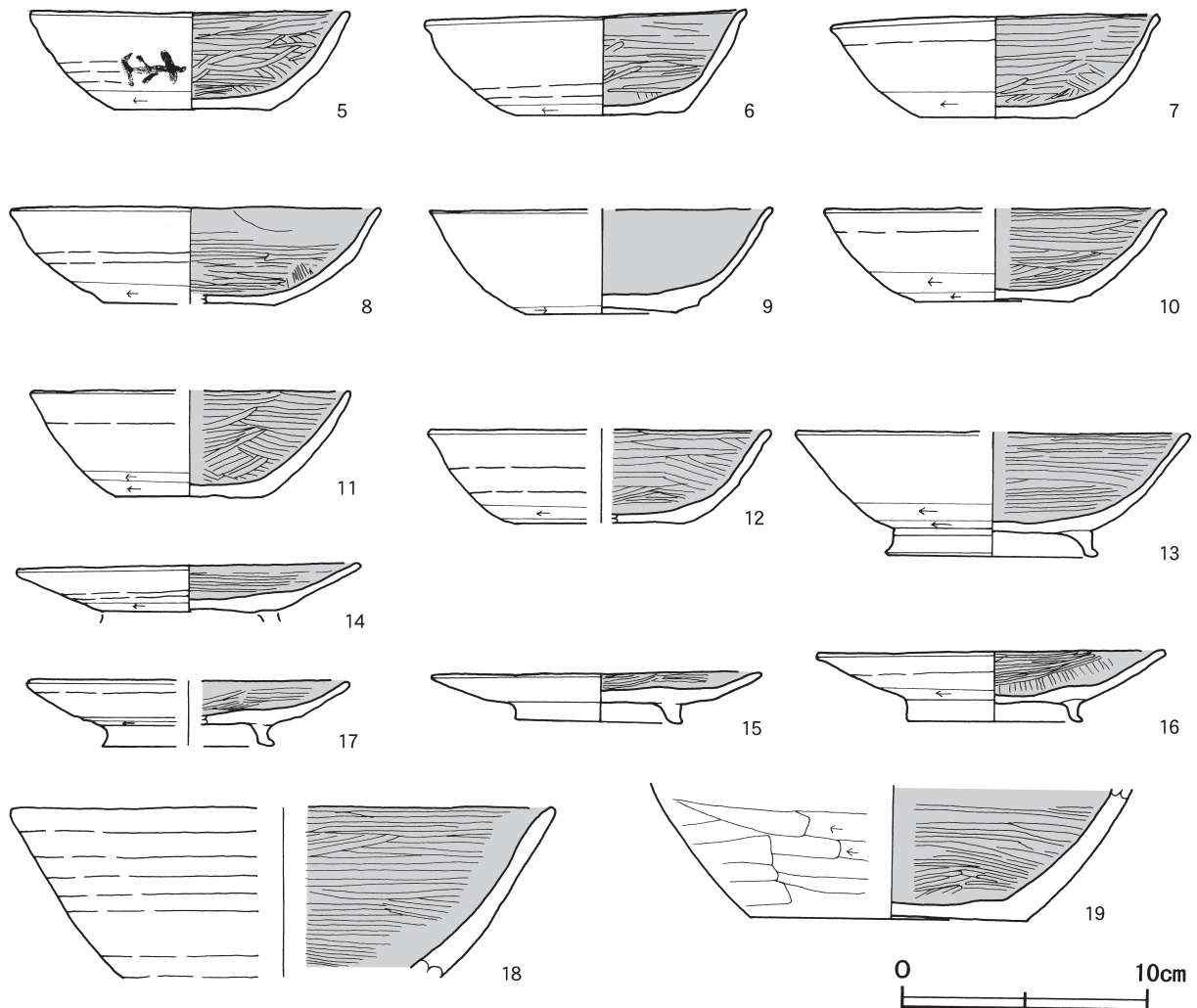
第145图 第2号住居跡実測図

土層解説

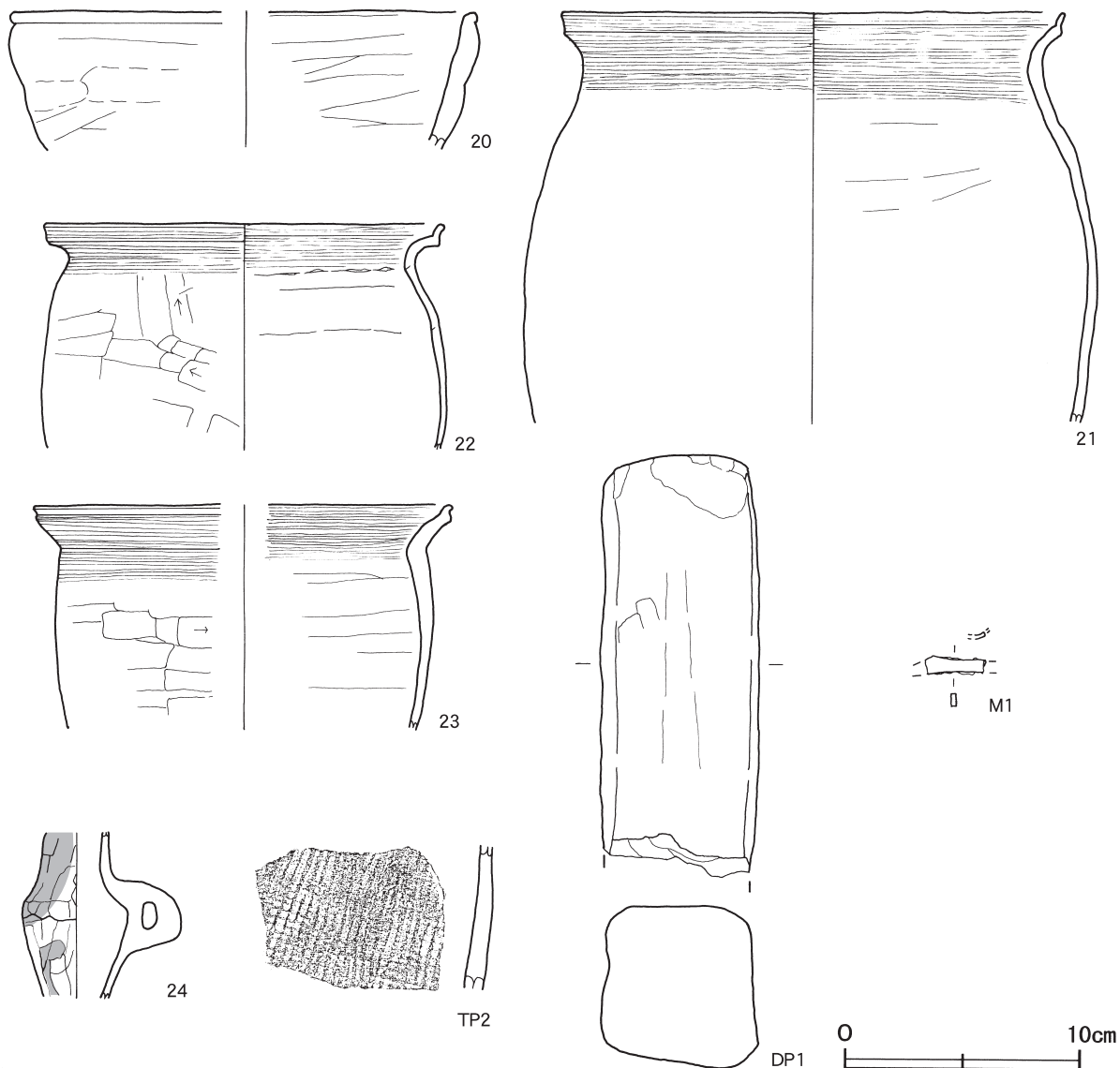
- | | | | |
|---------|---------------------------|---------|---------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック多量, 炭化粒子少量 | 5 暗 褐 色 | ローム粒子多量 |
| 2 黒 褐 色 | 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | 焼土粒子・炭化粒子中量, 粘土粒子少量 | 7 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗 褐 色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 (貼床構築土) |

遺物出土状況 土師器片526点（坏340，碗17，高台付皿34，鉢1，甕133，甌1），須恵器片8点（瓶2，甕6），ミニチュア土器1点，土製品1点（支脚），鉄製品1点（不明）が出土している。多量の土器片が住居全域の覆土下層から床面にかけて出土している。5・6は南壁中央寄りの床面，8・15は竈前方の床面，22は中央部の床面から逆位で出土している。7・10は東壁中央の覆土下層から他の5個体の土師器供膳具と重なって逆位で出土している。14は南東コーナー部と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。16は東壁際の覆土下層，24は南壁中央際の覆土下層から出土している。TP2は北東コーナー寄りの覆土下層，M1は東壁寄りの覆土下層から出土している。覆土下層から床面にかけて出土した遺物は，遺棄されたもの及び廃絶時に一括して廃棄されたものと考えられる。この他に混入した須恵器坏片，陶器片，黒曜石の剥片が出土している。

所見 廃絶時期は，須恵器供膳具が見られず貯蔵具が残ること，及び土師器供膳具の構成から10世紀初頭と考えられる。住居を拡張しており，他の住居より居住期間が長いものと考えられる。また，多量の土師器供膳具が出土しており，集落の中心的な住居の可能性がある。



第146図 第2号住居跡出土遺物実測図(1)



第147図 第2号住居跡出土遺物実測図(2)

第2号住居跡出土遺物観察表 (第146・147図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
5	土師器	坏	12.7	4.1	6.3	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラケズリ	床面	100% 墨書 体部外面横位「□」 PL25
6	土師器	坏	12.8	4.3	6.8	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部ヘラ切り後未調整	床面	100%
7	土師器	坏	13.1	4.2	6.4	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラケズリ	下層	75% 体部外面煤付着
8	土師器	坏	14.7	4.0	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラケズリ	床面	75%
9	土師器	坏	[13.7]	4.3	6.2	長石・石英	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面未調整 底部切り離し後ナデ	竈火床部	40%
10	土師器	坏	[13.7]	3.8	[6.4]	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラケズリ調整	下層	30%
11	土師器	坏	[12.8]	4.3	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラケズリ	貯蔵穴内下層	30%
12	土師器	坏	[13.7]	3.8	6.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラケズリ	下層	15%
13	土師器	碗	[15.8]	5.0	8.6	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部切り離し後高台貼り付け	床面	25% 焼けた粘土付着 竈補強材
14	土師器	高台付皿	13.8	(2.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後未調整 高台接合部に2条の沈線	下層	95%
15	土師器	高台付皿	13.2	2.2	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部切り離し後ナデ 高台貼り付け	床面	80%
16	土師器	高台付皿	14.1	2.9	7.0	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラケズリ 高台貼り付け	下層	50% 体部内・外面が二次火熱により赤変

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
17	土師器	高台付皿	[12.8]	2.6	[6.9]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部切り離し後ナデ 高台貼り付け	床面	30% 体部内・外面が二次火熱により赤変 保存着 口縁端部に粘土付着 竈構材
18	土師器	鉢	[21.8]	(6.9)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土下層	15%
19	土師器	鉢	—	(5.4)	11.3	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面ヘラケズリ 内面ヘラ磨き	床面+下層	10%
20	土師器	鉢カ	[19.6]	(5.8)	—	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内外面強いナデ	床面	5%
21	土師器	甕	21.2	(17.5)	—	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内外面押しぎみの横ナデ	床面+下層+竈内	40%
22	土師器	甕	16.8	(9.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラケズリ後ナデ 内面ナデ 輪積み痕あり	床面	35%
23	土師器	甕	[17.6]	(9.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラケズリ後ナデ 内面ナデ	下層	20%
24	ミニチュア土器	—	—	(7.0)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラケズリ後磨き 把手は体部に貼り付け後ナデながらいびつに整形	下層	80% 体部外面が二次火熱により弱く赤変PL26
TP2	須恵器	甕	—	(6.1)	—	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部外面平行叩き 内面指頭による押しえ痕あり	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1	支脚	(18.0)	6.8	6.9	(1050)	粘土(長石・石英・雲母)	外面ヘラナデ ナデ	火床部設置	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	不明	(2.6)	0.7	0.3	(0.94)	鉄	断面長方形 一端が折り返されている	下層	

第3号住居跡 (第148図)

位置 調査Ⅲ区のD9g4区で、標高37mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

確認状況 遺構確認の段階で削平され、南側は調査区域外に延びている。

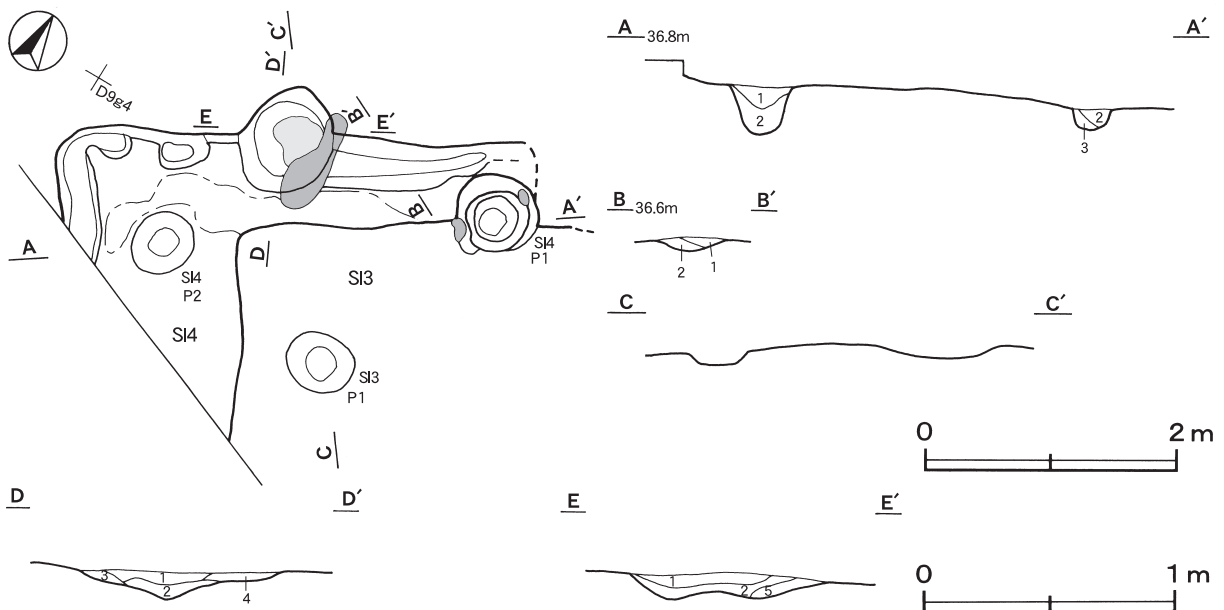
重複関係 第4号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 不明である。主軸方向はN-30°-Wと推定される。

床 硬化面が一部確認されている。

竈 白色粘土と径35cmほどの焼土範囲が、第4号住居跡のP1の上面から確認され、それぞれ竈構築材及び火床面と考えられる。これらの位置から竈は北壁に付設されていたと考えられる。

ピット 1か所。深さは11cmで、竈との位置関係から支柱穴と考えられる。



第148図 第3・4号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片が1点、P1の底面から出土している。

所見 遺存状態が悪く詳細は不明である。土師器片も細片であり時期を明確にできないが、集落の継続期間内に属する10世紀代と考えられる。

第4号住居跡（第148図）

位置 調査Ⅲ区のD9g4区で、標高37mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

確認状況 遺構確認の段階で大半が削平され、南側は調査区域外に延びている。

重複関係 第3号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東西3.82m、南北2.05mが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と考えられ、主軸方向はN-30°-Wと推定される。

床 硬化面が一部確認されている。壁溝が北・西壁下に確認されている。

竈 北壁に付設されている。右袖部の基部と考えられる白色粘土が確認されている。火床部は床面より5～10cm皿状にくぼんでおり、火床面は赤変している。煙道部は壁外へ48cm掘り込まれ、立ち上がりがわずかに確認されている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子少量 | 5 灰褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 3 暗赤灰色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | | |

ピット 2か所。P1・P2は深さ15cm・38cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。

P1・P2土層解説（各ピット共通）

- | | | | |
|-------|----------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 明褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | | |

覆土 2層に分層される。覆土が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|------|--------------|-------|----------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
|------|--------------|-------|----------------|

遺物出土状況 土師器片10点（坏3、甕7）が、竈火床部とP2及び壁溝内から出土している。この他に混入した陶器片1点、磁器片1点が出土している。

所見 遺存状態が悪く詳細は不明である。土師器片も細片であり時期を明確にできないが、集落の継続期間内に属する10世紀代と考えられる。

第5号住居跡（第149・150図）

位置 調査Ⅲ区のD8a5区で、標高38mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

規模と形状 長軸3.54m、短軸3.08mの方形で、主軸方向はN-16°-Eである。壁高は29～38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、壁際を除いて全体的に踏み固められている。壁溝が、北壁下を除いて確認されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。袖部は住居の内部に延びておらず、竈は北壁ラインから外側に粘土で構築されていたと推測される。規模は焚口部から煙道部まで102cm、焚口部幅65cmである。火床部から出土している焼けた粘土が付着した土師器片は、白色粘土に混ぜられた補強材と考えられる。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変している。煙道部は壁外へ30cm掘り込まれ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。煙道部及び火床部の壁面には、白色粘土が厚さ8～15cm貼り付けられており、赤変している。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子多量 |
| 3 灰褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 赤褐色 砂多量 |

ピット 7か所。P 1～P 3は深さ12～18cmで、東西壁際で対になるものと考えられ、屋根部材を支える補助柱穴と考えられる。P 4～P 7は深さ21～36cmで、性格は不明である。

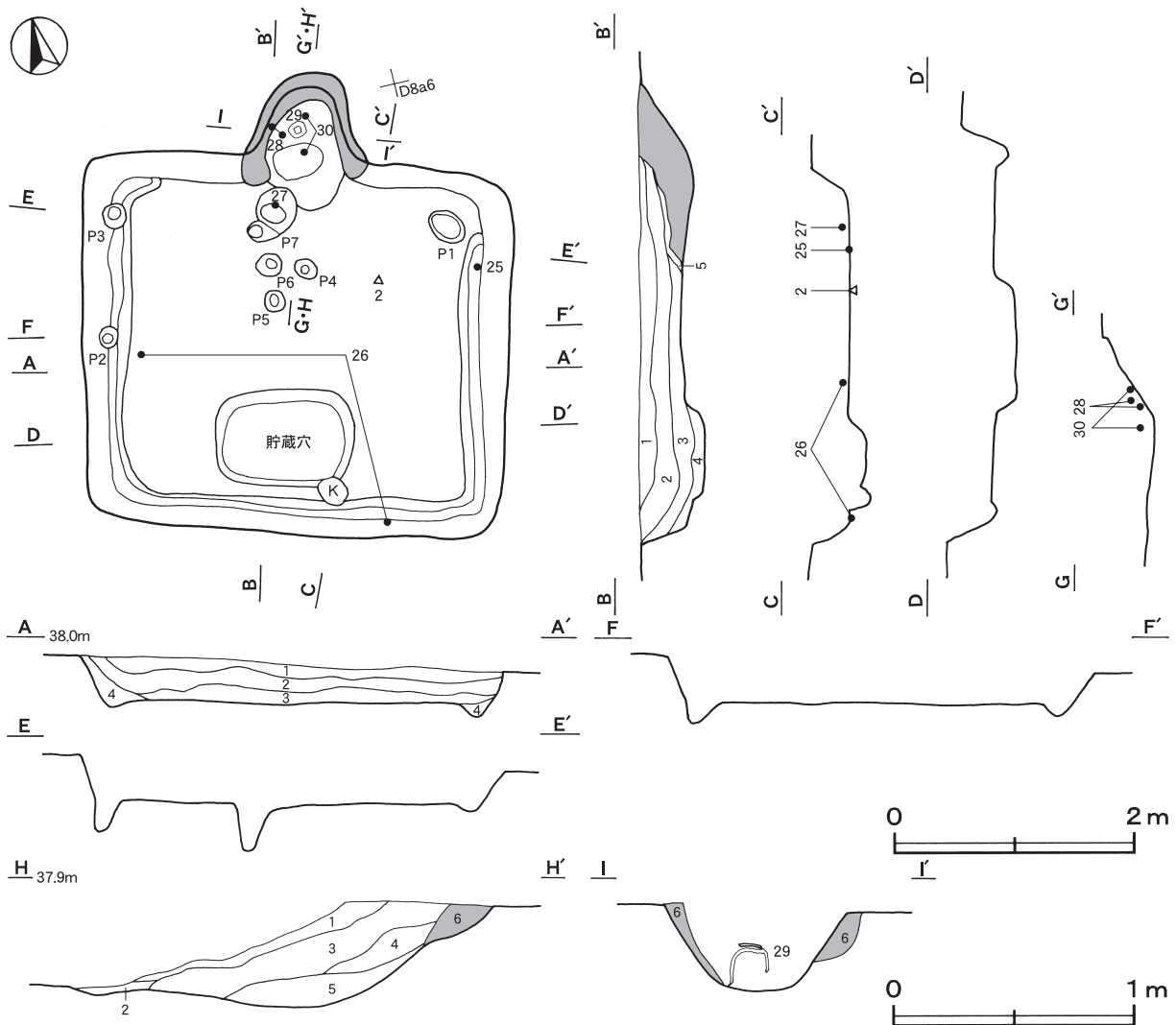
貯蔵穴 南壁寄りの中央部に位置している。長軸115cm, 短軸80cmの隅丸方形で、深さは17cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっており、断面形は皿状を呈している。覆土は周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

覆土 5層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 明褐色 ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | |

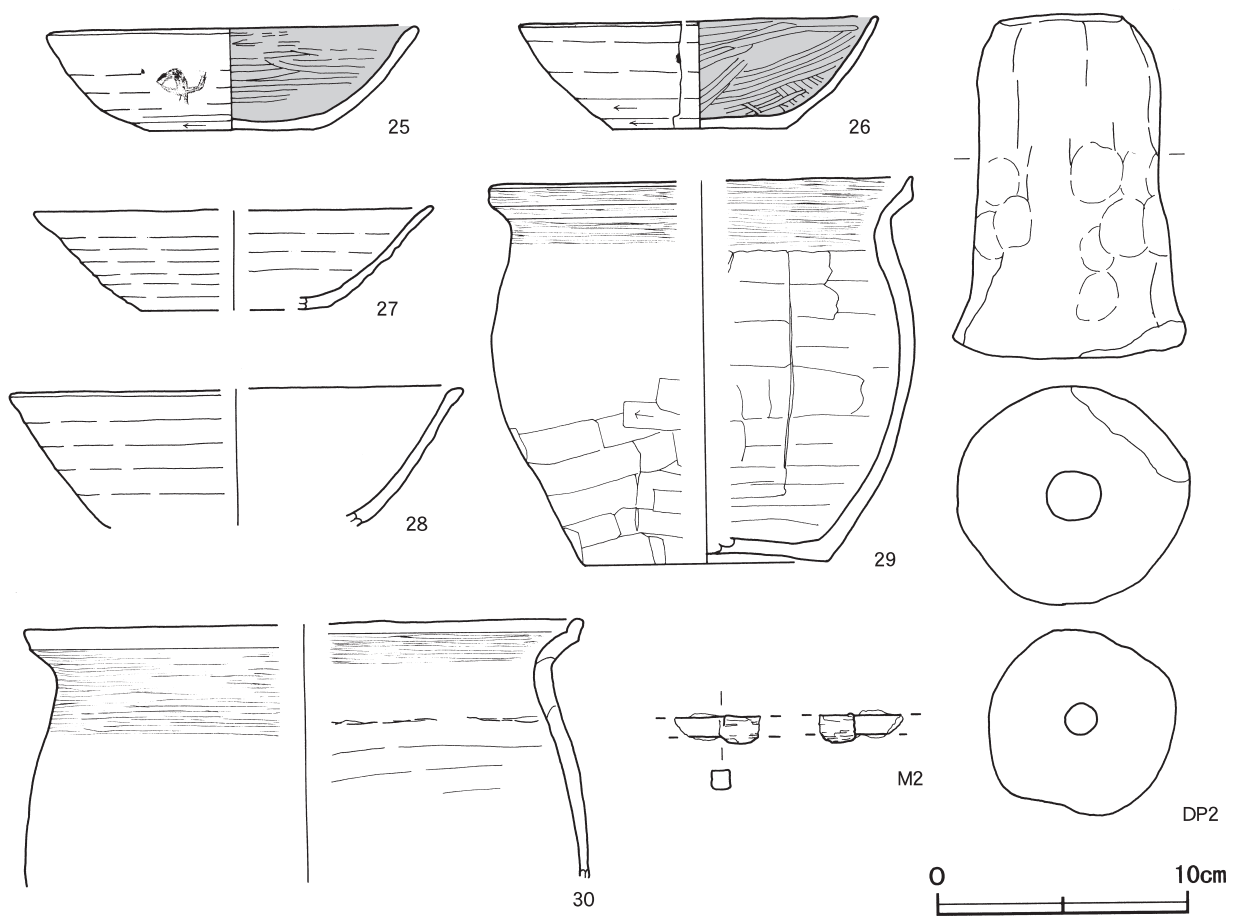
遺物出土状況 土器器片296点(坏34, 椀10, 鉢2, 甕類250), 須恵器片1点(甕), 土製品1点(支脚), 鉄製品1点(刀子)が出土している。土器の大半は小破片で、住居全域から散在して出土しており、特に竈内から集中して出土している。29は火床面よりやや煙道部寄りの位置で、焼土層である第5層中から逆位で出土し



第149図 第5号住居跡実測図

ている。DP2は竈の覆土中から出土している。M2は中央部の床面から出土している。29・DP2・M2は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。26は南壁中央の壁溝の底面と西壁中央際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。25は北東コーナー寄りの壁溝の底面から出土している。壁際及び中央部から出土した土器は、離れた位置から出土した破片が接合した26のように廃絶後の窪地に廃棄されたもの、又は、器面や破断面が摩滅した須恵器片のように流入したものと考えられる。

所見 廃絶時期は、覆土下層から出土した土器及び須恵器が伴わないことから10世紀前葉ないしそれ以前と考えられる。自然礫が南壁寄りの床面から出土しており、火熱により赤変していることから、竈構築材と考えられる。完形の支脚が竈の覆土中から出土していることや、天井部が自然に崩落した様相も無いことから、竈を廃絶時に意図的に壊して、構築材を廃棄していったものと推測される。29は二次火熱による赤変及び煤の付着が見られないことから、竈を壊した後に意図的に遺棄されたものと考えられる。



第150図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表（第150図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
25	土師器	坏	14.5	4.1	6.5	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	褐	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラケズリ	壁溝	100% 墨書 体部外面「□」PL25
26	土師器	坏	14.2	4.5	6.8	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラケズリ	壁溝+下層	50% 墨痕 体部外面
27	土師器	坏	[15.6]	3.9	[7.6]	石英・雲母	明褐	普通	ロクロナデ 内面未調整	下層	20% 体部内・外面が二次火熱により赤変・剥落 煤・粘土付着
28	土師器	坏	[17.8]	(5.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	ロクロナデ 内面未調整	竈下層	20% 体部内・外面が二次火熱により赤変・剥落

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
29	土師器	甕	[16.6]	15.2	9.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラケズリ後ナデ 内面ヘラナデ 輪積み痕あり	火床部	40%
30	土師器	甕	[22.0]	(10.3)	—	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ 内面輪積み痕あり	竈下層	10%

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP2	支脚	13.6	9.2	4.9	1000	粘土(長石・石英・雲母)	指頭による整形 外面ナデ	竈覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	刀子	(3.3)	0.8	0.7	(4.18)	鉄	茎部に木質遺存	床面	

第6号住居跡 (第151・152図)

位置 調査Ⅲ区のD 8 d5区で、標高38mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

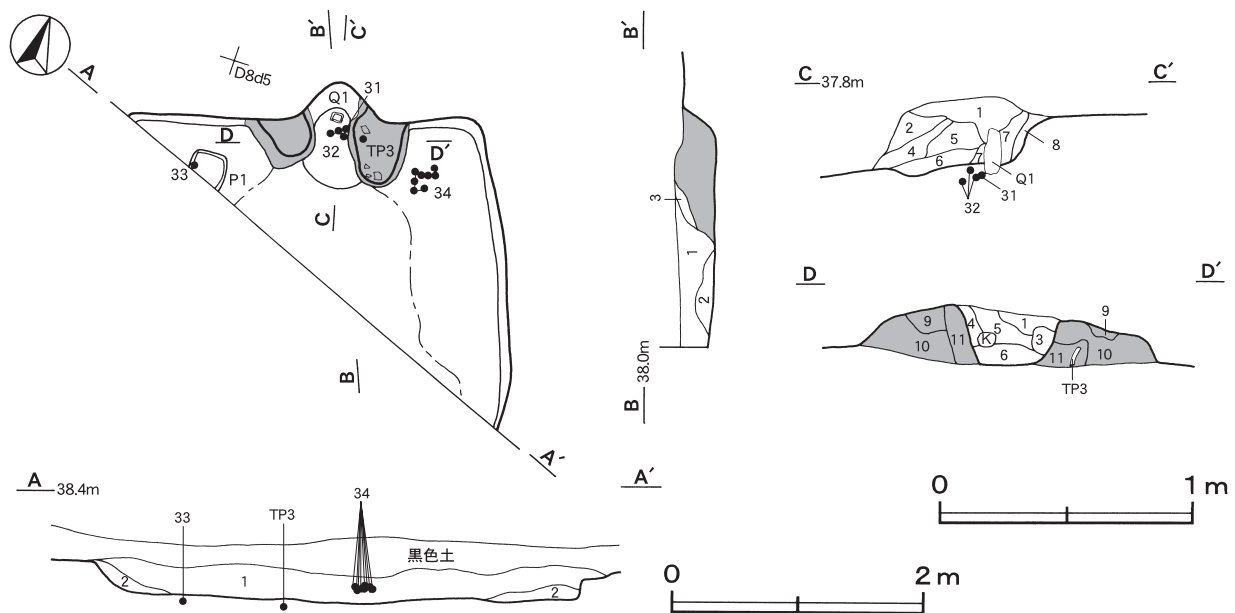
規模と形状 南西側が調査区域外に延びており、東西2.80m、南北2.45mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と考えられ、主軸方向はN-15°-Wと考えられる。壁高は15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められているものと考えられる。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで84cm、袖部幅は120cmである。袖部は白色粘土の中に土師器片・須恵器片を補強材として混ぜて、床面の上に盛り上げて構築されている。袖部の内側は火熱により赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は焼土粒子・炭化粒子が見られるだけである。火床部の煙道部寄りに、自然礫の支脚が据えられており、全面が強く赤変し、斑点状に黒変している。煙道部は壁外へ24cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1 灰褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量 | 7 暗赤褐色 焼土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子微量 | 8 赤褐色 焼土粒子多量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック微量 | 9 黄橙色 砂多量, 暗褐色土ブロック中量 |
| 4 暗褐色 粘土粒子少量 | 10 灰白色 砂多量 |
| 5 暗褐色 粘土ブロック中量 | 11 暗赤褐色 砂多量 |
| 6 黄橙色 砂多量 | |



第151図 第6号住居跡実測図

ピット 1か所。深さ15cmで、北壁寄りの位置にあり、性格は不明である。

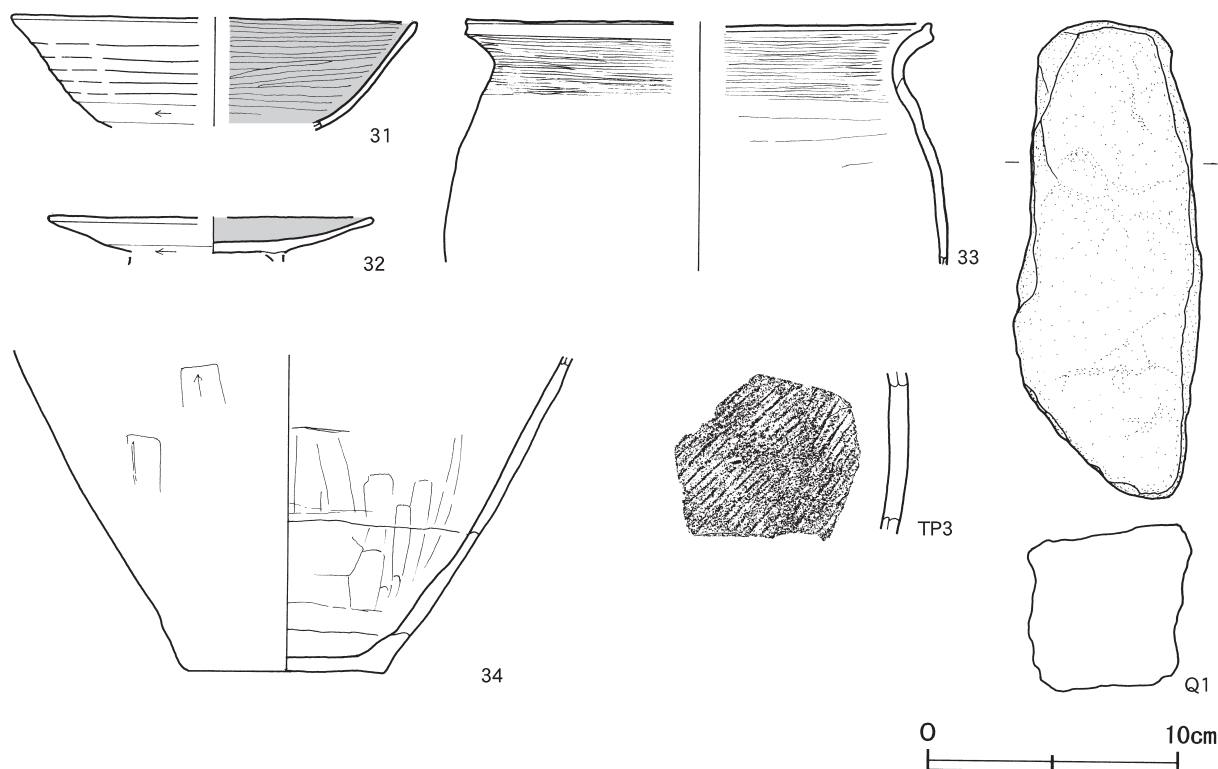
覆土 3層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片81点（坏13，高台付皿5，甕類63），須恵器片1点（甕），石製品1点（支脚）が出土している。土器の大半は小破片で、竈内から多く出土している。31・32と小破片で図示できないが土師器碗が、竈火床部から出土している。34は竈脇の覆土下層から潰れた状態で出土している。覆土下層から出土した土器は、廃絶後の窪地に廃棄されたものや流入したのと考えられる。32は全面が強く赤変し著しく剥落しており、TP3とともに粘土に混ぜられた竈補強材と考えられ、構築時のものである。

所見 廃絶時期は、出土土器及び須恵器が伴わないことから10世紀前葉と考えられる。



第152図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表（第152図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
31	土師器	坏	[15.9]	(4.4)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	火床部	15%
32	土師器	高台付皿	[12.8]	(1.4)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラ削り	火床部	50% 体部全面二次火熱により赤変・剥落 補強材
33	土師器	甕	[18.4]	(9.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ	P1上層	5%
34	土師器	甕	—	(12.1)	7.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ 体部と底部の接合部に輪積み痕あり	下層	20%
TP3	須恵器	甕	—	(5.4)	—	長石・石英	明褐	普通	外面平行叩き 内面指頭による押さえ	竈右袖部補強材	二次火熱痕補強材

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	支脚	18.8	7.5	6.6	1060	花崗岩	自然礫 全面赤変 礫面剥落 端部粘土付着	火床部設置	

第7号住居跡（第153・154図）

位置 調査Ⅲ区のD8b2区で、標高38mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

重複関係 第131号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.15m、短軸2.87mの方形で、主軸方向はN-105°-Eである。壁高は26~32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 凹凸があり、壁際を除いて全体的によく踏み固められており、特に竈前方が硬化している。壁溝が全周している。

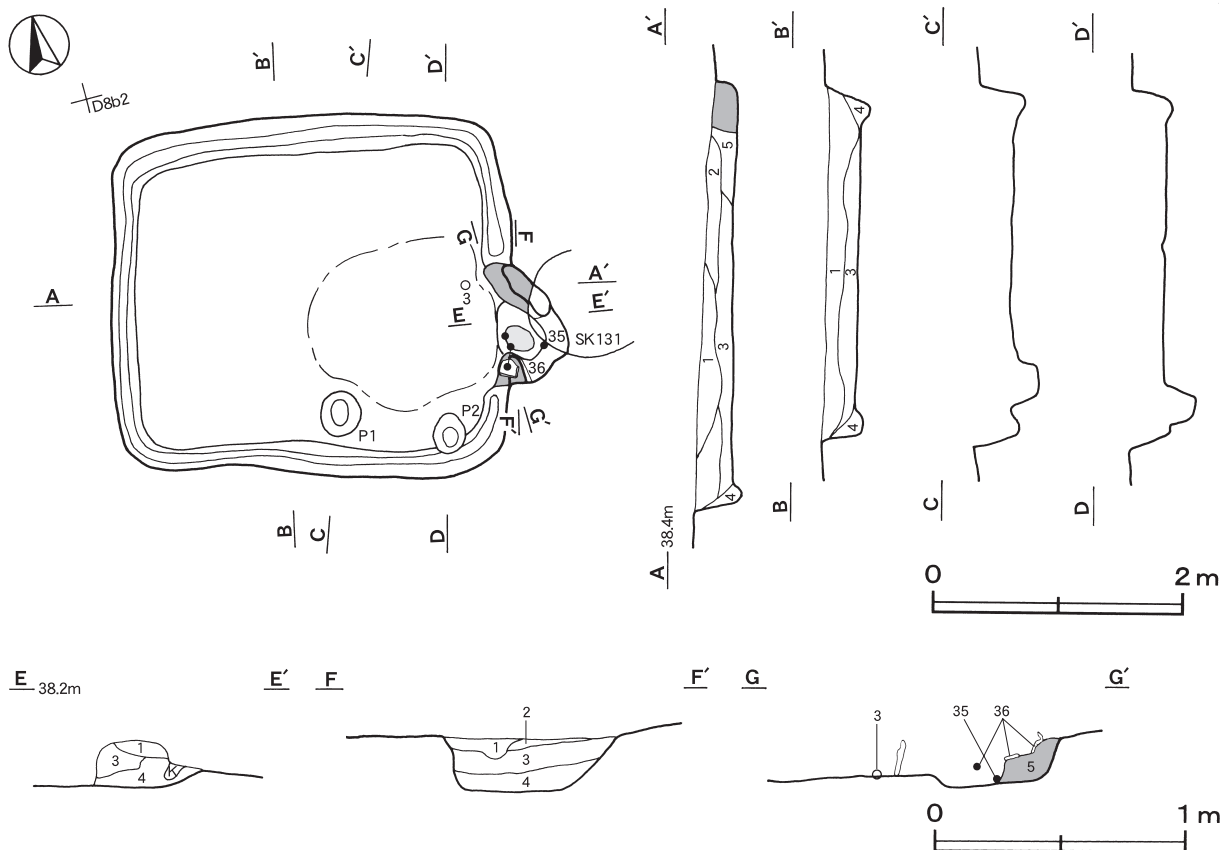
竈 東壁のやや南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで48cm、袖部幅は105cmである。袖部は床面の上に白色粘土を盛り上げて構築されており、右袖部には土師器甕が袖材として転用されている。袖部の内側は火熱により赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。火床部中央の煙道部よりの位置に、土師器坏が支脚に転用されており、火熱により赤変し器面が剥落している。煙道部は壁外へ40cm掘り込まれており、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量，ロームブロック炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 焼土ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック少量 | 5 灰褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 3 灰褐色 | 粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量 | | |

ピット 2か所。P1・P2は深さ23cm・20cmで、南壁際にある。規則性もなく性格は不明である。

覆土 5層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入しており、自然堆積と考えられる。



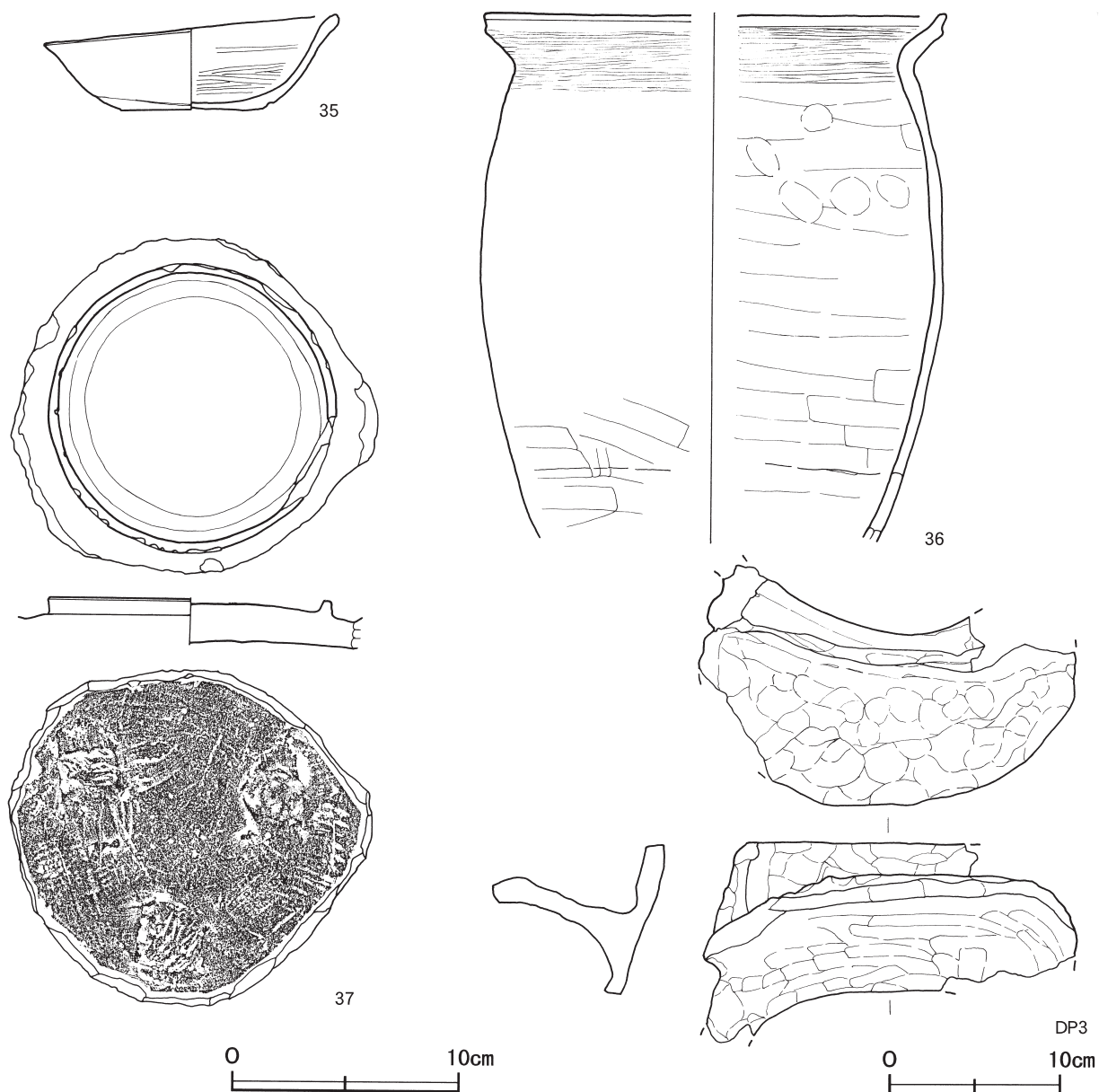
第153図 第7号住居跡実測図

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 黒 褐 色 焼土ブロック中量, ロームブロック微量 | 4 褐 色 ローム粒子中量 |
| 2 黒 色 粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 黒 褐 色 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片144点（坏21, 椀3, 高台付皿1, 甕類118, 甑1）, 須恵器片6点（坏1, 甕4, 円面硯1）, 土製品1点（置き竈）が出土している。土器の大半は小破片で, 中央部と竈前方から多く出土しており, 特に竈内に集中して出土している。DP3は竈前方の床面から出土しており, 破損品を廃絶時にそのまま遺棄したものと考えられる。37は覆土中から出土している。須恵器甕片は覆土下層から出土しており, 破断面が摩滅していない比較的大きな破片で, 廃棄されたものと考えられる。覆土下層から出土した遺物は, 廃絶後の窪地に廃棄されたもの, 又は, 器面や破断面が摩滅した須恵器坏片のように流入したものと考えられる。

所見 廃絶時期は, 出土土器及び須恵器供膳具が見られず貯蔵具が残ることから10世紀初頭ないしそれ以前と考えられる。



第154図 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表 (第154図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
35	土師器	坏	12.9	4.2	6.2	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端未調整 内面ヘラ磨き 底部切り離し後未調整	竈火床部	80% 支脚転用 体部内・外面二次火熱痕
36	土師器	甕	[20.2]	(23.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラケズリ後ナデ 内面ヘラナデ	竈右袖部内	35% 竈芯材転用 体部外面二次火熱痕
37	須恵器	円面硯	—	(2.1)	—	長石・石英	青灰	普通	硯面部 内境径12.0cm 縁破断面一部残存 硯面部裏側に焼成前の線状の刻みがある 方形の剥離痕あり 脚接合部カ	覆土中	20% PL26

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP3	置き竈	(22.2)	(14.4)	(11.9)	(890)	粘土(長石・雲母)	体部内・外面ヘラナデ 焚口部上位に底貼付 底内・外面指頭による整形 端部ナデによって平滑 内面煤付着	床面	

第8号住居跡 (第155・156図)

位置 調査IV区のC8d1区で、斜面部から裾部へ移行する位置に広がっている黒色土帯に位置している。

規模と形状 長軸3.15m, 短軸2.91mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は32~49cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部より西半分がよく踏み固められており、東壁側は軟弱である。

竈 北壁のほぼ中央部に棚状施設と一体化しており、白色粘土を充填して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで67cm, 焚口部前方は、床面からわずかにくぼんでいる。袖部は花崗岩の自然礫を白色粘土に埋め込み袖材としている。袖材間は43cmで、両袖材とも全面が赤変しており、特に火床部側の礫面が強く赤変して部分的に剥落している。右袖部の袖材と粘土の間に須恵器甕の体部片が挟まれており、補強材として転用されたものである。火床部は床面から6cm皿状に掘りくぼめて、暗褐色土(竈土層断面図, 第7層)を埋め土している。火床面は火熱により赤変硬化している。火床部中央の煙道部寄りの位置に、自然礫の支脚が据えられ、上端に土師器甕の底部片が、逆位で置かれている。支脚・甕の底部片は全面が強く赤変し、支脚は斑点状に黒変も見られる。煙道部は壁外へ49cm掘り込まれ、火床部からほぼ直立して立ちあがっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子微量 | 7 赤褐色 焼土粒子多量 |
| 2 灰褐色 焼土ブロック微量 | 8 灰褐色 砂多量(棚状施設) |
| 3 黄橙色 砂多量(粘土) | 9 暗赤褐色 炭化粒子・砂多量(棚状施設) |
| 4 灰褐色 焼土ブロック少量 | 10 黄橙色 砂多量(棚状施設) |
| 5 灰褐色 焼土ブロック中量, 粘土粒子少量 | 11 赤褐色 焼土ブロック多量 |
| 6 暗赤褐色 焼土粒子多量 | |

棚状施設 竈の両側に付設されている。壁の外側の地山である黒色土を階段状に粗掘りして掘り方を設けてから、白色粘土を2~48cm充填して平坦な使用面が構築されている。遺構確認面と使用面の高さは同じである。使用面の幅は2.27m, 奥行き0.62mの長方形で、床面から使用面までの高さは44cmである。

ピット 2か所。P1・P2は深さ35cm・17cmで、東壁際にある。規則性もなく性格不明である。

貯蔵穴 西壁寄りの中央部に位置している。長径1.36m, 短径0.77mの楕円形で、深さは55cmである。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立して立ち上がっており、断面形は箱状を呈している。覆土は周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

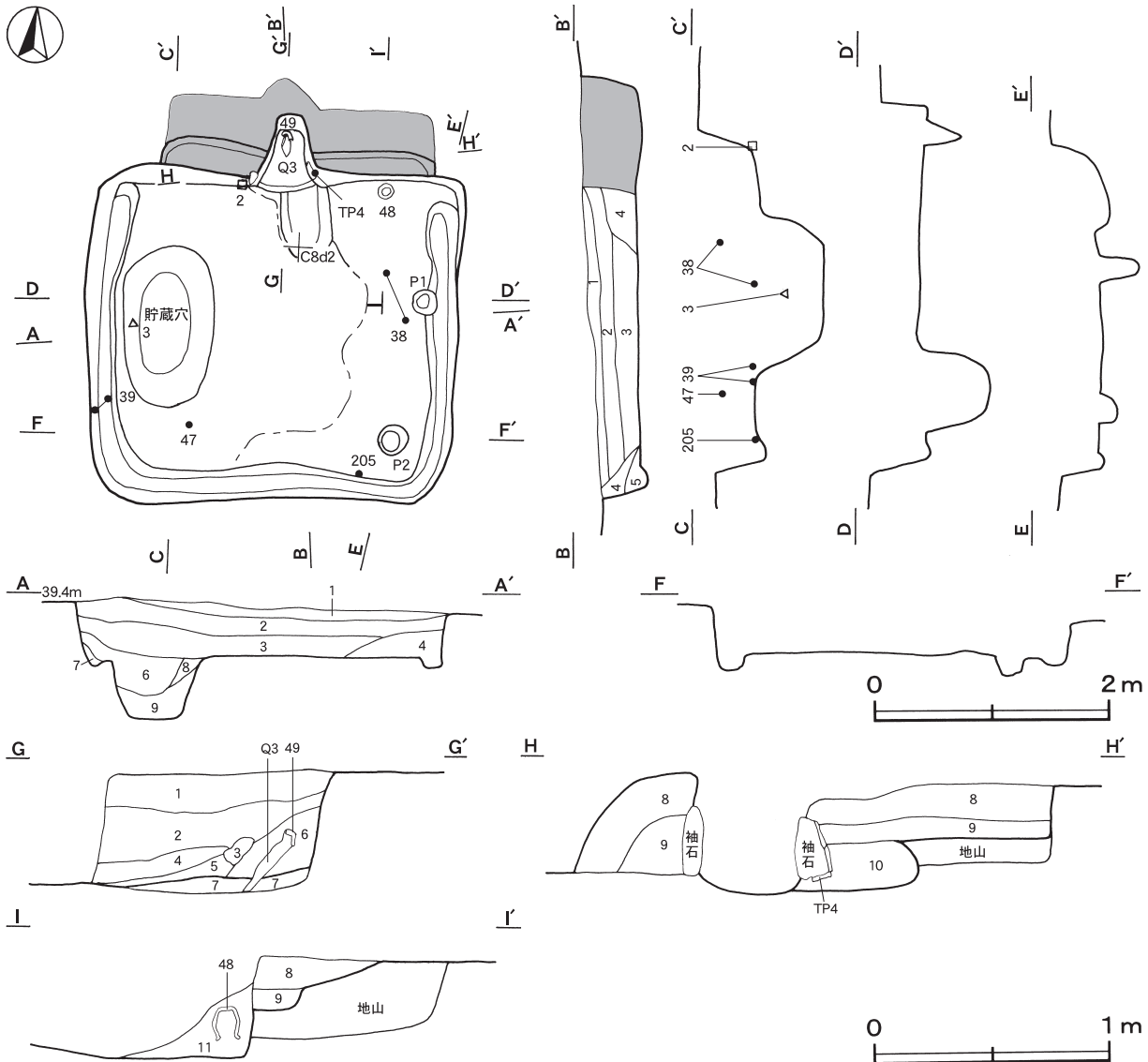
覆土 9層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

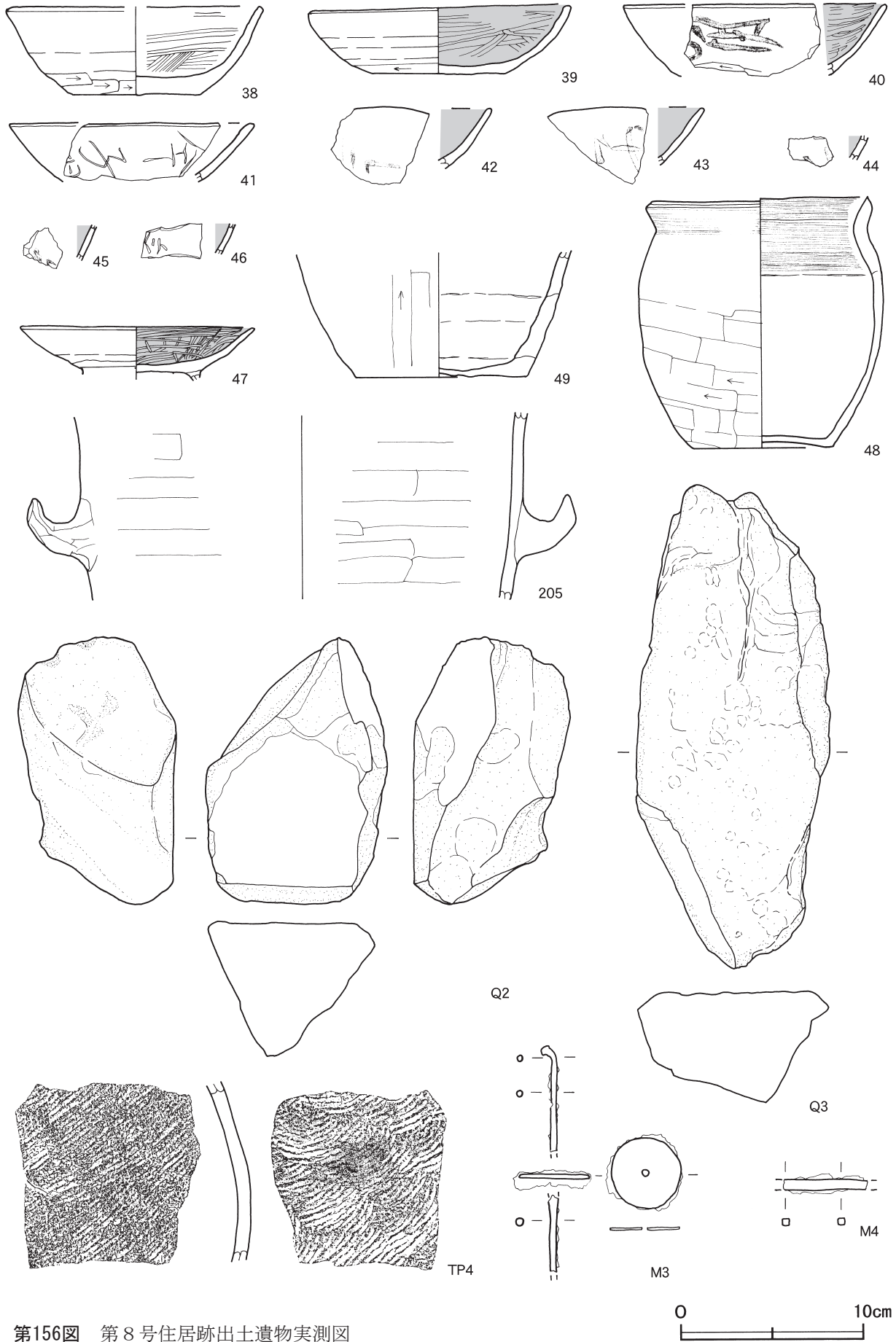
- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 褐色 ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 7 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 9 褐色 ローム粒子多量 |
| 5 暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片817点（坏309， 椀18， 鉢4， 甕・甑類486）， 須恵器片23点（甕）， 石製品2点（砥石1， 支脚1）， 鉄製品2点（紡錘車1， 不明1）が出土している。土器の大半は小破片で， 全域に散在して出土している。48は竈を挟んで右側の棚状施設の前方に堆積している焼土層中から逆位で出土している。Q2は竈脇の床面から出土している。48・Q2は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。38は東壁寄りの覆土下層と床面の破片が接合したものである。39は南西コーナー寄りの壁溝内に散在している破片が接合したものである。205は南東コーナー部の床面から出土している。M3は貯蔵穴の覆土上層から出土している。40～46・M4は覆土中から出土している。壁際や貯蔵穴から出土した遺物は， 離れた位置から出土した破片が接合しており， 廃絶後の窪地に廃棄されたものと考えられる。また， 器面や破断面が摩滅している47・205や覆土中から出土した須恵器甕片は， 流入したものと考えられる。また， 竈構築材に転用されている須恵器甕片は構築時のものである。

所見 廃絶時期は， 壁寄りの位置から出土した土器及び須恵器が伴わないことから10世紀前葉ないしそれ以前と考えられる。棚状施設は充填タイプである。使用面には， 小ピット， 周溝， 階段などの付属施設は確認されていない。焼土層の中から出土した土師器の小形甕はほぼ完形品で， 焼土を意図的に覆い被せたものと考えられ， 廃絶時に棚状施設の前で何らかの祭祀的行為が行われたと推測される。



第155図 第8号住居跡実測図



第156図 第8号住居跡出土遺物実測図

第8号住居跡出土遺物観察表 (第156図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
38	土師器	坏	[13.5]	4.8	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後未調整	下層+床面	85%
39	土師器	坏	14.0	3.9	7.0	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後未調整	床面	70%
40	土師器	坏	[14.2]	(3.9)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き	覆土中	10% 墨書 体部外面横位「口」
41	土師器	坏	[13.0]	(3.1)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土中	15% 刻書 体部外面横位「葦子口カ」 PL25
42	土師器	坏カ	—	(3.0)	—	長石・雲母・黒色粒子	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 体部外面横位「葦カ」
43	土師器	坏カ	—	(3.1)	—	長石・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 体部外面横位「子カ」
44	土師器	坏カ	—	(1.3)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 体部外面「口」
45	土師器	坏カ	—	(1.8)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 体部外面「葦カ」
46	土師器	坏カ	—	(1.6)	—	石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 体部外面「葦カ」
47	土師器	高台付皿	12.6	(2.9)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端未調整 体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後未調整 高台貼り付け	中層	60%
48	土師器	甕	11.9	13.8	7.7	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラケズリ後ナデ 内面ナデ	焼土層中	80% 体部内・外面二次火熱により赤変・剥落
49	土師器	甕	—	(6.8)	9.3	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ	支脚端部	30%
205	須恵器	甕	—	(10.1)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内・外面ヘラナデ 把手貼り付け後ナデ	床面	5%
TP4	須恵器	甕	—	(9.7)	—	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面平行叩き 内面同心円文の当て具痕	右袖部補強材	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	砥石	14.5	9.8	8.5	1290	花崗岩カ	砥面3面 部分的に礫面剥落	床面	
Q3	支脚	26.3	10.6	6.9	1990	花崗岩	自然礫 全面強く赤変し 礫面剥落 一部剥落 端部に粘土付着	火床部設置	

番号	器種	長さ	紡茎部最大径	紡茎部最小径	重量(紡輪+茎部)	材質	特徴	出土位置	備考
M3	紡錘車	(12.3)	0.4	0.3	(15.50)	鉄	紡輪径3.8cm円盤形 紡茎断面円形 鉤残存	貯蔵穴上層	
M4	不明	(4.6)	(0.6)	(0.5)	(3.92)	鉄	断面長方形 両端折損	覆土中	

第9号住居跡 (第157~159図)

位置 調査VI区のC8a4区で、斜面部から裾部へ移行する位置に広がっている黒色土帯に位置している。

規模と形状 南北3.12m、西側は調査区域外に延びており、東西は2.70mだけ確認され、方形と考えられる。主軸方向はN-12°-Wである。壁高は12~25cmで、ほぼ直立している。

床 凹凸があり、中央部がよく踏み固められている。貼床はロームブロックを含む黒褐色土(覆土土層断面図、第4層)を埋め土して構築されている。掘り方は壁際を帯状に掘り残すように、中央部を一段深く掘り込んでいる。

竈 北壁の中央部に付設されていると考えられる。袖部は住居の内部に延びておらず、竈は北壁ラインから外側に構築されたと考えられる。規模は焚口部から煙道部まで80cm、焚口部幅63cmである。火床部は床面より17cm皿状に掘りくぼめて、暗褐色土(竈土層断面図、第7層)を埋め土している。火床部の壁面には、土師器片を補強材として混ぜ込んだ白色粘土が貼り付けられている。火床面は焼土粒子・炭化粒子が広がっているだけで、赤変等は見られない。火床部中央の煙道部寄りの位置に土製支脚が据えられており、全面が赤変している。支脚と火床部底面の接地面は硬化しており、煮炊き具の荷重によって硬化したものと考えられる。煙道部は壁外へ74cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子少量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子少量 |
| 2 灰褐色 焼土ブロック少量, 炭化物・粘土ブロック微量 | 6 暗赤褐色 焼土粒子中量 |
| 3 灰褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子多量 |
| 4 暗褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子微量 | |

ピット 7か所。P1~P6は深さ10~35cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P7は貼床除去後にP

5とP6の間で確認され、斜めに深さ94cm掘り込まれている。床下でピットは他に確認されず、性格は不明である。

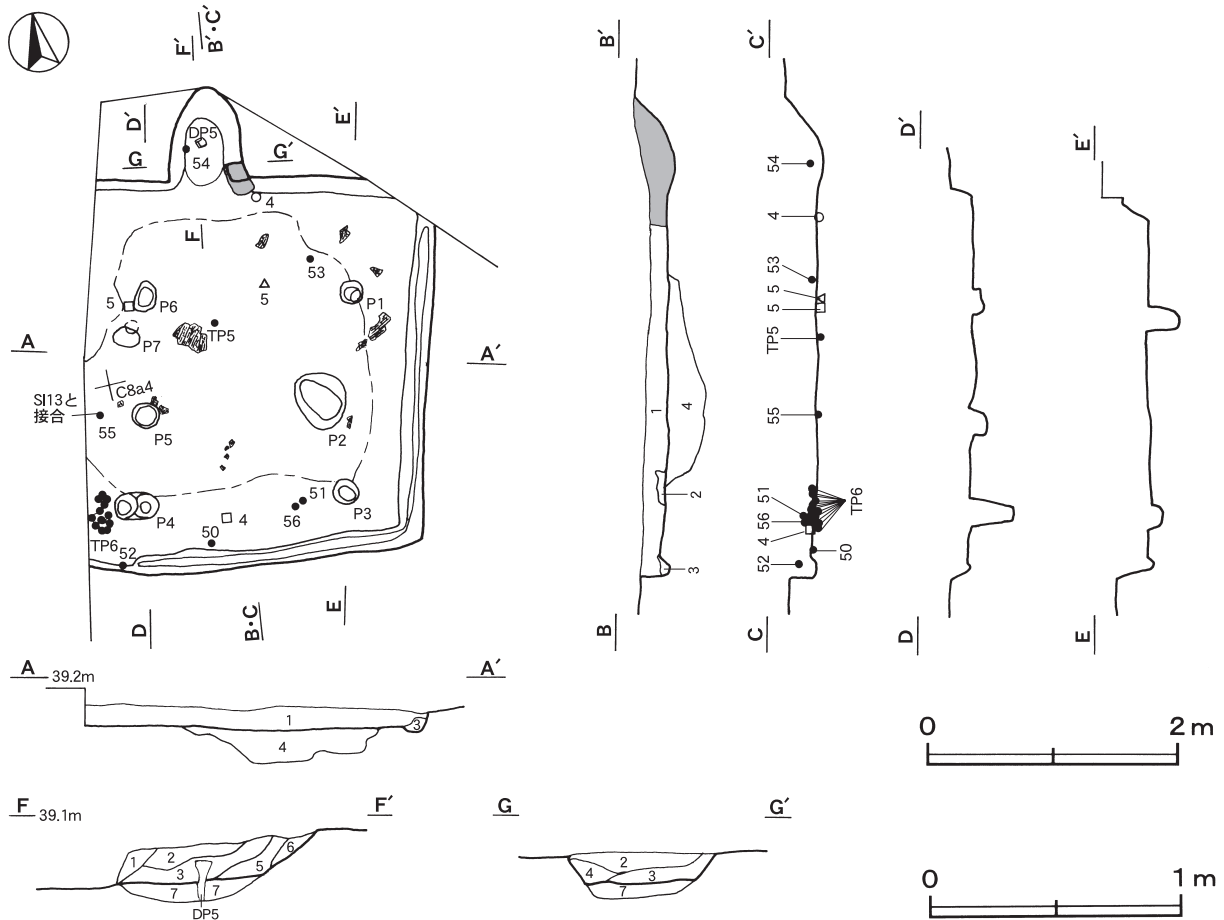
覆土 3層に分層される。同一層と捉えられる土砂が、床面全体に厚く堆積していることから、人為堆積と考えられる。第4層は、貼床の構築土である。

土層解説

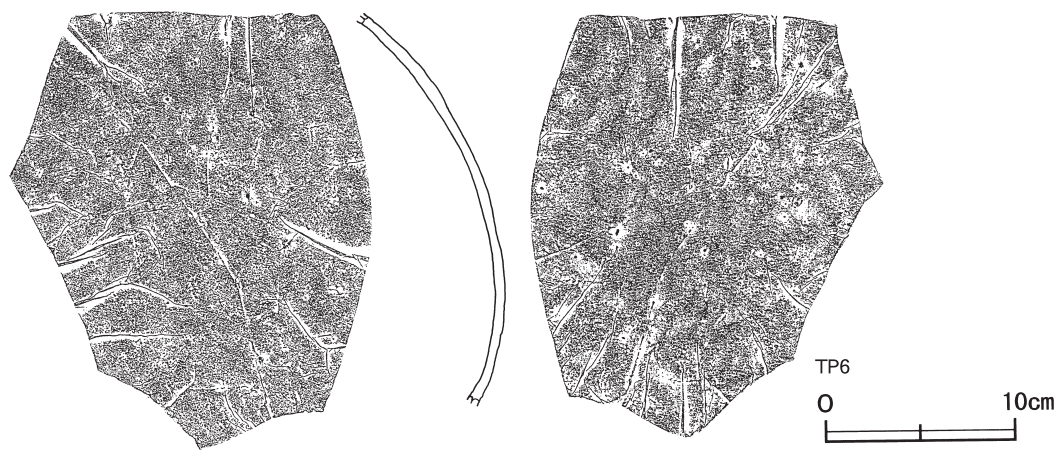
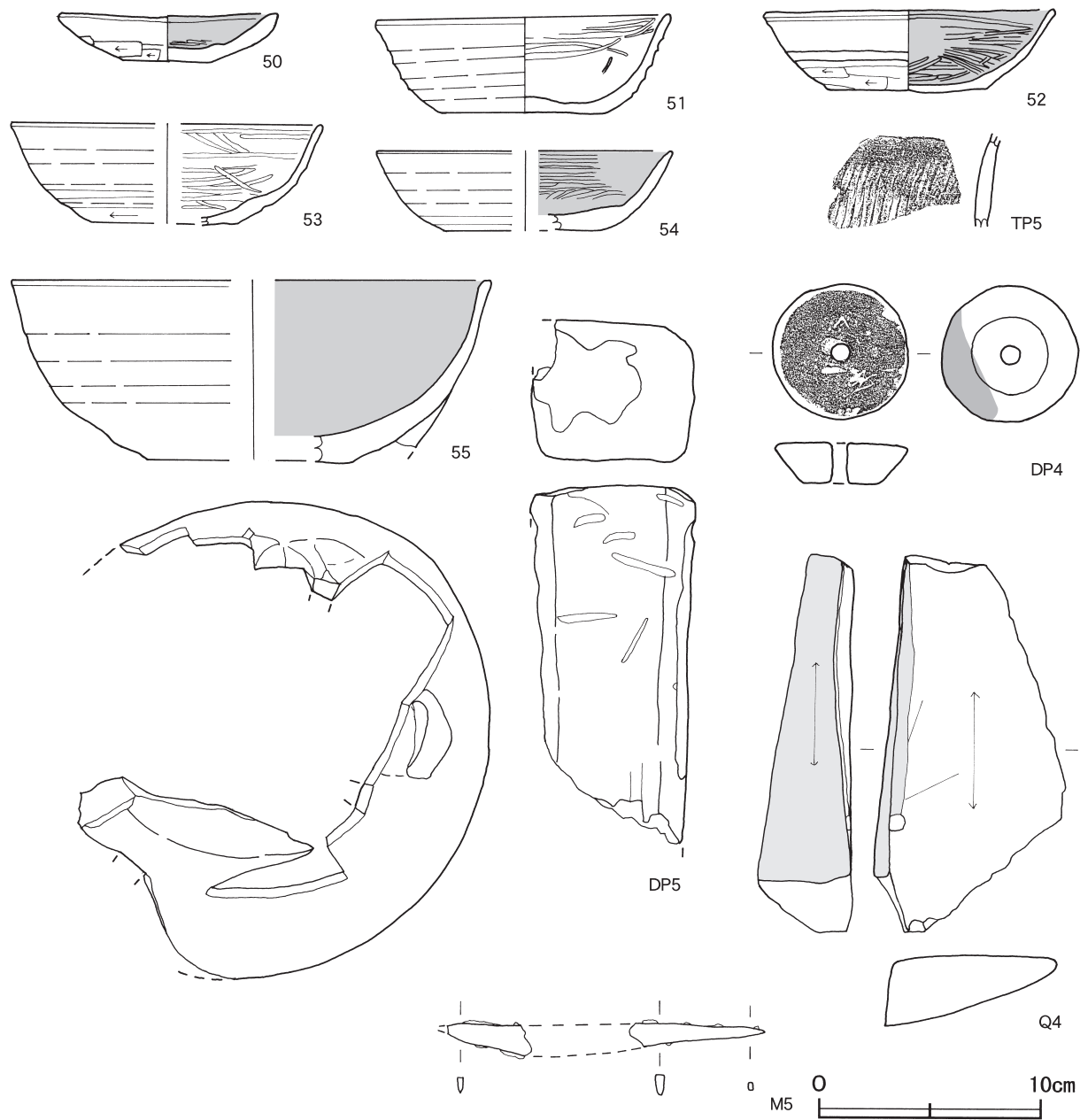
- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物多量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量 (貼床構築土) |

遺物出土状況 土師器片161点 (小皿1, 坏36, 椀8, 高台付皿4, 鉢10, 甕類102), 土製品2点 (支脚1, 紡錘車1), 石製品2点 (砥石), 鉄製品1点 (刀子), 椀状滓2点, 鉄滓1点が出土している。土器の大半は小破片で、全域に散在して出土しており、特に竈内に集中している。また、床面の中央部から径5cmほどの丸材と考えられる炭化材が確認されている。50は南壁際, 53・M5は中央部, DP4は竈脇, Q4は南壁寄り, Q5はP6脇の床面から出土している。51は56の内部に入って、南壁寄りの覆土下層から出土している。52は南壁寄りの覆土下層から出土している。55は中央部の床面と第13号住居跡の中央部の床面から出土している破片が接合したものである。遺物は炭化材と同じ高さのものと、その上から出土しているものに分けられ、前者は廃絶時に遺棄されたもの、もしくはすぐに廃棄されたものであり、後者は埋め戻す段階で廃棄されたものと考えられる。また、TP5・TP6のように土砂に混入したものもある。

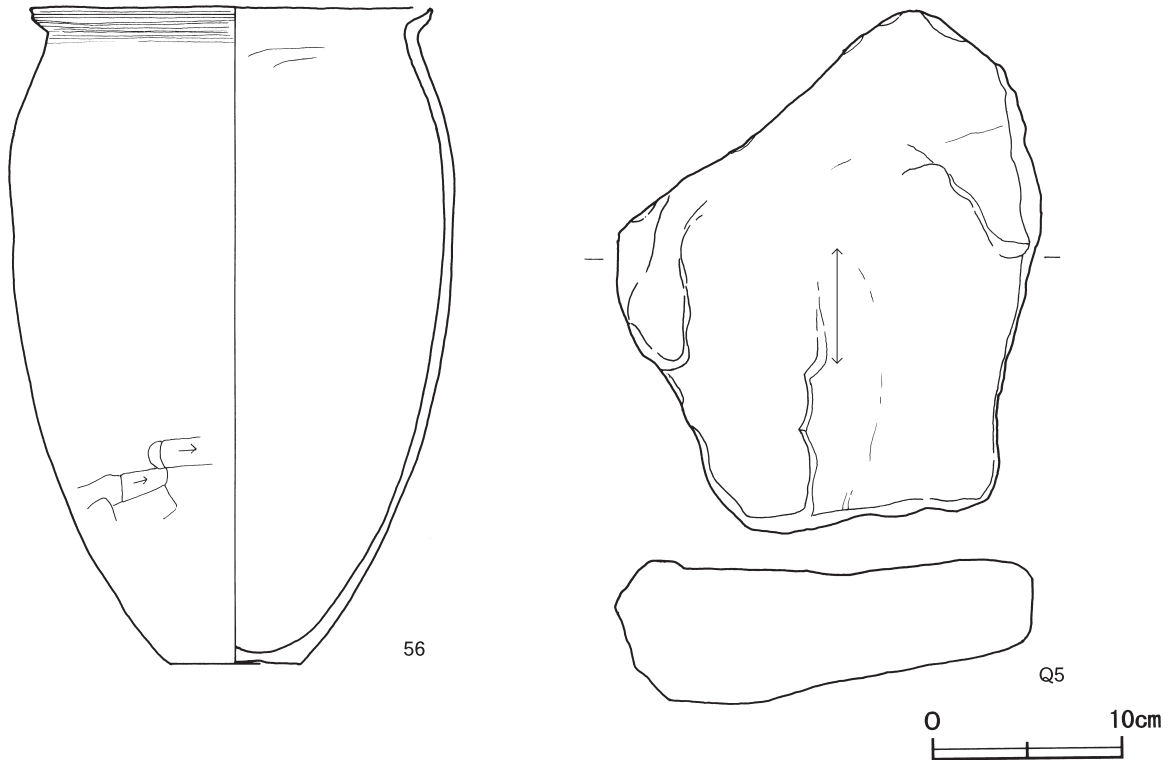
所見 廃絶時期は、床面から出土した土器に土師器小皿が見られることから10世紀中葉と考えられる。55の接合関係から、第13号住居跡は同時期のものと考えられる。炭化材の出土状況から、焼失住居と考えられ、床面に遺棄された遺物の量がさほど多くないことから、廃絶時に片付けてから火をつけたと考えられる。



第157図 第9号住居跡実測図



第158图 第9号住居跡出土遺物実測図(1)



第159図 第9号住居跡出土遺物実測図(2)

第9号住居跡出土遺物観察表 (第158・159図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
50	土師器	小皿	9.5	2.3	4.0	長石・石英	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後未調整	床面	95% PL25
51	土師器	坏	13.2	4.6	7.0	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラ削り	下層 P56内	95% 体部外面煤付着 内面著しく剥落 PL26
52	土師器	坏	13.0	3.7	7.2	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラ削り	下層	80% 体部外面煤付着
53	土師器	坏	13.7	4.5	[6.4]	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラ削り	床面	40%
54	土師器	坏	13.1	3.6	6.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラ削り	竈下層	20% 体部全面赤変 剥落 粘土付着 補強材カ
55	土師器	鉢	[21.2]	8.1	[9.0]	長石・石英	にぶい褐	普通	体部下端未調整 内面ヘラ磨き 体部下端3か所方形に焼成前穿孔 粘土塊貼付(脚カ)	床面+SI13	40% 体部外面赤変 煤付着 剥落
56	土師器	甕	21.1	34.7	6.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ 底部木葉痕	下層	75%
TP5	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面平行叩き 内面指頭による押さえ	床面	
TP6	須恵器	甕	-	(21.6)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	内外面ナデ	床面+下層	

番号	器種	上面径	下面径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP4	紡錘車	6.1	6.1	1.9	(73.80)	粘土(長石)	孔径0.8cm 全面丁寧なナデ 二次火熱により煤付着	床面	
DP5	支脚	(16.2)	7.4	6.9	(740)	粘土(長石・雲母)	角柱状に整形しヘラナデ ナデ調整 全面強く赤変	火床部設置	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	砥石	16.9	8.6	4.3	485	砂岩カ	砥面2面 1面に線状痕あり 3面が二次火熱により赤変	床面	
Q5	砥石	28.0	22.5	8.8	5830	花崗岩	砥面1面 床面接地面以外は二次火熱により赤変	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M5	刀子	[14.3]	(1.5)	(0.4)	(8.80)	鉄	切っ先欠損 茎尻残存	床面	

第10号住居跡（第160・161図）

位置 調査IV区のC8b4区で、斜面部から裾部へ移行する位置に広がっている黒色土帯に位置している。

重複関係 第124号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.02m、短軸3.90mの長方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は35～50cmで、ほぼ直立している。

床 黒色土の地山を平坦にして、そのまま床面としている。中央部がよく踏み固められている。壁溝が壁下を全周している。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで102cm、袖部幅は148cmである。袖部は白色粘土の中に土師器片を補強材として混ぜ込んで、床面の上に盛り上げて構築されている。袖部の内側は強く赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。火床部中央部の煙道部寄りの位置に、砥石を転用した支脚が据えられており、その上に土製支脚が据えられている。土製支脚の上端部に土師器高台付皿が逆位で置かれている。二個体の支脚及び高台付皿は、全面が赤変している。煙道部は壁外へ36cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がって、上部で直立している。煙道部には火床部から20cmほど上に、白色粘土で構築された厚さ20cmほどの天井部が遺存しており、径10cmほどの煙出しの穴が確認されている。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック中量 | 5 黒褐色 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子微量 | 6 赤褐色 焼土ブロック多量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 7 赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量 |
| 4 灰褐色 焼土ブロック中量 | |

炉 中央部より南壁寄りの位置に、径40cmほどの不整な円形を呈した赤変範囲が確認されており、この付近が特に硬化して一段高くなっている。

ピット 10か所。P1～P10は深さ11～32cmで平面形も規模も多様で、柱穴等のように配置に規則性がない。

P8～P10は炉の近くにまとまっており、炉との関連が考えられる。

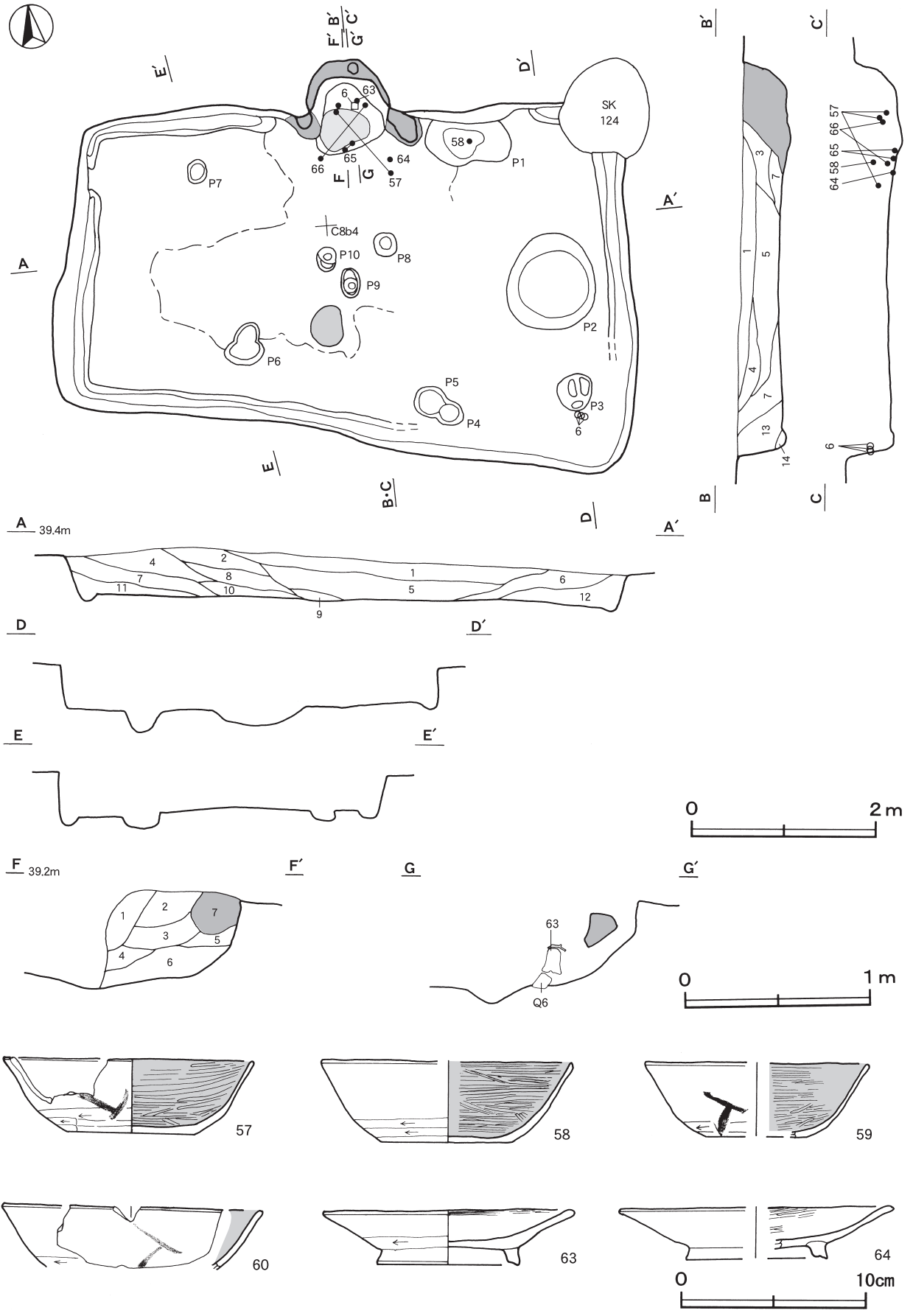
覆土 14層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入された様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

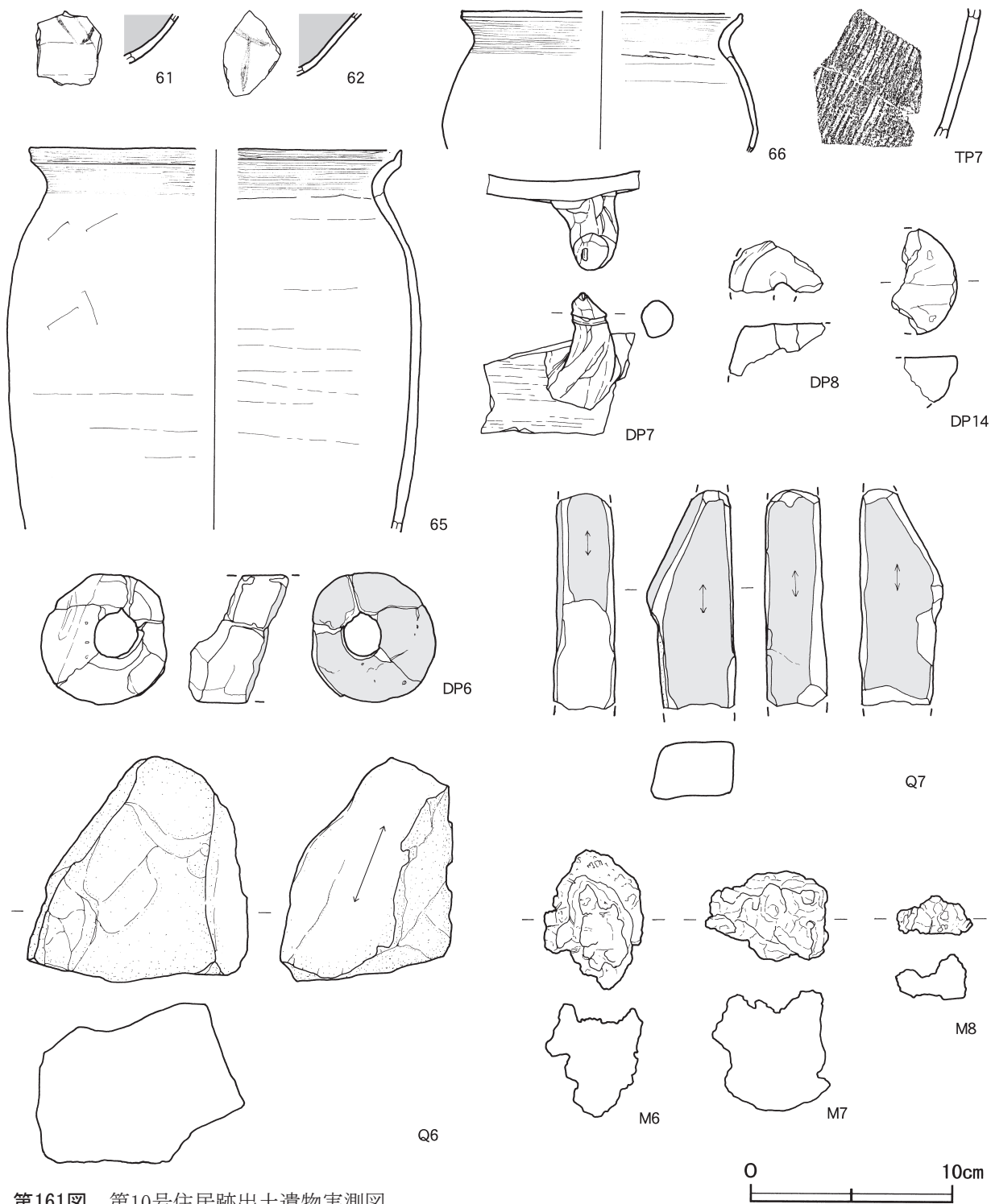
- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量 | 9 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子中量, ローム粒子微量 | 10 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 11 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 12 黒褐色 ローム粒子, 炭化粒子少量 |
| 6 黒褐色 ロームブロック少量 | 13 黒色 ロームブロック, 炭化粒子少量 |
| 7 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 14 暗褐色 ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片478点（坏179, 椀3, 高台付皿16, 甕・甑類280）、須恵器片12点（甕）、土製品4点（紡錘車1, 羽口1, 陽物形把手1, 不明1）、石製品2点（支脚1, 砥石1）、鉄製品2点（不明）、椀状滓2点、鉄滓100点が出土している。土器片は中央部と竈内から多く出土している。椀状滓・鉄滓は主に南東コーナー部の覆土下層に集中している。57・66は竈の覆土下層と竈前方の覆土下層から出土した破片が接合したものである。58は竈脇の覆土下層、DP6は南東コーナー部の覆土中層から出土している。65は竈火床部から出土している。59～62・TP7・DP7・DP8・DP14・M6～M8・Q7は覆土中から出土している。壁寄りの覆土下層から出土した遺物は廃絶後の早い段階で廃棄されたもので、中央部の覆土中から出土した遺物は、廃絶後の窪地に廃棄されたもの、又は、器面や破断面が摩滅した須恵器甕片のように流入したものと考えられる。

所見 廃絶時期は、壁寄りの覆土下層から出土した土器及び須恵器が伴わないことから10世紀前葉ないしそれ以前と考えられる。椀状滓、鉄滓、羽口や住居形態及び炉の存在から鍛冶工房と考えられ、DP7は鍛冶に関わる祭祀的な遺物の可能性がある。



第160図 第10号住居跡・出土遺物実測図



第161図 第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表 (第160・161図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
57	土師器	坏	13.3	4.1	6.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部切り離した後ナデ	竈下層+下層	90% 墨書体部外面 横位「人」
58	土師器	坏	[13.4]	4.4	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部ヘラ切り後回転ヘラ削り	下層	50%
59	土師器	坏	[12.0]	4.0	[5.5]	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き	覆土中	15% 墨書体部外面 横位「人」
60	土師器	坏	[13.8]	(3.3)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き	覆土中	15% 墨書体部外面 横位「人」

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
61	土師器	坏カ	—	(2.5)	—	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部内面へラ磨き	覆土中	5% 墨書 体部外面 横位「久」
62	土師器	坏カ	—	(3.0)	—	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面へラ磨き	覆土中	5% 墨書 体部外面 横位「人」
63	土師器	高台付皿	13.4	3.0	7.6	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端回転へラケズリ 内面へラ磨き 底部へラ切り離し後未調整 高台貼り付け	支脚端部	80% 体部外面・破断面が二次火熱により赤変 粘土付着
64	土師器	高台付皿	[14.5]	2.8	[7.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端未調整 内面へラ磨き 底部へラ切り離し後未調整 高台貼り付け	床面	20% 体部内・外面・破断面が二次火熱により赤変 粘土付着 補強材カ
65	土師器	甗	[18.2]	(18.8)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 輪積み痕あり 体部外面へラナデ ナデ	竈火床部	20%
66	土師器	甗	[13.6]	(6.8)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラナデ ナデ 輪積み痕あり	竈下層+下層	10%
TP7	須恵器	甗	—	(6.4)	—	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面平行叩き 内面指頭による押さえ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP6	羽口	(4.9)	(6.1)	(6.5)	(6.5)	粘土(長石・石英)	外面青灰色 内面赤褐色 青灰色部は炉との連結部カ	中層	
DP7	陽物形把手	5.7	3.6	1.7	(86.7)	粘土(長石・石英・黒色粒子)	酸化焰焼成の須恵器甗の把手 丁寧な造形	覆土中	PL26
DP8	紡錘車	—	—	(2.7)	(13.0)	粘土(長石・石英)	断面逆台形カ 外面ナデ	覆土中	
DP14	不明	(5.2)	(3.3)	(2.2)	(25.6)	粘土(長石・石英)	羽口カ 外面ナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q6	支脚	11.2	10.8	8.5	1360	砂岩	砥面1面の砥石を転用 全面に粘土付着	火床部設置	
Q7	砥石	10.8	4.6	4.2	202	砂岩	砥面4面すべて赤変	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	着磁	特徴	出土位置	備考
M6	椀状滓	7.0	4.8	5.6	167.00	無	平面不整形	覆土中	
M7	椀状滓	7.1	6.1	6.0	177.40	有	平面不整形	覆土中	
M8	鉄滓	1.9	3.8	2.2	11.10	有	平面不整形	覆土中	

第11号住居跡 (第162・163図)

位置 調査IV区のC7c8区で、標高41mほどの斜面部に位置している。

規模と形状 東部が削平されており、南北長3.41m、東西長は3.54mだけ確認され、主軸方向がN-27°-Eの長方形と考えられる。壁高は2~26cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁の西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで84cmである。深さ4cm・6cmのピットが、50cmの間隔で東西に並んでいる。左側のピットには、角柱状の自然礫が据えられており、その上から板状の自然礫が、右側のピット前方からは、角柱状の自然礫が倒れた状態で出土している。自然礫で天井石と袖石を組んで焚口部を構築し、その周囲に白色粘土を盛り上げたものと考えられる。火床部は床面とほぼ同じ高さである。火床部の煙道部寄りの位置に、角柱状の自然礫が支脚として据えられており、その上部端部に土師器坏が置かれている。火床面と支脚とその端部に置かれた土師器坏や天井石や袖石は、赤変している。竈を挟んだ左側の壁が内側に入り込み、壁のラインが一直線にならず食い違っている。そのため煙道部の壁外への掘り込みは48cm・54cmであり、火床部から直立している。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック多量, ローム粒子少量, 砂微量
- 3 暗褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量

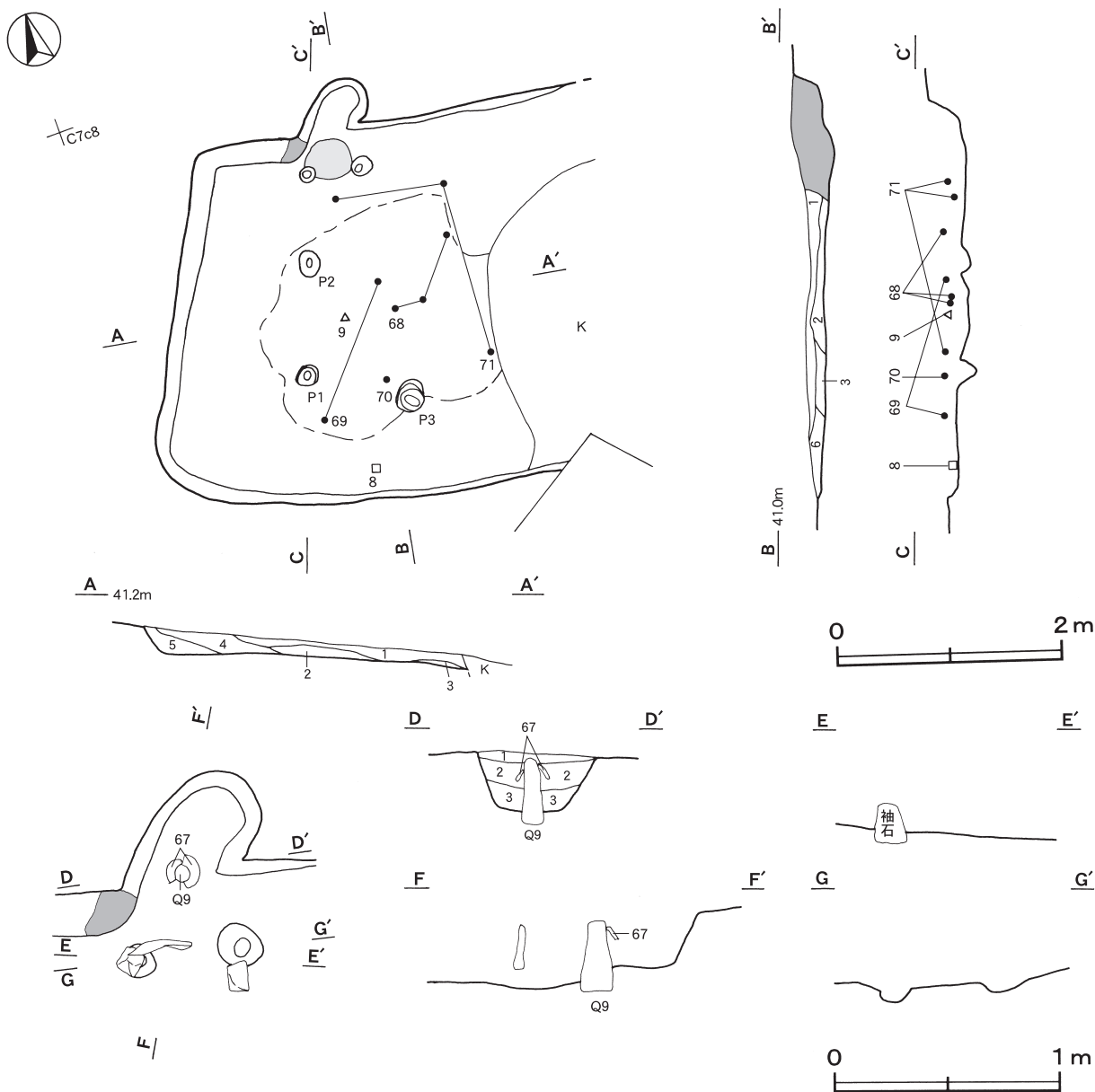
ピット 3か所。P1・P2は深さ7cm・11cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P3は深さ21cmで、南壁の中央部寄りの位置にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

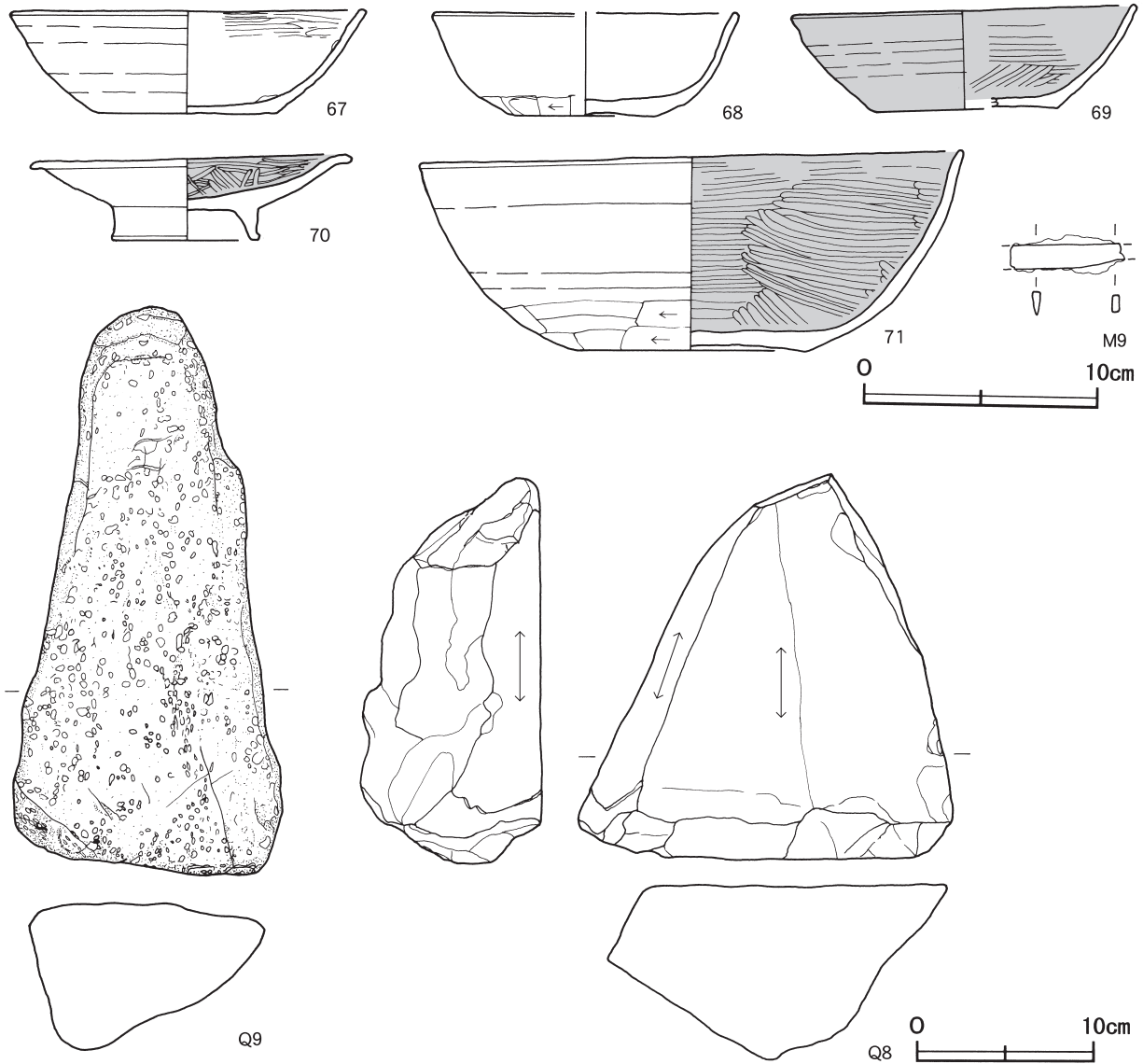
土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子多量 |

遺物出土状況 土器片104点（坏54, 椀1, 高台付皿1, 鉢8, 甕類40）, 石製品2点（支脚1, 砥石1）, 鉄製品1点（刀子）が出土している。土器の大半は小破片で、中央部から竈前方にかけて多く出土している。Q8は南壁中央の床面に遺棄されたものである。68~70・M9は中央部の覆土下層から出土している。71は中央部と竈前方の覆土下層から出土した破片が接合したもので、廃絶後の窪地に廃棄されたものと考えられる。所見 廃絶時期は、覆土下層から出土した土器及び須恵器が見られないことから10世紀前葉ないしそれ以前と考えられる。竈を挟んだ壁が食い違っているプランは、棚状施設の立ち上がりが確認された第14号住居と同じであり、本跡も棚状施設を持つ住居の可能性はある。



第162図 第11号住居跡実測図



第163図 第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表 (第163図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
67	土師器	杯	15.0	4.5	7.6	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部下端未調整 内面へら磨き 底部へら切り離し後未調整	支脚端部	90%
68	土師器	杯	[12.7]	4.5	6.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き 底部へら切り後未調整	下層	50%
69	土師器	杯	14.6	4.3	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒	普通	体部下端未調整 内面へら磨き 底部切り離し後未調整	下層	35%
70	土師器	高台付皿	13.1	3.7	6.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部内面へら磨き 底部切り離し後ナデ調整 高台貼り付け	下層	85%
71	土師器	鉢	22.8	8.6	9.6	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き 底部切り離し後回転へら削り	下層	70%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q8	砥石	22.0	22.0	10.2	4740	砂岩	砥面2面 2面が二次火熱により赤変し一部黒変	床面	
Q9	支脚	32.3	15.3	8.4	4120	砂岩	全面敲打による整形 全面赤変し一部黒変	火床部設置	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M9	刀子	(4.9)	0.9	0.3	(5.3)	鉄	刀身部断面三角形 茎部断面長方形	下層	

第12号住居跡 (第164・165図)

位置 調査IV区のC7b8区で、標高41mほどの斜面部に位置している。

規模と形状 一辺が2.88mの方形で、主軸方向はN—6°—Wである。壁高は6～25cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて全体的によく踏み固められている。壁溝が東・西・南壁下で確認されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。壁外への掘り込みを挟んだ右側の床面と、左側の北壁からやや内側の床面に白色粘土が遺存している。それらは、袖部の一部と考えられ、その幅は110cmであり、床面の上に白色粘土を盛り上げて構築されたと考えられる。左側の白色粘土の位置を焚口部と想定すると、煙道部まで105cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外へ71cm掘り込まれ、火床部からほぼ直立している。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子少量 | 7 黄橙色 砂多量 |
| 4 暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | |

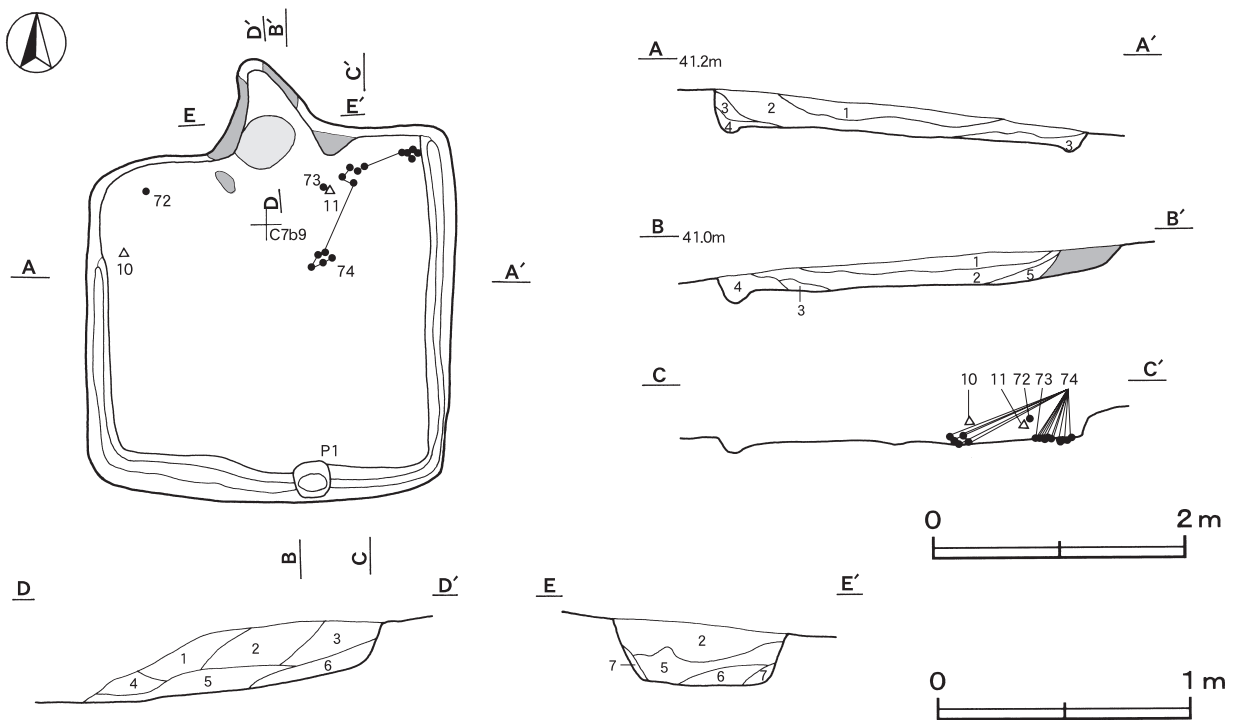
ピット 1か所。南壁際の中央部に径30cmの円形の浅いくぼみが確認されている。出入り口施設の柱を据えていたと考えられる。

覆土 5層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 明褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | |

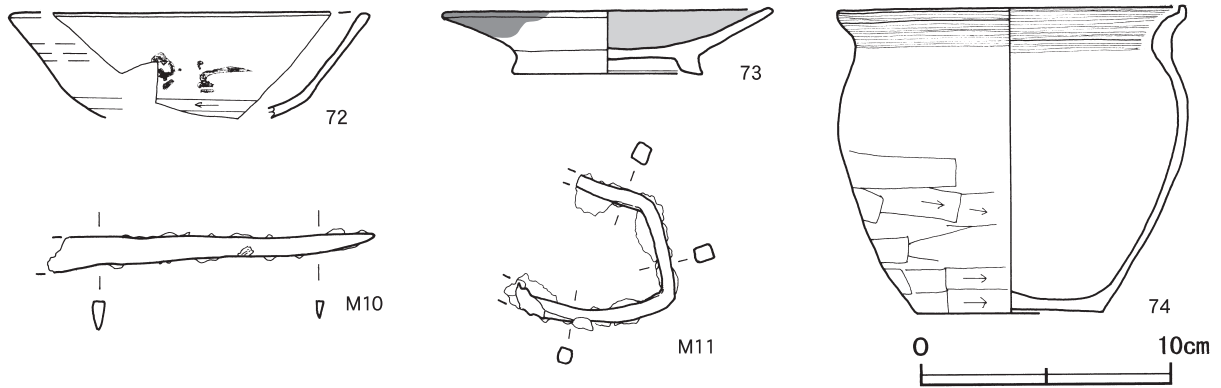
遺物出土状況 土師器片54点(坏11, 高台付皿1, 甕類42), 鉄製品2点(刀子1, 不明1)が出土している。土器の大半は小破片で、竈前方から北東コーナーにかけて散在している。73は竈前方の床面から出土しており、遺棄されたものと考えられる。74は中央部の床面と北東コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合



第164図 第12号住居跡実測図

したものである。M10は西壁寄りの、M11竈前方の覆土下層からそれぞれ出土している。72は北西コーナー一部の覆土中層から出土している。壁寄りの覆土下層から出土している遺物は、散在した破片が接合しており、廃絶後の比較的早い段階で廃棄されたものである。

所見 廃絶時期は、床面出土の土器から10世紀初頭と考えられる。



第165図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表（第165図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
72	土師器	坏	[14.0]	4.2	—	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理	中層	15% 墨書 体部外面 横位「田川」PL25
73	土師器	高台付皿	12.8	2.6	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	底部切り離し後ナデ 高台貼り付け	床面	100% 外面油煙付着
74	土師器	甕	13.7	12.1	7.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削りナデ 内面ナデ	床面+下層	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M10	刀子	(13.1)	(1.4)	(0.4)	(10.5)	鉄	刀身部断面三角形 茎部断面三角形 茎部に木質遺存	下層	
M11	不明	(6.0)	6.8	0.7	(18.9)	鉄	コの字状 断面方形	下層	

第13号住居跡（第166・167図）

位置 調査IV区のB 8 e1区で、斜面部から裾部に移行する位置に広がっている黒色土帯に位置している。

規模と形状 長軸2.92m，短軸2.80mの方形で，主軸方向はN-17°-Eである。壁高は8～24cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，壁際を除き全体がよく踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで71cmである。角柱状の自然礫をピットに埋め，袖石として焚口部を構築している。袖材は全面が赤変しており，袖石間は70cmである。焼けた粘土が付着した土師器片は，白色粘土に混ぜられた補強材と考えられる。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は赤変している。また，焚口部の前の床面から角柱状の自然礫が出土しており，形状と赤変していることから，支脚と考えられる。煙道部は壁外へ57cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック少量 | 6 灰褐色 | 焼土粒子・炭化粒子多量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子多量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子少量，ロームブロック微量 | | |

覆土 4層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

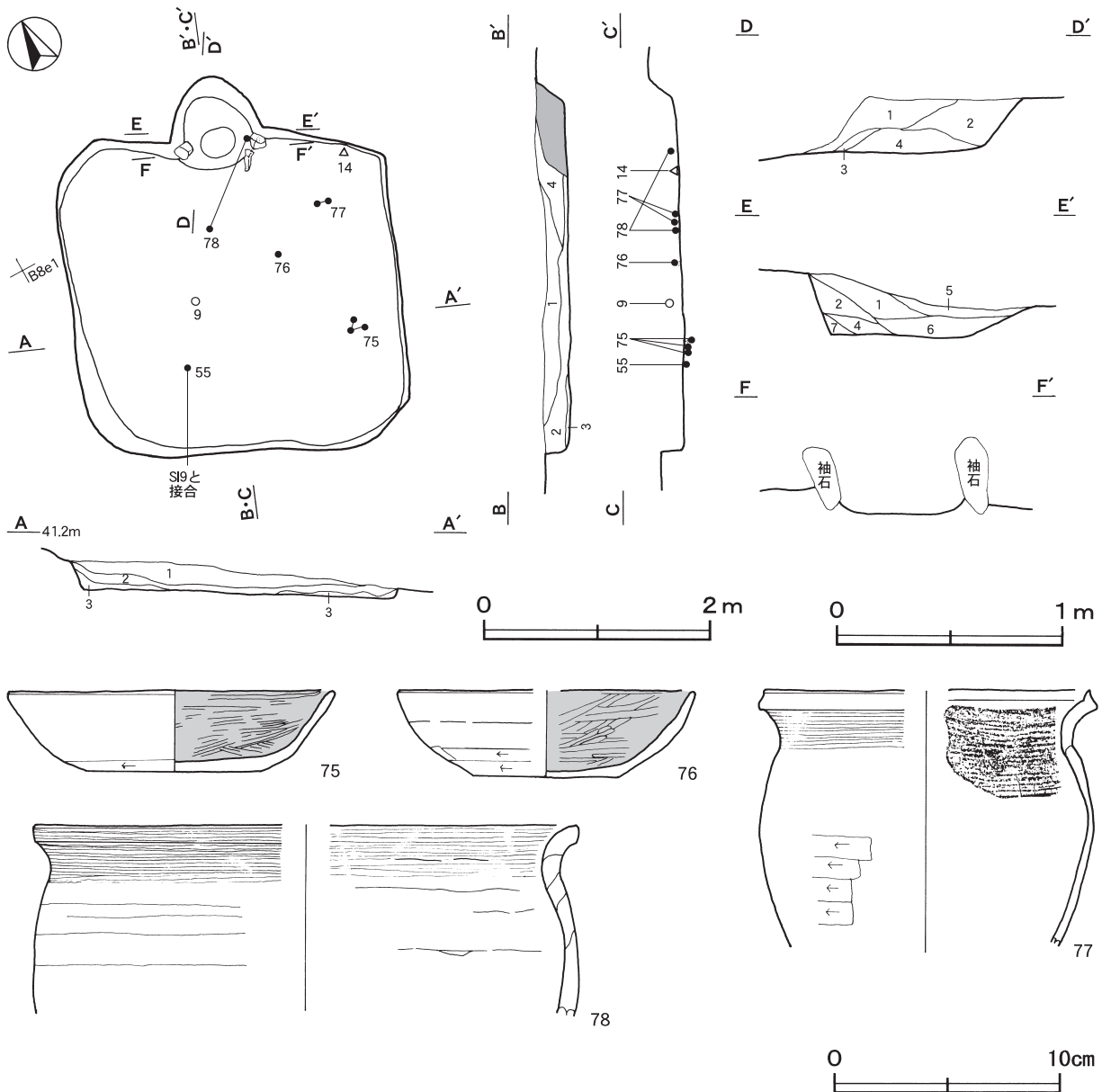
2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

3 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

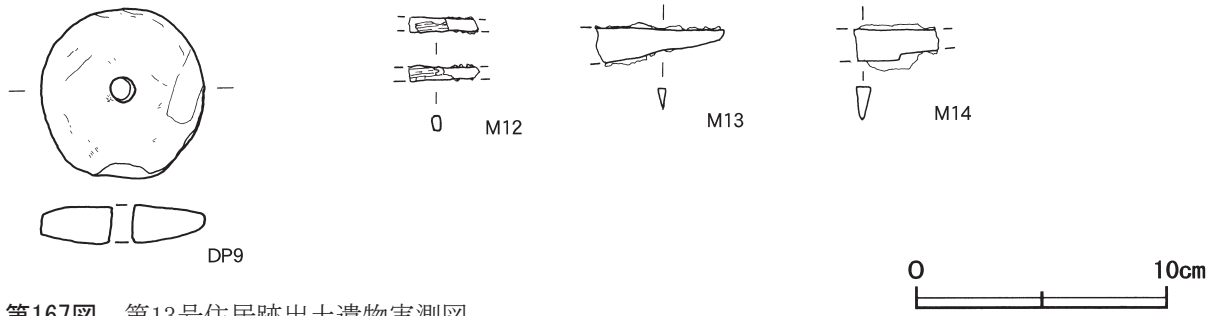
4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片157点（坏47，椀3，高台付皿1，甕・甌類106），須恵器片1点（甕），土製品1点（紡錘車），鉄製品3点（刀子2，不明1），鉄滓2点が出土している。土器片は小破片が大半で，全域から出土している。75は東壁寄り，76は中央部，M14は北東コーナー部の床面からそれぞれ出土しており，75・M14は遺棄されたものと考えられる。78は竈火床部と竈前方の床面からそれぞれ出土した破片が接合したものである。DP9は中央部の覆土下層から，M12・M13は覆土中から出土している。中央部の床面から出土している破片は，第9号住居跡の中央部の床面から出土した55と接合している。覆土下層や76と同じく中央部の床面から出土したものは，廃絶後の窪地に廃棄されたもの，又は，器面や破断面が摩滅した須恵器甕片や鉄滓のように流入したものと考えられる。

所見 廃絶時期は，出土土器及び第9号住居跡との遺構間接合から10世紀中葉と考えられる。



第166図 第13号住居跡・出土遺物実測図



第167図 第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表（第166・167図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
75	土師器	坏	14.2	3.6	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後未調整	床面	75%
76	土師器	坏	[13.0]	3.8	[6.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後一定方向のヘラ削り	床面	45%
77	土師器	甕	[14.4]	(11.2)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 後ナデ 内面ヘラ状工具により強いナデ	床面	15%
78	土師器	甕	[24.0]	(8.3)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ナデ 輪積み痕あり	床面	10%

番号	器種	最大径	最小径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP9	紡錘車	7.0	6.5	1.5	(70.4)	粘土(長石・雲母)	外面丁寧なナデで平滑 黒色処理	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M12	刀子	(2.8)	0.6	0.3	(1.26)	鉄	茎部 木質遺存	覆土中	
M13	刀子	(5.2)	(1.4)	(0.3)	(5.30)	鉄	茎部断面三角形	覆土中	
M14	刀子	(3.4)	1.2	0.6	(6.75)	鉄	片開 刀身部断面三角形	床面	

第14号住居跡（第168図）

位置 調査IV区のB7j6区で、標高43mほどの丘陵斜面部に位置している。

規模と形状 長軸2.91m、短軸2.78mの方形で、主軸方向はN-13°-Eである。壁高は28~62cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて全体的によく踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで68cmである。袖部は左袖部しか遺存しておらず幅は不明である。左袖部は、床面の上に白色粘土を盛り上げて構築されている。火床部の底面は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。竈を挟んだ左側の壁が内側に入り込み、壁のラインが一直線にならず食い違っている。そのため煙道部の壁外への掘り込みは27cm・45cmであり、火床部からほぼ直立している。

竈土層解説

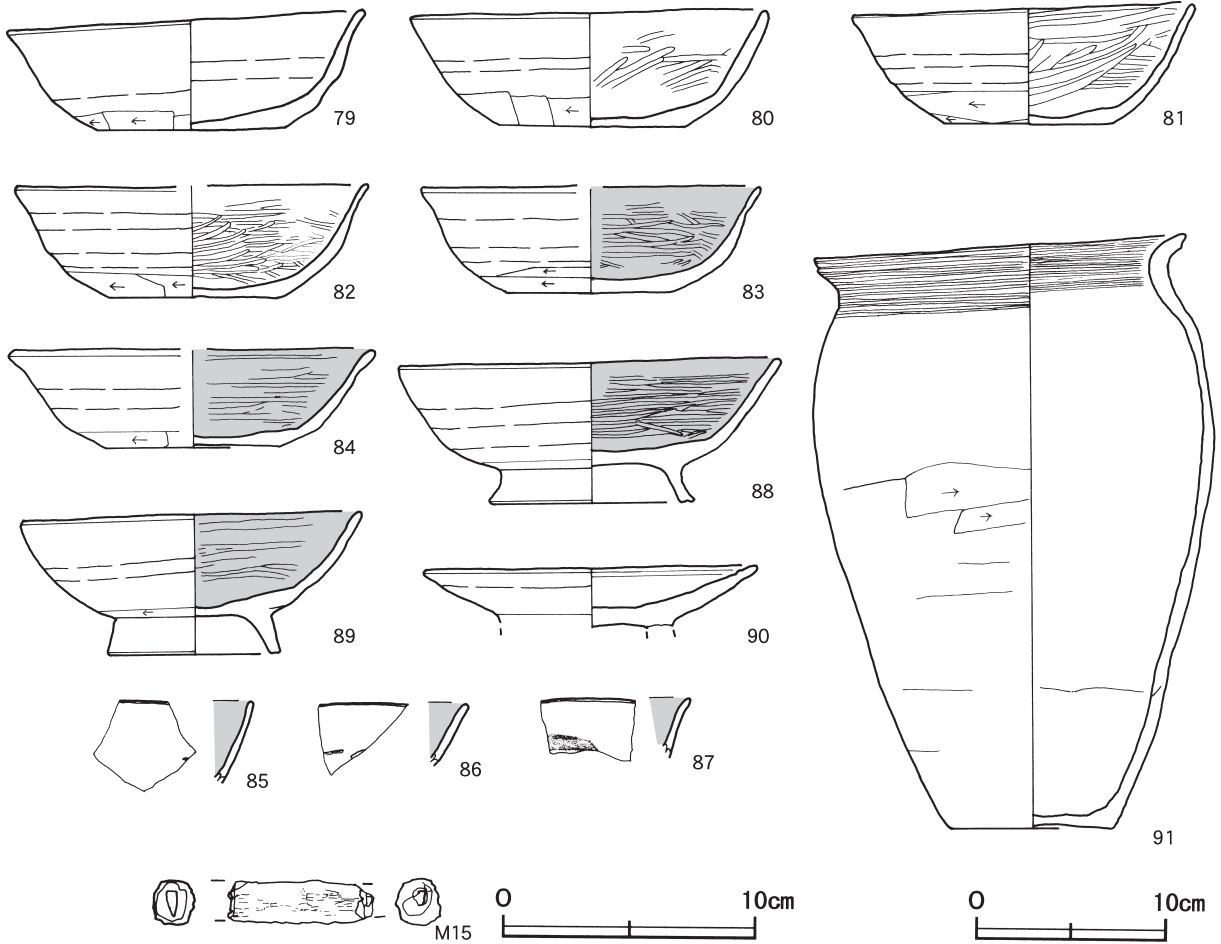
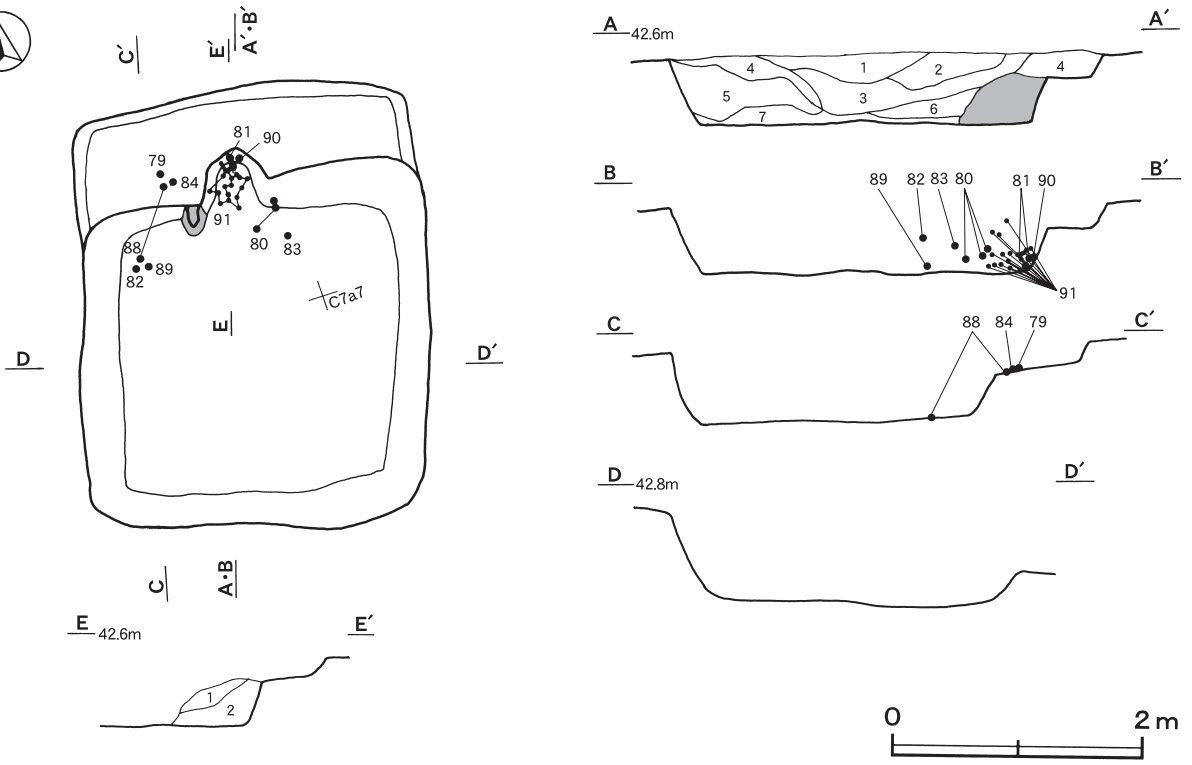
- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量

覆土 7層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 7 明褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片160点（坏36, 椀8, 高台付皿4, 鉢10, 甕類102）、鉄製品1点（刀子）が出土している。土器片は比較的大きな破片が多く、竈内及び棚状施設の前方から多く出土している。79・84は棚状施設



第168图 第14号住居跡・出土遺物実測図

の使用面に遺棄されたものである。88は棚状施設の使用面と、棚状施設際の床面から出土した破片が接合したものである。80・82・83・89は棚状施設際の覆土中層から下層にかけて出土している。81・90は竈覆土下層から出土している。85～87・M15は覆土中から出土している。

所見 棚状施設は素掘りのタイプである。使用面には、小ピット、周溝、階段などの付属施設は確認されていない。棚状施設の使用面に遺棄された土器や棚状施設の前方、及び竈火床部から出土している土器は、ほぼ完形のものや部分的に破損しているだけの土器が多い。これらの土器は、棚状施設の使用面に遺棄されたものが土砂の流入とともに転落したと考えられる。遺棄された土器と併せて棚状施設が物を置くスペースと考えられる出土状況である。ただし90は全面及び破断面が赤変していることから、破損後に竈の補強材や支脚に転用された可能性がある。廃絶時期は、棚状施設に遺棄された土器及び転落したと考えられる土器、さらに、須恵器が見られないことから10世紀前葉と考えられる。

第14号住居跡出土遺物観察表（第168図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
79	土師器	坏	14.0	4.6	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面未調整 底部切り離し後ナデ	棚状施設	95%
80	土師器	坏	14.1	4.4	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラ削り	中層	95%
81	土師器	坏	13.6	4.8	6.7	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラ削り	竈下層	90%
82	土師器	坏	[13.8]	4.5	6.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラ削り	中層	70%
83	土師器	坏	[13.4]	4.2	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後ナデ	中層	60%
84	土師器	坏	[14.2]	3.9	7.0	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後ナデ	棚状施設使用面	45%
85	土師器	坏カ	—	(3.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 体部外面「□」
86	土師器	坏カ	—	(2.5)	—	雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 体部外面「□」
87	土師器	坏カ	—	(2.3)	—	雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 体部外面「□」
88	土師器	椀	15.0	5.7	8.2	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後未調整 高台貼り付け	棚状施設+床面	95%
89	土師器	椀	13.3	5.7	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後未調整 高台貼り付け	下層	20%
90	土師器	高台付皿	13.0	(2.4)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	火熱により器面剥落のため調整不明	竈下層	90%
91	土師器	甕	19.4	31.4	8.6	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ	竈中層+下層	45%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M15	刀子	(5.8)	1.7	1.7	(16.1)	鉄	木質残存 身の幅1.0cm厚さ0.4cmの断面 三角形	覆土中	

第15号住居跡（第169・170図）

位置 調査V区のC 6 d2区で、標高48mほどの斜面部に位置している。

重複関係 第203・205号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.59m、短軸3.19mの方形で、主軸方向はN—25°—Wである。壁高は3～24cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。貼床は暗褐色土（覆土土層断面図、第7・8層）を埋め土して構築されている。掘り方は、全体がほぼ均一の深さで掘り込まれている。また、壁溝が東・西壁下で確認されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで128cm、袖部幅は85cmである。袖部は壁を階段状に掘削し、そこに土師器片を補強材として混ぜ込んだ白色粘土を充填して構築されている。火床部の底面は床面から15cm皿状に掘りくぼめて、暗褐色土（竈土層断面図、第8層）を埋め土している。埋土の上面が

火床面と想定される。火床部中央の煙道部寄りの位置に、土師器碗と土師器高台付皿が重ねられ、支脚に転用されている。火床面と支脚は赤変している。煙道部は壁外へ55cm掘り込まれている。第205号土坑に掘り込まれているため、立ち上がりはわずかに残っているのみである。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|--------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 炭化粒子多量, 焼土粒子中量 |
| 2 暗褐色 | 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 黄褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | | |

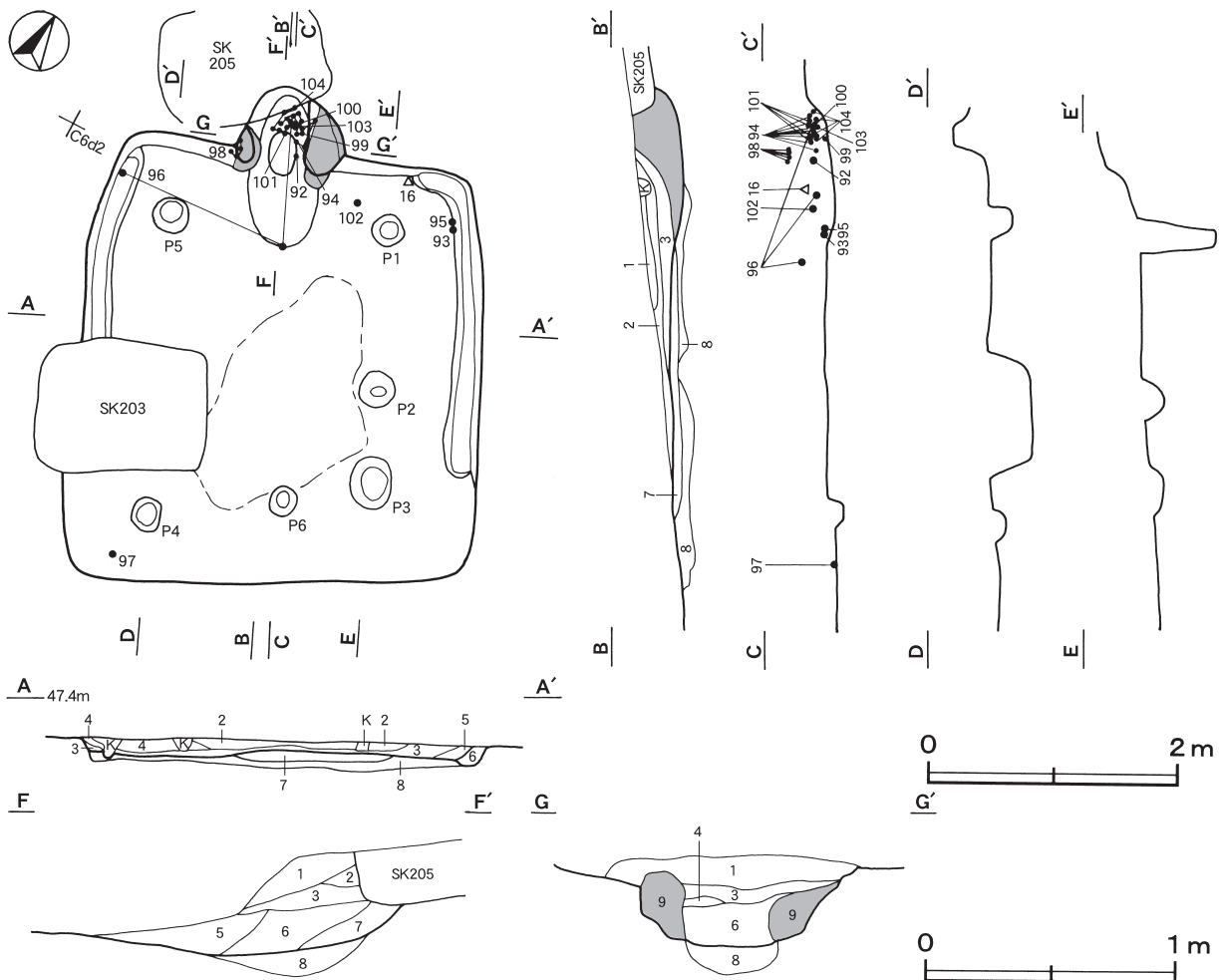
ピット 6か所。P1～P5は深さ11～60cmで、規模と配置から支柱穴であり本来は6本あったものと考えられる。P6は深さ9cmで、P3・P4間のほぼ中心に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。7・8層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量 |

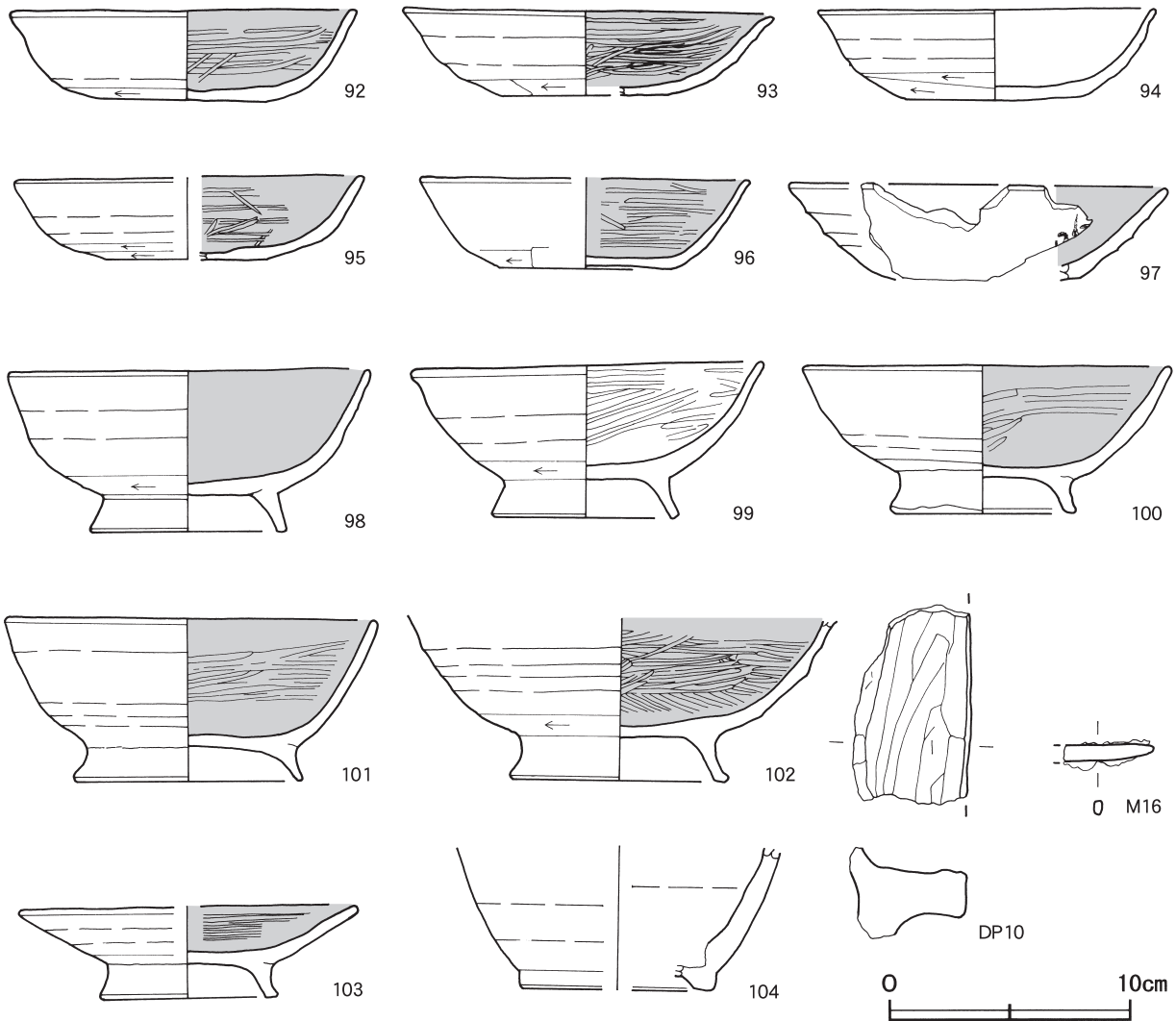
遺物出土状況 土師器片200点（坏131, 碗11, 鉢1, 甕類57）, 須恵器片1点（瓶）, 土製品1点（不明）, 鉄製品1点（刀子）が出土している。土器片は大半が小破片で全域に散在しており、特に竈内と竈前方に集中し



第169図 第15号住居跡実測図

ている。97は南西コーナー部の床面，98は竈を挟んで左側の北壁の壁面から潰れた状態で出土している。93・95・M16は北東コーナー部の覆土中層から下層にかけて，92は竈内の覆土中層から出土している。102・104は竈脇と竈内の覆土中層から出土している。96は北西コーナー部の覆土上層と竈内と竈前方の覆土中層から出土した破片が接合したものである。DP10は覆土中から出土している。壁際から出土した土器は，104のように器面及び破断面が摩滅していない破片が接合したものの，又は，離れた位置から出土した破片が接合したものであることから，廃絶後の窪地に廃棄されたものと考えられる。

所見 98は遺棄されたものと考えられ，棚状施設が構築されていた可能性がある。廃絶時期は，98及び壁際の覆土中から出土した土器から，10世紀初頭ないしそれ以前と考えられる。



第170図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表（第170図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
92	土師器	坏	14.0	3.9	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部ヘラ切り後ナデ	竈中層	100% 支脚に転用
93	土師器	坏	15.2	3.7	6.8	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後調整不明	下層	55%
94	土師器	坏	13.9	3.8	7.5	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面火熱による剥落のため調整不明	竈中層	60%
95	土師器	坏	[14.2]	3.4	6.4	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後調整不明	下層	70%
96	土師器	坏	[13.5]	3.7	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部ヘラ切り後ナデ	竈中層+中層+下層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
97	土師器	坏	[15.6]	(3.9)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面へラ磨き	床面	10% 墨書体部外面横位カ「□」
98	土師器	椀	14.6	6.6	8.0	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転へラ削り 内面未調整 底部切り離した後ナデ調整 高台貼り付け	北壁面	90%
99	土師器	椀	14.3	6.6	7.6	長石・雲母・黒色粒子	橙	普通	体部下端回転へラ削り 内面へラ磨き 底部切り離した後ナデ調整 高台貼り付け	竈火床部	70% 支脚に転用
100	土師器	椀	15.0	6.1	7.7	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転へラ削り 内面へラ磨き 底部切り離した後ナデ調整 高台貼り付け	竈中層	70% 支脚に転用
101	土師器	椀	15.1	6.8	9.3	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端未調整 内面へラ磨き 底部切り離した後ナデ調整 高台貼り付け	竈中層	70% 支脚に転用
102	土師器	椀	—	(6.5)	9.0	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端未調整 内面へラ磨き 底部切り離した後ナデ調整 高台貼り付け	中層	70%
103	土師器	高台付皿	[13.7]	3.8	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部内面へラ磨き 底部切り離した後ナデ	竈中層	40% 支脚に転用
104	須恵器	瓶	—	(6.0)	[7.8]	長石・石英・雲母・黒色粒子	青灰	普通	高台貼り付け	竈中層	10%

番号	器種	最大径	最小径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DF10	不明	(8.2)	(4.8)	(3.7)	(110.9)	粘土(長石・石英)	外面へラナデ ナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
MI16	刀子	(3.8)	(0.7)	0.4	(2.62)	鉄	茎部 断面方形	中層	

第16号住居跡 (第171・172図)

位置 調査V区のC5c8区で、標高49mほどの斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.16m、短軸3.06mの方形で、主軸方向はN—7°—Eである。壁高は24～35cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。壁溝が東・西・南壁下の一部に確認されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで132cm、袖部幅は105cmである。袖部は壁を階段状に掘り込んで暗褐色土を充填し、その上に土師器片を補強材として混ぜ込んだ白色粘土を盛り上げて構築されている。火床部は床面から17cm皿状に掘りくぼめて、褐色土(竈土層断面図、第8・9層)を埋め土している。埋土の上面が火床面と想定される。火床部中央の煙道部寄りの位置に、角柱状の自然礫が火床部の埋土に若干埋めこまれ、支脚として据えられている。支脚・火床面は赤変している。煙道部は壁外へ76cm掘り込まれ、奥壁に須恵器甌が斜位に据えられており煙出しに転用されている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|--------|--------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 灰褐色 | 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量 |
| 3 暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量 | | |

ピット 2か所。P1は深さ24cmで、南壁際中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P2は深さ5cmで、北西コーナーに位置しており、性格は不明である。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南東コーナーに位置している。径85cmの円形で、深さが47cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっており、断面碗状を呈している。貯蔵穴2は南西コーナーに位置している。径80cmの円形で、深さが43cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっており、断面碗状を呈している。覆土は両貯蔵穴ともに周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

貯蔵穴土層解説 (各貯蔵穴共通)

- | | | | |
|-------|---------|------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量 | | |

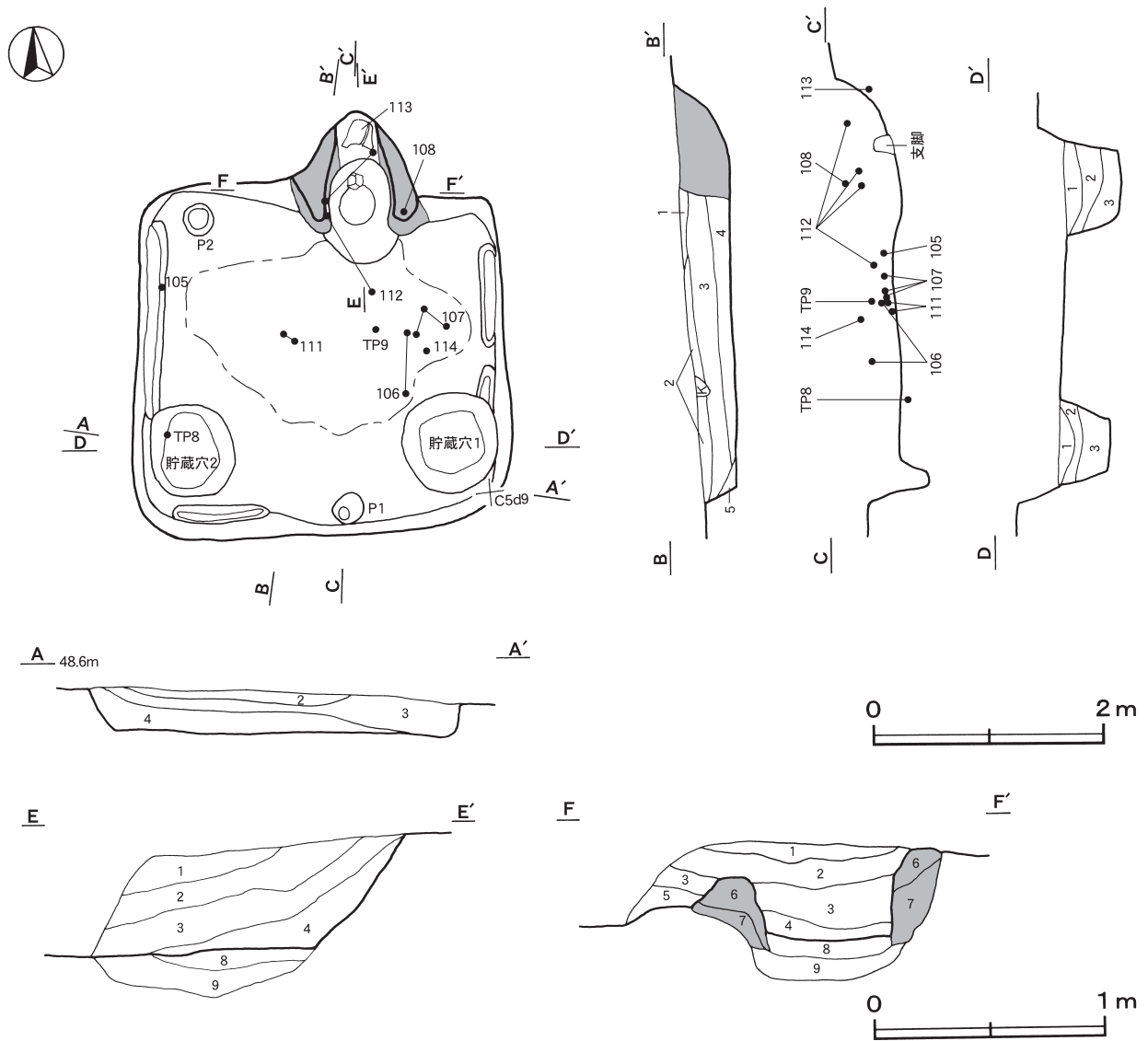
覆土 5層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

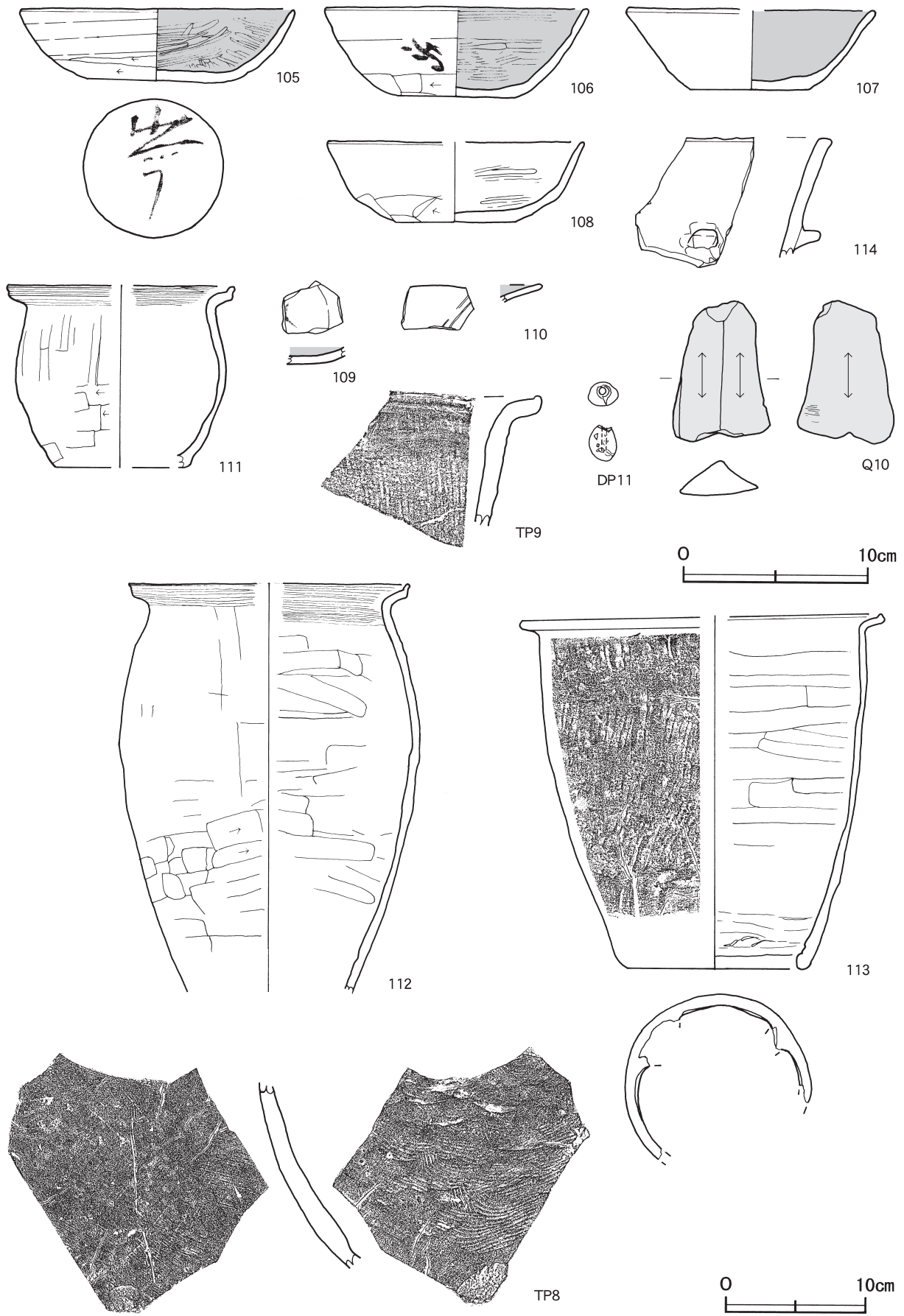
- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片227点（坏56，鉢5，甕・甑類166），須恵器片4点（甕1，甑3），土製品1点（土玉），石製品2点（支脚1，砥石1）が出土している。105は西壁際の覆土下層から出土している。106・107・111は中央部の覆土下層に散在している破片が接合したものである。112は竈覆土上層～中層と竈前方の覆土下層から出土した破片が接合したものである。109・110・Q10・DP11は覆土中から出土している。中央部と竈内及び竈前方から出土した土器は、離れた位置から出土した破片が接合しており廃絶後の窪地に廃棄されたものと考えられる。須恵器片も比較的大きな破片で、器面や破断面が摩滅しておらず廃棄されたものと考えられる。

所見 廃絶時期は、覆土下層から出土した土器及び須恵器貯蔵具が残ることから10世紀初頭ないしそれ以前と考えられる。



第171図 第16号住居跡実測図



第172图 第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表（第172図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
105	土師器	坏	14.7	4.1	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後ナデ	下層	90% 墨書 底部外面「峯」 PL25
106	土師器	坏	14.0	4.9	6.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラ削り	下層	70% 墨書 体部 外面 横位 「峯」 PL25
107	土師器	坏	[13.4]	4.4	6.4	長石・雲母・赤色粒子・白色針状鉱物	にぶい黄橙	普通	体部下端未調整 内面剥落のため調整不明 底部切り離し後ナデ	下層	50%
108	土師器	坏	[13.4]	4.4	6.6	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後ナデ	竈上層	30%
109	土師器	坏カ	-	(0.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書底部 内面「久」
110	土師器	高台付皿カ	-	(1.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 刻書 体部 外面「口」
111	土師器	甕	[12.1]	9.8	[7.0]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 後ナデ 内面ナデ	下層	20%
112	土師器	甕	[19.8]	(29.6)	-	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 後ナデ 輪積み痕あり 内面ナデ	竈上～中層+ 下層	35%
113	須恵器	甌	[26.0]	25.6	13.5	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面上半平行 叩き下半ヘラ削り 内面ヘラナデ ナデ	竈煙道部	75% 竈煙出し に転用
114	須恵器	甌	-	(6.5)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 把手は指頭により 整形しながら貼り付け	上層	5%
TP8	須恵器	甕	-	(14.0)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰白	普通	外面平行叩き後ナデ 内面弧状の当て具痕	貯蔵穴2	
TP9	須恵器	甌	-	(7.0)	-	長石・雲母・赤色粒子・白色針状鉱物	灰白	普通	外面平行叩き 内面指頭による押さえ	中層	

番号	器種	最大径	最小径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP11	土玉	1.6	1.3	1.9	3.2	粘土(長石)	形が歪んでいる 外面ナデ 焼成前穿孔 未貫通	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q10	砥石	7.7	5.2	2.6	(77.3)	凝灰岩	砥面3面 全面赤変	覆土中	

第17号住居跡（第173・174図）

位置 調査V区のC 6 a5区で、標高48mほどの斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.48m、短軸3.25mの方形で、主軸方向はN—30°—Wである。壁高は24～42cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。壁溝が北・東・西壁下に部分的に確認されている。

竈 西壁の中央部に付設されていたものが、北壁の中央部に改築されている。旧竈は壁外への掘り込みのみが確認され、暗褐色土で塞がれている。新竈の規模は焚口部から煙道部まで109cm、袖部は自然礫を火床部の掘り方に据えて、白色粘土に埋め込んでいる。袖材間は61cmである。両袖材とも全面が赤変しており、火床部側の礫面が強く赤変している。竈付近の床面から火熱により赤変した角柱状の自然礫が出土しており、自然礫を天井石と袖石を組んで焚口部を構築し、その周囲に白色粘土を盛り上げたものと考えられる。火床部は床面から5～17cm凹凸に掘りくぼめて、褐色土（竈土層断面図、第9・10層）を埋め土している。火床部中央部の煙道部寄りの位置に、砥石が支脚に転用され火床部埋土内に埋め込まれ、据えられている。支脚・火床面は赤変している。煙道部は壁外へ53cm掘り込まれており、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 赤褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 9 赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス中量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子微量 | 11 黄橙色 | ロームブロック・鹿沼バミス中量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | | |

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は竈の右脇に位置している。径47cmの円形で、深さが40cmである。底面はほぼ平坦で、壁は直立しておりピット状を呈している。貯蔵穴2は南西コーナーに位置している。径52cmの円形で、深さが19cmである。底面はほぼ平坦で、壁は直立しておりピット状を呈している。覆土の堆積状況は両貯蔵穴と

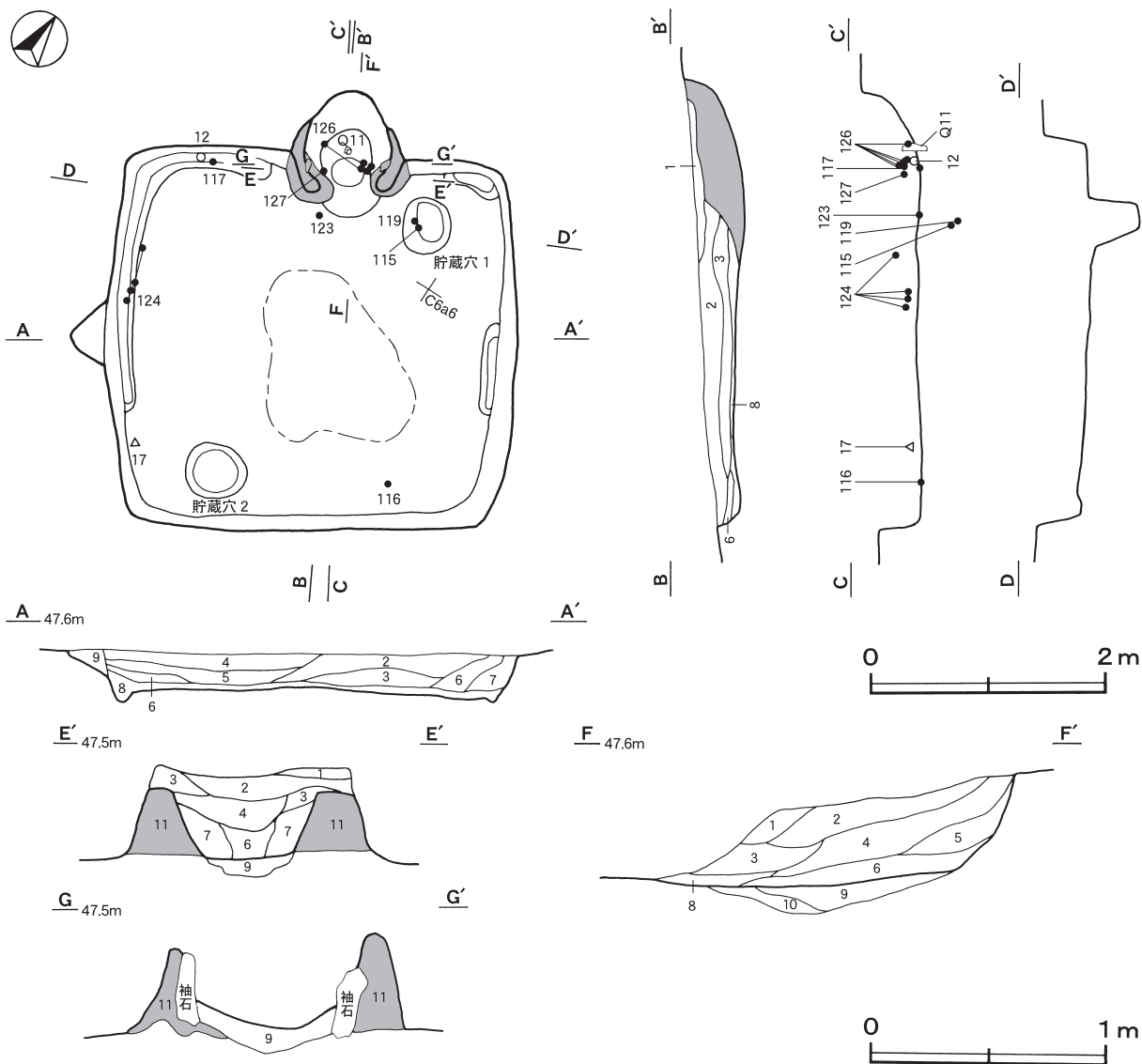
も不明である。

覆土 9層に分層される。床面全体に鹿沼パミスを含んでいるローム土（覆土土層断面図，第8層）が埋められ，その後は周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・鹿沼パミス微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 8 褐色 | 鹿沼パミス少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

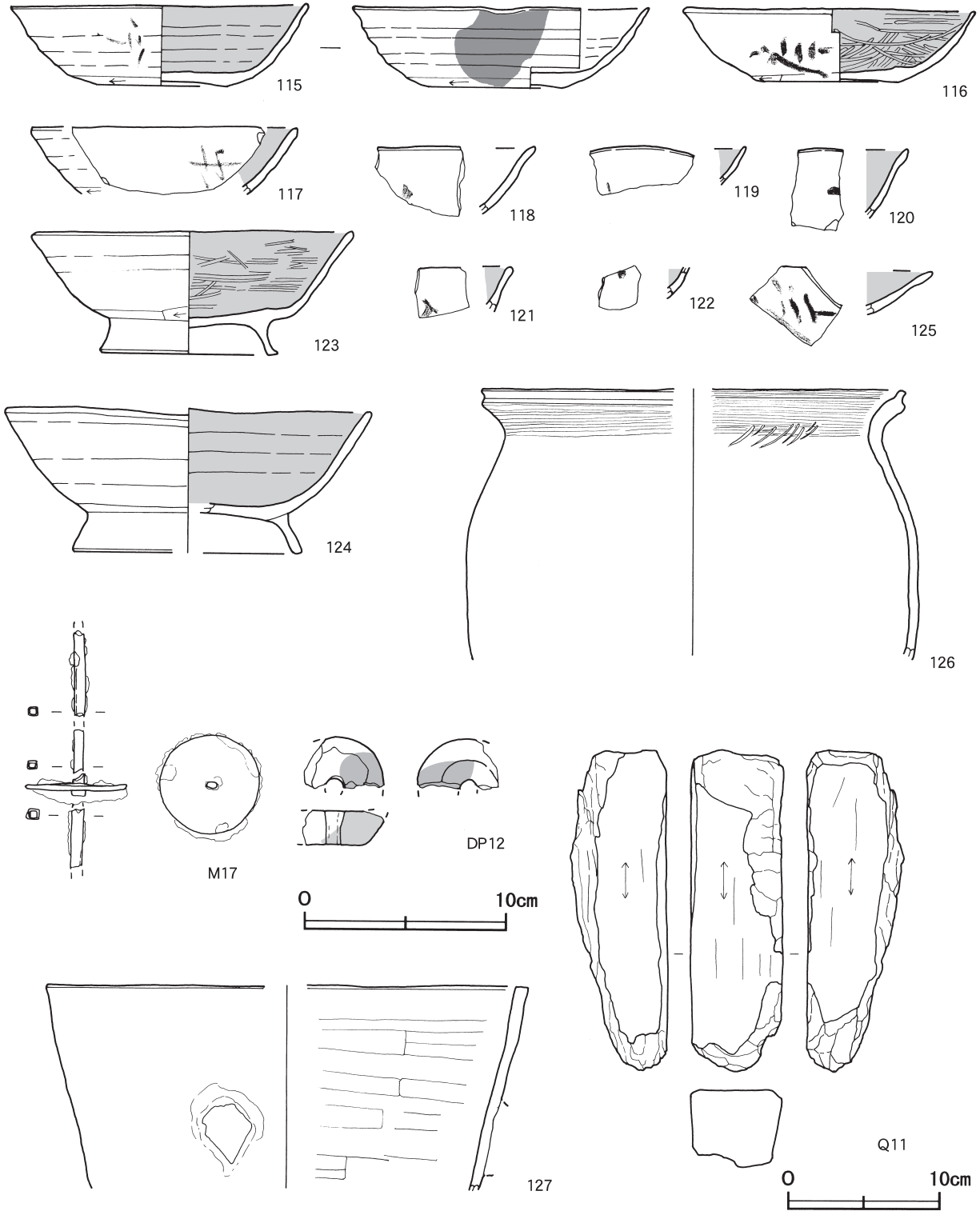
遺物出土状況 土器器片434点（坏177，碗25，鉢6，甕類226），灰釉陶器片1点，土製品1点（紡錘車），石製品2点（砥石1，支脚1），鉄製品1点（紡錘車）が出土している。土器片は大半が小破片で，全域に散在しており，特に竈内に集中している。115・119は貯蔵穴1の底面から出土している。116は南東コーナー部，123は竈前方の床面から出土しており，115とともに遺棄されたものと考えられる。117は北西コーナー部の壁溝内から出土している。124は西壁際の覆土下層に散在している破片が接合したものである。DP12は北西コーナー部，M17は南西コーナー部の覆土下層から出土している。118・120・121・122・125は覆土中から出土してい



第173図 第17号住居跡実測図

る。119のような小破片や覆土下層及び竈の覆土下層から火床部にかけて散在している遺物は、離れた位置から出土した破片が接合しており、廃絶時に埋め戻す際に廃棄されたものと考えられる。また、混入した陶器片が出土している。

所見 廃絶時期は、遺棄された土器及び須恵器が見られないことから10世紀前葉と考えられる。



第174図 第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表（第174図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
115	土師器	坏	14.6	4.1	6.5	長石・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面未調整 底部ヘラ切り後未調整	貯蔵穴1底面	95% 墨書 体部外面 横位[塞]油理付着 PL25
116	土師器	坏	14.4	3.8	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラ削り	床面	90% 墨書 体部外面 横位[塞] PL25
117	土師器	坏	[13.0]	(3.4)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラ磨き	壁溝内	20% 墨書 体部外面 横位[塞カ]
118	土師器	坏	—	(3.5)	—	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 体部外面「□」
119	土師器	坏カ	—	(1.9)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き	貯蔵穴1底面	5% 墨書 体部外面「□」
120	土師器	坏カ	—	(3.6)	—	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 体部外面「□」
121	土師器	坏カ	—	(2.3)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 体部外面「□」
122	土師器	坏カ	—	(1.6)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 体部外面「□」
123	土師器	椀	15.8	6.3	8.8	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後ナデ 高台貼り付け	床面	95%
124	土師器	椀	18.0	7.3	[11.3]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部下端・内面未調整 底部切り離し後ナデ 高台貼り付け	下層	45%
125	土師器	高台付皿	—	(2.2)	—	長石・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 体部外面 横位[塞]
126	土師器	甕	[20.8]	(13.3)	—	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラ状工具の アタリ 体部内・外面ナデ	竈下層	20%
127	土師器	甌	[31.6]	(13.7)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	普通	口縁部・体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ	竈火床部	5%

番号	器種	上面径	下面径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP12	紡錘車	(2.6)	(2.8)	1.8	(16.5)	粘土(長石・石英・雲母)	外面丁寧なナデで平滑	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q11	支脚	21.2	6.1	6.5	1400	砂岩	砥石転用 砥面3面 全ての砥面に線状痕あり 全面に粘土付着 赤変	火床部設置	

番号	器種	長さ	紡茎部幅	紡茎部厚さ	重量 (紡輪+茎部)	材質	特徴	出土位置	備考
M17	紡錘車	(11.7)	0.7	0.5	(30.0)	鉄	紡輪径4.9cmの円盤形 紡茎断面方形で中空	下層	

第18号住居跡（第175図）

位置 調査V区のB 6 d1区で、標高50mほどの斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.06m、短軸2.87mの方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は11~30cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。壁溝が西壁下及び東壁下の一部に確認されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで101cm、袖部幅は107cmである。袖部は床面から8cmだけ白色粘土の盛り上がり確認されている。火床部は床面より10cm皿状に掘りくぼめて、暗褐色土（竈土層断面図、第5層）を埋め土している。火床面は赤変している。煙道部は壁外へ66cm掘り込まれており、火床部から緩やかに立ち上がってさらに外傾しており、厚さ7~33cmの白色粘土が貼り付けられている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | 焼土粒子中量、粘土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子微量 | 6 灰褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |

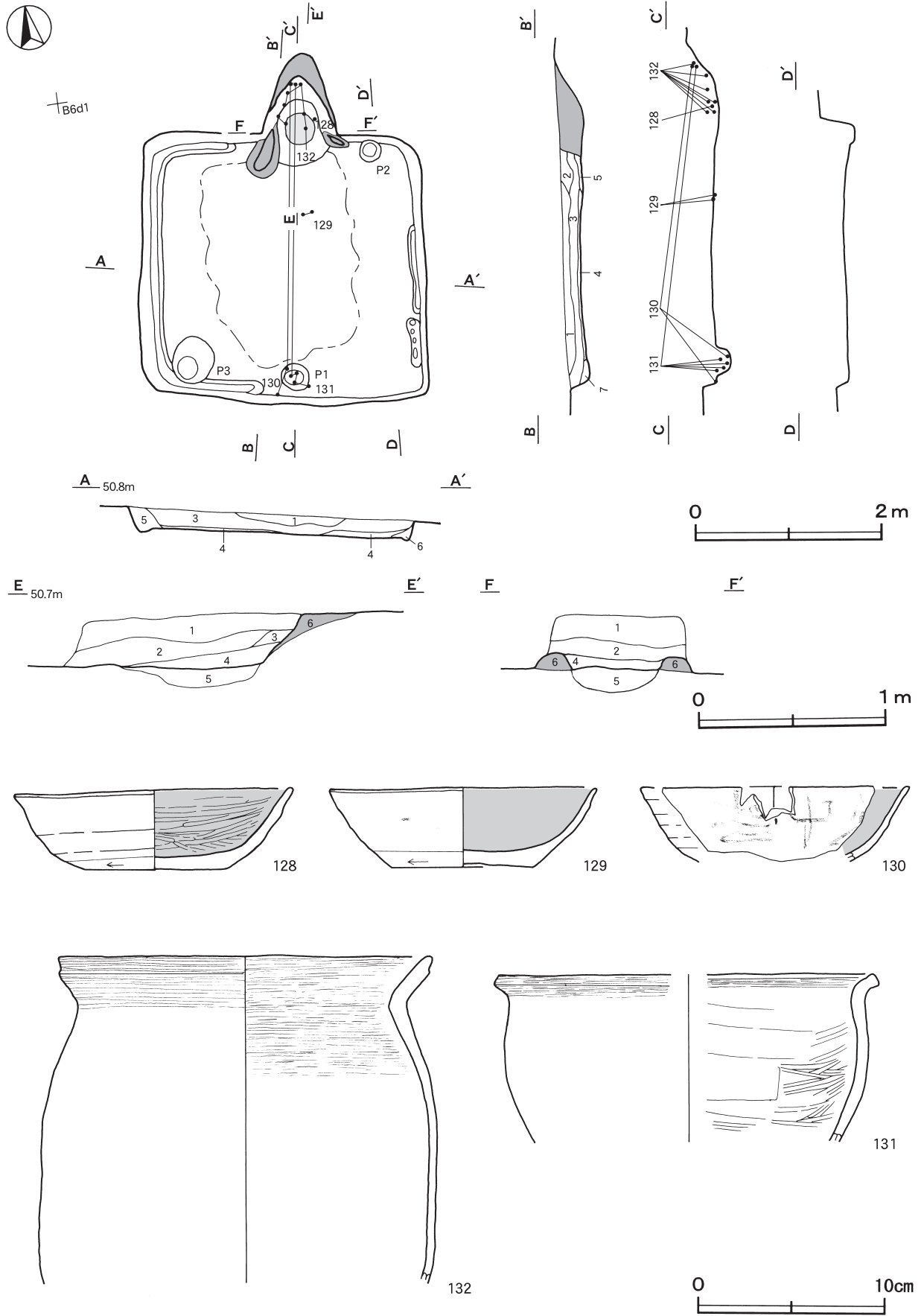
ピット 3か所。P 1は深さ16cmで、南壁際中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P 2・P 3は深さ9~26cmで、性格は不明である。

覆土 7層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |



第175図 第18号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片114点（坏62，椀3，甕類49）が出土している。土器の大半は小破片で，南壁際と竈内に集中している。129は中央部の床面から潰れた状態で出土しており，遺棄されたものと考えられる。128は竈の覆土下層から出土しており，二次的な火熱痕が見られないことから廃絶後に廃棄されたものと考えられる。130・131はP1の覆土上層から底面にかけて出土した破片と，竈の覆土上層から出土した破片が接合したものである。132は竈の覆土上層から火床部にかけて出土した破片が接合したものである。接合する破片が竈とP1という正対する位置から出土しており，廃絶後の窪地に意図的に正対する位置に分けて廃棄した可能性がある。また，流れ込んだ縄文土器片，石鏃が出土している。

所見 廃絶時期は，床面出土の土器及び須恵器が見られないことから10世紀前葉と考えられる。

第18号住居跡出土遺物観察表（第175図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
128	土師器	坏	14.6	4.5	7.6	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面未調整 底部切り離し後ナデ	竈下層	100% 二次火熱痕無し
129	土師器	坏	14.0	4.3	7.6	長石・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラ削り	床面	90% 墨書カ
130	土師器	坏	[14.3]	(4.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	P1+竈上層	20% 墨書 体部外面 横位 [□□□] PL25
131	土師器	鉢	[19.9]	(9.0)	—	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 後ナデ 内面ヘラ磨き	P1+竈上層	10% 体部外面煤付着 内面黒変
132	土師器	甕	19.6	(17.5)	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面器面剥落のため調整不明	上層+下層	25%

第19号住居跡（第176図）

位置 調査V区のB6j7区で，標高48mほどの斜面部に位置している。

規模と形状 長軸2.97m，短軸2.40mの方形で，主軸方向はN—14°—Wである。壁高は24～45cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部の狭い範囲に硬化面が確認されているが，全体的に軟弱である。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで75cmである。袖部は遺存していない。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は焼土粒子・炭化粒子が広がっているだけで，赤変等は見られない。煙道部は壁外へ59cm掘り込まれており，火床部から外傾して立ち上がっている。

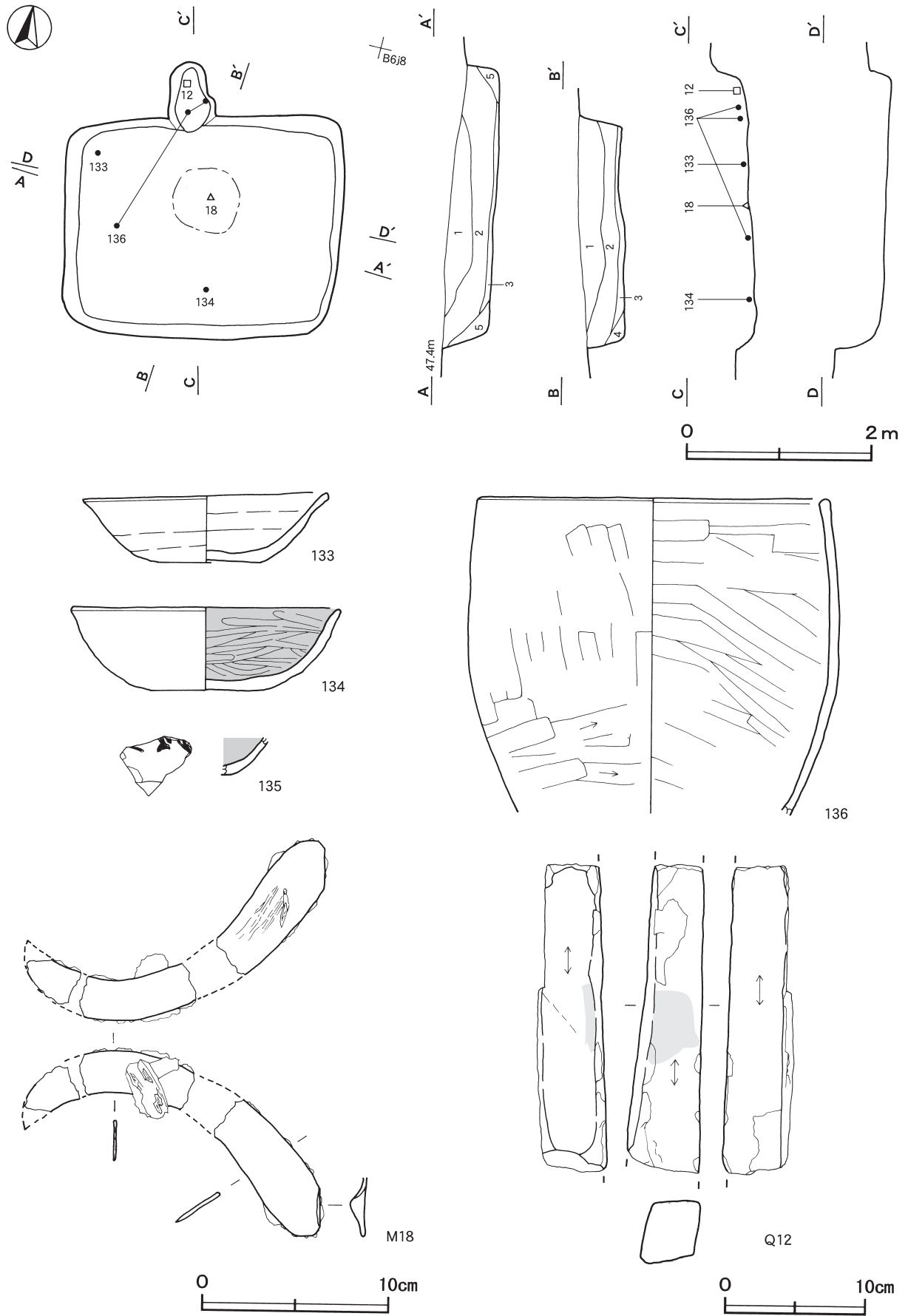
覆土 5層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 黒色 | ロームブロック微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 土師器片157点（坏24，鉢37，甕類96），須恵器片1点（坏），石製品1点（砥石），鉄製品1点（鎌）が出土している。土器片は大半が小破片で，全域に散在している。M18は中央部の床面から出土しており，遺棄されたものと考えられる。133は北西コーナー部の覆土下層から出土している。完形品であり壁面に置かれて遺棄されていたものが，土砂の流入とともに転落した可能性がある。134は南壁寄りの覆土下層から出土している。136は竈の覆土下層と西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。Q12は竈の覆土下層から出土している。135は覆土中から出土している。覆土下層から出土している遺物は，離れた位置から出土した破片が接合した136のように，廃絶後の窪地に廃棄されたもの，又は，破断面や器面が摩滅している須恵器坏片のように流入したものと考えられる。

所見 廃絶時期は，覆土下層から出土した土器及び須恵器が伴わないことから10世紀前葉ないしそれ以前と考えられる。



第176図 第19号住居跡・出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表（第176図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
133	土師器	坏	13.0	3.8	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端末調整 内面未調整 底部ヘラ切り後未調整	下層	100%
134	土師器	坏	14.2	4.5	6.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き 器面剥落のため体部下端 底部調整不明	下層	85%
135	土師器	坏	—	(2.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 体部外面 横位カ「□□」
136	土師器	甗カ	25.1	(22.8)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラナデ	下層+竈下層	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q12	砥石	(22.1)	(5.3)	(5.1)	(910)	砂岩	砥面3面 2面の一部が二次火熱により赤変 端部に粘土付着	竈下層	支脚に転用カ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M18	鎌	(15.9)	(5.5)	0.2	(44.0)	鉄	曲刃 端部折り返し 表裏面に木質癒着 表面に別個体の鉄製品癒着	床面	

第20号住居跡（第177図）

位置 調査VI区のC 8 f0区で、標高38mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

確認状況 道路部分は未調査であるため、全体は確認されていない。

重複関係 第283号土坑と第10号溝と第5号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸1.80m、南北軸2.00mだけが確認され、形状は不明である。西壁のラインを主軸と想定すると、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は20cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、南壁際は踏み固められておらず、中央部から北壁側にかけて硬化面が広がっていたと推測される。

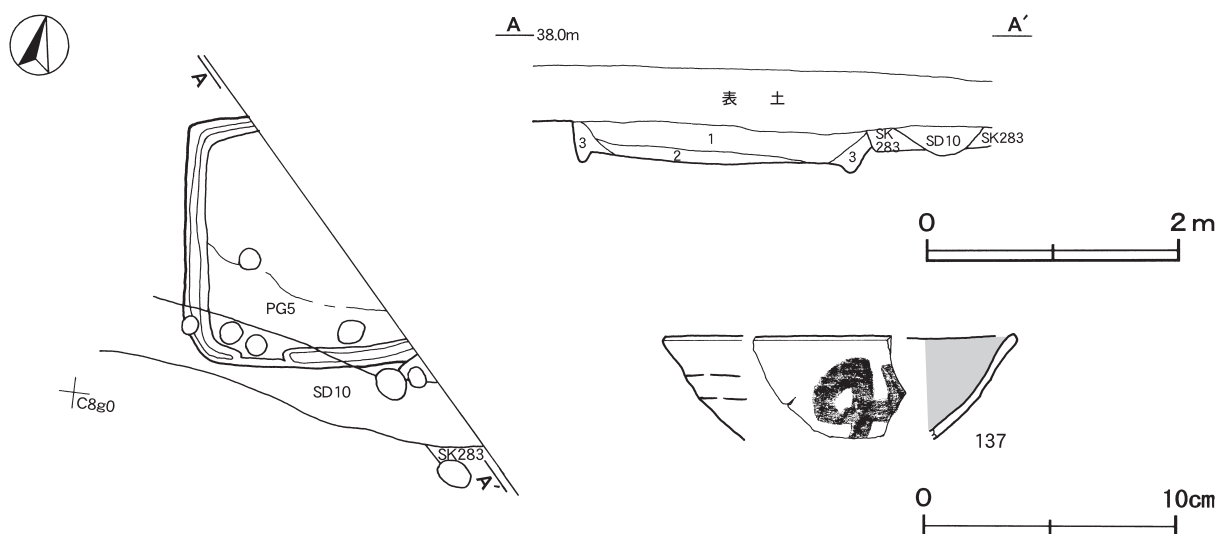
覆土 3層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片9点（坏2，碗1，甗類6）が出土している。137は覆土中から出土している。

所見 調査範囲が狭く詳細は不明である。土師器片も細片が多く時期を明確にできないが、集落の継続期間内に属する10世紀代と考えられる。



第177図 第20号住居跡・出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表（第177図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
137	土師器	坏	[13.8]	(4.1)	—	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	10% 体部外面 墨書「□」

第21号住居跡（第178・179図）

位置 調査VI区のB 8 b0区で、標高39mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

重複関係 第323・324・344号土坑と第14号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.18m、短軸2.86mの長方形で、主軸方向はN—88°—Eである。壁高は10~26cmで、ほぼ直立している。

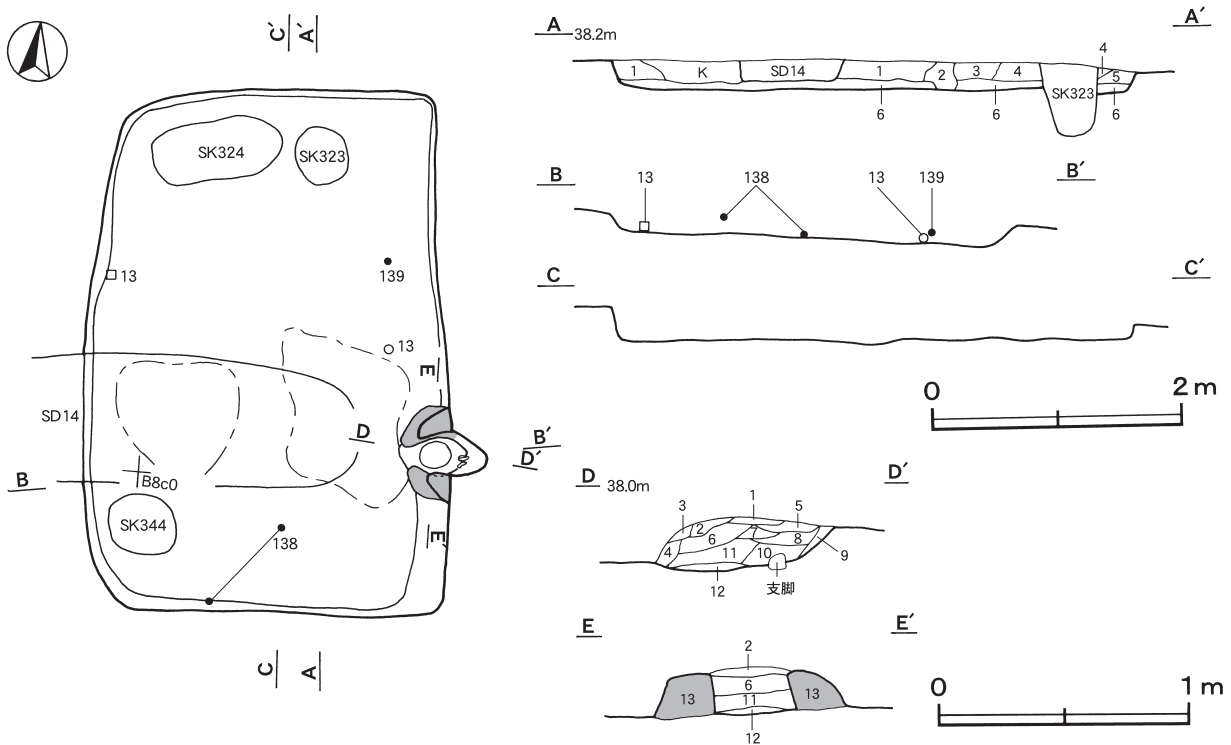
床 ほぼ平坦で、竈の前方と西壁寄りの位置がよく踏み固められている。

竈 東壁の南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで75cm、袖部幅は73cmである。袖部は床面上に白色粘土を盛り上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床部の奥壁寄りの位置にあるピット状の掘り込みの中に、角柱状の自然礫が支脚として据えられている。支脚の全面と火床面は、赤変している。煙道部は壁外へ35cm掘り込まれており、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子微量 | 9 赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子微量 | 10 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 4 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗赤褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 赤色 焼土ブロック多量、炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 13 黄橙色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 7 赤褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | |

覆土 6層に分層される。同一層と捉えられる土砂が床面全体に厚く堆積しており、その上層も不規則な堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。



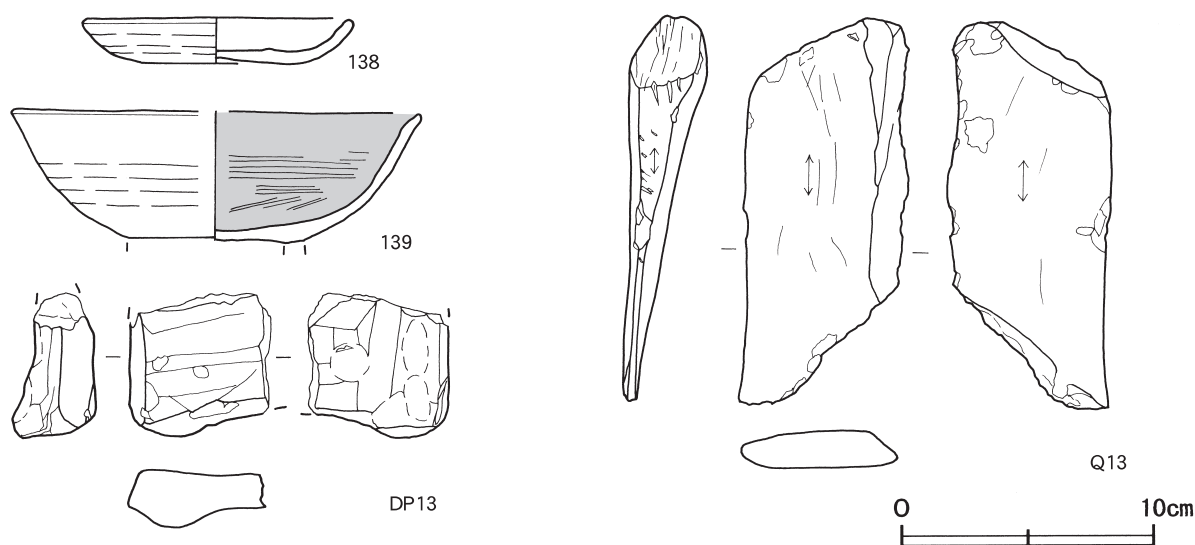
第178図 第21号住居跡実測図

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片60点（小皿4， 坏31， 碗1， 鉢2， 甕類22）， 土製品1点（不明）， 石製品1点（砥石）が出土している。土器の大半は小破片で， 全域の覆土下層から床面にかけて集中している。Q13は西壁際の床面から出土しており， 遺棄されたものと考えられる。138は南壁際の覆土下層の破片と中央部寄りの床面から出土した破片が接合したものである。139・DP13は東壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。覆土下層から床面にかけて出土した遺物は， 離れた位置から出土した破片が接合しており， 廃絶後埋め戻す際に廃棄されたものと考えられる。

所見 廃絶時期は， 土師器小皿が見られることから10世紀中葉ないしそれ以前と考えられる。



第179図 第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表（第179図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
138	土師器	小皿	10.5	1.8	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り後未調整	床面+下層	95% 二次火熱により外面煤付着内面剥落 PL25
139	土師器	碗	[16.4]	(5.2)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下端未調整 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後ナデ	下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP13	不明	(5.8)	(5.6)	3.3	(87.3)	粘土(石英)	外面ヘラナデ ナデ 指頭痕あり	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q13	砥石	15.5	6.5	3.1	286	凝灰岩	砥面3面 3面に線状痕あり	床面	

第22号住居跡（第180・181図）

位置 調査VI区のB 8 e0区で， 標高38mほどの緩やかに傾斜した斜面部に位置している。

重複関係 第428号土坑を掘り込み， 第301・326号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.60m， 短軸3.03mの方形で， 主軸方向はN—0°である。壁高は12～23cmで， ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。壁溝が北東コーナーから西壁中央の壁下で確認されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで118cm、袖部幅は105cmである。袖部は火床部の掘り方に白色粘土を盛り上げて構築されており、右袖部の内部には角柱状の自然礫が芯材で使用されている。また、二次的な火熱で器面が赤変・剥落している土師器片は、白色粘土に混ぜられた補強材と考えられる。火床部は床面より14cm凹凸に掘りくぼめて、黒褐色土（竈土層断面図、第4層）を埋め土しており、火床面は赤変している。煙道部は壁外へ71cm掘り込まれており、火床部から外傾して立ちあがっている。

竈土層解説

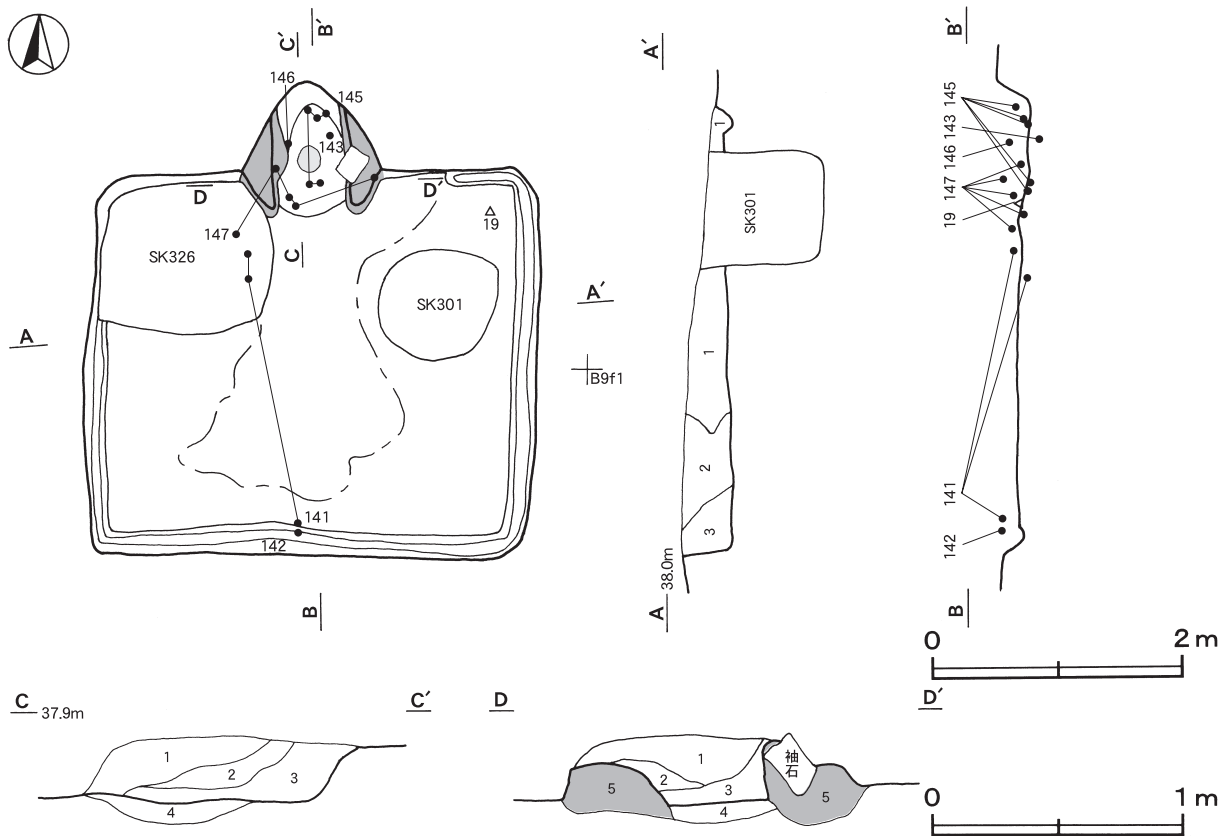
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 黄橙色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

覆土 3層に分層される。ロームブロックを含んでいる土砂が不規則に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | | |

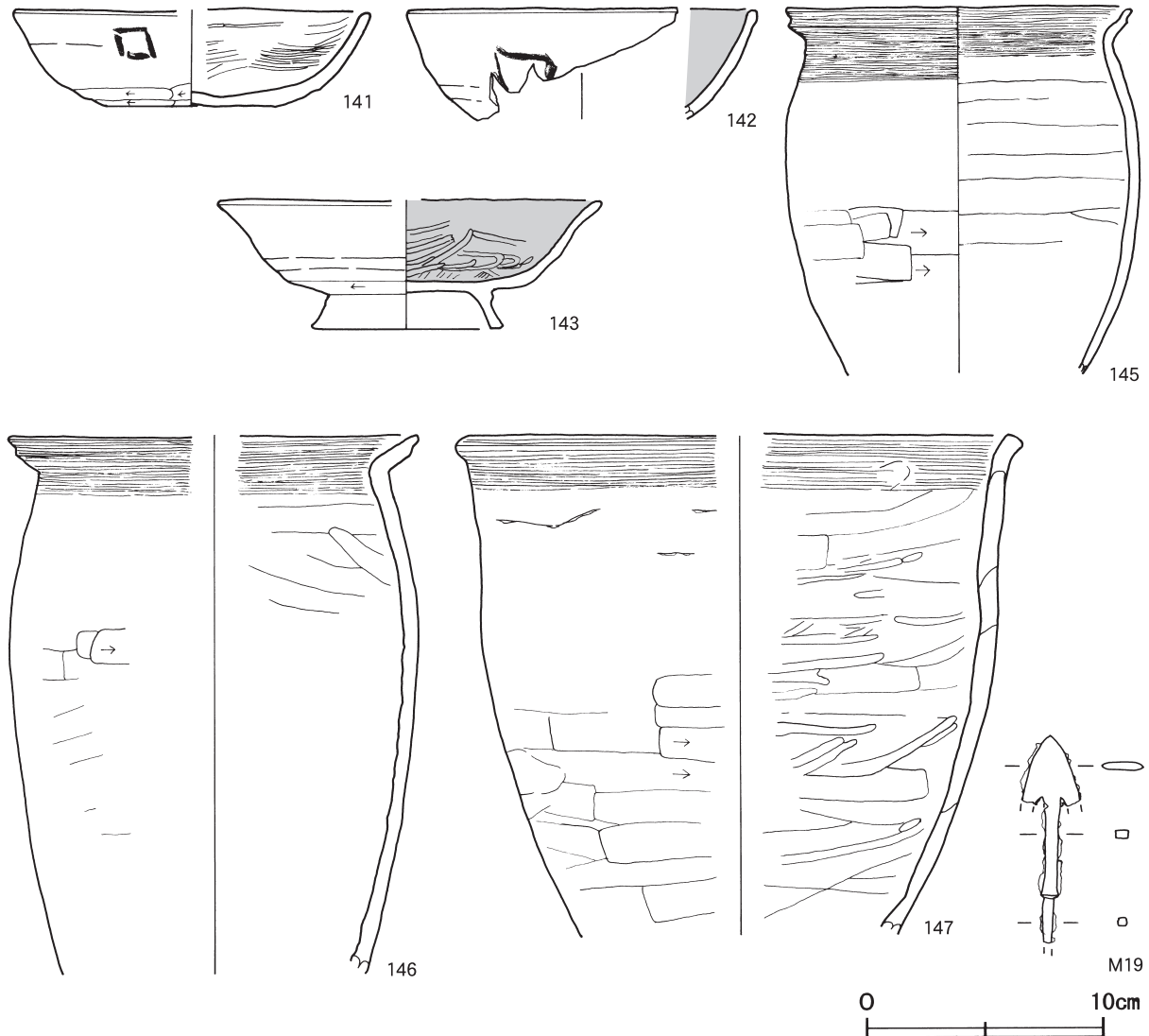
遺物出土状況 土師器片147点（坏39, 椀4, 鉢6, 甕類98）、須恵器片1点（甕）、鉄製品1点（鉄鏃）が出土している。土器片は大半が小破片で、竈前方及び竈内から多く出土している。141は南壁中央際の覆土下層から出土した破片と第326号土坑に混入した破片が接合したものである。142は南壁中央際の覆土下層から、M19は北東コーナー際の覆土下層から出土している。143は竈の火床部から出土している。145は竈の覆土中層から火床部に散在している破片が接合したものである。146は竈中層から出土している。147は竈内と竈脇及び前



第180図 第22号住居跡実測図

方の覆土下層から出土した破片と第326号土坑に混入した破片が接合したものである。須恵器甕片は細片であり、混入したものである。

所見 廃絶時期は、竈の補強材に転用された143及び須恵器が見られないことから10世紀中葉以降と考えられる。



第181図 第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表（第181図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
141	土師器	坏	[14.6]	4.1	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部ヘラ切り後未調整	下層+ SK326混入	45% 墨書 体部 外面 横位カ 「口」
142	土師器	坏	[14.5]	(4.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	10% 墨書 体部 外面「口」
143	土師器	椀	16.0	5.5	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	竈火床部	70% 二次火 熱痕
145	土師器	甕	14.4	(15.5)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 後ナデ 内面ヘラナデ	竈火床部+竈 中～下層	60%
146	土師器	甕	[16.8]	(22.6)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 後ナデ 内面ヘラナデ	竈中層	10%
147	土師器	甕カ	[22.7]	(3.0)	—	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナ デ 輪積み痕あり 内面ヘラナデ ヘラ磨き	竈+下層+ SK326	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M19	鉄鏃	(8.8)	(2.5)	(0.4)	(10.4)	鉄	筥被部・基部断面方形 腸袂欠損	下層	

第23号住居跡 (第182・183図)

位置 調査VI区のB 8 j0区で、標高38mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

規模と形状 長軸3.80m、短軸2.97mの方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁高は15~20cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて全体的に踏み固められている。壁溝が東・西・南壁下で確認されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで98cm、袖部幅は133cmである。袖部は床面に白色粘土を盛り上げて構築されている。火床部は床面から17cm皿状に掘りくぼめて、褐色土(竈土層断面図、第13層)を埋め土している。火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外へ57cm掘り込まれており、火床部から外傾して立ちあがっている。

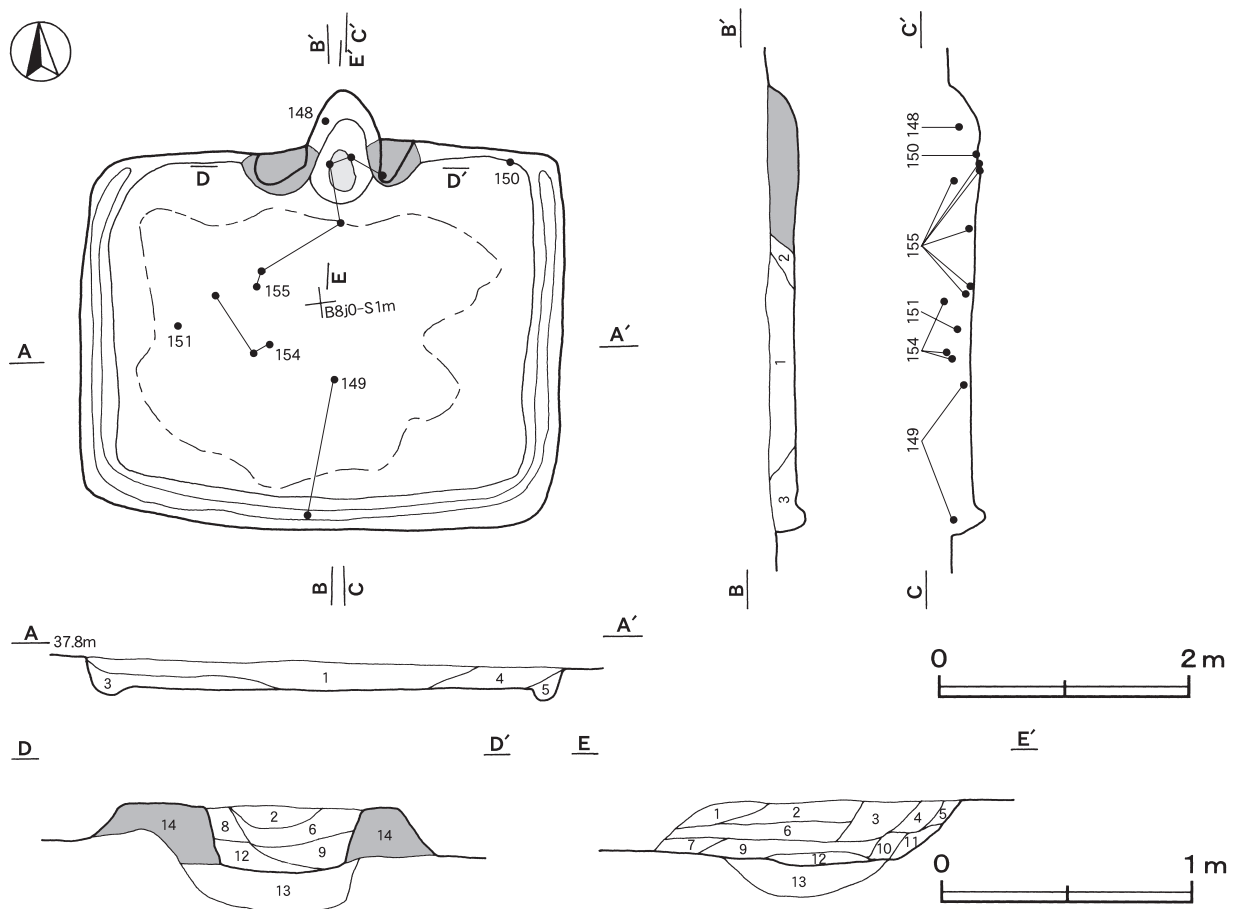
竈土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1 灰褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 灰褐色 粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 焼土ブロック・炭化物微量 | 9 灰黄褐色 粘土粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 10 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 12 灰黄褐色 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 13 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 7 灰黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 黄橙色 焼土ブロック少量 |

覆土 5層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

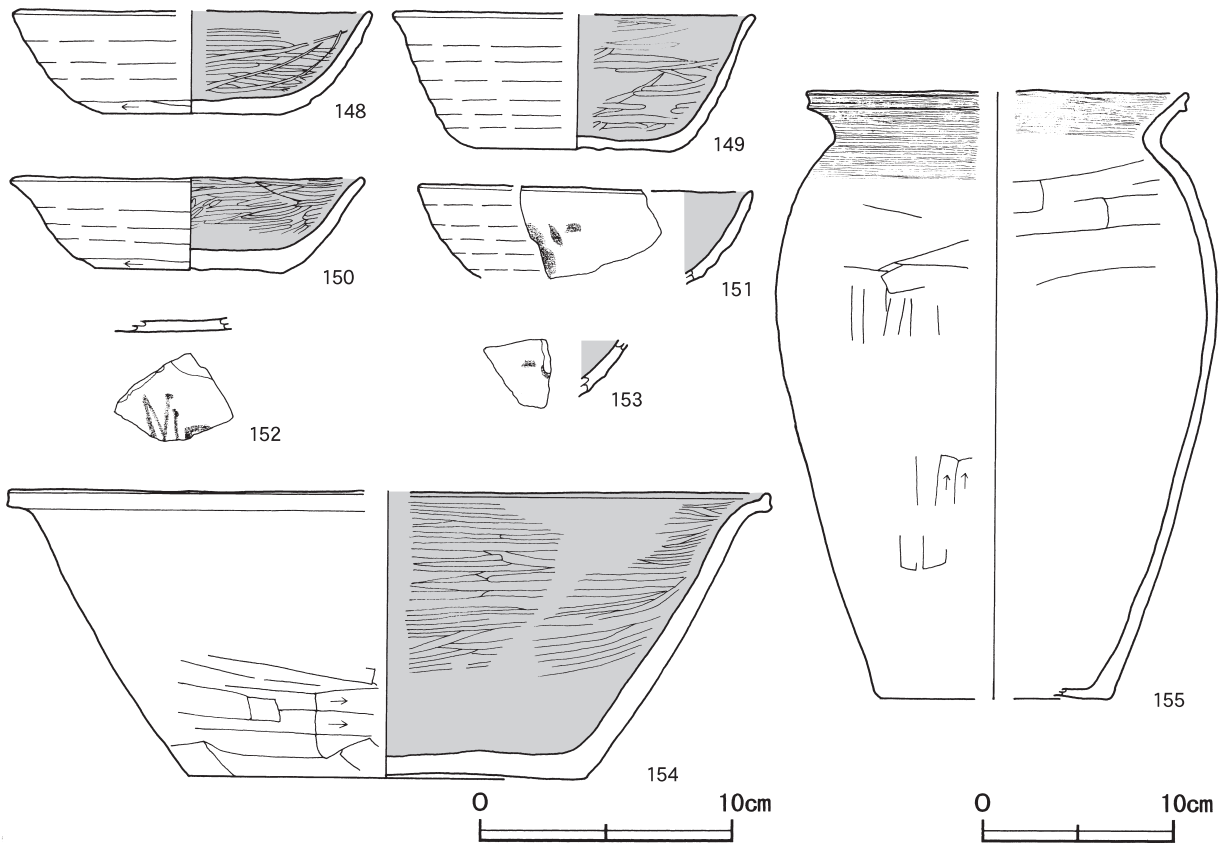
- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | |



第182図 第23号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片191点（坏43，鉢10，甕類138），須恵器片2点（甕）が出土している。土器の大半は小破片で，竈前方及び中央部から集中している。150は北東コーナー部の床面から出土している。148は竈上層から出土している。151は西壁寄りの覆土上層から出土している。149は中央部の覆土下層と南壁際の覆土上層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。154は中央部の覆土上層に散在している破片が接合したものである。155は竈の覆土上層から火床部にかけて散在している破片と，竈前方の覆土下層と中央部の床面から出土した破片が接合したものである。離れた位置から出土した破片が接合したものは，廃絶後の窪地に廃棄されたもの，器面や破断面が摩滅した須恵器片は流入したものと考えられる。

所見 廃絶時期は，出土土器及び須恵器が見られないことから10世紀前葉ないしそれ以前と考えられる。



第183図 第23号住居跡出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表（第183図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
148	土師器	坏	[14.0]	4.1	7.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部切離し後回転ヘラ削り	竈上層	70%
149	土師器	坏	[14.1]	5.4	7.8	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラケズリ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後未調整	上層+下層	50%
150	土師器	坏	13.9	3.9	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部ヘラ切り後未調整	床面	45%
151	土師器	坏	[13.1]	(3.7)	-	石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部内面ヘラ磨き	上層	10% 墨書 体部外面「人」
152	土師器	坏カ	-	(0.5)	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部内面ヘラ磨き 底部切り離し後回転ヘラ削り	覆土中	5% 墨書 底部外面「峯カ」
153	土師器	坏カ	-	(2.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 体部外面「口」
154	土師器	鉢	[30.1]	11.5	15.7	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラ磨き	上層	30% 体部外面二次火熟痕
155	土師器	甕	[19.8]	32.4	[12.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ ナデ 内面ヘラナデ ナデ	竈+床面+下層	35%

第24号住居跡（第184・185図）

位置 調査VI区のB 8 i6区で、標高39mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

重複関係 第342号土坑、第8号井戸、第11・12号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.10m、短軸3.06mの方形で、主軸方向はN-5°-Eである。壁高は5~12cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm、袖部幅は90cmである。袖部は床面上に白色粘土を盛り上げて構築されている。火床部は床面から21cm皿状に掘りくぼめて、褐色土（竈土層断面図、第6層）を埋め土している。火床面は赤変している。煙道部は壁外へ30cm掘り込まれており、火床部は緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 4 黒褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、粘土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |

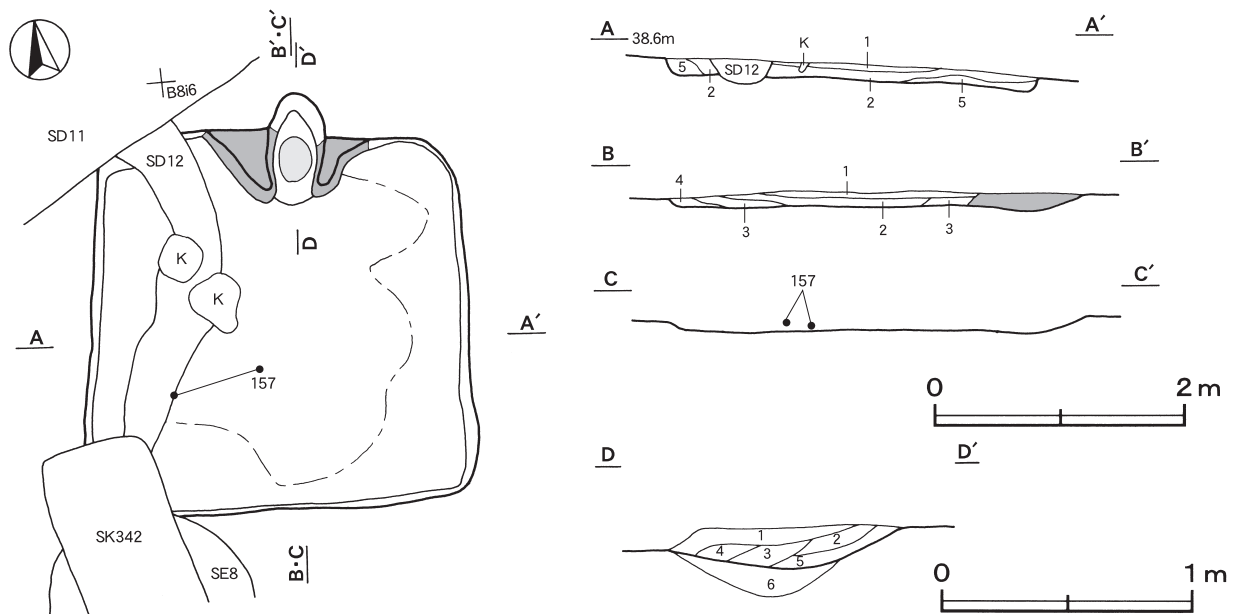
覆土 5層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

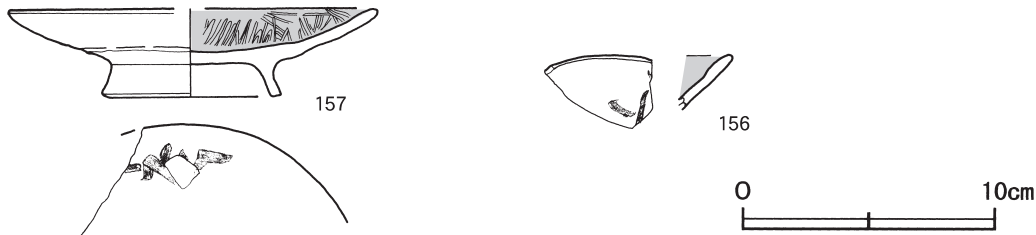
- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片116点（坏51、椀1、高台付皿2、甕類62）が出土している。土器の大半は小破片で、中央部と竈内に集中している。157は中央部の覆土下層に散在している破片が接合している。156は覆土中から出土している。覆土下層から出土している土器は、離れた位置から出土した破片が接合しており、廃絶後の窪地に廃棄されたものである。また、混入した陶器片が出土している。

所見 廃絶時期は、157から10世紀初頭ないしそれ以前と考えられる。



第184図 第24号住居跡実測図



第185図 第24号住居跡出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表（第185図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
156	土師器	坏カ	—	(2.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面へら磨き	覆土中	5% 墨書 体部外面 横位「峯カ」
157	土師器	高台付皿 [14.5]	14.5	3.5	7.1	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端未調整 内面へら磨き 底部切り 離した後ナデ 高台貼り付け	下層	65% 墨書 体部外面 横位「峯カ」

第25号住居跡（第186図）

位置 調査VI区のC 9 e1区で、標高39mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

確認状況 遺構確認の段階で削平された状態で確認されており、掘り込みはほとんど遺存していない。

重複関係 第406・408・409・413・415号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.84m、短軸3.62mの方形で、主軸方向はN—100°—Eである。壁高は南西コーナー部で、5～16cmで、ほぼ直立している。

床 覆土が残っていた範囲ではほぼ平坦であり、硬化面も部分的に確認されている。

竈 火床面と考えられる赤変した範囲が東壁の中央部に確認されている。前方がよく踏み固められている。

炉 南東コーナー部に位置している。長径50cm、短径45cmの、床面から10cm掘りくぼめて構築された地床炉である。炉石は長軸方向に直交して据えられており、炉床は赤変している。

炉土層解説

1 赤 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 2 褐 色 ローム粒子中量

ピット 3か所。P 1・P 2は深さ40cm・45cmで、西壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 3は深さ12cmで、性格不明である。

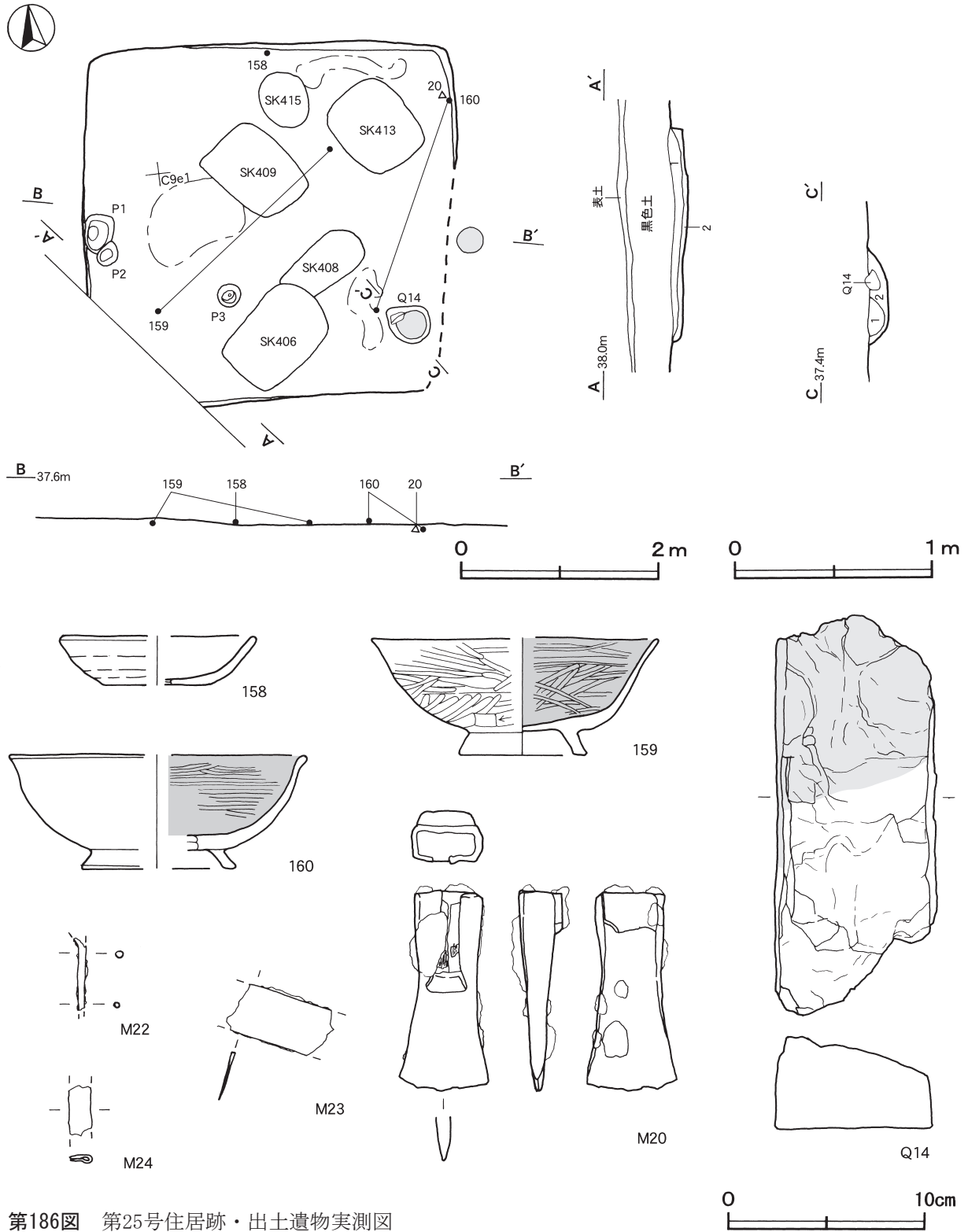
覆土 2層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量 2 暗 褐 色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片29点（小皿5、坏11、椀2、甕・甔類11）、鉄製品4点（紡錘車1、鎌1、斧1、不明1）が出土している。土器の大半は小破片で、炉の周辺から比較的多く出土している。158・M20は北壁際及び北東コーナー部の床面からそれぞれ出土しており、遺棄されたと考えられる。159は中央部の床面に散在している破片が接合したものである。160は炉周辺及び北東コーナー際の床面からそれぞれ出土した破片が接合したものである。M22～M24は覆土中から出土している。159・160は離れた位置から出土した破片が接合しており、廃絶後の窪地に廃棄されたものである。他に、混入した陶器片が出土している。

所見 廃絶時期は、158・159・160から10世紀中葉ないしそれ以前と考えられる。竈と炉を持つ住居形態は、つくば市島名熊の山遺跡にも類例が見られ、手工業生産が行われていた可能性が指摘されている。本跡も同様な性格を持つ住居の可能性がある。



第186図 第25号住居跡・出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表 (第186図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
158	土師器	小皿	[9.6]	2.5	[5.4]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り後未調整	床面	35%
159	土師器	椀	[14.3]	5.9	6.4	長石・雲母・黒色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内外面ヘラ磨き 底部切り離し後高台貼り付け	床面	60%
160	土師器	椀	[14.8]	5.8	[7.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端末調整 内面ヘラ磨き 底部切り 離し後高台貼り付け	床面	35%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q14	炉石	20.3	8.2	5.7	1140	チャート	礫面の全面が赤変	炉焼土層中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M20	斧	10.0	4.5	2.4	(158.30)	鉄	両刃の有袋鉄斧 刃部は撥形に開く 袋部の翼状の折り返しに間隔を持つ 袋部の内部に柄の本質遺存	床面	
M22	紡錘車	(3.7)	(0.7)	0.4	(1.38)	鉄	紡軸 断面円形	覆土中	
M23	鎌	(5.3)	2.5	0.2	(10.20)	鉄	両端欠損	覆土中	
M24	不明	(2.5)	(1.2)	(0.4)	(1.40)	鉄	板状の鉄を折り返している	覆土中	

(2) 火葬墓

第1号火葬墓 (第187図)

位置 調査I区西端のA2d2区で、標高51mほどの丘陵上の平坦部に位置している。

規模と形状 骨蔵器を埋納する土坑は、径0.2mほどの円形で、深さ10cmである。底面はほぼ平坦で、壁は直立している。

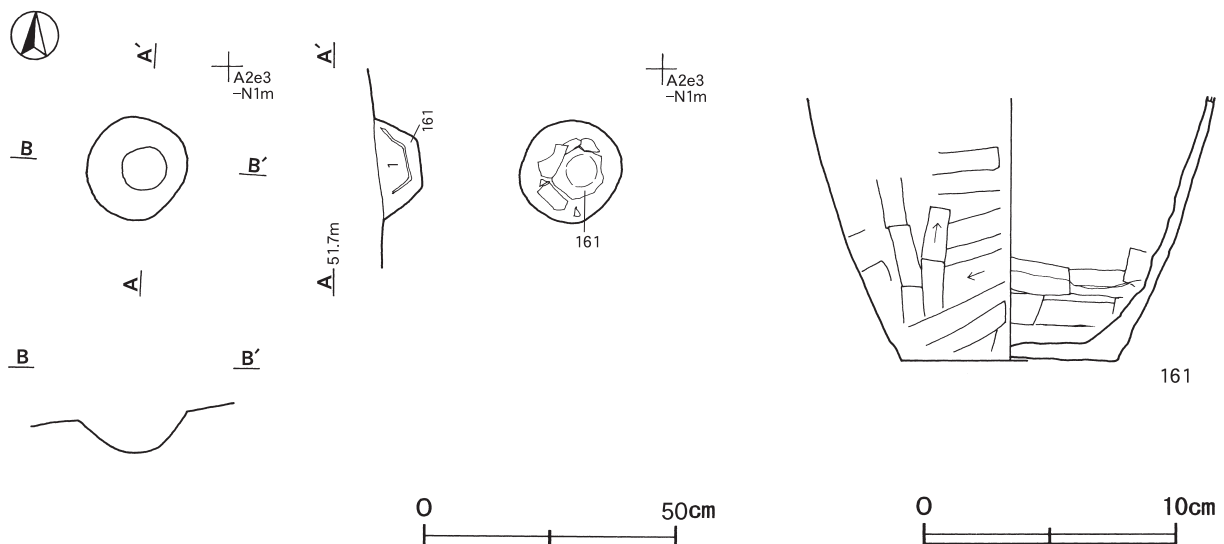
覆土 1層で、人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片1点(甕)が出土している。161は正位で埋納されており、内部に焼骨が確認されている。蓋に相当する土器は確認されていない。

所見 時期は、161から10世紀代と考えられる。甕の外表面は二次的な火熱を受けており、日常で使用していたものを骨蔵器に転用している。また、本跡から南に1.30mの位置に、骨片の集中が認められるが、土坑や骨蔵器は確認されていない。



第187図 第1号火葬墓・出土遺物実測図

第1号火葬墓出土遺物観察表 (第187図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
161	土師器	甕	-	(10.5)	8.4	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい褐色	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ ナデ 輪積み痕あり	覆土中	30% 骨蔵器に転用

(3) 土坑

第110号土坑 (第188・189図)

位置 調査Ⅲ区のD 9 e8区で、標高35mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

規模と形状 径1.21mほど、深さ35cmの円形である。底面はほぼ平坦で、壁は直立している。

覆土 3層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、鹿沼パミス微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量、鹿沼パミス微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、鹿沼パミス少量 | | |

遺物出土状況 土師器片4点(椀)が出土している。162はこれらの土器片が接合したものである。底面の中央部に遺棄されたものが、土圧で潰れたものと考えられる。

所見 時期は、10世紀後半と考えられる。性格は不明であるが、この時期の竪穴住居群とともに集落を構成する施設と考えられる。

第122号土坑 (第188・189図)

位置 調査Ⅲ区のD 9 g3区で、標高37mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

規模と形状 径1.16mほど、深さ21cmの円形である。二段に掘り込まれており、底面はほぼ平坦で、中段に平坦面を持っている。壁は中段から外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 3 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器椀が1点、中段の平坦面から斜位で出土している。正位で遺棄されたものが、土砂の流入で動いたものと考えられる。

所見 時期は、10世紀前半と考えられる。性格は不明であるが、この時期の竪穴住居群とともに集落を構成する施設と考えられる。

第232号土坑 (第188・189図)

位置 調査Ⅵ区のC 9 j2区で、標高37mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

規模と形状 径1.61mほど、深さ49cmの円形である。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。底面及び壁の一部が、強く赤変している。

覆土 4層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 3 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片135点(坏125, 高台付皿8, 甕2)が出土している。これらは小破片及び細片で、接合関係が希薄であり、覆土中層から下層にかけて出土している。165は覆土中層から出土している。土器片には二次的な火熱痕が認められず、埋没の途中で廃棄及び流入したのと考えられる。また、底面の一部に、炭化材が確認されている。

所見 時期は、出土土器とその出土状況から10世紀前半と考えられる。相当量の火の使用が考えられるが、集落内での用途は特定できない。

第234号土坑（第188・189図）

位置 調査VI区のC9j3区で、標高37mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

規模と形状 径約1.07mほど、深さ24cmの円形である。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 1層である。同じ土砂が周囲から流入した自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片62点(坏57, 椀5)が出土している。これらは小破片及び細片で、接合関係が希薄であり、覆土下層から底面にかけて出土している。166は底面から出土している。これらは埋没の途中で廃棄及び流入したものと考えられる。

所見 時期は、出土土器とその出土状況から10世紀前半と考えられる。

第428号土坑（第188図）

位置 調査VI区のB8e0区で、標高38mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

重複関係 第22号住居に掘り込まれている。

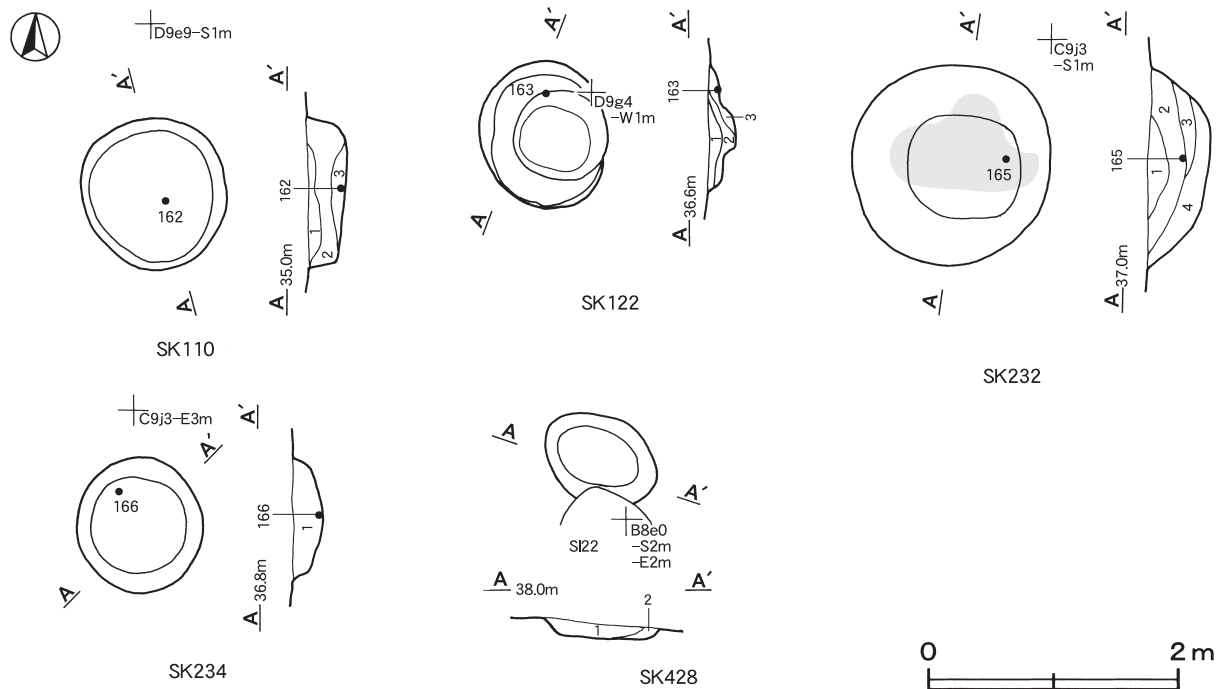
規模と形状 長径0.91m、短径0.69m、深さ12cmの楕円形で、長径方向はN-71°-Wである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層である。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

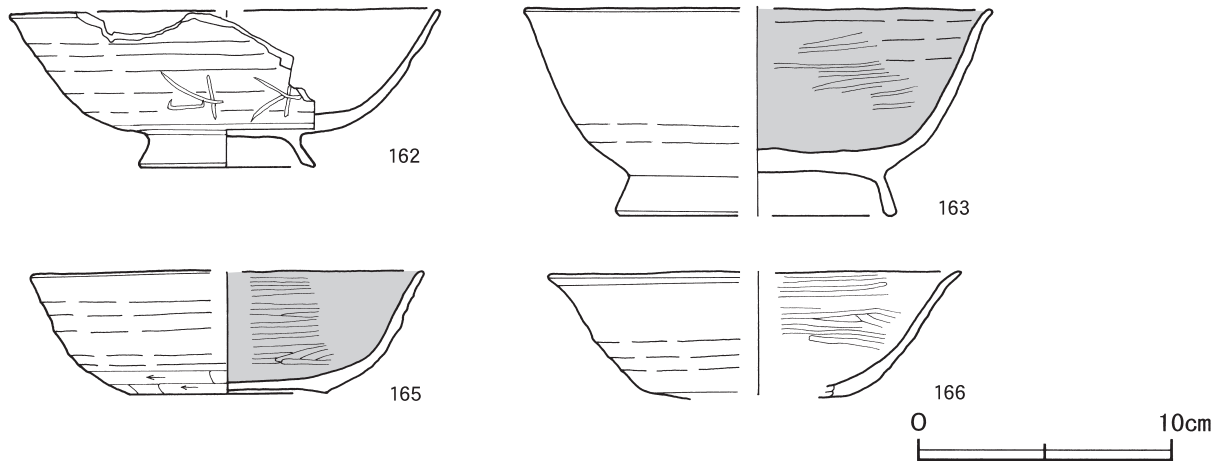
土層解説

1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

所見 時期は、10世紀中葉の第22号住居との重複関係から、10世紀前半と考えられる。



第188図 第110・122・232・234・428号土坑実測図



第189図 第110・122・232・234号土坑出土遺物実測図

第110号土坑出土遺物観察表 (第189図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
162	土師器	椀	[17.0]	6.2	6.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面未調整 底部ヘラ切り後ナデ未調整 高台貼り付け	底面	50% 刻書 体部外面 横位「大方」

第122号土坑出土遺物観察表 (第189図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
163	土師器	椀	[18.4]	8.3	[10.6]	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端未調整 内面ヘラ磨き 底部切り 離した後ナデ調整 高台貼り付け	壁中段の平坦面	40% 胎土は白く緻密種が混入していない

第232号土坑出土遺物観察表 (第189図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
165	土師器	坏	[15.6]	4.8	7.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部ヘラ切り後ヘラ削り調整	中層	30%

第234号土坑出土遺物観察表 (第189図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
166	土師器	坏	[16.4]	5.0	[8.2]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端未調整 内面ヘラ磨き	底面	30%

(4) 不明遺構

第1号不明遺構 (第190図)

位置 調査Ⅱ区のB4e7区で、南側へ緩やかに傾斜した標高50mほどの丘陵上の平坦部南縁に位置している。

規模と形状 長軸3.50m、短軸3.10mほどの不整な隅丸方形で、主軸方向はN-26°-Wである。壁高は25～35cmで、外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦で、全体が軟弱である。

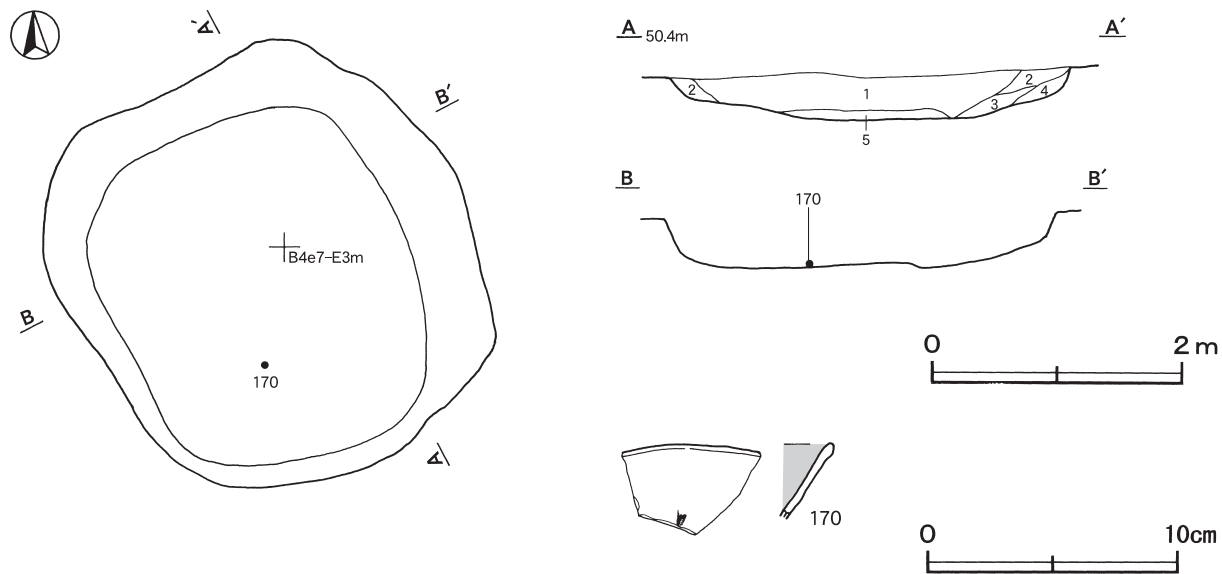
覆土 5層に分層される。全体的に周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片7点(坏2, 甕5)が底面全体に散在している。170は底面の中央部から出土している。

所見 土器がすべて細破片で、時期の特定が困難である。覆土の土質から平安時代と考えられ、集落の継続期間内に属する10世紀代と考えられる。



第190図 第1号不明遺構出土遺物実測図

第1号不明遺構出土遺物観察表 (第190図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
170	土師器	坏カ	-	(2.9)	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ磨き	底面	5% 墨書 体部外面「□」

表13 平安時代住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設							覆土	出土遺物	時代	備考	
							壁溝	主柱穴	出入口	ピット	貯蔵穴	竈	炉					
1	B 4 a5	N- 15'-E	方形	3.15×2.91	36~48	平坦	-	11	-	1	-	1	-	自然	土師器	10世紀前葉	本跡→SK 83・SD4	
2	D 9 c1	N- 3'-W	長方形	4.74×3.71	16~45	平坦	ほぼ全周	4 (4)	1 (1)	5	1	1	-	人為	土師器 須恵器 ミニチュア 土器 土製支脚	10世紀初頭		
3	D 9 g4	[N- 30'-W]	-	-	-	[平坦]	-	1	-	-	1	-	-	土師器	土師器	10世紀代	SI 4→本跡	
4	D 9 g4	[N- 30'-W]	[方・長]	(3.82)×(2.05)	5~10	[平坦]	部分的	2	-	-	1	-	不明	土師器	土師器	10世紀代	本跡→SI 3	
5	D 8 a5	N- 16'-E	方形	3.54×3.08	29~38	平坦	部分的	-	-	7	1	1	-	自然	土師器 須恵器 土製支脚 刀子	10世紀前葉		
6	D 8 d5	N- 15'-W	[方・長]	(2.80)×(2.45)	15	平坦	-	-	-	1	-	1	-	自然	土師器 須恵器 石製支脚	10世紀前葉		
7	D 8 b2	N-105'-E	方形	3.15×2.87	26~32	平坦	全周	-	-	2	-	1	-	自然	土師器 須恵器 円面硯 置 き竈	10世紀初頭	本跡→SK 131	
8	C 8 d1	N- 0'	方形	3.15×2.91	32~49	平坦	-	-	-	2	1	1	-	自然	土師器 須恵器 砥石 石製 支脚 鉄製紡錘車	10世紀前葉		
9	C 8 a4	N- 12'-W	[方形]	3.12×(2.70)	12~25	凹凸	-	6	-	1	-	1	-	人為	土師器 土製支脚 土製紡錘 車 砥石 刀子	10世紀中葉		
10	C 8 b4	N- 9'-E	長方形	6.02×3.90	35~50	平坦	全周	-	-	10	-	1	1	自然	土師器 須恵器 土製紡錘車 羽口 扇物形把手 石製支脚 砥石 椀状滓 鉄滓 不明鉄 製品	10世紀前葉	本跡→SK 124	
11	C 7 c8	N- 27'-E	長方形	3.41×(3.54)	2~26	平坦	-	2	1	-	-	1	-	自然	土師器 石製支脚 砥石 刀 子	10世紀前葉		
12	C 7 b8	N- 6'-W	方形	2.88×2.88	6~25	平坦	部分的	-	1	-	-	1	-	自然	土師器 刀子 不明鉄製品	10世紀初頭		
13	B 8 e1	N- 17'-E	方形	2.92×2.80	8~24	平坦	-	-	-	-	-	1	-	自然	土師器 須恵器 土製紡錘車 刀子 不明鉄製品 鉄滓	10世紀中葉		
14	B 7 j6	N- 13'-E	方形	2.91×2.78	28~62	平坦	-	-	-	-	-	1	-	自然	土師器 刀子	10世紀前葉		
15	C 6 d2	N- 25'-W	方形	3.59×3.19	3~24	平坦	部分的	5	1	-	-	1	-	自然	土師器 須恵器 不明土製品 刀子	10世紀初頭	本跡→SK 203・205	
16	C 5 c8	N- 7'-E	方形	3.16×3.06	24~35	平坦	部分的	-	1	1	2	1	-	自然	土師器 須恵器 土玉 石製 支脚 砥石	10世紀初頭		
17	C 6 a5	N- 30'-W	方形	3.48×3.25	24~42	平坦	部分的	-	-	-	2	1	-	自然	土師器 灰釉陶器 土製紡錘 車 石製支脚 砥石 鉄製紡 錘車	10世紀前葉		
18	B 6 d1	N- 9'-E	方形	3.06×2.87	11~30	平坦	部分的	-	1	2	-	1	-	自然	土師器	土師器	10世紀前葉	
19	B 6 j7	N- 14'-W	方形	2.97×2.40	24~45	平坦	-	-	-	-	-	1	-	自然	土師器 須恵器 砥石 鉄製 鎌	10世紀前葉		
20	C 8 f0	N- 7'-W	[方・長]	(2.00)×(1.80)	20	平坦	-	-	-	-	-	-	-	自然	土師器	土師器	10世紀代	本跡→SK 283・SD 10・PG5
21	B 8 b0	N- 88'-E	長方形	4.18×2.86	10~26	平坦	-	-	-	-	-	1	-	人為	土師器 不明土製品 砥石	10世紀中葉	本跡→SK 323・324・ 344, SD14	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	時代	備考	
							壁溝	主柱穴	出入口	ピット	貯蔵穴	竈					炉
22	B 8 e0	N- 0°	方形	3.60×3.03	12~23	平坦	部分的	-	-	-	-	1	-	人為	土師器 須恵器 鉄鏃	10世紀中葉	S K 428→ 本跡→S K 301・326
23	B 8 j0	N- 7°-E	方形	3.80×2.97	15~20	平坦	部分的	-	-	-	-	1	-	自然	土師器 須恵器	10世紀前葉	
24	B 8 i6	N- 5°-E	方形	3.10×3.06	5~12	平坦	-	-	-	-	-	1	-	自然	土師器	10世紀初頭	本跡→ S K 342, S E 8, S D 11・ 12
25	C 9 e1	N-100°-E	方形	3.84×3.62	5~16	平坦	-	-	2	1	-	1	1	自然	土師器 鉄製紡錘車 鉄鎌 鉄斧	10世紀中葉	本跡→ S K 406・408・ 409・413・ 415

表14 平安時代土坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m) (長径×短径)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
110	D 9 e8	N-0°	円形	1.21	35	直立	平坦	自然	土師器碗	
122	D 9 g3	N-0°	円形	1.16	21	外傾	平坦	自然	土師器碗	
232	C 9 j2	N-0°	円形	1.61	49	外傾	平坦	自然	土師器(坏・高台付皿・甕)	
234	C 9 j3	N-0°	円形	1.07	24	外傾	平坦	自然	土師器(坏・碗)	
428	B 8 e0	N-71° -W	楕円形	0.91×0.69	12	外傾	平坦	自然	—	本跡→S I 22

4 近世の遺構と遺物

近世の遺構は骨、副葬品、鉄釘等の出土から墓坑と特定できる9基が確認されている。以下、遺構と遺物について記述する。

第1号墓坑 (S K 229) (第191図)

位置 調査VI区のC 8 e7区で、標高38mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

重複関係 第230号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸0.88m、短軸0.70mの長方形で、深さ24cmである。長軸方向はN—50°—Eで、壁は長・短径方向ともにほぼ直立しており、底面はほぼ平坦である。

覆土 1層である。ロームブロックを含んでおり、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック多量

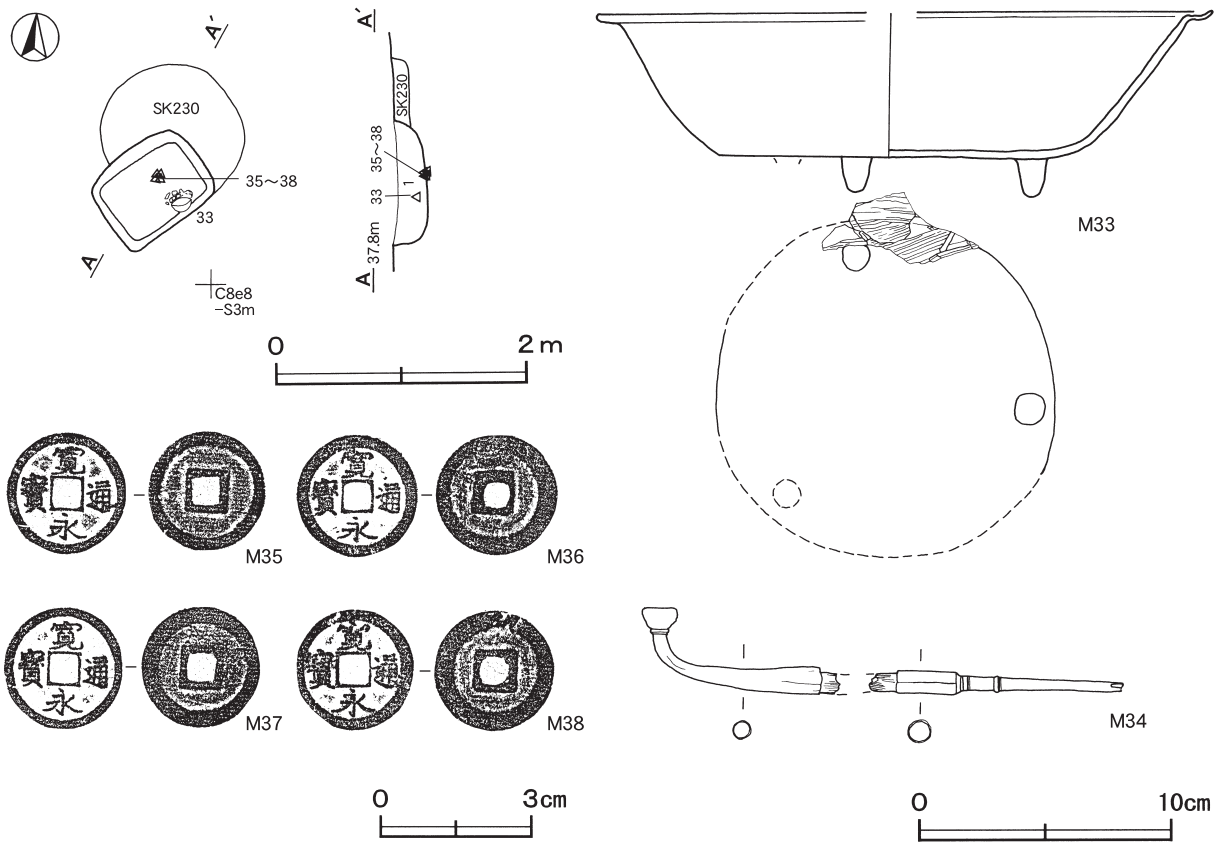
遺物出土状況 金属製品6点(鉄鍋1、古銭4、煙管1)が出土している。M33は底面近くの覆土下層、M35～M38は底面、M34は覆土中から出土している。

所見 時期は、古銭と煙管の形態から17世紀前半以降と考えられる。鉄鍋は鍋被りと考えられ、鉄鍋に付着した木質は、木棺の可能性はある。

第1号墓坑出土遺物観察表 (第191図)

番号	器種	口径	器高	底径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M33	鉄鍋	[24.2]	7.4	13.4	(385)	鉄	三足カ 底部に木質付着	下層	

番号	器種	長さ	雁首径	吸口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M34	煙管	[17.8]	1.0	0.6	(13.1)	真鍮	羅宇煙管 火皿窓あり 火皿と首部間・吸口に補強帯 吸口の突帯の脇に沈線が彫られている	覆土中	



第191図 第1号墓坑・出土遺物実測図

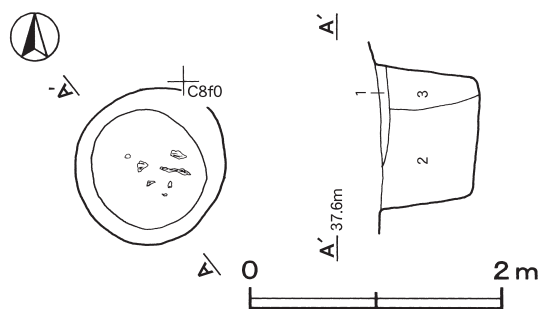
番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	特徴	出土位置	備考
M35	寛永通寶	2.42	0.60	0.12	3.18	1636	古寛永	底面	
M36	寛永通寶	2.42	0.58	0.12	3.74	1636	古寛永	底面	
M37	寛永通寶	2.42	0.60	0.12	3.18	1636	古寛永	底面	
M38	寛永通寶	2.41	0.65	0.13	4.02	1636	古寛永	底面	

第2号墓坑（SK231）（第192図）

位置 調査VI区のC8f9区で、標高38mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

規模と形状 径1.27mほどの円形で、深さ82cmである。壁は直立しており、底面はほぼ平坦である。

覆土 3層に分層される。各層ともロームブロックを含んで不規則に堆積しており、人為堆積と考えられる。



土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

所見 時期を特定できる遺物は出土していないが、他の墓坑と形態が同じであり、近接した位置にあることから江戸時代と考えられる。また、底面近くの覆土下層から人骨が出土している。

第192図 第2号墓坑実測図

第3号墓坑 (SK238) (第193図)

位置 調査VI区のD9a5区で、標高37mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

重複関係 第243・244号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.15m、短軸0.74mの長方形で、深さ68cmである。長軸方向はN-70°-Eで、壁は直立しており、底面はほぼ平坦である。

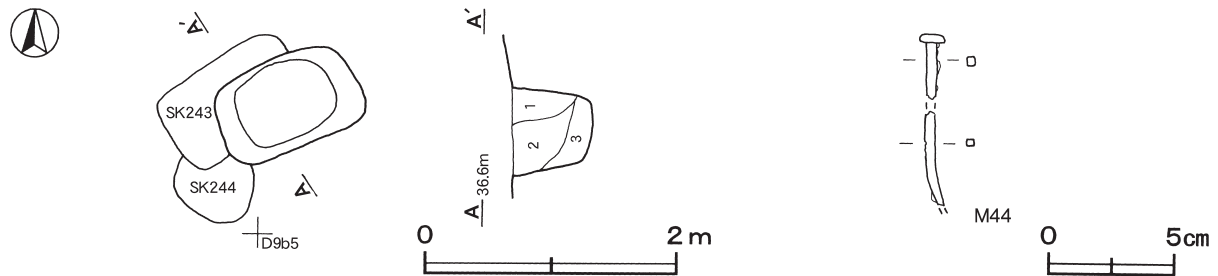
覆土 3層に分層される。各層ともロームブロックを含んで不規則に堆積しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 鉄製品1点(釘)が出土している。M44は覆土中から出土している。

所見 時期を特定できる遺物は出土していないが、他の墓坑と形態が同じであり、近接した位置にあることから江戸時代と考えられる。釘から木棺の存在がうかがわれる。



第193図 第3号墓坑・出土遺物実測図

第3号墓坑出土遺物観察表 (第193図)

番号	器種	長さ	頭部径	脚部	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M44	鉄釘	(6.6)	0.9	0.3	(2.96)	鉄	頭部丸形 脚部断面方形	覆土中	

第4号墓坑 (SK245) (第194図)

位置 調査VI区のD9b4区で、標高37mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

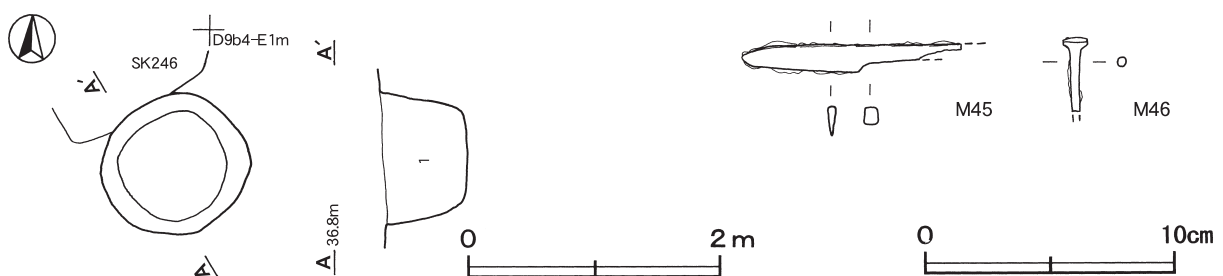
重複関係 第246号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.14mほどの円形で、深さ61cmである。壁は直立しており、底面はほぼ平坦である。

覆土 1層である。ロームブロックを含んでおり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量



第194図 第4号墓坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 鉄製品2点(釘, 刀子)が出土している。M45・M46は覆土中から出土している。また, 混入した土師器片が出土している。

所見 時期を特定できる遺物は出土していないが, 他の墓坑と形態が同じであり, 近接した位置にあることから江戸時代と考えられる。釘から木棺の存在がうかがわれる。

第4号墓坑出土遺物観察表 (第194図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M45	刀子	(8.8)	1.1	0.3	(9.60)	鉄	片開 刀身部断面三角形 茎部断面方形	覆土中	

番号	器種	長さ	頭部径	脚部	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M46	鉄釘	(2.9)	0.9	0.4	(1.26)	鉄	頭部丸形 脚部断面方形	覆土中	

第5号墓坑 (SK368) (第195図)

位置 調査VI区のB8e5区で, 標高39mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

重複関係 第359号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.32m, 短軸0.72mの長方形で, 深さ60cmである。長軸方向はN-10°-Wで, 壁は直立しており, 底面はほぼ平坦である。

覆土 2層に分層される。各層ともロームブロックを含み不規則に堆積していることから, 人為堆積と考えられる。

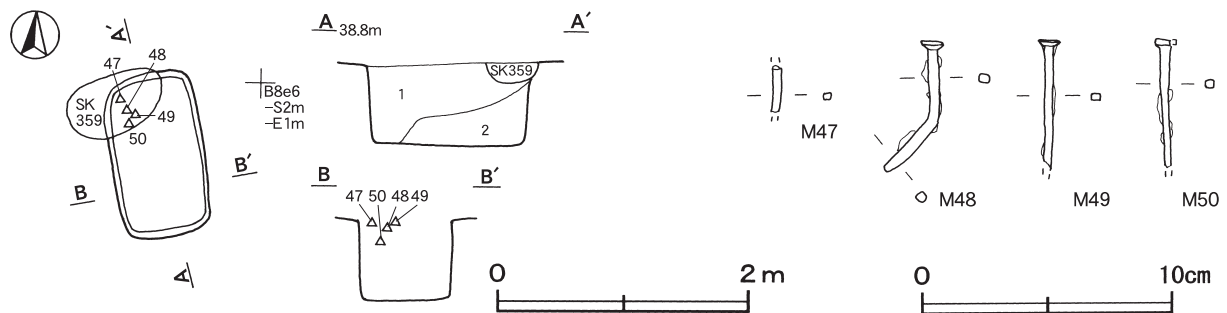
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 金属製品4点(釘)が出土している。M47~M50は覆土上層から出土している。第359号土坑に攪乱され, 上層に持ち上げられたと考えられる。

所見 時期を特定できる遺物は出土していないが, 他の墓坑と形態が同じであり, 近接した位置にあることから江戸時代と考えられる。釘から木棺の存在がうかがわれる。



第195図 第5号墓坑・出土遺物実測図

第5号墓坑出土遺物観察表 (第195図)

番号	器種	長さ	頭部径	脚部幅	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M47	鉄釘	1.9	—	0.3	(0.41)	鉄	脚部断面方形	上層	
M48	鉄釘	(5.1)	0.9	0.4	(5.90)	鉄	頭部丸形 脚部断面方形	上層	
M49	鉄釘	(5.2)	0.9	0.4	(2.98)	鉄	頭部丸形 脚部断面方形	上層	
M50	鉄釘	(2.9)	0.9	0.4	(1.26)	鉄	頭部丸形 脚部断面方形	上層	

第6号墓坑 (SK380) (第196図)

位置 調査VI区のB 8 g6区で、標高39mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

重複関係 第2号掘立柱建物, 第377・381号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径1.10mほどの円形で、深さ35cmである。壁は直立しており、底面はほぼ平坦である。

覆土 2層に分層される。各層ともロームブロックを含み不規則に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

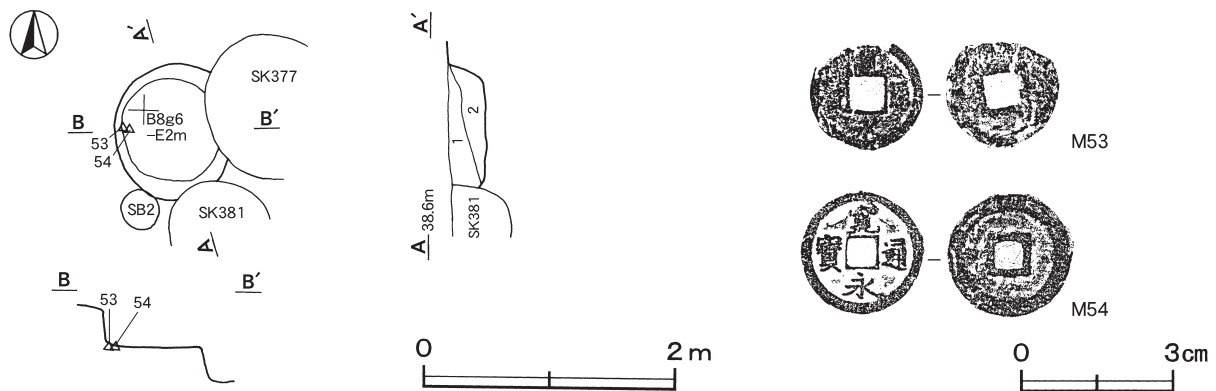
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 金属製品2点(古銭)が出土している。M53・M54は底面から出土している。

所見 時期は、古銭から17世紀前半以降と考えられる。



第196図 第6号墓坑・出土遺物実測図

第6号墓坑出土遺物観察表 (第196図)

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	特徴	出土位置	備考
M53	寛永通寶	2.31	0.71	0.11	1.72	1636	古寛永	底面	
M54	寛永通寶	2.50	0.61	0.12	2.54	1636	古寛永	底面	

第7号墓坑 (SK398) (第197図)

位置 調査VI区のB 8 i9区で、標高38mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

規模と形状 径0.78mほどの円形で、深さ16cmである。壁は外傾して立ち上がり、底面は皿状である。

覆土 4層に分層される。各層ともロームブロックを含み不規則に堆積していることから、人為堆積と考えられる。



第197図 第7号墓坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 褐色 | ローム土, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 金属製品1点(古銭)が出土している。M55は覆土上層から出土している。

所見 時期は、古銭から17世紀前半以降と考えられる。

第7号墓坑出土遺物観察表 (第197図)

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	特徴	出土位置	備考
M55	寛永通寶	2.30	0.60	0.10	2.76	1636	古寛永	上層	

第8号墓坑 (SK402) (第198図)

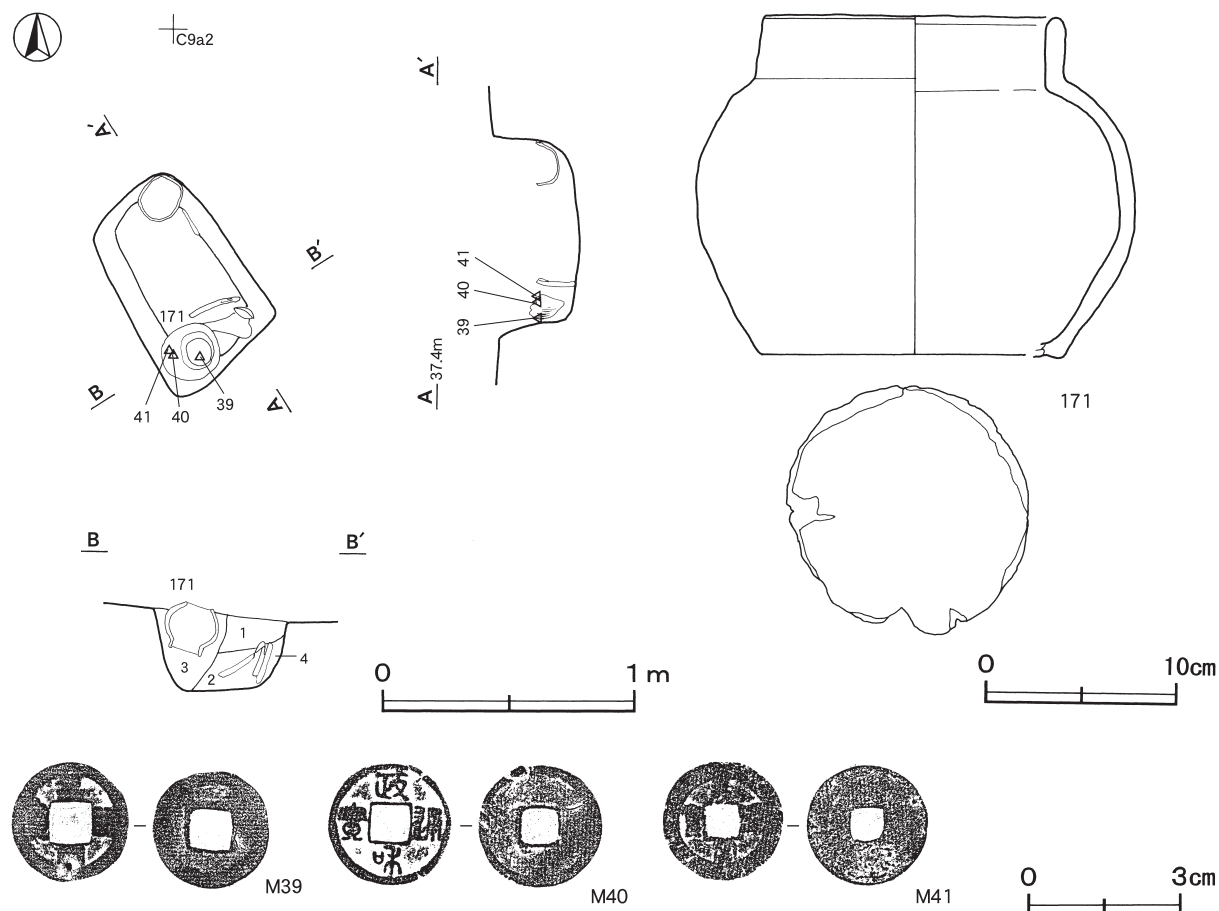
位置 調査VI区のC9a2区で、標高38mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

規模と形状 長軸0.80m, 短軸0.52mの長方形で、深さ33cmである。長軸方向はN-32°-Wで、壁はほぼ直立しており、底面はほぼ平坦である。

覆土 4層に分層される。各層ともロームブロックを含み不規則に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|---------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |



第198図 第8号墓坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器 1 点(短頸壺), 金属製品 3 点(古銭)が出土している。171は覆土上層から逆位で, M39~M41は覆土中層から出土している。

所見 本跡から出土している古銭は北宋銭であり, 他の墓坑から出土する古銭はすべて寛永通寶(古寛永)である。これらの墓坑に形態差はなく, また近接した位置にあるが重複していないため, 本跡も江戸時代の墓坑であり, 人骨の出土状態から屈葬と考えられる。

第 8 号墓坑出土遺物観察表 (第198図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
171	土師質土器	短頸壺	15.4	18.1	15.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	内・外面ナデ	上層	100% 底部を意図的に抜いている

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	特徴	出土位置	備考
M39	嘉祐通寶	2.38	0.85	0.07	1.62	1056	篆書	中層	
M40	政和通寶	2.42	0.60	0.12	2.26	1111	篆書	中層	
M41	皇宋通寶	2.41	0.68	0.10	3.18	1038	篆書	中層	

第 9 号墓坑 (S K 417) (第199図)

位置 調査VI区の C 9 b1区で, 標高38mほどの緩やかに傾斜した裾部に位置している。

規模と形状 長軸1.35m, 短軸0.96mの長方形で, 深さ60cmである。長軸方向はN-63°-Eで, 壁はほぼ直立しており, 底面はほぼ平坦である。

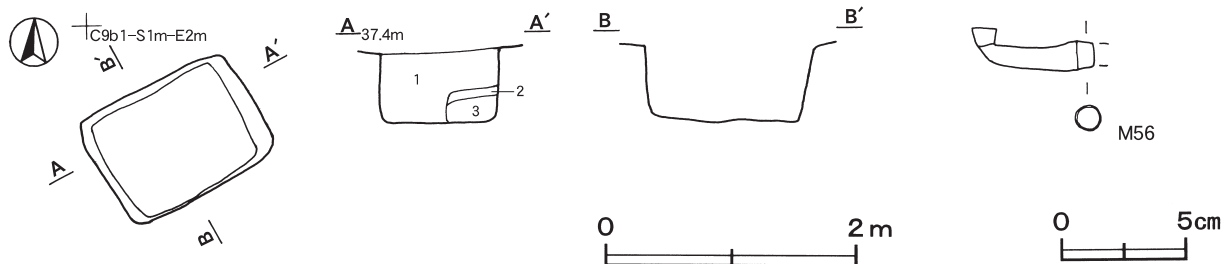
覆土 3層に分層される。各層ともロームブロックを含み不規則に堆積していることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量, 炭化物微量

遺物出土状況 金属製品 1 点(煙管)が出土している。M56は覆土中から出土している。

所見 時期は, 煙管の形態から19世紀以降と考えられる。



第199図 第 9 号墓坑・出土遺物実測図

第 9 号墓坑出土遺物観察表 (第199図)

番号	器種	長さ	雁首径	吸口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M56	煙管	(4.9)	1.0	-	(6.15)	真鍮	羅字煙管 火皿窓なし	覆土中	

表15 近世墓坑一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m) 長径(軸)×短径(軸)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
1	C8e7	N-50°-E	長方形	0.88×0.70	24	直立	平坦	人為	鉄鍋 古銭 煙管	S K230→本跡
2	C8f9	—	円形	1.27	82	直立	平坦	人為	—	人骨出土
3	D9a5	N-70°-E	長方形	1.15×0.74	68	直立	平坦	人為	釘	S K243・244→本跡
4	D9b4	—	円形	1.14	61	直立	平坦	人為	釘 刀子	S K246→本跡
5	B8e5	N-10°-W	長方形	1.32×0.72	60	直立	平坦	人為	釘	本跡→S K359
6	B8g6	—	円形	1.10	35	直立	平坦	人為	古銭	本跡→S B 2 S K377・381
7	B8i9	—	円形	0.78	16	外傾	皿状	人為	古銭	
8	C9a2	N-32°-W	長方形	0.80×0.52	33	直立	平坦	人為	土師質土器 古銭	人骨出土
9	C9b1	N-63°-E	長方形	1.35×0.96	60	直立	平坦	人為	煙管	

5 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期不明の掘立柱建物跡5棟、井戸跡9基、土坑319基、溝跡15条、道路跡1条、柵跡5条、ピット群7か所が確認されている。実測図は遺構全体図で掲載し、解説は一覧表で記載する。また、遺構に伴わない旧石器時代から近世にかけての遺物が出土しており、特徴的な遺物を抽出して、実測図(第200・201図)を掲載し、解説は観察表で記載する。

表16 その他の掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 (桁×梁)	規模(m)	面積(m ²)	構造	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	柱穴平面 形	深さ(cm)	出土遺物	備考
1	B9j1~C9a2	N-33°-W	2×2	4.8×3.3	15.84	側柱	1.8~2.7	1.5	円形	20		
2	B8f6~B8g7	N-12°-W	2×2	2.95×2.2	6.49	側柱	1.4~1.6	1.0~1.10	楕円形	46~60		
3	B8c6~B8e8	N-6°-W	6×2	10.1×5.0	50.50	側柱	2.0	2.5	円形	30~80	石臼	
4	B8g6~B8h7	N-70°-E	(2)×2	(3.74)×3.65	13.65	側柱	1.8	1.8	円形	20~35		本跡→ S D11
5	B8c5~B8e6	N-20°-W	(2)×1	5.4×3.1	16.74	側柱	1.9~2.8	3.1	円形	20~30		

表17 その他の井戸跡一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m) 長径(軸)×短径(軸)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
1	A3e8	N-0°	[円形]	2.10×(1.40)	(160)	漏斗状	—	自然+人為	—	
2	D8a4	N-0°	円形	1.45	2.06	垂直	平坦	人為	—	
3	B8b6	N-0°	[円形]	3.24	(180)	漏斗状	—	—	陶器 磁器 砥石 古銭	
4	B8d5	N-0°	[円形]	0.85×0.75	—	垂直	—	自然+人為	—	覆土上層から多量の自然礫出土
5	B8b7	N-0°	円形	0.88×0.83	(177)	垂直	—	自然+人為	—	
6	B8i7	N-0°	円形	1.06×1.02	(172)	垂直	—	自然+人為	—	
7	B9i2	N-0°	円形	0.88×0.78	(190)	垂直	—	自然+人為	陶器	
8	B8j5	N-0°	円形	1.65	170	垂直	平坦	自然+人為	—	本跡→S K342
9	B8h6	N-0°	円形	1.80×(1.20)	188	垂直	—	自然+人為	—	本跡→S D11

表18 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m) 長径(軸)×短径(軸)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
1	A3f7	N-56° -E	長方形	0.70×0.50	30	外傾	平坦	自然	—	
2	A3h3	N-17° -E	楕円形	0.58×0.43	15	漏斗状	皿状	自然	—	
3	A3e4	N-0°	円形	0.33	32	外傾	平坦	自然	—	
4	A3e3	N-26° -E	楕円形	(0.70)×1.00	50	外傾	皿状	自然	—	
5	A3d1	N-50° -E	楕円形	0.75×0.40	24	緩斜	平坦	—	—	
6	A3g2	N-52° -E	円形	0.84×0.74	19	外傾	皿状	自然	—	
7	A3g2	N-24° -E	円形	1.08×1.00	56	垂直	平坦	自然	—	
8	A3d1	N-36° -E	楕円形	1.47×1.10	45	外傾	平坦	自然	—	
9	A3h3	N-15° -E	楕円形	0.55×0.47	14	緩斜	皿状	自然	—	
10	A3d2	N-72° -W	不整形	1.04×0.95	22	外傾	皿状	自然	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
12	A2f0	N-58° -E	楕円形	0.90×0.50	20	垂直	平坦	自然	—	
13	A2f0	N-50° -E	円形	0.75×0.63	24	外傾	平坦	自然	—	
14	A3d2	N-40° -W	楕円形	1.26×(0.60)	18	緩斜	皿状	自然	—	
15	A3e3	N-0°	楕円形	0.78×0.46	26	外傾	皿状	自然	—	
16	A3e3	N-21° -W	楕円形	0.57×0.46	24	緩斜	皿状	自然	—	
17	A3e1	N-60° -W	楕円形	(0.89)×0.70	25	緩斜	皿状	自然	—	
18	A3e1	N-27° -E	円形	0.77×0.70	35	緩斜	皿状	自然	—	
19	A3e1	N-50° -W	楕円形	(0.75)×0.50	25	緩斜	皿状	自然	—	
20	A2e9	N-90° -W	楕円形	0.93×0.76	38	緩斜	皿状	自然	—	
21	A2f8	N-0°	円形	0.65×0.60	16	緩斜	皿状	自然	—	
22	A2h0	N-76° -E	楕円形	1.96×0.70	50	垂直	平坦	自然	—	
23	A2f8	N-82° -E	不整形	2.27×1.30	35	外傾	平坦	自然	—	
24	A2e7	N-48° -E	楕円形	1.23×0.78	28	緩斜	平坦	自然	—	
25	A2d7	N-85° -W	楕円形	(0.54)×(0.45)	49	垂直	平坦	自然	—	
26	A2c7	N-53° -W	楕円形	0.87×0.56	18	緩斜	皿状	自然	—	
27	A2c5	N-32° -W	楕円形	0.77×0.67	32	緩斜	皿状	自然	—	
28	A2c5	N-43° -W	楕円形	0.63×0.56	20	緩斜	皿状	自然	—	
29	A2e5	N-40° -E	円形	0.77×0.70	23	外傾	皿状	自然	—	
30	A2b4	N-41° -W	楕円形	0.77×0.64	15	外傾	皿状	自然	—	
31	A1c0	N-6° -E	楕円形	0.77×0.55	22	外傾	平坦	自然	—	
32	A2g1	N-75° -E	楕円形	0.72×0.62	15	緩斜	平坦	自然	—	
33	A2g2	N-47° -E	楕円形	1.31×0.70	30	外傾	平坦	自然	—	
34	B2a4	N-10° -W	楕円形	0.90×0.60	17	緩斜	平坦	自然	—	
35	A2h2	N-29° -W	楕円形	1.77×1.24	36	外傾	皿状	自然	—	
36	A2g4	N-11° -W	楕円形	1.13×0.57	20	緩斜	皿状	自然	—	
37	A2h5	N-6° -E	楕円形	0.77×0.65	41	外傾	平坦	自然	—	
38	B3a1	N-5° -W	楕円形	1.20×0.90	50	外傾	平坦	自然	—	
39	B2a0	N-70° -W	楕円形	0.65×0.56	38	外傾	皿状	自然	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
41	A2e1	N-44° -E	楕円形	0.82×0.73	17	外傾	平坦	自然	—	
42	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第1号陥し穴に変更
43	A2e3	N-30° -W	不整楕円形	1.96×0.92	18	緩斜	平坦	自然	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第1号火葬墓に変更

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)							
46	A 2d2	N-28° -E	橢円形	0.51×0.43		14	緩斜	平坦	自然	—	
—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	
49	A 2d6	N-30° -W	不整形	0.78×0.50		14	緩斜	皿状	—	—	
50	—	—	—	—		—	—	—	—	—	第2号陥し穴に変更
51	A 2e5	N-24° -E	円形	0.60×0.58		16	外傾	平坦	自然	—	
52	C 4b9	N-9° -E	橢円形	(0.84)×0.55		16	外傾	平坦	人為	—	
53	C 4b9	N-89° -E	方形	0.82×(0.58)		24	外傾	皿状	人為	—	
54	B 5g3	N-30° -E	橢円形	1.40×1.16		28	緩斜	皿状	自然	—	
55	B 5d4	N-38° -W	橢円形	1.17×0.57		10	緩斜	皿状	自然	—	
56	B 5d3	N-2° -E	橢円形	1.0×0.70		16	緩斜	皿状	自然	—	
57	B 5c4	N-16° -W	橢円形	0.95×0.74		58	漏斗状	平坦	自然	—	
58	B 5 d3	N-15° -E	橢円形	1.0×0.79		25	緩斜	皿状	自然	—	
59	—	—	—	—		—	—	—	—	—	第3号陥し穴に変更
60	B 5a2	N-25° -E	橢円形	0.72×0.56		75	外傾	皿状	自然	—	
61	B 5b3	N-12° -E	橢円形	0.84×0.55		15	緩斜	皿状	自然	—	
62	B 5b3	N-63° -W	橢円形	1.23×0.62		17	緩斜	皿状	自然	—	
63	A 5j2	N-35° -W	橢円形	0.91×0.64		25	緩斜	皿状	自然	—	
64	A 5j1	N-16° -W	橢円形	1.26×1.08		20	緩斜	凹凸	自然	—	
65	A 5j1	N-71° -W	橢円形	1.65×1.03		30	緩斜	凹凸	自然	—	
66	B 5b1	N-88° -E	不整形	1.25×0.92		24	緩斜	凹凸	自然	—	
67	A 4i8	N-60° -E	橢円形	0.90×0.55		24	緩斜	平坦	人為	—	
68	B 4b9	N-18° -E	円形	1.11×0.98		30	緩斜	平坦	人為	—	
69	A 4j7	N-42° -E	不整形	1.45×1.12		21	緩斜	平坦	自然	—	
70	A 4j5	N-26° -E	橢円形	1.05×0.71		24	緩斜	皿状	自然	—	
71	A 4h4	N-11° -W	橢円形	0.90×0.62		20	緩斜	皿状	人為	—	
—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	
73	A 4i2	N-0°	円形	0.34×0.33		32	垂直	平坦	自然	—	
74	A 2g0	N-59° -W	長方形	0.90×0.64		11	緩斜	皿状	自然	—	
75	A 4i9	N-29° -E	円形	0.80		33	緩斜	皿状	自然	—	
76	—	—	—	—		—	—	—	—	—	第4号陥し穴に変更
77	A 3h9	N-47° -W	円形	0.54×0.50		56	外傾	皿状	—	—	
78	—	—	—	—		—	—	—	—	—	第5号陥し穴に変更
—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	
81	A 3h9	N-11° -W	橢円形	1.10×0.94		26	緩斜	平坦	自然	—	
82	A 3h8	N-90° -W	橢円形	1.24×0.82		16	緩斜	皿状	自然	—	
83	B 4a5	N-24° -E	橢円形	0.87×0.58		12	外傾	平坦	自然	—	SI1→本跡
84	B 4d7	N-41° -E	橢円形	0.80×0.63		27	緩斜	皿状	自然	—	
85	—	—	—	—		—	—	—	—	—	第6号陥し穴に変更
86	A 3h7	N-0°	円形	0.81		18	緩斜	皿状	自然	—	
87	A 2f0	—	不整形	1.00×(0.95)		26	緩斜	皿状	自然	—	TP5→本跡
88	—	—	—	—		—	—	—	—	—	第7号陥し穴に変更
—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	
90	C 8h7	N-53° -E	橢円形	1.30×0.91		22	外傾	平坦	自然	—	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)	短径(軸)						
91	C8i7	N-30°-W	方形	1.12	1.05	27	緩斜	平坦	人為	—	
92	C8h7	N-3°-E	長方形	(1.26)	1.06	18	外傾	平坦	自然	—	
93	C8h8	N-7°-W	楕円形	0.72	0.64	29	漏斗状	平坦	自然	—	
94	C8h8	N-64°-E	楕円形	1.06	0.74	17	漏斗状	凹凸	自然	—	
95	C8h8	N-21°-E	楕円形	0.68	0.51	24	外傾	凹凸	自然	—	
96	C8h8	N-22°-W	楕円形	0.53	0.40	19	外傾	皿状	自然	—	
97	C8h0	N-28°-E	不整形	0.93	0.70	24	緩斜	皿状	自然	—	
98	C8j9	N-71°-E	楕円形	0.80	0.46	37	漏斗状	皿状	人為	—	
99	D9g9	N-35°-W	楕円形	1.10	0.82	25	漏斗状	平坦	自然	—	
100	D9f7	N-59°-E	長方形	1.35	0.94	110	垂直	平坦	人為	—	
101	D8c9	N-43°-E	不整形	1.05	0.95	23	緩斜	平坦	人為	—	
102	C9j1	N-79°-W	楕円形	0.92	0.58	26	緩斜	平坦	人為	—	
103	D8d0	N-27°-E	楕円形	0.88	0.75	30	緩斜	凹凸	自然	—	
104	D8e0	N-59°-E	楕円形	0.85	0.72	22	外傾	凹凸	自然	—	
105	D8e0	N-57°-E	楕円形	0.85	0.72	16	緩斜	凹凸	自然	—	
106	D8e0	N-43°-W	楕円形	0.57	0.46	10	緩斜	皿状	自然	—	
107	D9d0	N-38°-W	長方形	1.45	0.95	25	緩斜	皿状	—	—	
108	D9c9	N-24°-W	長方形	1.53	1.06	26	緩斜	皿状	—	—	
109	D9d8	N-21°-W	長方形	1.35	0.96	26	緩斜	平坦	—	—	
110	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	平安時代
111	D9h9	N-10°-W	長方形	1.41	0.81	70	垂直	平坦	—	—	
112	D9c8	N-31°-W	長方形	1.54	0.99	30	緩斜	平坦	—	—	
113	D9c3	N-67°-E	長方形	1.28	0.98	62	外傾	平坦	—	—	S K114→本跡
114	D9c3	N-14°-E	楕円形	1.73	1.40	75	緩斜	平坦	—	—	本跡→S K113
115	D9h9	N-54°-E	楕円形	0.97	0.82	15	緩斜	平坦	—	—	
116	D9g6	N-17°-W	長方形	1.50	0.83	80	漏斗状	平坦	—	—	
117	D9g5	N-55°-E	長方形	0.92	0.70	24	緩斜	皿状	—	—	
118	D9g6	N-20°-W	長方形	1.42	0.80	90	垂直	平坦	—	—	
119	D8c0	N-0°	円形	1.06		36	緩斜	皿状	—	土師器片	
120	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第8号陥し穴に変更
121	D9h8	N-29°-W	楕円形	0.87	0.70	19	緩斜	皿状	—	—	
122	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	平安時代の土坑
123	C7a2	N-24°-W	楕円形	1.53	0.98	60	緩斜	平坦	—	—	
124	C8a4	N-0°	円形	0.95		64	垂直	平坦	—	—	S I 10→本跡
125	C8j3	N-60°-E	方形	1.15	1.10	80	垂直	皿状	—	—	
126	C8j4	N-65°-E	長方形	1.25	0.80	60	垂直	皿状	—	—	
127	C8j4	N-68°-E	長方形	1.01	0.83	90	垂直	平坦	—	—	
128	C8j5	N-69°-E	不整長方形	1.40	0.86	73	垂直	平坦	—	—	
129	D8a5	N-57°-E	楕円形	1.36	0.87	15	緩斜	皿状	—	—	
130	D8b3	N-6°-E	円形	1.11	1.06	30	緩斜	皿状	—	—	
131	D8b2	N-80°-W	楕円形	1.04	0.94	16	緩斜	皿状	—	—	S I 7→本跡
132	B8g3	N-84°-W	円形	1.31	0.76	28	緩斜	皿状	—	—	
133	A8i2	N-3°-W	円形	0.91	0.86	24	緩斜	凹凸	—	—	
134	A8i3	N-8°-W	楕円形	(1.17)	0.91	35	緩斜	平坦	—	—	
135	A8i4	N-58°-W	[楕円形]	[0.41]	1.00	24	緩斜	平坦	—	—	
136	A8i4	N-90°	円形	1.43	1.35	65	外傾	平坦	—	—	
137	A8i4	N-0°	円形	[0.41]	1.02	23	緩斜	皿状	—	—	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)	短径(軸)						
201	C6c2	N-23°-W	楕円形	1.55	1.05	47	垂直	平坦	人為	—	
202	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第10号陥し穴に変更
203	C6d2	N-68°-E	長方形	1.36	1.05	35	外傾	平坦	—	—	S I 15→本跡
204	C6a1	N-37°-W	長方形	1.38	1.03	31	外傾	平坦	人為	—	
205	C6c2	N-60°-E	長方形	1.31	0.98	26	外傾	平坦	—	—	S I 15→本跡
206	B6j5	N-51°-E	楕円形	1.90	0.96	42	外傾	平坦	自然	—	
207	C6d6	N-32°-W	長方形	1.59	0.83	34	外傾	平坦	自然	—	
208	C6a4	N-0°	円形	0.92		14	外傾	平坦	—	—	
209	C6b5	N-0°	円形	0.92		19	外傾	平坦	—	—	
210	C6a7	N-60°-E	長方形	0.78	0.70	59	外傾	平坦	—	—	
211	B6g3	N-0°	円形	1.11		35	外傾	平坦	自然	—	
212	B6g4	N-34°-W	楕円形	0.91	0.80	12	緩斜	皿状	自然	—	
213	C6a5	N-64°-E	長方形	0.91	0.74	40	外傾	平坦	—	—	
214	C6a6	N-64°-E	円形	0.80	0.77	37	外傾	皿状	—	—	
215	C6a6	N-90°-W	円形	1.05	0.97	46	外傾	平坦	—	土師器片	
216	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第11号陥し穴に変更
217	C6a5	N-27°-W	楕円形	0.67	0.60	12	緩斜	平坦	—	—	
218	B6f3	N-37°-E	長方形	2.15	1.40	18	緩斜	平坦	自然	—	
219	B5d0	N-20°-E	円形	0.93		22	緩斜	平坦	自然	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
223	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第12号陥し穴に変更
224	C8c6	N-33°-W	長方形	1.28	0.80	66	垂直	平坦	自然	—	
225	C8c7	N-29°-W	長方形	1.13	0.69	15	外傾	凹凸	—	—	
226	C8c7	N-52°-E	長方形	0.82	0.63	60	垂直	平坦	人為	—	
227	C8d7	N-0°	円形	0.84		43	垂直	平坦	—	—	
228	C8d7	N-32°-W	長方形	1.00	0.73	28	垂直	平坦	—	—	
229	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第1号墓坑に変更
230	C8e7	N-0°	円形	1.61		49	緩斜	皿状	—	—	本跡→第1号墓坑
231	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第2号墓坑に変更
232	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	平安時代
233	C9j3	N-0°	円形	0.90		10	緩斜	平坦	—	—	
234	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	平安時代
235	D9a3	N-59°-E	長方形	1.11	0.75	63	外傾	平坦	—	—	
236	D9b4	N-65°-E	長方形	1.07	0.73	72	垂直	平坦	—	—	
237	D9a5	N-53°-E	楕円形	0.74	0.69	7	緩斜	皿状	—	—	
238	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第3号墓坑に変更
239	D9b5	N-54°-E	長方形	1.17	0.85	70	外傾	平坦	—	—	
240	C8d7	N-72°-E	楕円形	0.82	0.70	8	緩斜	皿状	—	—	
241	D9b5	N-65°-E	方形	0.71	0.65	28	外傾	平坦	—	—	S I 7→本跡
242	D9b5	N-0°	方形	1.00	0.96	52	外傾	平坦	—	—	
243	D9a4	N-58°-E	長方形	[1.14]	[0.70]	59	—	—	—	—	本跡→第3号墓坑
244	D9a4	N-40°-W	楕円形	0.68	0.56	34	緩斜	平坦	—	—	本跡→第3号墓坑
245	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	S K 246→本跡第4号墓坑に変更

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)	短径(軸)						
246	D9b4	N-62° -E	[方形]	1.44	[1.26]	63	垂直	平坦	-	-	
247	D9b4	N-62° -E	方形	1.02	0.87	49	垂直	平坦	-	-	
248	D9b3	N-83° -E	楕円形	0.66	0.52	16	垂直	平坦	-	-	
249	D9c4	N-35° -W	方形	1.04		82	垂直	平坦	-	-	
250	D9c4	N-61° -E	長方形	1.00	0.89	99	垂直	平坦	-	-	
251	D9c5	N-61° -E	長方形	1.90	(0.59)	54	外傾	皿状	-	-	
252	D9c5	N-60° -E	長方形	0.88	0.70	42	外傾	平坦	-	-	
253	D9c5	N-59° -E	長方形	[1.14]	0.96	57	外傾	平坦	-	-	
254	D9c6	N-58° -E	長方形	1.35	0.82	75	垂直	平坦	-	-	
255	C9i6	N-15° -W	楕円形	0.54	0.25	35	外傾	平坦	-	-	
256	C9i6	N-0°	円形	0.74		32	外傾	平坦	-	-	
257	C9i6	N-68° -E	長方形	1.84	0.97	34	垂直	平坦	-	-	
258	C9i6	N-62° -E	長方形	1.81	1.05	14	緩斜	平坦	-	-	
259	C9i6	N-64° -E	長方形	1.08	0.70	37	外傾	皿状	-	-	
260	C9i6	N-30° -W	[長方形]	0.88	(0.48)	47	外傾	平坦	-	-	
261	C9j6	N-61° -E	[長方形]	(0.74)	(0.70)	25	外傾	平坦	-	-	
262	C9j6	N-31° -W	[長方形]	(0.67)	(0.58)	33	垂直	平坦	-	-	
263	C9j6	N-65° -E	長方形	0.92	0.81	22	緩斜	平坦	-	-	
264	C9i6	N-58° -E	長方形	1.46	0.78	45	緩斜	平坦	-	-	
265	C9j7	N-19° -W	長方形	0.95	(0.50)	27	外傾	平坦	-	-	
266	C9j7	N-16° -W	長方形	0.89	0.58	24	外傾	平坦	-	-	
267	C9j7	N-28° -W	長方形	1.09	0.87	42	外傾	平坦	-	-	
268	C9i7	N-34° -W	長方形	1.01	0.65	32	外傾	平坦	-	-	
269	C9j7	N-65° -E	長方形	0.62	0.49	23	垂直	平坦	-	-	
270	C9j7	N-24° -W	長方形	0.94	0.73	57	外傾	凹凸	-	-	
271	C9j7	N-60° -E	長方形	0.91	0.46	30	垂直	平坦	-	-	
272	C9j6	N-41° -E	楕円形	0.65	0.52	6	垂直	平坦	-	-	
273	C9j6	N-50° -E	[方形]	(0.57)	0.51	15	垂直	平坦	-	-	
274	D9a6	N-51° -E	[長方形]	(0.30)	(0.64)	65	垂直	平坦	-	-	
275	D9a7	N-52° -E	長方形	(0.87)	1.12	33	垂直	平坦	-	-	
276	D9a7	N-32° -W	長方形	1.24	0.74	58	外傾	平坦	-	-	
277	D9a7	N-26° -W	長方形	1.06	0.58	39	緩斜	皿状	-	-	
278	D9a7	N-27° -W	長方形	0.92	(0.50)	28	緩斜	平坦	-	-	
279	D9a8	N-31° -W	方形	0.73	0.71	49	緩斜	皿状	-	-	
280	D9b6	N-55° -W	長方形	1.11	0.75	29	外傾	平坦	-	-	
281	D9b6	N-55° -W	長方形	(0.88)	0.73	60	垂直	平坦	-	-	
282	D9a8	N-46° -E	長方形	(0.40)	0.75	32	緩斜	皿状	-	-	
283	C8g0	N-47° -E	[長方形]	1.04	0.35	18	垂直	平坦	-	-	本跡→SD10
284	D9d4	N-31° -W	長方形	0.95	0.82	79	垂直	平坦	-	-	
285	D9c4	N-54° -E	[長方形]	(0.49)	(0.75)	24	外傾	平坦	-	-	
286	D9c4	N-28° -W	[長方形]	(0.59)	0.72	32	垂直	平坦	-	-	
287	D9c4	N-65° -E	[長方形]	(0.23)	0.67	37	外傾	平坦	-	-	
288	D9d4	N-29° -W	楕円形	0.99	0.62	18	緩斜	平坦	-	-	
289	D9d5	N-43° -W	長方形	0.65	0.36	29	外傾	平坦	-	-	
290	D9b4	N-62° -E	長方形	1.06	0.84	51	外傾	平坦	-	-	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)	短径(軸)						
291	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
292	D9b5	N-51° -E	方形	0.48	0.30	54	外傾	平坦	—	—	
293	D9a5	N-51° -E	長方形	0.64	0.55	54	外傾	平坦	—	—	
294	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第13号陥し穴 に変更
295	D9b5	N-23° -W	長方形	0.45	0.35	31	垂直	平坦	—	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
298	B8d8	N-18° -W	長方形	1.19	0.88	52	外傾	平坦	—	—	
299	B8c0	N-13° -W	長方形	1.12	0.99	24	外傾	平坦	—	—	
300	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第3号掘立柱建物 跡P7に変更
301	B8e0	N-90°	楕円形	0.96	0.84	81	垂直	平坦	—	—	S I 22→本跡
302	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第3号井戸跡 に変更
303	B9b1	N-88° -W	楕円形	0.51	0.45	22	緩斜	皿状	—	—	
304	B9b1	N-1° -E	楕円形	0.98	0.74	14	緩斜	皿状	—	—	
305	B9b1	N-43° -W	円形	1.09		14	外傾	平坦	—	—	
306	B9c2	N-51° -W	円形	1.30	1.22	15	緩斜	皿状	—	—	
307	B9c1	N-80° -W	円形	1.08	1.00	24	垂直	平坦	—	—	
308	B9c1	N-74° -E	楕円形	0.38	0.30	68	垂直	凹凸	—	—	
309	B9c2	N-0°	円形	0.85		11	緩斜	平坦	—	—	
310	B9c2	N-17° -W	長方形	1.33	0.85	35	外傾	平坦	—	—	
311	B9c1	N-12° -W	長方形	1.17	0.75	11	外傾	平坦	—	—	
312	B9c1	N-63° -W	長方形	1.03	0.85	13	外傾	平坦	—	—	
313	B9c2	N-36° -E	円形	0.86		14	緩斜	平坦	—	—	
314	B9d2	N-90° -E	楕円形	1.08	0.71	15	緩斜	平坦	人為	—	
315	B9e2	N-81° -E	長方形	0.95	0.58	25	緩斜	平坦	人為	—	
316	B9e1	N-7° -W	楕円形	0.40	0.34	68	外傾	皿状	人為	—	
317	B9d2	N-75° -E	長方形	1.33	0.83	18	緩斜	平坦	人為	—	
318	B9b2	N-88° -E	円形	1.65	1.58	63	外傾	平坦	—	—	
319	B9d2	N-85° -E	不整長方形	1.51	0.68	20	緩斜	皿状	人為	—	
320	B9d2	N-66° -E	[長方形]	(1.11)	(0.86)	16	外傾	皿状	人為	—	
321	B9e2	N-86° -E	楕円形	(1.44)	(1.11)	26	緩斜	平坦	人為	—	
322	B9f2	N-65° -E	楕円形	0.53	0.44	22	外傾	皿状	人為	—	
323	B8b0	N-12° -W	楕円形	0.47	0.40	57	外傾	平坦	人為	—	S I 21→本跡
324	B8b0	N-78° -E	楕円形	1.04	0.45	62	外傾	平坦	人為	—	S I 21→本跡
325	B8d0	N-14° -W	長方形	1.27	0.78	24	外傾	平坦	人為	—	
326	B8e0	N-90°	長方形	1.36	1.20	100	垂直	平坦	人為	—	S I 22→本跡
327	B8d0	N-16° -W	長方形	1.25	0.85	32	外傾	皿状	人為	—	
328	B8d9	N-22° -W	長方形	1.00	0.73	42	外傾	皿状	人為	—	
329	B8c9	N-21° -W	長方形	1.28	0.91	32	外傾	皿状	人為	—	
330	B8d8	N-14° -W	長方形	1.18	0.78	57	垂直	平坦	人為	—	
331	B8c9	N-0°	円形	0.61		9	緩斜	平坦	—	—	
332	B9c1	N-1° -W	長方形	1.06	0.62	18	外傾	平坦	—	—	
333	B8d7	N-11° -W	長方形	1.15	0.75	48	垂直	平坦	—	—	
334	B8d7	N-10° -W	楕円形	1.14	0.76	16	緩斜	皿状	—	—	
335	B8d7	N-0°	円形	0.73		14	緩斜	平坦	—	—	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)	短径(軸)						
336	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第3号掘立柱建物跡P3に変更
337	B8c8	N-81° -W	円形	1.42	1.36	14	緩斜	平坦	—	—	
338	B8c8	N-23° -E	楕円形	0.96	0.86	14	外傾	平坦	—	—	
339	B8c8	N-21° -W	楕円形	0.28	0.24	41	外傾	皿状	—	—	
340	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第3号掘立柱建物跡P2に変更
341	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第3号掘立柱建物跡P1に変更
342	B8i5	N-14° -W	長方形	2.26	0.92	61	垂直	平坦	人為	—	S I 24・S E 8 →本跡
343	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第8号井戸跡に変更
344	B8c0	N-48° -W	楕円形	0.56	0.47	31	外傾	皿状	人為	—	S I 21→本跡
345	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第4号井戸跡に変更
346	B8d5	N-43° -E	長方形	1.09	0.80	78	垂直	平坦	—	—	
347	B8d4	N-61° -E	楕円形	0.68	0.60	16	垂直	平坦	—	—	
348	B8d6	N-16° -W	長方形	1.07	0.74	31	垂直	平坦	—	—	
349	B8c6	N-34° -W	円形	0.83	—	8	緩斜	皿状	—	—	
350	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第5号井戸跡に変更
351	B8d7	N-62° -W	楕円形	0.47	0.41	56	外傾	皿状	—	—	
352	B8d7	N-0°	円形	0.65	—	10	外傾	平坦	—	—	
353	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第3号掘立柱建物跡P12に変更
354	B9c1	N-66° -E	円形	1.73	1.66	64	外傾	平坦	—	—	本跡→SK311
355	B8d6	N-44° -E	楕円形	0.95	0.83	68	外傾	皿状	—	—	本跡→SK312
356	B8d6	N-44° -E	[楕円形]	(0.47)	0.80	70	外傾	皿状	—	—	
357	B8e7	N-18° -W	長方形	1.02	0.74	55	外傾	平坦	—	—	
358	B8e7	N-3° -W	長方形	0.85	0.68	16	外傾	平坦	—	—	
359	B8e5	N-55° -E	楕円形	0.80	0.48	14	緩斜	皿状	—	—	第5号墓坑→本跡
360	B8d7	N-14° -W	長方形	1.16	0.83	15	垂直	平坦	—	—	
361	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第3号掘立柱建物跡P11に変更
362	B8e6	N-13° -W	長方形	1.55	0.95	71	垂直	平坦	—	—	
363	B8f5	N-58° -E	長方形	1.56	0.74	73	垂直	平坦	—	—	
364	B8f5	N-11° -W	長方形	1.15	0.79	70	垂直	平坦	人為	—	
365	B8e9	N-30° -W	長方形	1.23	0.62	24	漏斗状	平坦	—	—	
366	B8g8	N-0°	楕円形	0.68	0.60	10	緩斜	皿状	—	—	
367	B8g9	N-25° -W	楕円形	1.02	0.84	15	緩斜	平坦	—	—	
368	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第5号墓坑に変更
369	C8a9	N-61° -E	楕円形	0.95	0.85	10	緩斜	平坦	—	—	
370	C8a9	N-28° -W	円形	0.90	0.85	9	緩斜	平坦	—	—	
371	B8j9	N-44° -W	楕円形	1.01	0.86	17	外傾	平坦	—	—	
372	C9a1	N-41° -E	[楕円形]	1.14	(1.07)	14	外傾	平坦	人為	—	本跡→S K373
373	C9a1	N-40° -W	楕円形	0.60	0.52	25	緩斜	皿状	人為	—	
374	B8g6	N-14° -W	長楕円形	(1.05)	0.26	10	緩斜	皿状	—	—	
375	B8g6	N-45° -E	楕円形	0.96	0.84	29	外傾	平坦	—	—	
376	B8g6	N-35° -W	長方形	1.05	(0.63)	22	外傾	平坦	—	—	
377	B8f6	N-0°	円形	1.20	—	51	漏斗状	平坦	人為	—	本跡→S K373 SK376→本跡
378	B8f6	N-5° -W	長楕円形	(1.20)	0.70	34	緩斜	皿状	人為	—	
379	B8f6	N-2° -W	長楕円形	(0.61)	0.55	28	緩斜	皿状	人為	—	
380	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第6号墓坑に変更

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)	短径(軸)						
381	B8g6	N-0°	円形	0.84		49	外傾	平坦	自然	—	
382	—	—	—	—		—	—	—	—	—	第3号堀立柱建物跡P4に変更
383	B9g1	N-10°-W	楕円形	1.10×0.70		10	緩斜	皿状	自然	—	
384	B9g3	N-25°-E	楕円形	0.85×0.70		16	外傾	平坦	—	—	
385	B9g2	N-38°-E	楕円形	0.85×0.71		34	外傾	皿状	人為	—	
386	B9g1	N-0°	円形	0.94		27	緩斜	皿状	人為	—	
387	B9i2	N-0°	円形	0.41		20	外傾	皿状	人為	—	
388	B9i2	N-90°-E	円形	0.45×0.41		25	垂直	皿状	人為	—	
389	—	—	—	—		—	—	—	—	—	第6号井戸跡に変更
390	C8b9	N-32°-E	楕円形	0.95×0.85		8	緩斜	平坦	—	—	
391	C8b9	N-50°-W	円形	0.67×0.61		26	緩斜	平坦	—	—	
392	C8c0	N-4°-E	楕円形	1.36×1.18		15	緩斜	平坦	—	—	
393	C8c0	N-34°-E	楕円形	0.88×0.74		15	緩斜	平坦	—	—	
394	C8c9	N-43°-W	円形	0.62×0.57		22	外傾	平坦	—	—	
395	—	—	—	—		—	—	—	—	—	第7号井戸跡に変更
396	B8i9	N-62°-W	楕円形	1.10×0.95		12	緩斜	皿状	人為	—	
397	B8i9	N-24°-E	楕円形	1.14×0.86		14	緩斜	平坦	人為	—	
398	—	—	—	—		—	—	—	—	—	第7号墓坑に変更
399	B9j2	N-41°-E	楕円形	2.04×1.44		28	緩斜	平坦	人為	—	
400	B9j2	N-44°-E	不定形	1.12×0.72		39	外傾	皿状	人為	—	
401	B9j2	N-18°-E	不定形	1.21×0.98		19	緩斜	凹凸	—	—	
402	—	—	—	—		—	—	—	—	—	第8号墓坑に変更
403	B9j1	N-55°-W	楕円形	0.78×0.56		28	緩斜	平坦	人為	—	
404	C9f2	N-50°-E	長方形	0.96×0.72		25	外傾	平坦	人為	—	
405	C9f2	N-44°-E	長方形	0.68×0.58		14	外傾	平坦	人為	—	
406	C9e1	N-51°-E	長方形	1.08×0.71		69	垂直	平坦	—	—	S I 25 SK 408→本跡
407	C9a3	N-61°-W	[楕円形]	(0.74)×0.54		12	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK410
408	C9e1	N-59°-W	楕円形	(0.79)×0.45		21	外傾	皿状	人為	—	S I 25→本跡 本跡→SK406
409	C9e1	N-37°-W	長方形	0.97×0.70		43	垂直	平坦	人為	—	S I 25→本跡
410	C9a3	N-27°-W	長方形	1.06×0.80		60	垂直	平坦	人為	—	SK407→本跡
411	C8d0	N-53°-W	楕円形	0.96×0.68		51	外傾	皿状	人為	—	
412	C9g2	N-83°-W	楕円形	0.56×0.40		78	外傾	段状	人為	—	SD10→本跡
413	C9d1	N-30°-W	長方形	0.92×0.75		51	垂直	平坦	人為	—	S I 25→本跡
414	C9d1	N-30°-E	楕円形	0.85×0.44		19	緩斜	皿状	人為	—	
415	C9d1	N-20°-W	楕円形	0.57×0.48		16	緩斜	皿状	自然	—	S I 25→本跡
416	C9c1	N-46°-W	長方形	(0.90)×0.95		15	緩斜	平坦	—	—	
417	—	—	—	—		—	—	—	—	—	第9号墓坑に変更
—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	
420	—	—	—	—		—	—	—	—	—	第9号井戸跡に変更
421	B8e7	N-0°	長方形	1.50×1.25		14	緩斜	皿状	自然	—	
422	B8e7	N-5°-W	長方形	1.36×0.82		72	垂直	平坦	—	—	SK433→本跡
423	B8e7	N-63°-E	楕円形	1.75×1.22		15	外傾	平坦	人為	—	SK433→本跡 本跡→SK425
424	B8f7	N-55°-E	楕円形	(0.71)×0.68		18	緩斜	平坦	—	—	本跡→SK425
425	B8e7	N-0°	円形	1.59		8	緩斜	平坦	—	—	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)	短径(軸)						
426	B8f9	N-46° -E	楕円形	0.95×0.86		11	外傾	平坦	—	—	
427	B8e0	N-9° -W	楕円形	0.85×0.60		13	外傾	平坦	—	—	
428	—	—	—	—		—	—	—	—	—	平安時代
429	B8e0	N-9° -E	楕円形	0.86×0.52		45	漏斗状	皿状	—	—	
430	B8c7	N-25° -W	楕円形	1.60×1.30		—	—	—	—	—	
431	B8c7	N-25° -W	楕円形	1.00×(0.75)		10	緩斜	皿状	—	—	
432	—	—	—	—		—	—	—	—	—	第3号掘立柱建物跡P2に変更
433	B8e7	N-24° -W	円形	1.48×1.38		6	緩斜	平坦	—	—	
434	B8f5	N-0°	円形	0.50		20	外傾	平坦	—	—	
435	—	—	—	—		—	—	—	—	—	第3号掘立柱建物跡P8に変更
436	B8d6	N-8° -W	楕円形	1.76×0.70		56	外傾	平坦	—	—	
437	B8d6	N-25° -W	方形	0.49×0.46		18	垂直	平坦	—	—	
438	B8b0	N-72° -E	楕円形	1.40×1.03		64	外傾	平坦	—	—	
439	B8j9	N-8° -W	楕円形	0.72×0.53		75	外傾	皿状	—	—	
440	B9j3	N-41° -E	円形	1.22×1.13		24	緩斜	平坦	—	—	
441	C9a3	N-10° -E	円形	0.48×0.45		25	外傾	皿状	—	—	
442	B9j3	N-0°	円形	0.50		19	漏斗状	平坦	—	—	

表19 その他の溝跡一覧表

番号	位置	走向方向	規模				断面	底面	覆土	出土遺物	備考
			長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	A3e6~A3g6	N- 20° -E	8.18	1.22~2.16	0.22~0.35	58~67	U字状	弧状	自然	—	
2	A3f3~B3a3	N- 60° -E	20.30	0.80~2.56	0.30~0.60	45~72	U字状	弧状	自然	砥石 剥片 煙管	
3	A4g7~B4d5	N- 10° -E	28.00	0.10~0.12	0.62~0.73	62~73	U字状	弧状	自然	—	
4	A4j2~B4a5	N-100° -E	12.70	0.66~1.35	0.30~0.54	10~16	U字状	弧状	自然	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
6	C8f4~C8f6	N- 90° -E	7.05	0.58~1.62	1.04~0.26	21~47	U字状	弧状	自然	—	
7	C6e4~C7e6	N- 85° -E	48.00	0.62~1.36	0.16~0.71	16~68	U字状	弧状	自然	石鏃	
8	C7h4~C7h5	N- 30° -E	3.30	1.05~1.08	0.27~0.33	30	U字状	弧状	自然	支脚	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
10	C8f8~C9g2	N- 93° -E	19.00	0.35~0.67	0.20~0.40	6~28	U字状	弧状	自然	—	SI20 SK283・412→本跡PG5との新旧不明
11	B8j5~B9f2	N- 70° -E	32.75	1.88~2.46	0.14~0.40	72~122	V字状	平坦	自然	—	SB4 SE9→本跡
12	B8b0~B8i5	N- 3° -W	43.00	0.38~1.20	0.10~0.73	5~22	U字状	弧状	自然	—	SI24 SD11→本跡 本跡→SK342・346
13	B8c0~B8f8	N- 65° -E	19.30	0.83~1.50	0.12~0.58	30~61	U字状	弧状	自然	—	本跡→SB3 SK298・299
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
15	B8c7~B8b9	N- 65° -E	9.38	0.38~0.63	0.12~0.58	4~6	U字状	弧状	自然	—	SB3→本跡
16	B8b6~B8b9	N- 60° -E	(12.43)	0.24~0.80	0.13~0.43	10~15	U字状	弧状	自然	—	SK431→本跡
17	B9e1~B9f2	N- 46° -E	1.04	0.18~0.30	0.08~0.11	—	U字状	弧状	自然	—	本跡→SD18
18	B9f1~B9e2	N- 20° -W	3.82	0.23~0.45	0.10~0.23	19	U字状	弧状	自然	—	SD17→本跡 本跡→SK322

表20 その他の道路跡一覧表

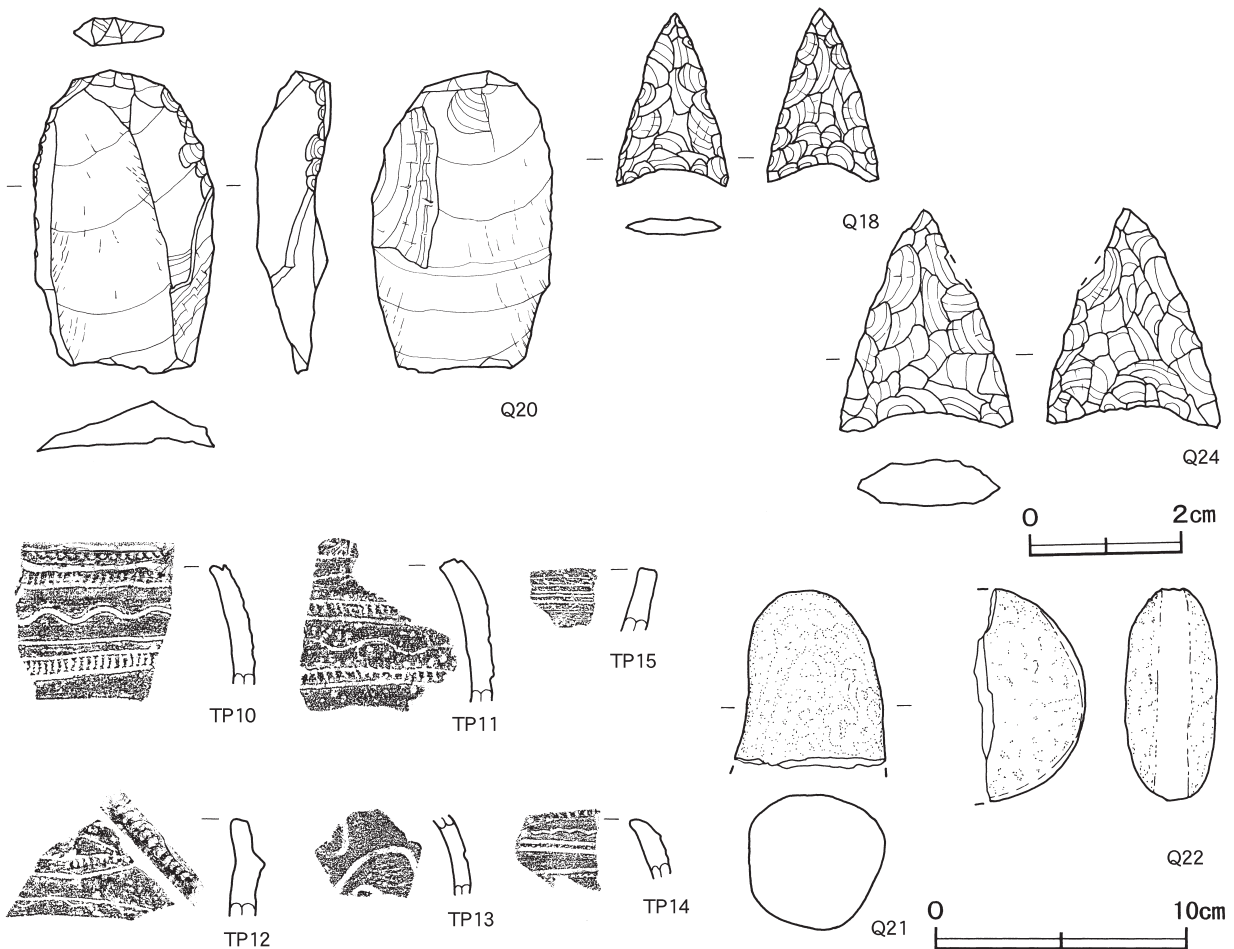
番号	位置	走向方向	規模				断面	底面	覆土	出土遺物	備考
			長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	D9c7~D9f1	N- 65° -E	24.00	1.22~2.16	0.22~0.35	58~67	U字状	弧状	自然	陶器片 磁器片	

表21 その他の柵跡一覧表

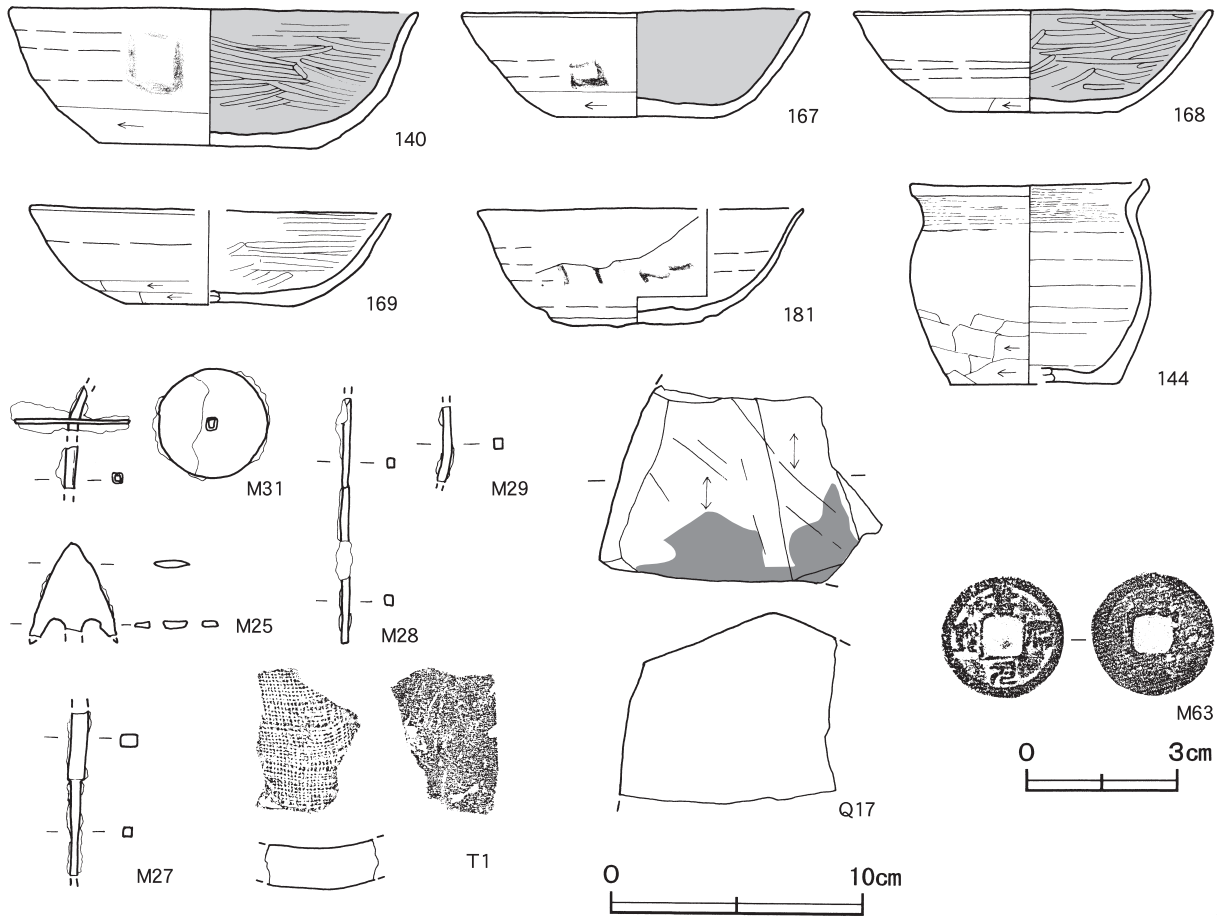
番号	位置	走行方向	柱穴本数	長さ(m)	柱穴平面形	深さ(cm)	出土遺物	備考
1	C8d0	N-50°-E	6	1.5	円形	16~35	—	
2	C8d0	N-25°-E	3	0.9	円形	7~18	—	
3	C8e0	N-35°-E	3	0.8	円形	15~36	—	
4	B8j6	N-36°-W	2	4	円形	8~38	—	
5	B9i3	N-30°-E	4	2	円形	26~47	—	

表22 その他のピット群一覧表

番号	位置	範囲		柱穴数	柱穴平面形	深さ(cm)	出土遺物	備考
		東西(m)	南北(m)					
1	C6c5~C6e4	1.5	2.1	11	円形	15~73	—	
2	B6i4~C6a3	4.4	5.6	9	円形	12~93	—	
3	C5c9~C6b1	7.4	6.6	11	円形	10~89	—	
4	C5a8~C5b8	4.3	4.2	5	円形	15~30	—	
5	C5f8~C5g0	16.5	20.2	32	円形	6~57	—	S I 20 S K 283 S D 10→本跡
6	C8b8~C9b1	20.5	20.3	23	円形	4~99	—	
7	B8d5~B9f1	16.5	20.5	34	円形	9~49	—	



第200図 遺構外出土遺物実測図(1)



第201図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表 (第200・201図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
140	土師器	坏	16.2	5.5	8.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部ヘラ切り離し後未調整	SK326覆土中	85% 墨書 体部外面 正位「口」
167	土師器	坏	13.7	4.3	6.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部ヘラ切り後ナデ	SK326覆土中	70% 墨書 体部外面 正位「口」
168	土師器	坏	14.2	4.2	6.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部ヘラ切り離し後未調整	SK326覆土中	60%
169	土師器	坏	[14.2]	3.8	[6.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部切り離し後の調整不明	SK326覆土中	40%
181	土師器	坏	12.8	4.7	6.4	長石・石英	浅黄色	普通	体部下端未調整 内面未調整 底部回転ヘラ削り後未調整	SK205覆土中	70% 墨書 体部外面 横位「子壺カ」
144	土師器	甕	9.4	8.1	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ	SK326覆土中	95%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	位置	備考
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口唇部に沈線を巡らし、その沈線に沿って内外面に貝殻腹縁文施文 沈線による直線文での区画内に貝殻腹縁文施文	表土中	
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	沈線による直線文での区画内に貝殻腹縁文施文	表土中	
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰黄褐	普通	波状口縁 口縁部内面及び隆帯にキザミ 沈線による区画	表土中	
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線による曲線文施文	表土中	
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線による横位の波状文と直線文施文	表土中	
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	器表面条痕文施文	表土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q17	砥石	(7.9)	(11.2)	(7.5)	(940)	砂岩	砥面2面 線状痕あり 一部煤付着	SK205覆土中	
Q18	石鏃	2.3	1.5	0.2	0.80	チャート	平基無茎式 押圧剥離で両面全体に調整	SD7覆土中	
Q20	二次加工のある剥片	4.0	2.4	0.7	7.20	硬質頁岩	複剥離打面の縦長剥片 背面の縁辺に腹面側から角度の小さい刃部加工が施される 左側縁に微細剥離痕あり	調査Ⅲ区 表土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q21	不明	(7.1)	6.0	5.4	(350)	砂岩	全面敲打による整形	調査Ⅲ区表土中	
Q22	磨石	8.5	(4.5)	3.6	(160)	砂岩	側面に使用痕	表土中	
Q24	石鏃	2.9	2.3	0.6	3.40	チャート	平基無茎式 押圧剥離で両面全体に調整	表土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M25	鉄鏃	(3.8)	3.5	0.3	(8.85)	鉄	腸袂部及び筈被部欠損	SK326覆土中	SI22からの混入
M27	鉄鏃	(6.5)	0.7	0.4	(0.40)	鉄	筈被部及び基部欠損	SK326覆土中	SI22からの混入
M28	紡錘車	(9.8)	0.3	0.4	(4.00)	鉄	紡軸 断面方形	SK326覆土中	SI22からの混入
M29	紡錘車	(3.0)	0.4	0.4	(1.18)	鉄	紡軸 断面方形	SK326覆土中	SI22からの混入

番号	器種	紡茎部最大径	紡茎部最小径	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M31	紡錘車	4.7	4.7	0.20	3.05	鉄	円盤形 断面方形の紡軸残存	SK326覆土中	SI22からの混入

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	特 徴	出土位置	備考
M63	嘉祐元寶	2.50	0.80	0.10	2.86	1056	北宋銭	表土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
T1	瓦	(6.1)	(4.5)	1.6	(2.50)	粘土(長石・石英)	凹面布目痕	SF1路面内	

第4節 ま と め

当遺跡の調査の成果は次の二つに集約される。

一つは、旧石器時代の石器集中地点が8か所確認されたことである。出土した石器の総数は2000点を越え、県内屈指の出土量である。そして、その大きな特徴は、石器の石材に「水晶」が選択されていることである。

もう一つの成果は、時期が10世紀前半に限定された、山間部の集落が確認されたことである。

ここでは、旧石器時代の石器集中地点と平安時代の集落について若干の考察を行いまとめたい。

1 旧石器時代の石器集中地点

(1) 石器集中地点の立地

平成14・16年度の二回の調査で確認された石器集中地点は、8か所である。これらの石器集中地点は、酒沼川に向かって緩やかに傾斜する丘陵裾部の、標高約38mの等高線上に間隔を開けて並ぶように分布している。第3～8号石器集中地点は近接しており、それらと離れた位置に第1・2号石器集中地点が確認されている。標高38m付近に集中している理由として、裾部の中で平坦な場所が広いことが考えられる。

(2) 第1・2号石器集中地点について

水晶を石材とした石器類の総数は2155点で、出土層位には幅があり、ローム漸移層からソフトローム層にかけて出土している。ただし、分布の中心はソフトローム層にある。そして、水晶製の石器類の90%を占める1977点が、第1号石器集中地点から出土している。その器種は、①東内野型有樋尖頭器の成品②尖頭器の未成品（製作途中で折れてしまったと考えられるものも含む）③原石④原石を粗割りしただけの礫片と呼べるもの⑤石核（剥片を多く取った残核とあまり取られていないものの両方がある）⑥ポイントフレイク⑦その他剥片や碎片などである。敲打など石器を製作するための道具は、第1号石器集中地点からも出土しているが、まとめて出土しているのは少し離れた第2号石器集中地点である。第2号石器集中

地点は、石器製作の道具である敲石や台石だけで構成されているのが特徴であり、意図的に集積されたものと考えられる。第2号石器集中地点と第1号石器集中地点の石器は、同じ文化層から出土している。

第1号石器集中地点では、その石器組成から、比較的大きな礫片と剥片の2種類の素材から尖頭器が製作されていたものと考えられる（表23）。第2号石器集中地点の石器は、石器製作に使用していた道具類で、何らかの理由で製作場所から離れた位置に集積されたものであり、関連性がうかがえる。

第1号石器集中地点出土の石器類は、有樋尖頭器を含む尖頭器主体の石器群であり、県内及び隣接県の石器群の編年研究に基づくと、武蔵野地域のⅡb期・下総地域のⅡc期・常陸地域のⅡ期/Ⅲ期に該当するものと考えられる¹⁾。

表23 第1号石器集中地点の主な石器

番号	器種及び手法の特徴	番号	器種及び手法の特徴
25	碎片 二次加工・微細剥離は認められない 上端及び左半を大きく欠損している	861	尖頭器 両面階段状剥離調整 基部・尖頭部欠損 表面微細剥離
26	碎片 横長剥片 背面下半に原石面を残置 腹面左上部の縁辺に微細剥離が連結する 器体左半を欠損	1068	石核 円礫素材 円礫を打ち欠いた打割面を打面とし、周縁からの剥片剥離が行われている
44	尖頭器 表面調整 尖頭部作出 裏面は尖頭部のみ調整 安山岩製	1071	尖頭器 背面に原石面が残置することから、素材は礫面剥片と考えられる 主要剥離面の周縁を粗く加工した後に、そこを打点として背面側に器体中央に二次加工を両側縁より施す
224	有樋尖頭器 素材は横長剥片 器体左側縁下半にあたる素材剥片下縁には連続した二次加工が施され、一部階段状 器体上端背面に左から右方向の樋状剥離	1343	尖頭器 両面剥離調整 尖頭部欠損
238	尖頭器 正面・右側面に円礫の原石面 左側面に素材の先行剥離面が残置 素材主要剥離面は、判然としない 上・下端を欠損	1425	尖頭器 両面剥離調整 尖頭部作出 側縁部に微細調整
287	剥片 横長の礫面剥片素材 主要剥離面の打点付近に、二次加工及び微細剥離が連結し、一部階段状	1462	尖頭器 縦長の礫面剥片が素材 背面・右側縁の全縁及び左側縁の下部に、浅い二次加工が連続 右側縁の下部を欠損
427	剥片 正面の一部に素材面を残す 右側面に2か所の微細剥離痕	1603	礫面剥片 背面には2面の剥離面が認められる他は、二次加工・微細剥離は認められない
476	剥片 背面に原石面を大きく残置 端部側が幅広の剥片素材 背面の右側縁に微細剥離が認められ、下端を欠損	1669	礫面剥片 二次加工・微細剥離は認められない 下端を欠損
591	尖頭器 素材は縦長の礫面剥片 両側縁に腹面からの二次加工が施されている	1735	剥片 表面に原石面を多く残し、裏面の主要剥離以外、剥離は特に見られない
769	尖頭器 背・腹両面ともそれぞれの面における右側縁から、面的な二次加工が施されている	1786	原石 剥離痕は認められない
789	石核 水晶の長円礫の一端より、表裏面におおよそ各2枚づつ剥片が剥離されている 打点部が欠損している	1863	尖頭器 左側縁上部に背面への、下部に素材打面側への二次加工が施される 右側縁を欠損
809	石核 右側面を一面剥いだ後、上面よりおおよそ3枚の剥片が剥離されている	1890	剥片 片面剥離調整 一部に原石面を残す
822	剥片 右側縁下に微細剥離	2388	有樋尖頭器 背面左上部に、素材の先行剥離面が残置 調整は粗い

(3) 水晶という石材について

石器を製作するための材料である石は、製作者が意図するように割れる石が選択されるはずである。例えば、安山岩などは石材として適しており、涸沼川流域からも採取できる。実際に、第1号石器集中地点からは、安山岩製の尖頭器が1点出土している。しかし、当遺跡では、そのような石材は選択されず、非常に硬く（硬度7）石器製作に不向きな水晶が石材に選ばれているのが特徴である。

水晶は、笠間市内では佐白山及び来栖地区などから、遺跡から離れたところでは、東茨城郡城里町（旧七会村）にある高取鉾山から採掘できるという。ところで、第1号石器集中地点から出土した原石及び原礫面を残す礫片を観察すると角が取れており、転石ということが分かる。水晶の転石が、遺跡周辺の涸沼

川流域にあり、入手しやすかったものと推測される。荒く割られただけの原石や剥片がそれほど取られていない石核が多量に出土していることも、水晶の原石が比較的入手しやすい位置にあることの証拠と考えられる。

入手しやすい石材ではあるが、石器製作にはあまり適していない水晶が何故選択されたのか、水晶における尖頭器製作技術、8か所の石器集中地点の関連性など不明な点があるが、2000点を超す石器類を出土した本遺跡は、今後の後期旧石器時代の研究に大きな資料を提供したのは間違いないであろう。

2 平安時代の集落

当遺跡で確認された竪穴住居跡は、須恵器供膳具が伴わないことや土師器供膳具の器種構成から、いずれも10世紀前葉から中葉の時期のものであり、約50年間にわたり集落が形成されていたと考えられる。それ以前の竪穴住居跡は確認されておらず、空闲地だった場所に初めて開発が入った新規開発型の集落と考えられる。

さて、当遺跡では「棚状施設」がある住居跡が25軒中3軒確認されており、その割合は比較的高いものと考えられる。棚状施設には、①地山面をそのまま使用するもの（素掘りタイプ）と、②地山を掘り込んで粘土を充填するもの（充填タイプ）の2種類がある。棚状施設をもつのは、第1・8・14号住居跡であり、第1・14号住居跡は素掘りタイプ、第8号住居跡は充填タイプである。第1号住居跡は東西壁際にピットが並んでおり、壁際柱穴と考えられる。第8号住居跡は、貯蔵穴があり鉄製紡錘車が出土している。貯蔵穴がある住居跡は、その他にも確認されている。貯蔵穴の位置は、住居の中央部・壁側の2種類があり、いずれにしてもこの時期の住居構造としては特徴的である。

その他、特徴的な住居跡として第10・25号住居跡があげられる。第25号住居跡は、竈のほかに炉が併設されており、鉄製斧・鉄製紡錘車の紡軸などが出土している。炉が併設されていることと、加工具である鉄製斧が出土していることから、工房的な性格も推測される。また、第10号住居跡は、①竈のほかに炉が併設されている、②羽口・椀状滓・鉄滓が出土していることなどから、鍛冶工房跡と考えられる。本跡からは、陽物形土製品が出土しており、「火」に密接した土製品と推測される。

10世紀に突如、山間部に形成された集落の担い手は、新たな土地を開発するための集団と考えられる。その集団は、鍛冶や手工業を行いながら生活を営み、10世紀後半以降新たな土地に移り住んでいったものと考えられる。周囲の調査が進み、同時期の集落跡が確認され、集落構成・遺物の検討などが出来れば、本遺跡周辺の人々の動きが分かるものと考えられる。

註

- 1) 橋本勝雄 「茨城県における旧石器時代の編年」『ひたちなか市埋蔵文化財調査センター開館10周年記念シンポジウム茨城県における旧石器時代研究の到達点—その現状と課題—』発表要旨・資料集 茨城県考古学協会 2002年12月



第202図 小組遺跡遺構全体図

第5章 上加賀田城跡

第1節 遺跡の概要

上加賀田城跡は、旧笠間市域の南東端に位置し、標高56mの独立した小丘陵に立地している。一辺50mほどの方形を呈した平坦な山頂部が主郭跡である。さらに、小丘陵を南側に下っていくと二の郭・三の郭跡がある。調査区は山頂部から見て、北東から北側の急斜面部と裾部にわずかに広がる平場で、調査前の現況は山林である。調査区の北側と東側は澗沼川で、かつては澗沼川が堀の役目を果たしていたと考えられる。調査では、城郭に伴う遺構は検出できなかった。

遺構は、炭焼窯跡7基（時期不明）、溝跡1条（時期不明）が確認された。遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に1箱出土している。主な出土遺物は、土師質土器（小皿・播鉢・鍋）、陶磁器（碗）、土製品（炭焼窯構築材片）などである。

第2節 基本層序

裾部に広がる平場のB3d7区にテストピットを設定し、深さ1.95mまで掘り下げて基本土層（第203図）の観察を行った。土層は8層に分層される。以下、テストピットの観察から、層序を説明する。

第1層は黒褐色を呈する表土層で、炭化物を少量、粘土粒子を微量含んでいる。層厚は最大36cmである。

第2層は褐灰色を呈する表土層で、粘土粒子を少量、炭化物及び砂粒を微量含んでいる。層厚は最大25cmである。

第3層は灰黄褐色を呈する旧表土層で、砂粒を少量、炭化物を微量含んでいる。層厚は30～35cmである。

第4層は第1号溝跡の覆土で、にぶい黄褐色を呈し、砂粒を中量、炭化粒子及び粘土粒子を微量含んでいる。

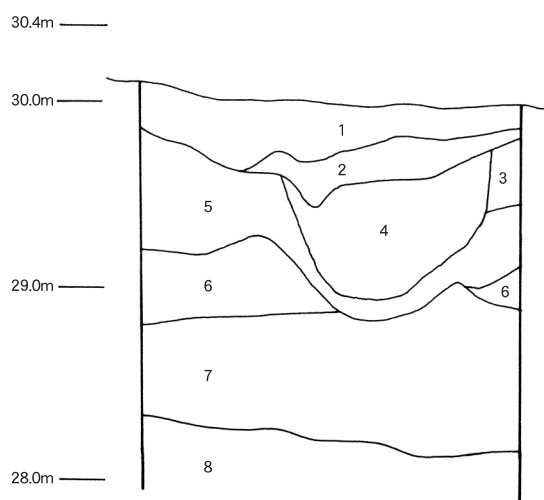
第5層は暗褐色を呈する旧表土層で、砂粒を少量、炭化物を微量含んでいる。層厚は33～64cmである。

第6層は褐色を呈する層で、砂粒を少量、炭化物を微量含んでいる。粘性がやや強い。層厚は最大44cmである。

第7層は褐色を呈する層で、砂粒を少量、炭化粒子を微量含んでいる。締まりがやや強い。層厚は48～75cmである。

第8層はにぶい黄褐色を呈する層で、砂粒を少量、礫を微量含んでいる。粘性及び締まりはやや弱い。層厚は最大14cmであるが、下層は未掘のため本来の層厚は不明である。

遺構は、第3・5層上面で、溝1条を確認している。



第203図 基本土層図



第204図 上加賀田城跡調査区設定図

第3節 遺構と遺物

時期不明の炭焼窯跡7基と溝跡1条を確認したが、急斜面部の調査であったため、土塁跡や堀跡などの城郭施設は確認されなかった。以下、確認された遺構と遺物の特徴について記述する。

1 炭焼窯跡

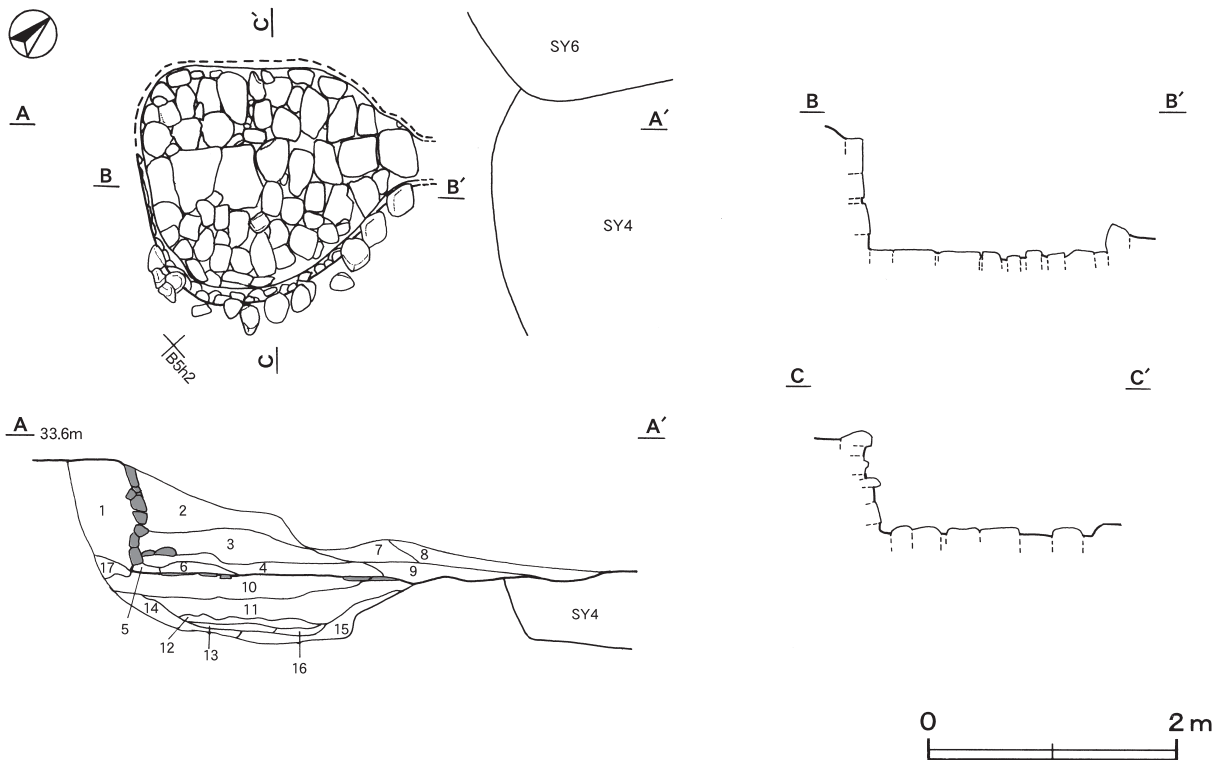
第1号炭焼窯跡（第205図）

位置 調査区東部のB5g1区で、山頂部が主郭跡である小丘陵の標高33mほどの北東斜面部に位置している。

重複関係 第4号炭焼窯跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北西側は削平されており、全容は明らかではない。確認された部分は炭化室と考えられ、長径約4.4m、短径約1.9mの不整円形で、主軸方向（短径方向）はN-140°-Wである。遺存している壁高は78~88cmで、南西側は直立、南東側は外傾して立ち上がっている。窯底は、掘り方に焼土粒子を少量含む赤褐色系の土を最大28cmほど埋め土した上に、平らな面が上になるように石を敷き詰めて構築されている。壁全体にも石が積み上げられている。北東側には焼土や炭化物の広がりが見られ、前庭部があったと推定される。

覆土 17層からなる。第12・14層を除き、いずれも焼土ブロックを含んでいる。第3~6層は炭化物又は炭化粒子を少量含んでいることから、窯内に堆積した層と考えられる。第2・7・8・9層は暗赤褐色を呈し、天井部が崩落した層と想定される。第1・10~17層は、窯底の構築土である。



第205図 第1号炭焼窯跡実測図

土層解説

1 暗赤褐色	ローム粒子中量, 砂粒少量, 焼土ブロック・炭化物微量	9 暗赤褐色	焼土ブロック中量, 砂粒少量, 炭化物微量
2 暗赤褐色	焼土ブロック・砂粒少量, 炭化物微量	10 黒褐色	炭化粒子少量, 焼土ブロック・砂粒微量
3 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・砂粒少量(焼土粒子も含む)	11 赤褐色	焼土ブロック多量
4 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・砂粒少量	12 暗赤褐色	焼土粒子少量, 炭化物・砂粒微量
5 黒褐色	炭化粒子少量, 焼土ブロック・砂粒微量	13 極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, 砂粒微量
6 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, 砂粒微量	14 黒褐色	細礫微量
7 暗赤褐色	焼土ブロック・砂粒少量, 炭化物微量	15 暗赤褐色	焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂粒微量
8 暗赤褐色	焼土ブロック・砂粒少量, 炭化粒子微量	16 赤褐色	焼土ブロック少量, 砂粒微量
		17 暗赤褐色	焼土ブロック・砂粒少量, 炭化物・細礫微量

所見 第2～6号炭焼窯跡と重なり合うように確認されたことから、同じ場所で繰り返し炭焼窯を構築し、操業していたことが考えられる。時期は、不明である。

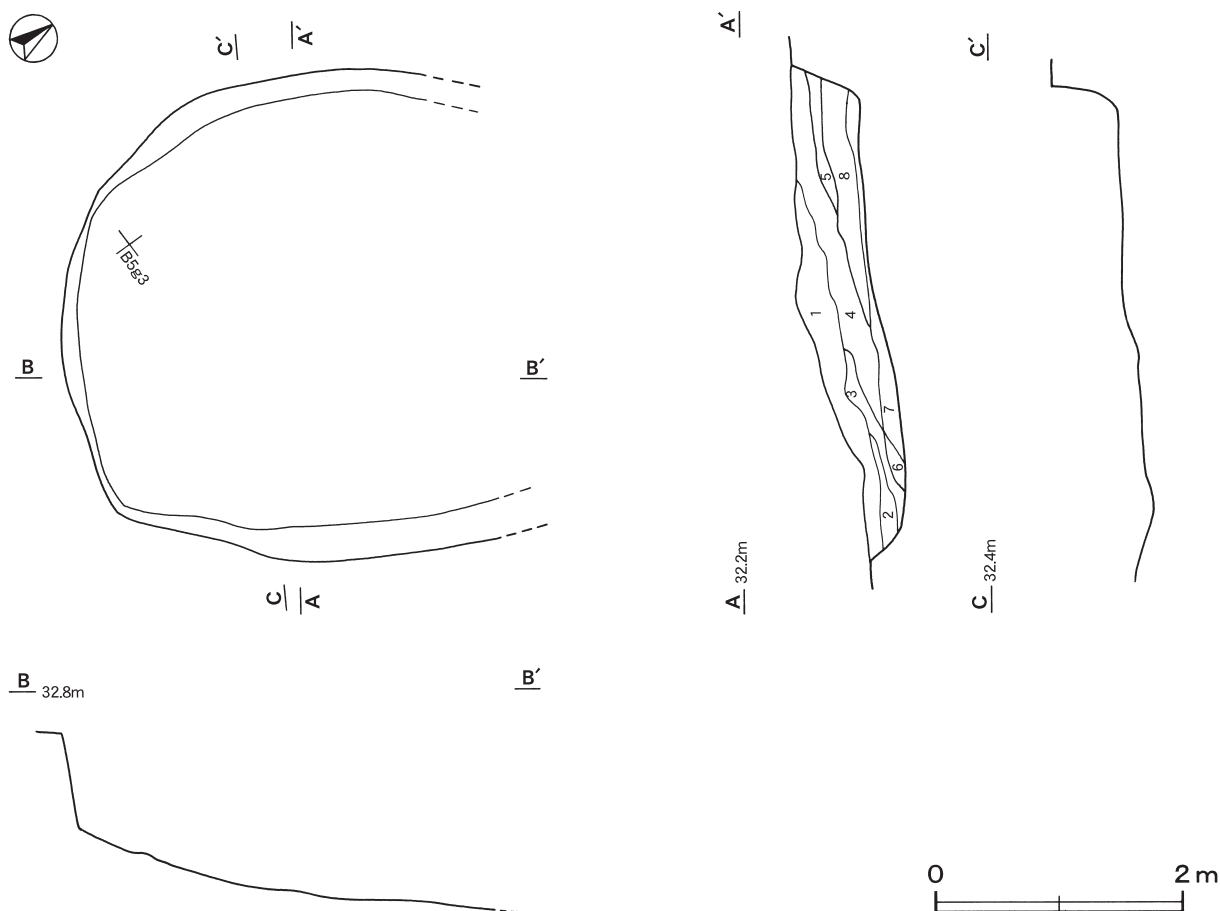
第2号炭焼窯跡 (第206図)

位置 調査区東部のB5g3区で、山頂部が主郭跡である小丘陵の標高32mほどの北東斜面部に位置している。

重複関係 第4号炭焼窯跡を掘り込んでいる。

規模と形状 確認された部分は炭化室と考えられ、長径約4.0m、短径約3.2mの不整楕円形で、主軸方向(短径方向)はN-143°-Wである。遺存する壁高は8～76cmで、外傾して立ち上がっている。北東側に焚口部があったと考えられるが、削平されており全容は明らかではない。

覆土 8層からなる。第7層は灰、第8層は炭化粒子を含んでおり、窯内に堆積した層と考えられる。第5層はにぶい赤褐色を呈し焼土ブロックを含んでいることから、天井部が崩落した層と考えられる。第1～4・6層は窯が廃絶された後堆積した層と考えられる。



第206図 第2号炭焼窯跡実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|----------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量 | 5 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子・砂粒少量, ローム粒子微量 | 6 明黄褐色 | 砂粒中量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 灰黄褐色 | 灰・砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 8 黒色 | 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |

所見 第1・3～6号炭焼窯跡と隣接して確認されたことから、同じ場所で繰り返し炭焼窯を構築し、操作していたことが考えられる。時期は、不明である。

第3号炭焼窯跡 (第207図)

位置 調査区東部のB5f2区で、山頂部が主郭跡である小丘陵の標高32mほどの北東斜面部に位置している。

重複関係 第4・6号炭焼窯跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北東側が削平されており、全容は明らかではないが、長径約2.0m、短径約1.7mの不整楕円形の炭化室、括れ部を挟んで一辺1.0mほどの方形の焚口部が確認された。主軸方向(長径方向)はN-145°-Wである。壁高は40～66cmで、外傾して立ち上がっている。

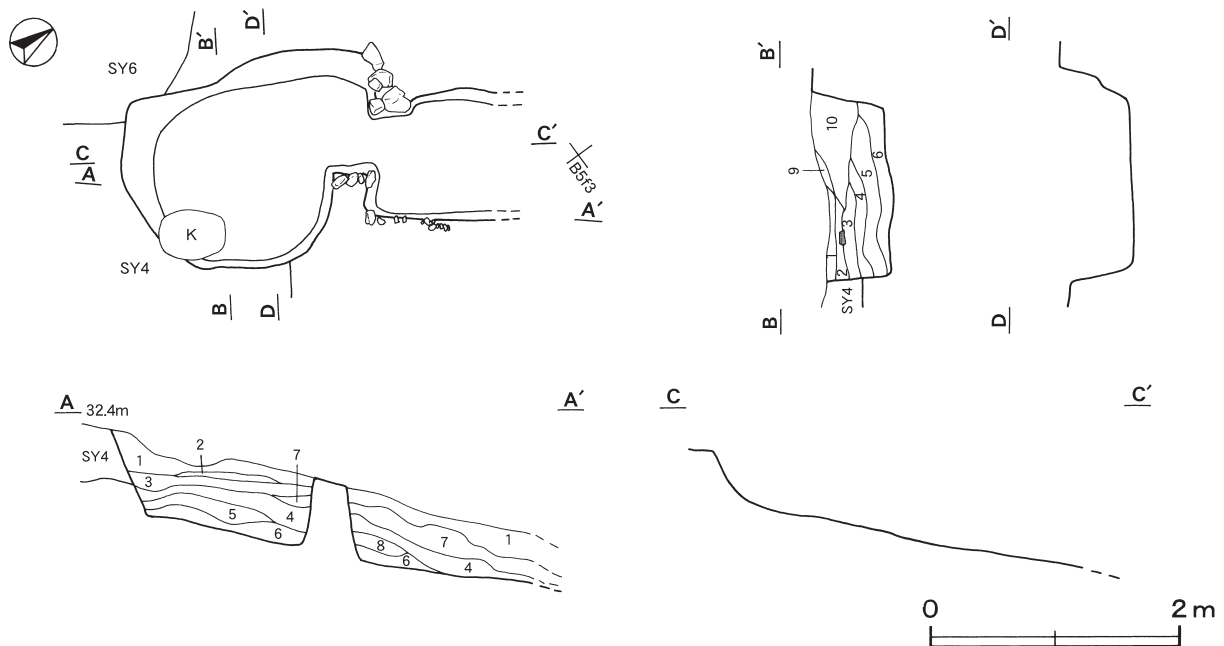
覆土 10層からなる。第3層は炭化材、第2・7層は炭化物、第4・5層は炭化粒子、第6・8層は炭化粒子と灰を含み、窯内に堆積した層と考えられる。第1・9・10層は廃絶後に堆積した層と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|--------|------------------|
| 1 黒色 | 炭化物中量, 焼土粒子・砂粒微量 | 6 黒褐色 | 炭化粒子少量, 灰微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化物・砂粒微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化材・砂粒微量 | 8 黒褐色 | 炭化粒子少量, 焼土粒子・灰微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 黒色 | 炭化粒子中量, 焼土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子中量 | 10 黒褐色 | 炭化粒子中量, 焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 焚口部と考えられる付近を中心に、窯壁の構築材の破片が出土している。

所見 第1・2・4～6号炭焼窯跡と重なり合うように確認されたことから、同じ場所で繰り返し炭焼窯を構築し、操作していたと考えられる。時期は、不明である。



第207図 第3号炭焼窯跡実測図

第4号炭焼窯跡（第208図）

位置 調査区東部のB 5g2区で、山頂部が主郭跡である小丘陵の標高32mほどの北東斜面部に位置している。

重複関係 第1～3・6号炭焼窯に掘り入りこまれている。南東部は攪乱を受けている。

規模と形状 重複と攪乱のため、全容は明らかではない。確認された部分は、長径約3.9m、短径約2.0mで、楕円形又は長方形と推定され、主軸方向（長径方向）はN-140°-Wである。遺存する壁高は50cmほどで、外傾して立ち上がっている。

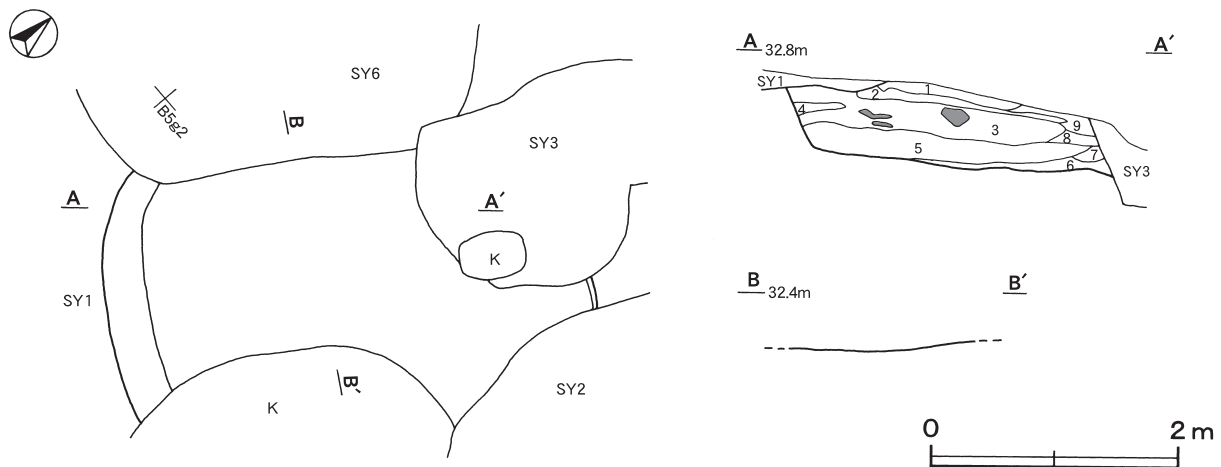
覆土 9層からなる。第5層は暗赤褐色を呈し、焼土ブロック、炭化粒子及び灰を含み、第6・7層は、黒褐色・黒色を呈し、炭化物を含んでいることから、いずれも窯内に堆積した層と考えられる。本跡を掘り込んで、複数の炭焼窯が構築されていることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 褐色	ロームブロック少量、炭化物・砂粒微量	6 黒褐色	炭化物少量、焼土ブロック・砂粒・灰微量
2 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、砂粒微量	7 黒色	炭化物中量、焼土粒子・砂粒微量
3 黒褐色	炭化粒子少量、焼土ブロック・砂粒微量	8 黒色	炭化物中量
4 暗赤褐色	焼土ブロック・細礫少量、炭化物・砂粒微量	9 黒色	炭化粒子中量、焼土粒子微量
5 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、砂粒・灰微量		

遺物出土状況 覆土中から、土師質土器小皿カの底部片1点と窯壁の構築材の破片が出土している。

所見 第1～3・5・6号炭焼窯跡と重なり合うように確認されたことから、同じ場所で繰り返し炭焼窯を構築し、操業していたと考えられる。遺存状況は極めて不良であり、時期は不明である。



第208図 第4号炭焼窯跡実測図

第5号炭焼窯跡（第209図）

位置 調査区東部のB 5f1区で、山頂部が主郭跡である小丘陵の標高32mほどの北東斜面部に位置している。

重複関係 第6号炭焼窯跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北東部は削平されているため、全容は明らかではない。確認された部分は、長軸約2.8m、短軸約2.3mの長方形の炭化室と考えられ、主軸方向（短軸方向）はN-140°-Wである。壁高は32～66cmで、外傾して立ち上がっている。北東側に、焚口部と考えられる細長い掘り込みが確認された。

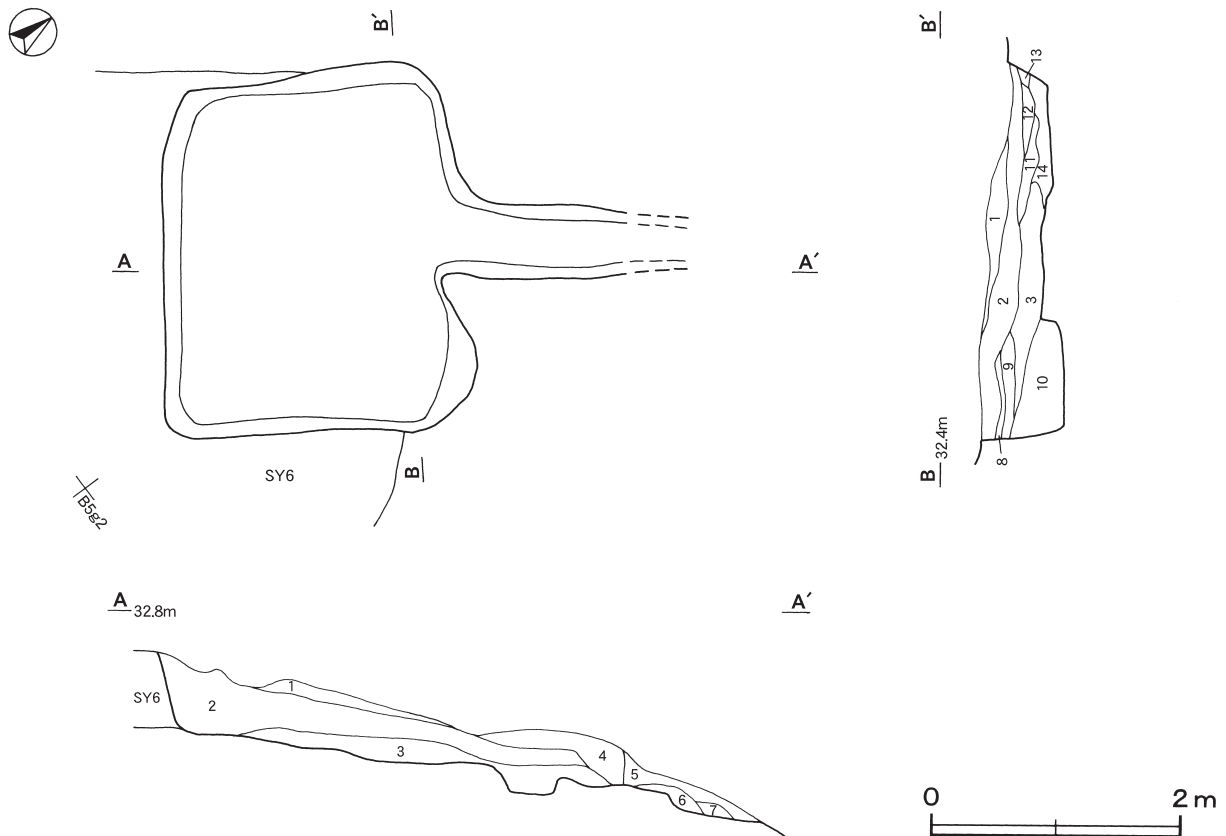
覆土 14層からなる。第2・3・8～14層は、焼土ブロックや炭化粒子を含んでおり、窯内に堆積した層と考えられる。第1・4は暗褐色を呈しローム粒子を含んでいることから、廃絶後に堆積した層と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	8 明赤褐色	焼土ブロック少量, 炭化物・砂粒微量
2 黒色	炭化粒子中量, 焼土ブロック微量	9 暗赤褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子・砂粒微量
3 赤褐色	焼土ブロック中量, 炭化粒子・砂粒微量	10 暗赤褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	11 黒褐色	炭化粒子少量, 焼土粒子微量
5 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, 砂粒微量	12 暗赤褐色	炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
6 極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	13 黒褐色	炭化粒子少量
7 暗赤褐色	焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂粒微量	14 暗褐色	炭化粒子少量, 焼土ブロック微量

遺物出土状況 焚口部と考えられる付近を中心に、窯壁の構築材の破片が出土している。

所見 第1～4・6号炭焼窯跡と重なり合うように確認されたことから、同じ場所で繰り返し炭焼窯を構築し、操業していたと考えられる。時期は不明である。



第209図 第5号炭焼窯跡実測図

第6号炭焼窯跡 (第210図)

位置 調査区東部のB5f1区で、山頂部が主郭跡である小丘陵の標高32mほどの北東斜面部に位置している。

重複関係 第4号炭焼窯跡を掘り込み、第3・5号炭焼窯に掘り込まれている。

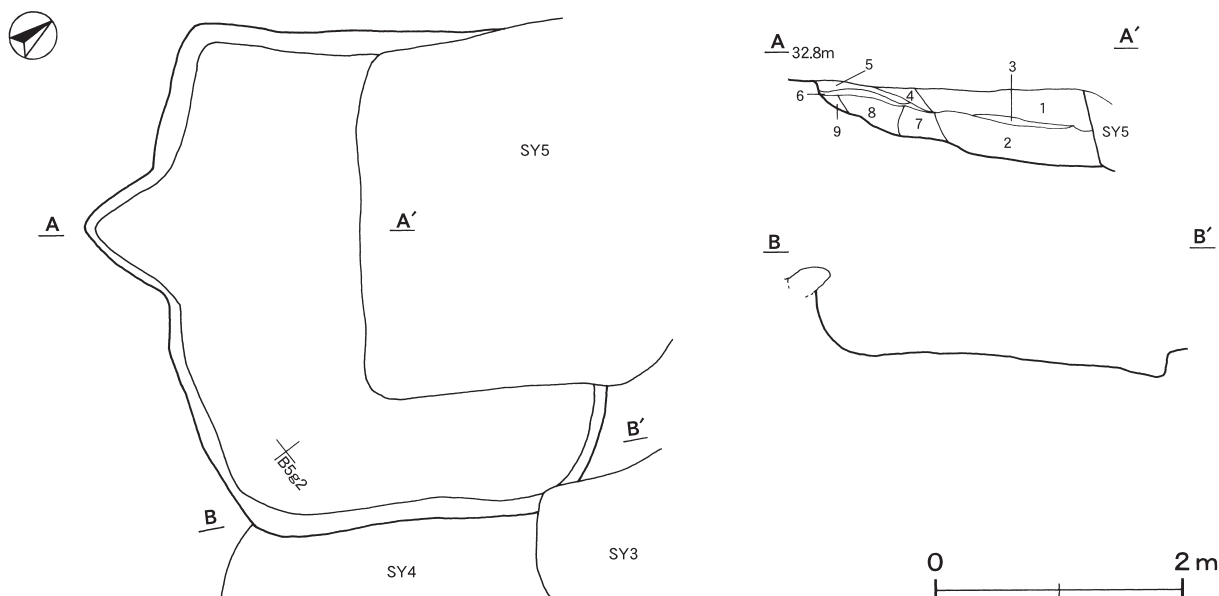
規模と形状 北東部は第5号炭焼窯に掘り込まれているため、全容は明らかではない。確認された部分は長軸約4.0m、短軸約3.6mの長方形の炭化室と考えられ、主軸方向(短軸方向)はN-140°-Wである。南西壁中央部が、60cmほど三角形に掘り込まれており、煙道が設けられていたと考えられる。遺存する壁高は22~68cmで、外傾して立ち上がっている。

覆土 9層からなる。第2層は、黒色を呈し、炭化粒子を含み、第7・8層は灰褐色を呈し、焼土や炭化物及び灰を含んでいることから、窯内に堆積した層と考えられる。第4～6層は焼土粒子や粘土粒子を含み、天井部が崩落した層と考えられる。第1層は暗褐色を呈し、ローム粒子を含んでいることから、廃絶後に埋め戻された層と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-----------|----------------------|-----------|----------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 炭化物・砂粒微量 | 6 暗 赤 褐 色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒 色 | 炭化粒子中量, 焼土ブロック微量 | 7 灰 褐 色 | 炭化材・焼土ブロック・灰微量 |
| 3 赤 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化物微量 | 8 灰 褐 色 | 焼土ブロック・炭化物・灰微量 |
| 4 灰 褐 色 | 粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 炭化物微量 |
| 5 暗 赤 褐 色 | 焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量 | | |

所見 第1～5号炭焼窯跡と重なり合うように確認されたことから、同じ場所で繰り返し炭焼窯を構築し、操業していたと考えられる。遺存状況は不良であり、時期は不明である。



第210図 第6号炭焼窯跡実測図

第7号炭焼窯跡 (第211図)

位置 調査区東部のB 3e9区で、山頂部が主郭跡である小丘陵の標高31mほどの北東斜面部に位置している。

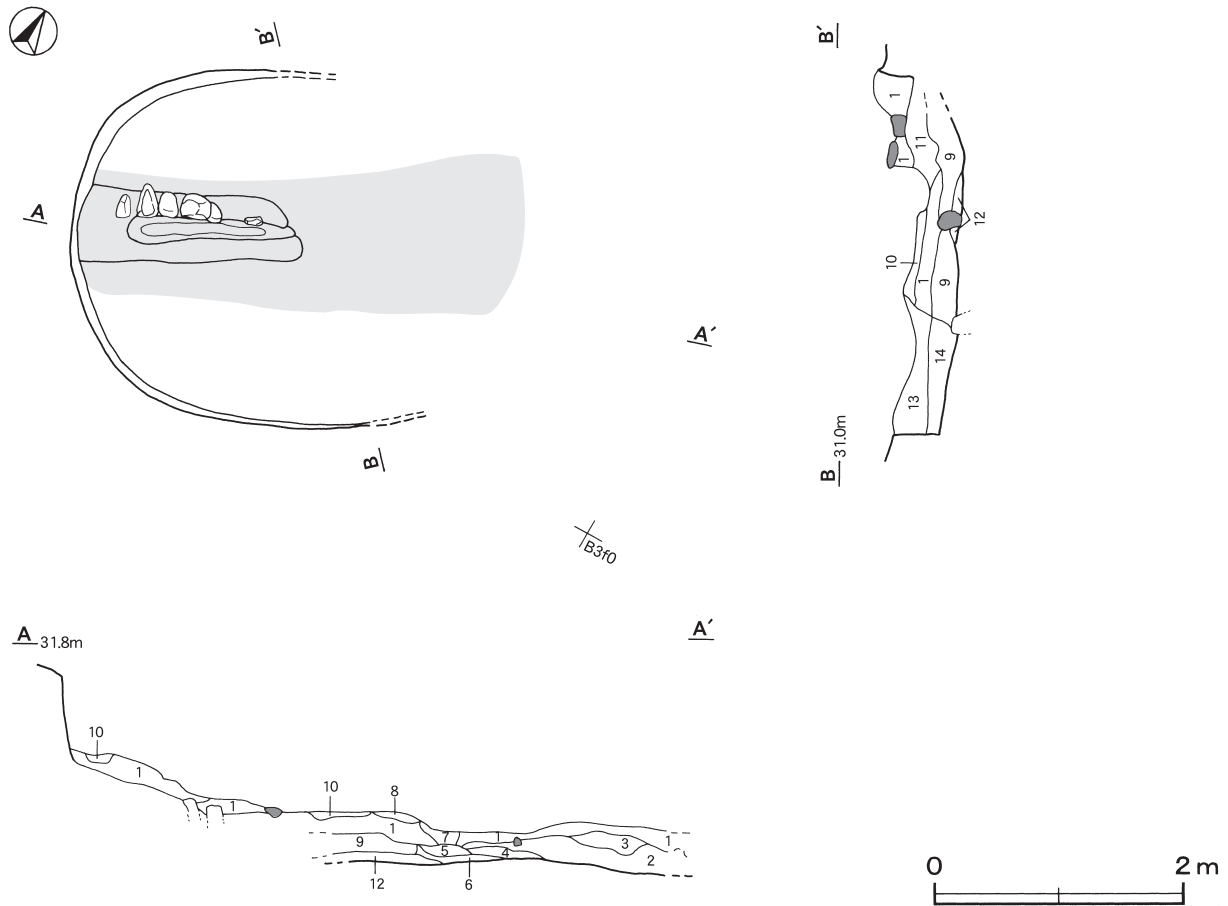
規模と形状 東部は削平されており、全容は明らかではない。確認された部分は、長径5.2m以上、短径約2.8mの楕円形の炭化室と考えられ、主軸方向（長径方向）はN-120°-Wである。遺存する壁高は38～64cmで、直立している。西壁際の窯底には敷石が確認され、窯底は西壁際から中央部にかけて赤変している。

覆土 14層からなる。第2・4～6・12層は、窯内に堆積した層と考えられる。天井部の崩落によると想定される層は確認できない。

土層解説

- | | | | |
|-----------|---------------------|----------|---------------------|
| 1 灰 褐 色 | 砂粒少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 灰 褐 色 | 焼土ブロック・砂粒少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒 色 | 炭化粒子中量, 砂粒・灰微量 | 11 灰 褐 色 | 焼土ブロック・砂粒微量 |
| 3 灰 褐 色 | 炭化粒子・粘土粒子少量, 砂粒微量 | 12 黒 色 | 炭化粒子中量, 焼土ブロック・砂粒微量 |
| 4 灰 褐 色 | 炭化粒子・砂粒少量, 焼土ブロック微量 | 13 灰 褐 色 | 砂粒少量 |
| 5 黒 褐 色 | 焼土ブロック・砂粒微量 | 14 灰 褐 色 | 砂粒少量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗 褐 色 | 焼土ブロック・砂粒微量 | | |
| 7 暗 褐 色 | 砂粒少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | | |
| 8 黒 褐 色 | 焼土ブロック・炭化物・砂粒微量 | | |
| 9 暗 赤 褐 色 | 砂粒少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | | |

所見 遺存状況は不良であり、時期は不明である。



第211図 第7号炭焼窯跡実測図

表24 炭焼窯跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長軸(径)×短軸(径) (m)	深さ(cm)					
1	B5g1	N-140°-W	(不整円形)	(4.4) × 1.9	78~88	外傾	平坦	人為	-	SY4→本跡
2	B5g3	N-143°-W	(不整楕円形)	4.0 × (3.2)	8~76	外傾	平坦	人為	-	SY4→本跡
3	B5f2	N-145°-W	(瓢型)	(4.0) × 1.7	40~66	外傾	平坦	人為	構築材片	SY4・6→本跡
4	B5g2	N-140°-W	(楕円形又は長方形)	(3.9) × (2.0)	50	外傾	平坦	人為	土師質土器カ	本跡→SY1~3・6
5	B5f1	N-140°-W	(長方形)	(4.7) × 2.8	32~66	外傾	平坦	人為	構築材片	SY6→本跡
6	B5f1	N-140°-W	(長方形)	4.0 × (3.6)	22~68	外傾	平坦	人為	-	SY4→本跡→SY3・5
7	B3e9	N-120°-W	(楕円形)	(5.2) × 2.8	38~64	直立	平坦	人為	-	

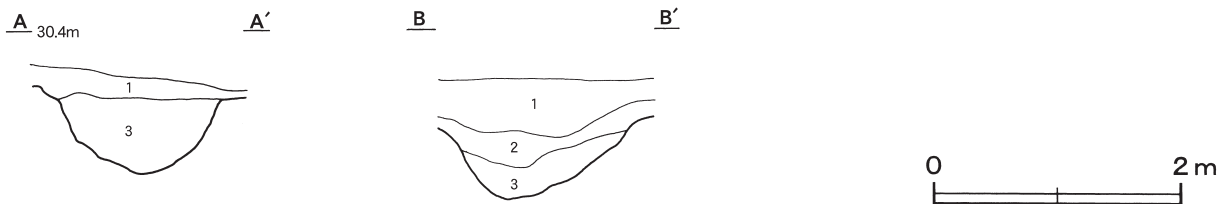
2 溝跡 (第212・221図)

調査区中央部のB3区で、溝跡1条を確認した。第1号溝跡は、裾部に広がる平場の最も南側で斜面部との境に位置し、東西方向に延びている。確認された長さは、25mほどである。全容は不明であり、遺物も出土していないため、時期や性格は不明である。

以下、この溝跡について、平面図は全体図に示し、土層断面図を記載する。

第1号溝跡土層解説（1, 2は表土層）

- | | | | |
|-------|------------------|----------|-------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化物少量, 粘土粒子微量 | 3 にぶい黄褐色 | 砂粒中量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 褐色 | 粘土粒子少量, 炭化物・砂粒微量 | | |



第212図 第1号溝跡実測図

3 トレンチ（第213～216・221図）

遺構確認のために、A～Jのトレンチを設定した。以下、それらの土層断面図（第213～216図）を示し、併せて土層解説を記載する。なお、トレンチの位置は、遺構全体図に示した。

A トレンチ土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 細礫・砂粒少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・砂粒微量
- 3 暗褐色 細礫少量, ロームブロック・砂粒微量
- 4 明褐色 ローム粒子中量, 細礫・砂粒微量
- 5 褐色 ローム粒子・砂粒少量, 炭化粒子・細礫微量
- 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・細礫微量
- 7 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量, 細礫微量
- 8 黒褐色 砂粒少量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・細礫・砂粒微量
- 10 暗褐色 砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子・細礫微量
- 11 黒褐色 砂粒少量, ロームブロック・細礫微量
- 12 黒褐色 ロームブロック・炭化物・細礫・砂粒微量
- 13 黒褐色 ロームブロック・砂粒少量, 細礫微量
- 14 黒褐色 炭化粒子・砂粒少量, ローム粒子・細礫微量
- 15 褐色 ローム粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量
- 16 暗褐色 砂粒少量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 17 暗褐色 ロームブロック微量
- 18 暗褐色 ロームブロック少量

B トレンチ土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・細礫微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・細礫少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・細礫少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・細礫・砂粒微量
- 5 黒褐色 砂粒少量, ローム粒子・細礫微量
- 6 黒褐色 砂粒少量, 炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

C トレンチ土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・細礫微量
- 7 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・細礫少量
- 8 暗褐色 ロームブロック・細礫少量
- 9 黒褐色 砂粒少量, 炭化粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 細礫微量

D トレンチ土層解説

- 1 暗褐色 砂粒少量, ロームブロック・細礫微量
- 2 灰黄褐色 砂粒・細礫少量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 花崗岩の岩盤

E トレンチ土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量
- 4 黄橙色 鹿沼パミス少量, 炭化物微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子・鹿沼パミス微量
- 6 黒褐色 炭化物・鹿沼パミス微量
- 7 褐色 ローム粒子少量, 鹿沼パミス微量
- 8 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子・鹿沼パミス微量
- 9 暗褐色 ロームブロック微量
- 10 暗褐色 炭化物少量, 砂粒微量
- 11 暗褐色 炭化物・ローム粒子・細礫微量
- 12 褐色 ローム粒子少量, 細礫・砂粒微量
- 13 暗褐色 ローム粒子・細礫少量, 炭化物微量
- 14 褐色 粘土粒子中量, 炭化物・細礫・砂粒微量

F トレンチ土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

G トレンチ土層解説

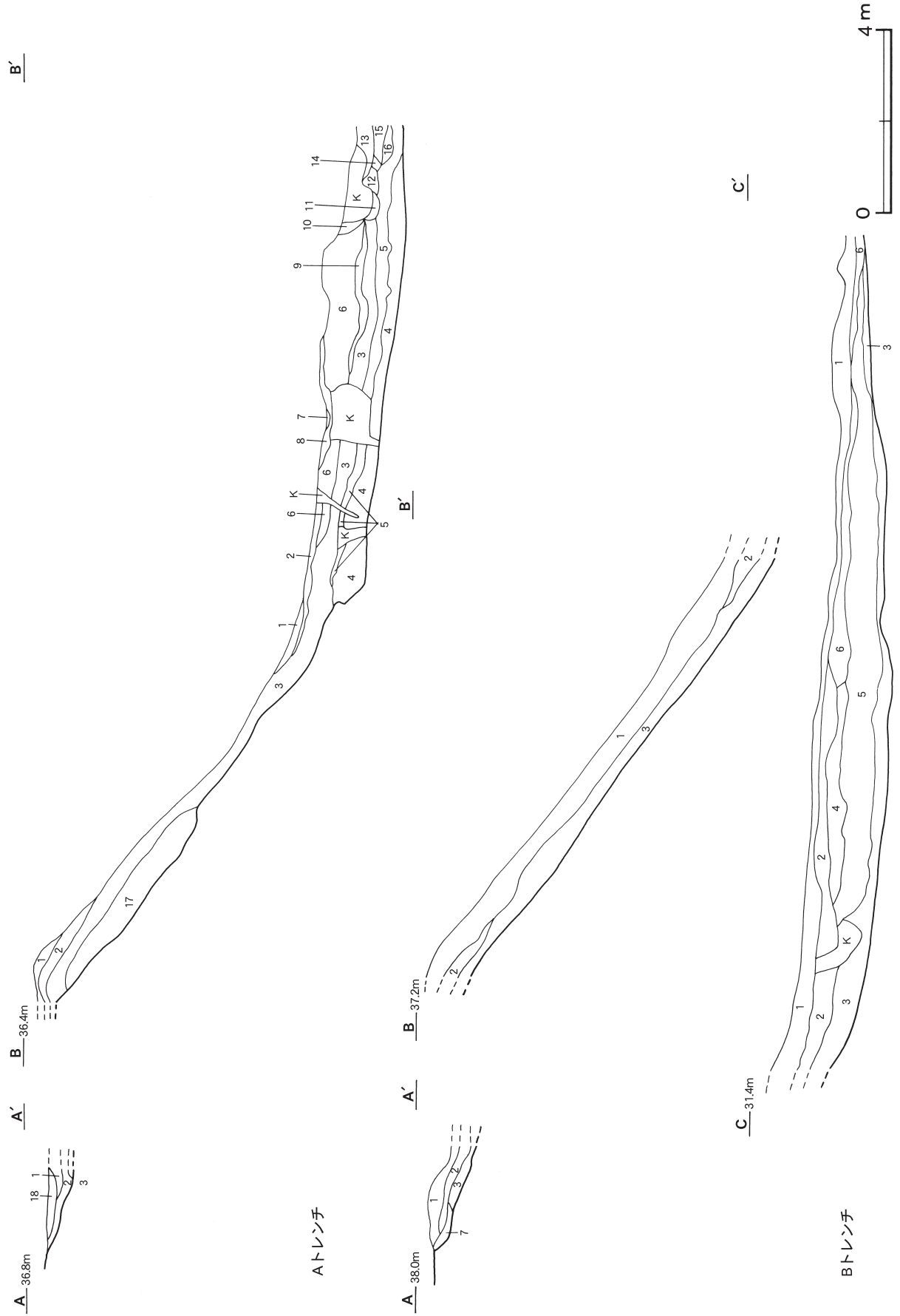
- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量（締まり弱い）
- 8 灰黄褐色 ロームブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 9 灰黄褐色 ローム粒子中量, 粘土粒子・砂粒少量, 鹿沼パミス微量

H トレンチ土層解説

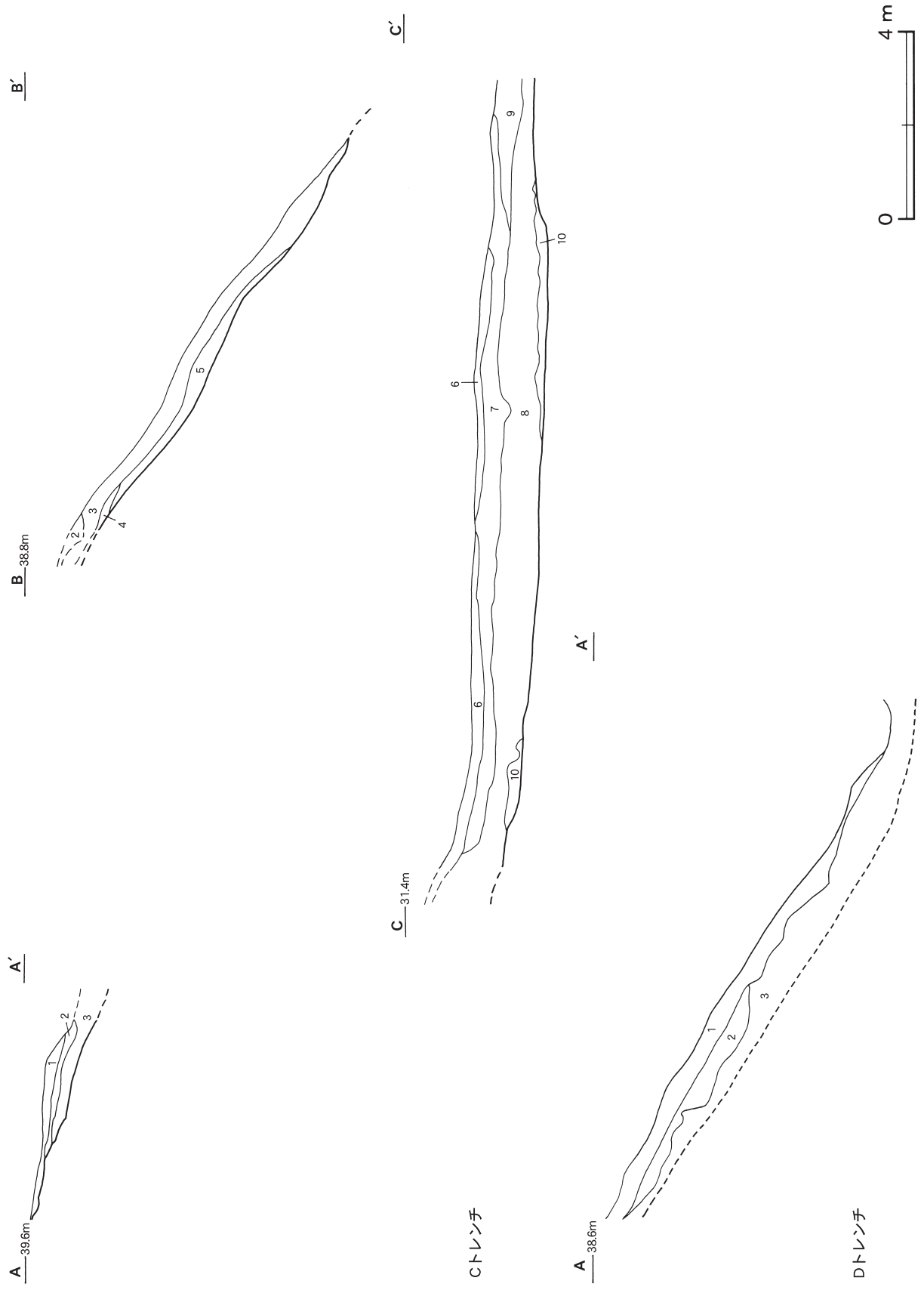
- 1 暗褐色 粘土粒子少量, 細礫微量
- 2 黒褐色 細礫少量
- 3 褐色 細礫少量, 粘土粒子微量
- 4 黒褐色 粘土粒子中量, 細礫微量
- 5 暗褐色 細礫・砂粒少量
- 6 暗灰黄色 細礫微量

I トレンチ土層解説

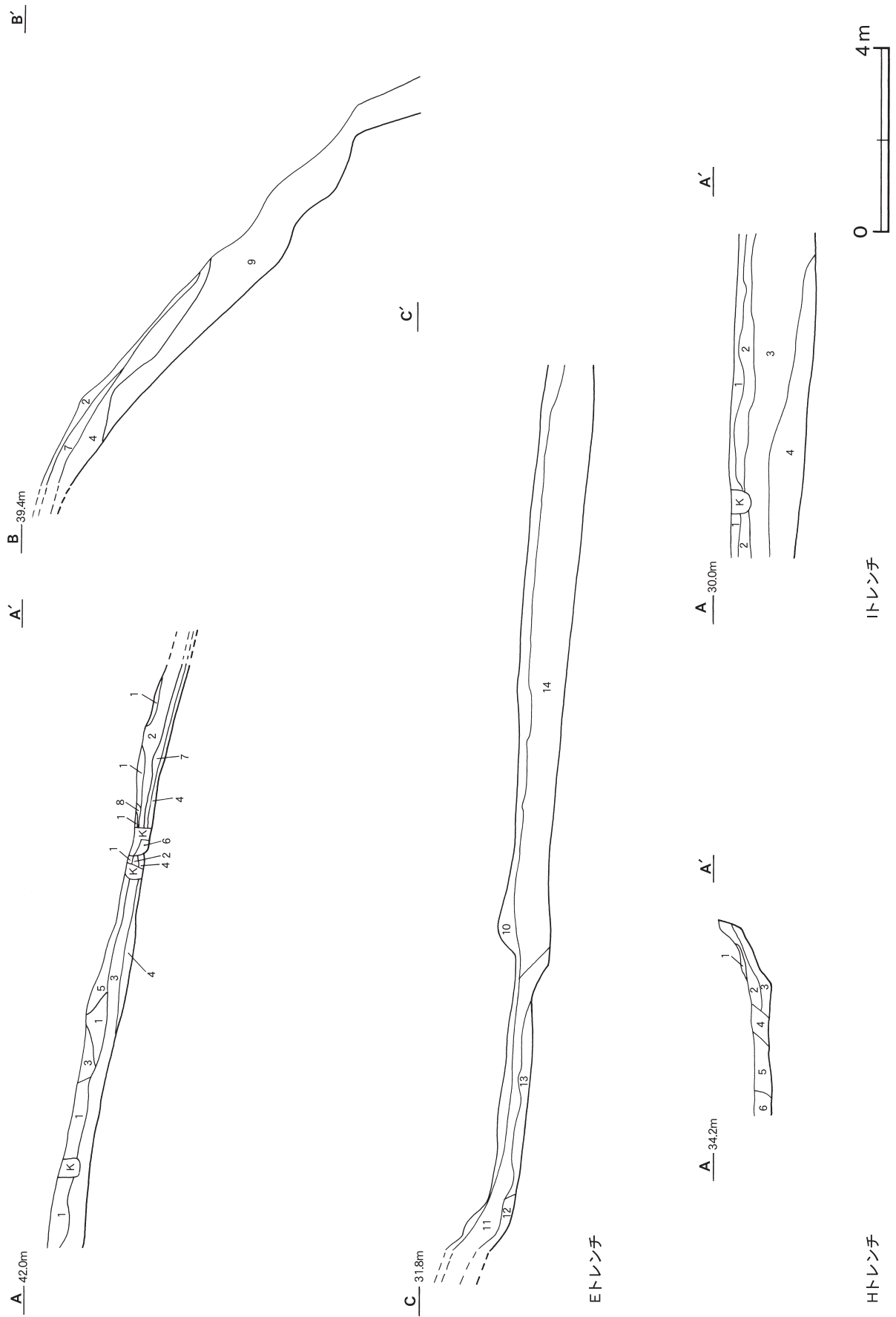
- 1 暗褐色 粘土粒子中量, 砂粒少量
- 2 黒褐色 粘土粒子・砂粒少量, ロームブロック微量
- 3 褐色 粘土粒子・砂粒中量
- 4 黒褐色 粘土粒子・砂粒中量, 細礫微量



第213図 上加賀田城跡トレンチ土層断面図(1)



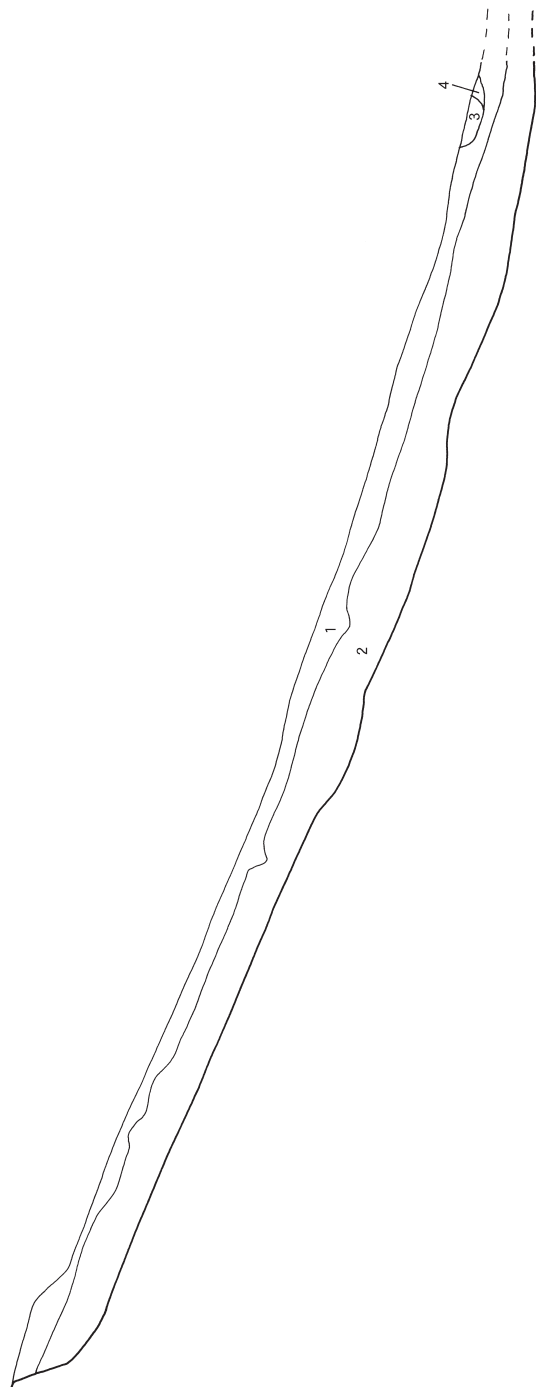
第214図 上加賀田城跡トレンチ土層断面図(2)



第215図 上加賀田城跡トレンチ土層断面図(3)

A'

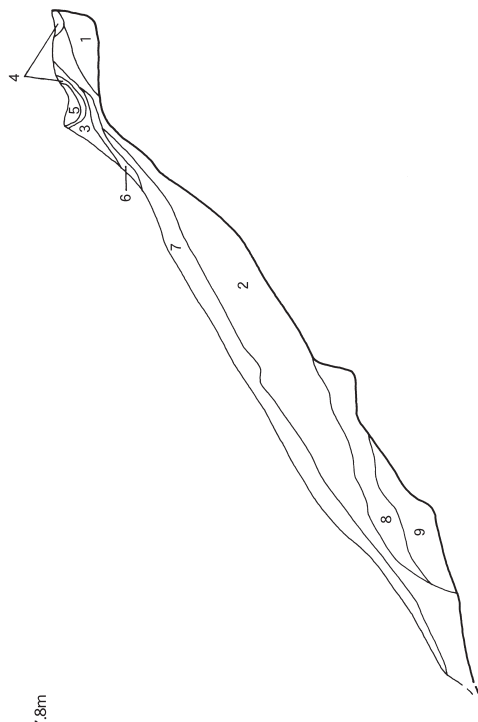
A 42.0m



Fトレンチ

A'

A 37.8m



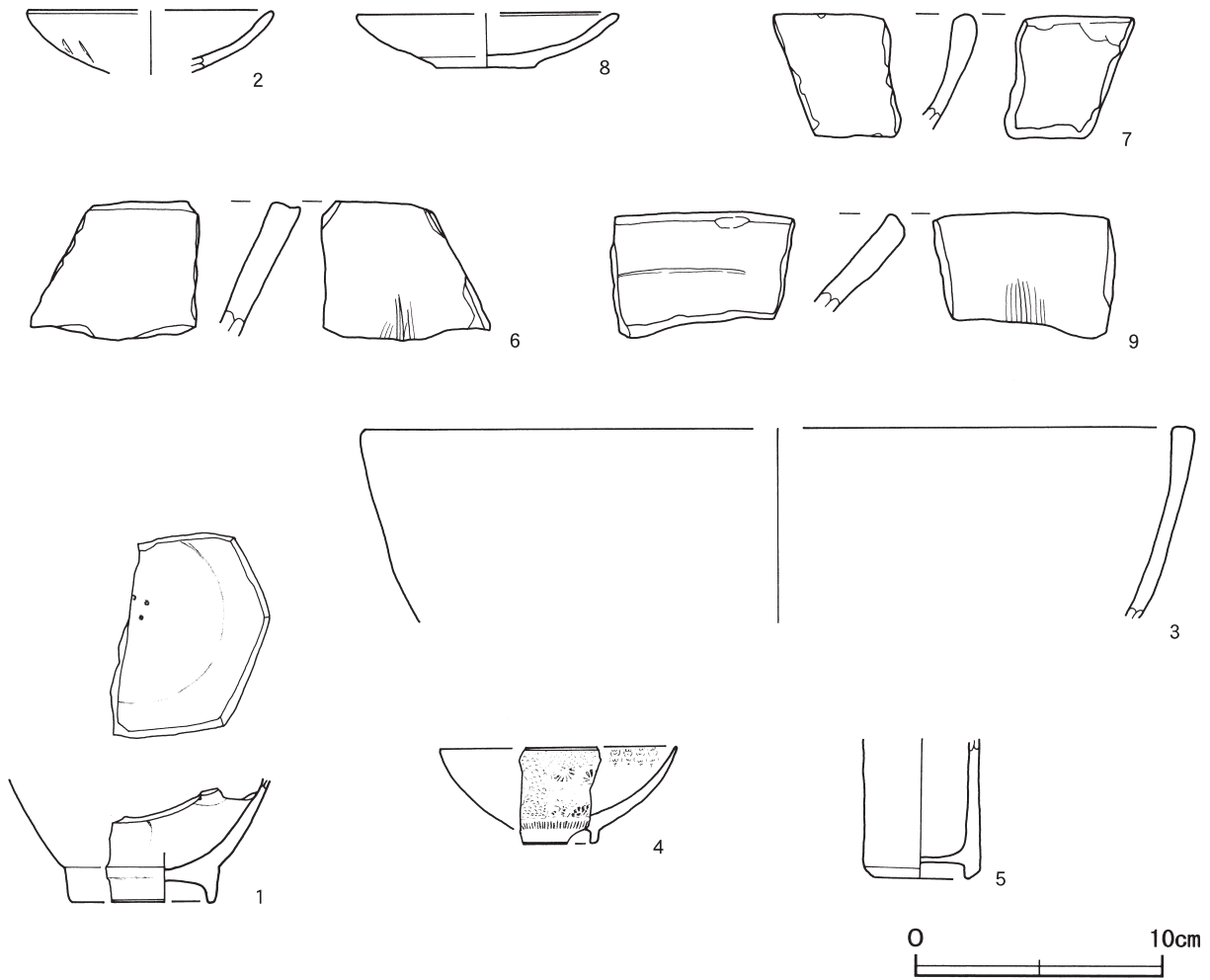
Gトレンチ



第216図 上加賀田城跡トレンチ土層断面図(4)

4 遺構外出土遺物

遺構に伴わない主な遺物について、実測図（第217図）と出土遺物観察表で記載する。



第217図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第217図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	陶器	広東碗	-	(5.0)	5.7	緻密	灰白	普通	染め付け	Aトレンチ	30% PL31
2	土師質土器	小皿	[9.8]	(2.5)	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	ロクロナデ	Bトレンチ	10% PL31
3	土師質土器	鍋	[33.4]	(7.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	Bトレンチ	PL31
4	磁器	碗	[9.4]	3.9	[3.0]	緻密	灰白	普通	口縁部内瓔珞文	Bトレンチ	10% PL31
5	陶器	花器カ	-	(5.6)	3.8	緻密	にぶい赤褐	普通	削り出し高台 外面無釉 内面柿釉	Eトレンチ	PL31
6	土師質土器	播鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	表採	PL31
7	土師質土器	鍋	-	(4.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	表採	PL31
8	土師質土器	小皿	[10.4]	2.2	3.9	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	ロクロナデ	文化課トレンチ	30% PL31
9	土師質土器	播鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	口縁部内・外面横ナデ 播り目8条確認	文化課トレンチ	10% PL31

第4節 ま と め

今回の調査は、調査区が城郭北縁の斜面部のみであったことから、城郭に関わる施設等を確認することはできなかった。確認された遺構は、時期不明の炭焼窯7基と溝1条である。遺物も、表面採集やトレンチから出土した遺物がわずかにあるのみである。よって、上加賀田城跡について、発掘調査の結果から論じることは困難であるが、立地や時期、城主等について若干の考察をし、まとめとしたい。

1 上加賀田城跡の立地と構造

上加賀田城跡は標高56mの独立した小丘陵に立地している（第219図参照）。この小丘陵の平坦な山頂部が主郭跡である。北側と東側は急な斜面になっており、北側は裾部のわずかな平場を挟んで潤沼川に接し、東側は裾部が潤沼川に直接接している。南側はやや緩やかな斜面で、主郭から南へ下りながら二の郭、三の郭と続いており（第218図参照）、郭ごとに土塁と堀らしき跡が残っている。小丘陵の南側と西側は、現在は水田が広がっており、その標高は30～34mほどである。主郭跡との比高は約22～26mということになる。

上加賀田城が機能していた当時は、北と東は潤沼川が堀の役目を、南と西は水田（当時は湿地帯であったと考えられる）が泥田堀の役目を果たし、守りは盤石であったと考えられる。

小丘陵の小字名をみると、主郭付近は「御城」、北から北東斜面部付近は「北古屋」、北西斜面部付近は「神宿」、西斜面部付近は「古屋」と呼ばれている（第220図参照）。また、小丘陵から西に150mほど離れた所には「堀ノ内」という小字もみられ、平時の屋敷はそこにあったのではないかと考えられる。

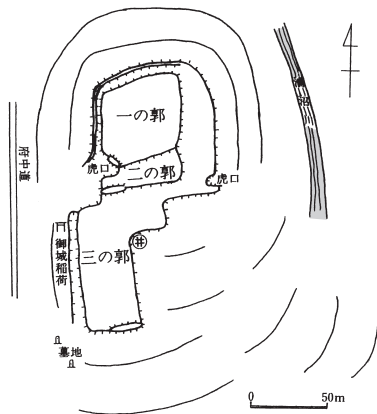
2 築城・廃城時期と城主

上加賀田城跡がある上加賀田地区は、旧友部町下加賀田地区とあわせて、中世には「加賀田」と呼ばれ、宍戸氏の支配下にあった。しかし、築城・廃城の時期や城主については、不明な点が多い。笠間市史¹⁾には、築城時期は中世、城主は宍戸氏族と記され、友部町史²⁾にも、天文年間（1532～1555年）の宍戸氏の城館配置推定図が掲載されており、加賀田城（上加賀田城）も配置されているが、築城時期や城主の詳細について、それ以上は言及していない。

ここで、宍戸氏についてふれておく。宍戸氏は八田知家の子家政を祖とし、小鶴荘（現在の笠間市旧友部町域、東茨城郡茨城町）を本拠とした豪族の子孫である。同族の小田氏は、常陸国の守護職を世襲し大きな

勢力を持っていた。宍戸氏も、一時期守護職に任じられたことがあり、有力な一族であった。

上加賀田城跡は、宍戸氏の出城の一つであることは間違いないと思われる。しかし、宍戸氏の居館がどこにあったかは明確でない。戦国期の宍戸氏の当主は宍戸持久、政家、政里、義利、義長の5代とされ、新編常陸国誌³⁾によれば、「是（持久）ヨリ四世宍戸城主タリ」とあるが、宍戸城は近世宍戸城の前身であったのか、あるいは近世宍戸城の東隣の「古館」の地が当てはまるのかは明らかではない。なお、新編常陸国誌によれば、持久の父持里は宍戸山尾城（現笠間市平町）に住んでいたこと、その祖家時も山尾に居していたことが記されている。

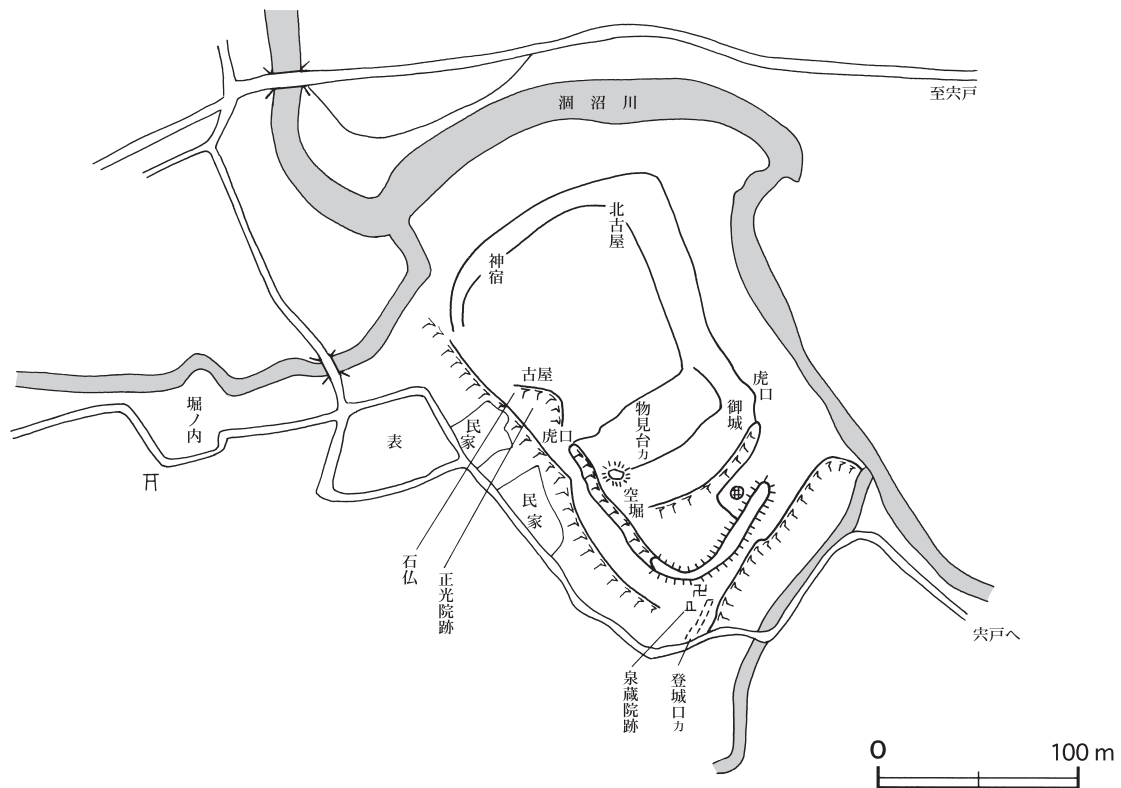


第218図 上加賀田城跡実測図

（註1 文献 図3-29を引用）



第219図 上加賀田城跡周辺地形図



第220図 上加賀田城見取図（友部町史編さん室資料より作成）

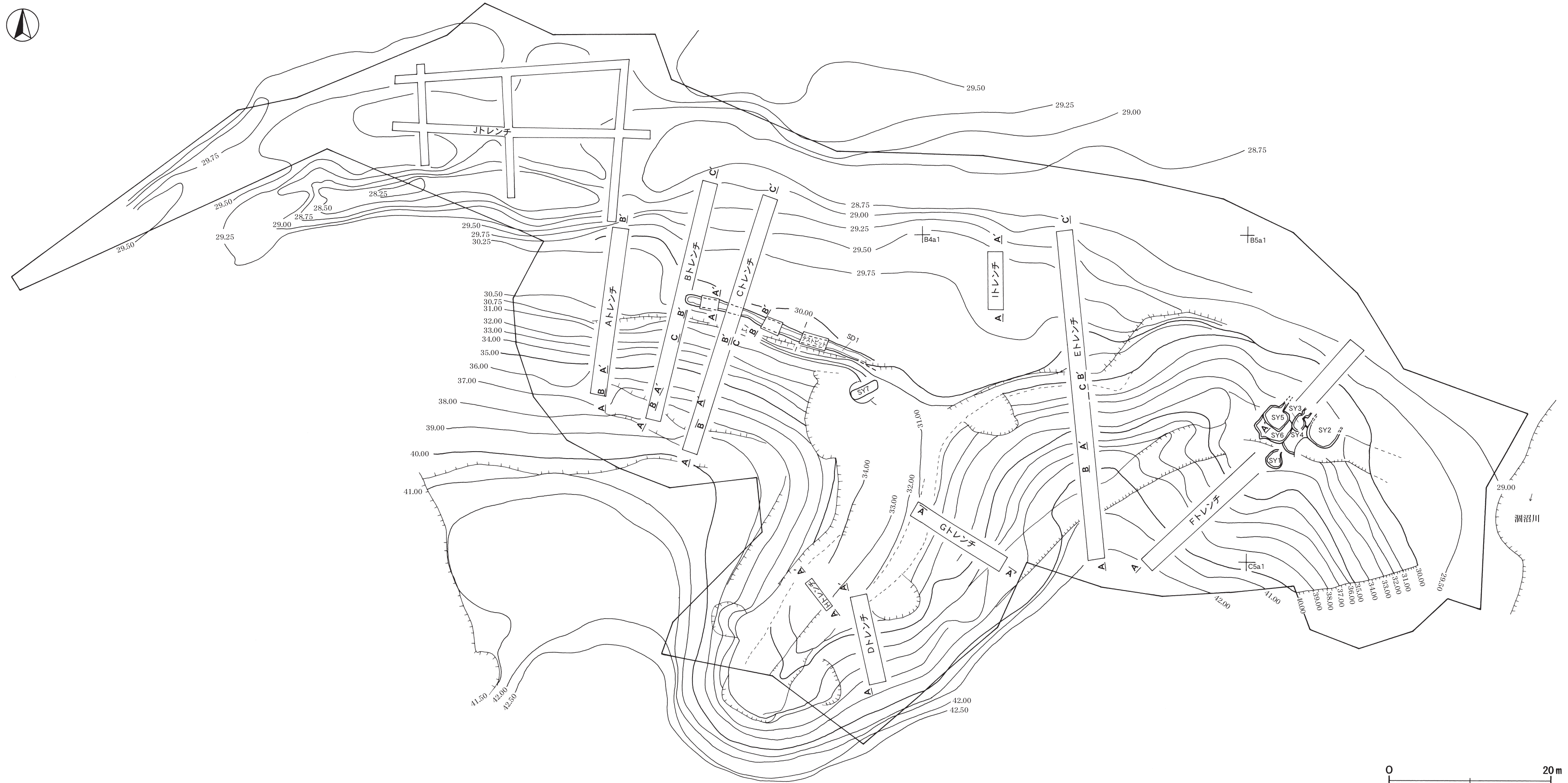
さて、宍戸氏も、戦国期に佐竹氏が勢力を拡大し、常陸統一を成し遂げる中で、最終的には佐竹氏の被官という立場に組み入れられて終焉を迎えることになる。宍戸氏は義利の代に初めて佐竹方として戦に加わっているが、佐竹氏被官としての立場が決定的になったのは、1562年の佐竹氏の宍戸氏攻撃である。既述した5代の関係は、持久の子が政家、政家の子が政里、義利で、義長は政里の養子義綱の子である。そして、政里の跡を継いだその弟の義利と養子の義綱の間で内紛があったとされる。佐竹氏は親佐竹の義利派擁護に動き、義綱派宍戸氏を攻撃したと考えられ、この後、宍戸氏は佐竹方に一本化された。その後、1595年に、豊臣秀吉から知行安堵の朱印状を与えられた佐竹義宜は武将の配置換えを実施した。宍戸義利は、真壁郡海老ヶ島城主として6700石の所領を預けられた。宍戸氏の去った旧領は、佐竹一族や家臣に分知され、加賀田は代官によって管理されることとなった。

註

- 1) 笠間市史編さん委員会「笠間市史」笠間市 1993年12月
- 2) 友部町史編さん委員会「友部町史」友部町 1990年3月
- 3) 中山信名 栗田寛「新編常陸国誌」宮崎報恩会 1981年10月

参考文献

・茨城県立歴史館「茨城県史料 中世編Ⅲ」茨城県 1990年3月



第221図 上加賀田城跡遺構全体図

写 真 凶 版

向 原 遺 跡

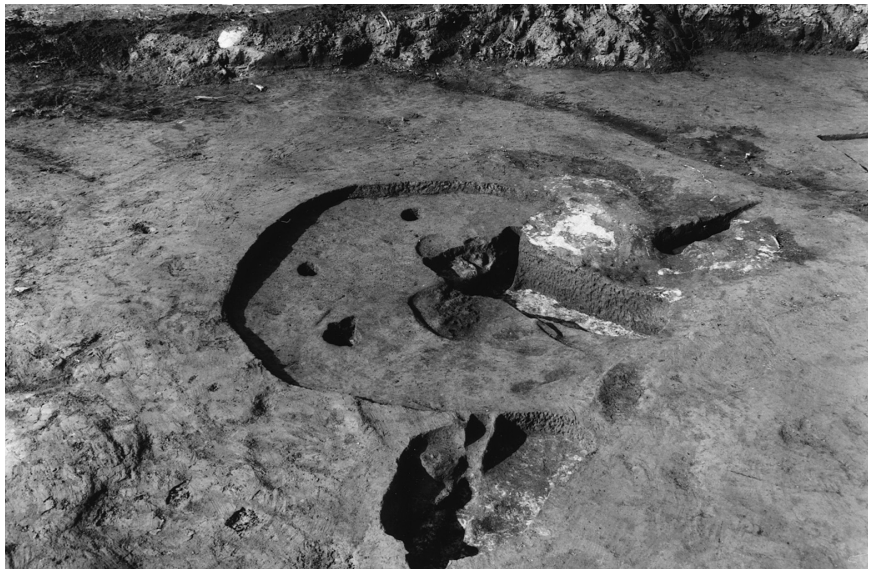
第3・4号住居跡
確認状況



第3号住居跡
完掘状況



第4号住居跡
第105号土坑
完掘状況



PL 2



第 4 号 住 居 跡
炉 完 掘 状 況

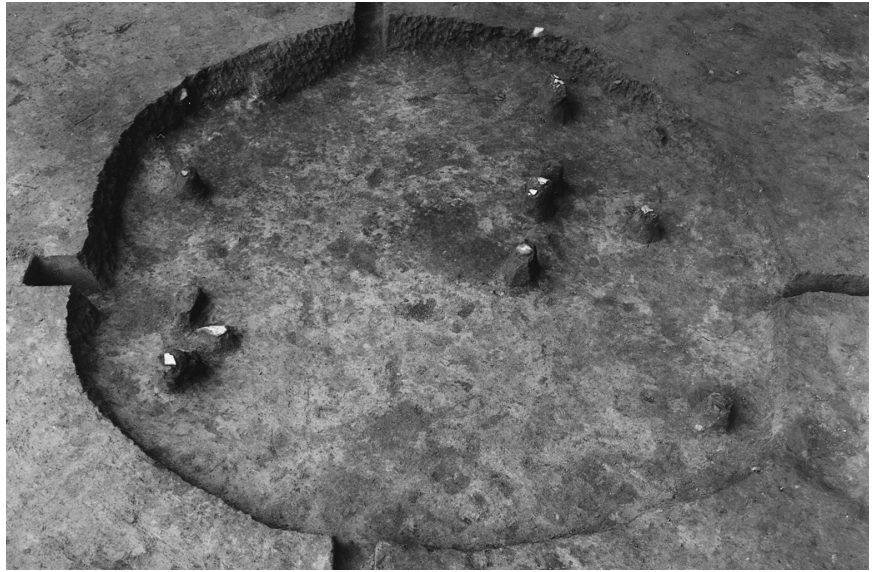


第 4 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 7 号 住 居 跡
完 掘 状 況

第 7 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 3 遺物包含層
遺 物 出 土 状 況



第 3 遺物包含層
遺 物 出 土 状 況





第1号陥し穴完掘状況



第2号陥し穴完掘状況



第4号陥し穴完掘状況



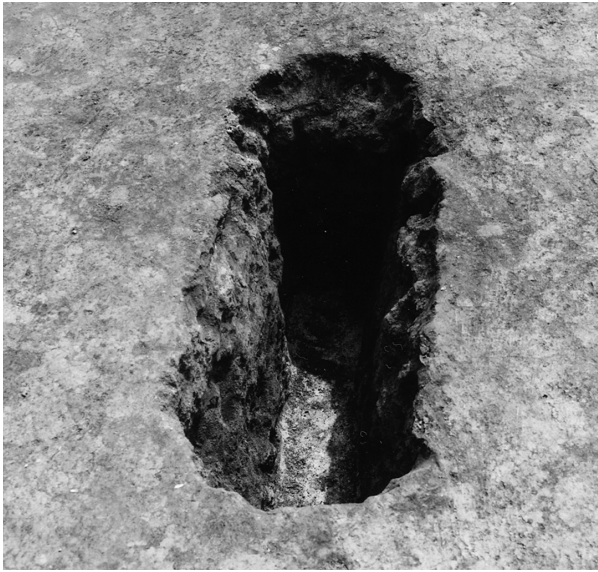
第5号陥し穴完掘状況



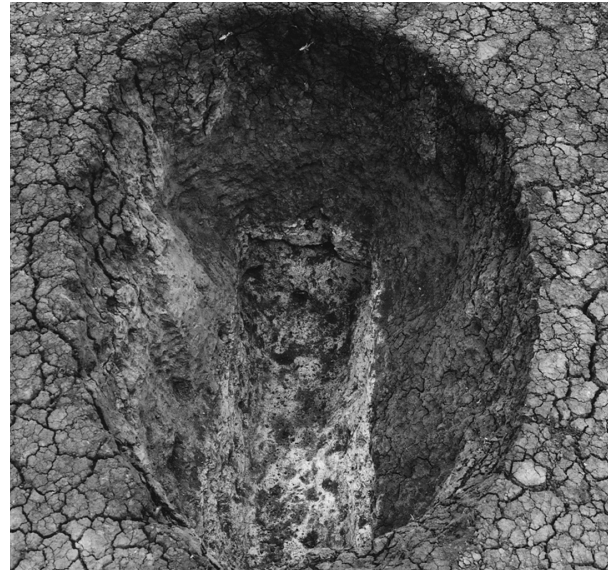
第6号陥し穴完掘状況



第7号陥し穴完掘状況



第8号陥し穴完掘状況



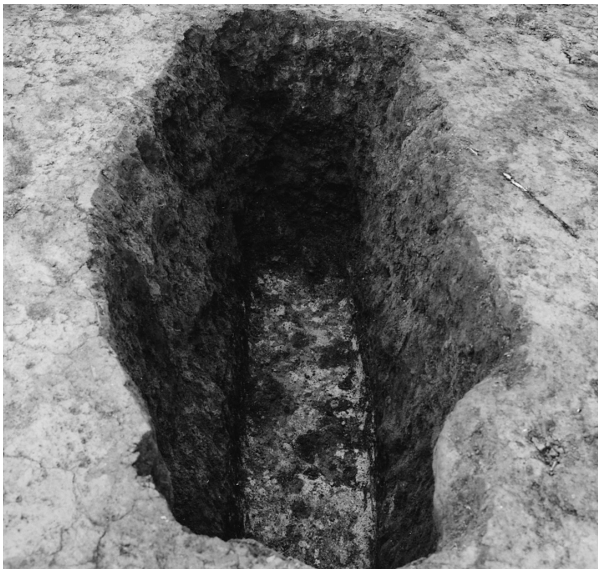
第9号陥し穴完掘状況



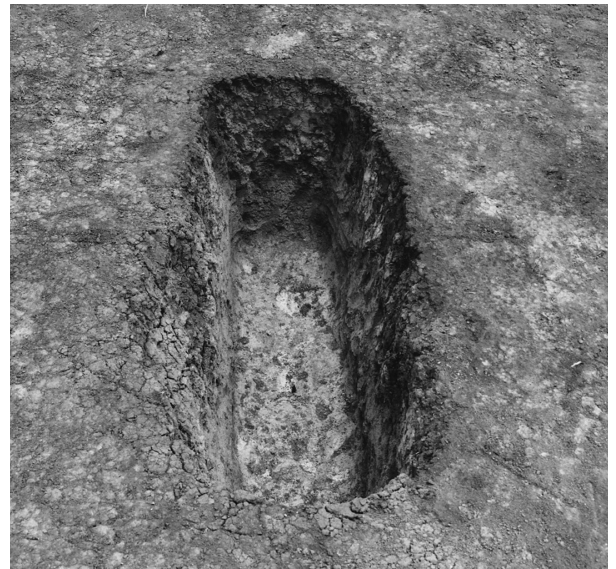
第11号陥し穴完掘状況



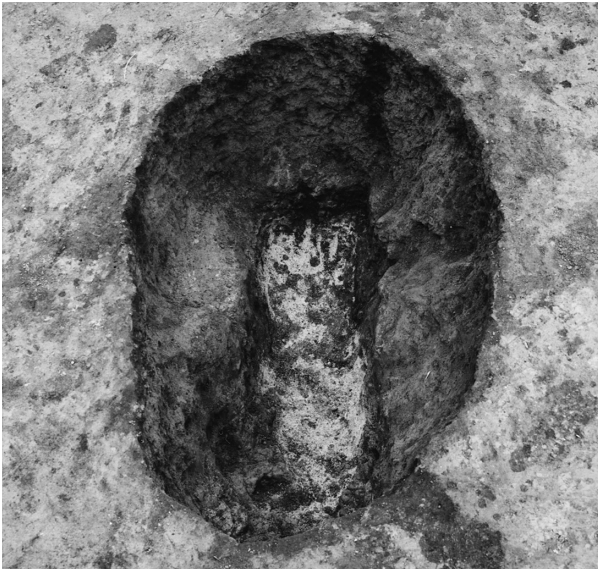
第13号陥し穴完掘状況



第14号陥し穴完掘状況



第17号陥し穴完掘状況



第 18 号陥し穴完掘状況



第 23 号陥し穴完掘状況



第 24 号陥し穴完掘状況



第 25 号陥し穴完掘状況



第 27・28 号陥し穴完掘状況



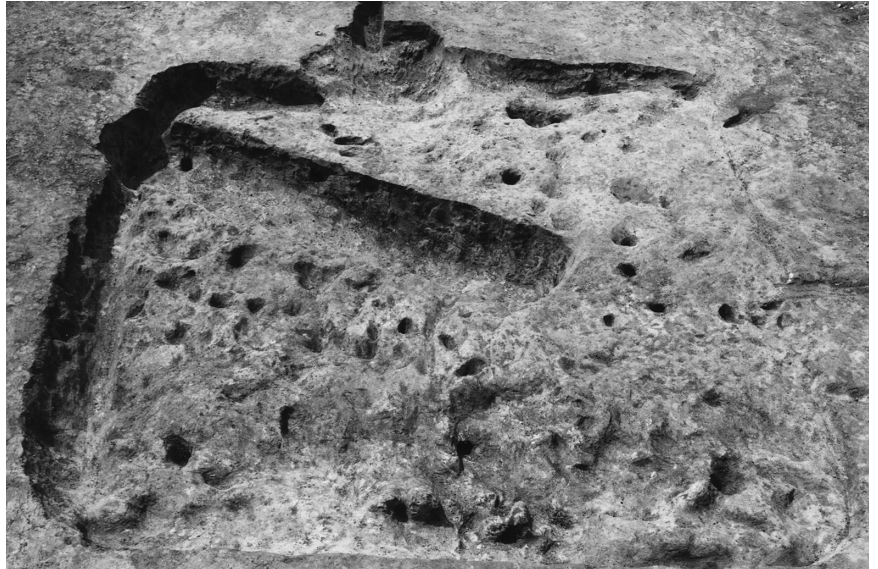
第 29 号陥し穴完掘状況

PL 7

第 1 号住居跡
完掘状況

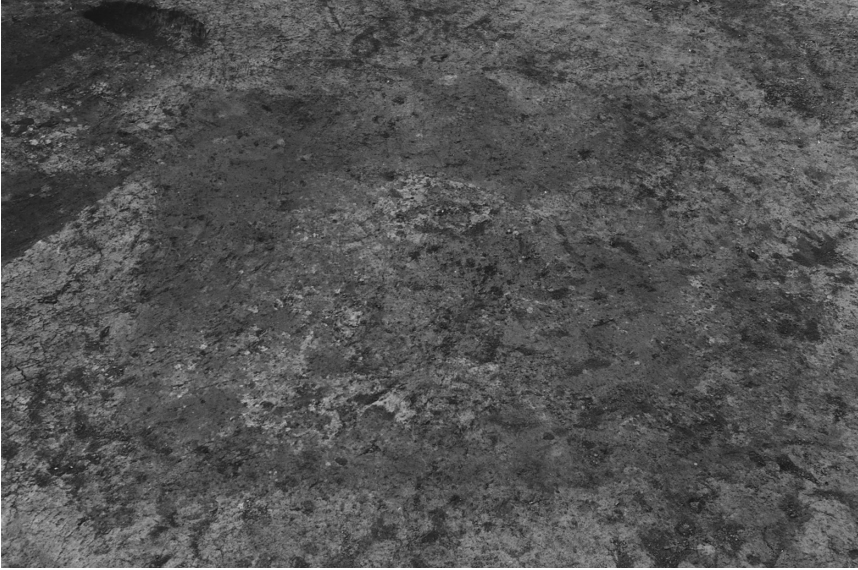


第 1 号住居跡
掘り方完掘状況



第 1 号住居跡
竈完掘状況





第 2 号 住 居 跡
確 認 状 況



第 2 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 1 号 墓 坑
完 掘 状 況

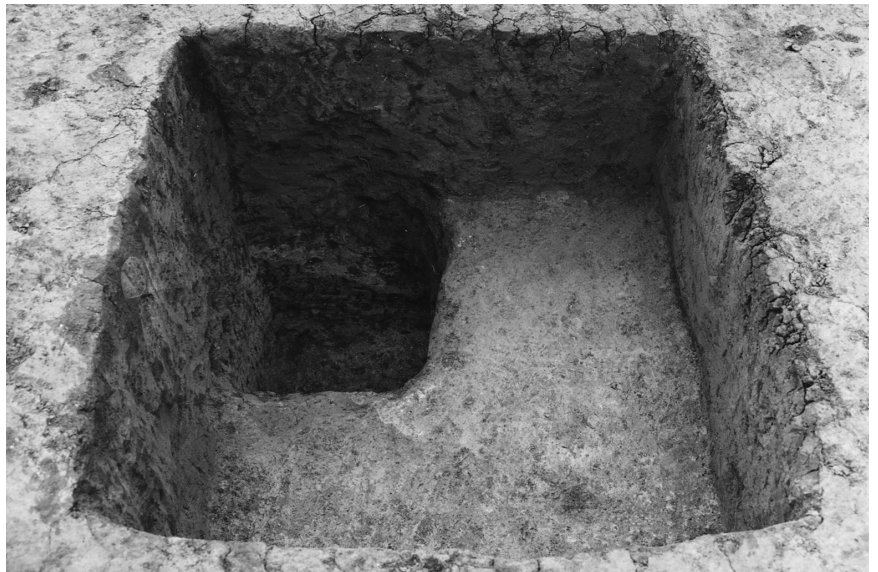
第 1 号 墓 坑
人 骨 出 土 状 况



第 2 号 墓 坑
完 掘 状 况



第 3 号 墓 坑
完 掘 状 况



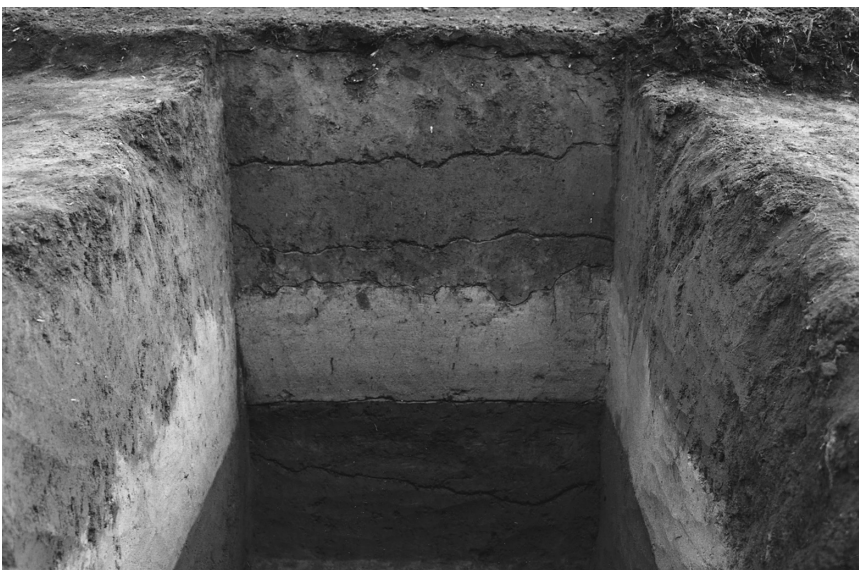
PL10



第 4 号 墓 坑 状
完 掘 状 況

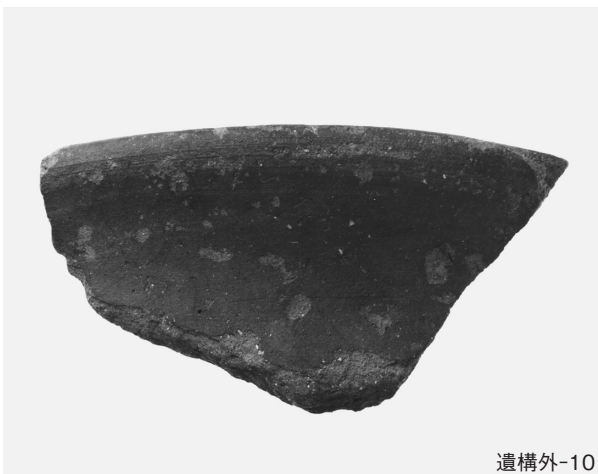
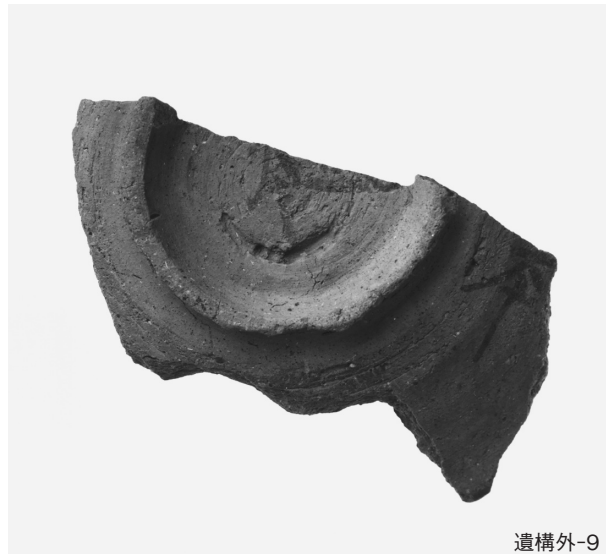


テ ス ト ピ ッ ト 1
土 層 断 面

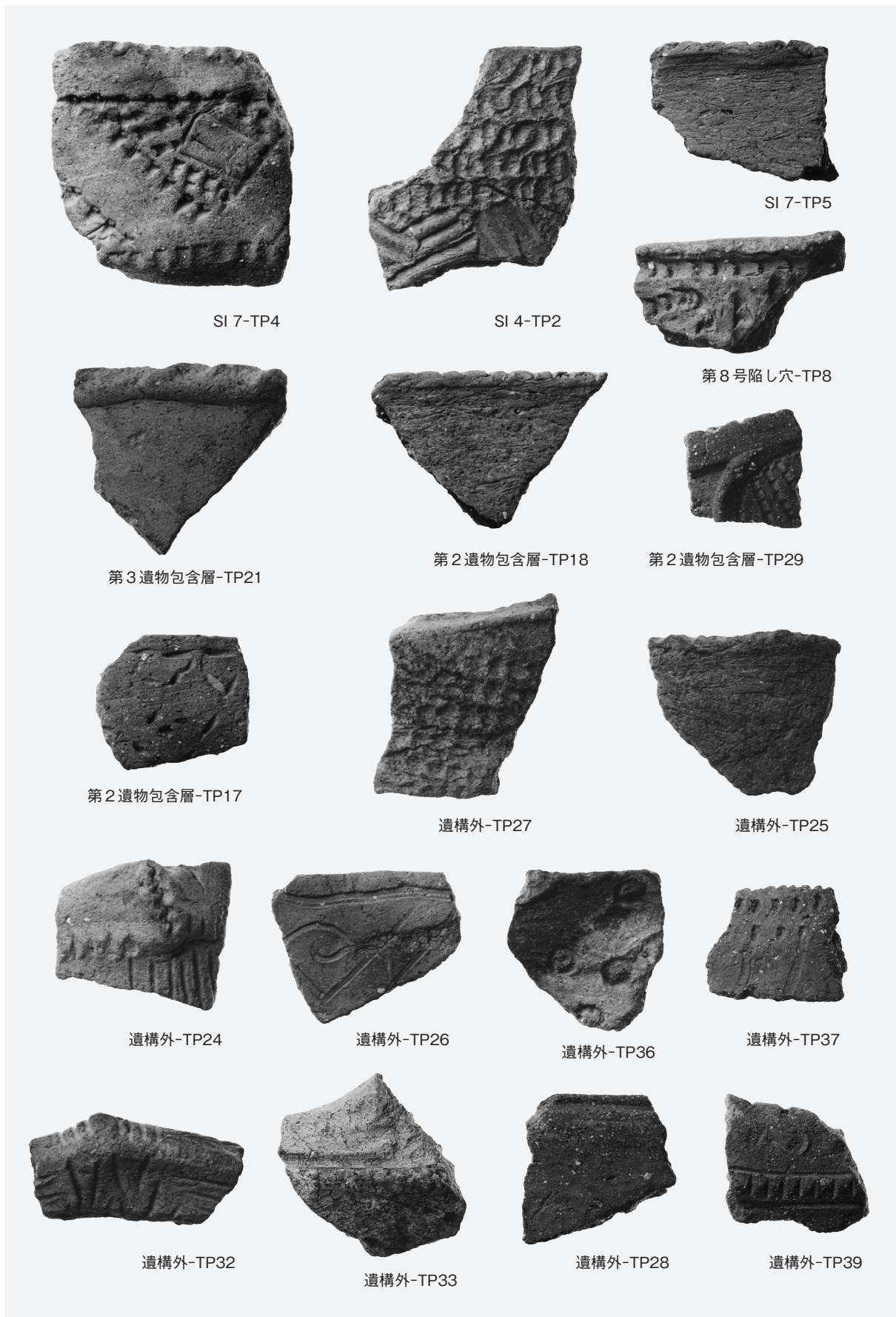


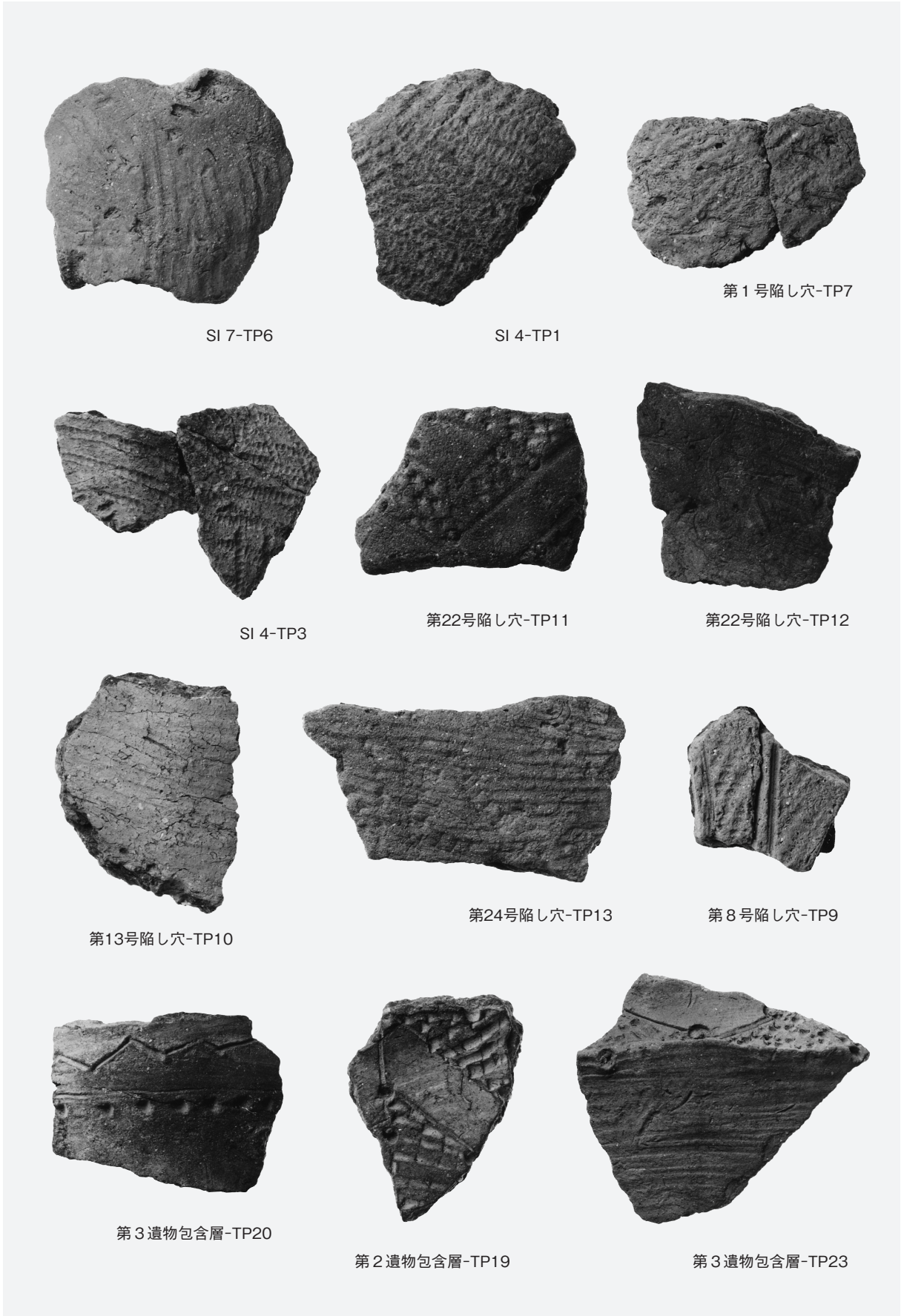
テ ス ト ピ ッ ト 2
土 層 断 面

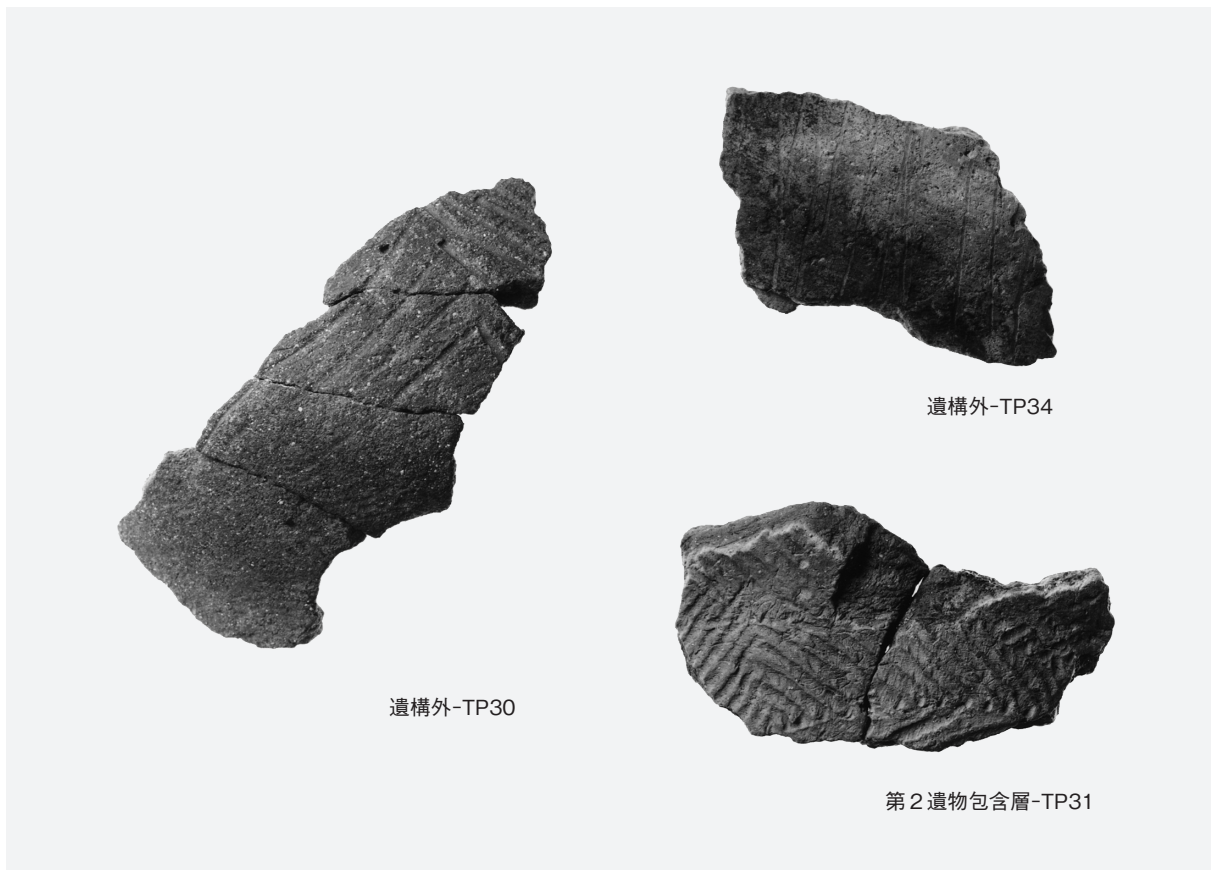
PL11



土器



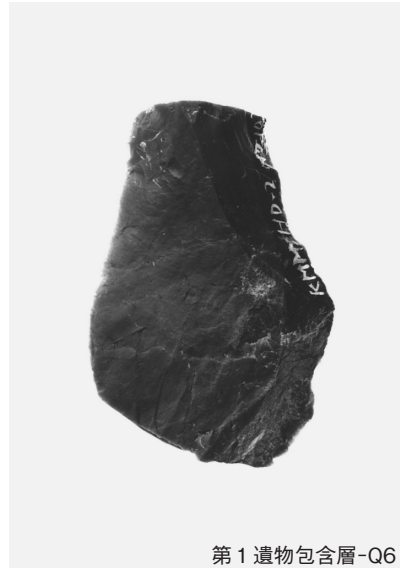
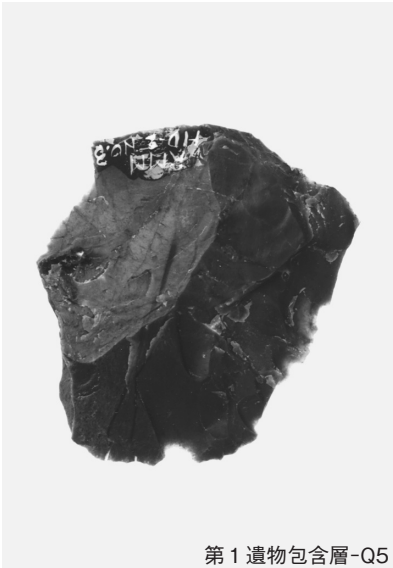






石器

PL16



石器・石製品

PL17



遺構外-Q22



遺構外-Q23



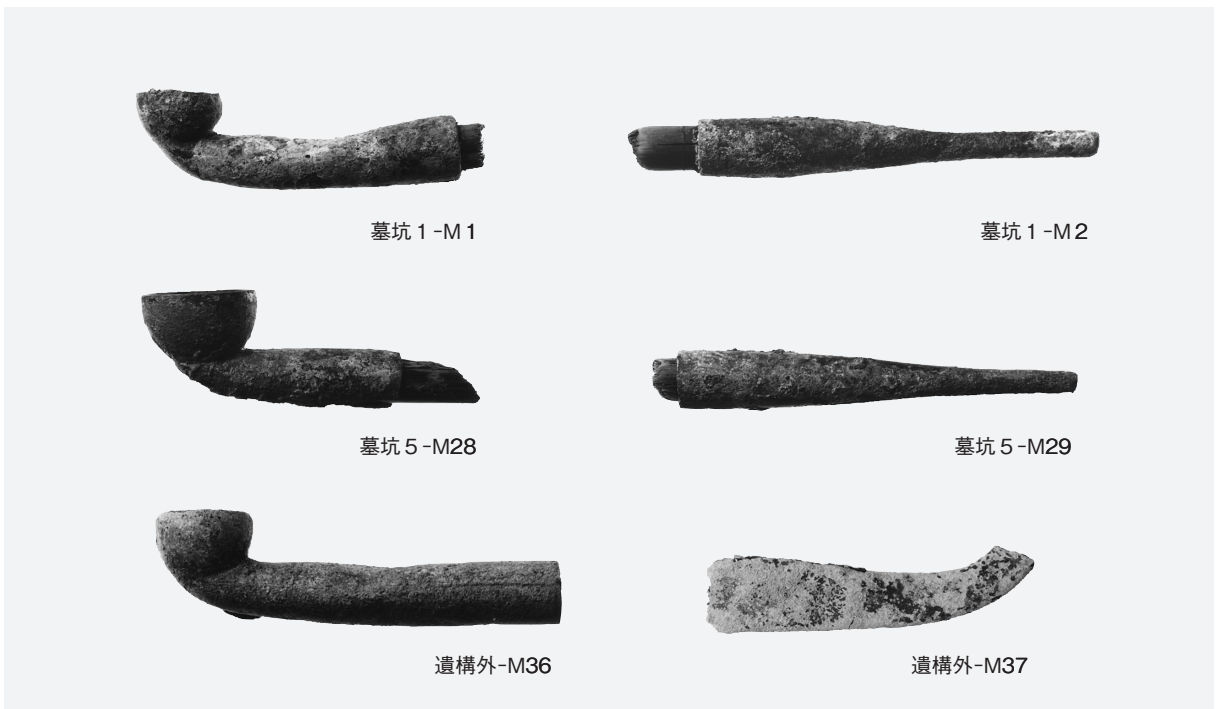
遺構外-M35



墓坑 3-M13

墓坑 3-M14

墓坑 5-M27



墓坑 1-M1

墓坑 1-M2

墓坑 5-M28

墓坑 5-M29

遺構外-M36

遺構外-M37

石器, 金屬製品

写 真 图 版

小 组 遗 迹

PL19

石器集中地点調査区遠景
(洞沼川側より平成14年度撮影)



第1号石器集中地点
石器出土状況



第1号石器集中地点
石器出土状況



PL20



第1号石器集中地点
土层断面



第1号石器集中地点
土层断面



第2号石器集中地点
石器出土状况

PL21

第3号石器集中地点
石器出土状况



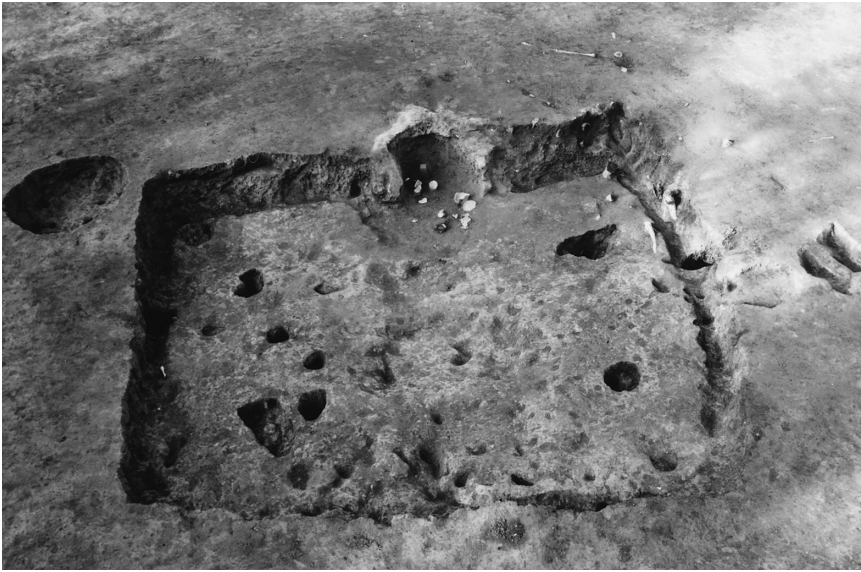
第3号石器集中地点
石器出土状况



第4号石器集中地点
石器出土状况



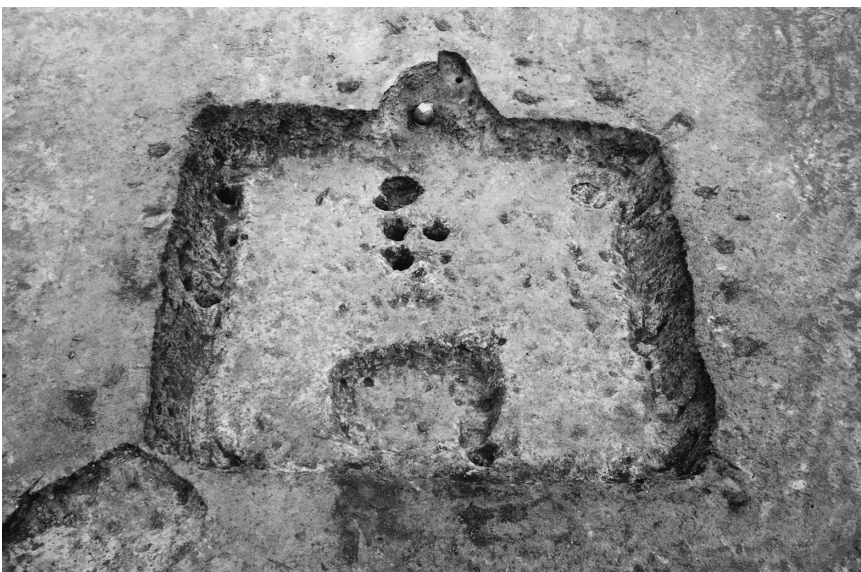
PL22



第2号住居跡
完掘状況



第2号住居跡
遺物出土状況



第5号住居跡
完掘状況

PL23

第 8 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 8 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 9 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



PL24



第10号住居跡
完掘状況



第14号住居跡
遺物出土状況



第14号住居跡
竈遺物出土状況

PL25



SI 9-50



SI 21-138



SI 2-5



SI 5-25



SI 16-106



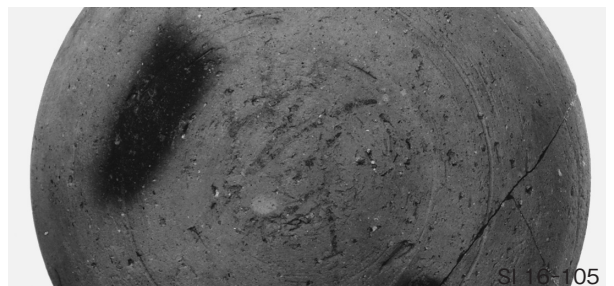
SI 17-116



SI 17-115



SI 8-41



SI 16-105



SI 12-72



SI 18-130

土器

PL26



SI 9-51



SI 10-DP7



SI 2-24



SI 7-37



土器

PL27



第 1 号石器集中地点
Q224



第 8 号石器集中地点
Q2388



第 1 号石器集中地点
Q861



第 1 号石器集中地点
Q769



第 1 号石器集中地点
Q1425



第 1 号石器集中地点
Q1343



第 1 号石器集中地点
Q1071



第 1 号石器集中地点
Q287



第 1 号石器集中地点
Q1863



第 1 号石器集中地点
Q427

石 器



第1号石器集中地点
Q1735



第1号石器集中地点
Q591



第1号石器集中地点
Q238



第1号石器集中地点
Q822



第1号石器集中地点
Q1786



第1号石器集中地点
Q748+1050+1069



第1号石器集中地点
Q1068



第6号石器集中地点
Q2239+2323+2240+2241

写 真 図 版

上加賀田城跡



調査区全景（北から）



調査区全景（南から）

PL30



第 1 号 炭 烧 窯 跡
完 掘 状 況



第 1 号 炭 烧 窯 跡
掘り方土層断面



第 1 号 溝 跡
完 掘 状 況

PL31



遺構外-1



遺構外-8



遺構外-2



遺構外-7



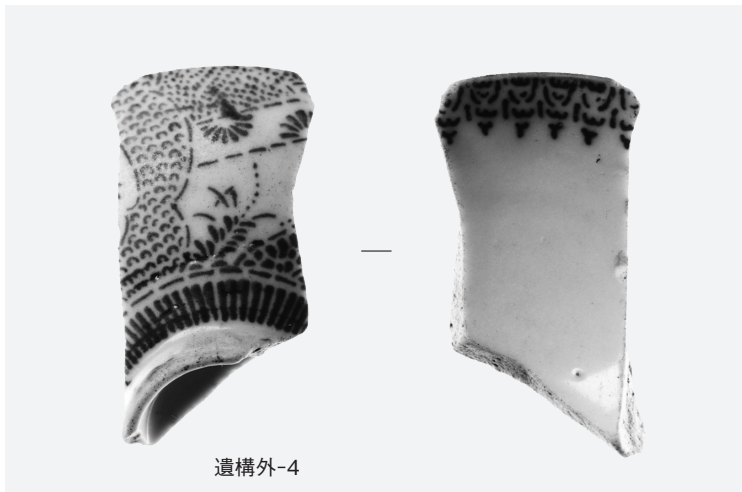
遺構外-9



遺構外-3



遺構外-6



遺構外-4



遺構外-5

土器

茨城県教育財団文化財調査報告第272集

向原遺跡
小組遺跡
上加賀田城跡

北関東自動車道（協和～友部）建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XVI

平成19(2007)年3月19日 印刷

平成19(2007)年3月23日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 山三印刷株式会社
〒311-4153 水戸市河和田町4433の33
TEL 029-252-8481